

栃木県埋蔵文化財調査報告第369集

北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡

—農地整備事業（経営体育成型）小貝川沿岸2期地区における埋蔵文化財発掘調査—

第1分冊

2014.3

栃木県教育委員会
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

きたのうちにせき すけごろうちにせき ほしのみやいせき
北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡

—農地整備事業（経営体育成型）小貝川沿岸2期地区における埋蔵文化財発掘調査—

第1分冊

2014.3

栃木県教育委員会
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

序

北ノ内遺跡、助五郎内遺跡及び星ノ宮遺跡は、栃木県の東部、芳賀郡市貝町に位置しています。当地は八溝山地西麓に位置し、小貝川の上流域で豊かな自然が残るところであり、川の両岸の台地上には数多くの遺跡が知られております。

このたび、農地整備事業（経営体育成型）小貝川沿岸 2 期地区の施工に先立ち、記録保存を目的とした発掘調査を行いました。その結果、古墳時代から平安時代にかけての集落が確認され、特に四面廂建物跡は有力者の居宅と考えられます。また栃木県では調査例の希な中近世の集落跡が確認され良好な資料が得られました。

本報告書は、北ノ内遺跡、助五郎内遺跡及び星ノ宮遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。本書が県民の皆様にとって郷土の歴史を理解する一助になるとともに、各方面において広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまで、多大なる御協力をいただきました栃木県農政部、市貝町教育委員会をはじめとする関係機関、並びに関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成 26 年 3 月

栃木県教育委員会
教育長 古澤 利通

例 言

- 1 本書は、栃木県芳賀郡市貝町文谷地内に所在する北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本書は2冊で構成される。第1分冊では北ノ内遺跡について、第2分冊では助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡について述べるほか、自然化学分析および総括を掲載する。
- 3 発掘調査は、農地整備事業（経営体育成型）小貝川沿岸2期地区における埋蔵文化財発掘調査である。
- 4 調査は、栃木県農政部の委託事業として、栃木県教育委員会事務局文化財課の指導のもとに、財団法人とちぎ生涯学習文化財団（平成23年度より財団法人とちぎ未来づくり財団、平成25年度より公益財団法人とちぎ未来づくり財団）埋蔵文化財センターが実施したものである。

- 5 発掘調査から整理・報告書作成までの期間および担当は以下の通りである。

平成21年度 発掘調査（発掘）

期 間 平成21年（2009）年5月1日～平成22（2010）年3月30日

担当者 調査部調査第一担当主 任 藤田直也

嘱託調査員 田村雅樹

平成22年度 発掘調査（発掘）

期 間 平成22年（2010）年4月30日～平成23（2011）年3月30日

担当者 調査部調査第一担当部長補佐 中山 晋

係 長 篠原祐一

係 長 植木茂雄

嘱託調査員 田村雅樹

嘱託調査員 詫間清公

平成23年度 発掘調査（発掘・整理）

期 間 平成23年（2011）年7月1日～平成24（2012）年3月29日

担当者 調査部調査第一担当部長補佐 中山 晋

係 長 篠原祐一

嘱託調査員 永井三郎

平成24年度 発掘調査（整理・報告）

期 間 平成24年（2012）年7月1日～平成25（2013）年3月28日

担当者 整理課嘱託調査員 中山 晋

平成25年度 発掘調査（整理・報告）

期 間 平成25年（2013）年6月3日～平成26（2014）年3月27日

担当者 整理課嘱託調査員 永井三郎

- 6 発掘調査の参加者は、次の通りである。

相田 常男 網川 和子 池葉 力 磯崎 恵子 岩城 ツヤ 岩城 照男

上野 広勝 上野 礼子 宇塚 悦美 海老澤典子 大登 昇 岡田 旦子

小川 征男 加藤レイ子 亀田 一六 軽部 孝雄 川浪 昭 菊池 昭三

小池 正昭	小島 利三	小林 守栄	小堀アサ子	小峰 幸子	小峰 武夫
小峰ヨシ子	坂本 勝信	坂本 仁一	篠原 信子	鈴木 幸一	墨野倉弘美
関澤イツ子	高木 光男	高島 典子	高橋 麻美	高橋 久子	竹下 郁子
田中 美恵	谷貝 幸作	寺崎千恵美	豊田裕美子	直井 恵子	中村 俊彦
林 勝彦	平野 栄一	皆川 和彦	皆川 典男	皆川まさ子	三村 常男
明才地正男	森 秀明	山内 愛子	湯田 仁淑	横田 秀子	横山ナオ子
吉川 賢次					

7 整理、報告書作成作業の参加者は次の通りである。





赤羽根潤子	秋草由美子	石口 優子	石田 静枝	石濱有希子	大谷 小穂
沖田 有孝	小倉 孝子	生内 千春	加藤 愛	唐崎 育美	君島みどり
佐久間京子	関口かおり	関根 知哉	高久 玲子	高橋 正恵	武田 智子
田崎 訓子	田村 範子	長 道子	津野田智美	坪山さわ香	鶴見 里子
斗沢 史子	根本 明美	芳賀美津子	本田智恵子	吉田 優一	吉田 祐紀
和田 恵美					

- 8 本書の執筆と作成は、整理補助員石田静枝・生内千春・斗沢史子・根本明美・和田恵美の協力を得て、永井が行った。執筆のための資料の収集は石田・斗沢・根本・和田に、資料の収集と本書のレイアウトデザインは生内に依るところが大きい。
- 9 北ノ内遺跡および星ノ宮遺跡出土石器の実測と所見、星ノ宮遺跡 SI-65 の事実記載はとちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター調査課芹沢清八による。
- 10 北ノ内遺跡および星ノ宮遺跡出土縄文土器の実測と所見はとちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター調査課嘱託調査員村田沙織による。
- 11 自然科学分析はバリノ・サーヴェイ株式会社に委託して行った。
- 12 遺構の写真撮影は現場担当が行い、遺跡航空写真撮影は中央航業株式会社に委託して行った。
- 13 出土遺物の写真撮影は株式会社松井ピ・テ・オ・印刷に委託し、一部は永井が行った。
- 14 本遺跡の調査概要は、埋蔵文化財センター年報、栃木県埋蔵文化財保護行政年報で報告されているが、本書をもって正式報告とする。
- 15 本遺跡の出土遺物、図面、写真等の資料については栃木県が保有し、栃木県埋蔵文化財センターに保管、公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターが管理している。

凡 例

1 遺跡

1. 遺跡の略号は I K-K T (ICHIKAI-KITANOUCI), I K-S G (ICHIKAI-SUKEGOROUUCHI), I K-H M (ICHIKAI-HOSHINOMIYA) である。北ノ内遺跡の2次調査の略号は I K-K T 2 である。
2. 座標は、平面直角座標系第IX系を用い、座標値は世界測地系を示す。
3. 方位は方眼北 (GN) を用いる。
4. 遺構の略号は、奈良国立文化財研究所が用いる SA (塀、欄列)、SB (建物)、SD (溝)、SE (井戸)、SI (住居)、SK (土坑) に準拠する。
5. 遺構図の縮尺は、竪穴建物跡・掘立柱建物跡は 1/80、土坑は 1/80 を基本とし、必要に応じて 1/40、1/20 を用い、挿図中にスケールで示した。
6. 実測図中のスクリーントーンは以下のとおりである。

焼土  炭化物  カマド粘土  柱あたり 

2 遺物

1. 実測図は、縄文式土器は 1/3、そのほかの土器は 1/4 縮尺を基本とし、図中にスケールを示した。
2. 実測図中の遺物番号は、遺構実測図毎の出土番号および遺物観察表に対応する。
3. 作図にあたっては、以下の点に留意した。
 - ① 実測方法は四分割法を用い右側 1/2 には内面と断面、左側には外面を記録した。
 - ② 残存率の良いものは土器の状態を忠実に示すため割付実測を行い、欠損部分についてのみ復元もしくは反転して作図した。
 - ③ 残存率の悪いものは、土器の中心を算出し、反転復元して作図した。この場合、反転に伴い左右の外形線は同一、併せて稜線も直線で表現している。
 - ④ 沈線や強い稜線、くびれ、脚 (台) 部の境等は実線で表現した。
 - ⑤ 断面図内の点線は、年度紐や脚 (台) 部等の接合を表現する。なお、表記のないものには、観察上明確に接合部が特定できないものも含まれている。
 - ⑥ ヘラケズリやヘラナデの作法を表現する中で示される矢印は、工具の動いた方向を表す。
 - ⑦ 砥石等を表現する中で示される矢印は、擦痕の動いた方向を表す。
4. 遺物観察表中の胎土は、肉眼観察で土器全体に占める砂粒の粗密によっての多い、少ないであり、一定面積内の含有量を定めた基準を設けたものではない。
5. 焼成は、不良・良・良好の三段階に分け、土師器の場合、硬質感のあるものを良好、通常認められる程度のを良、表面が水に溶けるもの等を不良とした。
6. 実測図中のスクリーントーンは以下のとおりである。

赤彩  内面黒色処理  漆  粘土・摩滅範囲 

総目次

第1分冊	序 例言 凡例	
	第Ⅰ章 調査の経緯	
	第1節 調査に至る経緯	
	第2節 調査の方法	
	第3節 東北地方太平洋沖地震に伴う地殻変動による位置の変化について	
	第Ⅱ章 遺跡の環境	
	第1節 地理的環境	第2節 歴史的環境
	第Ⅲ章 北ノ内遺跡の調査	
	第1節 調査区の概要	第4節 奈良・平安時代の遺構と遺物
	第2節 縄文時代の遺構と遺物	第5節 各時代の土坑と出土遺物
	第3節 古墳時代の遺構と遺物	
	第Ⅳ章 北ノ内遺跡の2次調査	
	第1節 調査区の概要	第3節 奈良・平安時代の遺構と遺物
	第2節 古墳時代の遺構と遺物	第4節 各時代の土坑と出土遺物
第2分冊	第Ⅴ章 助五郎内遺跡の調査	
	第1節 調査区の概要	第3節 奈良・平安時代の遺構と遺物
	第2節 古墳時代の遺構と遺物	第4節 各時代の土坑と出土遺物
	第Ⅵ章 星ノ宮遺跡の調査	
	第1節 調査区の概要	
	第2節 南調査区の遺構と遺物	
	第1項 古墳時代から奈良・平安時代の遺構と遺物	第2項 中世・近世の遺構と遺物
	第3節 北調査区の遺構と遺物	
	第1項 縄文時代の遺構と遺物	第3項 中世・近世の遺構と遺物
	第2項 古墳時代から奈良・平安時代の遺構と遺物	
	第Ⅶ章 自然科学分析	
	I. 星ノ宮遺跡出土木製品の年代と樹種	II. 北ノ内遺跡出土貝類の種類
	第Ⅷ章 総括	
	第1節 出土遺物の変遷	
	第2節 遺構の変遷	
	第3節 北ノ内遺跡の建物群	
	第4節 小貝川上流域における集落の動向と平安時代の開発	
	第5節 北ノ内遺跡出土の須恵器にみられる獣足跡	

第1分冊 目次

序
例言
凡例

第I章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法	3
第3節 東北地方太平洋沖地震に伴う地殻変動による位置の変化について	3

第II章 遺跡の環境

第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	8

第III章 北ノ内遺跡の調査

第1節 調査区の概要	17
第2節 縄文時代の遺構と遺物	21
第1項 竪穴建物跡と出土遺物	21
第2項 土坑と出土遺物	23
第3項 その他の出土遺物	26
第3節 古墳時代の遺構と遺物	43
第1項 竪穴建物跡と出土遺物	43
第2項 その他の出土遺物	134
第4節 奈良・平安時代の遺構と遺物	135
第1項 竪穴建物跡と出土遺物	135
第2項 掘立柱建物跡と出土遺物	209
第3項 その他の出土遺物	217
第5節 各時代の土坑と出土遺物	218

第IV章 北ノ内遺跡の2次調査

第1節 調査区の概要	243
第2節 古墳時代の遺構と遺物	247
竪穴建物跡と出土遺物	247
第3節 奈良・平安時代の遺構と遺物	264
第1項 竪穴建物跡と出土遺物	264
第2項 掘立柱建物跡と出土遺物	311
第4節 各時代の土坑と出土遺物	352

挿図目次

北ノ内遺跡

第 1 図	遺跡位置図 (S = 1/25,000)	2	第 58 図	北ノ内遺跡	SI-9 出土遺物	69
第 2 図	調査区とグリッド配置図 (S = 1/10,000)	4	第 59 図	北ノ内遺跡	SI-10 出土遺物 (1)	70
第 3 図	星ノ宮遺跡における変動後のグリッド杭位置図 (S = 1/800)	5	第 60 図	北ノ内遺跡	SI-10 出土遺物 (2)	71
第 4 図	栃木県の地勢概観図 (S = 1/2,000,000)	7	第 61 図	北ノ内遺跡	SI-11 実測図	73
第 5 図	市貝町の地勢 (S = 1/200,000)	7	第 62 図	北ノ内遺跡	SI-11 カマド実測図	74
第 6 図	周辺遺跡分布図	9	第 63 図	北ノ内遺跡	SI-11 出土遺物	75
第 7 図	北ノ内遺跡の基本順序模式図	17	第 64 図	北ノ内遺跡	SI-13 実測図	77
第 8 図	北ノ内遺跡 調査区位置図 (S = 1/2,000)	18	第 65 図	北ノ内遺跡	SI-13 出土遺物	78
第 9 図	北ノ内遺跡 全体図 (S = 1/500)	19	第 66 図	北ノ内遺跡	SI-16 実測図	79
第 10 図	北ノ内遺跡 SI-44 実測図	21	第 67 図	北ノ内遺跡	SI-16 カマド実測図	80
第 11 図	北ノ内遺跡 SI-44 出土石器	22	第 68 図	北ノ内遺跡	SI-16 出土遺物	81
第 12 図	北ノ内遺跡 SI-44 出土石器	22	第 69 図	北ノ内遺跡	SI-18 実測図	84
第 13 図	北ノ内遺跡 土坑実測図 (1)	27	第 70 図	北ノ内遺跡	SI-18 出土遺物	85
第 14 図	北ノ内遺跡 土坑実測図 (2)	28	第 71 図	北ノ内遺跡	SI-20 実測図	87
第 15 図	北ノ内遺跡 SK 340 出土石器	29	第 72 図	北ノ内遺跡	SI-20 カマド実測図	88
第 16 図	北ノ内遺跡 SK 340 出土石器	29	第 73 図	北ノ内遺跡	SI-20 出土遺物	88
第 17 図	北ノ内遺跡 SK 358 出土石器	29	第 74 図	北ノ内遺跡	SI-20 出土鉄製品	88
第 18 図	北ノ内遺跡 SK 362 出土石器	30	第 75 図	北ノ内遺跡	SI-22・25 実測図	90
第 19 図	北ノ内遺跡 SK 362 出土石器	30	第 76 図	北ノ内遺跡	SI-22 出土遺物	91
第 20 図	北ノ内遺跡 SK 366 出土石器	31	第 77 図	北ノ内遺跡	SI-22 出土鉄製品	91
第 21 図	北ノ内遺跡 SK 367 出土石器	31	第 78 図	北ノ内遺跡	SI-25 出土遺物	92
第 22 図	北ノ内遺跡 SK 392 出土石器	32	第 79 図	北ノ内遺跡	SI-26 実測図	94
第 23 図	北ノ内遺跡 SK 392 出土石器	32	第 80 図	北ノ内遺跡	SI-26 出土遺物	94
第 24 図	北ノ内遺跡 SK 410 出土石器	33	第 81 図	北ノ内遺跡	SI-30 実測図	95
第 25 図	北ノ内遺跡 SK 410 出土石器	33	第 82 図	北ノ内遺跡	SI-30 出土遺物	96
第 26 図	北ノ内遺跡 SK 513 出土石器	34	第 83 図	北ノ内遺跡	SI-33 実測図	98
第 27 図	北ノ内遺跡 SK 513 出土石器	34	第 84 図	北ノ内遺跡	SI-33 カマド実測図	99
第 28 図	北ノ内遺跡 SK 514 出土石器	35	第 85 図	北ノ内遺跡	SI-33 出土遺物	99
第 29 図	北ノ内遺跡 SK 514 出土石器	35	第 86 図	北ノ内遺跡	SI-33 出土鉄製品	100
第 30 図	北ノ内遺跡 遺構外出土石器 (1)	36	第 87 図	北ノ内遺跡	SI-35a 実測図	101
第 31 図	北ノ内遺跡 遺構外出土石器 (2)	37	第 88 図	北ノ内遺跡	SI-35a カマド実測図	102
第 32 図	北ノ内遺跡 遺構外出土石器 (3)	38	第 89 図	北ノ内遺跡	SI-35a 出土遺物	102
第 33 図	北ノ内遺跡 遺構外出土石器 (4)	39	第 90 図	北ノ内遺跡	SI-35b 実測図	104
第 34 図	北ノ内遺跡 遺構外出土石器 (5)	40	第 91 図	北ノ内遺跡	SI-35b 出土遺物	105
第 35 図	北ノ内遺跡 遺構外出土石器 (6)	41	第 92 図	北ノ内遺跡	SI-35a・35b 出土鉄製品	106
第 36 図	北ノ内遺跡 遺構外出土石器	42	第 93 図	北ノ内遺跡	SI-38a 実測図	107
第 37 図	北ノ内遺跡 SI-1 実測図	44	第 94 図	北ノ内遺跡	SI-38a 出土遺物	108
第 38 図	北ノ内遺跡 SI-1 出土遺物	45	第 95 図	北ノ内遺跡	SI-40a・40b 実測図	110
第 39 図	北ノ内遺跡 SI-3 実測図	47	第 96 図	北ノ内遺跡	SI-40b カマド実測図	111
第 40 図	北ノ内遺跡 SI-3 カマド実測図	48	第 97 図	北ノ内遺跡	SI-40b 出土遺物	111
第 41 図	北ノ内遺跡 SI-3 出土遺物	48	第 98 図	北ノ内遺跡	SI-40b 出土鉄製品	111
第 42 図	北ノ内遺跡 SI-3 出土鉄製品	49	第 99 図	北ノ内遺跡	SI-42 実測図	113
第 43 図	北ノ内遺跡 SI-4 出土遺物	51	第 100 図	北ノ内遺跡	SI-42 カマド実測図	114
第 44 図	北ノ内遺跡 SI-4 カマド出土遺物	52	第 101 図	北ノ内遺跡	SI-42 出土遺物	114
第 45 図	北ノ内遺跡 SI-4 出土遺物 (1)	53	第 102 図	北ノ内遺跡	SI-43 実測図	115
第 46 図	北ノ内遺跡 SI-4 出土遺物 (2)	54	第 103 図	北ノ内遺跡	SI-43 出土遺物	116
第 47 図	北ノ内遺跡 SI-4 出土遺物 (3)	55	第 104 図	北ノ内遺跡	SI-45 実測図	119
第 48 図	北ノ内遺跡 SI-6a・6b 実測図	60	第 105 図	北ノ内遺跡	SI-45Pr・カマド実測図	120
第 49 図	北ノ内遺跡 SI-6b カマド実測図	61	第 106 図	北ノ内遺跡	SI-45 出土遺物	121
第 50 図	北ノ内遺跡 SI-6a 出土遺物	61	第 107 図	北ノ内遺跡	SI-45 出土鉄製品	122
第 51 図	北ノ内遺跡 SI-6b 出土遺物	61	第 108 図	北ノ内遺跡	SI-48 実測図	124
第 52 図	北ノ内遺跡 SI-7・8 実測図	64	第 109 図	北ノ内遺跡	SI-49 実測図	125
第 53 図	北ノ内遺跡 SI-7・8 カマド実測図	65	第 110 図	北ノ内遺跡	SI-49 カマド実測図	126
第 54 図	北ノ内遺跡 SI-7 出土遺物	65	第 111 図	北ノ内遺跡	SI-49 出土遺物	126
第 55 図	北ノ内遺跡 SI-8 出土遺物	66	第 112 図	北ノ内遺跡	SI-53 実測図	128
第 56 図	北ノ内遺跡 SI-5・9・10 実測図	68	第 113 図	北ノ内遺跡	SI-53 カマド実測図	129
第 57 図	北ノ内遺跡 SI-9・10 カマド実測図	69	第 114 図	北ノ内遺跡	SI-53 出土遺物	130
			第 115 図	北ノ内遺跡	SI-62 実測図	132

第 116 図	北ノ内道跡	SI-62 出土遺物	133	第 174 図	北ノ内道跡	SI-52 実測図	187
第 117 図	北ノ内道跡	SI-62 出土鉄製品	133	第 175 図	北ノ内道跡	SI-52 出土遺物	188
第 118 図	北ノ内道跡	16-91 グリッド出土遺物	134	第 176 図	北ノ内道跡	SI-54・68 実測図	190
第 119 図	北ノ内道跡	SI-2 実測図	135	第 177 図	北ノ内道跡	SI-54 カマド実測図	191
第 120 図	北ノ内道跡	SI-2 出土遺物	136	第 178 図	北ノ内道跡	SI-54 出土遺物	191
第 121 図	北ノ内道跡	SI-12 実測図	137	第 179 図	北ノ内道跡	SI-54 出土鉄製品	192
第 122 図	北ノ内道跡	SI-12 出土遺物	137	第 180 図	北ノ内道跡	SI-68 出土遺物	192
第 123 図	北ノ内道跡	SI-14 実測図	138	第 181 図	北ノ内道跡	SI-57 実測図	194
第 124 図	北ノ内道跡	SI-15 実測図	139	第 182 図	北ノ内道跡	SI-57 出土遺物	195
第 125 図	北ノ内道跡	SI-15 出土遺物	139	第 183 図	北ノ内道跡	SI-57 出土鉄製品	195
第 126 図	北ノ内道跡	SI-19・111 実測図	141	第 184 図	北ノ内道跡	SI-58 実測図	196
第 127 図	北ノ内道跡	SI-19 出土遺物	142	第 185 図	北ノ内道跡	SI-58 出土遺物	197
第 128 図	北ノ内道跡	SI-111 カマド実測図・出土遺物	142	第 186 図	北ノ内道跡	SI-59 実測図	198
第 129 図	北ノ内道跡	SI-21 実測図	143	第 187 図	北ノ内道跡	SI-59 出土遺物	199
第 130 図	北ノ内道跡	SI-21 出土遺物	143	第 188 図	北ノ内道跡	SI-61・66 実測図	200
第 131 図	北ノ内道跡	SI-23 実測図	144	第 189 図	北ノ内道跡	SI-61 カマド実測図	201
第 132 図	北ノ内道跡	SI-23 カマド実測図	145	第 190 図	北ノ内道跡	SI-61 出土遺物	202
第 133 図	北ノ内道跡	SI-23 出土遺物	145	第 191 図	北ノ内道跡	SI-66 出土遺物	203
第 134 図	北ノ内道跡	SI-24 実測図	146	第 192 図	北ノ内道跡	SI-64・67 実測図	204
第 135 図	北ノ内道跡	SI-24 カマド実測図	147	第 193 図	北ノ内道跡	SI-64 出土遺物	204
第 136 図	北ノ内道跡	SI-24 出土遺物	147	第 194 図	北ノ内道跡	SI-67 出土遺物	204
第 137 図	北ノ内道跡	SI-24 出土鉄製品	148	第 195 図	北ノ内道跡	SI-72 実測図	206
第 138 図	北ノ内道跡	SI-27 実測図	149	第 196 図	北ノ内道跡	SI-72 カマド実測図	207
第 139 図	北ノ内道跡	SI-27 出土遺物	150	第 197 図	北ノ内道跡	SI-72 出土遺物	207
第 140 図	北ノ内道跡	SI-28 出土遺物	151	第 198 図	北ノ内道跡	SI-73 実測図・出土遺物	208
第 141 図	北ノ内道跡	SI-28 実測図	151	第 199 図	北ノ内道跡	SB-65 出土遺物	210
第 142 図	北ノ内道跡	SI-29 実測図	152	第 200 図	北ノ内道跡	SB-65 実測図	211
第 143 図	北ノ内道跡	SI-29 カマド実測図	153	第 201 図	北ノ内道跡	SB-70 実測図	214
第 144 図	北ノ内道跡	SI-29 出土遺物	153	第 202 図	北ノ内道跡	SB-75 実測図	215
第 145 図	北ノ内道跡	SI-31・115 実測図	154	第 203 図	北ノ内道跡	SB-317 実測図	216
第 146 図	北ノ内道跡	SI-31 カマド実測図	155	第 204 図	北ノ内道跡	14-92 グリッド出土遺物	217
第 147 図	北ノ内道跡	SI-31 出土遺物	156	第 205 図	北ノ内道跡	グリッド出土および採掘鉄製品	217
第 148 図	北ノ内道跡	SI-115 出土遺物	157	第 206 図	北ノ内道跡	SE-554 実測図	218
第 149 図	北ノ内道跡	SI-32 実測図	159	第 207 図	北ノ内道跡	炭化物出土土坑位置図 (S = 1/1,000)	218
第 150 図	北ノ内道跡	SI-32 出土遺物	160	第 208 図	北ノ内道跡	SK 実測図 (1)	219
第 151 図	北ノ内道跡	SI-34 実測図	161	第 209 図	北ノ内道跡	SK 実測図 (2)	220
第 152 図	北ノ内道跡	SI-34 カマド実測図	162	第 210 図	北ノ内道跡	SK 実測図 (3)	221
第 153 図	北ノ内道跡	SI-34 出土遺物	163	第 211 図	北ノ内道跡	SK 実測図 (4)	222
第 154 図	北ノ内道跡	SI-34 出土鉄製品	164	第 212 図	北ノ内道跡	SK 実測図 (5)	223
第 155 図	北ノ内道跡	SI-36 実測図	166	第 213 図	北ノ内道跡	SK 実測図 (6)	224
第 156 図	北ノ内道跡	SI-37 実測図	167	第 214 図	北ノ内道跡	SK 実測図 (7)	225
第 157 図	北ノ内道跡	SI-37 カマド実測図	168	第 215 図	北ノ内道跡	SK 実測図 (8)	226
第 158 図	北ノ内道跡	SI-37 出土遺物	168	第 216 図	北ノ内道跡	SK 実測図 (9)	227
第 159 図	北ノ内道跡	SI-37 出土鉄製品	169	第 217 図	北ノ内道跡	SK 実測図 (10)	228
第 160 図	北ノ内道跡	SI-38b 実測図	170	第 218 図	北ノ内道跡	SK 実測図 (11)	229
第 161 図	北ノ内道跡	SI-38b カマド実測図	171	第 219 図	北ノ内道跡	SK 実測図 (12)	230
第 162 図	北ノ内道跡	SI-38b 出土遺物	172	第 220 図	北ノ内道跡	SK 実測図 (13)	231
第 163 図	北ノ内道跡	SI-39 実測図	174	第 221 図	北ノ内道跡	SK 実測図 (14)	232
第 164 図	北ノ内道跡	SI-39 出土遺物	175	第 222 図	北ノ内道跡	SK 実測図 (15)	233
第 165 図	北ノ内道跡	SI-41 実測図	177	第 223 図	北ノ内道跡	SK 実測図 (16)	234
第 166 図	北ノ内道跡	SI-41 カマド実測図・出土鉄製品	178	第 224 図	北ノ内道跡	SK 実測図 (17)	235
第 167 図	北ノ内道跡	SI-41 出土遺物	178	第 225 図	北ノ内道跡	SK 実測図 (18)	236
第 168 図	北ノ内道跡	SI-46・47 実測図	180	第 226 図	北ノ内道跡	SK 実測図 (19)	237
第 169 図	北ノ内道跡	SI-46・47 カマド実測図	181	第 227 図	北ノ内道跡	SK 出土遺物 (1)	238
第 170 図	北ノ内道跡	SI-46 出土遺物	182	第 228 図	北ノ内道跡	SK 出土遺物 (2)	239
第 171 図	北ノ内道跡	SI-47 出土遺物	184	第 229 図	北ノ内道跡	SK 出土鉄製品	239
第 172 図	北ノ内道跡	SI-50 実測図	185				
第 173 図	北ノ内道跡	SI-50 出土遺物	186				

北ノ内遺跡 (2次調査)

第230回	北ノ内遺跡 (2次調査) (グリッド12-79付近)	の基本順序様式図	第280回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-30出土遺物	290
		243	第281回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-30出土鉄製品	290
第231回	北ノ内遺跡 (2次調査) (S = 1/2,000)	調査区位置図	第282回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-31実測図	291
		244	第283回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-32実測図	292
第232回	北ノ内遺跡 (2次調査)	全体図 (S = 1/500)	第284回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-32出土遺物	292
第233回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-17実測図	第285回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-33実測図	293
第234回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-17カマド実測図	第286回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-34実測図	294
第235回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-17出土遺物	第287回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-34出土遺物	294
第236回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-27実測図	第288回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-34出土鉄製品	295
第237回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-27カマド実測図	第289回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-36実測図	296
第238回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-27出土遺物	第290回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-38実測図	296
第239回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-35実測図	第291回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-41実測図	297
第240回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-35出土遺物	第292回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-41出土遺物	298
第241回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-37実測図	第293回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-44実測図	299
第242回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-37カマド実測図	第294回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-44カマド実測図	300
第243回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-37出土遺物	第295回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-44出土遺物	300
第244回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-39実測図	第296回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-45実測図	302
第245回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-39カマド実測図	第297回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-45カマド実測図	303
第246回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-39出土遺物	第298回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-45出土遺物	304
第247回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-40実測図	第299回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-48実測図	305
第248回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-40出土遺物	第300回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-48出土遺物	305
第249回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-42実測図	第301回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-68実測図	306
第250回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-42出土遺物	第302回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-68出土遺物	306
第251回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-18実測図	第303回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-69実測図	307
第252回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-18出土遺物	第304回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-69出土遺物	307
第253回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-19実測図	第305回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-70実測図	308
第254回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-19出土遺物	第306回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-70出土遺物	308
第255回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-20・47実測図	第307回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-71実測図	309
第256回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-20Piv・カマド実測図	第308回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-71出土遺物	310
第257回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-20出土遺物 (1)	第309回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SB-1実測図	317
第258回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-20出土遺物 (2)	第310回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SB-2実測図	319
第259回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-20出土鉄製品	第311回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SB-3実測図	323
第260回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-21実測図	第312回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SB-4実測図	325
第261回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-21カマド実測図	第313回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SB-5実測図	327
第262回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-21出土遺物	第314回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SB-6実測図	330
第263回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-21出土鉄製品	第315回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SB-7実測図	331
第264回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-22実測図	第316回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SB-8実測図	334
第265回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-22出土遺物	第317回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SB-9実測図	335
第266回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-23実測図	第318回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SB-10実測図	337
第267回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-23出土遺物	第319回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SB-11実測図	339
第268回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-23出土鉄製品	第320回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SB-12実測図	341
第269回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-24実測図	第321回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SB-13実測図	342
第270回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-25実測図	第322回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SB-14実測図	344
第271回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-25出土遺物	第323回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SB-15実測図	346
第272回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-25出土鉄製品	第324回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SB-16実測図	347
第273回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-26実測図	第325回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SB-50実測図	348
第274回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-26出土遺物	第326回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SB-55実測図	349
第275回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-28実測図	第327回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SB出土遺物	351
第276回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-28出土遺物	第328回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SK実測図 (1)	352
第277回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-29実測図	第329回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SK実測図 (2)	353
第278回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-29出土鉄製品	第330回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SK出土遺物	354
第279回	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-30実測図				

表目次

北ノ内遺跡

第1表	周辺遺跡一覧表	13	第3表	北ノ内遺跡 SK-340出土石器観察表	29
第2表	北ノ内遺跡 SI-44出土石器観察表	22	第4表	北ノ内遺跡 SK-362出土石器観察表	30

第5表	北ノ内遺跡	SK-392 出土石器観察表	32	第50表	北ノ内遺跡	SI-15 出土遺物観察表	140
第6表	北ノ内遺跡	SK-410 出土石器観察表	33	第51表	北ノ内遺跡	SI-19 出土遺物観察表	142
第7表	北ノ内遺跡	SK-513 出土石器観察表	35	第52表	北ノ内遺跡	SI-111 出土遺物観察表	142
第8表	北ノ内遺跡	SK-514 出土石器観察表	35	第53表	北ノ内遺跡	SI-21 出土遺物観察表	143
第9表	北ノ内遺跡	遺構跡出土石器観察表	42	第54表	北ノ内遺跡	SI-23 出土遺物観察表	145
第10表	北ノ内遺跡	SI-1 出土遺物観察表	46	第55表	北ノ内遺跡	SI-24 出土遺物観察表	148
第11表	北ノ内遺跡	SI-3 出土遺物観察表	49	第56表	北ノ内遺跡	SI-24 出土鉄製品観察表	148
第12表	北ノ内遺跡	SI-3 出土鉄製品観察表	49	第57表	北ノ内遺跡	SI-27 出土遺物観察表	150
第13表	北ノ内遺跡	SI-4 出土遺物観察表	56	第58表	北ノ内遺跡	SI-28 出土遺物観察表	151
第14表	北ノ内遺跡	SI-6a 出土遺物観察表	62	第59表	北ノ内遺跡	SI-29 出土遺物観察表	153
第15表	北ノ内遺跡	SI-6b 出土遺物観察表	62	第60表	北ノ内遺跡	SI-31 出土遺物観察表	157
第16表	北ノ内遺跡	SI-7 出土遺物観察表	66	第61表	北ノ内遺跡	SI-115 出土遺物観察表	158
第17表	北ノ内遺跡	SI-8 出土遺物観察表	66	第62表	北ノ内遺跡	SI-32 出土遺物観察表	160
第18表	北ノ内遺跡	SI-9 出土遺物観察表	71	第63表	北ノ内遺跡	SI-34 出土遺物観察表	164
第19表	北ノ内遺跡	SI-10 出土遺物観察表	71	第64表	北ノ内遺跡	SI-34 出土鉄製品観察表	165
第20表	北ノ内遺跡	SI-11 出土遺物観察表	76	第65表	北ノ内遺跡	SI-37 出土遺物観察表	169
第21表	北ノ内遺跡	SI-13 出土遺物観察表	78	第66表	北ノ内遺跡	SI-37 出土鉄製品観察表	169
第22表	北ノ内遺跡	SI-16 出土遺物観察表	82	第67表	北ノ内遺跡	SI-38b 出土遺物観察表	173
第23表	北ノ内遺跡	SI-18 出土遺物観察表	86	第68表	北ノ内遺跡	SI-39 出土遺物観察表	176
第24表	北ノ内遺跡	SI-20 出土遺物観察表	88	第69表	北ノ内遺跡	SI-41 出土遺物観察表	179
第25表	北ノ内遺跡	SI-20 出土鉄製品観察表	88	第70表	北ノ内遺跡	SI-41 出土鉄製品観察表	179
第26表	北ノ内遺跡	SI-22 出土遺物観察表	92	第71表	北ノ内遺跡	SI-46 出土遺物観察表	183
第27表	北ノ内遺跡	SI-22 出土鉄製品観察表	93	第72表	北ノ内遺跡	SI-47 出土遺物観察表	184
第28表	北ノ内遺跡	SI-25 出土遺物観察表	93	第73表	北ノ内遺跡	SI-50 出土遺物観察表	186
第29表	北ノ内遺跡	SI-26 出土遺物観察表	94	第74表	北ノ内遺跡	SI-52 出土遺物観察表	188
第30表	北ノ内遺跡	SI-30 出土遺物観察表	97	第75表	北ノ内遺跡	SI-54 出土遺物観察表	192
第31表	北ノ内遺跡	SI-33 出土遺物観察表	100	第76表	北ノ内遺跡	SI-54 出土鉄製品観察表	193
第32表	北ノ内遺跡	SI-33 出土鉄製品観察表	100	第77表	北ノ内遺跡	SI-68 出土遺物観察表	193
第33表	北ノ内遺跡	SI-35a 出土遺物観察表	103	第78表	北ノ内遺跡	SI-57 出土遺物観察表	195
第34表	北ノ内遺跡	SI-35b 出土遺物観察表	106	第79表	北ノ内遺跡	SI-57 出土鉄製品観察表	195
第35表	北ノ内遺跡	SI-35a・35b 出土鉄製品観察表	106	第80表	北ノ内遺跡	SI-58 出土遺物観察表	197
第36表	北ノ内遺跡	SI-38a 出土遺物観察表	108	第81表	北ノ内遺跡	SI-59 出土遺物観察表	199
第37表	北ノ内遺跡	SI-40b 出土遺物観察表	112	第82表	北ノ内遺跡	SI-61 出土遺物観察表	202
第38表	北ノ内遺跡	SI-40b 出土鉄製品観察表	112	第83表	北ノ内遺跡	SI-66 出土遺物観察表	203
第39表	北ノ内遺跡	SI-42 出土遺物観察表	114	第84表	北ノ内遺跡	SI-64 出土遺物観察表	205
第40表	北ノ内遺跡	SI-43 出土遺物観察表	117	第85表	北ノ内遺跡	SI-67 出土遺物観察表	205
第41表	北ノ内遺跡	SI-45 出土遺物観察表	122	第86表	北ノ内遺跡	SI-72 出土遺物観察表	207
第42表	北ノ内遺跡	SI-45 出土鉄製品観察表	123	第87表	北ノ内遺跡	SI-73 出土遺物観察表	208
第43表	北ノ内遺跡	SI-49 出土遺物観察表	127	第88表	北ノ内遺跡	SB-65 出土遺物観察表	210
第44表	北ノ内遺跡	SI-53 出土遺物観察表	130	第89表	北ノ内遺跡	14-92 グリッド出土遺物観察表	217
第45表	北ノ内遺跡	SI-62 出土遺物観察表	134	第90表	北ノ内遺跡	グリッド出土および 表採鉄製品観察表	217
第46表	北ノ内遺跡	SI-62 出土鉄製品観察表	134	第91表	北ノ内遺跡	SK 出土遺物観察表	240
第47表	北ノ内遺跡	16-91 グリッド出土遺物観察表	134	第92表	北ノ内遺跡	SK 出土鉄製品観察表	241
第48表	北ノ内遺跡	SI-2 出土遺物観察表	136				
第49表	北ノ内遺跡	SI-12 出土遺物観察表	138				

北ノ内遺跡 (2次調査)

第93表	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-17 出土遺物観察表	249	第106表	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-22 出土遺物観察表	279
第94表	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-27 出土遺物観察表	252	第107表	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-23 出土遺物観察表	281
第95表	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-35 出土遺物観察表	254	第108表	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-23 出土鉄製品観察表	281
第96表	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-37 出土遺物観察表	256	第109表	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-25 出土遺物観察表	284
第97表	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-39 出土遺物観察表	258	第110表	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-25 出土鉄製品観察表	284
第98表	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-40 出土遺物観察表	260	第111表	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-26 出土遺物観察表	285
第99表	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-42 出土遺物観察表	263	第112表	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-28 出土遺物観察表	287
第100表	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-18 出土遺物観察表	264	第113表	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-29 出土鉄製品観察表	288
第101表	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-19 出土遺物観察表	266	第114表	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-30 出土遺物観察表	290
第102表	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-20 出土遺物観察表	272	第115表	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-30 出土鉄製品観察表	290
第103表	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-20 出土鉄製品観察表	274	第116表	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-32 出土遺物観察表	292
第104表	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-21 出土遺物観察表	277	第117表	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-34 出土遺物観察表	295
第105表	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-21 出土鉄製品観察表	277	第118表	北ノ内遺跡 (2次調査)	SI-34 出土鉄製品観察表	295

第119表	北ノ内遺跡(2次調査)	SI-41 出土遺物観察表	… 298	第124表	北ノ内遺跡(2次調査)	SI-69 出土遺物観察表	… 307
第120表	北ノ内遺跡(2次調査)	SI-44 出土遺物観察表	… 300	第125表	北ノ内遺跡(2次調査)	SI-70 出土遺物観察表	… 309
第121表	北ノ内遺跡(2次調査)	SI-45 出土遺物観察表	… 304	第126表	北ノ内遺跡(2次調査)	SI-71 出土遺物観察表	… 310
第122表	北ノ内遺跡(2次調査)	SI-48 出土遺物観察表	… 305	第127表	北ノ内遺跡(2次調査)	SB 出土遺物観察表	… 351
第123表	北ノ内遺跡(2次調査)	SI-68 出土遺物観察表	… 306	第128表	北ノ内遺跡(2次調査)	SK 出土遺物観察表	… 354

図版目次

北ノ内遺跡

図版一	北ノ内遺跡 航空写真 遺跡遠景(南から) 遺跡近景(南から)	SI-13 床面確認状況(南西から) SI-16 完掘(南から) SI-16 カマド完掘(南から)
図版二	北ノ内遺跡 航空写真 縄文時代の遺構 遺跡全景(南東から) 遺跡全景(北西から)	SI-16 遺物出土状況(南から) SI-18 完掘(南から) SI-18 カマド完掘(南から) SI-18 カマド袖内遺物出土状況(南西から)
図版三	北ノ内遺跡 縄文時代の遺構 SK-366 遺物出土状況(北西から) SK-392 完掘(南から) SK-410 完掘(北から) SK-410 セクション(北から) SK-513 完掘(南から) SK-513 セクション(南東から) SK-514 完掘(北東から) SK-514 セクション(北東から)	図版八
図版四	北ノ内遺跡 古墳時代の遺構 SI-1 完掘(南から) SI-1 カマド完掘(南から) SI-3 完掘(南から) SI-3 カマド完掘(南から) SI-4 完掘(南から) SI-4 カマド完掘(南から) SI-4 北西コーナー遺物出土状況(南から) SI-4 南東コーナー遺物出土状況(南西から)	SI-20 完掘(南から) SI-20 カマド完掘(南から) SI-22・25 完掘(南から) SI-22 東カマド完掘(西から) SI-22 鉄製品出土状況(南西から) SI-25 完掘(南から) SI-26 完掘(南東から) SI-26 カマド完掘(南東から)
図版五	北ノ内遺跡 古墳時代の遺構 SI-4 南西コーナー遺物出土状況(東から) SI-6a 床面確認状況(南から) SI-6b 完掘(南から) SI-6b カマド完掘(南から) SI-7 完掘(南から) SI-7 カマド完掘(南から) SI-8 完掘(南から) SI-8 カマド完掘(南から)	図版九
図版六	北ノ内遺跡 古墳時代の遺構 SI-9・10 完掘(南から) SI-9 カマド完掘(南から) SI-10 完掘(南から) SI-10 カマド完掘(南から) SI-11 完掘(南から) SI-11 カマド完掘(南から) SI-11 遺物出土状況(南東から) SI-11 P6 遺物出土状況(北東から)	北ノ内遺跡 古墳時代の遺構 SI-30 完掘(南から) SI-33 完掘(南から) SI-33 P5 周辺遺物出土状況(南東から) SI-35a 完掘(南西から) SI-35b 完掘(南から) SI-35b カマド完掘(南から) SI-38a 完掘(南から) SI-38a カマド完掘(南から)
図版七	北ノ内遺跡 古墳時代の遺構 SI-13 完掘(南から)	図版一〇
		北ノ内遺跡 古墳時代の遺構 SI-40a 完掘(南から) SI-40b 完掘(南西から) SI-40b カマド完掘(南東から) SI-42 完掘(西から) SI-42 カマド完掘(西から) SI-43 完掘(西から) SI-43 カマド完掘(西から) SI-45 完掘(南から)
		図版一一
		北ノ内遺跡 古墳時代の遺構 SI-45 完掘(北東から) SI-45 カマド完掘(南から) SI-48 確認状況(南から) SI-49 完掘(南西から) SI-49 カマド完掘(南から) SI-53 完掘(南東から) SI-53 カマド完掘(南から) SI-53 遺物出土状況(北東から)
		図版一二
		北ノ内遺跡 古墳時代の遺構 奈良・平安時代の遺構 SI-62 完掘(南東から) SI-2 完掘(南から) SI-12 完掘(南から) SI-12 カマド完掘(南から) SI-14 完掘(南から) SI-15 完掘(南西から)

	SI-19 完掘 (南から)	SI-72 東カマド A 完掘 (北西から)	
	SI-111 完掘 (南から)	SI-72 東カマド B 完掘 (北西から)	
図版一三	北ノ内遺跡 奈良・平安時代の遺構	図版二〇	北ノ内遺跡 奈良・平安時代の遺構 各時代の土坑 基本層序
	SI-111 カマド完掘 (西から)		SI-73 完掘 (南から)
	SI-23 確認状況 (南から)		SB-65 確認状況 (西から)
	SI-24 完掘 (南から)		SB-75 確認状況 (東から)
	SI-24 カマド完掘 (南から)		SK-56 完掘 (南東から)
	SI-27 完掘 (南から)		SK-63 完掘 (南から)
	SI-27 カマド完掘 (南から)		SK-330 ~ 335 完掘 (東から)
	SI-28 完掘 (南から)		SK-352 完掘 (北東から)
	SI-29 完掘 (南から)		検出面以下の基本層序 グリッド 14.91 付近 (西から)
図版一四	北ノ内遺跡 奈良・平安時代の遺構	図版二一	北ノ内遺跡 縄文時代の遺物 古墳時代の遺物
	SI-29 カマド完掘 (南西から)		SK-366 SI-1
	SI-31 完掘 (南から)	図版二二	北ノ内遺跡 古墳時代の遺物
	SI-31 カマド完掘 (南から)		SI-3 SI-4
	SI-31 カマド掘方 (南から)	図版二三	北ノ内遺跡 古墳時代の遺物
	SI-115 完掘 (南から)		SI-4 SI-7
	SI-115 東カマド完掘 (西から)	図版二四	北ノ内遺跡 古墳時代の遺物
	SI-32 完掘 (西から)		SI-9 SI-10
	SI-32 カマド遺物出土状況 (西から)		SI-11 SI-16
図版一五	北ノ内遺跡 奈良・平安時代の遺構	図版二五	北ノ内遺跡 古墳時代の遺物
	SI-33・34 完掘 (南東から)		SI-16 SI-18
	SI-34 完掘 (南から)		SI-22 SI-22 鉄製品
	SI-34 カマド完掘 (南から)		SI-30 SI-33
	SI-34 カマド完掘 (南東から)	図版二六	北ノ内遺跡 古墳時代の遺物
	SI-34 P2 遺物出土状況 (東から)		SI-33 SI-35a
	SI-36 完掘 (南西から)		SI-35b SI-38a
	SI-37 完掘 (東から)		SI-42 SI-43
	SI-37 北カマド完掘 (南から)	図版二七	北ノ内遺跡 古墳時代の遺物
図版一六	北ノ内遺跡 奈良・平安時代の遺構		SI-45 SI-49
	SI-38b 完掘 (南から)		SI-53
	SI-38b カマド完掘 (南から)	図版二八	北ノ内遺跡 古墳時代の遺物 奈良・平安時代の遺物
	SI-38b カマド完掘 (南東から)		SI-53 SI-62
	SI-38b カマド煙道完掘 (南東から)		SI-19 SI-111
	SI-39 カマド完掘 (南から)		SI-24 SI-31
	SI-41 完掘 (南から)		SI-115 SI-32
	SI-41 カマド完掘 (南から)		SI-34
	SI-46 完掘 (南から)	図版二九	北ノ内遺跡 奈良・平安時代の遺物
図版一七	北ノ内遺跡 奈良・平安時代の遺構		SI-34 SI-37
	SI-46 カマド完掘 (南から)		SI-37 鉄製品 SI-38b
	SI-47 完掘 (南から)		SI-39 SI-41
	SI-50 完掘 (南西から)		SI-46 SI-50
	SI-50 カマド完掘 (南東から)		SI-52 SI-54
	SI-52 完掘 (南から)	図版三〇	北ノ内遺跡 奈良・平安時代の遺物 その他の出土遺物 各時代の土坑の出土遺物
	SI-52 カマド完掘 (南から)		SI-58 SI-59
	SI-54, SK-63 完掘 (南西から)		SI-61 SI-64
	SI-54 カマド完掘 (南西から)		SI-72 その他の出土遺物
図版一八	北ノ内遺跡 奈良・平安時代の遺構		SK-56 SK-63
	SI-68 完掘 (北西から)		SK-83 SK-185 鉄滓
	SI-57 完掘 (西から)	図版三一	北ノ内遺跡 墨書土器 (部分) 紡錘車
	SI-57 カマド完掘 (西から)		SI-4 SI-25
	SI-58 完掘 (南から)		SI-27 SI-31
	SI-58 カマド完掘 (南から)		SI-34 SI-50
	SI-58 遺物出土状況 (東から)		SI-59 SI-72
	SI-59 完掘 (南から)	図版三二	北ノ内遺跡 鉄製品
	SI-59 カマド完掘 (南から)		SI-3 SI-20
図版一九	北ノ内遺跡 奈良・平安時代の遺構		SI-24 SI-33
	SI-61・66 完掘 (西から)		SI-34 SI-40b
	SI-61 カマド完掘 (西から)		SI-41 SI-45
	SI-66 カマド完掘 (南西から)		SI-57 SK-83
	SI-64・67 完掘 (南東から)		SK-169
	SI-72 完掘 (南西から)		
	SI-72 北カマド完掘 (南東から)		

北ノ内遺跡 (2次調査)

図版三三	北ノ内遺跡 (2次調査) 航空写真 遺跡遠景 (南から) 遺跡近景 (南西から)	SI-45 カマド完掘 (南東から) SI-47 完掘 (南から) SI-48 完掘 (西から)
図版三四	北ノ内遺跡 (2次調査) 航空写真 遺跡近景 (西から) 調査区全景 (孤立柱建物跡) 調査区全景	SI-69 完掘 (南から) SI-70 完掘 (南から) SI-71 完掘 (南から)
図版三五	北ノ内遺跡 (2次調査) 古墳時代の遺構 SI-17 完掘 (南から) SI-17 カマド完掘 (南から) SI-27 完掘 (南から) SI-27 カマド完掘 (南から) SI-37 完掘 (南から) SI-39 完掘 (南から) SI-40・41 完掘 (北西から) SI-40・41 完掘 (西から)	図版四一 北ノ内遺跡 (2次調査) 奈良・平安時代の遺構 SB-1～3 検出状況 (東から) SB-1～3 完掘 (東から) SB-1～3 完掘 SB-4・5 検出状況 (東から) SB-4・5 完掘 (東から) SB-4・5 完掘 SB-4 P1 貝出土状況 (南東から)
図版三六	北ノ内遺跡 (2次調査) 古墳時代の遺構 奈良・平安時代の遺構 SI-40・41 遺物出土状況 (西から) SI-42 完掘 (南から) SI-42 カマド遺物出土状況 (南西から) SI-18 完掘 (南から) SI-18 カマド完掘 (南から) SI-19 完掘 (南から) SI-20 完掘 (南から) SI-20 カマド完掘 (南から)	図版四二 北ノ内遺跡 (2次調査) 奈良・平安時代の遺構 SB-1～5 検出状況 (北から) SB-1～5 完掘 SB-6 完掘 (南から) SB-7 検出状況 SB-7 検出状況 (北から)
図版三七	北ノ内遺跡 (2次調査) 奈良・平安時代の遺構 SI-20 カマド周辺遺物出土状況 (南から) SI-21 完掘 (南から) SI-21 カマド完掘 (南から) SI-21 遺物出土状況 (南から) SI-22 完掘 (南から) SI-22 遺物出土状況 (南から) SI-24 完掘 (南から) SI-25 完掘 (南から)	図版四三 北ノ内遺跡 (2次調査) 奈良・平安時代の遺構 SB-7 完掘 (東から) SB-9～11 検出状況 (東から) SB-9～11 完掘 SB-13・14 検出状況 (北から) SB-13・14 完掘 (東から) SB-13・14 完掘 SB-15・16 完掘 (北から) SB-55 完掘 (東から)
図版三八	北ノ内遺跡 (2次調査) 奈良・平安時代の遺構 SI-26 完掘 (南から) SI-26 カマド完掘 (南から) SI-28 完掘 (南から) SI-28 カマド遺物出土状況 (南から) SI-29 完掘 (南から) SI-30 完掘 (西から) SI-30 カマド完掘 (西から) SI-31 検出状況 (南から)	図版四四 北ノ内遺跡 (2次調査) 古墳時代の遺物 SI-17 SI-35 SI-37 SI-39 SI-40
図版三九	北ノ内遺跡 (2次調査) 奈良・平安時代の遺構 SI-32 完掘 (南から) SI-33 完掘 (南から) SI-34 完掘 (南から) SI-34 カマド完掘 (南から) SI-36 完掘 (南東から) SI-36 カマド完掘 (南東から) SI-38 完掘 (南から) SI-44 完掘 (西から)	図版四五 北ノ内遺跡 (2次調査) 古墳時代の遺物 奈良・平安時代の遺物 SI-42 SI-18 SI-19 SI-20
図版四〇	北ノ内遺跡 (2次調査) 奈良・平安時代の遺構 SI-45 完掘 (南から) SI-45 カマド完掘 (南から)	図版四六 北ノ内遺跡 (2次調査) 奈良・平安時代の遺物 SI-20
		図版四七 北ノ内遺跡 (2次調査) 奈良・平安時代の遺物 SI-20 SI-21
		図版四八 北ノ内遺跡 (2次調査) 奈良・平安時代の遺物 SI-20 SI-21 SI-22 SI-23 SI-25 鉄製品 SI-29 鉄製品
		図版四九 北ノ内遺跡 (2次調査) 奈良・平安時代の遺物 SI-28 SI-30 SI-34 SI-41 SI-44
		図版五〇 北ノ内遺跡 (2次調査) 奈良・平安時代の遺物 鉄製品 SI-44 SI-45 SI-68 SI-71 SK-65 SI-20 鉄製品 SI-21 鉄製品 SI-23 鉄製品 SI-30 鉄製品

第I章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯（第1図）

栃木県農政部が実施する経営体育成基盤整備事業は、農業生産を効率的に行うための基盤づくり、農村社会の生活環境の改善、土地利用の秩序化等を図るための水田や畑の圃場整備事業である。具体的には、各圃場の区画や形質の改良と用排水路や農道の整備等により、稲作を中心とする農業経営を合理化し、食料の安定供給と農業の持続的発展を図るものである。また、農地、水路、道路の整備等を一体的に実施し、換地制度により土地を移動、集約することにより、農地の規模拡大と集団化を行うものである。併せて農村社会の生活面での利便性向上、優良農地の確保、および無秩序な開発を防ぎ、美しい環境の維持・調和に寄与するものである。

こうした事業の一つとして、「経営体育成基盤整備事業（小貝川沿岸2期地区）」として、芳賀郡市貝町における小貝川及び桜川流域の耕作地が事業対象地として計画された。事業地は芳賀郡市貝町一塚および文谷地区内で、区画整理171haほかそれに伴う道路・用水等の工事が計画された。

事業が計画されるにあたって栃木県教育委員会文化財課は、県農務部農地計画課（現農地整備課）と事業地内の遺跡の取扱いについて協議し、計7遺跡について今後の取り扱いを判断するために確認調査を実施することとなった。

確認調査は、事業地内の遺跡面積が広大なため、文化財課が（財）とちぎ生涯学習文化財団〔現（公財）とちぎ未来づくり財団〕に委託して実施することとし、平成18年度に実施した。各遺跡とも、2×5mを基本とするトレンチを設定し、ローム層等の遺構確認面まで掘削し、遺構・遺物の有無と、その出土地点や層位、遺構確認面までの深度について把握した。

この結果に基づいて文化財課は、県農務部（現農政部）農地整備課、芳賀農業振興事務所と工事計画と遺跡の取扱いについて協議を行い、北ノ内遺跡、助五郎内遺跡、星ノ宮遺跡について、工事により破壊される部分は記録保存のための発掘調査を実施することとした。

これに基づき栃木県は、平成21年5月1日付文財第160-1号「平成21年度経営体育成基盤整備事業小貝川沿岸2期地区における埋蔵文化財発掘調査（北ノ内遺跡）の委託契約の締結について」により（財）とちぎ生涯学習文化財団と委託契約を締結し、北ノ内遺跡の発掘調査を埋蔵文化財センターが実施した。

同様に、平成22年4月30日付文財第167-1号「平成22年度経営体育成基盤整備事業小貝川沿岸2期地区における埋蔵文化財発掘調査（北ノ内遺跡、助五郎内遺跡、星ノ宮遺跡）の委託契約について」により、（財）とちぎ生涯学習文化財団と委託契約を締結し、発掘調査を埋蔵文化財センターが実施した。

さらに、平成23年7月1日付文財第315-1号「平成23年度経営体育成基盤整備事業小貝川沿岸2期地区における埋蔵文化財発掘調査（北ノ内遺跡、助五郎内遺跡、星ノ宮遺跡）の委託契約について」により、（財）とちぎ未来づくり財団と委託契約を締結し、発掘調査を埋蔵文化財センターが実施した。

整理作業については、事業地内の現地調査を優先させつつ、平成23年度から平行して部分的に実施することとなった。平成24年度は「平成24年度農地整備事業（経営体育成型）小貝川沿岸2期地区における埋蔵文化財発掘調査（北ノ内遺跡、助五郎内遺跡、星ノ宮遺跡）」により、継続して整理作業が進められ、平成25年度には「平成25年度農地整備事業（経営体育成型）小貝川沿岸2期地区における埋蔵文化財発掘調査（北ノ内遺跡、助五郎内遺跡、星ノ宮遺跡）」により、整理作業が完了し本報告書刊行に至っている。



第1図 遺跡位置図 (S = 1/25,000)

第2節 調査の方法 (第2図)

北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡の調査は3カ年に渡って行われた。平成21年度は北ノ内遺跡の調査を、22年度は北ノ内遺跡の2次調査と助五郎内遺跡、星ノ宮遺跡の調査を、23年度は星ノ宮遺跡の調査を行っている。このうち北ノ内遺跡に関しては1次調査を「北ノ内遺跡」、2次調査を「北ノ内遺跡の2次調査」と呼び別個に報告する。これは調査区が約150m離れているだけでなく、間に谷を挟み、調査区の間は確認調査で遺構が希薄であることがわかっているためである。

遺構の位置や遺物の出土位置を表すグリッドは、世界測地系 X=63300 Y=23700 を原点とし、3遺跡を含む圃場整備用地内をカバーするよう 20×20m のグリッドを設定した。東西方向は東へ向かって1、2、3と増していき、南北方向は南に向かって1、2、3と増す。原点を含むグリッドは0-0と表現される。このグリッドは第3節で述べる通り東北地方太平洋沖地震前のものである。

表土の除去は重機により行い、遺構の精査・掘削は人力によって行った。遺構の図化は、平面図・断面図・エレベーション図・遺物出土状況図等を必要に応じて作成した。遺構の写真は35mmモノクロフィルム・カラーリバーサルフィルムを用い、補助的にデジタルカメラを使用して行った。撮影は各現場担当者が行った。

遺跡航空写真撮影は、中央航業株式会社に委託し、ヘリコプターから4×5モノクロリバーサルフィルム・カラーリバーサルフィルム、35mmカラーリバーサルフィルムにて行った。

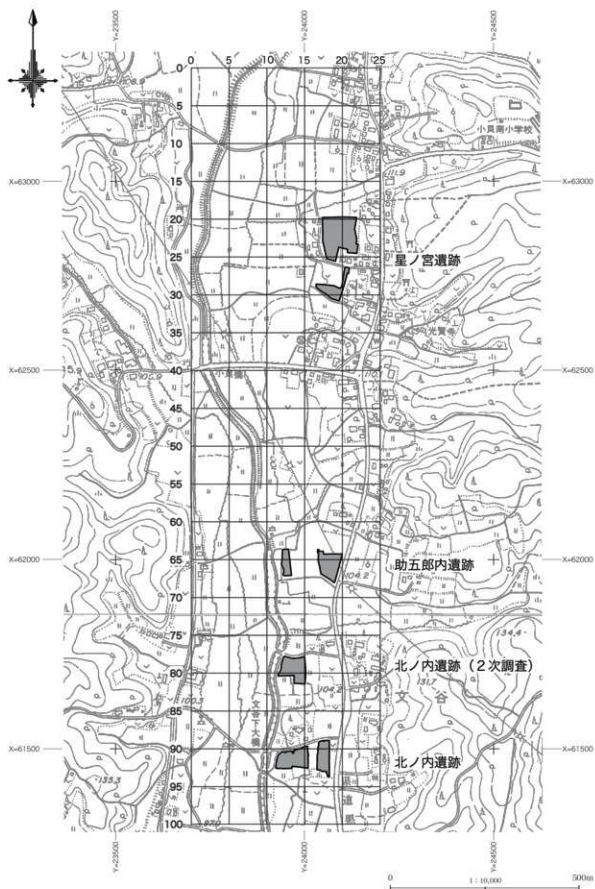
遺構実測図の編集は、調査時に作成した原図を修正し、Adobe 社製 Illustrator でデジタルトレースと編集を行った。出土遺物の図化は手測り実測後ベントレースして版下を作成し、スキャンして原稿に用いている。遺物の写真撮影は株式会社松井ビ・テ・オ・印刷に委託してデジタルカメラで行い、Adobe 社製 PhotoshopElements で若干の修正を行った。原稿の編集は Adobe 社製 InDesign で行い、デジタル入稿とした。

第3節 東北地方太平洋沖地震に伴う地殻変動による位置の変化について(第3図)

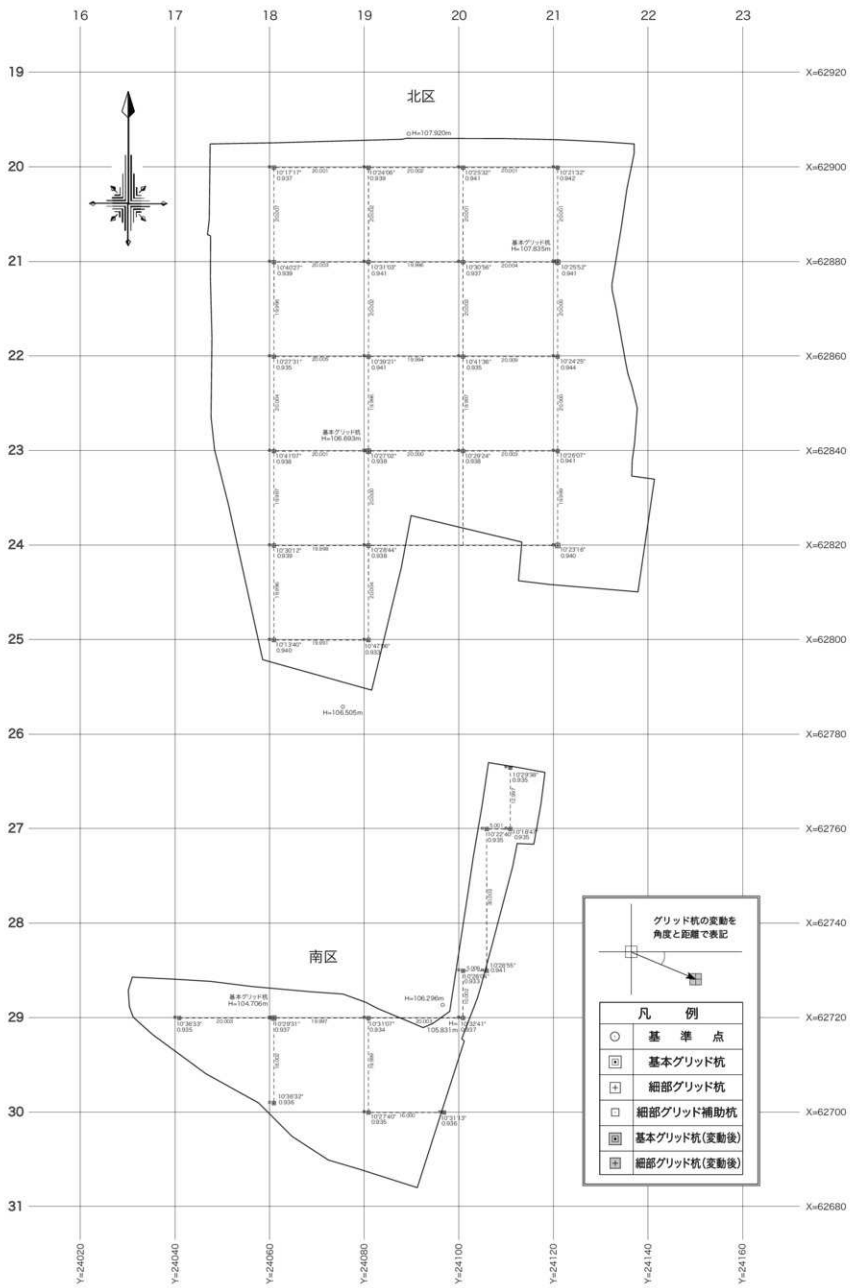
平成23年(2011年)3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴って、北海道南部から関東甲信越地方の広い範囲にわたって地殻変動が確認された。水平方向では最大約5.3m 東南東への地殻変動が観測され、地震後も同様な地殻変動が観測され続けてその大きさは最大で年間89cmにも及ぶ。

本書で報告している星ノ宮遺跡は平成22年度～23年度にまたがって調査されており、東北地方太平洋沖地震に伴う地殻変動によるグリッド杭の変動が生じた。栃木県域では概ね東に30cm 地殻変動したといわれているが、その後の測量で星ノ宮遺跡のグリッド杭は東へ約90cm、南へ約20cm 変動し、かつ微細な歪みを生じていることが確認された。調査区が位置する地殻ごと変動しているのであるから、調査区内に断層や隆起が見られない限り大きな意味で遺構間・遺跡間のズレは生じないものであり、星ノ宮遺跡の調査は打設されているグリッド杭をそのまま利用して継続された。したがって本書で用いられているすべてのグリッド及びグリッド杭は東北地方太平洋沖地震前のものである。星ノ宮遺跡内の遺構間、星ノ宮遺跡と北ノ内・助五郎内遺跡との遺跡間において、微細な歪みはあるものの、その位置関係に大きなズレは生じていないものと判断する。

なお、今後近接地での発掘調査の際は第3図に示したグリッド杭(変動後)によって位置関係の修正が可能である。また、栃木県は国土地理院によって定められた「座標・経緯度の補正が必要な地域」に含まれるが、「座標・経緯度及び標高の補正が必要な地域」には含まれないため、標高に関しては変動前のものを継続利用している。



第2図 調査区とグリッド配置図 (S = 1/10,000)



※平成 23 年 10 月 31 日国土地理院発表の補正パラメータを使用。

第 3 図 星ノ宮道路における変動後のグリッド杭位置図 (S = 1/800)

第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 地理的環境 (第4・5図)

栃木県の地勢は大きく三つの地域からなる。東側を南北に連なる八満山地、西側に連なる那須火山群・塩原火山群・足尾山地、そしてこれらの丘陵に挟まれる扇状地・低丘陵・河川流域の低地である。東西の丘陵に挟まれた一帯はかつて鬼怒川地溝帯と呼ばれる巨大な低地を形成していたが、180～80万年前にかけて那須火山群・塩原火山群、福島県白川地方からの火山噴出物や山体崩壊物が堆積して、地溝帯北部を中心に巨大な扇状地を形成した。この堆積物は境林礫層と呼ばれ喜連川入湯では深さ100mにも達する。70～60万年前にこの扇状地の一部が隆起して喜連川丘陵を生み出す。喜連川丘陵は高原山から鶴足山地にかけて丘陵地帯を形成し、その北部は那須野原と呼ばれ広大な扇状地の姿を残している。

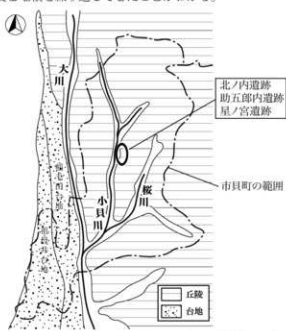
喜連川丘陵より南側は、鬼怒川、思川、黒川、田川、五行川、小貝川といった河川により低地が形成され、南北に続く低地と台地が連続し、この細長い台地上が人の生活の主な舞台となってきた。また、県南西部には渡良瀬川による渡良瀬低地が、南部には思川による思川低地が形成されている。

小貝川は喜連川丘陵の南端に発し、八満山地の西縁を南流しながら支流板川・大川とともに狭小な低地を形成している。支流五行川とは市貝町に南接する真岡市域で近接し、県東部では比較的大きな低地を形成する。両河川間の台地は稲毛田台地・祖母井台地と呼ばれる。市貝町域の地勢は、八満山地西縁の丘陵と稲毛田・祖母井台地、小貝川とその支流による狭小な低地からなる。東部丘陵の標高はおよそ150～250m、台地の標高は120～140m、低地の標高は100m前後である。集落は河川沿いに散在し、台地上は主に畑地として利用され、丘陵は豊かな自然が残されている。

北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡が位置する小貝川上流部沿岸は、丘陵から緩やかに降りてくる斜面が浸食により河岸段丘を形成し、また河川と直行する方向に細かな谷を数多く形成している。遺跡はこれらの谷を埋めた黒色土の上でも確認されており、浸食と堆積を繰り返してきたことがわかる。



第4図 栃木県の地勢概念図 (S = 1/2,000,000)



第5図 市貝町の地勢 (S = 1/200,000)

第2節 歴史的環境（第6図、第1表）

北ノ内遺跡、助五郎内遺跡、星ノ宮遺跡は芳賀郡市貝町文谷に位置する。芳賀郡は栃木県南部に位置し、主に五行川流域の低地とその東西の台地、小貝川流域の低地と周辺の丘陵部からなる。古墳時代、古代、中世を通じて芳賀郡の中心は五行川と小貝川が近接して広い低地を形成する現在の真岡市・益子市域にあるといえるが、本節ではそれらの地域を念頭に置きながら、遺跡の位置する市貝町・小貝川上流域の歴史的環境を概観する。

【旧石器時代】

小貝川・五行川流域にはいくつかの旧石器時代遺跡が存在するが、なかでも真岡市磯山遺跡は全国的にも著名である。遺跡は磯山と呼ばれる独立丘陵の南西麓に位置し、約1万7000年前のナイフ形石器文化初期の遺跡である。小貝川流域の旧石器時代遺跡でナイフ形石器文化期のものは、**田子山遺跡**（1）と**ニチダ・ダイナスティゴルフクラブ造成地内遺跡**（2）がある。田子山遺跡は桜川右岸に、造成地内遺跡は石下市内の丘陵部に位置し、ほぼ同じ技法によるナイフ形石器が確認されている。また上根地内の大川右岸に位置する**高林遺跡**（3）で縦長薄片を利用した削器が、**仁王地遺跡**（4）でナイフ形石器と剥片が確認されている。大谷津白金の小川原溜西遺跡（5）と市塚前窪にある**前窪遺跡**（6）では尖頭器が単独で採集されており、ナイフ形石器文化期に続く尖頭器文化期の遺跡と考えられる。細石器文化期の遺跡としては市塚向原の**向原遺跡**（7）で細石核が確認されている。

【縄文時代】

草創期の遺物は**仁王地遺跡**・**平稻荷神社前遺跡**（8）で確認されている。仁王地遺跡では表裏縄文土器が、平稻荷神社前遺跡では有舌尖頭器が採集されている。表裏縄文土器は真岡市一ノ塚遺跡でも確認されている。

早期に属する遺跡は、**富士山遺跡**（9）・**陳山A遺跡**（10）で井草式土器が、市貝町笹原田の**堀込遺跡**（11）では4軒の隅丸方形住居跡と稲荷原式土器が出土している。そのほか**宮ノ脇遺跡**（12）から三戸式土器が、**田子山遺跡**・**下ノ溜遺跡**（13）から田戸下層式土器が、**長谷津遺跡**（14）から稲荷台式土器が、仁王地遺跡から条痕文系土器が出土している。

前期に属する遺跡は、**八幡山裏遺跡**（15）で竪穴建物跡1軒と浮島式土器が出土している。**水押遺跡**（16）・**権現山遺跡**（17）・**陳山A遺跡**で黒浜式土器が、平稻荷神社前遺跡で黒浜式土器と諸磯式土器が、**長谷津遺跡**・**向原東遺跡**（18）・**駒塚A遺跡**（19）で諸磯式土器と浮島式土器が、向原遺跡で興津1式土器が確認されている。

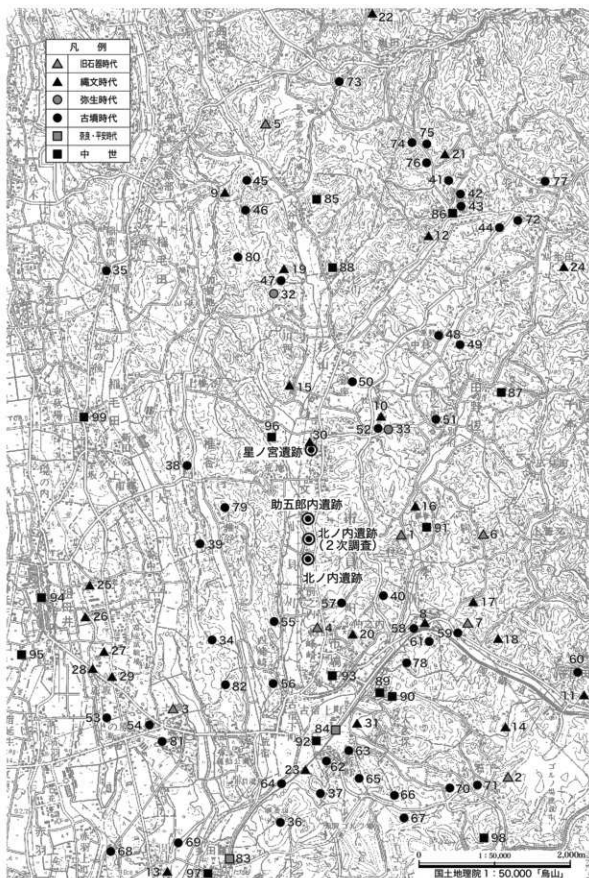
中期に属する遺跡には、**添野遺跡**（20）がある。60基の袋状土坑群が調査され、加曾利E1式土器・中峠式土器・大木7b式土器が出土している。そのほか、**上立遺跡**（21）・**大平遺跡**（22）で阿玉台式土器と大木8a式土器が、**横塚遺跡**（23）・**和平遺跡**（24）で加曾利E式土器が出土し、**弁天池遺跡**（25）・**弁天池南遺跡**（26）・**赤坂道上北遺跡**（27）・**赤坂道上遺跡**（28）・**赤坂道上東遺跡**（29）・**長谷津遺跡**（14）でも中期の土器が出土している。

後期に属する遺跡は、**横塚遺跡**（23）・**和平遺跡**（24）で称名寺式土器・堀之内式土器・加曾利B式土器が出土し、平稻荷神社前遺跡（8）では堀之内式土器が確認されている。

晩期に属する遺跡には、**井戸尻遺跡**（30）・**小森遺跡**（31）がある。井戸尻遺跡は開田事業に伴い発掘調査が行われ、性格不明遺構3基が確認された。出土遺物は大洞BC式～C2式土器のほか土偶・土板・有孔土製円板・岩板・岩偶が出土している。小森遺跡では大洞C式土器・土偶・耳栓・石剣・垂飾などが出土している。

【弥生時代】

栃木県における弥生時代の遺跡は、中期前半までは再葬墓を中心とした墓坑が主であり、中期後半頃から



建物跡が確認される。中期の集落は1～2軒という極小規模なものしか確認できないが、後期になるとわずかに規模を増し、後期後半からは古墳時代前期にかけて継続するような大規模な集落が県央域に形成されるようになる。小貝川上流域にあたる市貝町・益子町・真岡市東部では、中期～後期の再葬墓と散布地が確認されている。益子町新福寺遺跡・蔵本遺跡では中期の再葬墓が確認され、下ノ瀧南遺跡(13)・向原遺跡(7)・向原東遺跡(18)・長谷津遺跡(14)・権現山遺跡(17)・胸塚B遺跡(32)・陳山B遺跡(33)では中期～後期の土器が採集されている。市貝町域におけるこれらの遺跡は小貝川支流桜川と平川流域に集中する。

【古墳時代】

栃木県における前期古墳は多くが前方後方墳でしめられることが特色である。それらは那珂川流域、小貝川・五行川流域、田川流域、思川・姿川流域、渡良瀬川流域といった水系ごとの地域的まとまりをもって築造されている。五行川流域では、芳賀町浅間山古墳・同亀の子塚古墳が、小貝川流域では上根二子塚古墳群1号墳・3号墳(34)、真岡市山崎古墳群1号墳、益子町浅間塚古墳が確認されている。上根二子塚古墳群1号墳・3号墳は継続する系譜と考えられ、真岡市山崎古墳群1号墳は方墳である3号墳が続くが、その他の古墳も含め小貝川・五行川流域では首長墓が中期に継続しないという特色がある。

中期は、前方後円墳が登場し、まず県央部の田川流域に笹塚古墳・塚山古墳といった全長100m級の前方後円墳が作られる。そして中期末には思川・姿川流域に全長120m前後の摩利支天塚古墳・琵琶塚古墳・吾妻古墳といった巨大な前方後円墳が造られ、前代から続く各首長系譜を超える強大な権力の発生を示している。この時期小貝川・五行川流域では、前方後円墳は採用されず、前代の前方後方墳の系譜が一端途切れ、わずかに円墳が見られる。小貝川上流に位置する芳志戸十三塚古墳(35)は直径25m程の円墳で、埋葬施設は未確認ながら多数の滑石製模造品が出土している。同様に小貝川流域に位置する益子町新田山古墳群1号墳は、直刀と短版皮織短甲、ヨコ方向の刷毛目を持つ円筒埴輪が出土している。中期後葉にいたって二宮町の五行川流域に前方後円墳の大和田富士山古墳、小貝川流域に同じく前方後円墳の長寿山古墳(36)が築かれる。大和田富士山古墳は芳賀地域で最初の前方後円墳で全長51m、滑石製模造品の他人物埴輪・鏡・武器・馬具が出土したという。長寿山古墳は全長70m、帆立貝式前方後円墳で詳細は不明だが規模は群を抜いている。

後期に入ると、大和田富士山古墳に後続する前方後円墳が築かれる。横塚古墳群(37)は小貝川上流に位置し、前方後円墳2基と円墳3基からなる。1号墳は全長52mの前方後円墳で、墳丘裾部から形象埴輪・機材埴輪・円筒埴輪が出土し、6世紀前半の築造と考えられる。益子町向原古墳群は前方後円墳3基と円墳6基からなる。8号墳は全長42mの前方後円墳で、円筒埴輪から6世紀前半の築造と考えられる。周辺には小宅古墳群・青田古墳群・西坪古墳群・日向古墳群が分布し、向原古墳群8号墳はこれらの古墳群形成の端緒となる前方後円墳である。

6世紀後半になると横穴式石室の普及とともに多くの古墳群が形成される。五行川流域では、京泉シト原古墳群・若旅富士山古墳群・宿内天神山古墳群・上大曾古墳群が、小貝川流域では、荒久台古墳群・小宅古墳群・森ノ木古墳群・丸丘古墳群・西坪古墳群・椎谷古墳群(38)・下椎谷古墳群(39)・朝頼塚古墳群(40)・北浦古墳群(41)・寺久保古墳群(42)的場古墳(43)・小山古墳(44)・権現山古墳(45)・舩塚古墳群(46)・胸塚古墳群(47)・三ツ峰古墳群(48)・長久保古墳群(49)・関根山古墳群(50)・西ノ内古墳群(51)・境松古墳(52)・二子塚西古墳(53)・町出口古墳(54)・我免木古墳群(55)・金井古墳群(56)・鬮訪塚古墳群(57)・桜本塚古墳(58)・向原古墳群(59)・笹原田古墳群(60)・平石山古墳(61)・白金古墳(62)・シハノバ古墳(63)・会下塚古墳(64)・定使古墳群(65)・南谷津古墳(66)・石下古墳群(67)・寺山古墳群(68)・多田羅古墳群(69)・石沢古墳群(70)・池田古墳群(71)が形成されている。

終末期の7世紀になると各首長墓は、その墳形を大型の円墳へと変化させる。100mを超える前方後円墳を築造してきた県央部の思川・姿川流域でも車塚古墳(直径82m)・丸塚古墳(74m)・桃花原古墳(直径50m)といった大型円墳が築造される。小貝川・五行川流域では直径54mの益子町山守塚古墳・直径30mの刈生田古墳群(72)が築かれる。刈生田古墳群からは双龍文環頭大刀が出土している。さらに小貝川支流の塩田川流域には塩田横穴墓(73)・長峰横穴墓群(74)・上立横穴墓群(75)・八重沢横穴墓群(76)・羽仏横穴墓(77)・星川横穴墓群(78)などの横穴墓が多数造られる。これらは那珂川流域にみられる横穴墓群の南端に位置し、小貝川上流域と那珂川・那須地方とのつながりを想起させる。

小貝川流域における古墳時代の集落遺跡は、下椎谷遺跡(79)・那須島山市斧窪遺跡・加々地遺跡(80)・八幡山裏遺跡(15)・町出口遺跡(81)・高林遺跡(3)・市貝町赤羽久保遺跡・彦七新田遺跡(82)・仁王地遺跡(4)が確認されている。このうち前期の土器を出土している下椎谷遺跡と斧窪遺跡は小貝川上流部に位置し、下椎谷遺跡からは群馬方面の影響のみられる土器が、斧窪遺跡からは東海地方の影響がみられる土器がそれぞれ出土している。久保遺跡は前期の竪穴建物跡24軒、後期の建物跡43軒が検出され、古墳同様中期集落も中期に衰退していることが確認された。八幡山裏遺跡では後期の竪穴建物跡7軒、町出口遺跡では後期の竪穴建物跡2軒、高林遺跡では後期の竪穴建物跡4軒、彦七新田遺跡では後期の竪穴建物跡7軒、仁王地遺跡では前期2軒、後期73軒の竪穴建物跡が確認された。

【奈良平安時代】

古代芳賀郡の中心は現在の真岡市付近で、同市京泉の塔法田遺跡が芳賀郡衙跡とされている。郡衙の範囲は東西180m、南北300mと推定され、38基の版築遺構と正倉とみられる掘立柱建物跡群が整然と並ぶ。鬼怒川左岸に位置する真岡市中村遺跡では礎石建物跡と掘立柱建物跡が確認され郡倉別院と考えられる。また塔法田遺跡に近接する大内廃寺は奈良時代の寺院跡で、郡寺と考えられる。『和名類聚抄』には芳賀郡内の郷として、古家・広妹・遠妹・物部・芳賀・若統・承谷・石田・氏家・丈部・財部・川口・真壁・新田の14郷が記され、市貝町域では、承谷郷が市貝町統谷に比定されている。

市貝町域の古代に属する遺跡は、仁王地遺跡(4)・彦七新田遺跡(82)・多田羅遺跡(83)・久保遺跡・久保前遺跡(84)が知られる。仁王地遺跡は古墳時代後期に拡大した集落遺跡で、奈良時代27軒、平安時代44軒の竪穴建物跡が確認されたほか、8棟の側柱式掘立柱建物跡と2棟の総柱式掘立柱建物跡、6基の氷室と考えられる大型土坑が検出された官衙的な集落遺跡である。彦七新田遺跡は古墳時代後期に続き奈良時代26軒、平安時代69軒の竪穴建物跡、18棟の掘立柱建物跡が確認された。多田羅遺跡では平安時代の竪穴建物跡8軒、掘立柱建物跡1棟などが検出され、11世紀前葉の建物跡から仏像范型が出土している。他の建物跡から「山寺」の墨書土器が出土しており集落内寺院の可能性が考えられる。久保遺跡では平安時代の竪穴建物跡44軒、掘立柱建物跡13棟が確認されている。久保前遺跡では竪穴建物跡50軒が検出され、平安時代前半の錫杖頭等が出土している。

【中世】

平安時代末から各地に寄進地形荘園が形成されるが、芳賀郡域では、五行川・小貝川低地を中心に大内荘・中村荘・八木岡荘・長沼荘・茂木保が成立した。長沼荘は鬼怒川と五行川に挟まれた範囲で現在の二宮町に位置し、12世紀後半に成立したと思われる。長沼城は12世紀末、長沼宗政によって築かれたとされ、16世紀前半まで長沼荘を支配した長沼氏によって、16世紀後半～17世紀は代わって支配した多賀谷氏によって利用された。非ロクロの土師質土器皿、楠葉産輪花形瓦器環、小仏像破片等が出土している。八木岡荘は真岡市八木岡を中心とし、五行川とその支流江川流域に位置する。寛言4年(1306)昭慶門院領目録案に「室

町院領」とみえる。八木岡居館跡は在地領主の館跡と考えられ、近接する下陰遺跡からは多種多様な中世遺物が出土し館の外郭施設と考えられる。中村荘は真岡市南西部の五行川と鬼怒川に挟まれた範囲に位置し、「吾妻境」文治4年(1188)三月一七日条にみえ、建久5年(1253)近衛家所領目録写では奈良興福寺一乘院前大僧正実信の管理とみえる。中世前半の居館が中世後半に城郭へと拡大する中村城跡がある。茂木保は茂木市北部に位置し、建久3年(1192)の将軍家政所下文に「本木郡」とみえる国領衝である。大内荘は正治2年(1200)吉田経房旭分状写に「大内荘五辻斎院御領」とみえ、五行川と小貝川に挟まれた範囲に位置する。荘域は真岡市の大部分と芳賀町・二宮町・益子町の一部を含む広大な範囲の荘園である。

市貝町域がこれらの荘園にどの程度含まれるのか定かではないが、東に国領衝茂木保、西に大内荘が存在しており、これらの荘園を支配する在地領主たちの勢力境界に位置していることになる。南及び西側からは宇都宮氏と益子氏をはじめとするその家臣が、北および東側からは那須氏とその家臣須藤氏系が勢力を伸ばしており、県指定史跡千本城跡・村上城跡が近接して築かれるなど、中世城館跡が豊富で遺存状態も良好である。那須氏系の城館跡としては、千本城跡・大谷津城跡(85)・続谷城跡(86)・田野辺城跡(87)がある。県指定史跡千本城跡は、小貝川と那珂川水系を別ける分水嶺上に位置し、当地域における那須氏の拠点となる山城である。建久8年(1197)千本十郎為隆の築城、天正13年(1585)廃城となる。大谷津城跡・続谷城跡・田野辺城跡は千本城の支城と考えられ、それぞれ那須氏家臣による築城とされる。そのほか杉山城跡(88)・山根城跡(89)・芦原城跡(90)が千本城支城として機能した那須氏系の城館跡とされている。一方益子氏系の城館跡としては、村上城跡(91)・市花輪館跡(92)がある。県指定史跡村上城跡は小貝川支流桜川を望む丘陵に位置し、北東方向に千本城を望む。永和4年(1378)村上新助藤良により築城、約50年間機能したとされる。益子氏による対千本城の拠点といえる。市花輪館跡は小貝川と桜川の合流点近くに位置し、貞治年間(1362～68)益子喜一郎勝直の築城とされる。また御城跡(93)も益子氏系の城館跡と考えられている。そのほか、宇都宮氏系の祖母井城跡(94)・平石城跡(95)・詳細不詳の文谷城跡(96)・多田羅館跡(97)・石下城跡(98)・稲毛田城跡(99)が知られている。

参考文献

- 市貝町史編さん委員会 1990『市貝町史 第一巻 自然・原始古代・中世資料編』
 市貝町史編さん委員会 1995『市貝町史 第四巻 通史編』
 角川書店 1984『日本地名大辞典 9 栃木県』
 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団 2005『彦七新田遺跡』
 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団 2011『長沼城跡』
 (財)とちぎ生涯学習文化財団 2007『研究紀要 第15号』
 (財)栃木県文化振興事業団 1983『栃木県の中世城館跡』
 平凡社 1988『日本歴史地名大系 第九巻 栃木県の地名』

第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	時代	種別	出土遺物	備考
1	田子山遺跡	市貝町市塚字田子山	旧石器・縄文(早期)・古墳	散布地	石器・土器	ナイフ形石器を採集。削平により消滅。
2	ニチダ・ダイナスティゴルフクラブ造成地内遺跡	市貝町石下	旧石器	散布地		ナイフ形石器を採集。
3	高林遺跡	市貝町上根字高林	旧石器・古墳～平安	集落跡	土器・石器	昭和50年発掘調査。縦長刺片を利用した刑器出土。
4	仁王地遺跡	市貝町市塚	旧石器・縄文(草創・早期)・古墳・奈良・平安・中世	集落跡	土器・鉄製品(鋤先・鎌・刀子・鉄鍬など)・銅製品・石製品(紡錘車)・土製品(土玉)・石器	平成5・6年町史編纂委員会発掘。ナイフ形石器・刺片など採集。
5	小川原瀨西遺跡	市貝町大谷津字白金	旧石器	散布地	石器	尖頭器採集。
6	前窪遺跡	市貝町市塚字前窪	旧石器	散布地	石器(尖頭器)	尖頭器採集。
7	向原遺跡	市貝町市塚字向原	旧石器・縄文・弥生	散布地	土器	細石核採集。
8	平稲荷神社前遺跡	市貝町市塚字平	縄文(草創～後期)	散布地	土器・石器	
9	富士山遺跡	市貝町大谷津字富士山	縄文(早期)	散布地	土器	
10	陣山A遺跡	市貝町杉山字陣山	縄文(早・前期)	散布地	土器	
11	堀込遺跡	市貝町笹原田	縄文(早期)	集落跡		竪穴建物跡4軒。
12	宮ノ脇遺跡	市貝町鏡谷	縄文(早期)	散布地		
13	下ノ瀨遺跡	市貝町多田羅	縄文(早期)	散布地		
14	長谷津遺跡	市貝町笹原田字田向	縄文(早～中期)・弥生(中期)	散布地	土器・石器 耳飾り	
15	八幡山裏遺跡	市貝町杉山字八幡山	縄文(前期)・古墳(後期)	散布地・集落跡	土器・石器	昭和53年発掘調査。
16	水押遺跡	市貝町市塚字水押	縄文(前期)	散布地	不明	
17	権現山遺跡	市貝町市塚字権現山	縄文(前期)・弥生(中～後期)	散布地	土器・石器 土師器・須恵器	
18	向原東遺跡	市貝町市塚字向原	縄文(前期)・弥生	散布地	土器・石器	
19	駒塚A遺跡	市貝町大谷津字駒塚	縄文(前期)	散布地	土器	
20	浜野遺跡	市貝町市塚字浜野	縄文(中期)	集落跡	土器・石器	昭和47年発掘調査。
21	上立遺跡	市貝町鏡谷字上立	縄文(中期)	散布地	土器・石器	
22	大平遺跡	市貝町竹内字大平	縄文(中～後期)	集落跡	土器・石器・土製品(土版)	
23	横塚遺跡	市貝町市塚字横塚	縄文(中期中葉～後期)・古墳	集落跡	土器・石器	
24	和平遺跡	市貝町刈生田字表	縄文(中～晩期)	散布地	土器・石器	
25	弁天池遺跡	芳賀町祖母井字弁天池	縄文(中期)	集落跡	土器・石器・土製品	昭和43・44年発掘調査。
26	弁天池南遺跡	芳賀町祖母井	縄文(中期)	集落跡		
27	赤坂道上北遺跡	芳賀町祖母井字赤坂道上	縄文(中期)	集落跡		平成14年発掘調査。
28	赤坂道上遺跡	芳賀町祖母井字赤坂道上	縄文(中期)・弥生・古墳・奈良・平安	散布地		

29	赤坂道上東遺跡	芳賀町相母井字赤坂道上	縄文(中期)	散布地		
30	井戸尻遺跡	市貝町文谷字畑々中	縄文(晩期)・奈良・平安	散布地	土器・石器 岩版・土偶	昭和52年発掘調査。
31	小森遺跡	市貝町市場	縄文(晩期)	集落跡		
32	駒塚B遺跡	市貝町大谷津字駒塚	弥生(後期)	散布地	土器片1点 (弥生後期)	
33	隼山B遺跡	市貝町杉山字隼山	弥生(後期?)	散布地	土器	
34	上根二子塚古墳群	市貝町上根字二子塚	古墳(前期)	古墳	土器	前方後方墳2基、円墳2基。 昭和62年・平成3年発掘調査。
35	芳志戸十三塚古墳	芳賀町芳志戸	古墳(中期)	円墳		滑石製模造品多数出土。
36	長寿山古墳	市貝町市場字伊許山	古墳(中期)	古墳		全長70m、後円部径50×高3m、前方部幅20×高2.6m。 帆立貝式前方後円墳か。
37	横塚古墳群	市貝町市場字横塚	古墳(後期)	古墳	埴輪多量出土 (円筒・朝顔形・人物・動物・器財・太刀・槍・鏃など)	前方後円墳2基、円墳3基。
38	椎谷古墳群	市貝町椎谷字富士山他	古墳(後期)	古墳	銅製品・玉類(勾玉・管玉)・土器・埴輪	7号墳は前方後円墳。他21基は円墳。 尾根沿いに南北0.9kmに分布する。
39	下椎谷古墳群	市貝町椎谷字五里	古墳(後期)	古墳		円墳3基。 1号墳：径18×高1.8m 2号墳：径10.5×高1m 3号墳：2号墳と同規模
40	朝朝塚古墳群	市貝町市場字添野	古墳(後期)	古墳	勾玉	円墳12基。 3・7・8号墳は墳丘消滅。8号墳の旧名は朝朝塚古墳。
41	北浦古墳群	市貝町統谷字北浦	古墳(後期)	古墳		円墳2基。 1号墳：径12×高1.5m 2号墳：径15×高1.5m
42	寺久保古墳群	市貝町統谷字寺久保	古墳(後期)	古墳		円墳2基。 1号墳：径12×高1.5m 2号墳：径15×高1.5m
43	的場古墳	市貝町統谷字的場	古墳(後期)	古墳		円墳1基。径20×高2m。
44	小山古墳	市貝町統谷字小山	古墳(後期)	古墳		円墳。径15×高1.2m。
45	権現山古墳	市貝町大谷津字権現平	古墳(後期)	古墳		円墳。径19×高1.8m。
46	舂塚古墳群	市貝町大谷津字舂塚	古墳(後期)	古墳		円墳4基。 1号墳：径20×高2.1m 2号墳：径14×高0.6m 3号墳：径12×高0.8m 4号墳：径16×高1.7m
47	駒塚古墳群	市貝町大谷津字駒塚	古墳(後期)	古墳		円墳2基。 1号墳：径40×高3m(二段築成) 2号墳：径16×高1.3m
48	三ツ峰古墳群	市貝町田野辺字三ツ峰	古墳(後期)	古墳		前方後円墳2基、円墳2基。 1号墳(前方後円墳)： 全長35m 後円部径16×高1.2m 前方部幅14×1m 2号墳(円墳)：高2.2×径18m 3・4号墳は消滅。 3号墳は全長23mの前方後円墳。
49	長久保古墳群	市貝町田野辺字長久保	古墳(後期)	古墳	鉄製品(刀・鉄鏃・馬具金具など)・玉類(切子玉・管玉・勾玉など)・土器	円墳7基。 1号墳：径11×高0.6m 2号墳：径18×高0.6m 3号墳：径6×高0.5m 4号墳：径14×高2.7m 5号墳：径8m 6・7号墳：径10m

50	圓根山古墳群	市貝町杉山字圓根山	古墳(後期)	古墳		円墳3基。うち2基は消滅。現存の円墳径35×高5m。
51	西ノ内古墳群	市貝町田野辺字西ノ内	古墳(後期)	古墳		円墳4基。 1号墳:径17.4×高1.7m 2号墳:径10×高1.3m 3号墳:径6.7×高0.8m 4号墳:径5.7×高1.3m
52	境松古墳	市貝町田野辺字駒塚	古墳(後期)	古墳	玉類(勾玉・管玉・霰玉・切子玉など)	円墳1基。 径28×高3.5m。
53	二子塚西古墳	芳賀町祖母井字上野原	古墳(後期)	古墳		円墳。横穴式石室。
54	町出口古墳	市貝町上根字町出口	古墳(後期)	古墳		円墳。径10×高1.5m。
55	我免木古墳群	市貝町市埴字我免木	古墳(後期)	古墳		円墳2基。 1号墳:東西径10×南北径16×高2m(楕円形) 2号墳:径1m未滿
56	金井古墳群	市貝町市埴字金井	古墳(後期)	古墳		円墳3基。 1号墳:径15.8×高1.4m 2号墳:径8×高0.5m 3号墳:径8.3×高0.8m
57	諏訪塚古墳群	市貝町市埴字諏訪	古墳(後期)	古墳		1号墳は前方後円墳、旧名は諏訪塚古墳。他3基は円墳。 1号墳:全長39m 後門部径21.4×高3.2m 前方部幅22.4×高3.8m 2号墳:径10×高1m 3号墳:径35×高2.4m(周溝あり) 4号墳:径17×高1m
58	桜本塚古墳	市貝町市埴字平	古墳(後期)	古墳	刀・金環・玉類(曲玉・管玉)	
59	向原古墳群	市貝町市埴字向原	古墳(後期)	古墳	埴輪・鉄製品(直刀・刀子)	円墳10基。
60	笹原田古墳群	市貝町笹原田字塚ノ越	古墳(後期)	古墳		円墳7基。横穴墓1基。1・2号墳を除いてほとんど消滅。
61	平石山古墳	市貝町市埴字平	古墳(後期)	古墳		円墳。径17×高1.5m。周溝の痕跡あり。
62	白金古墳	市貝町市埴字白金	古墳(後期)	古墳		円墳。径17×高1.1m。
63	シハンバ古墳	市貝町市埴字シハンバ	古墳(後期)	古墳		円墳。径10×高1.7m。
64	会下塚古墳	市貝町市埴字会下	古墳(後期)	古墳	鉄製品(直刀など)	
65	定使古墳群	市貝町市埴字定使	古墳(後期)	古墳		円墳。 1号墳:径11×高1.3m 2号墳:径8.7×高1.6m 3号墳:径23×高3m
66	南谷津古墳	市貝町市埴字南谷津	古墳(後期)	古墳		円墳。径12×高2.1m。
67	石下古墳群	市貝町石下字勝見沢	古墳(後期)	古墳	鉄製品(刀子・鉄鍬・櫛など)・玉類(勾玉・切子玉・白玉など)・土器・埴輪・耳環・銅鈴	円墳20基。 昭和32・78・49年発掘調査。
68	寺山古墳群	市貝町赤羽字トヤ下山根通	古墳(後期)	古墳		円墳2基。 1号墳:径10×高1.2m(想定) 2号墳:底径12×高1.2m(消滅)
69	多田羅古墳群	市貝町多田羅字大神宮	古墳(後期)	古墳		円墳8基。
70	石沢古墳群	市貝町石下字石沢	古墳(後期)	古墳		破壊されているため実数は不明確。少なくとも3基あり。(円墳2基。前方後円墳1基。)
71	池田古墳群	市貝町石下字池田	古墳(後期)	古墳		『芳賀の文化財』第3集に円墳6基の記載あり。

72	刈生田古墳	市貝町刈生田字前木	古墳(終末)	古墳	鉄製品(把頭・刀・鉄鏃など)・装身具(ガラス玉・金環)	昭和40年発掘調査。円墳。南北径50×東西径30×高1.5m。
73	塩田横穴墓	市貝町塩田字西ノ入	古墳(終末)	横穴墓	鉄製品(刀)・石製品(勾玉)	26基。
74	長峰横穴墓群	市貝町統谷字長峰	古墳(終末)	横穴墓	鉄製品(刀・鉄鏃)・玉類(ガラス製)	25基。
75	上立横穴墓群	市貝町統谷字上立	古墳(終末)	横穴墓		3基。未開口3基確認。
76	八重沢横穴墓群	市貝町統谷字八重沢	古墳(終末)	横穴墓		
77	羽仏横穴墓	市貝町羽仏字バクチ穴	古墳(終末)	横穴墓		道路拡張に伴い消滅。
78	屋川横穴墓群	市貝町市塩字屋川	古墳(終末)	横穴墓		2基確認。未開口横穴墓が残されている。1号横穴墓の平面形は長方形、断面形はアーチ形。「小貝側上流域の古墳」は「5基」確認。
79	下椎谷遺跡	市貝町椎谷字五里	古墳(前期)	集落跡		
80	加々地遺跡	市貝町大谷津字加々地	古墳(中～後期)	集落跡		
81	町出口遺跡	市貝町上根字町出口	古墳(後期)	集落跡		昭和51年発掘調査。竪穴建物跡2軒。
82	彦七新田遺跡	市貝町上根字彦七新田	古墳～平安	集落跡	土器・石器・陶器・鉄製品・石製品・土製品	平成13～15年発掘調査。竪穴建物跡：古墳時代後期7軒、奈良時代95軒。
83	多田羅遺跡	市貝町多田羅	奈良・平安	集落跡	土器・鉄製品(鉄鏃・刀子)・土製品(紡錘車)・仏像范型	平成元年発掘調査。
84	久保前遺跡	市貝町市塩字久保前	奈良・平安	集落跡	土器・石製品・鉄製品・土製品・陶器など	昭和55年発掘調査。
85	大谷津城跡	市貝町大谷津字城山	中世	城館跡		築城は永正年間(1504～21)、那須政永の家臣大谷津伊勢守藤永によるといわれている。
86	統谷城跡	市貝町統谷字堀の内	中世	城館跡		千本城支城。築城は貞永年間(1558～70)、承吉六郎による。一説には文龜年間(1501～04)。
87	田野辺城跡	市貝町田野辺	中世	城館跡		千本城支城。
88	杉山城跡	市貝町杉山	中世	城館跡		
89	山根城跡	市貝町市塩字山根	中世	城館跡		
90	芦原城跡	市貝町市塩字一ノ沢	中世	城館跡		本丸南東部に館跡あり。館主・家臣団の居住跡か。
91	村上城跡	市貝町市塩字観音山	中世	城館跡		築城は永和4年(1378)、村上新助藤良による。
92	市花輪館跡	市貝町市塩字館ノ内	中世	城館跡		築館は貞治年間(1362～68)、益子喜市郎勝直による。
93	御城跡	市貝町市塩字古宿	中世	城館跡		
94	祖母井城跡	芳賀町祖母井	中世	城館跡		天文年間(1532～1555)、祖母井吉胤による。慶長2年(1597)廃城。
95	平石館跡	芳賀町下延生	中世	城館跡		天正年間(1573～1592)、平石高治による。慶長2年(1597)廃城。
96	文谷城跡	市貝町文谷	中世	城館跡		
97	多田羅館跡	市貝町多田羅字古屋敷	中世	城館跡		
98	石下城跡	市貝町石下字前	中世	城館跡		
99	稲毛田城跡	芳賀町稲毛田	中世	城館跡		

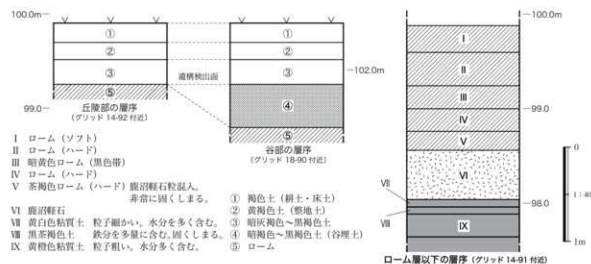
第三章 北ノ内遺跡の調査

第1節 調査区の概要 (第7～9図)

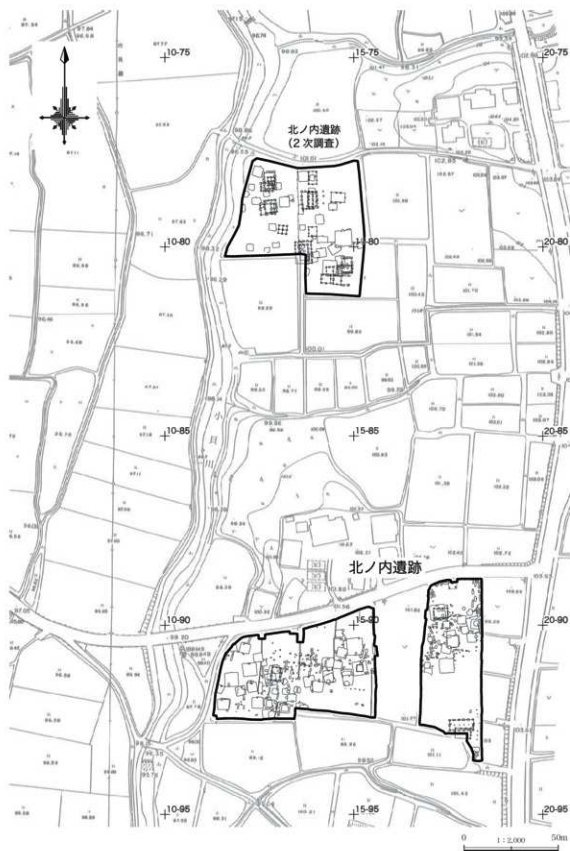
北ノ内遺跡は、小貝川左岸の八満山地から緩やかに続く丘陵端に位置する。調査区から西へ約50mで小貝川の流路に達し、調査区西側は比高差約2mの段丘丘土となっている。調査区北側約100mと調査区南側には小貝川と直行する方向に小枝谷が入り込んでおり、約150×150mの舌状に張り出した部分が安定的に土地利用できる部分であり、遺跡はこの範囲に広がっていると考えられる。また、遺構検出面では調査区内の西部および南部で谷を埋めた黒色土上で遺構が検出されており、浸食と堆積が繰り返された上に遺跡が立地していることがわかる。調査前の状況は水田であり、田面の標高は約100～103mで、小貝川に向かって傾斜している。付近の小貝川河床の標高は約96.3mである。調査区は近接して東西に分かれ、調査面積は合計6,100㎡である。

遺構検出面の標高は約99.3～102.5mである。田面からの深さは丘陵よりの高いところで浅く約0.2～0.3m、小貝川側ではやや深く約0.3～0.8mである。谷埋土の黒色土上では検出が難しく、検出面が下がる傾向にある。また基本層序にみる通り一帯には整地土層がみられ、標高の高い部分は遺構が削平されている可能性がある。調査区内の基本層序は、①褐色土(耕土・床土)20～40cm、②黄褐色土(整地土)16～19cm、③暗灰褐色～黒褐色土15～25cm、④暗褐色～黒褐色土(谷埋土)34～45cm、⑤ロームとなる。調査区北よりでは④層がなく⑤層上面が遺構検出面となり、調査区西部及び南部では④層上面が遺構検出面となる。古代の遺構は④層又は⑤層を切り込んでおり、③層は古代以降の堆積層とできる。④層谷埋土は堅く締まっている。また⑤層上面には部分的に七本椀軽石層・今市軽石層が確認され、谷の内部はほぼ厚く堆積している傾向がある。なお、ローム層以下の層序は、Iローム(ソフト)、IIローム(ハード)、III暗黄色ローム(黒色帯)、IVローム(ハード)、V茶褐色ローム(ハード)鹿沼軽石・今市軽石層が確認され、谷の内部はほぼ厚く堆積している傾向がある。なお、ローム層以下の層序は、Iローム(ソフト)、IIローム(ハード)、III暗黄色ローム(黒色帯)、IVローム(ハード)、Vローム(ハード・茶褐色)、VI鹿沼軽石、VII黄白色粘質土、VIII黒茶褐色土、IX黄褐色粘質土となる。VIII層上面で湧水がみられた。

調査の結果、掘立柱建物跡4棟、竪穴建物跡69軒、井戸1基、土坑361基が確認された。出土遺物は、縄文式土器、土師器、須恵器、灰軸陶器、鉄製品、石製品である。



第7図 北ノ内遺跡の基本層序模式図

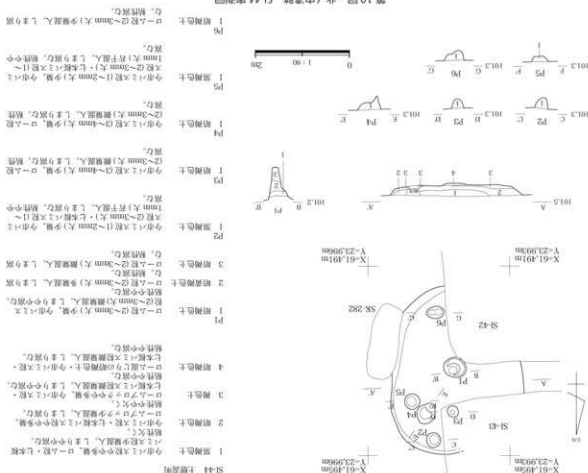


第8図 北ノ内遺跡 調査区位置図 (S = 1/2,000)



第9図 北/内遺跡 全体図 (S = 1/500)

第10図 北/内道路 SI-44実測図



れる。他の5本については規模が小さく補助的な柱穴として機能したものが不明である。床面状から6本の柱穴が確認されたが、P1はほぼ中央に位置し径44cm、深さ76cmを測り主柱穴とみられる。

特に西壁は大きく外傾する。床面は概ね平坦であるが中央のP1周辺ではやや窪んでいることが断面から見て、10cm、中央付近では11～12cmである。覆土は黒褐色～褐色を呈しシラカブの堆積を呈す。壁は外傾し、

建物跡は、横口～隅丸長方形で、長軸3.57m、短軸2.64m、主軸は西へ4°傾く。確認面からの深さは8

物跡と重複し、南西および北西部分を破壊されている。

とみられ、遺存状態はよくない。周囲には奈良・平安時代の竪穴建物跡が多数存在し、本建物跡は2軒の建

本建物跡は、西側調査区の東寄り、1490㎡内に位置する。付近は耕作によって剛平を受けている

SI-44 (第10～12図、第2表、図版2)

第1項 竪穴建物跡と出土遺物

上から土器が採取されており、谷の埋設過程で土器が混入している。跡はよく残った。土坑はすべて焚土坑で、遺存状態のよい土器が出土している。また調査区南部の埋

縄文時代の遺構は竪穴建物跡1軒、土坑11基である。建物跡は中間に属する1軒のみが検出され、遺存状

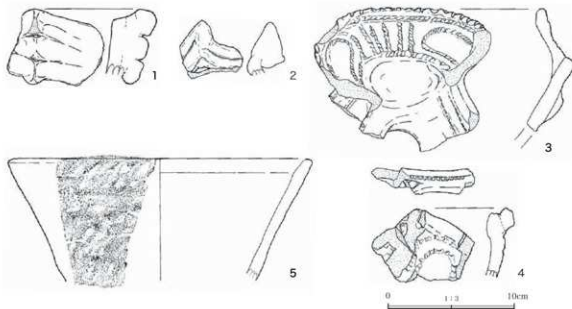
第2項 縄文時代の遺構と遺物

が跡は不明である。2軒の竪穴建物跡によって破壊されたことも考えられるが、検出された範囲では焼土等のが跡の痕跡は確認されていない。

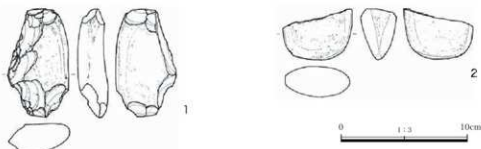
出土遺物は僅かである。1～5は深鉢型土器の口縁部片である。1・2は隆線を3段に重ねて貼り付けて小さな把手を形成する。3は波頂部に取り付けられた扇状把手で、押し引きによる有節線文を施す。4は山形把手片で、押し引きによる有節線文と端部には刺突によるキザミ目を有する。5は無文の口縁部片。いずれも胎土に小礫と金雲母を多く含む。扇状把手等の特徴から阿玉台式1b式と判断できる。

石器は2点出土している。1は磨製石斧である。欠損する刃部および周縁部に再加工を施す。器体表面の研磨は極めて丁寧かつ緻密で光沢を伴う。2は磨製石斧である。器体の下半部を残す。刃部先端には欠損に伴う再研磨がみられる。器体表面の研磨は非常に丁寧である。

本建物跡の所属時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第11図 北ノ内遺跡 SI-44出土土器



第12図 北ノ内遺跡 SI-44出土石器

第2表 北ノ内遺跡 SI-44出土石器観察表

寸法：cm、重量：g

No.	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	特徴
1	磨製石斧	8.60	3.10	4.80	2.20	蛇紋岩	欠損する刃部及び周縁部には再加工を施す。器体表面の研磨は極めて丁寧かつ緻密で、光沢を伴う。
2	磨製石斧	4.10	5.50	2.90	63.93	砂岩	器体の下半部を残す。刃部先端には欠損に伴う再研磨あり。器体表面の研磨は非常に丁寧。

第2項 土坑と出土遺物

縄文時代に属する土坑は11基が確認されている。SK-275は部分的に壁がオーバーハングする方形の土坑で、それ以外の10基がいわゆる袋状土坑・フラスコ状土坑である。これらの土坑はグリッド17-89付近に集中している。

SK-195 (第13図、図版二)

調査区西寄りの12-91グリッドに位置する。周囲に同時期の遺構はなく、45m北東に竪穴建物跡SI-44が位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-25と重複し、上部を破壊されている。平面形は円形を呈し、直径は1.55m、僅かに壁がオーバーハングする。床面はやや凹凸があり、最も深い部分で0.57mを測る。

SK-275 (第13図、図版二)

調査区中央の14-91グリッドに位置する。北15mに竪穴建物跡SI-44が位置する。平面形は長方形を呈し、長軸1.14m、短軸0.76mで、西壁がオーバーハングし天井部を有する。床面は平坦で深さ0.71mを測る。

SK-340 (第13・15・16図、第3表、図版二)

調査区北東部の18-89グリッドに位置する。付近には同様の土坑が集中する。中近世の土坑SK-341と重複し上部を破壊されている。残存する入口部は直径1.04mの平面円形で、検出面からの深さは0.78mを測る。床は平坦で、壁に向かって深く掘り広げ、長径2.31m、短径2.20mの平面円形を呈す。掘り広げた空間部分の高さは0.16～0.28mである。

土器は、4点が出土している。1は浅鉢形土器の口縁部で、波状突起の一部と考えられる。突起左右の弧の違いから、2つで一つの波状突起を形成するものと考えられる。胎土は微細な礫と雲母を多く含むが比較的精良である。外面はナデのみで、ナデた際のおそらく指の跡が僅かに盛り上がり確認できる。口縁端部と内面はミガキに近い丁寧な調整が施され、また明瞭な段を有する。2は深鉢形土器の口縁部でやはり波状突起である。胎土は微細な礫と雲母を多く含むが比較的精良である。調整は1同様に外面ナデのみ、内面ミガキだが、内面のミガキは1ほど丁寧ではない。口縁端部と内面の段差は1よりも丸みを帯びる。3は深鉢形土器の胴部で、縦位に平行する沈線がみられる。胎土は小礫と金雲母を含む。4は深鉢形土器の底部で、胎土は小礫と金雲母を含む。これらの土器は阿玉台式土器Ⅱ～Ⅳ式、中期中葉の範疇に入るのであろうか。

石器は1点出土し、器体の約1/2を欠損する。残存部の側面の一部と欠損面を敲石として、また表面の一部を磨石として使用する。

SK-358 (第13・17図、図版二)

調査区北東部の18-88グリッドに位置する。付近には同様の土坑が集中する。中近世の土坑SK-552と重複し上部を破壊されている。残存する入口部は直径0.5mの平面円形を呈し、検出面からの深さは0.78mを測る。床は平坦で、壁に向かって深く掘り広げ、長径2.20m、短径2.17mの平面円形を呈す。掘り広げた空間部分の高さは0.2mである。

遺物は7点を図示した。1は深鉢形土器の口縁部で、山形把手外面に隆線による三角区画文を構成する。区画内部は二重の竹管による有節線文を施す。2は深鉢形土器の口縁部で、全面に縄文を施し口縁部文様帯の区画文を隆線ではなく沈線と交互刺突文によって行う。区画内は沈線文が施される。3は深鉢形土器の口縁部で縄文が施される。4は深鉢形土器の口縁部で、内面に明瞭な段を有し外面はナデのみの調整を行う。5は深鉢形土器の胴部である。隆線とそれに伴う二列の押引文がみられる。6は深鉢形土器の胴部である。縄

文を施し横位に平行沈線を施す。7は深鉢形土器の胴部で、横位に平行する3本の沈線で山形文を施す。いずれも胎土に微細な礫と雲母を含み褐色～暗褐色を呈す。阿玉台式土器Ⅲ式～Ⅳ式、中期中葉である。

SK-362 (第13・18・19図、第4表、図版二)

調査区北東部の17-88グリッドに位置する。付近には同様の土坑が集中する。中近世の土坑SK-360・361と重複し上部を破壊されている。検出面からの深さは0.35mを測る。床は中央がやや高く、壁は斜めにオーバーハンクしている。床面は長径1.66m、短径1.39mの範囲が残存し平面形は円形を呈すものと推定される。土層断面3層は土坑廃棄後間もない時期の自然堆積とみることができるが、1・2層は人為堆積であろうか。

土器はいずれも深鉢形土器の9点を図示した。1は山形突起を有する口縁部で、縄文と隆線による区画文を有する。区画内は二重の沈線が巡り、隆線の一部が区画内に突出する。頸部は無文である。2は口縁部で縄文を施し、隆線と二重の有節線文によって区画文を形成する。3は口縁部で太く厚い隆線によって区画文を形成し、押し文を施す。4は口縁部で広めの隆線の下に2個で一つの角押し文と、工具の違う別の角押し文、さらに沈線を施す。5は浅鉢形土器の口縁部で、くの字に屈曲する口縁下に隆線と押し文を施す。6は口縁部把手である。7・8は口縁部文様帯の隆線と二重の押し文である。9は頸部無文帯と下部に隆線による区画文を形成する。これらの土器はいずれも微細な礫と雲母を含み、橙褐色～暗褐色を呈す。阿玉台式土器Ⅲ～Ⅳ式、中期中葉である。

石器は2点出土している。1は刃部の一部を欠損する打製石斧で、小型の撻形を呈す。裏面に主要割離面があるため、剥片石器と思われる。2は石皿で、やや厚みのある石皿の側縁の一部である。縁はなく、皿面は平坦である。

SK-366 (第14・20図、図版三・二一)

調査区北東部の17-89グリッドに位置する。付近には同様の土坑が集中する。残存する上面は1.20×1.30mの平面円形を呈し、検出面からの深さは0.70mを測る。床は平坦で、壁に向かって掘り広げ、壁の上部は斜めにオーバーハンクするが、土層断面4層に褐色土がみられ、壁は崩落しているものと考えられる。床面は直径1.84mの平面円形を呈す。

遺物は6点を図示した。1は深鉢形土器の口縁部で、端部は刻み目によって波状をなす。内面には有節線文を施す。2は深鉢形土器の口縁部でやはり刻み目を有し、竹管による押し文を施す。3は深鉢形土器の胴部で、隆線と幅広の押し文、波状の沈線を有す。4は浅鉢形土器の底部である。5は深鉢形土器の胴部～底部で縦位に隆線を貼り付け、二重の押し文を施す。6は山形把手を有する深鉢形土器である。隆線は太く厚く、刻みが加えられ、口縁部文様帯には爪形文に近い幅広の押し文、胴部には二重の有節沈線文、部分的に爪形文が施される。胴部には縦長の楕円区画文が形成されている。胎土はいずれも小礫と雲母を含み、橙褐色～暗褐色を呈す。阿玉台式土器Ⅲ～Ⅳ式、中期中葉である。

SK-367 (第14・21図)

調査区北東部の17-89グリッドに位置する。付近には同様の土坑が集中する。入口部は径0.56×0.50mの平面円形を呈し、検出面からの深さは0.44mを測る。床は平坦で、壁に向かって深く掘り広げ、長径2.20m、短径1.74mの楕円形を呈す。掘り広げた空間部分の高さは0.12～0.26mである。

遺物は9点を図示した。1は深鉢形土器の口縁部山形把手である。波頂部から隆線が垂下し有節線文を施す。2は深鉢形土器の口縁部で、押し文で形成された区画文内に、さらに押し文を山形に施す。3は深鉢形土器の口縁部で隆線下に三重の有節線文を施す。地文として縄文が施文される。4は浅鉢形土器の口縁部で隆線

により楕円区画文が形成される。5は深鉢形土器の胴部で降線と二重の有節線文により菱形の区画文が形成される。6は幅広の降線と二重の有節線文で区画文が形成される。7は幅広の降線によって形成された区画文に押し文と沈線を施す。8は深鉢形土器の胴部で、降線により区画内に幅広の爪形文が施される。また縦位の降線には刻み目がみられる。9は深鉢形土器の胴部で、降線を大きな波状に貼り付け、角押し文を二重に施す。一部に幅広の爪形文が施される。胎土はいずれも微細な礫と雲母を含み橙色～暗褐色を呈す。阿玉台式土器I b～II式、中期中葉である。

SK-392 (第14・22・23図、第5表、図版三)

調査区北東部の17-89グリッドに位置する。付近には同様の土坑が集中する。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-52と重複し上部を破壊されている。残存する上面は直径0.92mの平面円形を呈し、検出面からの深さは0.45mを測る。床は平坦で、直径1.48mの平面円形を呈す。

土器は8点を図示した。1は浅鉢形土器の口縁部で、降線により楕円区画文を形成し、上部には押し文を施す。また口縁端部には刻み目を有する。2は深鉢もしくは浅鉢形土器の口縁部で、外面を横方向にケズリ無文である。3は深鉢形土器の口縁部で、区画内に節線文を施す。4はキザミ等を有さない把手である。5は深鉢形土器の胴部で、降線と二重の有節線文によって三角形もしくは菱形に区画された内部に、波状の沈線を施す。6は降線と二重の押し文を有する。7は縦位に三列の押し文、横位の沈線によって区画し、内部に縄文がみられる。8は結節回転文のみられる縄文が施文される。1～7はいずれも胎土に微細な礫と雲母を含み、橙色～暗褐色を呈す。阿玉台式土器I b～II式、中期中葉か。

石器は2点出土した。1は削器か。扁平な石材の下端に鋭利な刃部を作出する。この刃部は加工によるものか、欠損により生じたものか不明である。2は表面全体を磨石として、側面全体を敲石として使用する。右側敲打面には、連続する線状痕がみられる。

SK-410 (第14・24・25図、第6表、図版三)

調査区北東部の17-90グリッドに位置する。付近には同様の土坑が集中する。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-50と重複し上部を破壊されている。残存する入口部は直径1.04mの平面円形を呈し、検出面からの深さは0.70mを測る。床は平坦で、壁に向かって深く掘り広げ、長径2.13m、短径1.95mの平面円形を呈す。土層断面9層に褐色土がみられ、その下面から土器・礫が出土しており、9層は崩落した天井部と考えられる。

土器は5点を図示した。1は鉢形土器の口縁部で外面は粗くナデる。2は鉢形土器の口縁部で縄文を施文する。3は深鉢形土器の胴部で降線と角押し文が縦位に施文される。4は深鉢形土器の底部で、胴部下半に張りがみられる。5は深鉢形土器の底部である。3～5は阿玉台式土器I a～I b式か、中期中葉。

石器は2点出土している。1は表裏面中央部を凹石として使用後、磨石として使用する。また、ほぼ全側縁を敲石に用い、特に上下両端には大きな剝離が残る。下端敲打部には揉み錐による穴が伴う。2は表裏面中央部を磨石として使用する。研磨痕は極めて僅かであり、他面と比較して色調が異なる。

SK-513 (第14・26・27図、第7表、図版三)

調査区北東部の17-89グリッドに位置する。付近には同様の土坑が集中する。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-49および掘立柱建物跡SB-70P12と重複し上部を破壊されている。残存する上面は径1.88×1.78mの平面円形を呈し、検出面からの深さは0.53mを測る。床は凹凸があり、壁および天井部は崩落しているとみられる。床面は直径2.27mの円形を呈す。

土器は16点を図示した。1は深鉢形土器の口縁部把手部分である。口縁部文様帯は降線と押し文によって

楕円区画を形成する。2は深鉢形土器の山形把手である。3は深鉢形土器の口縁部である。隆線と押し文で区画を形成している。4は深鉢形土器の口縁部である。幅広い隆線下に角押し文と沈線を施す。5は深鉢形土器の口縁部で幅広い隆線に二列の押し文が伴う。6～8は無文の鉢形土器口縁部である。9・10は深鉢形土器の口縁部で、湯樋に沈線による方形の区画を形成する。10はさらに縦位の沈線を加える。11は深鉢形土器の胴部で隆線と二重の沈線がみられる。12は鉢形土器の胴部で、幅広い爪形文が施される。13～15は縄文に隆線と押し文を施す。16は深鉢形土器の底部で、外面に網代圧痕がみられる。胎土はいずれも微細な礫と雲母を含み、橙色～暗褐色を呈す。阿玉台式土器Ⅱ式～Ⅳ式、中期中葉か。

石器は2点出土している。1は磨石である。球状に近い石材の全面を磨石として使用する。器面には風化によると思われる剥落が著しい。2は磨石であるが表裏面の中央部に凹がみられる。凹石として使用後、磨石に転用されたものであろう。

SK-514 (第14・28・29図、第8表、図版三)

調査区北東部の17-89グリッドに位置する。付近には同様の土坑が集中する。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-49と重複し上部を破壊されている。残存する上面は径1.38×1.24mの円形を呈し、検出面からの深さは0.36mを測る。床は平坦で、長径1.79m、短径1.63mの円形を呈す。土層断面6層に暗黄褐色土がみられ天井部が崩落したものと考えられる。

土器は11点を図示した。1は深鉢形土器の口縁部で、やや太目の隆線と二列の押し文で区画を形成する。2は深鉢形土器の口縁部でキザミ目をもつ小さな把手がつく。キザミをもつ隆線と二列の押し文で区画を形成する。3・4は深鉢形土器の口縁部で隆線と押し文で区画を形成する。5は深鉢形土器の口縁部で幅広い隆線と押し文を施す。6は深鉢形土器の山形把手先端である。二列の押し文を施す。7は無文の鉢形土器口縁部。8は深鉢形土器の胴部で粘土紐輪積痕と鬘状の指頭圧痕がみられる。9・10は深鉢形土器の胴部で隆線にキザミを有する。11は横位に沈線を施す。

石器は2点出土している。1は扁平な石材の表裏全体を磨石として使用する。また、右側縁の一部を敲石として使用する。2は大型な石皿の一部である。縁は僅かに盛り上がり、皿面は緩い弧状を呈する。器面の状況から中心付近の使用頻度が高いことがうかがえる。

第3項 その他の出土遺物 (第30～36図、第9表)

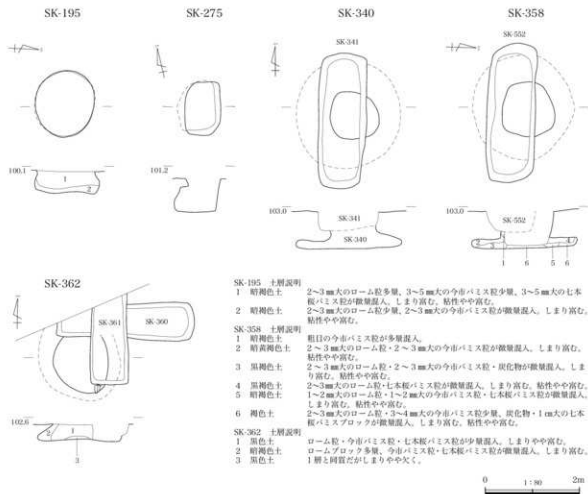
遺構外出土の土器、石器を図示した。土器は、1～78は口縁部破片である。山形把手、肩状把手がみられる。口縁部の区画は、キザミ目を有する隆線で区画するもの、隆線とその内側の有節線文で区画するもの、隆線とその内側の爪形文で区画するものがある。有節線文・爪形文は一重のもの、二重のものがある。

79～165は胴部破片である。胴部破片にみられる文様は、隆線と有節線文で区画するもの、隆線と爪形文で区画するもの、隆線で区画するものがある。有節線文・爪形文は一重のもの、二重のものがある。そのほか胴部にみられる文様は沈線文、交互刺突文、爪形文がみられる。地文は縄文であるが、104・105は沈線による区画の中に刺突文がみられる。

166～178は底部破片である。底部破片は167が浅鉢底部、そのほかは深鉢の底部で、171・178には網代の圧痕がみられる。これらの縄文式土器は遺構出土のものと同様阿玉台式、中期中葉である。

石器は8点を図示した。1は器面全体に丁寧な研磨が施された小型の磨製石斧である。両端が尖るが、下端の刃部はクサビ状を呈する。2は器面全体を丁寧な研磨により扁平な板状にし、先端を蛤刃状に仕上げる。

本来は上部に穿孔して垂飾具として使用したのか、3は泡状の礫面を残す透明度の高い良質な黒曜石剥片で、裏面の打面部周辺と下端部に加工を施す。4は削器で、肥厚で大型な横長の剥片の上・下端に微細な加工を施す。上端には敲打による潰れが確認できる。5は削器で、裏面に節理面から剝離した台形状の分厚い剥片である。鈍角な周縁部に表裏のそれぞれから剝離を施す。6は削器で、形状から分銅形打製石斧の欠損品を再利用したものと考えられる。先端の鋭利な箇所を表裏から微細な加工を施す。7は裏面に研磨痕を残す軽石である。表面には棒状工具による揉み窪みが2カ所みられる。8は棒状の石材の上下両端を敲石として使用する。特に上端の敲打痕が顕著である。



SK-195 土層説明

- 1 暗褐色土 2~3mm大のローム粒多量、3~5mm大の今市バミス粒少量、3~5mm大の七本椏バミス粒が微量混入。しまり富む。粘性やや高む。
- 2 暗褐色土 2~3mm大のローム粒少量、2~3mm大の今市バミス粒が微量混入。しまり富む。粘性やや高む。

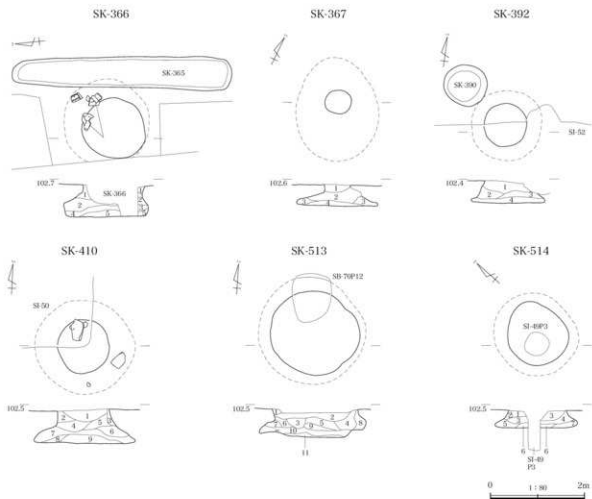
SK-358 土層説明

- 1 暗褐色土 粗目の今市バミス粒が多量混入。
- 2 暗褐色土 2~3mm大のローム粒・2~3mm大の今市バミス粒が微量混入。しまり富む。粘性やや高む。
- 3 黒褐色土 2~3mm大のローム粒・2~3mm大の今市バミス粒・炭化物が微量混入。しまり富む。粘性やや高む。
- 4 黒褐色土 2~3mm大のローム粒・七本椏バミス粒が微量混入。しまり富む。粘性やや高む。
- 5 暗褐色土 1~2mm大のローム粒・1~2mm大の今市バミス粒・七本椏バミス粒が微量混入。しまり富む。粘性やや高む。
- 6 褐色土 2~3mm大のローム粒・3~4mm大の今市バミス粒少量、炭化物・1cm大の七本椏バミスブロックが微量混入。しまり富む。粘性やや高む。

SK-362 土層説明

- 1 黒色土 ローム粒・今市バミス粒・七本椏バミス粒が少量混入。しまりやや高む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多量、今市バミス粒・七本椏バミス粒が微量混入。しまり富む。
- 3 黒色土 1層と同質だがしまりやや欠く。

第13図 北ノ内遺跡 土坑実測図(1)



SK-366 土層説明

- 1 黒色土 ローム殻・今市バミス殻・七本板バミス殻が少量混入。しまりや中富む。
- 2 黒色土 1層と同質だがしまりやややく。
- 3 暗褐色土 ロームブロック多量。今市バミス殻・七本板バミス殻が微量混入。しまり富む。
- 4 褐色土 今市バミス殻・ローム殻・炭化物が少量混入。非常に固い。断面表面付近に大型礫・土器片が混入。
- 5 黒色土 ローム殻・今市バミス殻・七本板バミス殻が少量混入。しまりや中富む。

SK-367 土層説明

- 1 黒色土 ローム殻・今市バミス殻・七本板バミス殻が少量混入。しまりや中富む。
- 2 黒色土 1層と同質だがしまりやややく。
- 3 赤褐色土 今市バミス殻・七本板バミス殻が少量混入。しまり富む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック多量。今市バミス殻・七本板バミス殻が微量混入。しまり富む。

SK-392 土層説明

- 1 黒色土 今市バミス殻・機土殻・炭化物が少量混入。しまり富む。
- 2 黒色土 今市バミス殻・今市バミスブロック多量。七本板バミス殻・ローム殻が少量混入。しまり富む。
- 3 暗褐色土 ローム殻・ロームブロック多量。炭化物が少量混入。しまり富む。
- 4 暗褐色土 ローム殻が多量混入。しまり富む。

SK-410 土層説明

- 1 黒色土 ローム殻・今市バミス殻・七本板バミス殻が少量混入。しまりや中富む。
- 2 暗黄褐色土 黒色土にロームブロック多量。今市バミス殻・七本板バミス殻が少量混入。しまり富む。
- 3 黄褐色土 今市バミス殻・七本板バミス殻が少量混入。しまり富む。
- 4 黒色土 1層と同質だがややくしまりや欠く。
- 5 黒色土 1層と同質だが七本板バミス殻・今市バミス殻が多量混入。非常に固い。
- 6 暗褐色土 今市バミスブロック多量。七本板バミス殻・ローム殻が少量混入。しまり富む。
- 7 暗褐色土 今市バミス殻・七本板バミス殻・炭化物が少量混入。しまり富む。

SK-513 土層説明

- 8 暗褐色土 ロームブロック多量。今市バミス殻・七本板バミス殻が微量混入。しまり富む。
- 9 褐色土 今市バミス殻・ローム殻・炭化物が少量混入。非常に固い。断面内表面付近に大型礫・土器片が混入。

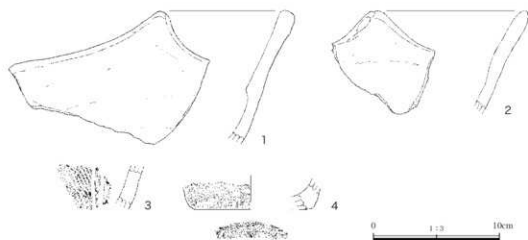
SK-514 土層説明

- 1 褐色土 今市バミス殻が少量混入。しまり富む。非常に固い。
- 2 黒色土 今市バミス殻・七本板バミス殻・ローム殻が少量混入。しまり富む。
- 3 赤褐色土 今市バミス殻多量。七本板バミス殻が少量混入。しまり富む。
- 4 赤褐色土 今市バミスブロック主体。七本板バミス殻が少量混入。しまり富む。非常に固い。
- 5 暗褐色土 今市バミス殻・七本板バミス殻が少量混入。しまり富む。
- 6 褐色土 1層と同質。今市バミス殻が少量混入。しまり富む。
- 7 褐色土 今市バミス殻が少量混入。しまり富む。非常に固い。
- 8 褐色土 5層と同質だが今市バミス殻・炭化物が少量混入。しまり富む。
- 9 暗褐色土 ロームブロック・今市バミス殻・炭化物が少量混入。しまり富む。
- 10 黒色土 ロームブロック・今市バミス殻・炭化物が少量混入。しまり富む。
- 11 黄褐色土 ロームブロック主体。今市バミスブロックが少量混入。しまり富む。

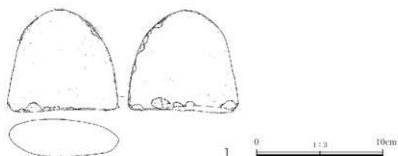
SK-514 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック・ローム殻多量。今市バミス殻が少量混入。しまり富む。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック主体。今市バミス殻が少量混入。しまり富む。
- 3 黒色土 2層と同質。今市バミス殻・ローム殻が少量混入。しまり富む。
- 4 黒色土 2層と同質。ロームブロックが多量混入。しまり富む。
- 5 暗褐色土 ロームブロック多量。今市バミス殻が少量混入。しまり富む。
- 6 暗黄褐色土 ロームブロック主体。しまり富む。
- 7 暗褐色土 6層と同質。しまり富む。

第14図 北ノ内遺跡 土坑実測図(2)



第15図 北ノ内遺跡 SK-340 出土石器

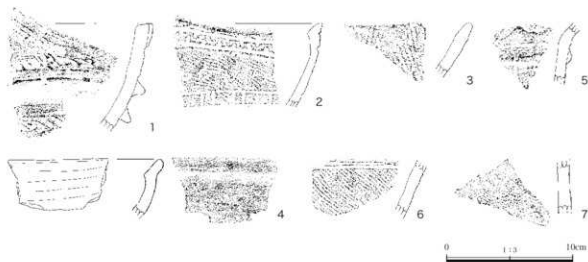


第16図 北ノ内遺跡 SK-340 出土石器

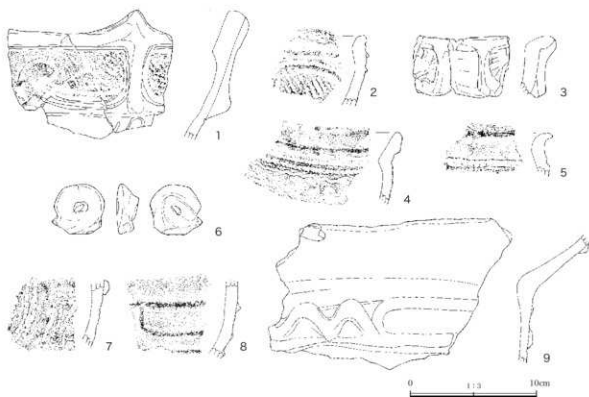
第3表 北ノ内遺跡 SK-340 出土石器観察表

寸法：cm, 重量：g

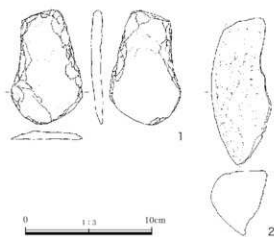
No	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	特徴
1	磨石 敲石	8.00	8.80	3.00	330.87	安山岩	器体の約 1/2 を欠損。残存部の側面の一部と欠損面を敲石として、また表面の一部を磨石として使用する。



第17図 北ノ内遺跡 SK-358 出土石器



第18図 北ノ内遺跡 SK-362出土石器

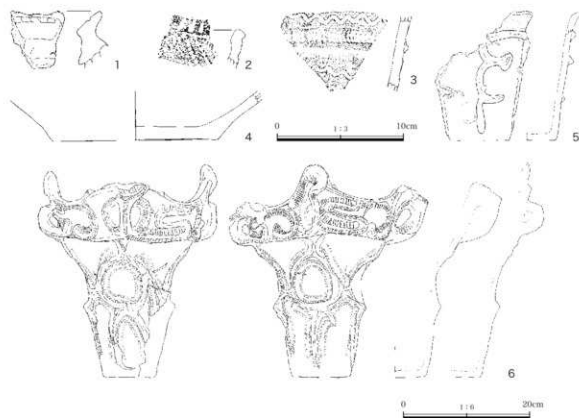


第19図 北ノ内遺跡 SK-362出土石器

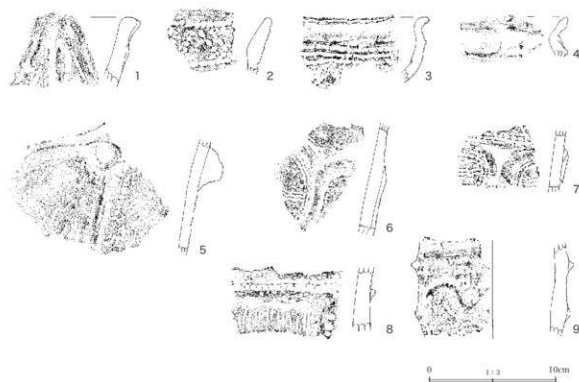
第4表 北ノ内遺跡 SK-362出土石器観察表

寸法：cm、重量：g

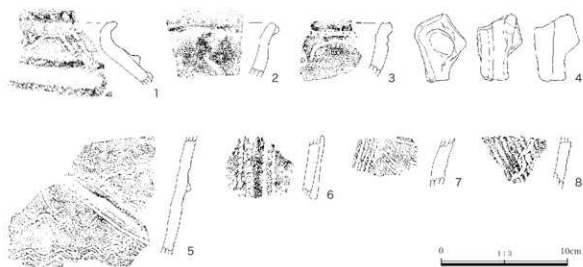
№	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	特徴
1	打製石斧	9.10	5.70	0.85	52.25	黒色片岩	器体が薄く、形状は小型な楕円形を呈す。裏面に主要剥離面がある剥片石器。刃部の一部を欠損する。
2	石皿	11.35	4.65	5.10	245.50	安山岩	やや厚みのある石皿の側縁の一部が残る。縁は無く、皿面は平坦。受熱ありか。



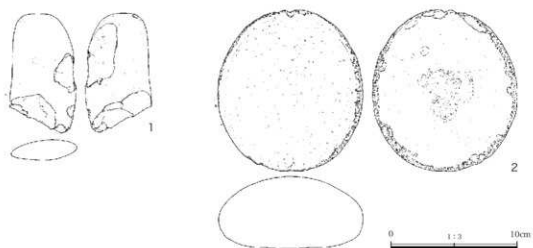
第20図 北ノ内遺跡 SK-366 出土土器



第21図 北ノ内遺跡 SK-367 出土土器



第22図 北ノ内遺跡 SK-392出土石器

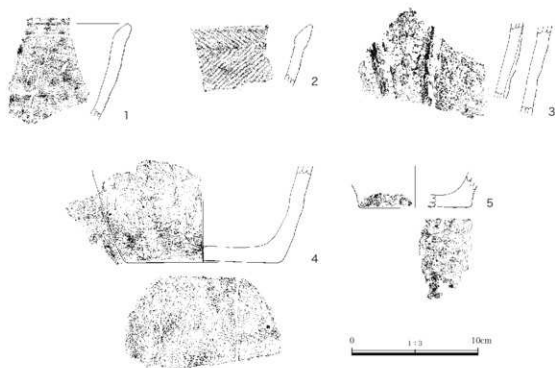


第23図 北ノ内遺跡 SK-392出土石器

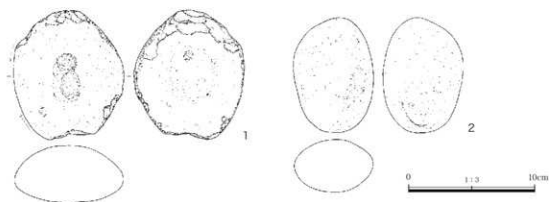
第5表 北ノ内遺跡 SK-392出土石器観察表

寸法：cm、重量：g

No	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	特徴
1	削器か	9.10	5.20	1.60	110.84	ホルンフェルス	扁平な石材を用い、下端に鋭利な刃部を作出する。この刃部は加工によるものか、欠損により生じたものかは不明。
2	磨石 敲石	12.85	11.45	5.75	1155.51	安山岩	表面の全面を磨石として、また、側面全体を敲石として使用する。右側敲打面には、連続する線状痕がみられる。



第24図 北ノ内遺跡 SK-410 出土石器

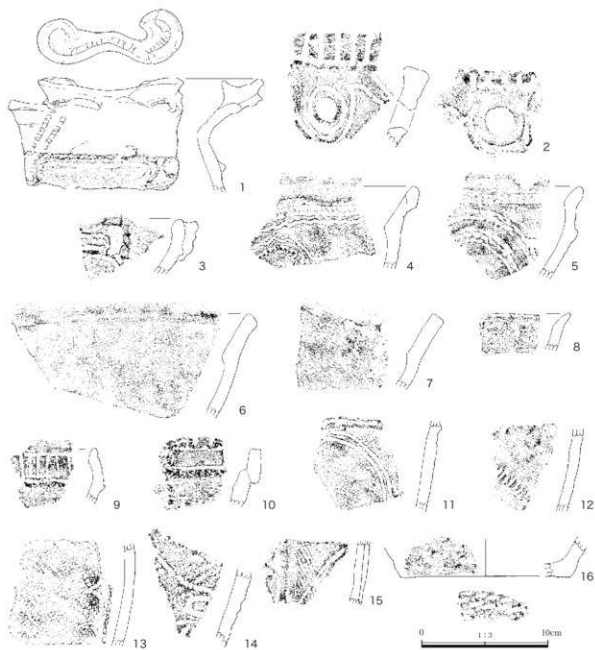


第25図 北ノ内遺跡 SK-410 出土石器

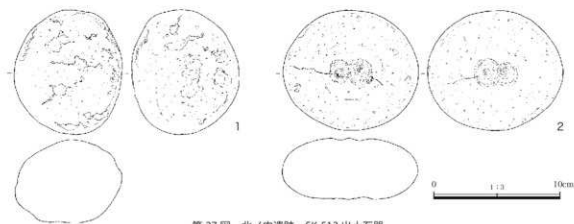
第6表 北ノ内遺跡 SK-410 出土石器観察表

寸法：cm、重量：g

No.	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	特徴
1	磨石 凹石 敲石	10.20	8.75	4.50	555.11	安山岩	表裏面の中央部を凹石として使用後、磨石として使用する。また、ほぼ全周縁を敲石に用い、特に上下両端には大きな割離が残る。下端敲打部には揉み難による穴あり。
2	磨石	9.20	6.30	4.20	315.26	安山岩	表裏面の中央部を磨石として使用する。研磨痕は極めて僅か。研磨面は他面と比較して色調が異なる。



第26図 北ノ内遺跡 SK-513出土土器

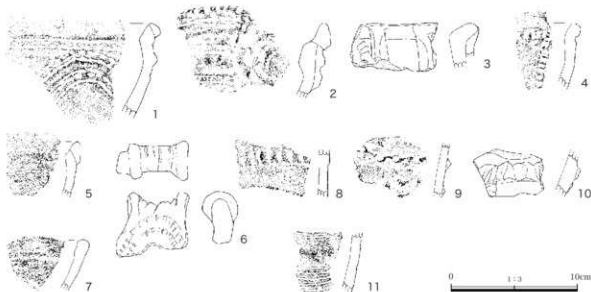


第27図 北ノ内遺跡 SK-513出土石器

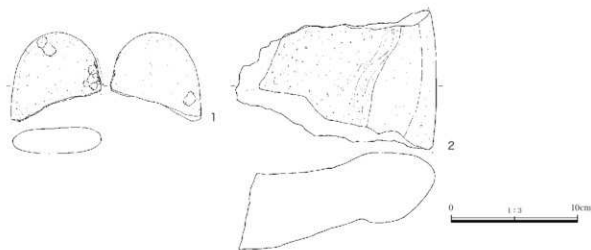
第7表 北ノ内遺跡 SK-513 出土石器観察表

寸法: cm, 重量: g

No	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	特徴
1	磨石	9.95	8.50	6.70	734.22	安山岩	球状に近い石材を用い、全面を磨石として使用する。器面には風化によると思われる剥落が著しい。
2	磨石 凹石	9.55	9.80	5.00	745.74	安山岩	表裏面の中央部に一対の凹あり。凹石として使用後、磨石に転用されるため凹の深さはさほどでもない。



第28図 北ノ内遺跡 SK-514 出土石器

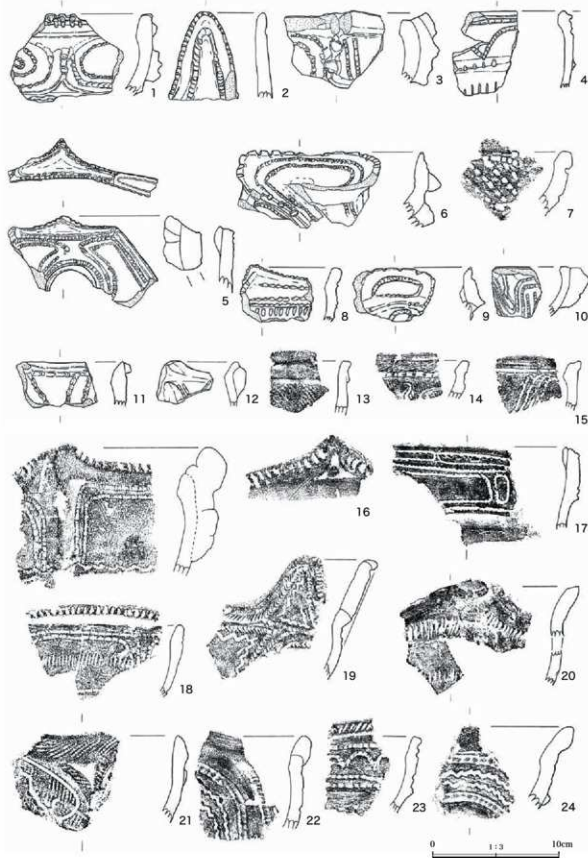


第29図 北ノ内遺跡 SK-514 出土石器

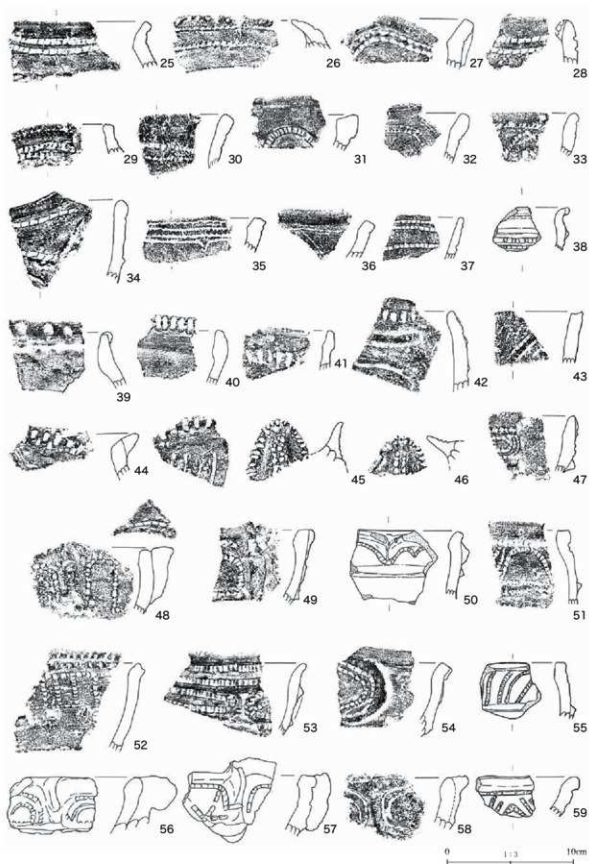
第8表 北ノ内遺跡 SK-514 出土石器観察表

寸法: cm, 重量: g

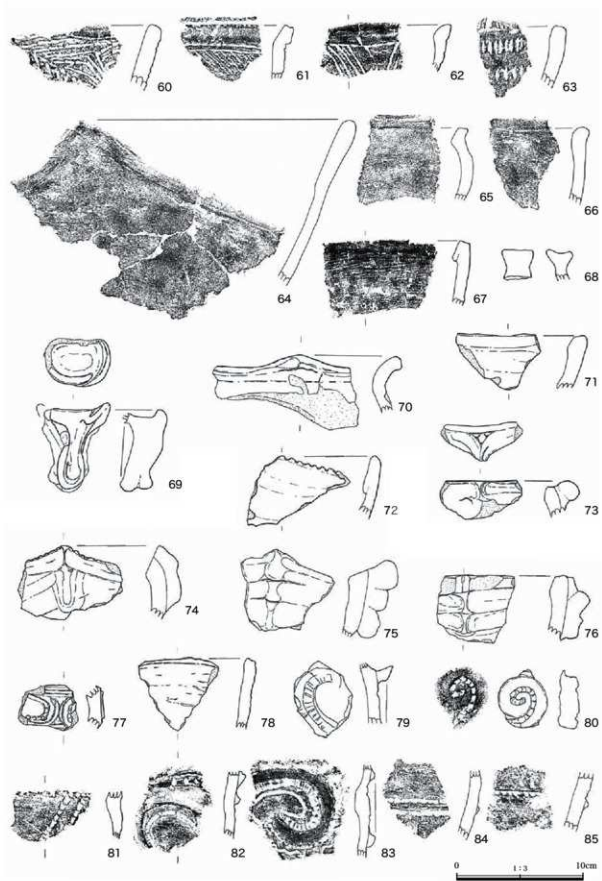
No	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	特徴
1	磨石 敲石	5.60	7.00	2.05	130.71	デイサイト	扁平な石材を用い、下手の約1/2を欠損する。表裏面の全体を磨石に、また右側縁の一部を敲石として使用する。
2	石皿	11.15	15.80	6.10	1275.32	安山岩	大型な石皿の一部。縁は僅かに盛り上がり、皿面はゆるい弧状を呈す。器面の状況から中心付近の使用頻度が高いことがうかがえる。



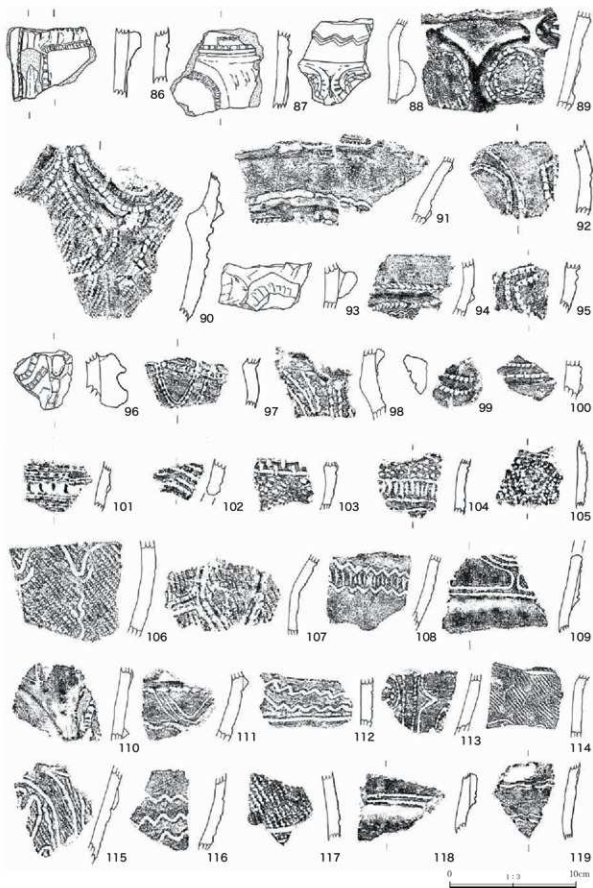
第30図 北ノ内遺跡 遺構外出土器 (1)



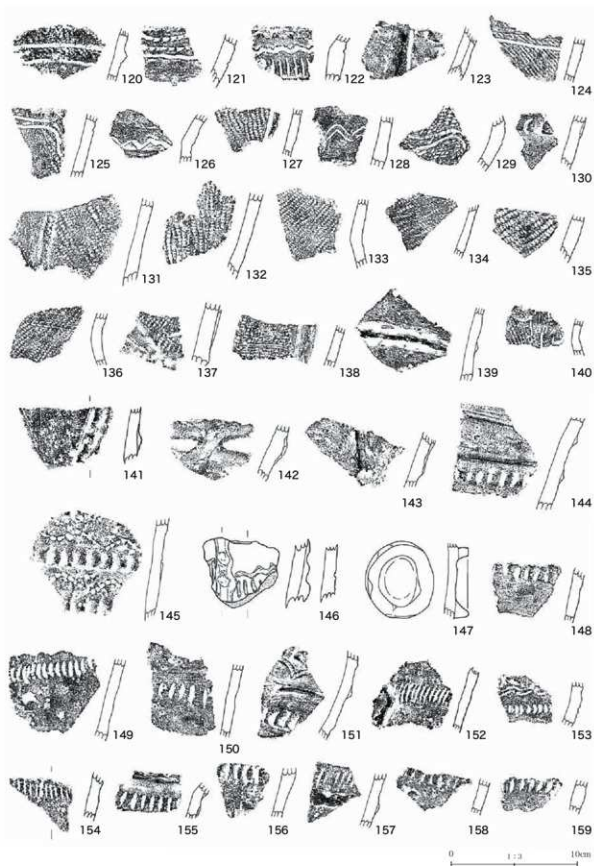
第31図 北ノ内遺跡 遺構外出土土器(2)



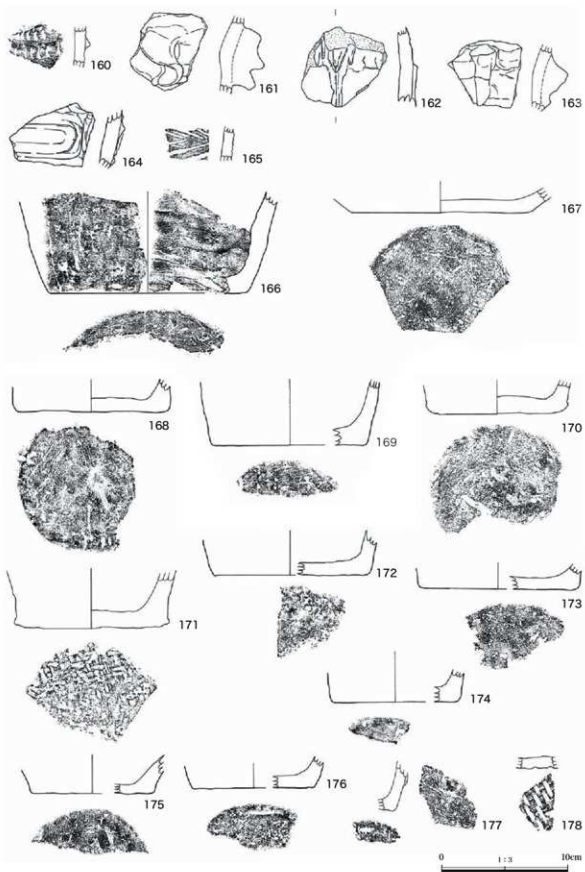
第32図 北ノ内遺跡 遺構外出土器 (3)



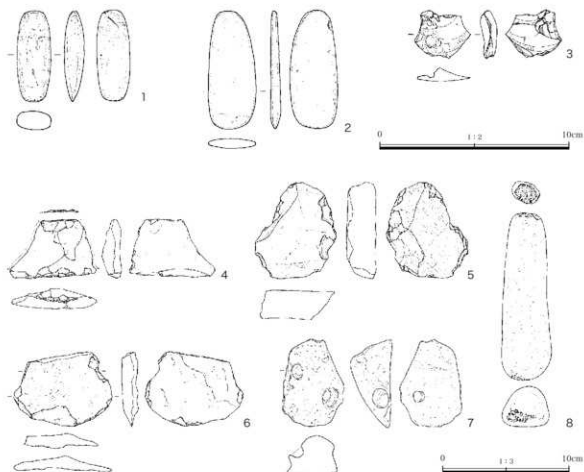
第33図 北ノ内遺跡 遺構外出土土器(4)



第34図 北ノ内遺跡 遺構外出土器 (5)



第35図 北ノ内遺跡 遺構外出土器(6)



第36図 北ノ内遺跡 遺構外出土石器

第9表 北ノ内遺跡 遺構外出土石器観察表

寸法：cm, 重量：g

No	出土位置	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	特徴
1	14-90C 15-90C	磨製石斧	4.85	1.80	1.00	15.16	緑色凝灰岩	両端が尖り、下端の対部はクサビ状を呈す。器面全体に丁寧な研磨が施される。
2	18-90C	不明	6.30	2.55	0.50	14.91	緑色片岩	器面全体を研磨により扁平にし、先端を槍状に仕上げる。本来、上方に穿孔を行い、垂飾として使用するものか。
3	13-91C	剥片	2.60	3.10	0.80	3.47	黒曜石	一部に凸状の稜面を残す透明度の高い良質な黒曜石。裏面の打面部周辺及び下端部に加工を施す。
4	14-91C	削器	4.60	6.90	1.60	40.44	珪質泥岩	肥厚で大型な横長の剥片の先端と下端に微細な加工を施す。上端には敲打による潰れが確認できる。
5	14-91C	削器	7.60	6.70	2.40	139.03	チャート	裏面が磨理面より剥離した台形状の分厚い剥片。鈍角な周縁部に表裏面のそれぞれから剥離を施す。
6	17-18C	削器	5.78	7.80	1.25	51.05	珪質泥岩	形状から分割形打製石斧の欠損品の再利用とも思える。先端の鋭利な箇所を表裏面から微細な加工を施す。
7	13-91C	砥石	7.00	5.00	3.20	40.49	浮岩	裏面に研磨痕を残す軽石。表面には棒状工具による採み難孔が2個存在する。
8	SK-406	敲石	13.30	4.00	3.40	267.00	閃緑岩	棒状の石材の上下両端を敲石として使用する。特に上端の敲打痕が顕著である。

第3節 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構は、竪穴建物跡 29 軒が確認された。古墳時代、奈良・平安時代の建物跡は調査区南側にみられる谷埋土の黒色土上を避けて遷地している。調査区北寄りでは削平を強く受けているとみられ、支柱穴のみ検出された建物跡もある。北壁に近いグリッドで遺構密度が低いのは、削平のため完全に失われた遺構も存在するためと考えられる。古墳時代の竪穴建物跡は特に調査区西側に密に確認されており、立て替えや重複がみられる。

第1項 竪穴建物跡と出土遺物

SI-1 (第37・38図、第10表、図版四・二一)

調査区北西端の 11-90 グリッドに位置する。北西コーナー部は調査区外のため未調査である。東西に奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-2・12 が近接するほか、南西方向には多数竪穴建物跡が存在する。SK-85 が重複し南壁の一部を壊されている。

平面形は、やや東西の長い方形を呈する。規模は南北約 3.30m、東西約 3.54m で、面積は約 11.7 m² である。主軸の振れは N-9° -W である。

埋土は暗褐色～黒褐色を呈する 3 層に別けられ、いずれも自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁 26.8cm、西壁 30.5cm、南壁 29.2cm、北壁 28.9cm で、いずれも外傾気味に立ち上がる。

床は、掘方をローム粒を多量に含む黄褐色土で埋め戻して貼床とし、平滑である。貼床の厚さは約 4.0～6.0cm を測る。柱穴、壁溝、梯子穴等は確認されていない。

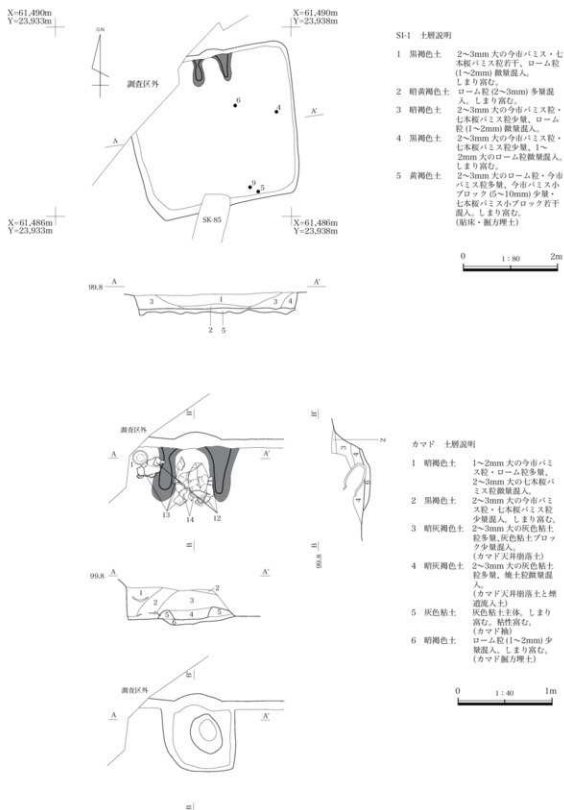
カマドは北壁中央に構築され、灰色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅 25.0～40.0cm、長さ 55.0cm、高さ約 10.0cm で、両袖間の幅は約 60.0cm である。カマド掘方は深さ約 6.0cm と浅く、北壁への突出も約 8.0cm と僅かである。

そのほか周囲に柱穴等は確認されず、上屋構造を検討する材料は確認されていない。

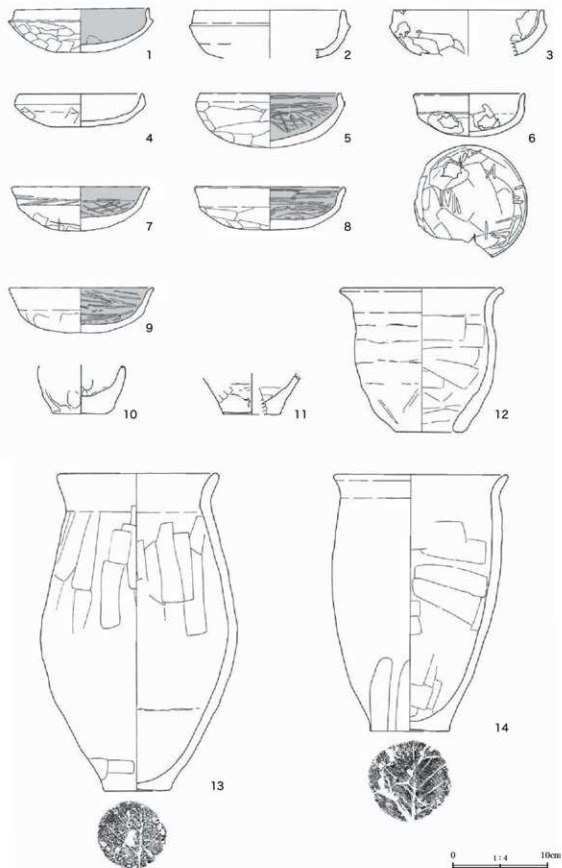
遺物出土状況は、カマド内から原位置に近い出土状況と考えられる土師器甕と甔、カマド左袖付近から土師器環が出土したほか、建物東半で多く出土している。1 の土師器環は断面図 1 層からの出土で、土師器環 4・5・6・9 の方がより床面に近い位置での出土である。

出土遺物は、土師器環 21 点 2.007g、土師器甕 109 点 6.587g、土師器甔 1 点 999g、土師器手捏ね土器 2 点 228g、総量 133 点 9.821g と縄文式土器 1 点 12g が出土し、14 点を図示した。土師器環 1～8 はいずれも体部外面に稜をもち、口縁部は直立するもの、内傾するもの、外傾するものがある。9 は体部外面の稜をほとんどもたず、口縁部は外傾する。これらの土師器環のうち 5 点で内面漆仕上げがみられる。6 は体部に穴が開き、補修のために貼り付けたとみられる粘土が残存していた。土器制作時に開いた穴を粘土を貼って補修したが、焼成時に再び破損してしまったものであろうか。10・11 は指ナデ・指オサエのみで整形された小型の鉢であるが、北ノ内遺跡では同様の制作技法の坏・小型の鉢が複数確認されている。法量は他の土師器環に近く、ミニチュア土器と呼ばれる祭祀用の手捏ね土器とは別物と考えられる。12 は中型の甔で調整にヘラミガキがほとんどみられない。13 の土師器甕は胴部中位に最大径があり、底部をやや突出させる。13・14 の土師器甕は底部外面に木葉痕がみられる。

建物跡の時期は、土師器環の特徴から 6 世紀前葉～中葉である。



第 37 図 北ノ内遺跡 SI-1 実測図



第38図 北ノ内遺跡 SI-1出土遺物

第10表 北ノ内遺跡 SI-1出土土物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 坏	口径: 14.1 底径: 4.5 器高: 4.7 重量: 267.0g	砂粒微量	内: 口縁部ヨコナデ、体 ~底部ナデ後ミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体 ~底部ヘラケズリ	内: 黒褐色 外: 黒褐色 ・良	ほぼ完 形	外面に明瞭な稜をも つ。内面漆仕上げ処理。	内面摩滅
2	土師器 坏	口径: (16.0) 底径: - 器高: (5.0)	黒色・透明 微粒・砂粒 少量	内: 口縁部ヨコナデ、体 ~底部ナデ 外: 口縁部ヨコナデ、体 部。底部ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	1/6	体部外面に積み上げ 殻を残す。	カマド 全体に摩 滅、黒斑
3	土師器 坏	口径: 15.6 底径: (4.8) 器高: -	砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体 ~底部ナデ 外: 口縁部ヨコナデ、体 ~底部ヘラケズリ	内: 灰黄色 外: 灰黄色 ・良	口縁部 1/6	内外面に付着した褐色 ~赤褐色粘土は補修痕 跡か。	カマド
4	土師器 坏	口径: 13.0 底径: - 器高: 3.5 重量: 232.0g	黒色粒・透 明粒・砂粒 少量	内: 口縁部ヨコナデ、体 ~底部ミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、底 部ヘラケズリ後粗い	内: 明黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	完形	体~底部外面に積み上 げ殻を残す。	全体に摩 滅、内外面 黒斑
5	土師器 坏	口径: 14.9 底径: - 器高: 5.8	微砂粒	内: 口縁部~底部ヨコナ デ後ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体 ~底部ヘラケズリ	内: 黒褐色 外: 黒褐色 ・良	7/8	内面漆仕上げ処理。	
6	土師器 坏	口径: 11.6 底径: - 器高: 4.6	透明粒・砂 粒少量	内: 口縁部ヨコナデ、体 ~底部ナデ 外: 口縁部ヨコナデ、体 ~底部ヘラケズリ	内: 浅黄褐色 外: 褐色 ・良	3/4	補修粘土剥落による欠 損。内面に貼り付けた 粘土残存。火弾痕。	外面黒斑
7	土師器 坏	口径: 14.0 底径: - 器高: 4.7	透明粒・砂 粒少量	内: 口縁部ヨコナデ、体 部ヘラミガキ~底部密な 一定方向ヘラミガキ。 外: 口縁部ヨコナデ後ヘ ラミガキ、体~底部ヘラ ケズリ、一部ナデ	内: にぶい褐色 外: にぶい褐色 ・良	口縁部 1/2 体~底 部完存	内面漆仕上げ処理。	覆土
8	土師器 坏	口径: (15.8) 底径: 4.5 器高: 4.6	砂粒少量	内: 口縁部ナデ後ヘラミ ガキ、体部内面横位・底 部一定方向ヘラミガキ。 外: 口縁部ナデ、体~底 部ヘラケズリ	内: 黒褐色 外: 黒褐色 ・良	1/5	内面漆仕上げ処理。	覆土 内面摩滅
9	土師器 坏	口径: 15.2 底径: 4.0 器高: 4.8 重量: 324.0g	黒色粒・透 明粒少量、 砂粒微量	内: 口縁部ヨコナデ後ヘ ラミガキ、体部ヘラミガ キ~底部放射状・上部横 位ヘラミガキ。 外: 口縁部ヨコナデ、体 ~底部ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	完形	内面漆仕上げ処理。	外面やや摩 滅
10	土師器 手柄ね	口径: - 底径: 5.5 器高: (5.1)	砂粒多量、 黒色粒・雲 母少量	内: 底部指頭圧痕・ナデ 外: 体部ナデ、底部指頭 圧痕・ナデ	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	1/3 底部完 存	底部不定方向ナデ。	カマド 指紋多数、 内面黒斑
11	土師器 手柄ね	口径: - 底径: (6.0) 器高: (4.3)	砂粒多量、 黒色粒・透 明粒少量	内: 体部 外: 体部ユビナデ	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	1/5		カマド
12	土師器 瓶	口径: 16.8 底径: 7.5 器高: 15.3	透明粒、砂 粒、小礫	内: 口縁部ヨコナデ、胴 ~底部 外: 口縁部ヨコナデ、胴 ~底部ナデ	内: 褐色 外: 褐色 ・やや不良	4/5	小形で器厚は厚い。胴 部外面積み上げ殻を残 す。	カマド
13	土師器 甕	口径: 16.5 底径: 7.0 器高: 33.7 重量: 2840.0g	砂粒・小礫 多量	内: 口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラケズリ 外: 口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラケズリ	内: にぶい黄色 外: 黒褐色 ・良	完形	胴部内面に積み上げ 殻を残す。底部木葉痕あ り。	内外面摩 滅、外面炭 化物付着
14	土師器 甕	口径: 18.0 底径: 8.2 器高: 27.2	ガラス光沢 黒色粒、微 砂粒、砂粒、 小礫	内: 口縁部ヨコナデ、胴 ~底部 外: 口縁部ヨコナデ、胴 ~底部ヘラケズリ	内: にぶい褐色 外: 黒褐色 ・やや不良	2/3	底部木葉痕あり。	カマド

SI-3 (第39～42図、第11・12表、図版四・二二・三二)

調査区西端の11-91グリッドに位置し、最も西に位置する建物跡である。西壁部分は調査区外のため未調査である。北東に古墳時代の竪穴建物跡SI-4、南東に同じくSI-7・8が近接するほか、東方向には竪穴建物跡が多数存在する。本建物跡は谷埋土の黒色土上に構築されている。

平面形は、南壁辺のややせまい歪んだ方形を呈する。規模は南北約4.25m、東西は確認できた範囲では約3.55mで、面積は約15.1㎡である。主軸の振れはN-23°-Eである。

埋土は黒色～黒褐色を呈する2層に別けられ、いずれも自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁39.8cm、南壁35.8cm、北壁39.6cmで、南壁は外傾し、北壁は僅かに内傾して立ち上がる。

掘方は谷埋土の黒色土を掘り抜きロームに到っている。床は、四隅はローム粒混じりの黒褐色土で埋め戻して貼床とするが、中央部分はローム面を床面とする。貼床部分の厚さは約4.0～6.0cmを測る。南壁東半を除き壁溝が確認された。柱穴、梯子穴等は確認されていない。

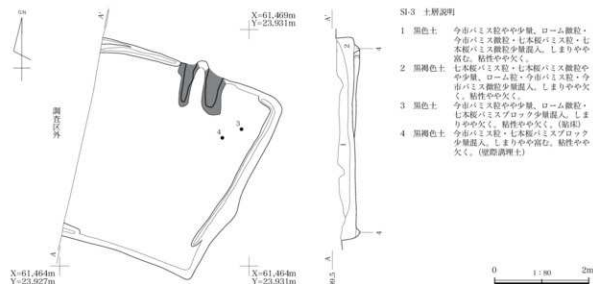
カマドは北壁東寄りに構築され、灰褐色土で構築された両袖が残存していた。主軸よりもやや東に振れて構築されている。袖は幅23.0～45.0cm、長さ75.0～90.0cm、高さ約40.0cmで、両袖間の幅は約60.0cmである。カマド掘方は深さ約28.0cmと深いが、北壁への突出は約18.0cmである。右袖内には芯材として土師器甕の胴部～底部を逆位に埋め込み、左袖内には腰を埋め込んでいる。

そのほか周囲に柱穴等は確認されず、上屋構造を検討する材料は確認されていない。

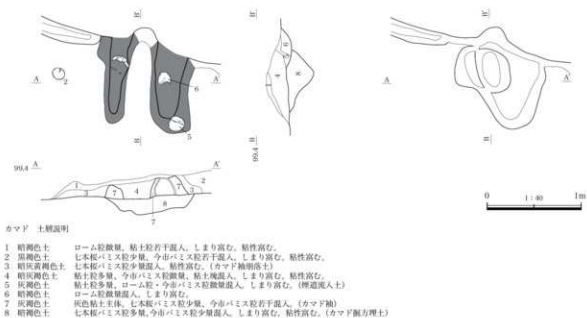
遺物出土状況は、カマド付近から土師器環2点、北東コーナー付近から須恵器壺2点、カマド袖内から土師器甕が出土している。

出土遺物は、土師器環107点180g、土師器甕107点4.721g、土師器鉢1点814g、土師器碗1点29g、須恵器甕1点21g、須恵器壺2点1.132g、須恵器鉢2点143g、鉄製品(鎌)1点57.4g、総量117点7,097gと自然礫91gが出土し、土器6点と鉄製品1点を図示した。1・2の土師器環は体部外面に弱い稜をもち、口縁部は弱く外傾、外反する。鉄製品は鎌で、基部に木質が残存している。

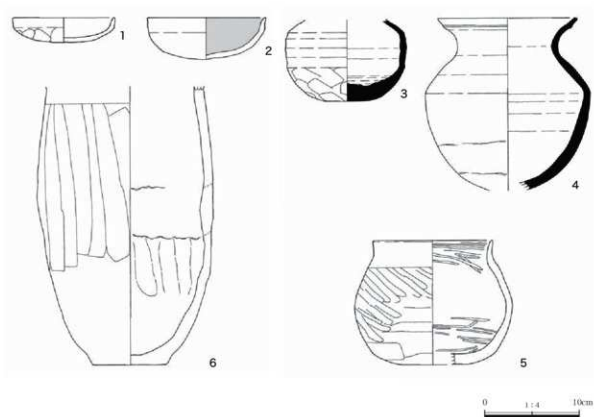
建物跡の時期は、出土遺物が少なく判断が難しいが、7世紀中葉としておく。



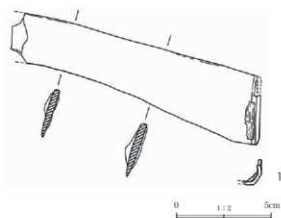
第39図 北ノ内遺跡 SI-3実測図



第40図 北ノ内遺跡 SI-3 カマド実測図



第41図 北ノ内遺跡 SI-3 出土遺物



第42図 北ノ内遺跡 SI-3 出土鉄製品

第11表 北ノ内遺跡 SI-3 出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 環	口径: 10.6 底径: 2.4 器高: 2.6	微砂粒・砂 粒少量	内: 口縁部ヨコナデ、体 ～底部ナデ 外: 口縁部ヨコナデ、体 ～底部ヘラケズリ	内: 明褐色 外: 明褐色 ・良	1/4	薄い器厚。	覆土一括 全体に摩 滅、上野田 産か
2	土師器 環	口径: 12.6 底径: - 器高: 4.4 重量: 148.0g	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ、体 ～底部ナデ 外: 口縁部ヨコナデ、体 ～底部ヘラケズリ後ナ デ	内: 黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・やや不良	口縁部 一部欠 損	内面漆仕上げ処理。	外面摩滅
3	須恵器 壺か	口径: - 底径: 4.8 器高: (8.6)	小礫・白色 礫・微砂粒 多量	内: 胴～底部ロクロナデ 外: 胴部上半ロクロナ デ、下半～底部ヘラケ ズリ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	胴部一 部 体～底 部破片		覆土一括
4	須恵器 壺	口径: (14.8) 底径: - 器高: (18.2)	砂粒多量	内: 口縁～胴部ロクロナ デ 外: 口縁～胴部ロクロナ デ	内: オリーブ黒色 外: 灰白色 ・良	3/5	焼成時の歪み、割れ、 織着あり。	
5	土師器 鉢	口径: (12.5) 底径: (6.8) 器高: 13.2	黒色粒、微 砂粒、砂粒	内: 口縁～底部ヨコナデ 後ヘラミガキ、体～底 部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体 ～底部ヘラミガキ・ヘ ラケズリ	内: 黄灰～黒色 外: にぶい褐色 ・良	1/2	外面上半は丁寧に磨 く。	内面摩滅
6	土師器 甕	口径: - 底径: (7.7) 器高: (29.6)	砂粒・小礫 多量	内: 口縁部ヨコナデ、胴 部 外: 口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: 灰黄褐色 ・良	胴部完 存 底部1/2	胴部内面に積み上げ痕 を残す。	内面摩滅顕 著、外面摩 滅

第12表 北ノ内遺跡 SI-3 出土鉄製品観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	鉄製品 鎌	長さ: (13.6) 厚さ: 0.3 重量: 57.49g	先端部を欠く、断面は角棟である。基部は1cm程棟に対してほぼ 直角に折り曲げる。基部に木質が遺存している。	先端部欠損	覆土

SI-4 (第 43～47 図、第 13 表、図版四・五・二二・二三・三一)

調査区西部の 11-91 グリッドに位置する。北東に古墳時代の竪穴建物跡 SI-11、南西に同じく SI-3 が近接するのをはじめ、周囲には同時期の建物跡が密集し、最も遺構密度の高い一帯である。SK-92 と重複し、SK が新しい。本建物跡は谷埋土の黒色土上に構築されている。

平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約 7.30m、東西約 7.22m で、面積は約 52.7 m² である。主軸の振れは N-4° -W である。

埋土は黒色～黒褐色を中心とする 7 層に別けられ、いずれも自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁 69.3cm、西壁 47.3cm、南壁 71.0cm、北壁 67.1cm で、東壁および北壁は垂直に近く立ち上がり、南壁および西壁は外傾して立ち上がる。

床は橙褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約 4.0～24.0cm を測る。掘方の底面は東半ではロームに到っているため、床面も東半でより締まって安定している。西側では掘方底面が黒色土中であり、貼床を厚く施し床面の安定を図っている。北壁を除き壁溝が確認された。

柱穴は、主柱穴 P1～4 と梯子穴 P5 を確認したほか、P6～8 を確認した。主柱穴のうち P1・2・4 は床面からの深さ 85.0～102.0cm で、柱穴上半は掘方を大きく、下半は柱を深く打ち込んだような掘方形状をしている。平面規模は P1：70.0×70.0cm、P2：93.0×83.0cm、P4：57.0×52.0cm である。P3 は 65.0×59.0cm、深さ 85.3cm で柱が深く打ち込まれた痕跡がみられない。梯子穴 P5 は南壁中央の壁に寄った位置で確認された。85.0×59.0cm、深さは 52.0cm で、埋土の状況から柱は抜き取られていると思われる。P6～8 は柱穴として機能したのかどうか不明である。P6：82.0×67.0cm、深さ 75.8cm、P7：48.0×46.0cm、深さ 65.2cm、P8：85.0×70.0cm、深さ 69.6cm。

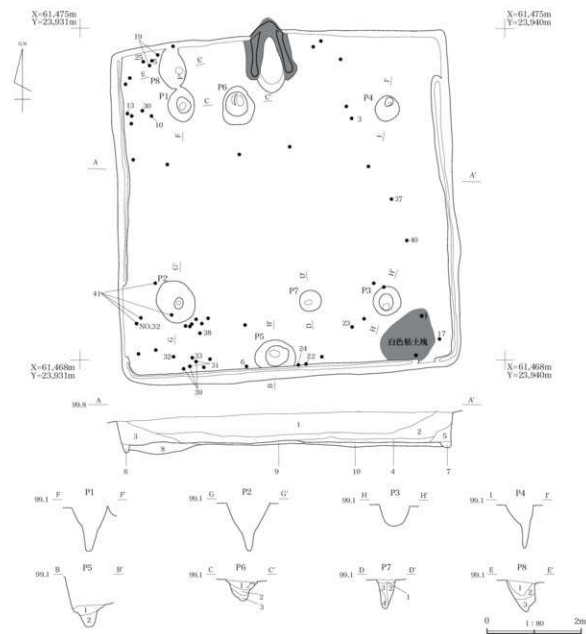
カマドは北壁中央に構築され、灰白色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅 30.0～40.0cm、長さ 80.0cm、高さ約 20.0～30.0cm で、両袖間の幅は約 75.0cm である。カマド掘方は深さ 22.0cm で、粘土ブロックを多量に含む暗褐色土で埋め戻されている。北壁への突出は 35.0cm で奥壁～煙道部にも灰白色粘土を貼り付けている。

遺物出土状況は、南西コーナーおよび北西コーナー付近から多く出土している。環類はカマド周辺から、甕類は南西コーナー付近からの出土傾向にある。カマドの周囲からはカマド構築材と思われる板状の土製品と板状の砂岩が出土している。また南東コーナーに白色粘土塊がみられた。

出土遺物は多く、環類の豊富さとカマド構築材が特徴的である。土師器環 196 点 9,850g、土師器甕 1,530 点 63,129g、土師器壺 1 点 146g、土師器瓶 6 点 2,357g、土師器鉢 6 点 2,444g、土師器碗 94 点 2,780g、土師器手捏ね土器 8 点 403g、須恵器甕 1 点 382g、支脚 1 点 447g、土製紡錘車 1 点 101g、土製有孔土製品 1 点 67g、土製カマド構築材 15 点 7,810g、総量 1,860 点 89,916g と縄文式土器 3 点 49g、自然礫 1,547g が出土した。

土師器環は外面に稜をもち口縁部が内傾するもの、直立するもの、外傾するもの、外反するもの、半球形、内斜口縁のもののほか、手捏ねによる粗製品 23～26 がある。手捏ね土器は鉢 31・32、小型の鉢 37～39 にもみられる。厚い器厚、突出した底部、口縁部はヨコナデして丸く取める。体部外面は粘土接合痕が明瞭に残り、指頭圧痕がみられるといった共通した特徴をもつ。40 は小型の甕で内面に赤色塗料様のものが付着している。赤色顔料容器か。

46～49 はカマド構築材と考えられる板状の土製品である。46・47 は長さは不詳だが、幅 8.9～10.0cm、厚さ 2.7～3.1cm の板状を呈し、指頭圧痕とへら状の工具でナデた痕跡がみられる。片面をより丁



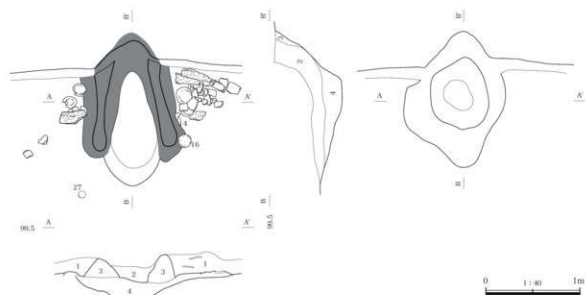
SI-4 土層説明

- | | | | |
|--------|--|--------------|---|
| 1 暗褐色土 | 今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。しまりやや欠く、粘性やや欠く。 | P5
1 黒褐色土 | 今市バミス (2~3mm 大) 多量、七本板バミス粒 (1~2mm 大) 微量混入。しまり富む、シルト質。 |
| 2 黒褐色土 | 今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。しまりやや欠く、粘性やや欠く。 | 2 暗褐色土 | 今市バミス (2~3mm 大)・ローム粒 (1~2mm 大) 微量混入、しまり富む、シルト質。 |
| 3 暗褐色土 | 今市バミスブロック・七本板バミスブロック・今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。しまりやや欠く、粘性やや欠く。 | P6
1 暗褐色土 | 粘土粒多量。今市バミス粒 (2~3mm 大) 少量混入。しまり富む、粘性高む。 |
| 4 黒褐色土 | 今市バミス粒・今市バミス粒少量混入。七本板バミス粒、七本板バミス粒少量混入。しまり欠く、粘性やや欠く。 | 2 褐色土 | 今市バミス粒 (3~5mm 大) 多量混入。しまり富む、粘性高む、ローム粒多量。今市バミス粒若干混入。しまり富む、粘性高む。 |
| 5 黒色土 | 今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。しまり欠く、粘性やや欠く。 | 3 暗黄褐色土 | ローム粒・今市バミス粒少量混入。しまり富む、シルト質。 |
| 6 褐色土 | 今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。しまり欠く、粘性やや富む。(隙隙埋理土) | P7
1 暗褐色土 | ローム粒多量。今市バミス粒微量混入。しまり富む。 |
| 7 暗褐色土 | 今市バミスブロック・七本板バミスブロック・今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。しまりやや欠く、粘性やや欠く。(隙隙埋理土) | 2 褐色土 | ローム粒多量。今市バミス粒若干混入。しまり富む、シルト質。2~3mm 大のローム粒多量。5mm 大のローム粒若干混入。 |
| 8 黒褐色土 | 今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。しまりやや欠く、粘性やや欠く。(隙床・版方埋土) | P8
1 黒色土 | 今市バミスブロック・七本板バミスブロック・今市バミス粒・七本板バミス粒少量、白色粘土ブロック微量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。 |
| 9 暗褐色土 | 今市バミスブロック・今市バミス粒やや少量、七本板バミス粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。(隙床) | 2 暗褐色土 | 今市バミスブロック・七本板バミスブロック・今市バミス粒・七本板バミス粒やや少量、ロームブロック微量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。 |
| 10 褐色土 | 今市バミスブロック主体。七本板バミスブロック・黒色土少量混入。しまり富む、粘性やや欠く。(隙床) | 3 暗黄褐色土 | 今市バミスブロック・七本板バミス・今市バミスブロックやや多量混入。しまり欠く、粘性やや富む。 |

第43図 北ノ内通跡 SI-4出土遺物

寧に仕上げられており表裏の意識があるように見える。一部に被熱による黒斑がみられる。48・49は板状の砂岩とともにカマド右脇から出土した。端部に厚みがあり若干湾曲している。内外面にカマド構築材と同様の灰白色粘土が付着しており、構築材として袖内部に埋め込まれたものか。本遺跡 SI-11・18、北ノ内遺跡 2次調査の SI-39・42 では円筒形土製品がカマド構築材として天井部先端に埋め込まれたことが想定され、北ノ内遺跡におけるカマド構築材の特徴といえる。このことから 46～49の板状土製品もカマド構築材の可能性が高いといえる。また、同様の円筒形土製品は市貝町仁王地遺跡の E4・5号住居、G18・4号住居でもカマド内から出土している。

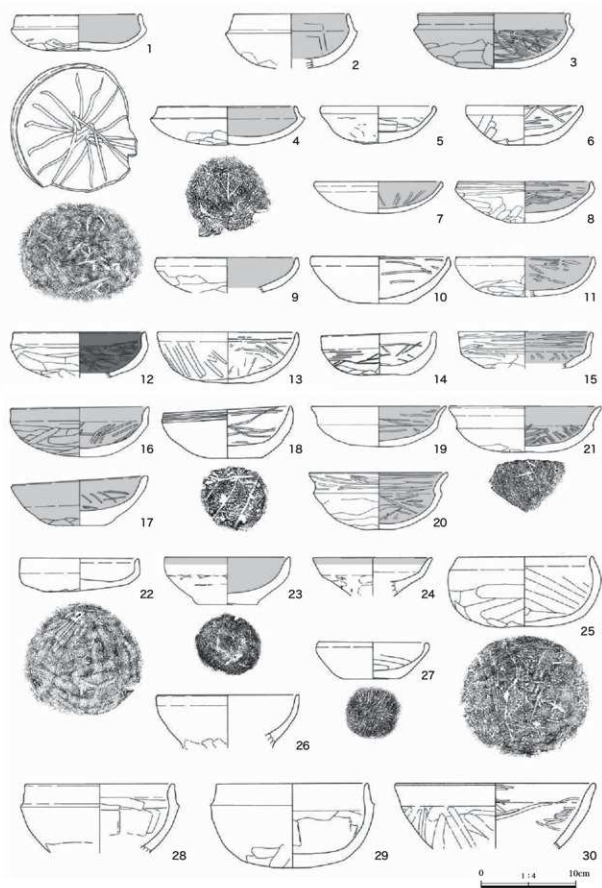
建物跡の時期は、6世紀前葉～中葉である。



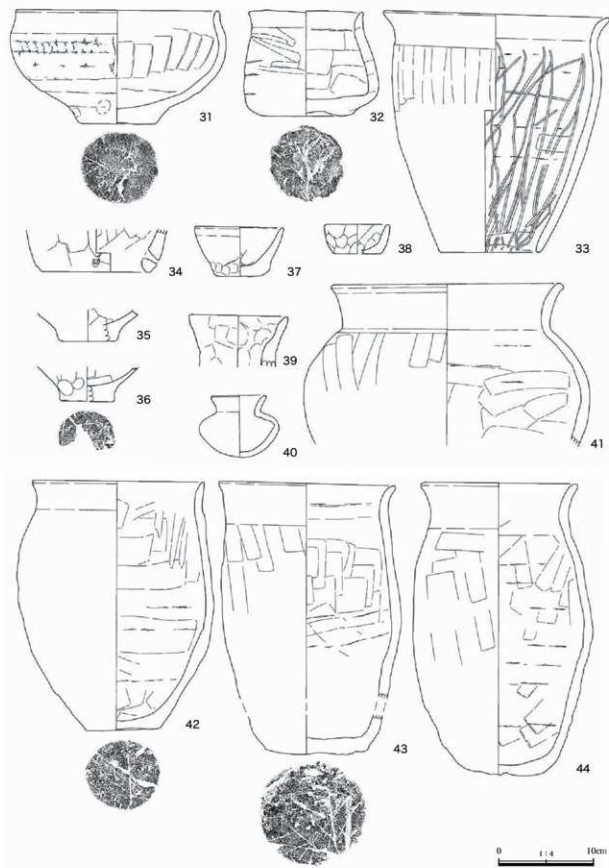
カマド 土層説明

- 1 黒褐色土 今市パミス小ブロック(5～10mm)少量、七本板パミス粒少量混入。しまり高む。
- 2 暗灰褐色土 灰色粘土主体、ブロック状に堆積。粘土粒(2～3mm)混入。しまり高む。(カマド押道流入土)
- 3 灰白褐色土 灰白色粘土主体、七本板パミス粒少量混入。しまり高む。粘性高む。(カマド袖)
- 4 暗褐色土 粘土ブロック(2～5mm)多量、焼土小ブロック(10mm)少量混入。しまり高む。(カマド裏方埋土)

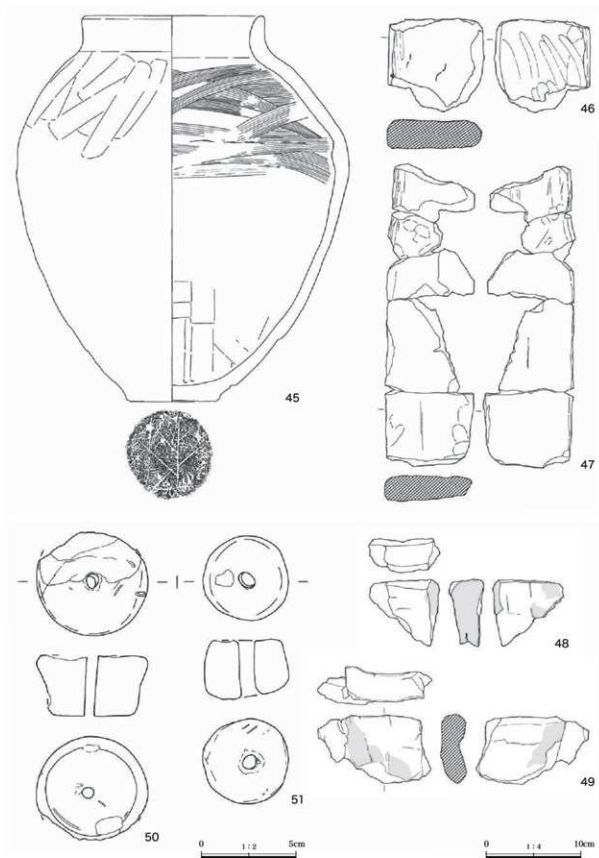
第44図 北ノ内遺跡 SI-4カマド出土遺物



第45図 北ノ内遺跡 S1-4出土遺物 (1)



第46図 北ノ内遺跡 SI-4出土遺物(2)



第47図 北ノ内遺跡 S1-4出土遺物(3)

第13表 北ノ内遺跡 SI-4 出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 環	口径:(13.0) 底径:— 器高:3.8	微砂粒、白 色針状物質	内:口縁部ヨコナデ、体 ~底部放射状ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体 部ヘラケズリ、底部粗い ヘラケズリ後一部ヘラミ ガキ	内:明黄褐色~黒色 外:にぶい黄褐色~黒 色 ・良	4/5	器厚は厚い。中央に木 果軸を残すか。内外面 漆仕上げ処理。	
2	土師器 環	口径:(12.0) 底径:— 器高:5.7	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒、砂礫	内:口縁部ヨコナデ、体~ 底部 外:口縁部ヨコナデ、体部 ヘラケズリ・ナデ、底部 ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	1/4	内面漆仕上げ処理。	覆土
3	土師器 環	口径:(16.0) 底径:5.0 器高:5.9	透明粒、砂 粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:黒褐色 ・良	2/3 底部完存	内外面漆仕上げ処理。	
4	土師器 環	口径:(14.6) 底径:4.0 器高:4.1	砂粒少量	内:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ナデ 外:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内:黒褐色 外:黒褐色 ・良	1/4	底部本葉痕あり。内面 漆仕上げ処理。	覆土
5	土師器 環	口径:12.0 底径:— 器高:4.0	砂粒多量、ガ ラス光沢黒 色粒・赤褐色 細粒少量	内:口縁部ヨコナデ、体~ 底部・ユビナデ 外:口縁部ヨコナデ、体~ 底部・指面圧痕	内:灰黄褐色 外:灰黄褐色 ・良	口縁部 1/6 底部3/4	手握ぬか。	
6	土師器 環	口径:12.2 底径:3.8 器高:4.2 重量:215.0g	砂粒少量、 ガラス光沢 黒色粒少量	内:口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体~底部ナデ後 ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ後ナデ	内:灰黄褐色 外:灰黄褐色 ・不良	ほぼ完形	内面ヘラミガキまばら。	内外面剥落 顕著
7	土師器 環	口径:(13.4) 底径:— 器高:3.3	砂粒少量	内:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラナデ後粗いヘラ ミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ後ナデ	内:暗褐色 外:暗褐色 ・良	1/6	内面漆仕上げ処理。	覆土
8	土師器 環	口径:(14.2) 底径:3.0 器高:4.4	微砂粒、砂 粒、白色針 状物質	内:口縁部ヨコナデ後ヘ ラミガキ、体~底部ヘラ ミガキ 外:口縁部ヨコナデ後ヘ ラミガキ、体~底部ヘラ ケズリ後ヘラミガキ	内:黒褐色 外:黒色 ・良	口縁部 1/3 体~底部 1/2	内面漆仕上げ処理。	覆土 底部内面摩 減
9	土師器 環	口径:(14.8) 底径:— 器高:(3.8)	黒色粒少量	内:口縁部ヨコナデ、体部 ナデ 外:口縁部ヨコナデ、体部 ヘラケズリ	内:黒褐色 外:褐色 ・良	1/6	内面漆仕上げ処理。	覆土
10	土師器 環	口径:14.4 底径:4.8 器高:5.0 重量:338.0g	ガラス光沢 黒色粒・砂 粒多量	内:口縁部ヨコナデ後粗 いヘラミガキ、体~底部 粗いヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体 ~底部ヘラケズリ後ナデ	内:褐灰色 外:褐灰色 ・不良	ほぼ完形		内面剥落顕 著
11	土師器 環	口径:14.4 底径:— 器高:4.2	砂粒少量	内:口縁部ヨコナデ後ヘ ラミガキ、体~底部ナデ後 ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内:暗褐色 外:黒褐色 ・やや不良	1/3	内面漆仕上げ処理。	覆土 内面摩減
12	土師器 環	口径:(14.0) 底径:— 器高:(4.8)	砂粒多量、 透明粒・雲 母少量	内:口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体部、 底部ヘラケズリ	内:黒色 外:黒褐色 ・良	1/6	内面黒色処理か。	覆土
13	土師器 環	口径:14.9 底径:3.0 器高:5.5 重量:360.0g	黒色粒、砂 粒	内:口縁部ヨコナデ後丁 字なヘラミガキ、体~底 部ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体 部ヘラナデ後太いヘラミ ガキ、底部ヘラケズリ	内:灰黄褐色 外:明黄褐色 ・不良	ほぼ完形		内面摩減

14	土師器 環	口径: 12.0 底径: 4.5 器高: 6.0 重量: 290.0g	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ、体部 ヘラミガキ、底部粗いヘ ラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体部 粗いヘラミガキ、底部ヘ ラケズリ	内: にふい黄褐色 外: にふい黄褐色 ・良	ほぼ完形	底部は平底風。		
15	土師器 環	口径: (14.2) 底径: 一 器高: (3.9)	砂粒	内: 口縁部ヨコナデ後粗い 不定方向ヘラミガキ、体 ~底部ナデ後粗い不定方 向ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体~底部ヘラケ ズリ後ヘラミガキ	内: 黒褐色 外: 黒褐色 ・良	底部欠損	内面漆仕上げ処理。		覆土
16	土師器 環	口径: 14.5 底径: 一 器高: 5.3 重量: 332.0g	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒、透明粒、 礫	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内: 灰褐色 外: にふい黄褐色 ・良	完形	内外面漆仕上げ処理。		
17	土師器 環	口径: 14.0 底径: 6.0 器高: 5.0 重量: 314.0g	砂粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体~底部ナデ後粗 いヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体部 ヘラナデ、底部ヘラケズリ	内: 褐灰色 外: にふい褐色 ・良	ほぼ完形	全体に歪みあり。平底 風。底部外面中央に木 葉痕を獲す。内外面 漆仕上げ処理。		
18	土師器 環	口径: 13.6 底径: 5.2 器高: 5.4 重量: 376.0g	透明粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、体部ナデ	内: にふい黄褐色 外: にふい黄褐色 ・良	ほぼ完形	平底で木葉痕あり。体 部外面中位にも木葉痕 が、手控ぬか。		覆土 底部内面摩 減
19	土師器 環	口径: 14.0 底径: 3.2 器高: 4.2 重量: 214.0g	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内: 黒褐色 外: にふい黄褐色 ・やや不良	ほぼ完形	内面漆仕上げ処理。		内外面摩減
20	土師器 環	口径: 14.5 底径: 3.2 器高: 6.0	砂粒少量	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ミガキ	内: 黒褐色 外: 暗褐色 ・良	4/5	内外面共に良く磨かれ ている。内面漆仕上げ 処理。		覆土
21	土師器 環	口径: (16.1) 底径: 4.0 器高: 4.9	ガラス光沢 黒色粒・雲 母・砂粒・ 砂礫少量	内: 口縁部ヨコナデ後ミガ キ、体~底部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内: オリーブ黒色 外: 黒褐色 ・良	1/4	底部外面にヘラ記号「 一」か、他はヘラ調整 か。内面漆仕上げ処理。		覆土 内面摩減
22	土師器 環	口径: 12.6 底径: 一 器高: 3.6 重量: 234.0g	透明粒、砂 粒、小礫	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、体部、 底部不定方向ヘラケズリ	内: 褐色 外: 褐色 ・良	完形			
23	土師器 手控ね	口径: (12.8) 底径: 6.4 器高: 5.0	微砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ナデ 外: 口縁部ヨコナデ	内: にふい黄褐色 外: 褐灰色 ・良	口縁部 1/2 底部完形	体部外面に積み上げ直 面を獲す。内面及び口縁 部外面部漆仕上げ処理か。		内外面摩減
24	土師器 手控ね	口径: (12.7) 底径: 一 器高: (4.0)	砂粒多量、 ガラス光沢 黒色粒少量	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ナデ 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部コビナデ・指頭圧痕	内: 黒色 外: にふい黄橙 ・良	1/8	口縁部のみ部分的に漆 仕上げ処理。		覆土
25	土師器 輪か	口径: 14.0 底径: 一 器高: 7.5 重量: 639.0g	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、体部 ヘラケズリ 底部不定方 向ヘラケズリ	内: 褐色 外: 褐色 ・良	完形			内面摩減顕 著
26	土師器 手控ね	口径: (15.0) 底径: 一 器高: (5.6)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体部 外: 口縁部ヨコナデ、体部 ユビナデ・指頭圧痕	内: にふい赤褐色 外: にふい赤褐色 ・良	1/8			覆土・ベル ト北覆土
27	土師器 環	口径: 11.4 底径: 5.7 器高: 4.0 重量: 183.0g	砂粒、小礫	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、体部 ヘラナデ、底部ヘラケズリ	内: にふい黄色 外: にふい黄色 ・やや不良	ほぼ完形	僅かに上げ底風の底部 には擦痕あり。内面反 時計回りにはヘラナデ。		
28	土師器 鉢	口径: (15.6) 底径: 一 器高: (7.3)	透明粒、砂 粒、砂礫	内: 口縁部ヨコナデ、体~底 部 外: 口縁部ヨコナデ、体~底 部ヘラケズリ	内: 黒褐色 外: 暗褐色 ・やや不良	1/5			覆土
29	土師器 鉢	口径: 16.0 底径: 一 器高: 8.8	ガラス光沢 黒色粒・透明 微粒・砂粒・ 小粒多量	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ後丁寧な ナデ。	内: 褐色 外: にふい褐色 ・良	口縁部 1/4 底部完形			覆土 外面一部摩 減

第三章 北ノ内遺跡の調査

30	土師器 鉢	口径：(21.0) 底径：— 器高：(6.9)	雲母・砂粒 少量	内：口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、体～底部ヘラミガキ 外：口縁部ヨコナデ	内：にぶい黄褐色 外：にぶい赤褐色 ・良	1/8		
31	土師器 鉢	口径：(21.2) 底径：8.0 器高：12.0	砂粒多量、 黒色粒・透 明粒・小礫 少量	内：口縁部ヨコナデ、体～ 底部 外：口縁部ヨコナデ、体 部上半指頭痕・下半ナデ、 底部指頭圧痕	内：褐色 外：にぶい黄褐色 ・不良	口縁～体 部1/4 底部完存	内外面に積み上げ痕を 残す。底部木葉痕あり。	
32	土師器 鉢	口径：12.0 底径：8.7 器高：11.0 重量：963.0g	ガラス光沢 黒色粒・透 明粒・小礫 多量	内：口縁部ヨコナデ、体～ 底部ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ、体～ 底部ヘラナデ	内：黒褐色 外：黒褐色 ・良	完形	器形に歪みがあり、下 部外。底部は中央に凹 面が残る凸状で、僅か に木葉痕あり。内外面 に積み上げ痕を残す。	
33	土師器 甕	口径：23.8 底径：10.8 器高：25.3 重量：2,101.0g	砂粒	内：口縁部ヨコナデ、胴～ 底部後ヘラミガキ 外：口縁部ヨコナデ、胴～ 底部	内：黒色 外：明赤褐色 ・良	完形	全体に丁寧な作り、無 武式。胴部内面積み上 げ痕を残す。	体部外面下、 平潤落顕著
34	土師器 甕	口径：— 底径：(11.6) 器高：(4.5)	黒色粒、砂 粒	内：胴部 外：胴部ヘラケズリ	内：灰褐色 外：にぶい褐色 ・良	底部1/8	孔あり。	覆土
35	土師器 甕	口径：— 底径：(5.6) 器高：(3.3)	透明微粒、 赤褐色細粒、 砂粒	内：胴部 外：胴部、底部ヘラナデ	内：黒褐色 外：黒色 ・良	体～底部 1/6		覆土 内面黒色
36	土師器 甕	口径：— 底径：5.8 器高：(3.6)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒、小礫	内：胴部 外：胴部指頭圧痕	内：明褐色 外：明褐色 ・良	体～底部 1/2	底部は小さい凸状で平 坦。	覆土
37	土師器 手捏ね	口径：9.1 底径：5.5 器高：5.3	ガラス光沢 黒色粒・砂 粒多量	内：口縁部ヨコナデ、体～ 底部・指頭圧痕 外：口縁部ヨコナデ、体部 指頭圧痕か	内：黒色 外：褐色 ・良	3/4		ベルト北覆 土面黒色
38	土師器 手捏ね	口径：(6.5) 底径：(5.1) 器高：3.1	黒色微砂粒、 砂粒、礫	内：体部・指頭圧痕 外：体部指頭圧痕	内：にぶい黄褐色 外：灰黄褐色 ・良	1/6	指頭圧痕多数。	覆土
39	土師器 手捏ねか	口径：(10.2) 底径：— 器高：(5.4)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内：口縁～体部指頭圧痕 外：口縁～体部指頭圧痕・ ヘラナデ	内：明赤褐色 外：明赤褐色 ・不良	1/4		カマド
40	土師器 小型甕	口径：5.6 底径：— 器高：6.8	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内：口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、胴～底部ヘラミガキ 外：口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、胴～底部ヘラケズリ 後、ヘラミガキ	内：にぶい褐色 外：灰褐色 ・良	口縁部 1/2 胴部完存	底部は不安定。内面に 赤色塗料のものが付 着。	
41	土師器 甕	口径：24.0 底径：— 器高：—	透明粒、砂 粒	内：口縁部ヨコナデ 外：口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内：黒色 外：にぶい黄褐色 ・良	1/3	口縁部のナデが甘く部 分的に厚味あり。胴部 は球形状で中位上半に 最大径(30.3cm)をもつ。	覆土
42	土師器 甕	口径：18.0 底径：8.0 器高：26.5 重量：2,435.0g	黒色粒、透 明粒、砂粒	内：口縁部ヨコナデ 外：口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内：黄褐色 外：にぶい赤褐色 ・良	ほぼ完形	胴部内面積み上げ痕を 残す。底部木葉痕あり。	体部外面下、 平熱赤化
43	土師器 甕	口径：18.5 底径：11.0 器高：(28.7)	黒色粒、微 砂粒、砂粒 小礫	内：口縁部ヨコナデ、胴部 内面上半横位ヘラナデ・ 下半ナデ 外：口縁部ヨコナデ、胴部 上半横位ヘラケズリ・下 半ナデ	内：褐色 外：にぶい褐色 ・良	4/5	全体に粗い作りで、積 み上げ痕を残す。底部 木葉痕あり。	
44	土師器 甕	口径：16.0 底径：8.2 器高：31.0 重量：2,664.0g	砂粒、小礫	内：口縁部ヨコナデ 外：口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ、底部調整不 明瞭	内：褐色 外：橙～明赤褐色 ・やや不良	ほぼ完形	全体に粗い作りで、積 み上げ痕を残す。	覆土 被熱赤化、 底面厚減
45	土師器 甕	口径：(18.6) 底径：9.0 器高：41.0	黒色粒、透 明微粒、砂 粒、小礫	内：口縁部ヨコナデ、胴部 ナデ、底部 外：口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内：にぶい黄褐色 外：明褐色 ・良	5/6	胴部中位上半に最大径 をもつ。胴部上半内面に 積み上げ痕を残し、ハ ケメ痕ナシ。底部木葉 痕二枚分あり。赤彩か。	覆土 内外面剥離 顕著
46	カマド 構築材	高さ：(9.8) 幅：10.0 厚さ：3.1 重量：377.0g	白色小粒、 小礫	指ナデ、指オサエ、ヘラ ナデ	褐色～褐色 ・良		表面赤化、被熱赤化か。	覆土

47	カマド 構築材	高さ：(31.7) 幅：8.9 厚さ：2.7 重量：965.0g	白色微粒、 小礫、白針 粒	指ナデ、指オサエ、ヘラ ナデ	褐色～黒褐色 ・良	指ナデ、指オサエで成 形。一部ヘラナデが見 られる。白色粘土の付 着はみられない。被熱 赤化もみられない。カ マド構築材か。	覆土
48	カマド 構築材	高さ：(7.1) 幅：(7.3) 厚さ：3.6 重量：120.0g	白色小粒、 小礫	指ナデ、指オサエ、ヘラ ナデ	赤褐色～暗褐色 ・良	三面に白色粘土付着。カ マド構築材か。破面 にも粘土が付着してい る。破損後も使用してい る。	
49	カマド 構築材	高さ：(7.1) 幅：(10.9) 厚さ：2.6 重量：250.0g	白色粒、小 礫	指ナデ	褐色～赤褐色 ・不良	指ナデ、指オサエによ り成形する。内外面に 白色粘土が付着してい る。部分的に黒炭がみ られる。カマド構築材 として埋め込まれたも の。	
50	土製品 跡跡車	上径：5.8 下径：4.3 厚さ：3.2 孔径：06～09 重量：101.66g	黒色粒、透 明粒、砂粒、 白色針状物 質か		外：にぶい赤褐色 ・良	一部欠損	覆土
51	土製品 有孔土製 品	直径：4.5 厚さ：3.2 孔径：07～09 重量：67.11g	ガラス光沢黒 色粒、透明粒、 砂粒、白色針 状物質か		外：にぶい黄褐色 ・良	完形	覆土 黒炭

SI-6a (第48・50図、第14表、図版五)

調査区西部の11-91グリッドに位置する。北西に古墳時代の竪穴建物跡SI-4、東に同じく古墳時代のSI-5・9・10が3軒重複して近接するのをはじめ、周囲には同時期の建物跡が密集し、最も遺構密度の高い一帯である。SK-107と重複し、SKが新しい。本建物跡はSI-6bの床下からSI-6aが検出されたものでSI-6bが新しく、SI-6aは掘方の一部を検出したのみである。また本建物跡は谷理土の黒色土上に構築されている。

平面形は方形を呈するものと思われる。規模は検出できた範囲で南北約2.50m、東西約3.80mで、面積は約9.5㎡である。

埋土は掘方埋土のみ確認され、暗褐色～黒褐色を呈する。残存する掘方埋土の深さは4.0～26.0cmである。柱穴、梯子穴、壁溝等は確認されなかった。

カマドは北壁西寄りに構築され、カマド掘方のみ確認された。カマド掘方の深さは18.0cmで北壁への突出は38.0cmである。

遺物出土状況は、いずれも掘方埋土からの出土である。

出土遺物は、土師器環66点467g、土師器裏219点5.333g、土師器碗10点111g、須恵器環4点55g、須恵器裏1点268g、須恵器鉢3点77g、総量303点6.311gと自然礫1.118gが出土した。

建物跡の時期は6世紀末～7世紀前葉の年代が与えらる。

SI-6b (第48・49・51図、第15表、図版五)

調査区西部の11-91グリッドに位置する。北西に古墳時代の竪穴建物跡SI-4、東に同じく古墳時代のSI-5・9・10が3軒重複して近接するのをはじめ、周囲には同時期の建物跡が密集し、最も遺構密度の高い一帯である。SK-107と重複し、SKが新しい。本建物跡はSI-6bの床下からSI-6aが検出されたものでSI-6bが新しい。また本建物跡は谷理土の黒色土上に構築されている。

平面形は、方形を呈する。規模は南北約4.70m、東西約4.85mで、面積は約22.8㎡である。主軸の振れはN-20°-Wである。

埋土は1層とする褐色土はローム粒や焼土粒を含んでおり人為堆積か。

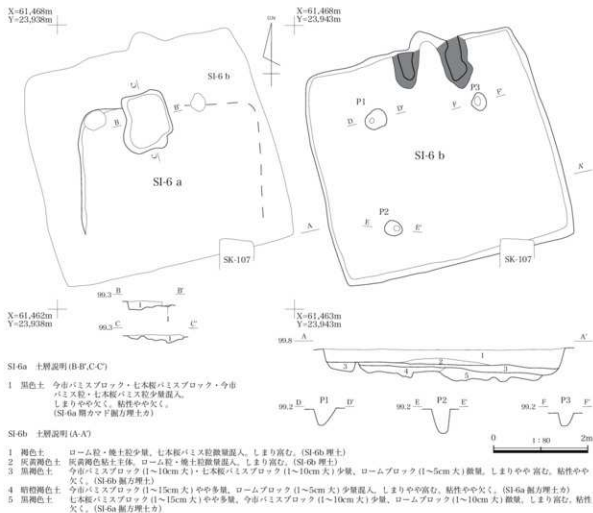
残存する壁の高さは、東壁 35.1cm、西壁 39.4cm、南壁 30.1cm、北壁 26.7cmで、外傾して立ち上がる。床はロームブロックを含む黒褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約 6.0 ～ 20.0cm を測る。掘方の底面は SI-6a の掘方埋土でその上にさらに床を貼っている。壁溝は確認されていない。

柱穴は、主柱穴 P1 ～ 3 を確認した。柱穴の規模は P1 : 47.0 × 38.0cm、深さ 36.1cm。P2 : 40.0 × 32.0cm、深さ 39.6cm。P3 : 40.0 × 30.0cm、深さ 27.0cm。

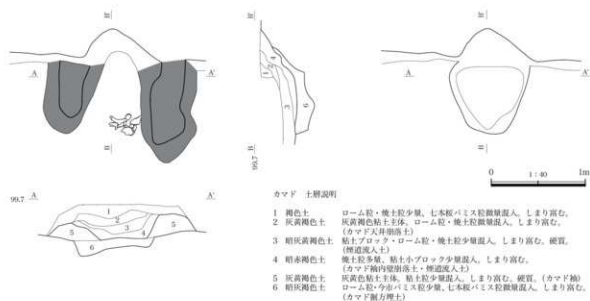
カマドは北壁東寄りに構築され、灰黄褐色土で構築された両袖が残存していた。袖は幅 60.0cm、長さ 75.0 ～ 100.0cm、高さ約 18.0 ～ 22.0cm で、両袖間の幅は約 100.0cm である。カマド掘方は深さ 20.0cm で、北壁への突出は 30.0cm である。

出土遺物は、土師器環 6 点 296g、土師器甕 3 点 310g、総量 9 点 606g が出土した。土師器環は半球形のもの、外面に稜を有し口縁部が直立するものと、外傾するものが出土している。

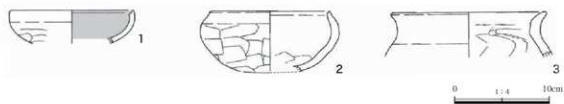
建物跡の時期は 7 世紀中葉の年代が与えうる。



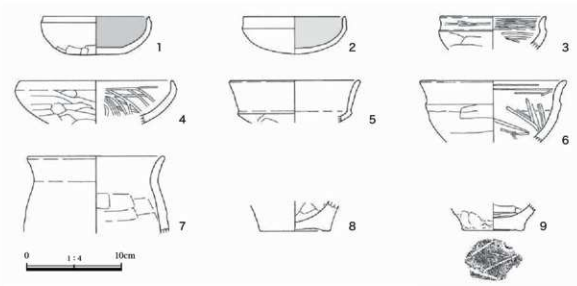
第 48 図 北ノ内遺跡 SI-6a・6b 実測図



第49図 北ノ内遺跡 SI-6bカマド実測図



第50図 北ノ内遺跡 SI-6a出土遺物



第51図 北ノ内遺跡 SI-6b出土遺物

第 14 表 北ノ内遺跡 SI-6a 出土土物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 坏	口径:(13.0) 底径:— 器高:(3.4)	砂粒少量、 赤褐色粒微 量	内:口縁部ヨコナデ、体 部ナデ 外:口縁部ヨコナデ、体 部ヘラケズリ	内:褐灰色 外:灰黄褐色 ・良	1/16	口縁端部に凹面を作る。 漆仕上げ処理か。	覆土
2	土師器 坏	口径:(12.4) 底径:— 器高:6.4	黒色粒・透 明粒、赤褐 色微粒、砂 粒	内:口縁部ヨコナデ、体 ~底部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、体 ~底部ヘラケズリ	内:黒色 外:褐色 ・良	1/5		覆土
3	土師器 甕	口径:(16.2) 底径:— 器高:(4.8)	ガラス光沢 黒色粒・透 明粒、赤褐 色微粒、砂 粒	内:口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ	内:褐色 外:明赤褐色 ・やや不良	口縁部 1/6	やや小形。	覆土

第 15 表 北ノ内遺跡 SI-6b 出土土物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 坏	口径:11.2 底径:— 器高:4.0	黒色粒・透 明粒・砂粒 少量	内:口縁部ヨコナデ、体 ~底部ナデ 外:口縁部ヨコナデ、体 ~底部ヘラナデ	内:にぶい褐色 外:にぶい褐色 ・良	1/2	漆仕上げ処理。	覆土 器面剥落
2	土師器 坏	口径:11.0 底径:— 器高:4.0	砂粒少量	内:口縁部ヨコナデ、体 部ナデ 外:口縁部ヨコナデ、体 ~底部ヘラナデ後ヘラケ ズリ	内:明赤褐色 外:褐色 ・良	1/4	小形で扁平な半球形 状。赤彩か。	カマ下側方 器面準圓頭 著
3	土師器 坏	口径:(11.0) 底径:— 器高:(3.5)	砂粒	内:口縁部ヨコナデ後丁 率なヘラミガキ、体~底 部丁率なヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ後ヘ ラミガキ、体~底部	内:黒色 外:褐灰色 ・良	口縁部 1/7	外面に明瞭な稜を残 す。	覆土
4	土師器 坏	口径:(16.2) 底径:— 器高:(4.6)	砂粒	内:口縁部ヨコナデ後ヘ ラミガキ、体~底部ヘラ ミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体 ~底部ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁~ 体部 1/2	口縁端部が僅かに内傾 する。	覆土
5	土師器 坏	口径:(13.6) 底径:— 器高:(4.5)	微砂粒少 量、砂粒	内:口縁部ヨコナデ 外:口縁部ヨコナデ、体 部ヘラケズリ	内:褐色 外:褐色 ・良	1/10		覆土
6	土師器 坏	口径:(15.2) 底径:— 器高:(6.5)	黒色微粒、 砂粒	内:口縁部ヨコナデ後粗 いヘラミガキ、体部ヘラ ミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体 部ヘラケズリ	内:にぶい褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁~ 体部 1/12	やや深め。積み上げ痕 を僅かに残す。	覆土 外面準圓頭 著
7	土師器 甕	口径:(14.2) 底径:— 器高:(8.2)	微砂粒・砂 粒多量、黒 色粒・透明 粒少量	内:口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ	内:明褐色 外:褐色 ・やや不良	口縁部 1/5	小形。	カマ下
8	土師器 甕	口径:— 底径:(7.2) 器高:(3.3)	ガラス光沢 黒色粒・砂 粒多量	内:底部ヘラナデ 外:調整不明瞭	内:黒色 外:にぶい赤褐色 ・不良	底部ほ ぼ完存		覆土 外面焼熱潤 落顯著
9	土師器 甕	口径:— 底径:(6.6) 器高:(3.8)	砂粒	内:底部ヘラナデ 外:底部指頭正痕	内:褐灰色 外:にぶい赤褐色 ・良	底部 1/2	底部木葉痕あり。	覆土

SI-7 (第52～54図、第16表、図版五・二三)

調査区南西部の11-91グリッドに位置する。北に古墳時代の竪穴建物跡SI-3・4、北東に同じくSI-6a・6bが位置するのをはじめ、周囲には同時期の建物跡が密集し、最も遺構密度の高い一帯である。SI-8と重複し、本建物跡が新しい。また本建物跡は谷埋土の黒色土上に構築されている。

平面形は、東西方向に長い方形を呈する。規模は南北約5.44m、東西約6.10mで、面積は約33.20㎡である。主軸の振れはN-1°-Wである。

埋土は暗褐色土の単層で、自然堆積と思われる。残存する壁の高さは、東壁37.2cm、西壁25.0cm、南壁17.8cm、北壁33.1cmで、内湾して立ち上がる。床は主に黒褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約4.0～26.0cmを測る。掘方の底面はロームに到っている。掘方は北壁を除く3辺で深くなっている。壁溝は確認されていない。柱穴は、主柱穴P1～4を確認した。平面規模はP1:75.0×65.0cm、深さ46.7cm。P2:82.0×65.0cm、深さ49.7cm。P3:72.0×69.0cm、深さ65.0cm。P4:81.0×68.0cm、深さ54.7cmである。P2～4で柱痕跡が確認できる。柱痕跡の太さは16.0～24.0cmである。

カマドは北壁西寄りに構築され、灰色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅40.0～65.0cm、長さ80.0～95.0cm、高さ約28.0～30.0cmで、両袖間の幅は約90.0cmである。カマド袖は外側から灰色粘土を含む灰褐色および黒褐色土で強化を計っている。カマド掘方は深さ25.0cmで、北壁への突出部も一度掘方として掘削し、埋め戻している。北壁への突出は32.0cmである。

遺物出土状況は、カマド内部から6の土師器裏下半が、カマド右側から5の土師器裏上半が出土している。

出土遺物は、土師器環2点278g、土師器裏242点7,848g、土師器碗4点123g、土師器手捏ね土器2点95g、須恵器環蓋2点28g、須恵器環2点41g、総量274点8,413gと自然礫693gが出土した。1・2は平安時代の須恵器環で混入であろう。7・8は手捏ねの小形の環で底部が突出する。

建物跡の時期は7世紀前葉の年代が与えられる。

SI-8 (第52・53・55図、第17表、図版五)

調査区南西部の11-91グリッドに位置する。北に古墳時代の竪穴建物跡SI-3・4、北東に同じくSI-6a・6bが位置するのをはじめ、周囲には同時期の建物跡が密集し、最も遺構密度の高い一帯である。SI-7と重複し、大部分を破壊されている。また本建物跡は谷埋土の黒色土上に構築されている。

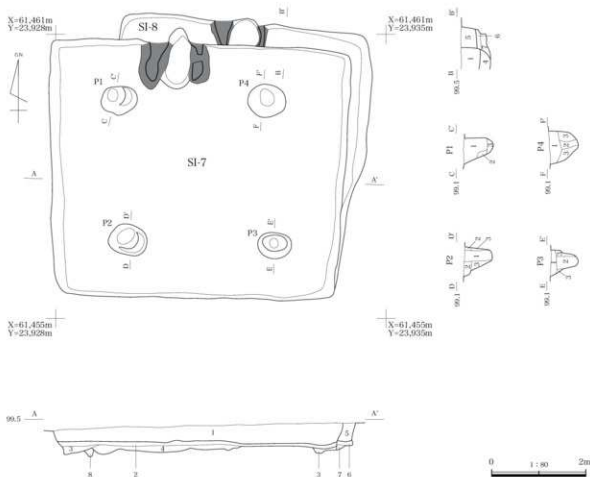
平面形は、SI-7によって建物跡の大部分を失っているため不詳であるが、東西方向に長い方形を呈する。規模は南北約5.28m、東西約5.43mで、面積は約28.7㎡である。主軸の振れはN-3°-Wである。

埋土は、黒褐色土の単層で、自然堆積と思われる。残存する壁の高さは、西壁32.8cm、北壁31.3cmで、外傾する。床は主に暗褐色～黒褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約8.0～10.0cmを測る。本建物跡を破壊しているSI-7の掘方埋土除去後も柱穴は確認されていない。梯子穴、壁溝も確認されていない。

カマドは北壁中央に構築され、暗黒褐色土で構築された両袖が僅かに残存していた。袖は幅20.0～50.0cm、長さ35.0cm、高さ約10.0～15.0cmで、両袖間の幅は約75.0cmである。カマド掘方は深さ25.0cmで、北壁への突出は10.0cmである。

出土遺物は僅かで、土師器環1点23g、土師器裏14点478g、総量15点501gが出土した。

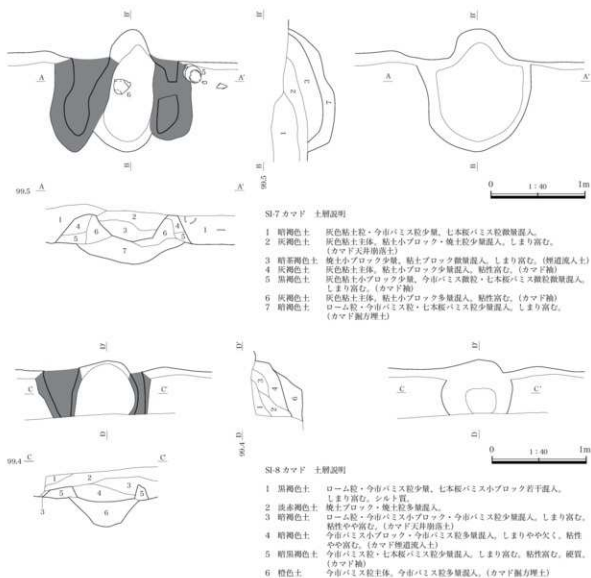
建物跡の時期は、切り合いからSI-7に先行するが大きな時期差は認められない。6世紀末～7世紀初頭の年代が与えられる。



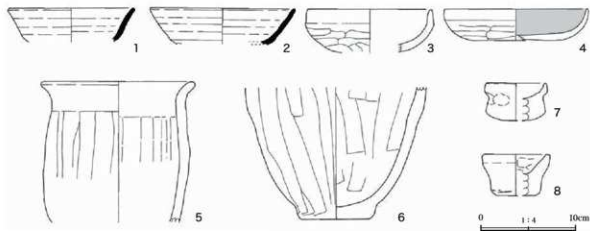
SI-7・8 土層説明

- | | |
|--|--|
| <p>1 暗褐色土
今市バミス段・七本坂バミス段やや少量、ローム粒少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。(SI-7理土)</p> <p>2 黒褐色土
今市バミスブロック・今市バミス段やや少量、ロームブロック・ローム粒・七本坂バミスブロック・七本坂バミス粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(SI-7理土)</p> <p>3 黒褐色土
今市バミスブロック・今市バミス段・七本坂バミスブロック・七本坂バミス粒少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。</p> <p>4 暗褐色土
今市バミスブロック・今市バミス段多量、七本坂バミスブロック・七本坂バミス段やや少量混入。しまり富む。粘性やや欠く。(SI-7理土)</p> <p>5 黒褐色土
今市バミス段・今市バミス段・七本坂バミス段・七本坂バミス段やや少量、ローム粒少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。(SI-8理土)</p> <p>6 暗褐色土
今市バミス段やや少量、七本坂バミス段少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。(SI-8理土)</p> <p>7 黒褐色土
ロームブロック・ローム粒・今市バミスブロック・今市バミス段・七本坂バミス段やや少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(SI-8理土)</p> <p>8 暗褐色土
今市バミスブロック・今市バミス段多量、七本坂バミスブロック・七本坂バミス段やや少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。(SI-8理土上方)</p> | <p>3 暗褐色土
今市バミスブロック・七本坂バミスブロックやや多量混入。しまり富む。粘性やや富む。(柱側方理土)</p> <p>SI-7 P2
1 黒褐色土
今市バミスブロック・七本坂バミスブロック・七本坂バミス粒少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。(柱頭跡)
今市バミスブロック・七本坂バミスブロック少量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。(柱側方理土)
ロームブロック・今市バミスブロック・七本坂バミスブロックやや少量。しまりやや欠く。粘性やや富む。(柱側方理土)</p> <p>SI-7 P3
1 黒褐色土
今市バミスブロック・七本坂バミスブロック・七本坂バミス粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(柱頭跡)
今市バミスブロック・七本坂バミスブロック・七本坂バミス粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(柱側方理土)
ロームブロック・今市バミスブロック・七本坂バミスブロックやや少量。しまりやや欠く。粘性やや富む。(柱側方理土)</p> <p>SI-7 P4
1 黒褐色土
今市バミスブロック・七本坂バミスブロックやや少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
今市バミスブロック・七本坂バミスブロック・七本坂バミス粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(柱頭跡)
ロームブロック・今市バミスブロック・七本坂バミスブロックやや少量。しまりやや欠く。粘性やや富む。(柱側方理土)</p> |
| <p>SI-7 P1
1 黒褐色土
今市バミスブロック・七本坂バミスブロック・七本坂バミス粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(柱側方理土)</p> <p>2 黒褐色土
今市バミスブロック・七本坂バミスブロック・七本坂バミス段やや多量。しまりやや富む。粘性やや富む。(柱側方理土)</p> | |

第 52 図 北ノ内遺跡 SI-7・8 実測図



第53図 北ノ内遺跡 SI-7・8カマド実測図



第54図 北ノ内遺跡 SI-7出土遺物



第55図 北ノ内遺跡 SI-8 出土遺物

第16表 北ノ内遺跡 SI-7 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏	口径:(13.2) 底径:— 器高:(3.5)	黒色微砂 粒、砂粒	内:口縁～体部ロクロナ デ 外:口縁～体部ロクロナ デ	内:灰色 外:灰色 ・良	口縁部 1/6		覆土
2	須恵器 高台坏	口径:(15.2) 底径:— 器高:(3.8)	黒色微砂 粒、砂粒	内:口縁～体部ロクロナ デ 外:口縁～体部ロクロナ デ	内:灰黄色 外:灰色 ・やや不良	口縁部 1/9		覆土 高台剝離痕
3	土師器 坏	口径:(13.4) 底径:— 器高:(4.5)	黒色粒・砂 粒多量	内:口縁部ヨコナデ、体 ～底部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、体 ～底部ヘラケズリ	内:にぶい褐色 外:にぶい褐色 ・良	1/8		覆土
4	土師器 坏	口径:(15.2) 底径:(9.4) 器高:3.3	黒色微砂 粒、微砂粒	内:口縁部ヨコナデ、体 ～底部ナデ 外:口縁部ヨコナデ、体 ～底部ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄色 ・やや不良	1/6	漆仕上げ処理か。	覆土
5	土師器 甕	口径:16.0 底径:— 器高:(15.0)	黒色粒・透 明粒・砂粒・ 小礫多量	内:口縁部ヨコナデ、胴 部縦位のヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・やや不良	口縁～ 胴部上 半完存	小形。	胴部外面 下、半被熱 赤化
6	土師器 甕	口径:— 底径:7.0 器高:(14.0)	透明粒少 量、砂粒、 砂礫	内:胴部内面縦位のヘラ ナデ～底部ヘラナデ 外:胴～底部縦位のヘラ ケズリ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・やや不良	底部 1/2	凸状の底部。	
7	土師器 手柄ね	口径:(6.2) 底径:(3.2) 器高:4.0	黒色粒・砂 粒多量、小 礫	内:底部ユビナデ 外:体部指頭圧痕	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	1/3	底部は凸状で厚い。	覆土
8	土師器 手柄ね	口径:(7.0) 底径:(4.0) 器高:4.4	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒、小礫多 量	内:口縁部ヨコナデ、体 部ユビナデ 外:口縁部ヨコナデ	内:褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	1/5	底部は凸状で厚い。	覆土

第17表 北ノ内遺跡 SI-8 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 坏	口径:(14.0) 底径:— 器高:(3.3)	黒色粒多 量、砂粒少 量、透明粒 微量	内:口縁部ヨコナデ、体 ～底部ナデ 外:口縁部ヨコナデ、体 ～底部ヘラケズリ	内:灰白色 外:浅黄褐色 ・良	口縁部 1/12		覆土 被熱により 変色
2	土師器 甕	口径:(10.6) 底径:— 器高:(5.2)	黒色粒・砂 粒少量	内:口縁部ヨコナデ後ミ ガキ、胴部 外:口縁部ヨコナデ	内:オリーブ黒色 外:灰黒色 ・やや不良	口縁部 破片	小形。	覆土

SI-5 (第56図)

調査区西部の12-91グリッドに位置する。西隣に古墳時代の竪穴建物跡SI-6a・6b、北に同じくSI-11、南に同じくSI-16、東に同じくSI-25が近接するのをはじめ、周囲には同時期の建物跡が密集し最も遺構密度の高い一帯である。SI-5・9・10の3軒が重複しており、新旧関係はSI-5 < SI-9 < SI-10である。本建物跡は後続する2軒の建物跡によって大部分を破壊され、西壁付近のみを検出した。

平面形は、建物跡の大部分を失っているため不詳であるが、方形を呈するものと思われる。規模は南北約4.13mである。

埋土は暗褐色～褐色土の2層を確認し、自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、西壁4.3cmで、外傾して立ち上がる。

床は確認した範囲では貼床はみられず、ロームを床とする。カマド、柱穴、梯子穴、壁溝等は確認されなかった。

遺物は出土しておらず、建物跡の時期も不詳である。

SI-9 (第56～58図、第18表、図版六・二四)

調査区西部の12-91グリッドに位置する。西隣に古墳時代の竪穴建物跡SI-6a・6b、北に同じくSI-11、南に同じくSI-16、東にSI-25が近接するのをはじめ、周囲には同時期の建物跡が密集し、最も遺構密度の高い一帯である。SI-5・9・10の3軒が重複しており、新旧関係はSI-5 < SI-9 < SI-10である。本建物跡はSI-10によって南側を破壊され北壁とカマドのみを確認した。

平面形は、方形を呈すると思われる。規模は東西約3.25mである。

残存する壁の高さは、北壁9.2cmで、外傾して立ち上がる。

床は暗褐色～黒褐色土で埋め戻して貼床としている。柱穴、梯子穴、壁溝等は確認されていない。

カマドは北壁中央に構築され、ロームを主体として構築された両袖が残存していた。袖は幅25.0cm、長さ50.0～50.5cm、高さ約8～13.0cmで、両袖間の幅は約60.0cmである。カマド掘方は深さ約10.0cmで、ローム粒を含む暗褐色土で埋め戻されている。北壁への突出は13.0cmである。

遺物出土状況は、カマド前から土師器鉢が、カマド内から土師器裏下半が出土している。

出土遺物は僅かで、土師器杯3点22g、土師器裏13点216g、土師器鉢1点1.081g、総量17点1.319gが出土した。

1はカマド右袖前で出土した土師器鉢である。内外面漆仕上げ処理を施している。

建物跡の時期は、出土遺物が少ないため不詳であるが、6世紀前葉～中葉と考えられる。

SI-10 (第56・57・59・60図、第19表、図版六・二四)

調査区西部の12-91グリッドに位置する。西隣に古墳時代の竪穴建物跡SI-6a・6b、北に同じくSI-11、南に同じくSI-16、東に同じくSI-25が近接するのをはじめ、周囲には同時期の建物跡が密集し、最も遺構密度の高い一帯である。SI-5・9・10の3軒が重複しており、新旧関係はSI-5 < SI-9 < SI-10である。本建物跡はSI-5・9を切って構築されている。

平面形は、東辺の長いやや歪んだ方形を呈する。規模は南北約5.02m、東西約4.98mで、面積は約25.0㎡である。主軸の振れはN8°-Wである。

埋土は褐色土のほぼ単層である。

残存する壁の高さは、東壁17.4cm、西壁13.8cm、南壁14.7cm、北壁14.2cmで、外傾して立ち上がる。

床は、掘方を黒褐色土・明赤褐色土で埋め戻し、さらに暗黄褐色土と明赤褐色土で貼床を施す。貼床の厚さは約 6.0～8.0cm を測り平坦である。壁溝は確認されていない。

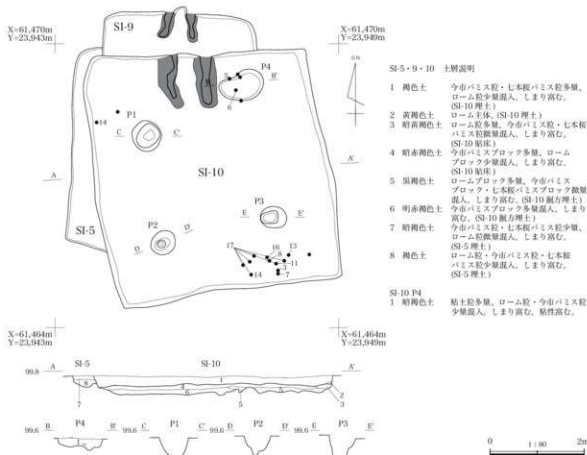
柱穴は、主柱穴 P1～3 を確認した。規模は P1：64.0×61.0cm、深さ 44.2cm。P2：54.0×47.0cm、深さ 43.3cm。P3：56.0×45.0cm、深さ 50.2cm である。梯子穴は確認されていない。このほか貯蔵穴 P4 が確認された。88.0×60.0cm、深さ 25.2cm の不整楕円形を呈し、北東コーナー部のカマド寄りに設置されている。

カマドは北壁中央に構築され、灰色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅 40.0～45.0cm、長さ 105.0cm、高さ約 20.0cm で、両袖間の幅は約 70.0cm である。カマド掘方は深さ 20.0cm で、粘土ブロックを含む暗褐色土で埋め戻されている。北壁への突出は、建物跡の残存する深さが少ないことからほとんど確認できなかった。

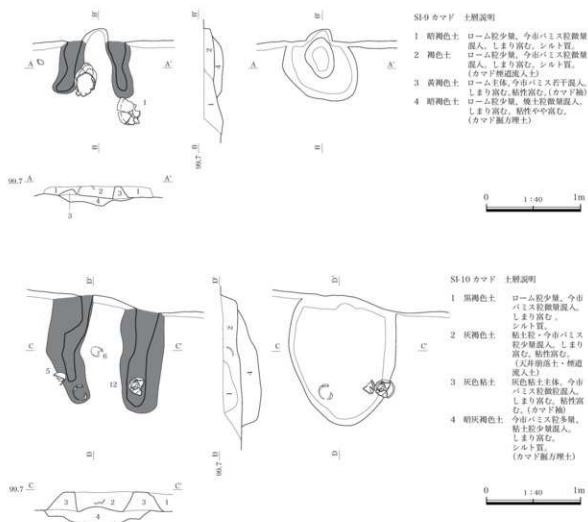
遺物出土状況は、南東コーナー、北西コーナー付近、貯蔵穴およびカマドで出土している。貯蔵穴部分の遺物は床面と同一の高さで出土しており、貯蔵穴内に置かれていたものとは言い難い。カマドからは、構築材として袖内部に埋め込まれた土師器甕が出土している。

出土遺物は、土師器環 21 点 1.667g、土師器甕 375 点 20.695g、土師器碗 4 点 84g、須恵器環 3 点 117g、総量 403 点 22.563g と自然礫 139g が出土した。須恵器環は TK217 形式のものが出土しているが、1 は埋土、2 はカマド袖内からの出土である。

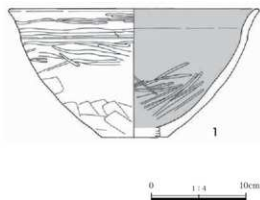
建物跡の時期は 7 世紀中葉の年代が与えられる。



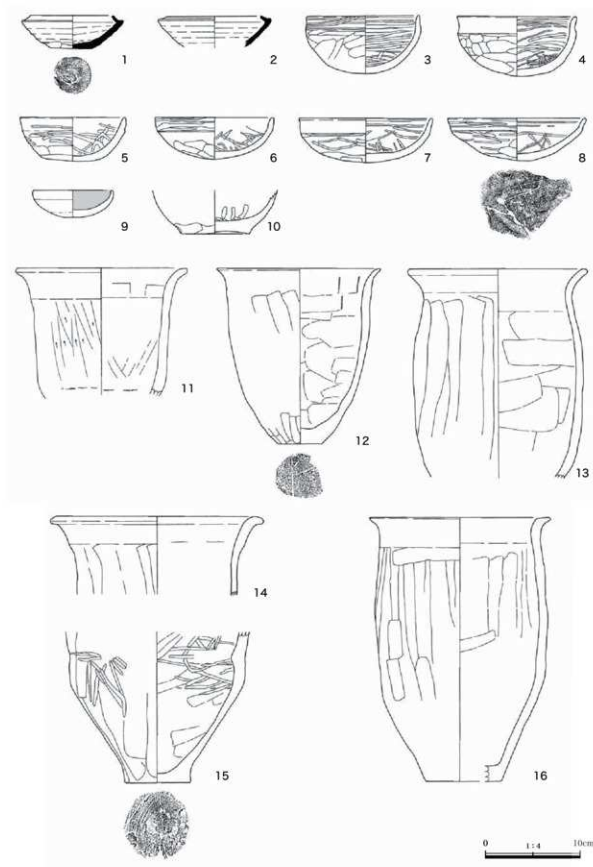
第 56 図 北ノ内遺跡 SI-5・9・10 実測図



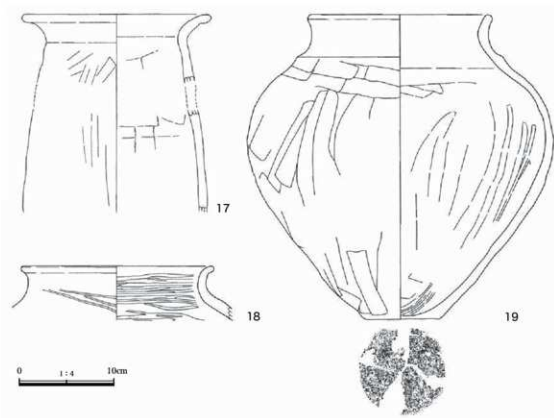
第57図 北ノ内遺跡 SI-9・10カマド実測図



第58図 北ノ内遺跡 SI-9出土遺物



第59図 北ノ内遺跡 SI-10出土遺物(1)



第60図 北ノ内遺跡 SI-10 出土遺物 (2)

第18表 北ノ内遺跡 SI-9 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 鉢	口径: 26.4 底径: 7.0 器高: 13.6	砂粒少量	内: 口縁部ヨコナデ後ミガキ、体~底部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部上半ヘラミガキ・下半ヘラケズリ	内: 橙~暗褐色 外: 橙~暗褐色 ・良	2/3	内外面漆仕上げ処理。	カマド

第19表 北ノ内遺跡 SI-10 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 杯	口径: 8.7 底径: 4.1 器高: 3.7 重量: 104.0g	黒色微砂粒、 砂粒	内: 口縁~体部口ロナデ 外: 口縁~体部口ロナデ 底部@転ヘラ切り	内: 灰オリーブ色 外: 灰オリーブ色 ・良	ほぼ完形		覆土 湖西産
2	須恵器 杯	口径: 10.0 底径: 一 器高: 3.2	黒色粒、黒 色微微粒	内: 口縁~体部口ロナデ 外: 口縁~体部口ロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁部 1/12		カマド袖内
3	土師器 杯	口径: 11.7 底径: 一 器高: 6.1	透明粒・砂 粒多量、ガ ラス光沢黒 色粒少量	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体~底部ヘラミ ガキ 外: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体~底部ヘラケ ズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	1/3		底部内外面 摩滅顕著
4	土師器 杯	口径: 12.5 底径: 一 器高: 6.3 重量: 305.0g	透明粒少量、 砂粒、小礫	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ後ミガ キ、体部ヘラケズリ後ヘラ ミガキ、底部ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい赤褐色 ・良	ほぼ完形		覆土

第三章 北ノ内遺跡の調査

5	土師器 坏	口径: 11.2 底径: (3.2) 器高: 4.7 重量: 177.0g	透明粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体~底部ヘラミ ガキ 外: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体部ヘラミガキ、 底部ヘラケズリ	内: 灰白色 外: 褐色 ・良	ほぼ正形	小形、平底風の底部。	
6	土師器 坏	口径: 12.5 底径: — 器高: 4.4	黒色粒多量、 透明粒少量	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体~底部ヘラケ ズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	1/2		カマド 内面厚減
7	土師器 坏	口径: 14.0 底径: — 器高: 4.7 重量: 249.0g	透明粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体~底部ヘラミ ガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体部 後ヘラミガキ、底部ヘラ ケズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	ほぼ正形		
8	土師器 坏	口径: 14.6 底径: — 器高: 4.4	黒色粒・透 明粒少量	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体~底部ヘラミ ガキ 外: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体部ヘラケズリ 後ヘラミガキ、底部ヘラ ケズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	1/2	僅かに歪みあり、底部 外面にヘラ記号「X」。	内面厚減
9	土師器 坏	口径: 8.2 底径: — 器高: 2.9	砂粒	内: 口縁部ヨコナデ後ミガ キ、体~底部ナデ後粗い 不定方向ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体部 ヘラケズリ後ナデ、底部 ヘラケズリ	内: 黒褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	5/12	小形、漆仕上げ処理。	甌土 内面厚減
10	土師器 坏	口径: — 底径: 7.2 器高: (4.6)	砂粒	内: 体~底部ナデ後放射状 ヘラミガキ 外: 体~底部ユビナデ・指 頭圧痕	内: にぶい黄褐色 外: 明黄褐色 ・良	底部完存		甌土
11	土師器 甕	口径: (17.6) 底径: — 器高: —	黒色粒、微 砂粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内: にぶい褐色 外: にぶい褐色 ・やや不良	口縁部 1/2 胴部 1/4	胴部内外面に積み上げ 痕を残す。	カマド 内外面厚減
12	土師器 甕	口径: (17.1) 底径: (4.7) 器高: 18.5	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒、小礫	内: 口縁部ヨコナデ、胴~ 底部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴~ 底部ヘラケズリ	内: にぶい赤褐色 外: 黒褐色 ・良	口縁~体 部 1/3 底部ほぼ 完存	小形、底部は平底で、 蓋状の圧痕あり。	
13	土師器 甕	口径: (19.0) 底径: — 器高: (21.9)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内: 褐色 外: にぶい褐色 ・良	胴部上半 1/4		胴部外面下 平スス付着
14	土師器 甕	口径: (22.4) 底径: (8.0) 器高: (8.3)	ガラス光沢 黒色粒・砂 粒多量、透 明粒、小礫	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内: にぶい褐色 外: 灰褐色 ・良	口縁部 1/5		甌土
15	土師器 甕	口径: — 底径: 7.0 器高: (16.0)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内: 胴部後ヘラミガキ、底 部ヘラナデ 外: 胴部ヘラケズリ後ヘラ ミガキ、底部ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	胴部下半 ~底部 1/2	底部は凸状で小さく平 底。全体に粗い作りで 胴部内面上半に積み上げ 痕を残し、僅かに歪 みあり。	
16	土師器 甕	口径: 19.0 底径: (8.0) 器高: 28.0 重量: 2,158.0g	黒色粒多量、 砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、胴~ 底部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴~ 底部ヘラケズリ	内: にぶい褐色 外: にぶい褐色 ・やや不良	ほぼ正形	全体に粗い作りで胴部 内面下半に積み上げ痕 を残し、歪みあり。	カマド
17	土師器 甕	口径: (20.0) 底径: — 器高: —	黒色粒、微 砂粒、砂粒、 小礫	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 横位ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 縦位ヘラナデ	内: 褐色 外: 褐色 ・良	口縁~胴 部 1/5		カマド袖内 ・カマド
18	土師器 甕	口径: 19.8 底径: — 器高: (5.7)	透明粒、砂 粒、小礫	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ 外: 口縁部ヨコナデ後ミガキ	内: 褐色 外: 褐色 ・良	口縁部完 存	口縁部は短く外反し、 端部は肥厚し、丸く終 わる。最大径は胴部中 位か。	
19	土師器 甕	口径: (18.8) 底径: (7.8) 器高: 32.3	砂粒・小礫 多量、黒色 粒・透明粒 少量	内: 口縁部ヨコナデ、胴~ 底部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴~ 底部ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: 淡赤褐色 ・良	2/3 底部完存	口縁部は短く緩やかに外 傾する。底部は平底で、 胴部は大きく開き胴部中 を中位上半にもつ。	甌土 焼灰・使用に より脆弱化

SI-11 (第61～63図、第20表、図版六・二四)

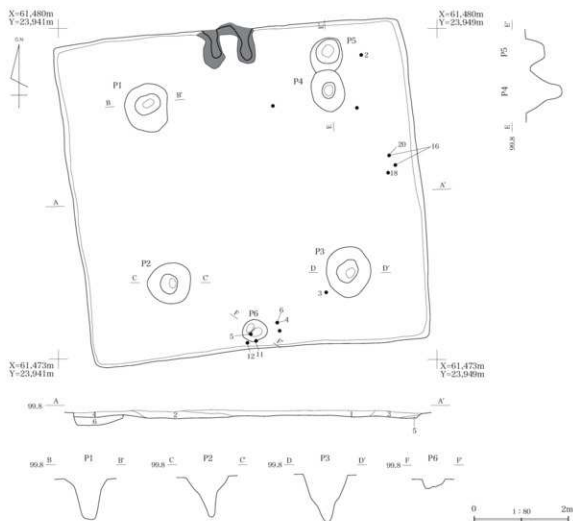
調査区西部の12-90グリッドに位置する。北東に古墳時代の竪穴建物跡SI-13、南西に同じくSI-4が近接するのをはじめ、周囲には同時期の建物跡が密集し、最も遺構密度の高い一帯である。

平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約6.80m、東西約7.35mで、面積は約50.0㎡である。主軸の振れはN-4°-Wである。

埋土は暗褐色～黒褐色を呈し、いずれも自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁9.0cm、西壁14.4cm、南壁10.0cm、北壁16.4cmで、外傾して立ち上がる。床は一部暗褐色土の掘方埋土がみられるが、大部分はロームを床面とする。壁溝は確認されなかった。

柱穴は、主柱穴P1～4、不明ピットP5、梯子穴P6を確認した。規模はP1:105.0×90.0cm、深



SI-11 土質説明

- 1 暗褐色土 今市パミス粒・七本椀パミス粒少量混入。しまり高凸。
- 2 黒褐色土 今市パミス粒・七本椀パミス粒微量混入。しまり高凸。
- 3 褐色土 ローム粒少量。今市パミス粒・七本椀パミス粒混入。しまり高凸。
- 4 灰褐色土 今市パミス粒・七本椀パミス粒多量。ローム粒微量混入。しまり高凸。硬質。
- 5 暗赤褐色土 ローム粒多量混入。しまり高凸。
- 6 暗褐色土 今市パミス粒・七本椀パミス粒多量混入。しまり高凸。硬質。(掘方埋土上)

第61図 北ノ内遺跡 SI-11実測図

さ 84.0cm。P2：92.0×87.0cm、深さ 85.2cm。P3：108.0×93.0cm、深さ 100.9cm。P4 は：88.0×68.0cm、深さ 76.0cm。

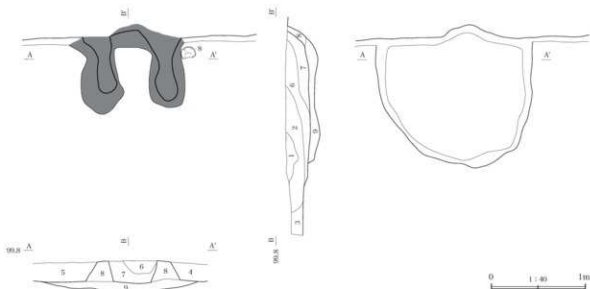
梯子穴 P6 は 55.0×46.0cm、深さ 20.0cm である。

カマドは北壁中央に構築され、灰色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅 40.0cm、長さ 70.0～75.0cm、高さ約 20.0～22.0cm で、両袖間の幅は約 70.0cm である。カマド掘方は深さ約 10.0cm で、北壁への突出は 15.0cm で奥壁～煙道部にも灰色粘土を貼り付けている。

遺物出土状況は、梯子穴付近、東壁付近、P4 付近から出土している。いずれも床面からの出土である。

出土遺物は、土師器坏 84 点 2,857g、土師器高杯 1 点 61g、土師器裏 566 点 13,436g、土師器甔 2 点 6,135g、土師器鉢 1 点 12g、土師器壺 10 点 227g、土師器手捏ね土器 1 点 41g、須恵器高杯 1 点 8g、支脚 1 点 92g、土製カマド構築材 8 点 521g、不明土製品 1 点 6g、総量 676 点 23,396g と自然礫 72g が出土した。土師器坏類は、半球形のもので体部外面に稜をもち口縁が直立するものがある。いずれも内面をヘラミガキし、口縁部内面は横方向にヘラミガキする。11・12 は手捏ねによるもので、底部外面に木葉痕を残し、厚い作りが特徴である。20 は粘土組織み上げ痕の明瞭に残る楕円筒形の土製品である。同様な土製品は、本遺跡 SI-18、北ノ内遺跡 2 次調査の SI-39・42 でも確認され、カマド構築材として天井部先端に埋め込まれたことが想定される。北ノ内遺跡におけるカマド構築材の特徴といえる。また本遺跡 SI-4 からはカマド構築材と考えられる板状土製品も出土している。さらに同様の円筒形土製品は市貝町仁王地遺跡の E4・5 号住居、G18・4 号住居でもカマド内から出土している。21 は土製模造品か。

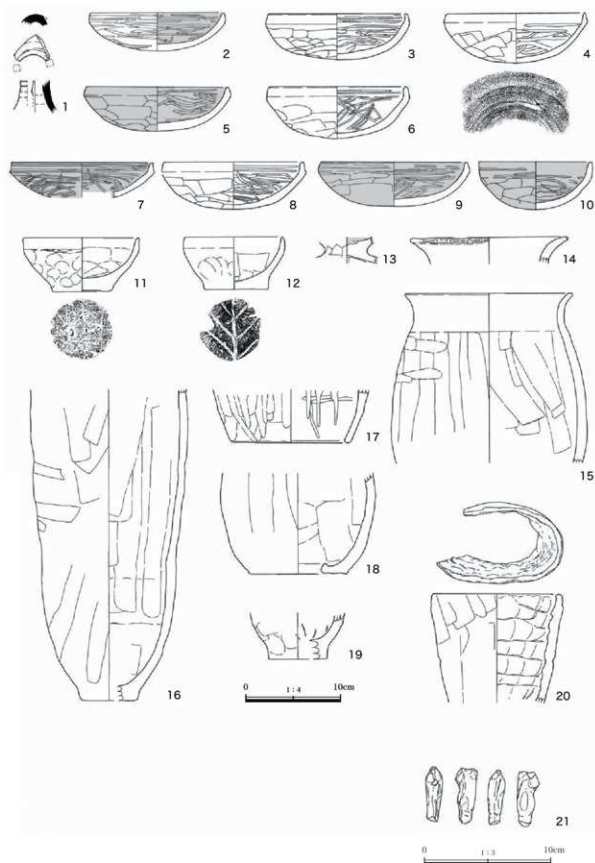
建物跡の時期は、土師器坏の特徴から 6 世紀後葉の年代が与えうる。



カマド 土製説明

- 1 褐色土 今市バミス粒・七本椀バミス粒少量混入。しまり富む。
- 2 灰褐色土 灰色粘土主体。今市バミス粒・七本椀バミス粒微量混入。しまり富む。(天井附着土)
- 3 灰色土 灰色粘土主体。しまり富む。破面。(天井附着土)
- 4 褐色土 粘土粒少量。ローム粒・今市バミス粒微量混入。しまり富む。
- 5 暗褐色土 ローム粒多量。今市バミス粒微量混入。しまり富む。
- 6 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少量混入。しまり富む。(天井附着土・煙道突入土)
- 7 暗灰褐色土 粘土粒多量。ローム粒少量。焼土粒微量混入。しまり富む。(天井附着土・煙道突入土)
- 8 灰色土 灰色粘土主体。今市バミス粒・七本椀バミス粒微量混入。しまり富む。(カマド袖)
- 9 黒褐色土 黒色土主体。ローム粒・今市バミス粒少量混入。(カマド掘方埋土)

第 62 図 北ノ内遺跡 SI-11カマド実測図



第63図 北ノ内遺跡 SI-11出土遺物

第20表 北ノ内遺跡 SI-11 出土土物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 高坏	口径：— 底径：— 器高：(3.4)	黒色粒、砂粒	内：脚部ロコナデ 外：脚部ロコナデ	内：灰白色 外：灰白色 ・やや不良	脚部破片	透かし孔の形状不明。 2カ所もしくは1カ所上	覆土
2	土師器 坏	口径：(14.0) 底径：3.2 器高：4.0	透明粒少量、 雲母、砂粒	内：口縁部ココナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ヘラミガキ 外：口縁部ココナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ヘラケズリ 後ヘラミガキ	内：褐色 外：にぶい黄褐色・黒 色・良	1/2	扁平な半球形状。漆仕 上げ処理。	
3	土師器 坏	口径：14.6 底径：3.0 器高：4.8 重量：257.0g	ガラス光沢 黒色粒・雲 母・赤褐色粒 少量	内：口縁部ココナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ヘラミガキ 外：口縁部ココナデ、体~底 部ヘラケズリ	内：褐色 外：明黄褐色 ・良	ほぼ完形		器面剥落箇 所
4	土師器 坏	口径：14.6 底径：— 器高：5.2 重量：256.0g	砂粒	内：口縁部ココナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ヘラミガキ 外：口縁部ココナデ、体~底 部ヘラケズリ	内：にぶい黄褐色 外：浅黄色 ・良	ほぼ完形	底面中央に僅かに凹面 を残す。	覆土
5	土師器 坏	口径：(14.9) 底径：3.4 器高：4.7	黒色粒少量	内：口縁部ココナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ナデ後 ヘラミガキ 外：口縁部ココナデ、体~ 底部ヘラケズリ後ナデ	内：暗褐色 外：にぶい黄褐色・黒 褐色・良	4/7	内外面漆仕上げ処理。	器面剥落箇 所
6	土師器 坏	口径：(14.4) 底径：— 器高：5.5	ガラス光沢 黒色粒、砂粒	内：口縁部ココナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ヘラミガキ 外：口縁部ココナデ、体~底 部ヘラケズリ	内：にぶい褐色 外：灰褐色 ・良	3/4		覆土 底部内面摩 滅
7	土師器 坏	口径：(14.8) 底径：— 器高：(3.6)	微砂粒	内：口縁部ココナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ヘラミガキ 外：口縁部ココナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ヘラケズリ 後ヘラミガキ	内：黒褐色 外：にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/2	内外面漆仕上げ処理。	P1 覆土
8	土師器 坏	口径：14.5 底径：— 器高：5.0	黒色微砂粒、 微砂粒、小 礫、白色針状 物質	内：口縁部ココナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ヘラミガキ 外：口縁部ココナデ、体~底 部ヘラケズリ	内：にぶい黄褐色 外：にぶい褐色 ・良	2/3	底面中央に僅かに凹面 を残す。	覆土
9	土師器 坏	口径：(15.4) 底径：— 器高：4.7	雲母、砂粒	内：口縁部ココナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ヘラミガキ 外：口縁部ココナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ヘラケズリ	内：灰黄褐色 外：にぶい黄褐色 ・良	1/2	内外面漆仕上げ処理。	底部 底部内面摩 滅
10	土師器 坏	口径：12.0 底径：— 器高：5.0	黒色粒・砂粒 少量	内：口縁部ココナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ヘラミガキ 外：口縁部ココナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ヘラケズリ	内：にぶい黄褐色 外：にぶい黄褐色 ・良	4/5	内外面漆仕上げ処理。	覆土 底部内面摩 滅
11	土師器 坏	口径：(12.0) 底径：6.3 器高：5.7	ガラス光沢 黒色粒少量、 砂粒	内：口縁部ココナデ、体~ 底部ヘラナデ 外：口縁部ココナデ、体~ 底部コビナデ・指頭直痕	内：にぶい黄褐色 外：明黄褐色 ・良	口縁~体 部 1/2 底部完存	底部木炭痕あり。	
12	土師器 坏	口径：10.4 底径：5.6 器高：5.5	砂粒、小礫	内：口縁部ココナデ、体~ 底部ヘラナデ 外：口縁部ココナデ、体~ 底部コビナデ・指頭直痕	内：にぶい褐色 外：にぶい褐色 ・良	3/4	底部木炭痕あり。	
13	土師器 高坏	口径：— 底径：— 器高：2.7	黒色粒・透明 粒少量	内：環部ミガキ、脚部ヘラ ケズリ 外：接合部ヘラケズリ	内：灰黄褐色 外：にぶい黄褐色 ・良	接合部破 片	内面漆仕上げ処理か。	覆土
14	土師器 甕	口径：(16.2) 底径：— 器高：(2.7)	砂粒 小礫	内：口縁部ココナデ 外：口縁部ココナデ	内：にぶい褐色 外：にぶい褐色 ・良	口縁部 1/8	口縁部端部に棒状工具に よる刻痕を残す。	覆土
15	土師器 甕	口径：17.6 底径：— 器高：(18.0)	黒色粒、透明 粒、砂粒	内：口縁部ココナデ、胴部 腹位ヘラナデ 外：口縁部ココナデ、胴部 腹位ヘラケズリ	内：にぶい黄褐色 外：にぶい黄褐色 ・良	口縁~胴 部 上半 1/3		覆土
16	土師器 甕	口径：— 底径：(5.3) 器高：(3.3)	透明粒、砂粒 小礫	内：胴部腹位~腹位ヘラナデ ~底部ヘラナデ 外：胴部ヘラケズリ	内：灰黄色 外：にぶい褐色 ・良	胴部 1/2	長軸。内面に積み上げ 痕を残す。	覆土
17	土師器 甕	口径：— 底径：(12.0) 器高：(5.6)	黒色微砂粒、 微砂粒	内：胴部ヘラミガキ 外：胴部ヘラナデ	内：浅黄色 外：浅黄色 ・良	底部 1/12	無底式。孔部端面を丁 率に磨く。	覆土
18	土師器 甕	口径：— 底径：(10.2) 器高：(10.7)	ガラス光沢 黒色粒、透明 粒、砂粒	内：胴部ヘラナデ、底部ヘ ラケズリ 外：胴部ヘラケズリ	内：にぶい黄褐色 外：にぶい黄褐色 ・良	胴部下半 ~底部 1/2	平底底部中央に孔(φ 5.0cm)あり。	覆土
19	土師器 手製石 器	口径：— 底径：(6.0) 器高：(4.9)	黒色粒、透明 粒、砂粒	内：底部コビナデ 外：底部指頭直痕・ヘラナ デ	内：褐色 外：粗~褐色 ・良	1/8	平底で、体部下端内面 に強いコビナデ痕を残 す。	覆土
20	土製石 カマド構 築材か	口径：(13.5) 底径：— 器高：(11.5)	黒色粒、透明 粒、砂粒	内：口縁~体部指頭直痕 外：口縁~体部ヘラケズリ	内：にぶい黄褐色 外：にぶい黄褐色 ・やや不良	口縁~体 部 上半 3/4	筒状で横断面は歪みあ る楕円形。内面は指頭 痕・積み上げ痕を明確 に残す。カマド開口天 井部の補強材か。	内外面各所 指紋
21	土製石 不明土製 器	口径：— 底径：— 器高：(4.4)	ガラス光沢 黒色粒、砂粒	外：指頭直痕	外：浅黄色 ・良	端部欠損	端部をつまみし字型に引 き出す。もう一方の端部 は棒状。手・器・器か。	覆土

SI-13 (第64・65図、第21表、図版七)

調査区西部の12-90グリッドに位置する。南東に古代の竪穴建物跡SI-14、南西に古墳時代のSI-11が近接するのをはじめ、本建物跡南側には建物跡が密集し、最も遺構密度の高い一帯である。強く削平を受けており、壁面を確認できたのは一部で、大部分はかろうじて掘方プランを確認したのみである。

平面形は、削平のため不詳であるが、方形を呈するものと思われる。掘方の規模は南北約4.48m、東西約4.65mで、面積は約20.8㎡である。主軸の振れはN-10°-Wである。

埋土は東壁付近で僅かに残存し、暗褐色土を確認した。

残存する壁の高さは、東壁15.8cm、南壁9.5cm、北壁17.2cmで、外傾して立ち上がる。

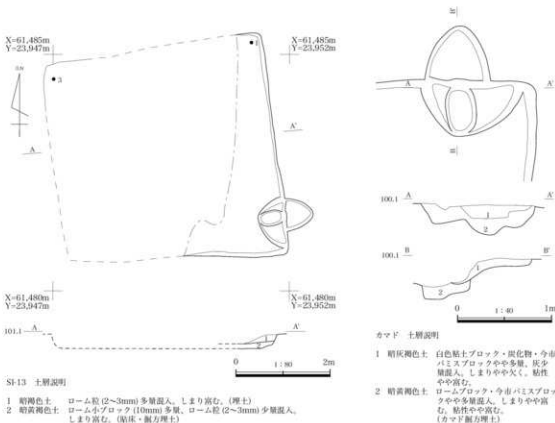
床は暗黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約10.0cmを測る。東壁付近でのみ確認できる。柱穴は調査時には確認されていなかったが、完掘写真を観察すると西壁側掘方内に2カ所の凹みが、東壁側には柱穴様の黒色土のプランがみえ、4本の主柱穴を備えていたものと思われる。また西壁中央付近にも同様に黒色土がみえ、梯子穴の可能性が考えられる。そのほか壁溝等は確認されていない。

カマドは南東コーナー部に構築され、僅かな煙道部と掘方のみ確認できた。掘方の深さは約13.0～16.0cmで、東壁への突出は55.0cmである。

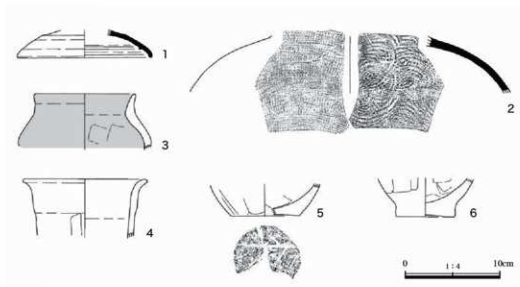
遺物出土状況は、北東コーナーから須恵器杯蓋、北西コーナーの掘方埋土から土師器甕が出土している。

出土遺物は、土師器杯6点36g、土師器甕104点1.545g、須恵器杯蓋1点27g、須恵器甕1点103g、総量112点1.711gと自然礫629gが出土した。

建物跡の時期は7世紀中葉～後葉頃であろう。



第64図 北ノ内遺跡 SI-13実測図



第 65 図 北ノ内遺跡 SI-13 出土遺物

第 21 表 北ノ内遺跡 SI-13 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環蓋	幅径：— 口径：(14.0) 器高：(2.9)	黒色粒、砂 粒	内：体部ロクロナデ 外：天井部回転ヘラケズ リ、体部ロクロナデ	内：灰色 外：灰色 ・良	1/5	返り蓋。	覆土
2	須恵器 甕	口径：— 底径：— 器高：(5.9)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内：肩部同心円文当て具 痕 外：肩部タタキ後ロクロ ナデ	内：灰色 外：灰色 ・良	肩部破 片	肩部外面縦格子タタ キ。	
3	土師器 甕	口径：(10.4) 底径：— 器高：(5.9)	黒色微砂 粒、微砂粒	内：口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラケズリ	内：灰黄褐色 外：灰黄褐色 ・良	口縁部 1/6	小形。剥落著しく不明 瞭なるも内外面に漆仕 上げ処理の可能性あ り。	器面剥落顕 著
4	土師器 甕	口径：(12.8) 底径：— 器高：(6.2)	黒色微砂 粒、砂粒、 礫	内：口縁部ヨコナデ 外：口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラケズリ	内：にぶい黄褐色 外：黒色 ・良	口縁部 1/2	内面黒色処理。	覆土 内面黒色、 小片
5	土師器 甕	口径：— 底径：(7.1) 器高：(3.4)	黒色粒・透 明粒少量、 砂粒多量	内：底部ヘラナデ 外：胴部ヘラケズリ	内：灰黄色 外：灰黄褐色 ・良	底部 3/4		覆土
6	土師器 甕	口径：— 底径：(6.2) 器高：(4.1)	ガラス光沢 黒色粒・砂 粒・小礫多 量	内：底部ヘラナデ 外：胴部ヘラケズリ	内：黒褐色 外：にぶい黄褐色 ・やや不良	底部 1/2	凸状で平底の底部。	覆土

SI-16 (第66～68図、第22表、図版七・二四・二五)

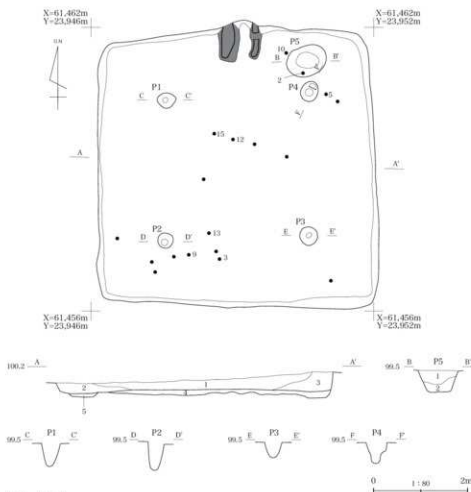
調査区西部南よりの12.91グリッドに位置する。周辺は最も竪穴建物跡が密集する一帯で、本建物跡は古墳時代の建物跡SI-20を切って構築される。北～西には古墳時代の竪穴建物跡SI-5・6a・6b・9・10が、東側には奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-18・19・24・111等が密集している。

平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約5.80m、東西約5.88mで、面積は約34.1㎡である。主軸の振れはN-3°-Wである。

埋土は黒褐色を中心に3層に別けられ、いずれも自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁45.0cm、西壁23.3cm、南壁12.7cm、北壁33.2cmで、外傾して立ち上がる。

床は黄褐色～暗黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約8.0～14.0cmを測る。壁際溝は確認されていない。建物跡中央付近が比較的堅緻で、床が厚くなっている。



SI-16 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム微粒・今市バミス微粒やや少量、焼土粒・七本塚バミス粒少量、しまりやや富む。粘性やや欠く。
 - 2 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒やや少量、焼土粒・白色粘土粒少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
 - 3 暗褐色土 ローム微粒やや少量、焼土粒・今市バミス微粒少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
 - 4 暗黄褐色土 ロームブロック(3～5cm大)・ローム粒・焼土粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(筋灰・裏方埋土)
 - 5 黄褐色土 ロームブロック(3cm大)やや多量、白色粘土ブロック(1cm大)・今市バミスブロック(1cm大)少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(裏方埋土)
- P5
1 暗褐色土 ローム粒少量、今市バミス小ブロック若干混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
2 暗黄褐色土 ローム粒多量、ローム小ブロック少量、炭化物粒若干混入。しまりやや富む。粘性富む。

第66図 北ノ内遺跡 SI-16実測図

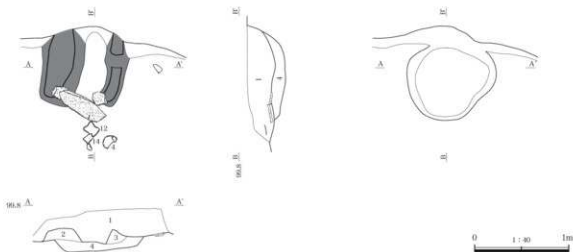
柱穴は、主柱穴P1～4と貯蔵穴P5を確認した。主柱穴の規模は、P1：40.0×34.0cm、深さ49.4cm。P2：34.0×33.0cm、深さ57.0cm。P3：40.0×37.0cm、深さ34.2cm。P4：44.0×36.0cm、深さ43.5cm。貯蔵穴P5は北東コーナーで確認された。80.0×65.0cm、深さ53.3cmの平面楕円形である。

カマドは北壁中央に構築され、暗灰褐色土で構築された両袖が残存していたが、残存状況はあまりよくない。袖は幅25.0～45.0cm、長さ55.0～60.0cm、高さ約12.0～15.0cmで、両袖間の幅は約60.0cmである。カマド掘方は深さ12.0～15.0cmで、北壁への突出は13.0cmである。またカマド構築材と思われる砂岩が出土している。天井部先端に用いたものであろう。

遺物出土状況は、南西コーナー、中央部、北西コーナー、カマド付近から多く出土し、いずれも床面に近い位置での出土である。

出土遺物は、土師器環25点1.425g、土師器甕485点14.986g、土師器甕3点480g、土師器鉢1点262g、土師器埴38点648g、土師器手捏ね土器1点700g、須恵器環2点2g、支脚1点724g、土製品脚部1点203g、総量557点19.430gと自然礫13.698gが出土した。土師器環類は体部外面に稜をもち、口縁の内傾するもの、直立するもの、外傾するもの、外反するものがある。口縁部に横方向のヘラミガキを施すものと施さないものがある。8の土師器鉢は外面にハケ目を有す。9の土師器鉢は外面に粘土紐積み上げ痕と指頭圧痕を明瞭に残し、底部をやや突出させている。15は粘土紐積み上げ痕を明瞭に残す円筒形の土製品で、建物跡中央部から出土した。支脚とも考えられるが、被熱の痕跡がみられない。

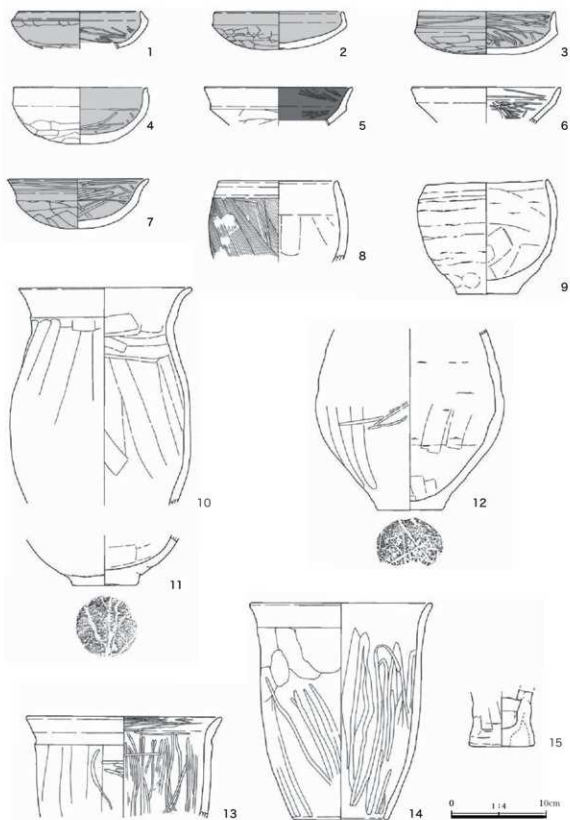
建物跡の時期は、6世紀末～7世紀初頭と考えられる。



カマド 土質説明

- 1 暗褐色土 ローム粒(3～4mm大)・今山バミス粒少量、粘土粒微量混入、しまり高む。
- 2 暗灰褐色土 粘土粒(2～3mm大)多量、粘土小ブロック(1cm大)少量混入、しまり高む、粘性高む。(カマド袖)
- 3 暗灰褐色土 粘土粒(2～3mm大)少量、粘土小ブロック(1cm大)・七木泥バミス粒微量混入、しまり高む、粘性高む。(カマド袖)
- 4 暗褐色土 ローム粒・粘土粒少量混入、粘性高む、軟質。(カマド掘方埋土)

第 67 図 北ノ内遺跡 SI-16カマド実測図



第68図 北ノ内遺跡 SI-16出土遺物

第22表 北ノ内遺跡 SI-16 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 坏	口径: (13.0) 底径: — 器高: (3.9)	透明粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ、体〜 底部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体〜 底部ヘラケズリ	内: 暗褐色 外: 黒褐色 ・良	1/7	内外面漆仕上げ処理。	覆土
2	土師器 坏	口径: 13.5 底径: 3.3 器高: 4.0 重量: 236.0g	透明粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ、体〜 底部ナデ 外: 口縁部ヨコナデ、体〜 底部ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色〜暗 褐色 外: にぶい黄褐色〜暗 褐色 ・良	ほぼ完成	体〜底部外面に僅かに 積み上げ痕を残す。内 外面漆仕上げ処理。	
3	土師器 坏	口径: 14.3 底径: 5.0 器高: 4.5	透明微粒少量、黒色微 粒微量	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体〜底部ヘラミ ガキ 外: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体〜底部ヘラケ ズリ	内: 黒褐色 外: 黒褐色 ・良	3/4	内外面漆仕上げ処理。	
4	土師器 坏	口径: 14.1 底径: 3.4 器高: 6.0	黒色粒、雲 母、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体〜 底部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体〜 底部ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	5/6	漆仕上げ処理か。	カマド・覆 土 内外面摩滅
5	土師器 坏	口径: (15.6) 底径: — 器高: (4.0)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体部 ヘラケズリ	内: 黒色 外: 黒褐色 ・良	1/12	内面黒色処理。	
6	土師器 坏	口径: (15.4) 底径: — 器高: (3.8)	黒色粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体〜 底部ヘラケズリ後	内: にぶい黄褐色 外: にぶい褐色 ・良	1/8		覆土
7	土師器 坏	口径: (14.8) 底径: — 器高: 5.2	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体〜底部ヘラミ ガキ 外: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体〜底部ヘラケ ズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	1/4	口縁は扁平な半球形状 に体〜底部から大きく 開く。内外面漆仕上げ 処理。	カマド
8	土師器 鉢	口径: (12.4) 底径: — 器高: (8.6)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体部 ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、体部 ハケヌ	内: 褐色 外: 褐色 ・良	1/5	小形。	覆土
9	土師器 手控ね 鉢	口径: 13.0 底径: 6.4 器高: 12.1	砂粒、小礫	内: 口縁部ヨコナデ、体〜 底部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、底部 側面折面圧痕	内: 褐色 外: 褐色 ・良	5/6	外面に積み上げ痕を残 す。	覆土
10	土師器 甕	口径: (18.0) 底径: — 器高: (17.8)	黒色粒、小 礫	内: 口縁部ヨコナデ後、胴 部縦位ヘラケズリ様ナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 縦位ヘラケズリ	内: 暗褐色 外: 褐色 ・良	口縁〜胴 部 1/2	最大径を胴部中位にも つ。内面に積み上げ痕 を僅かに残す。	
11	土師器 甕	口径: — 底径: 6.8 器高: (5.3)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内: 胴〜底部ヘラナデ 外: 胴部ナデ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい褐色 ・良	底部完存	小形。外面に積み上げ 痕を残す。底部木葉痕 あり。	覆土
12	土師器 甕	口径: — 底径: 7.0 器高: (19.0)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒	内: 胴〜底部ヘラナデ 外: 胴部ヘラケズリ後一部 ヘラミガキ、底部ヘラケ ズリ	内: にぶい黄褐色 外: 灰黄褐色 ・やや不良	胴部下手 1/2	最大径を胴部下半にも ち。底部は平底。胴部 内面に積み上げ痕を残 す。底部木葉痕・ヘラ 記号「×」。	カマド・覆 土 体部外面下 半焼熟赤化
13	土師器 甕	口径: (20.4) 底径: — 器高: (10.7)	黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、胴部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ一部ヘラミガ キ	内: 褐色 外: 褐色 ・良	口縁〜胴 部 上平 1/4	口縁部は短く外傾する。	覆土
14	土師器 甕	口径: (19.0) 底径: (9.8) 器高: 23.0	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 縦位ヘラナデ後ヘラミガ キ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ後ヘラミガキ	内: 明黄褐色 外: にぶい褐色 ・良	口縁部 1/12 胴〜底部 1/6	無底式。	カマド
15	土製品 脚部	口径: — 底径: (6.9) 器高: (6.9) 重量: 203.85g	ガラス光沢 黒色粒・透 明粒多量、 砂粒	内: 体〜底部ヘラナデ・ユ ビチ子 外: 体〜底部・折面圧痕	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・やや不良	底部 1/2	内外面に積み上げ痕を 残す。底部外面に露状 の圧痕を残す。	一部粘土塊 剥離

SI-18 (第69・70図、第23表、図版七・二五)

調査区西部南壁際の12・92グリッドに位置する。周辺は古墳時代および奈良・平安時代の建物跡が密集し、最も遺構密度の高い一帯である。本建物跡は奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-24と重複し、SI-24が新しい。このほかSI-16・19・20・30・31・111・115が近接している。

平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約4.90m、東西約4.80mで、面積は約23.52㎡である。主軸の振れはN-3°-Wである。

埋土は暗褐色～褐色土で、いずれも自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、西壁32.2cm、南壁22.3cm、北壁35.0cmで、丸みをもって立ち上がり、外傾する。床は暗黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約6.0～8.0cmを測る。床面は平坦である。北西コーナーに詳細不明のP1が確認されたほか柱穴、梯子穴、壁際溝等は確認されなかった。

カマドは北壁西よりに構築され、灰黄色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅35.0～42.0cm、長さ62.0～66.0cm、高さ約22.0～26.0cmで、両袖間の幅は約56.0cmである。カマド掘方は深さ7.0～9.0cmで、ローム粒を多量に含む黄褐色土で埋め戻されている。北壁への突出は25.0cmである。両袖間を跨ぐように円筒形の土製品が出土しており、天井部先端のカマド構築材として利用したものと思われる。

遺物出土状況は、カマド周辺およびカマド内から集中して出土している。7・9はカマド構築材として埋め込まれた状態で出土し、10・11はカマド構築材と思われる。

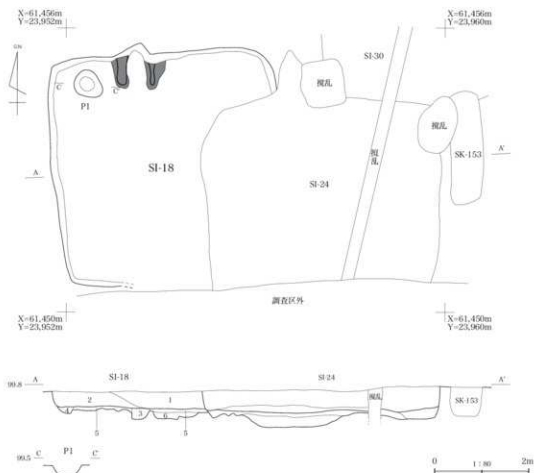
出土遺物は、土師器環1点224g、土師器甕86点4.126g、土師器壺1点2.077g、土師器鉢2点968g、須恵器環1点25g、須恵器甕1点57g、棒状土製品1点114g、土製カマド構築材2点1.864g、総量104点9.455gと自然礫15gが出土した。

土師器環1・2は他の土師器甕・鉢類と時期差があり、混入と考えられる。1は内面黒色処理された土師器環で、体部外面下端を回転ヘラケズリする。体部外面に墨書がみられる。2も内面黒色処理された土師器環もしくは鉢である。建物跡の時期を考える土師器環類は出土していない。

10・11の円筒形土製品は、カマド天井部先端に両袖間を跨ぐように、縦ぎ合わせた状態で出土したもので、内面は粘土緋接合痕がほぼ無調整のままみられ、外面は縦方向にヘラケズリする。胴部上半の平面形は潰れた楕円形で口縁部は指で押さえて収める。底部外面には木葉痕を残す。被熱による赤化・剥離がみられる。10は口径10.2×8.5cm、底径7.2cm、高さ24.9cmで、口縁部内面のみヘラナデする。11は口径7.5×5.0cm、底径5.8cm、高さ28.6cmで、出土状態から天井部先端、焚口の構築材として利用されたものと判断できる。同様の円筒形土製品は、本遺跡SI-11、北ノ内遺跡2次調査のSI-39・42で出土し、特に2次調査SI-42では本建物跡と同様の出土状況がみられる。また市貝町仁王地遺跡E4・5号住居、G18・4号住居でもカマド内から出土しており、北ノ内遺跡周辺におけるカマド構築材の特徴といえる。なお、本遺跡SI-4では板状の土製品がカマド内から出土しており、これもカマド構築材として利用されたと考えられる。

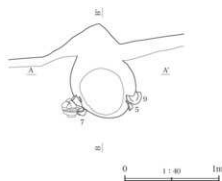
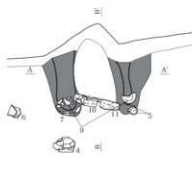
12は断面円形の棒状土製品で用途不明であるが、支脚か。

建物跡の時期は、環類の出土がないため不詳であるが、6世紀代であろう。



SI-18 土層説明

- | | |
|---|---|
| <p>1 暗褐色土
ローム粒や中少量、今由バミス粒・七本板バミス粒少量混入、しまりやや富む。粘性欠く。(埋土)</p> <p>2 褐色土
ローム粒や中多量、今由バミス粒少量混入。しまりやや富む。粘性欠く。(埋土)</p> <p>3 黒褐色土
ロームブロック・ローム粒や中少量、今由バミス粒・七本板バミス粒微量混入。しまり中欠く。粘性やや欠く。</p> | <p>4 暗褐色土
ロームブロック・ローム粒少量混入、しまり欠く。粘性やや富む。(埋土)</p> <p>5 暗黄褐色土
ロームブロックや中少量、ローム粒・焼土粒少量混入、しまりやや富む。粘性やや欠く。(埋土)</p> <p>6 暗黄褐色土
ロームブロックや中少量、ローム粒・焼土粒少量混入、しまり中欠く。粘性やや欠く。(埋土)</p> |
|---|---|

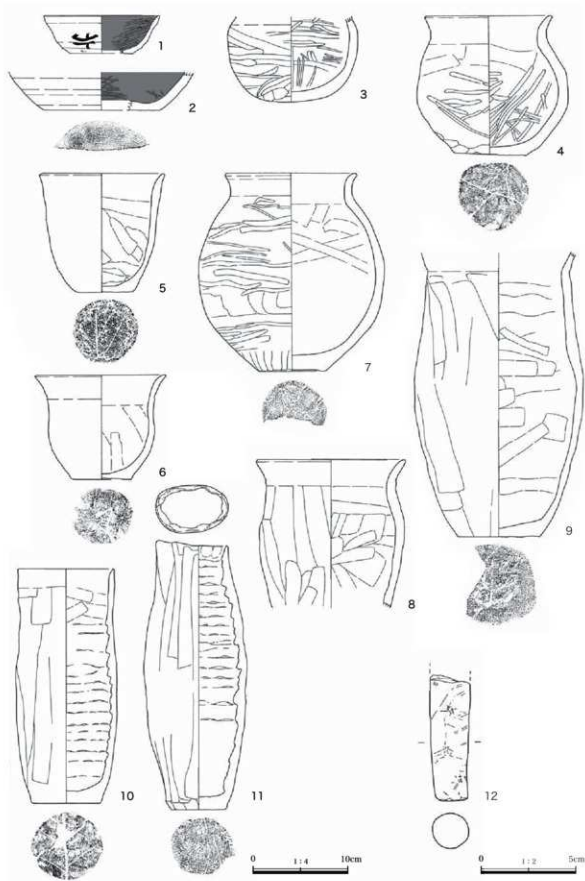


SI-18 カマド 土層説明



- | | |
|---|---|
| <p>1 暗褐色土
ローム粒多量。七本板バミス粒若干混入。しまりやや富む。粘性高む。</p> <p>2 暗黄褐色土
灰黄色粘土主体。しまり富む。粘性高む。(灰多層遺土)</p> <p>3 灰黄色粘土
灰黄色粘土多量混入。しまり富む。粘性高む。(側道灰土)</p> <p>4 灰黄色粘土
灰黄色粘土主体。しまり富む。粘性高む。(カマド跡)</p> <p>5 暗黄褐色粘土
ローム粒多量。粘土若干混入、しまりやや富む。粘性やや富む。(カマド敷力埋土)</p> <p>6 黄褐色土</p> | <p>7 暗褐色土
ローム粒多量。七本板バミス粒若干混入。しまりやや富む。粘性高む。</p> <p>8 暗黄褐色土
灰黄色粘土主体。しまり富む。粘性高む。(灰多層遺土)</p> <p>9 灰黄色粘土
灰黄色粘土多量混入。しまり富む。粘性高む。(側道灰土)</p> <p>10 暗黄褐色粘土
ローム粒多量。粘土若干混入、しまりやや富む。粘性やや富む。(カマド敷力埋土)</p> |
|---|---|

第 69 図 北ノ内遺跡 SI-18 実測図



第70図 北ノ内遺跡 SI-18出土遺物

第23表 北ノ内遺跡 SI-18 出土土物観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 環	口径:(12.2) 底径:(6.6) 器高:4.0	砂粒	内:口縁~底部ヘラミガキ 外:口縁~体部ロクロナ デ、体部下端回転ヘラケ ズリ、底部回転ヘラケズ リ	内:黒色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁~体 部 1/4 底部 1/5	体部外面に黒書「市」 の部分か。内面黒色処 理。	覆土
2	土師器 環	口径:一 底径:(12.0) 器高:(4.0)	ガラス光沢 黒色粒・砂 粒少量	内:体~底部ヘラミガキ 外:体~底部切り離し不 明、底部回転ヘラケズ リ	内:黒色 外:にぶい褐色 ・良	底部 1/3	大形。内面黒色処理。	覆土
3	土師器 壺	口径:一 底径:一 器高:(9.0)	黒色粒、透 明粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ後ヘ ラミガキ、胴~底部ヘラ ミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体 部粗いヘラミガキ、胴部 粗いヘラケズリ	内:明褐色 外:にぶい褐色 ・やや不良	胴部完存		外面被熱一 部赤化、器 面摩滅顕著
4	土師器 甕	口径:(13.5) 底径:7.5 器高:14.8 重量:951.0g	透明粒、砂 粒	内:口縁部ヨコナデ、胴 ~底部ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、同 部ヘラナデ、胴部後ヘラ ミガキ・下端ヘラナデ、 底部ヘラケズリ後ナデ	内:浅黄褐色 外:浅黄褐色 ・やや不良	ほぼ完形	小形。平底の底部で、 最大径を胴部中位にも つ。	全面摩滅
5	土師器 鉢	口径:12.6 底径:5.7 器高:12.6 重量:572.0g	透明粒・砂 粒多量、ガ ラス光沢黒 色粒・小礫 少量	内:口縁部ヨコナデ、胴 ~底部ヘラナデ 外:調整不明瞭	内:にぶい赤褐色 外:褐色 ・不良	ほぼ完形	最大径を口縁部にも つ。底部木葉痕あり。	カマド 外面剝離顕 著
6	土師器 鉢	口径:(13.8) 底径:6.4 器高:11.0	透明粒・砂 粒・小礫多 量、ガラス 光沢黒色粒 少量	内:口縁部ヨコナデ、体 ~底部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ	内:明赤褐色 外:明赤褐色 ・やや不良	3/5	小形。底部木葉痕あり。	P1
7	土師器 甕	口径:(14.0) 底径:7.0 器高:20.9	黒色粒・砂 粒少量	内:口縁部ヨコナデ、胴 ~底部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴 部横位ヘラケズリ後一部 粗いヘラミガキ・下端ヘ ラケズリ、底部ヘラケズ リ	内:浅黄褐色 外:浅黄褐色~褐灰 色 ・良	1/3	口縁部は短く直立気 味。胴部は球形状で最 大径は中位にもつ。	カマド構築 材として利 用
8	土師器 甕	口径:(15.6) 底径:一 器高:(15.8)	黒色粒、砂 粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラケズリ	内:にぶい褐色 外:黒褐色 ・やや不良	口縁部 1/8 胴部 1/2		カマド
9	土師器 甕	口径:一 底径:8.6 器高:(30.0)	黒色粒、雲 母、砂粒	内:口縁部ヨコナデ、胴 ~底部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴 ~底部ヘラケズリ	内:浅黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・やや不良	2/3	胴部内面に積み上げ痕 を僅かに残す。	カマド構築 材として利 用
10	土製品 カマド構 築材	口径:102×85 底径:7.2 器高:24.9	透明粒、砂 粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴 部指頭正取、底部ナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラケズリ	内:明褐色 外:明褐色 ・不良	4/5	筒状で横断面は歪みあ る楕円形。内面に積み 上げ痕を明瞭に残す。 底部木葉痕あり。カマ ド禁口天井部の補強材。	
11	土製品 カマド構 築材	口径:75×50 底径:5.8 器高:28.6	砂粒・小礫 多量	内:口縁~胴部指頭正取、 底部ナデ 外:口縁~底部ヘラケズ リ	内:赤褐色 外:赤褐色 ・不良	4/5	筒状で横断面は歪みあ る楕円形。内面に積み 上げ痕を明瞭に残す。 底部木葉痕あり。カマ ド禁口天井部の補強材。	
12	土製品 棒状	口径:一 底径:一 器高:10.1 重量:114.48g	透明粒・小 礫少量、砂 粒	外:上端ヘラケズリ、側 面ナデ	外:にぶい褐色~褐 灰色 ・良	下端欠損	支脚か。	覆土

SI-20 (第71～74図、第24・25表、図版八・三二)

調査区西部の12-91グリッドに位置する。周囲には古墳時代、奈良・平安時代の建物跡が密集し、最も遺構密度の高い一帯である。本建物跡は西壁を古墳時代の竪穴建物跡SI-16に、南側の大部分を奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-19・111によって切られ、大部分を失っている。また北東コーナー付近をSK-120に、カマド奥壁から煙道を掘乱によって失っている。

平面形は、西壁を失っているため不詳であるが、東西方向の長い方形を呈するものと思われる。規模は南北約1.80m、東西4.28m以上である。主軸の振れはN-3°-Wである。

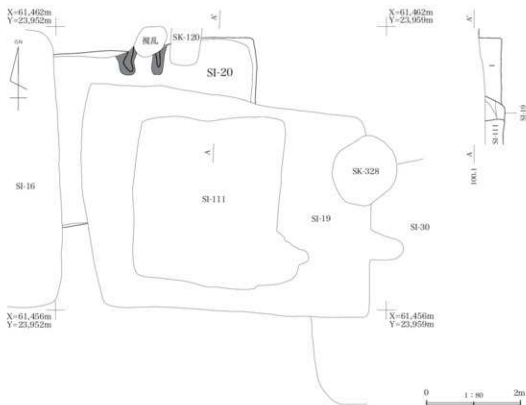
埋土は暗黄褐色土の単層で、ローム土を多量に含むことから人為堆積と考えられる。

残存する壁の高さは、東壁37.5cm、北壁38.5cmで、垂直に近く立ち上がる。

床はロームを床面とする。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認されていない。

カマドは北壁中央に構築され、灰色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅24.0～42.0cm、長さ50.0～61.0cm、高さ約18.0cmで、両袖間の幅は約62.0cmである。カマド掘方は深さ9.0～12.0cmで、煙道部分は掘乱によって失われている。

出土遺物は僅かで、土師器環7点12g、土師器甕21点499g、土師器手捏ね土器1点18g、須恵器環3点



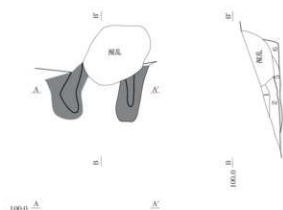
SI-20 土構説明

1 暗黄褐色土・ローム粒(1～2mm大)多量、ローム粒(2～3mm大)少量、焼土粒微量混入、しりぞひ、粘性やや高む。

第71図 北ノ内遺跡 SI-20 実測図

20g、鉄製品(刀子)1点0.3g、総量33点549gと自然礫96gが出土した。1の土師器環は外面に粘土紐接合痕がみられる手握ね成形の環である。

建物跡の時期は、遺物が少量のため明らかではないが、本建物跡に後続するSI-16に先行し大きくさかのぼらない時期、6世紀後葉と考えられる。



SI-20 カマド 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム粒若干混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
- 2 暗褐色土 焼土粒多量。ローム粒若干混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
- 3 灰色粘土 灰色粘土主体。しまり富む。粘性富む。(カマド施)
- 4 暗褐色土 白色粒若干混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(カマド裏方埋土)
- 5 暗黄褐色土 暗褐色土主体にローム粒(1~2mm大)多量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(カマド裏方埋土)
- 6 暗褐色土 ローム粒多量。ロームブロック少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(カマド裏方埋土)

第72図 北ノ内遺跡 SI-20カマド実測図



第73図 北ノ内遺跡 SI-20出土遺物



第74図 北ノ内遺跡 SI-20出土鉄製品

第24表 北ノ内遺跡 SI-20出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 手握ね	口径:(11.2) 底径:— 器高:(3.0)	黒色粘微量	内:口縁部ココナデある も調整不明瞭 外:調整不明瞭	内:灰黄色 外:浅黄色 ・不良	口縁部 1/6	外面に積み上げ痕を残す。	カマド 器面の磨損 著

第25表 北ノ内遺跡 SI-20出土鉄製品観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	刀子	長さ:(6.4) 厚さ:0.2 重量:0.3g	茎の大部分を欠く。断面は角楕。対部側に区があり、2mmほどの段が付く。	茎部欠損	覆土

SI-22 (第75～77図、第26・27表、図版八・二五)

調査区西部の12-91グリッドに位置する。周囲には古墳時代および奈良・平安時代の建物跡が密集し、最も遺構密度の高い一帯である。本建物跡は古墳時代の竪穴建物跡SI-25、奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-23、掘立柱建物跡SB-317、土坑多数に切られる。また強く削平を受けており、掘方埋土のみ確認された。

平面形は、方形を呈する。規模は南北約8.05m、東西約7.32mで、面積は約59.0㎡である。主軸の振れはN-14°-Wである。

掘方埋土は暗褐色土を呈し、確認できた深さは2.0～4.0cmである。柱穴、梯子穴、壁溝等は確認されていない。

カマドは削平によりほとんど失われ、東壁北寄りに掘方が僅かに確認された。

遺物出土状況は、北東コーナーおよび建物跡中央～東壁中央にかけて出土している。

出土遺物は、土師器坏34点1.495g、土師器高杯1点140g、土師器甕195点4.855g、土師器鉢2点363g、土師器手捏土器1点106g、須恵器坏蓋1点4g、須恵器坏3点17g、須恵器甕3点68g、鉄製品(鐵)1点28.72g、総量241点7.077gと自然礫33gが出土した。

建物跡の時期は6世紀前葉～中葉と考えられる。

SI-25 (第75・78図、第28表、図版八・三一)

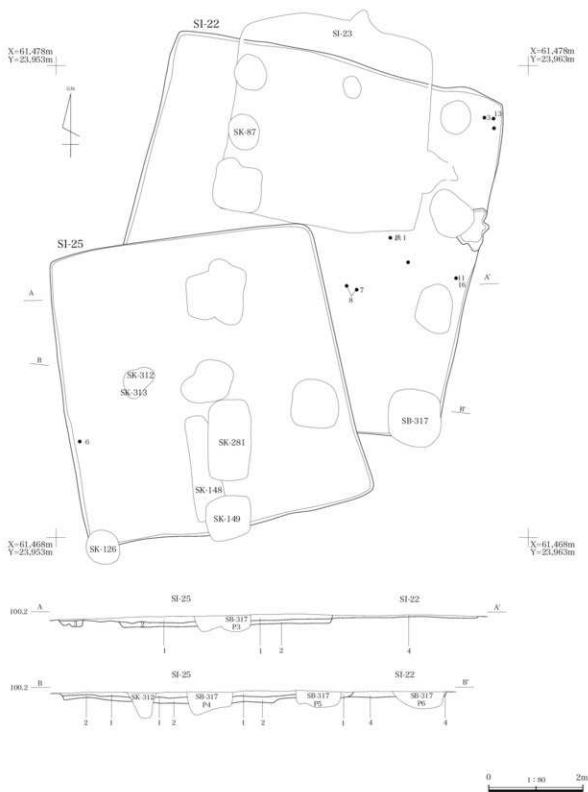
調査区西部の12-91グリッドに位置する。周囲には古墳時代および奈良・平安時代の建物跡が密集し、最も遺構密度の高い一帯である。本建物跡は古墳時代の竪穴建物跡SI-22を切って構築され、奈良・平安時代の掘立柱建物跡SB-317、土坑多数に切られる。また強く削平を受けており、掘方埋土のみ確認された。

平面形は、方形を呈する。規模は南北約6.10m、東西約6.10mで、面積は約37.2㎡である。主軸の振れはN-8°-Wである。

掘方埋土はローム粒を多量に含む暗黄褐色土で、その上に黒褐色土で貼床を施す。確認できた貼床の深さは約4.0～14.0cmを測る。カマド、柱穴、梯子穴、壁際溝は確認されなかった。

出土遺物は僅かで、土師器坏7点150g、土師器甕30点451g、須恵器坏2点29g、石製紡錘車1点35g、総量40点665gと自然礫796gが出土した。1・2の坏は9世紀代と考えられ、4の土師器坏とは明らかな時期差が認められる。建物跡の規模は古墳時代後半にふさわしく、4の土師器坏の時期が建物跡の時期に適する。本建物跡は多数の土坑に切られており、1・2は混入した遺物と考えられる。

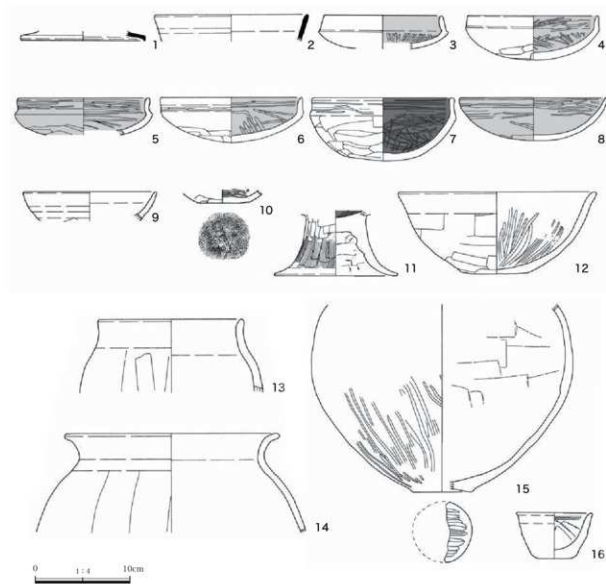
建物跡の時期は、出土遺物が少なく不詳であるが、重複するSI-22に後続しあまり大きくは離れない時期であろう。



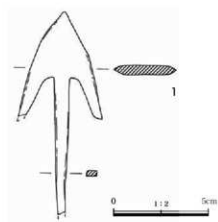
SI-22・25 土層説明

- | | |
|---------|--|
| 1 黒褐色土 | 今市パミヌス粒多量、ローム粒少量混入。しまり落ち。(SI-25 陥床) |
| 2 暗黄褐色土 | ローム粒多量、今市パミヌス粒・七本椀パミヌス粒微量混入。しまり落ち。(SI-25 陥方埋土) |
| 3 暗褐色土 | 今市パミヌスブロック少量、ローム粒微量混入。しまり落ち。(SI-25 陥方埋土) |
| 4 暗褐色土 | ローム粒少量、ローム小ブロック微量混入。(SI-22 埋土) |

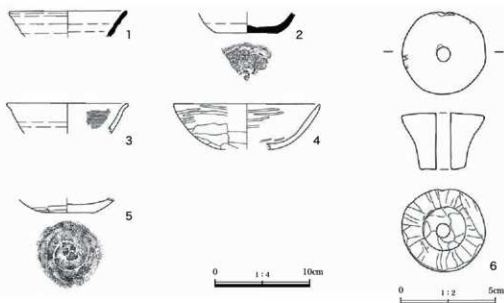
第75図 北ノ内遺跡 SI-22・25 実測図



第76図 北ノ内遺跡 SI-22出土遺物



第77図 北ノ内遺跡 SI-22出土鉄製品



第78図 北ノ内遺跡 SI-25 出土遺物

第26表 北ノ内遺跡 SI-22 出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環蓋	幅径: - 口径: (13.0) 器高: (1.0)	砂粒	内: 裾部ロクロナデ 外: 裾部ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	1/12		覆土 小片
2	須恵器 環	口径: (16.0) 底径: - 器高: (2.8)	砂粒	内: 口縁~体部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	1/12		覆土 小片
3	土師器 環	口径: (12.4) 底径: - 器高: (3.5)	黒色微粒, 微砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部放射状ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内: 灰黄色 外: 褐灰色 ・良	口縁部 1/3	外面に稜をもち口縁部 は内傾する。内外面塗 仕上げ処理。	
4	土師器 環	口径: 13.8 底径: - 器高: 4.7 重量: 281.0g	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体~底 部ヘラケズリ	内: にぶい褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	ほぼ完形	口縁部内面密で丁寧な ヘラミガキ。塗仕上げ 処理か。	
5	土師器 環	口径: (14.0) 底径: - 器高: (3.9)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ヘラケズリ	内: 褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	1/6	内外面塗仕上げ処理。	覆土
6	土師器 環	口径: 15.0 底径: - 器高: 4.7	黒色粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、体部ヘラケズリ後ヘ ラミガキ、底部ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	7/10	内面及び口縁部外面塗 仕上げ処理。	
7	土師器 環	口径: (14.6) 底径: - 器高: 6.7	黒色微粒・ 砂粒少量、 透明微粒微 量	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ヘラケズリ	内: 黒色 外: 暗灰黄色 ・良	1/2	内面黒色処理。	覆土
8	土師器 環	口径: (15.6) 底径: - 器高: 4.5	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ後丁寧 なヘラミガキ、体~底部 ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体部ヘラケズリ 後ヘラミガキ、底部ヘラ ケズリ	内: にぶい褐色 外: にぶい褐色 ・良	1/2	内外面塗仕上げ処理。	覆土
9	土師器 環	口径: (14.0) 底径: - 器高: (3.1)	ガラス光沢 黒色粒・砂 粒少量	内: 口縁~体部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/8		覆土

10	土師器 坏	口径：一 底径：5.5 器高：(1.4)	微砂粒	内：体部一定方向、底部密 な横位ヘラミガキ 外：体部ロクロナデ・下端 ヘラケズリ、底部回転糸 切り後不定方向手持ちヘ ラケズリ	内：黒色 外：褐色 ・良	底部完存		覆土
11	土師器 高坏	口径：一 底径：(13.0) 器高：(6.9)	ガラス光沢 黒色粒少量、 砂粒	内：坏部内面密なヘラミガ キ、脚部ヘラナデ、腹部ヨ コナデ 外：接合部ヘラケズリ、脚 部腹位ハケメ後腹部ヨコ ナデ	内：にぶい黄褐色～黒 色 外：褐色 ・良	脚部 1/4	黒色処理、脚部内面に 積み上げ痕を残す。	
12	土師器 鉢	口径：(20.6) 底径：7.0 器高：8.7	黒色微粒、 微砂粒	内：口縁部ヨコナデ、体→ 底部放射状ヘラミガキ 外：口縁部ヨコナデ、体→ 底部不定方向ヘラケズリ	内：褐灰色 外：にぶい赤褐色 ・やや不良	1/4		覆土 口縁部内面・ 底部外面摩 滅
13	土師器 甕	口径：(15.0) 底径：一 器高：(7.7)	透明粒、砂 粒、小礫	内：口縁部ヨコナデ、肩部 ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ、肩部 ヘラケズリ	内：明赤褐色 外：にぶい黄褐色～黒 色 ・良	1/6	口縁部は僅かに内傾す る。最大径は胴部上半 か。	
14	土師器 甕	口径：(22.6) 底径：一 器高：(10.4)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内：口縁部ヨコナデ、肩部 ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ、肩部 ヘラケズリ	内：にぶい黄褐色 外：にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/4	口唇部は丸みをもつ。 最大径は胴部中位か。	覆土
15	土師器 甕	口径：一 底径：(3.4) 器高：(19.8)	透明粒・砂 粒少量	内：胴→底部ヘラナデ 外：胴→底部一定方向ヘラ ミガキ	内：浅黄褐色 外：褐色 ・良	胴部 1/4 底部 1/2	上底風の底部で、最大 径は胴部中位か。	覆土
16	土師器 手捏ね	口径：(8.1) 底径：3.8 器高：4.8	ガラス光沢 黒色粒多量、 小礫	内：口縁部ヨコナデ沈積 状、体→底部ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ	内：黒色 外：にぶい黄褐色 ・不良	1/4		

第27表 北ノ内遺跡 SI-22 出土鉄製品観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	鏃	長さ：(10.6) 厚さ：一 重量：28.72g	鏃身は長三角形で、逆刺が明瞭につく有茎鏃。茎は鏃身から下端へ直線的に先細りする。断面は鏃身が凸レンズ状、茎がやや台形状である。筋顕著。	下端部欠損	

第28表 北ノ内遺跡 SI-25 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏	口径：(12.4) 底径：一 器高：(2.7)	砂粒、礫	内：口縁→体部ロクロナデ 外：口縁→体部ロクロナデ	内：灰色 外：灰色 ・良	口縁部 1/12		覆土 小片
2	須恵器 坏	口径：一 底径：(6.4) 器高：(2.2)	砂粒、小礫	内：底部ロクロナデ 外：底部回転ヘラ切り後ヘ ラケズリ後ナデ	内：赤褐色 外：赤褐色 ・良	底部 1/5		覆土
3	土師器 坏	口径：(12.6) 底径：一 器高：(3.2)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内：口縁→体部ヘラミガキ 外：体部ロクロナデ	内：黒色 外：にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/12		覆土 小片
4	土師器 坏	口径：(15.6) 底径：一 器高：(4.8)	透明粒多量、 砂粒	内：口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、体→底部ヘラミガキ 外：口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、体部、底部側面ヘラ ケズリ	内：にぶい赤褐色 外：明赤褐色 ・やや不良	1/3		覆土 器面剥落顕 著
5	土師器 坏	口径：一 底径：5.5 器高：(1.5)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内：底部ロクロナデ 外：体部下端ヘラケズリ、 底部回転ヘラ切り後一定 方向手持ちヘラケズリ	内：にぶい黄褐色 外：にぶい黄褐色 ・良	底部完存		覆土
6	石製品 紡錘車	上径：4.4 下径：2.4 厚さ：3.0 孔径：07～08 重量：35.45g	シルト質堆 積岩		外：灰黄色	完形		

SI-26 (第79・80図、第29表、図版八)

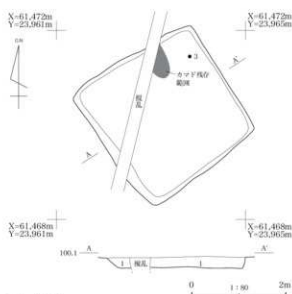
調査区西部の13-91グリッドに位置する。周囲には同時期の建物跡が密集し、最も遺構密度の高い一帯である。

平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約2.96m、東西約2.92mで、面積は約8.8㎡である。主軸の振れはN-34°-Wである。埋土は暗褐色土で、炭化物粒と焼土粒を含む。残存する壁の高さは、東壁20.0cm、西壁20.3cm、南壁15.3cm、北壁19.7cmで、外傾して立ち上がるが、西壁は特に緩やかに立ち上がる。

床はロームを床面とし、建物中央カマド寄りに若干の硬化面を形成している。柱穴、梯子穴、壁際溝等は確認されていない。

カマドは北壁東寄りに構築され、灰白色粘土による僅かな袖の痕跡と火床面らしき焼土が確認されたのみである。

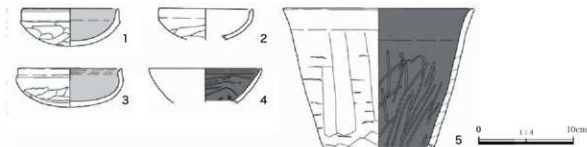
出土遺物は、土師器環6点235g、土師器甕13点364g、土師器甕1点328g、総量20点927gと自然礫4,773gが出土した。建物跡の時期は、7世紀中葉と考えられる。



SI-26 土師器説明

1 暗褐色土。ローム粒やや少量、炭化物粒・焼土粒少量混入。しまりやや高む。粘性欠く。

第79図 北ノ内遺跡 SI-26 実測図



第80図 北ノ内遺跡 SI-26 出土遺物

第29表 北ノ内遺跡 SI-26 出土遺物観察表

№	器種・器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器環	口径:(10.0) 底径:— 器高:4.0	砂粒	内:口縁部ヨコナデ、体~底部ナデ 外:口縁部ヨコナデ、体~底部ヘラケズリ	内:灰褐色 外:にぶい・黄褐色・良	1/3	内面及び口縁部外面漆仕上げ処理。	覆土
2	土師器環	口径:(10.0) 底径:— 器高:(3.3)	砂粒	内:口縁部ヨコナデ、体~底部ナデ 外:口縁部ヨコナデ、体~底部ヘラケズリ	内:にぶい・褐色 外:にぶい・褐色・良	1/5	口縁部内面に凹面を作る。	覆土
3	土師器環	口径:11.0 底径:— 器高:4.1	赤褐色粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ、体~底部ナデ 外:口縁部ヨコナデ、体~底部ヘラナデ・ヘラケズリ	内:褐色 外:褐色・良	3/4	口縁部内面に凹面を作る。漆仕上げ処理。	覆土
4	土師器環	口径:(12.0) 底径:— 器高:(3.7)	ガラス光沢黒色粒、透明粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体~底部ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ	内:黒褐色 外:灰褐色・良	1/4	内面黒色処理。	外面摩滅、小片
5	土師器甕	口径:(20.2) 底径:— 器高:(14.8)	黒色粒、砂粒、赤色礫	内:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	内:黒色 外:にぶい・黄褐色・良	口縁部 1/6 胴部 1/4	内外面に積み上げ痕を残す。内面黒色処理。	覆土

SI-30 (第81・82図、第30表、図版九・二五)

調査区西部の12-92グリッドに位置する。周囲には同時期の建物跡が密集し、最も遺構密度の高い一帯である。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-19・24・31、土坑SK-153・327・328に切られ残存状況は悪い。

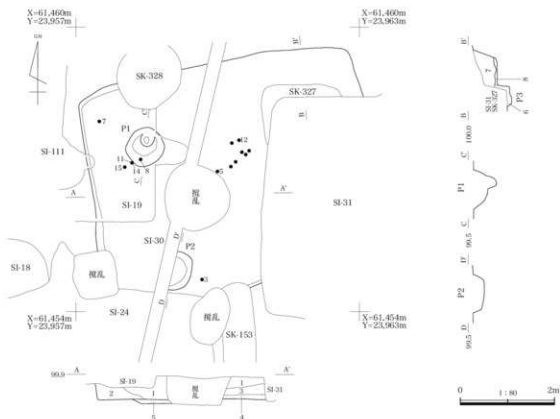
平面形は、東西方向に長い方形を呈する。規模は南北約4.80m、東西約5.92mで、面積は約28.4㎡である。主軸の振れはN-9°-Wである。

埋土は暗褐色～黒褐色を中心としていずれも自然堆積と思われるが、2層はローム粒とロームブロックを多量に含み人為堆積と考えられる。残存する壁の高さは、西壁22.6cm、北壁45.5cmで、外傾する。床は暗褐色土で埋め戻して貼床とするほか、一部はロームを床面とする。貼床の厚さは約8.0cmを測る。

柱穴は、主柱穴P1～3を確認した。P3はSI-31およびSK-327の下から検出されている。規模はP1:84.0×82.0cm、深さ51.5cm。P2:83.0×37.0cm、深さ22.7cm。P3:深さ32.0cm。カマド、梯子穴、壁隙溝は確認されていない。

遺物出土状況は、建物跡中央とP1付近で出土している。出土遺物は、土師器環64点1.363g、土師器壺146点7.710g、土師器甕1点185g、土師器鉢6点740g、須恵器環10点112g、須恵器甕5点321g、石製品砥石1点135g、総量233点10,566gと中世陶磁器1点18g、自然礫664gが出土した。

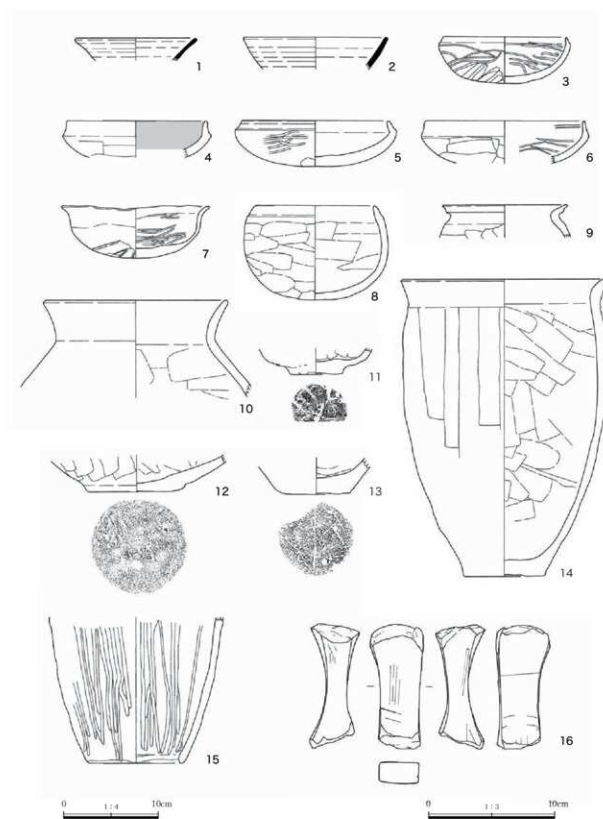
建物跡の時期は6世紀後葉である。



SI-30 土層説明

- 1 暗褐色土 ローム粒多量、炭化物粒少量、焼土粒・七本椀パミス粒微量混入。しまり富む。粘性欠く。(SI-30)
- 2 暗黄褐色土 ローム粒多量、ロームブロック混入。しまり富む。粘性やや富む。(SI-30)
- 3 黒褐色土 ローム粒・焼土粒多量、七本椀パミス粒少量混入。しまり富む。粘性やや富む。(SI-30)
- 4 褐色土 ローム粒多量、七本椀パミス粒微量混入。粘性やや富む。軟質。(SI-30)
- 5 暗褐色土 ローム粒少量、焼土粒微量混入。しまり富む。粘性富む。(SI-30 敷方埋土)
- 6 暗褐色土 ローム粒少量混入。しまり欠く。粘性富む。(SK-327 埋土)
- 7 暗褐色土 ローム粒多量、ローム小ブロック若干混入。しまり富む。粘性やや富む。(SI-30 埋土)
- 8 暗黄褐色土 ローム粒少量混入。しまり富む。粘性富む。(SI-30 貼床・敷方埋土)

第81図 北ノ内遺跡 SI-30実測図



第82図 北ノ内遺跡 SI-30出土遺物

第30表 北ノ内遺跡 SI-30出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏	口径:(12.6) 底径:— 器高:(2.4)	砂粒	内:口縁~体部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	1/7	体部は大きく開く。	小片
2	須恵器 坏	口径:(15.0) 底径:(3.3) 器高:(3.3)	砂粒	内:口縁~体部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	1/12		覆土 小片
3	土師器 坏	口径:12.8 底径:— 器高:4.9	砂粒	内:口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体~底部ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体~底部ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	3/4	口縁部は短く内傾し、端部が尖る。	器面剥落不明瞭
4	土師器 坏	口径:(14.8) 底径:— 器高:(3.9)	黒色粒、透明粒	内:口縁部ヨコナデ、体~底部ナデ 外:口縁部ヨコナデ、体~底部ヘラケズリ	内:黒褐色 外:灰黄褐色 ・良	1/8	内面及び口縁部外面に漆仕上げ処理。	
5	土師器 坏	口径:(15.2) 底径:5.0 器高:4.9	砂粒多量、ガラス光沢 黒色粒・透明粒少量	内:口縁部ヨコナデ、体~底部ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ、底部ヘラケズリ	内:褐灰色 外:灰黄褐色 ・良	1/4	やや厚めの器厚。	
6	土師器 坏	口径:(16.8) 底径:— 器高:(4.5)	黒色粒、透明粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体~底部ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	内:浅黄色 外:浅黄色 ・良	1/8	口縁部ヨコナデはハケメ状の凹凸を残す。	内面厚減
7	土師器 坏	口径:15.6 底径:— 器高:5.5	ガラス光沢 黒色粒、礫	内:口縁~体部横位ヨコナデ後ヘラミガキ、体~底部一定方向ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体部粗いヘラケズリ	内:明黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	1/2		
8	土師器 鉢	口径:12.5 底径:— 器高:10.0 重量:630.0g	ガラス光沢 黒色粒、砂粒、礫	内:口縁部ヨコナデ、体~底部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、体~底部ヘラケズリ	内:褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	ほぼ完形		底部内面厚減
9	土師器 甕	口径:(13.0) 底径:— 器高:(3.4)	砂粒	内:口縁部ヨコナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	内:にぶい褐色 外:にぶい褐色 ・良	口縁部 1/6	小形。口縁端部外面に凹面を作る。	
10	土師器 甕	口径:(19.0) 底径:— 器高:(10.3)	ガラス光沢 黒色粒多量、透明粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部丁寧なナデ・一部ハケメ風。	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/5	口縁部は「く」字状に外傾する。最大径は胴部中位にもつち。胴部丁寧なナデ・一部ハケメ風。	覆土
11	土師器 甕	口径:— 底径:5.6 器高:(2.7)	微砂粒	内:底部ヘラナデツケ 外:胴部エビナデ	内:にぶい褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	底部 1/2	凸状の底部で、木葉痕あり。粘土捏ね方不足でやや窪み作り。	
12	土師器 甕	口径:— 底径:10.2 器高:(3.9)	透明粒、砂粒	内:底部ヘラナデ 外:胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	底部完存	平底で、一定方向ヘラケズリで底面中央に凹面を作る。	
13	土師器 甕	口径:— 底径:7.7 器高:(3.8)	黒色微粒、黒色礫、微砂粒	内:底部ヘラナデ 外:胴部ヘラケズリ	内:赤黒色 外:にぶい赤褐色 ・不良	底部ほぼ完存	厚めの底部で、木葉痕あり。	覆土 外面焼熱赤化
14	土師器 甕	口径:21.0 底径:8.2 器高:30.2 重量:3,037.0g	ガラス光沢 黒色粒、透明粒、砂粒 小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部丁寧なナデ・一部ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	ほぼ完形	口縁部は短く外傾し、最大径を口縁部にもつち、底部外面に盞状の圧痕を残す。	胴部内面上半厚減
15	土師器 甕	口径:— 底径:(9.6) 器高:(15.5)	ガラス光沢 黒色粒、透明粒、砂粒	内:胴部縦位ヘラナデ後ヘラミガキ、底部ヘラケズリ 外:胴部横位ヘラケズリ・ナデ後粗い縦位ヘラミガキ、底部ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:褐色 ・良	胴部下半 1/4	無底式。	
16	石製品 砥石	長軸:110.0 短軸:3.1 厚さ:3.8 重量:135.87g	粒子の細かい砂岩		外:灰白~オリーブ黒色	上下端欠損	欠面が大きく抉れる撥形。側面4面とも砥面・擦痕あり。	覆土

SI-33 (第 83 ~ 86 図、第 31・32 表、図版九・一五・二五・二六・三二)

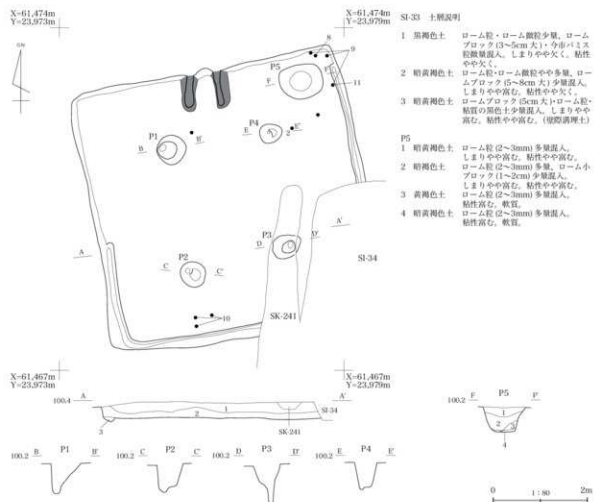
西調査区中央部の 13.91 グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-34 と重複し、南西コーナ一部を失っている。また SK-241 に南壁の一部を破壊されている。また本建物跡は、南東部分の一部が埋土の黒色土上に構築されている。

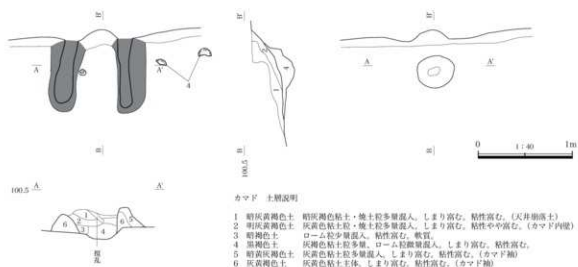
平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約 5.34m、東西約 5.32m で、面積は約 32.80 m² である。主軸の振れは N-12° -W である。

埋土は黒褐色～暗黄褐色土で、いずれも自然堆積と思われる。残存する壁の高さは、東壁 37.7cm、西壁 30.7cm、南壁 21.9cm、北壁 42.2cm で、外傾して立ち上がる。床はロームを床面とし、建物中央部に硬化面を形成している。東壁および南壁と西壁の一部に壁際溝が確認された。

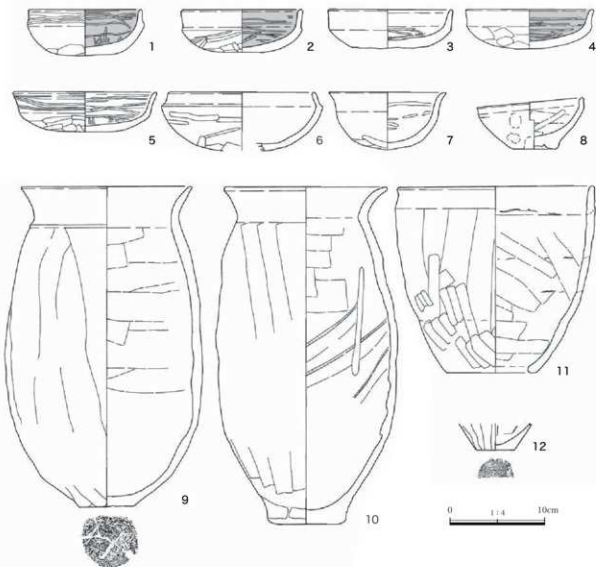
柱穴は、主柱穴 P1～4 を確認した。規模は P1：63.0×62.0cm、深さ 55.7cm、P2：54.0×53.0cm、深さ 57.9cm、P3：64.0×48.0cm、深さ 87cm、P4：50.0×40.0cm、深さ 56.9cm。埋土の観察記録がないが、掘方は柱抜き取り穴を含む形状をしており、柱は抜き取られたものと思われる。また北東コーナ一部で貯蔵穴 P5 を確認した。95.0×73.0cm、深さ 54.9cm の隅丸方形を呈す。

カマドは北壁中央に構築され、灰黄色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅 36.0～38.0cm、長さ 74.0～19.0cm、高さ約 19.0～21.0cm で、両袖間の幅は約 66.0cm である。カマド掘方は深さ 17.0cm で、





第84図 北ノ内遺跡 SI-33カマド実測図

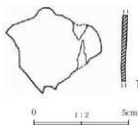


第85図 北ノ内遺跡 SI-33出土遺物

掘方掘削後灰黄色粘土でカマドを築いたのち、内部を埋め戻している。また袖は補修が施されている。

遺物出土状況は、北東コーナーの貯蔵穴 P5 付近から多く出土している。

出土遺物は、土師器環 26 点 1,437g、土師器甕 123 点 9,769g、土師器瓶 1 点 523g、土師器鉢 1 点 10g、須恵器環 1 点 5g、須恵器甕 1 点 27g、須恵器鉢 1 点



第 86 図 北ノ内遺跡 SI-33 出土鉄製品

第 31 表 北ノ内遺跡 SI-33 出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 環	口径: 11.8 底径: 3.8 器高: 4.9 重量: 271.0g	黒色粒・透明 粒・砂粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、体・底部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、底部ヘラケズリ	内: 灰黄褐色 外: にぶい・褐色 ・良	ほぼ完形	内面及び口縁部外面漆 仕上げ処理。	覆土
2	土師器 環	口径: (12.6) 底径: 3.8 器高: 4.6	砂粒少量	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、体部縦位・底部弧状 ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体部ヘ ラミガキ、底部ヘラケズリ	内: にぶい・橙～灰褐色 外: にぶい・橙～灰褐色 ・良	1/2	内面及び口縁部外面漆 仕上げ処理。	
3	土師器 環	口径: (12.9) 底径: 7.7 器高: 4.1	黒色粒・透明 粒・砂粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、体・底部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体・底 部ナデ	内: 褐色 外: 褐色 ・良	底部 3/4	雑な作りで歪みあり。 底部ヘラケズリ途中、 未成段階で焼成か。	床面・覆土 内面摩滅
4	土師器 環	口径: 13.3 底径: 3.4 器高: 4.3 重量: 256.0g	ガラス光沢黒 色粒・透明粒 多量、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ後横位 ヘラミガキ、体部横位ヘ ラミガキ、底部不定方向 ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体・ 底部ヘラケズリ	内: にぶい・褐色 外: にぶい・褐色 ・良	ほぼ完形	漆仕上げ処理。	内面摩滅
5	土師器 環	口径: (15.0) 底径: — 器高: 4.2	砂粒	内: 口縁部ヨコナデ後横位 放射状ヘラミガキ、体部縦位 放射状ヘラミガキ、底部放 射状ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、体・底部ヘラケズリ	内: 灰黄褐色 外: 灰黄褐色 ・良	1/5		覆土
6	土師器 環	口径: (15.0) 底径: — 器高: (6.2)	透明粒・砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体・ 底部ナデ 外: 口縁部ヨコナデ、体部 太いまぼらなヘラミガキ、 底部ヘラケズリ	内: にぶい・赤褐色 外: にぶい・赤褐色 ・良	1/3		覆土
7	土師器 環	口径: (6.2) 底径: — 器高: 6.1	黒色粒・透明 粒・砂粒少量	内: 口縁部ヨコナデ、体部ヘ ラナデ後ヘラミガキ、底部 外: 口縁部ヨコナデ、底部ヘ ラケズリ	内: にぶい・黄褐色 外: 褐色 ・良	1/3	歪みあり。	覆土
8	土師器 環	口径: 11.1 底径: 4.5 器高: 5.1	砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体・ 底部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、体・ 底部部直位・ナデ	内: にぶい・褐色 外: にぶい・黄褐色 ・良	3/4 底部完形	小形。雑な作りで歪み あり。	
9	土師器 甕	口径: 17.8 底径: 5.8 器高: 33.5	透明粒・小礫	内: 口縁部ヨコナデ、胴・ 底部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴・ 底部ヘラケズリ	内: にぶい・黄褐色 外: にぶい・褐色 ・良	4/5	底部周縁粗いヘラケズ リで、木炭痕あり。	P5・カマド・ 覆土
10	土師器 甕	口径: 18.6 底径: (6.2) 器高: 33.3	ガラス光沢黒 色粒・透明粒、 砂粒 小礫	内: 口縁部ヨコナデ、胴・ 底部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ、底部ナデ	内: にぶい・褐色 外: にぶい・褐色 ・良	口縁・胴 部上半完 存 胴部下半 ～底部 1/2		床面・覆土
11	土師器 瓶	口径: 20.5 底径: 9.5 器高: 19.9	ガラス光沢黒 色粒・透明粒、 砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ、底部ヘラケズリ 外: 口縁部ヨコナデ、胴・ 底部ヘラケズリ	内: 褐色 外: にぶい・褐色 ・やや不良	5/6	無底式、内外面に積み 上げ痕を残す。	
12	土師器 甕	口径: — 底径: 4.0 器高: —	透明粒 砂粒	内: 体・底部ヘラナデ 外: 体・底部ヘラケズリ	内: 明褐色 外: 明褐色 ・良	底部 1/2		覆土

第 32 表 北ノ内遺跡 SI-33 出土鉄製品観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	不明 鉄製品	長さ: — 厚さ: 0.2 重量: 10.57g	厚さ 2mm ほどの薄く平坦な板状破片。	不明	覆土

6g、灰釉陶器碗1点6g、支脚1点462g、不明鉄製品1点10.57g、総量157点12.256gと縄文式土器9点236g、自然礫92gが出土した。

土師器環は体部外面に稜をもち口縁が内傾するもの、直立するもの、外傾するもの、外反するものがある。Bは手捏ね成形による環である。建物跡の時期は6世紀前葉～中葉である。

SI-35a (第87～89・92図、第33・35表、図版九・二六)

西調査区中央部の14・91グリッドに位置する。北側に奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-36・37、南西に同じくSI-34が近接する。SI-35bと重複し、SI-35bが新しい。

平面形は、南北に長い方形を呈する。規模は南北約5.90m、東西約5.35mで、面積は約31.6m²である。主軸の振れはN3°・Wである。

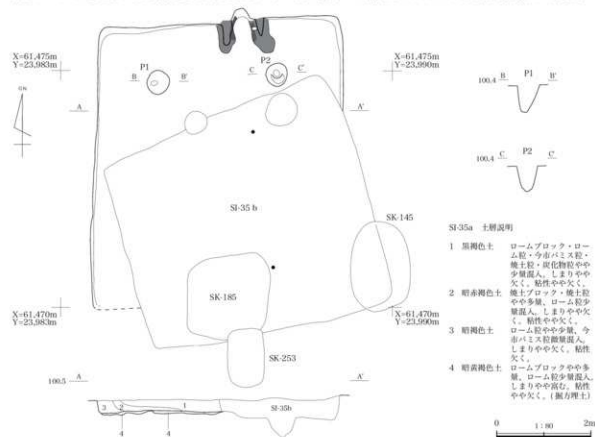
埋土は3層に別けられ、2層は焼土ブロックや焼土粒を含み人為堆積と考えられる。

残存する壁の高さは、東壁52.4cm、西壁22.4cm、北壁23.0cmで、外傾して立ち上がる。

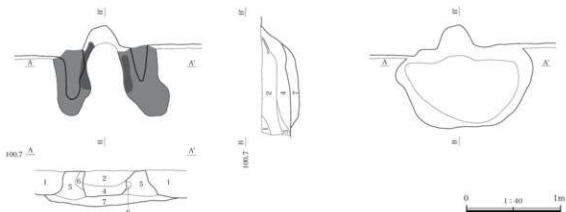
床は暗黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約4.0cmを測る。カマド前面に硬化面が形成されている。壁際溝、梯子穴等は確認されていない。

柱穴は、支柱穴P1・2を確認した。規模はP1:50.0×48.0cm、深さ58.5cm、P2:50.0×45.0cm、深さ46.7cm。

カマドは北壁東よりに構築され、白色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅36.0～40.0cm、長さ68.0～76.0cm、高さ約26.0～30.0cmで、両袖間の幅は約90.0cmである。カマド掘方は深さ11.0cmで、粘土ブロックを多量に含む黒色土で埋め戻されている。北壁への突出は23.0cmである。袖内面から奥壁に



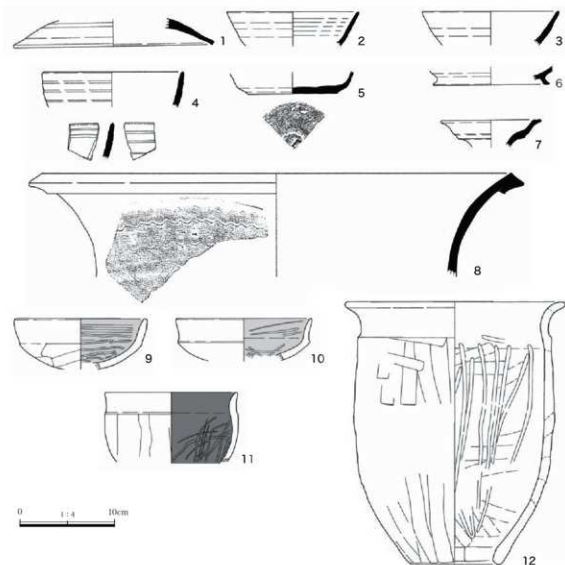
第87図 北ノ内遺跡 SI-35a実測図



SI-35a カマド土析説明

- 1 暗褐色土 今赤・ヒス粒やや多量、ローム粒・七本板・ヒス粒微量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- 2 暗褐色土 ロームブロック・白色粘土ブロック・焼土ブロック少量混入。しまり富む。粘性欠く。
- 3 暗褐色土 ロームブロック・白色粘土ブロック・焼土粒・炭化物粒少量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。
- 4 暗褐色土 焼土ブロック主体、ロームブロック・白色粘土ブロック少量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。
- 5 灰白色土 白色粘土主体、白色粘土ブロック(1~3cm大)・焼土ブロック(1cm大)少量混入。しまり富む。粘性欠く。(カマド跡)
- 6 淡赤色土 5層段熱部分(カマド跡部内壁)
- 7 黒色土 ロームブロック(1~3cm大)・ローム粒・焼土粒少量、粘性のきめ細かい黒色土に混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。(カマド裏方埋土)

第88図 北ノ内遺跡 SI-35aカマド実測図



第89図 北ノ内遺跡 SI-35a出土遺物

第33表 北ノ内遺跡 SI-35a 出土遺物観察表

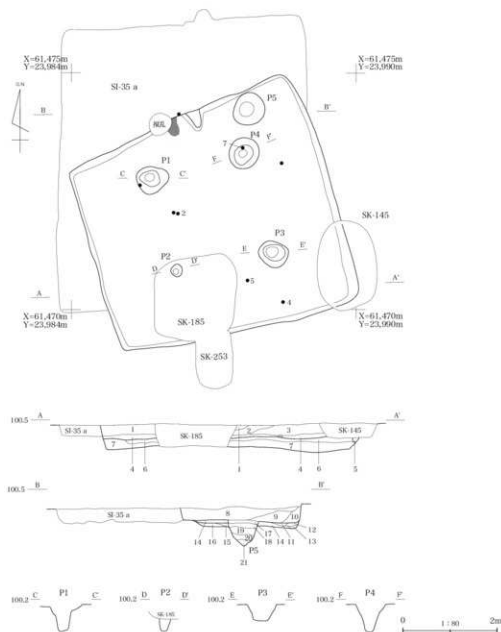
No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 蓋	口径: 一 口径: (20.4) 器高: (2.8)	砂粒	内: 体~胎部ロクロナデ 外: 天井部回転ヘラケズリ、 体~胎部ロクロナデ	内: 灰黄褐色 外: 灰黄褐色 ・良	胎部 1/6		SI-35 と SI-35b 覆土で遺構間接合小片
2	須恵器 杯	口径: (14.0) 底径: 一 器高: (3.6)	砂粒少量	内: 口縁~体部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ	内: 灰白色 外: 灰白色 ・良	口縁部 1/8		覆土小片
3	須恵器 杯	口径: (14.2) 底径: 一 器高: (3.6)	砂粒	内: 口縁~体部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ	内: 褐灰色 外: 褐灰色 ・良	1/10		
4	土師器 高杯	口径: (14.7) 底径: 一 器高: (3.7)	黒色粒、黒色礫	内: 口縁~体部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ	内: 灰黄褐色 外: 灰黄褐色 ・良	1/15	体部外面に三条の沈線。	カマド小片
5	須恵器 高台杯	口径: 一 底径: (9.4) 器高: (2.3)	砂粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、 底部回転ヘラ切り後ナデ	内: 緑灰色 外: 緑灰色 ・良	底部 1/4		
6	須恵器 高台杯	口径: 一 底径: (12.4) 器高: (1.9)	黒色粒、砂粒	内: 体~底部ロクロナデ 外: 体~底部ロクロナデ 後、後付高台後ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	底部 1/8		覆土小片
7	須恵器 盥	口径: (10.4) 底径: 一 器高: (2.9)	黒色粒	内: 口縁部ロクロナデ 外: 口縁部ロクロナデ	内: 暗オリーブ色 外: 灰色 ・良	口縁部 1/6	内面自然釉付着。	
8	須恵器 盥	口径: (49.6) 底径: 一 器高: (10.9)	透明粒・雲母多量、砂粒、小礫	内: 口縁~頸部ロクロナデ 外: 口縁~頸部ロクロナデ・ 磨面貫状文	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁部 1/6		覆土小片
9	土師器 杯	口径: (15.6) 底径: 一 器高: (6.3)	乳白色粒	内: 口縁~体部内面横位・ 底部弧状ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、 体~底部ヘラケズリ	内: 灰褐色 外: 灰褐色 ・良	2/3	内面及び口縁部外面漆仕上げ処理。	胎床層方層中
10	土師器 杯	口径: (14.0) 底径: 一 器高: (4.5)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘ ラミガキ、体~底部ヘラ ミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、 底部ヘラケズリ	内: 赤褐色 外: 赤褐色 ・良	1/6	外面に明顯な線を作る。 漆仕上げ処理。	胎床層方層中
11	土師器 鉢	口径: (14.0) 底径: 一 器高: (7.5)	透明粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、 体部ヘラナデ後ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、 体部ヘラケズリ	内: 黒色 外: 赤褐色 ・良	1/4	内面黒色処理。	覆土 外面被熱赤化
12	土師器 瓶	口径: (22.8) 底径: 9.4 器高: 27.5	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒、 礫	内: 口縁部ヨコナデ、 胴部ナデ後ヘラミガキ、 底部下端ヘラケズリ 外: 口縁部ヨコナデ、 胴~底部ヘラナデ	内: 明黄褐色 外: 赤褐色 ・良	1/3	無底式。	SI-35 と SI-35a で遺構間接合

かけて被熱による赤化・硬化がみられる。

SI-35a・35b で一括して取り上げた遺物は、土師器杯 14 点 188g、土師器盥 128 点 4,588g、土師器瓶 1 点 8g、土師器碗 1 点 9g、須恵器杯蓋 1 点 41g、須恵器杯 3 点 54g、須恵器盥 14 点 1,903g、不明鉄製品 1 点 18.59g、総量 163 点 6,810g と、自然礫 683g、中世陶磁器 1 点 6g、縄文式土器 1 点 27g である。

SI-35a の出土遺物は、土師器杯 2 点 276g、土師器高杯 1 点 9g、土師器盥 56 点 1,752g、土師器瓶 1 点 894g、土師器鉢 1 点 67g、須恵器杯蓋 1 点 47g、須恵器杯 5 点 88g、須恵器盥 1 点 266g、須恵器盥 1 点 23g、総量 69 点 3,422g と縄文式土器 3 点 34g が出土した。

出土遺物は、時期差のある遺物が混在しており、重複する遺構を分離できていない可能性が高い。そのため建物跡の時期決定は難しいが、重複し本建物跡を切る SI-35b が 6 世紀末~7 世紀初であることから 9・10 の土師器杯が建物跡の時期に最も近い時期を示すものと考えて 6 世紀後葉とする。



SI-35b 土層説明

- | | | | |
|---------|---|----------|---|
| 1 暗褐色土 | 今市バミス粒・焼土粒少量、ローム粒・七本板バミス粒微量混入。しまりやや高凸。粘性やや欠く。(埋土) | 12 暗褐色土 | ロームブロック(1cm大)やや少量、砂粒少量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。(掘方埋土) |
| 2 黒褐色土 | 七本板バミス粒やや少量、今市バミス粒少量、七本板バミスブロック微量混入。しまりやや高凸。粘性やや高凸。(埋土) | 13 黒褐色土 | ロームブロック主体、黒色土微量混入。しまりやや欠く。粘性やや高凸。(掘方埋土) |
| 3 暗褐色土 | 七本板バミス粒やや少量、ローム粒・今市バミス粒少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。(埋土) | 14 暗褐色土 | ロームブロック(3~10mm大)やや少量、ローム粒少量、しまりやや高凸。粘性やや欠く。(掘方埋土) |
| 4 暗灰褐色土 | 今市バミス粒・七本板バミス粒やや少量、炭化物・焼土粒微量混入。しまりやや欠く。粘性欠く、やや砂質。 | 15 黒褐色土 | ロームブロック(3~10mm大)・ローム粒少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。(掘方埋土) |
| 5 黒色土 | 今市バミス粒・七本板バミス粒微量混入。しまり欠く。粘性欠く。 | 16 黒色土 | 黒色粘土主体、ロームブロック(1~3cm大)少量混入。しまり高凸。粘性中高凸。(掘方埋土) |
| 6 暗黄褐色土 | ロームブロック少量、ローム粒・今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。しまりやや高凸。(掘床) | 17 暗黄褐色土 | ロームブロック(1~3cm大)やや少量、ローム粒・今市バミス粒微量混入。しまりやや高凸。粘性やや欠く。 |
| 7 黒色土 | ロームブロックやや少量、ローム粒・今市バミス粒・七本板バミス粒微量混入。しまりやや欠く。粘性高凸。(掘方埋土) | 18 灰褐色土 | 白色粘土ブロック(1cm大)やや少量、今市バミス粒微量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。 |
| 8 暗褐色土 | 今市バミス粒やや少量、ローム粒・七本板バミス粒微量混入。しまりやや高凸。(埋土) | 19 黒褐色土 | ロームブロック(1cm大)・ローム粒少量混入。しまり欠く。粘性やや高凸。 |
| 9 暗褐色土 | 焼土ブロック(1~3cm大)・焼土粒・やや少量、ローム粒少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。(埋土) | 20 暗褐色土 | ローム粒・今市バミス粒微量混入。しまり欠く。粘性高凸。粘性土。 |
| 10 暗褐色土 | ローム粒やや少量、今市バミス粒微量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。(埋土) | 21 暗黄褐色土 | ロームブロック(5cm大)やや少量、ローム粒・今市バミス粒少量混入。しまりやや高凸。粘性やや欠く。(掘方埋土) |
| 11 黒褐色土 | ローム粒少量、砂粒微量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。(掘方埋土) | | |

第90図 北ノ内遺跡 SI-35b 実測図

SI-35b (第90～92図、第34・35表、図版九・二六)

西調査区中央部の14-91グリッドに位置する。北側に奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-36・37、南西に同じくSI-34が近接する。SI-35aと重複し、SI-35bが新しい。また後世の土坑SK-145・185・253にも切られる。

平面形は、不整形な方形を呈する。規模は南北約4.80m、東西約5.40mで、面積は約26.0㎡である。主軸の振れはN-19°-Wである。

埋土は暗褐色～黒褐色土で4層に別けられ、自然堆積と考えられる。

残存する壁の高さは、東壁58.5cm、西壁12.7cm、南壁14.6cm、北壁9.8cmで、外傾して立ち上がる。

床は、掘方の大部分を黒色土で埋め戻した上に、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を貼床とする。貼床の厚さは約4.0～10.0cmを測る。壁際溝、梯子穴等は確認されていない。

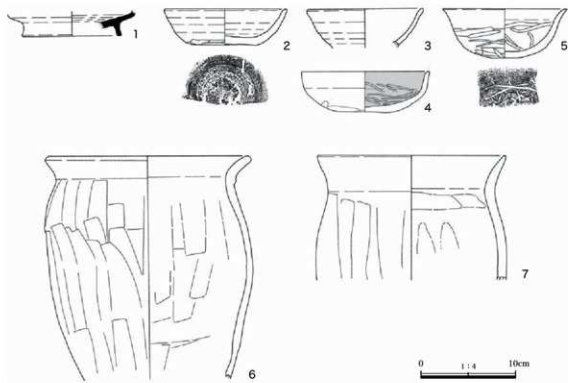
柱穴は、主柱穴P1～4を確認した。規模はP1:65.0×58.0cm、深さ53.1cm。P2:25.0×25.0cm、深さ26.0cm。P3:60.0×57.0cm、深さ35.0cm。P4:65.0×64.0cm、深さ58.6cm。また貯蔵穴P5を確認した。69.0×66.0cm、深さ47.3cmの不整形円形である。

カマドは北壁中央に構築され、僅かに両袖の痕跡が残存していた。

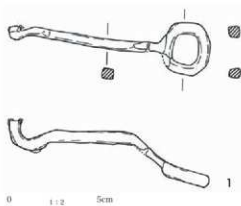
出土遺物は、土師器環13点603g、土師器甕48点3,448g、須恵器環1点32g、支脚2点962g、総量64点5,045gが出土した。

これらの遺物は時期差のあるものが混在する。重複し本建物跡に先行するSI-35aでも時期差があり、SI-35a・SI-35b調査時には重複する別の遺構を分離できていない可能性が高い。本建物跡においては平安時代のもの2・3と古墳時代のもの4・5があるが、出土状況からは4・5の環が床面から出土しており、建物跡の時期に近いと考えられる。

建物跡の時期は7世紀前半葉。



第91図 北ノ内遺跡 SI-35b 出土遺物



第 92 図 北ノ内遺跡 SI-35a・35b 出土鉄製品

第 34 表 北ノ内遺跡 SI-35b 出土遺物観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技 法	色調・焼成	残存率	特 徴	備 考
1	須恵器 高台杯	口径：— 底径：(10.4) 器高：(2.6)	黒色粒、微 砂粒、礫	内：体～底部ロコナデ 外：体～底部ロコナデ、 後付高台後ナデ	内：灰色 外：灰色 ・良	底部 1/4		覆土 小片
2	土師器 環	口径：(12.8) 底径：6.9 器高：3.9	ガラス光沢 黒色粒・小 礫少量	内：口縁～底部ロコナデ 外：口縁部ロコナデ、 体部下端手持ちヘラケズ リ、底部回転ヘラ切り後 粗いヘラナデ・ユビナデ	内：にぶい黄橙～ 褐色 外：にぶい黄橙～ 褐色 ・良	1/2		
3	土師器 環	口径：(12.0) 底径：— 器高：(4.1)	透明粒、砂 粒	内：口縁～体部ロコナデ 外：口縁～体部ロコナデ	内：浅黄褐色 外：浅黄褐色 ・良	1/4	深めの器形。	
4	土師器 環	口径：13.3 底径：5.5 器高：4.5 重量：246.0g	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒	内：口縁部ヨコナデ、体 ～底部ヘラミガキ 外：口縁部ヨコナデ、底 部ヘラケズリ	内：黒褐色 外：灰黄褐色 ・良	ほぼ完 形	漆仕上げ処理。	
5	土師器 環	口径：(12.8) 底径：— 器高：5.2	黒色粒・透 明粒・砂粒 少量	内：口縁部ヨコナデ、体 ～底部ナデ後ヘラミガキ 外：口縁部ヨコナデ、体 部ヘラミガキ、底部ヘラ ケズリ	内：褐色 外：にぶい黄褐色 ・良	1/4	底・体部外面にヘラ記 号か。	
6	土師器 甕	口径：21.0 底径：— 器高：(23.8)	黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内：口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラケズリ	内：にぶい褐色 外：灰褐色 ・良	2/3	口縁部は短く外傾し、 最大径を口縁部と胴部 上半にもつ。	覆土
7	土師器 甕	口径：(19.6) 底径：— 器高：(13.2)	黒色微粒・ 透明粒少量	内：口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラケズリ	内：にぶい黄褐色 外：にぶい黄褐色 ・良	口縁～ 胴部上 半 1/6		

第 35 表 北ノ内遺跡 SI-35a・35b 出土鉄製品観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	特 徴	残存率	備 考
1	不明 鉄製品	長さ：(10.5) 厚さ：— 重量：18.59g	断面が方形の棒状部をゆるやかなくの字状に曲げ、その端部にやや方形の環状部を接合している。反対側の端部は環状部とは 90 度方向に向きを変え弧状を呈しながら曲がる。環状部断面は歪な方形である。棒状部と環状部は接合しておらず、断面幅から推定した。	端部欠損	SI-35a・35b一括

SI-38a (第93・94図、第36表、図版九・二六)

西調査区西部の14-91グリッドに位置する。本建物跡は奈良・平安時代の建物跡SI-38b・39と重複しており、新旧関係はSI-38a < SI-38b < SI-39である。北東に古墳時代の竪穴建物跡SI-40、北西に奈良・平安時代の建物跡SI-37が近接する。SI-38b・39によって大部分を破壊されているため、検出できたのは北半の僅かな掘方のみである。

平面形は、方形を呈すると思われる。規模は確認できた範囲で南北約2.52m、東西約4.62mで、面積は約11.60㎡である。主軸の振れはN-11°-Wである。

掘方をロームブロックを含む黒色土で埋め戻して貼床としている。確認できた貼床の厚さは約4.0～14.0cmを測る。掘方埋土を掘り込む不明ピットP4のほか、梯子穴、壁際溝等は確認されていない。

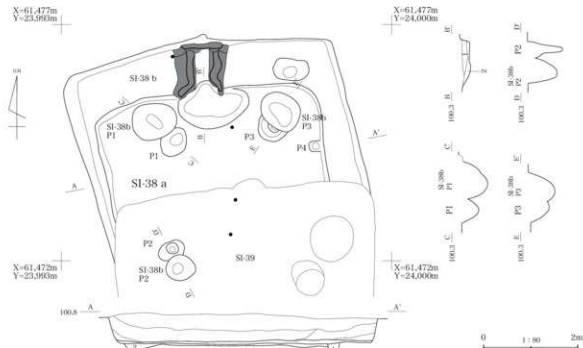
柱穴は、主柱穴P1～3を確認した。規模はP1:60.0×54.0cm、深さ36.7cm。P2:60.0×33.0cm、深さ76.9cm。P3:63.0×35.0cm、深さ40.1cm。

カマドは北壁中央に構築され、掘方のみを検出した。カマド掘方は深さ16.0cmで、粘土ブロックを含む灰黒色土で埋め戻されている。北壁への突出は20.0cmである。

SI-38a・38bで一括して取り上げた遺物は、土師器環9点150g、土師器甕117点4.209g、土師器甕1点21g、須恵器環4点10g、須恵器甕1点56g、総量132点4.446gと縄文式土器35点594gである。

SI-38a・38b・39調査時、重複遺構を分離できなかった遺物として、土師器甕3点124gが出土した。

SI-38aでは、土師器環7点1.691g、土師器甕13点478g、総量20点2.169gと自然礫1.243gが出土した。建物跡の時期は6世紀末～7世紀初である。



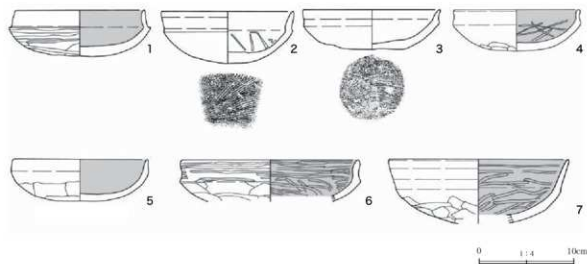
SI-38 土層説明

- 1 黒色土 今由バミスブロック・七本板バミスブロック少量、ロームブロック微量混入。しまり中や欠、粘性やや高直。
- 2 黒色土 ロームブロック・今由バミスブロック・七本板バミスブロック少量混入。しまり高直、粘性やや欠、まの層が4-粘質土。(粘床・掘方埋土)

SI-38a カマド (B-B)

- 1 灰黒色土 まの層が4-黒色土・灰褐色粘土ブロック(1cm大)・今由バミスブロックやや多量混入。しまり欠、粘性高直。
- 2 灰褐色土 今由バミスブロック・今由バミス板・七本板バミスブロック七本板バミス板やや多量、ロームブロック・白色粘土ブロック少量混入。しまり中や欠、粘性やや欠。

第93図 北ノ内遺跡 SI-38a実測図



第94図 北ノ内遺跡 Si-38a 出土遺物

第36表 北ノ内遺跡 Si-38a 出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 坏	口径: 13.6 底径: — 器高: 4.8	黒色粒・砂 粒微量	内: 口縁部ヨコナデ、体 ~底部ナデ 外: 口縁部ヨコナデ、体 部粗いヘラミガキ様ヘラ ナデツケ、底部ヘラケズ リ後ツケ	内: にふい黄褐色 外: にふい黄褐色 ・良	3/4	漆仕上げ処理。	覆土
2	土師器 坏	口径: (14.0) 底径: — 器高: (5.5)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ、体 ~底部粗いヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体 ~底部ヘラケズリ後ハク メ風ヘラナデ	内: 明赤褐色 外: 褐色 ・やや不良	口縁部 1/8		覆土
3	土師器 坏	口径: 14.5 底径: 6.8 器高: 4.2	黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体 ~底部ミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、底 部ヘラケズリ・ヘラナデ ツケで平底風	内: にふい黄褐色 外: 灰褐色 ・良	一部欠 損	底面中央に凹面を残 す。	覆土
4	土師器 坏	口径: (13.0) 底径: — 器高: (4.3)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体 部ヘラミガキ、底部粗い ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、底 部粗いヘラケズリ	内: 黒褐色 外: 褐灰色 ・良	1/3	漆仕上げ処理。	覆土
5	土師器 坏	口径: (14.0) 底径: — 器高: (4.4)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ後ミ ガキ、体~底部ミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体 ~底部ヘラケズリ	内: にふい褐色 外: にふい褐色 ・良	3/4	内外面漆仕上げ処理 か。	SI-38 と SI-39 で遺 構間接合 内外面剥落
6	土師器 坏	口径: (18.6) 底径: — 器高: (4.4)	黒色粒・透 明粒微量	内: 口縁~底部ヨコナデ 後ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ後ヘ ラミガキ、体~底部ヘラ ケズリ・ヘラナデ	内: 灰褐色 外: 黒褐色 ・良	口縁~ 体部 1/4	内外面漆仕上げ処理。	覆土
7	土師器 坏	口径: 18.9 底径: — 器高: (6.8)	砂粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘ ラミガキ、体~底部ヘラ ミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体 ~底部ヘラケズリ	内: にふい黄褐色 外: にふい黄褐色 ・良	3/5	大形、内外面漆仕上げ 処理。	覆土

SI-40a (第95図、図版一〇)

西調査区東部の15-91グリッドに位置する。北に古墳時代の竪穴建物跡SI-45、南西に古墳時代の竪穴建物跡SI-38a、奈良・平安時代の建物跡SI-38b・39が位置する。本建物跡は古墳時代の竪穴建物跡SI-40bと重複し、SI-40b掘方下からカマド掘方と壁際溝のみが確認された。

平面形は、南北に長い方形を呈する。規模は南北約3.80m、東西約3.52mで、面積は約13.4㎡である。主軸の振れはN-3°-Wである。確認された壁際溝はほぼ全周し、幅20～24cm、深さ約4cmである。柱穴、梯子穴等は確認されていない。カマドは北壁中央に構築され、掘方のみ確認された。北壁への突出が大きく、54.0cmを測る。本建物跡に伴う遺物は出土していない。

SI-40b (第95～98図、第37・38表、図版一〇・三二)

西調査区東部の15-91グリッドに位置する。北に古墳時代の竪穴建物跡SI-45、南西に古墳時代の竪穴建物跡SI-38a、奈良・平安時代の建物跡SI-38b・39が位置する。本建物跡は古墳時代の竪穴建物跡SI-40aと重複し、掘方下からSI-40aが確認された。

平面形は、方形を呈する。規模は南北約7.20m、東西約7.42mで、面積は約53.4㎡である。主軸の振れはN-8°-Wである。

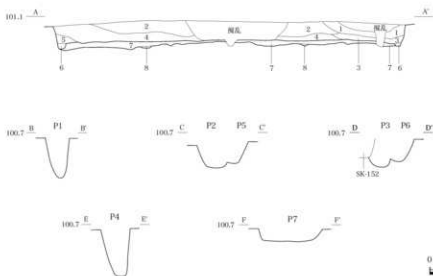
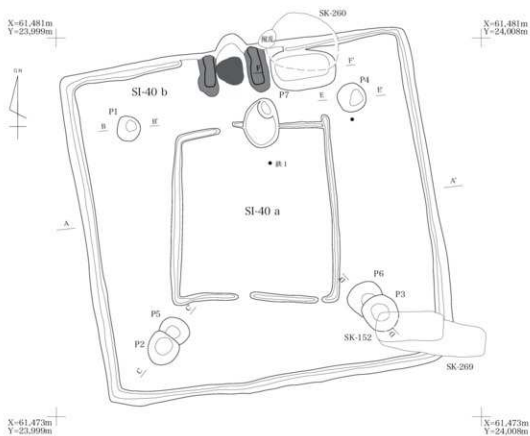
埋土は黒色～黒褐色を中心とする7層に別けられ、いずれも自然堆積と思われる。残存する壁の高さは、東壁69.3cm、西壁47.3cm、南壁71.0cm、北壁67.1cmで、東壁および北壁は垂直に近く立ち上がり、南壁および西壁は外傾して立ち上がる。床は橙褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約4.0～24.0cmを測る。掘方の底面は東半ではルームに到着しているため、床面も東半でより締まって安定している。西側では掘方底面が黒色土中であり、貼床を厚く施し床面の安定を図っている。北壁を除き壁溝が確認された。

柱穴は、主柱穴P1～4と梯子穴P5を確認したほか、P6～8を確認した。主柱穴のうちP1・2・4は床面からの深さ85.0～102.0cmで、柱穴上半は掘方を大きく、下半は柱を深く打ち込んだような掘方形状をしている。平面規模はP1：70.0×70.0cm、P2：93.0×83.0cm、P4：57.0×52.0cmである。P3は65.0×59.0cm、深さ85.3cmで柱が深く打ち込まれた痕跡がみられない。梯子穴P5は南壁中央の壁に寄った位置で確認された。85.0×59.0cm、深さは52.0cmで、埋土の状況から柱は抜き取られていると思われる。P6～8は柱穴として機能したものかどうか不明である。P6：82.0×67.0cm、深さ75.8cm。P7：48.0×46.0cm、深さ65.2cm。P8：85.0×70.0cm、深さ69.6cm。

カマドは北壁中央に構築され、灰白色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅30.0～40.0cm、長さ80.0cm、高さ約20.0～30.0cmで、両袖間の幅は約75.0cmである。カマド掘方は深さ22.0cmで、粘土ブロックを多量に含む暗褐色土で埋め戻されている。北壁への突出は35.0cmで奥壁～煙道部にも灰白色粘土を貼り付けている。

遺物出土状況は、南西コーナーおよび北西コーナー付近から多く出土している。環類はカマド周辺から、甕類は南西コーナー付近からの出土傾向にある。カマドの周囲からはカマド構築材と思われる板状の土製品と板状の砂岩が出土している。また南東コーナーに白色粘土塊がみられた。

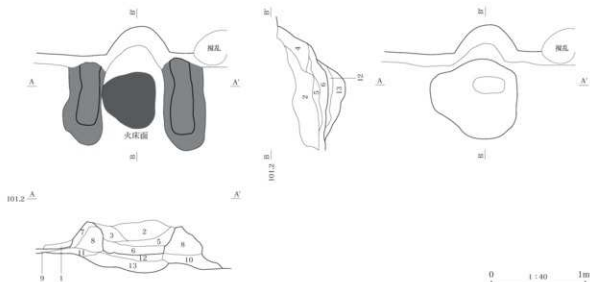
出土遺物は多く、環類の豊富さとカマド構築材が特徴的である。土師器環42点340g、土師器高環1点24g、土師器甕257点4.956g、須恵器環蓋7点120g、須恵器環12点124g、須恵器甕20点542g、須恵器鉢2点59g、支脚2点90g、鉄製品(刀子・棒状鉄製品)2点11.01g、総量345点6.266gと銅銭1枚2.96g、縄文式土器27点696g、自然礫1.019gが出土した。建物跡の時期は7世紀中葉である。



SI-40 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム粒少量、炭化物粒微量混入。しまり欠く。粘性やや欠く。
- 2 暗褐色土 ローム粒・今市パミス粒・七本塚パミス粒少量混入。しまりやや富む。粘性欠く。
- 3 黒色土 ロームブロック・ローム粒少量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。
- 4 褐色土 ローム粒・今市パミス粒・七本塚パミス粒少量、ロームブロック微量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
- 5 原褐色土 今市パミス粒・七本塚パミス粒少量、ロームブロック・ローム粒微量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。
- 6 黒褐色土 ローム粒やや多量。今市パミス粒微量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。(SI-40b 埋設溝)
- 7 黄褐色土 ロームブロック主体。黒色土・今市パミスブロック少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(SI-40b 埋設溝)
- 8 暗黄褐色土 ロームブロック主体。黒色土・今市パミス粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(SI-40a 埋設溝)

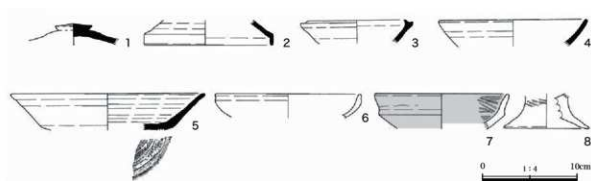
第 95 図 北ノ内遺跡 SI-40a・40b 実測図



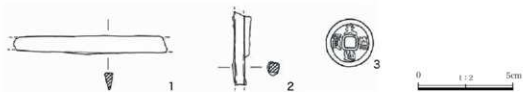
カマダ 土層説明

- 1 暗赤褐色土 ロームブロック・白色粘土ブロック・焼土ブロック・炭化物粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。(カマダ地底出土)
- 2 黄灰褐色土 白色粘土ブロックやや多量。焼土ブロック・焼土粒・黒色土少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。(天井崩土)
- 3 灰褐色土 白色粘土主体。焼土ブロック・焼土粒・炭化物粒少量混入。しまり富む。粘性やや欠く。(天井崩土)
- 4 暗灰褐色土 粘土粒多量。焼土小ブロック少量混入。しまり富む。粘質土。(埴道流入土)
- 5 黒褐色土 焼土粒・白色粘土粒少量混入。黒色土はきり細かい粘質土。しまり欠く。粘性富む。(埴道流入土)
- 6 灰褐色土 焼土ブロック・白色粘土粒・灰やや多量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。(埴道流入土)
- 7 暗灰褐色土 白色粘土主体。焼土ブロック・暗灰褐色土少量混入。(カマダ地)
- 8 赤灰褐色土 白色粘土ブロック主体。焼土粒・炭化物粒少量混入。液熱により白色粘土は黄色がかる。しまり富む。粘性やや欠く。(カマダ地)
- 9 暗褐色土 ロームブロック・焼土ブロックやや多量混入。しまり富む。粘性やや欠く。
- 10 暗赤褐色土 ロームブロック・焼土ブロック・白色粘土ブロックやや多量混入。しまりやや欠く。(台状寄土)
- 11 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒・焼土粒少量混入。(台状寄土)
- 12 暗黄褐色土 ロームブロック・ローム粒やや多量混入。ロームブロックは液熱により焼きしまり。部分的に赤色化する。しまりやや富む。粘性やや欠く。(火床面)
- 13 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒やや少量。黒色土に混入。黒色土は粘質土。しまりやや欠く。粘性やや富む。(面方埋土)

第96図 北ノ内遺跡 SI-40b カマダ実測図



第97図 北ノ内遺跡 SI-40b 出土遺物



第98図 北ノ内遺跡 SI-40b 出土鉄製品

第 37 表 北ノ内遺跡 SI-40b 出土遺物観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏蓋	幅径: 3.9 口径: — 器高: (2.3)	砂粒多量	内: 天井部のみ接合時指頭圧痕 外: 揃み貼付後ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	天井部 1/3		覆土
2	須恵器 坏蓋	幅径: — 口径: (14.0) 器高: (2.7)	砂粒	内: 体～基部ロクロナデ 外: 体～基部ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	基部 1/7	歪みあり。	覆土
3	須恵器 坏	口径: (10.2) 底径: — 器高: (2.4)	砂粒	内: 口縁～体部ロクロナデ 外: 口縁～体部ロクロナデ、体部下端手持ちヘラケズリ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁～ 体部 1/5	口縁部に受部を作り、口縁端部は内傾する。	覆土 小片
4	須恵器 坏	口径: (15.4) 底径: — 器高: (3.8)	砂粒少量	内: 口縁～体部ロクロナデ 外: 口縁～体部ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	1/9		覆土 小片
5	須恵器 高台坏	口径: (20.4) 底径: — 器高: (3.9)	微砂粒、礫	内: 口縁～底部ロクロナデ 外: 口縁～体部ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ	内: 灰黄色 外: 灰黄色 ・良	1/15		P5 貯蔵穴 高台部割離 痕、小片
6	土師器 坏	口径: (15.0) 底径: — 器高: (2.5)	砂粒微量	内: 口縁部ヨコナデ 外: 口縁部ヨコナデ	内: 黄灰色 外: 黄灰色 ・良	口縁部 1/12	口唇部外面に凹面を作る。	覆土 小片
7	土師器 坏	口径: (14.0) 底径: — 器高: (3.7)	砂粒微量	内: 口縁部ヨコナデ後へラミガキ、体部へラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ	内: 暗灰黄色 外: 灰黄色 ・良	口縁部 1/11	口縁部外面に積み上げ痕を僅かに残す。内外面磨仕上げ処理。	覆土 内面摩滅、 小片
8	土師器 高坏	口径: — 底径: (9.0) 器高: (3.7)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内: 脚部ヨコナデ 外: 接合部ナデ・ミガキ、 脚部ヨコナデ	内: にふい黄褐色 外: にふい黄褐色 ・良	脚部 1/4	小さめの脚部。	覆土 小片

第 38 表 北ノ内遺跡 SI-40b 出土鉄製品観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	刀子	長さ: (8.0) 厚さ: 0.4 重量: 7.70	茎部と刃部先端を欠く刀子。棟は最大幅が 4mm ほどで、残存部は棟・刃ともに直線的である。角棟・平造。	刃先端部・茎部 欠損	
2	棒状鉄 製品	長さ: (3.3) 厚さ: 0.5 重量: 3.31g	短軸断面が方形で、両端部を欠損する。表面顕顕著。	両端部欠損	
3	銅銭 天福通 宝	長さ: — 厚さ: — 重量: 2.96g	表面磨耗顕著。	完存	

SI-42 (第 99～101 図、第 39 表、図版一〇・二六)

西調査区東部の 14-90 グリッドに位置する。縄文時代の竪穴建物跡 SI-44、奈良・平安時代の建物跡 SI-41 と重複する。また北側に古墳時代の竪穴建物跡 SI-43、東側に同じく SI-45 が位置する。西壁は削平により失われている。

平面形は、方形を呈するものと思われる。規模は南北約 6.50m、東西約 4.65m で、面積は約 30.2 m² である。主軸の振れは N-6° -W である。

埋土は 3 層に別けられ、いずれも自然堆積と思われる。残存する壁の高さは、東壁 38.0cm、南壁 14.0cm、北壁 29.0cm で、外傾して立ち上がる。掘方を暗黄褐色土で埋め戻し、さらにローム粒を含む黒褐色土を貼っ

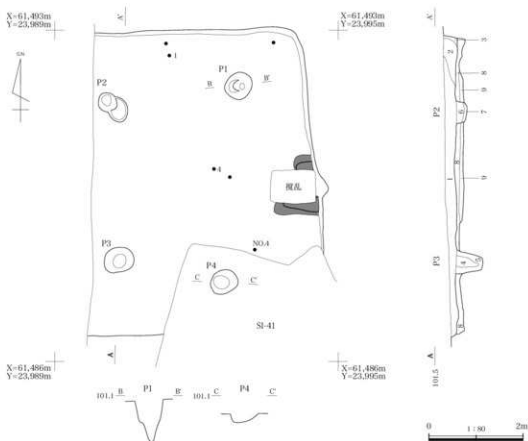
て貼床とし、貼床の厚さは約4.0～12.0cmを測る。梯子穴、壁際溝は確認されていない。

柱穴は、主柱穴P1～4を確認した。規模はP1：60.0×60.0cm、深さ90.0cm、P2：65.0×50.0cm、深さ26.5cm、P3：62.0×55.0cm、深さ47.8cm、P4：58.0×50.0cm、深さ17.9cm。P4で柱痕跡がみられる。

カマドは東壁中央に構築されるが中央を覆乱によって破壊されている。灰黄色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅32.0～44.0cm、長さ38.0～94.0cm、高さ約36.0～40.0cmで、両袖間の幅は約96.0cmである。北壁への突出は16.0cmである。

出土遺物は、土師器環38点735g、土師器高杯1点53g、土師器甕245点6.302g、土師器甕2点40g、土師器鉢16点1,222g、土師器手捏ね土器1点63g、須恵器環5点39g、須恵器甕8点202g、総量316点8,656gと縄文式土器2点39gが出土した。

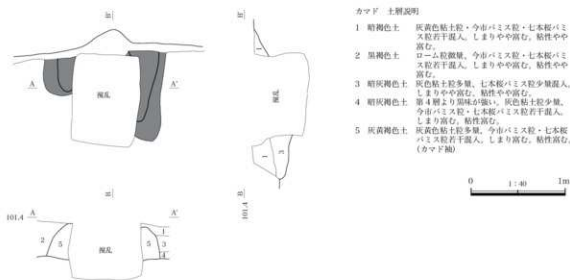
土師器環は外面に稜をもち、口縁が直立する。3は内外面にハケ目をもつ土師器鉢である。4は釜みが大きく、外面に指頭圧痕が残る。5は内面赤彩した高杯。6は手捏ね土器である。建物跡の時期は6世紀末～7世紀初頭である。



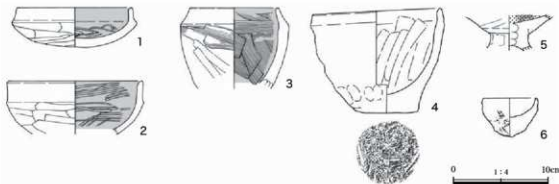
SI-42 土層説明

- 1 暗褐色土 今市バミス粒・七本板バミス粒少量、ローム粘微量混入。しまりやや富む。粘性欠く。
- 2 黒褐色土 今市バミス粒・七本板バミス粒やや多量、ローム粒・焼土粒・白色粘土粒少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
- 3 黒色土 今市バミス粒やや多量、ローム粒・七本板バミス粒少量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。
- 4 黒褐色土 ロームブロック(1～5cm大)やや多量、黒色土少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(P3)
- 5 暗褐色土 ローム主体、赤色土微粒混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(P2)
- 6 黒色土 ロームブロック・今市バミスブロック・ローム粒・白色粘土粒・今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(P2)
- 7 暗黄褐色土 ローム主体、黒色土微粒混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(P2)
- 8 黒褐色土 ローム粒・今市バミス粒やや多量、ロームブロック・今市バミスブロック(5cm大)少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。(壁方)
- 9 暗黄褐色土 ロームブロック(1～5cm大)やや多量、今市バミスブロック(1～5cm大)・黒色土少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。(壁方埋土)

第99図 北ノ内遺跡 SI-42 実測図



第100図 北ノ内遺跡 SI-42カマド実測図



第101図 北ノ内遺跡 SI-42出土遺物

第39表 北ノ内遺跡 SI-42 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 環	口径: 12.0 底径: — 器高: 4.2 重量: 262.0g	黒色粒・透 明粒・砂粒 少量	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部中心部乱れた放射状 ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	ほぼ完全	底部内面外周弧状。 内外面漆仕上げ処理。	
2	土師器 環	口径: (14.0) 底径: — 器高: (5.6)	黒色微粒、 微砂粒	内: 口縁部~底部ヘラミガキ 外: 口縁部粗いヘラミガ キ、体~底部ヘラケズリ	内: 黒褐色 外: 黒褐色 ・良	口縁部 1/6	内面漆仕上げ処理か。	
3	土師器 鉢	口径: (9.2) 底径: (8.5) 器高: (8.5)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内: 口縁部ヨコナデ後ハケ メ厥ヘラナデ、体部ハケメ 外: 口縁部ヨコナデ、体部 ハケメ・ナデ	内: 黒色 外: 粗~黒色 ・良	1/2	小形。口唇部は内傾気 味ですばまり実る。 内面漆仕上げ処理か。	
4	土師器 鉢	口径: 13.5 底径: 6.5 器高: 10.7	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、体部 ヘラケズリ後ナデ、下端 指面王巻、底部ナデ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・やや不良	口縁部 1/2 欠損	小形。僅かに歪みあり。 平底。	外面剥離顕 著
5	土師器 高杯	口径: — 底径: — 器高: (3.8)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 杯部底部ヘラミガキ 外: 接合部ナデ・ケズリ	内: 明赤褐色 外: 明赤褐色 ・良	接合部 1/8	内面赤彩。	覆土 小片の極み
6	土師器 手捏ね	口径: (5.5) 底径: — 器高: 4.1	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 体~底部ユビナデ 外: 体~底部ナデ	内: にぶい黄褐色 外: 黄褐色 ・良	口縁部欠 損	底部丸底、自立不能。 貯蔵穴	

SI-43 (第102・103図、第40表、図版一〇・二六)

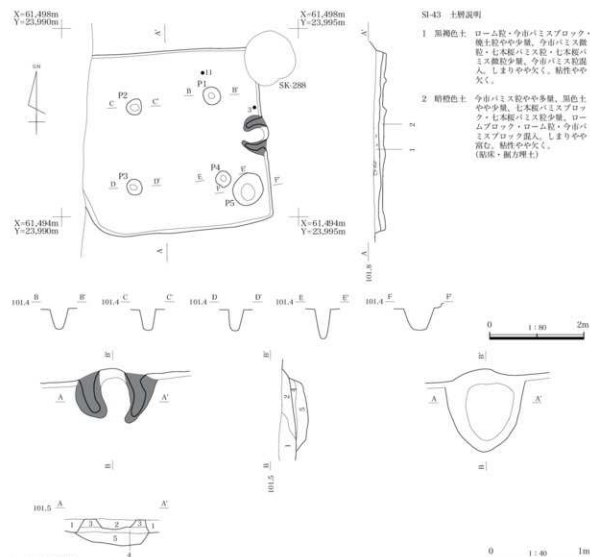
西調査区東部の14-90グリッドに位置する。縄文時代の竪穴建物跡SI-44と重複し、西壁は削平のため失われている。南側に古墳時代の建物跡SI-42・45、奈良・平安時代の建物跡SI-41、北東方向にSI-48が位置する。

平面形は、方形を呈するものと思われる。規模は南北約3.86m、東西約3.95mで、面積は約15.2㎡である。主軸の振れはN-7°-Wである。

埋土は黒褐色土が堆積し、自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁11.5cm、西壁10.2cm、南壁16.3cm、北壁11.4cmで、外傾して立ち上がる。

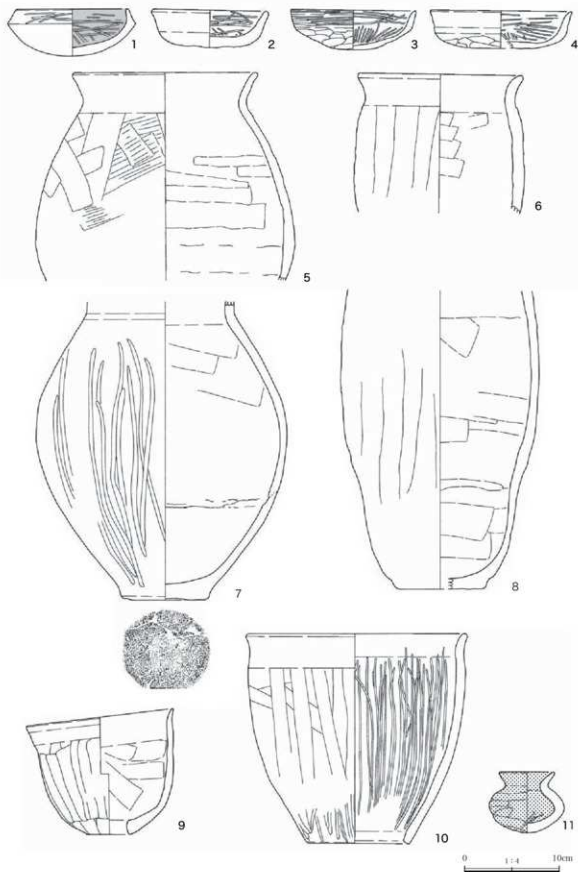
掘方を暗褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約6.0～12.0cmを測る。梯子穴、壁際溝は確認されていない。



カマド 土層説明

- 1 暗褐色土 今市パミス粒少量、七本椀パミス粒若干混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
- 2 暗灰赤褐色土 焼土粒・灰赤褐色粘土多量混入。しまり富む。粘性富む。(棚道埋入土)
- 3 灰色粘土 灰色粘土主体。しまり富む。粘性富む。(カマド跡)
- 4 暗黒褐色土 今市パミス粒微量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(台状寄土)
- 5 暗黄褐色土 今市パミス粒多量、焼土粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(掘方埋土)

第102図 北/内遺跡 SI-43実測図



第103図 北ノ内遺跡 SI-43 出土遺物

柱穴は、主柱穴P1～4を確認した。規模はP1：38.0×36.0cm、深さ42.6cm。P2：35.0×33.0cm、深さ43.2cm。P3：36.0×33.0cm、深さ43.4cm。P4：35.0×34.0cm、深さ63.4cm。また貯蔵穴P5が南東コーナーで確認された。68.0×64.0cm、深さ47.8cmの不整形円形である。

カマドは東壁中央に構築され、灰色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅30.0cm、長さ34.0～36.0cm、高さ約8.0cmで、両袖間の幅は約26.0cmである。北壁への突出は4.0cmである。カマド掘方は深さ20.0cmで、暗黄褐色土で埋め戻した後、暗褐色土を台状に積み上げ、その上に灰色粘土によってカマドを構築している。

出土遺物は、土師器環16点783g、土師器甕199点11,053g、土師器甕2点2,160g、土師器罎1点208g、総量218点14,204gと縄文式土器11点125g、自然礫1,048gが出土した。

土師器環は外面に稜をもち、口縁が内傾するもの、外傾するものがある。5は外面にハケ目をもつ土師器甕である。11は土師器小壺で、内外面に赤色塗料が付着している。塗料保存容器であったか。

建物跡の時期は、6世紀前葉～中葉と考えられる。

第40表 北ノ内遺跡 SI-43 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 環	口径：(11.7) 底径：— 器高：5.0	黒色粒、透明 粒、砂粒	内：口縁部ヨコナデ後横位へラミガキ、体～底部不定方向へラミガキ 外：口縁部ヨコナデ後へラミガキ、体～底部ヘラケズリ	内：にふい・赤褐色 外：にふい・橙色 ・良	2/3	口縁部は内傾し、体部外面との境に稜を作る 内外面漆仕上げ処理。	甕上 外面摩滅
2	土師器 環	口径：(11.8) 底径：5.2 器高：4.0	黒色粒、透明 粒、砂粒	内：口縁部ヨコナデ後へラミガキ、体部横位・底部一定方向へラミガキ 外：口縁部ヨコナデ、体～底部粗いヘラケズリ	内：にふい・黄褐色 外：にふい・黄褐色 ・やや不良	1/2	厚い器厚。僅かに歪みあり。	カマド甕上 内外面摩滅
3	土師器 環	口径：(13.2) 底径：3.0 器高：4.2	黒色粒、透明 粒、砂粒	内：口縁部ヨコナデ後横位へラミガキ、体～底部放射状へラミガキ 外：口縁部ヨコナデ後へラミガキ、体～底部ヘラケズリ後粗いナデツケ	内：にふい・黄褐色 外：にふい・黄褐色 ・良	1/4	口縁部油煎痕あり。	
4	土師器 環	口径：(14.8) 底径：— 器高：4.0	黒色粒、砂粒	内：口縁部ヨコナデ後粗い横位へラミガキ、体部斜位・底部一定方向へラミガキ 外：口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ後ナデ	内：にふい・黄褐色 外：にふい・黄褐色 ・良	1/7		甕上
5	土師器 甕	口径：(19.0) 底径：— 器高：(23.0)	黒色粒、透明 粒、砂粒 小礫	内：口縁部ヨコナデ、胴部一部ハケム風ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	内：明赤褐色 外：にふい・橙色 ・良	口縁部 上半 3/4	口縁部は「く」字状に外傾して開く。最大径は胴部の中下にもつ。胴部内側に積み上げ痕を残す。	甕上
6	土師器 甕	口径：(17.0) 底径：— 器高：(14.6)	砂粒、小礫	内：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	内：にふい・黄褐色 外：にふい・黄褐色 ・良	口縁部 1/4	厚めの器厚。口縁部は内傾し横位に外反し。最大径小片は胴部中位にもつ。	甕上
7	土師器 甕	口径：— 底径：8.5 器高：(31.2)	ガラス光沢黒 色粒か、透明 粒、微砂粒、 砂粒、小礫	内：胴～底部ヘラナデ 外：胴部ヘラミガキ	内：にふい・黄褐色 外：明褐色 ・良	胴部3/4 底部完存	底部中央に凹面を作り、木葉痕あり。	甕上
8	土師器 甕	口径：— 底径：(9.0) 器高：(31.8)	ガラス光沢黒 色粒、砂粒、 小礫	内：胴～底部ヘラナデ 外：胴～底部ヘラケズリ	内：褐色 外：灰黄褐色 ・良	1/2		甕上
9	土師器 甕	口径：15.6 底径：5.2 器高：12.6	黒色粒、透明 粒、砂粒	内：口縁部ヨコナデ、胴～底部ヘラナデ、孔部ヘラケズリ 外：口縁部ヨコナデ、胴部縦位ヘラケズリ	内：にふい・黄褐色 外：にふい・黄褐色 ・良	5/6	小形。底部中央付近に小孔(φ4.1cm)あり。	甕上 内外面摩滅
10	土師器 甕	口径：(22.7) 底径：10.5 器高：22.3	透明粒、微砂 粒、砂粒、小 礫、赤色粒	内：口縁部ヨコナデ、胴～底部ヘラナデ後へラミガキ 外：口縁部ヨコナデ、胴部上半内傾位後、縦位ヘラケズリ、底部へラミガキ	内：灰褐色 外：にふい・黄褐色～灰 褐色 ・良	2/3	無底式で口径9.0cm。整齊な瓮形。	甕上
11	土師器 罎	口径：5.6 底径：— 器高：6.4 重量：208.0g	黒色粒多量、 透明粒、砂粒、 小礫	内：口縁部ヨコナデ、胴～底部ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	内：にふい・黄褐色～ 赤 外：にふい・黄褐色～ 赤 ・良	ほぼ完形	小形。丸底。胴部中位に最大径をもち、口縁部は赤色塗料が厚く付着し、顔料貯蔵の目的か。	甕内面に赤 色塗料が厚 く付着し、 顔料貯蔵の 目的か。

SI-45 (第104～107図、第41・42表、図版一〇・一一・二七・三二)

西調査区東部の14-90グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-41と重複し、西壁の一部を失うが遺存状態は良好で、削平の度合いも弱い。そのほかSK-83・304・306・308に東壁～南壁で重複している。南側に古墳時代の竪穴建物跡SI-40、西側に同じくSI-42・43、北東方向にSI-48が位置する。

平面形は、やや南北に長い方形を呈する。規模は南北約9.00m、東西約8.26mで、面積は約72.0㎡である。主軸の振れはN-3°-Wである。本遺跡中最大規模の竪穴建物跡である。

埋土は14層に別けられるが、一度自然堆積した後、何度が掘削と堆積を繰り返していることが観察される。残存する壁の高さは、東壁71.8cm、西壁70.6cm、南壁60.6cm、北壁61.0cmで、垂直に近く立ち上がる。掘方はあまり深く掘らず、一部暗黄褐色土で埋め戻したのち、全体的に暗黄褐色土で堅く締めて貼床としている。貼床の厚さは約4.0～8.0cmを測り平坦である。建物中央で硬化面が形成されている。

北壁の一部を除きほぼ全周で壁際溝が確認された。溝の幅は20.0～24.0cm、深さ7.0～9.0cmである。柱穴は、主柱穴P1～6と梯子穴P8を確認した。規模はP1:75.0×58.0cm、深さ84.3cm、P2:50.0×40.0cm、深さ27.1cm、P3:84.0×72.0cm、深さ69.8cm、P4:88.0×60.0cm、深さ64.4cm、P5:38.0×36.0cm、深さ63.8cm、P6:88.0×68.8cm、深さ68.8cm、P3・4・6で柱痕跡を確認した。P3・4・6はいずれも柱穴の掘り直しが確認される。P2・5は規模が小さく、補助的な柱として機能したものが。

梯子穴P8は南壁中央に確認された。この部分は壁際溝が確認されず、板壁等が敷設されずに入出口施設を設けていたことが考えられる。規模は65.0×40.0cm、深さ25.0cmである。

北壁に2カ所、東壁に3カ所、小規模な柱穴がみられる。竪穴壁の構築に關係するものか。同様な柱穴のみられる竪穴建物跡は本遺跡で唯一である。北ノ内遺跡2次調査、助五部内遺跡でも確認されていない。

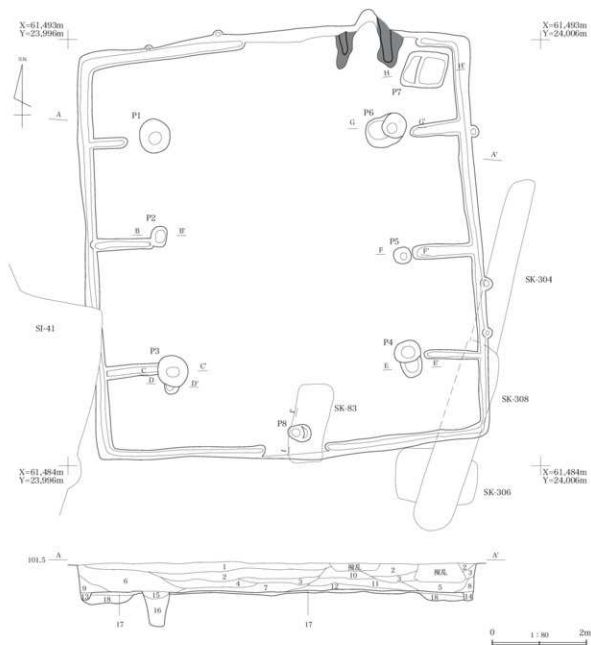
主柱穴と壁の間には床面小溝がみられる。転ばし根太据付掘方と思われる。幅20.0～22.0cm程度である。貯蔵穴P7は、北東コーナー部に確認され、80.0×78.0cm、深さ33.4cmの歪んだ方形を呈する。

カマドは北壁東寄りに構築され、灰白色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅32.0～50.0cm、長さ72.0～80.0cm、高さ約29.0～32.0cmで、両袖間の幅は約106.0cmである。灰黄色粘土による補修がみられる。カマド掘方は深さ22.0cmで、粘土粒を含む黒褐色土で埋め戻されている。上面は火床面で、奥壁までよく焼けて赤褐色を呈する。北壁への突出は18.0cmである。

出土遺物は、土師器環60点1,046g、土師器高杯1点27g、土師器裏838点15,899g、土師器甕2点112g、土師器埴13点203g、土師器手捏ね土器1点97g、円筒形土製品1点67g、須恵器杯蓋9点240g、須恵器環39点546g、須恵器裏43点1,008g、須恵器鉢3点64g、須恵器甕1点73g、須恵器盤1点12g、須恵器円面硯1点45g、支脚1点169g、砥石1点45g、鉄製品(刀子・棒状)3点30.14g、総量1,018点19,683gと縄文式土器27点828g、自然礫4,681gが出土した。

須恵器杯蓋は、返りのあるものが過半数を占めるが時期差が認められる。13は方形透かしの須恵器円面硯。須恵器円面硯は本建物跡のほか、奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-61で方形透かしのものが、北ノ内遺跡2次調査SI-20で2点出土している。土師器環は体部外面に弱い稜をもち、口縁が直立するものと、外反するものがある。17は円筒形土製品。平面形は円形を呈する。円筒形土製品は本遺跡SI-11・18、北ノ内遺跡2次調査のSI-39・42で出土し、また貝貝町仁地遺跡E4・5号住居、G18・4号住居でも出土している。

建物跡の時期は第Ⅷ章で述べる時期区分では7世紀後葉とできる。しかし7・10の須恵器は7世紀末まで下の特徴を示すことから、より正確には7世紀末とするのが妥当である。本建物跡は、建物規模が遺跡中最大規模であるだけでなく、補助的な柱や壁柱穴、床面小溝などの施設面でも他の建物跡とは一線を画する。

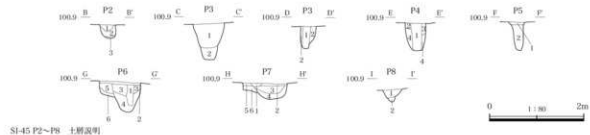


SI-45 土層説明

- | | | | |
|--------|---|----------|--|
| 1 黒褐色土 | 今市パミス粒・七本板パミス粒や中多量、今市パミスブロック・七本板パミスブロック微量混入。しまりや中富む。粘性欠く。 | 10 暗褐色土 | 焼土粒や中多量、ローム粒微量混入。しまりや中富む。粘性欠く。 |
| 2 黒褐色土 | 今市パミス粒・七本板パミス粒少量。灰化物粒微量混入。しまりや中欠く。粘性やや欠く。 | 11 黒褐色土 | ローム粒・焼土粒・今市パミス粒・七本板パミス粒少量。黒色土ブロック微量混入。しまりや中欠く。粘性やや欠く。 |
| 3 黒色土 | ローム粒・白色粘土粒・今市パミス粒・七本板パミス粒少量混入。しまりや中欠く。粘性やや富む。 | 12 灰黒色土 | 白色粘土ブロック・白色粘土粒・焼土粒や中多量、ローム粒・今市パミス粒・七本板パミス粒少量混入。しまりや中富む。粘性やや富む。 |
| 4 黒褐色土 | ローム粒・焼土粒・今市パミス粒・七本板パミス粒や中少量混入。しまりや中富む。粘性やや欠く。 | 13 褐色土 | ロームブロック・ローム粒・焼土粒少量混入。しまりや中欠く。粘性やや欠く。(埋設溝) |
| 5 暗褐色土 | ローム粒や中多量、焼土粒・今市パミス粒・七本板パミス粒少量混入。しまりや中欠く。粘性欠く。 | 14 暗褐色土 | ローム粒や中多量、ロームブロック微量混入。しまり欠く。粘性やや富む。(埋設溝) |
| 6 暗褐色土 | 粘性欠く。 | 15 暗黄褐色土 | ロームブロックや中多量、黒色土・今市パミス粒少量混入。しまりや中富む。粘性やや富む。(P1柱取穴埋土) |
| 7 黒色土 | 白色粘土粒・焼土粒や中多量。ローム粒・今市パミス粒・七本板パミス粒少量混入。しまりや中欠く。粘性やや欠く。 | 16 黄褐色土 | ロームブロック主体。黒色土・今市パミス粒微量混入。しまりや中欠く。粘性富む。(P1柱取穴埋土) |
| 8 黒褐色土 | ロームブロック・ローム粒や中多量。今市パミス粒・七本板パミス粒微量混入。しまりや中欠く。粘性欠く。 | 17 暗黄褐色土 | ロームブロック・今市パミスブロック主体。褐色土少量混入。しまり富む。粘性やや富む。(堀込) |
| 9 黒褐色土 | 今市パミス粒や中多量。ローム粒・七本板パミス粒少量混入。しまりや中欠く。粘性やや欠く。 | 18 暗黄褐色土 | ロームブロック・黒色土・今市パミスブロック中多量混入。しまりや中欠く。粘性やや富む。(掘方埋土) |

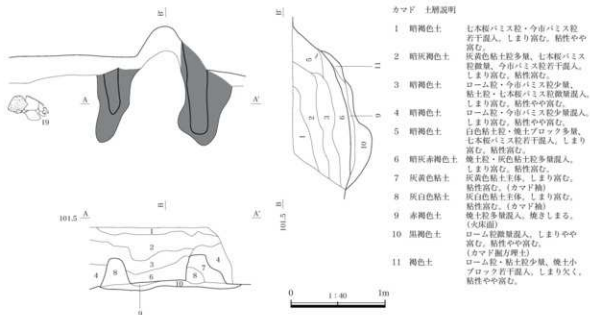
第104図 北ノ内遺跡 SI-45実測図

第三章 北ノ内遺跡の調査

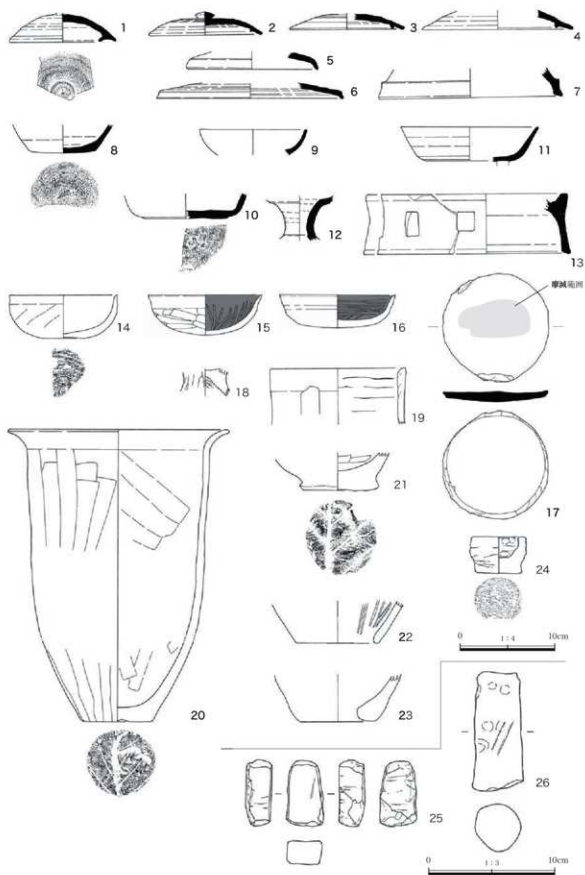


SI-45 P2～P8 土層説明

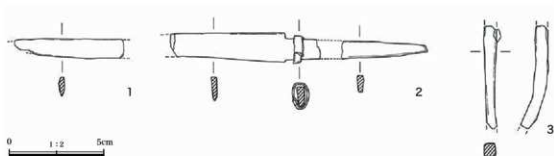
P2	1 暗褐色土	ロームブロック・ローム粒や多量、黒色土ブロック・今市バミス粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。	2 暗褐色土	ロームブロック・ローム粒主体、黒色土ブロック・今市バミス粒微量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。	3 黄褐色土	ローム型化面、黒色土・今市バミス粒が表面に少量付着。しまり富む。粘性やや富む。						
P3 (C-C')	1 黄褐色土	ローム主体、今市バミス粒・黒色土微量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。	2 暗黄褐色土	1～10cm 大のロームブロック多量、1～10cm 大の今市バミスブロック・黒色土ブロック少量混入。しまり富む。粘性やや富む。								
P3 (D-D')	1 暗褐色土	ローム粒少量混入。しまり欠く。粘性欠く。(柱状跡)	2 黄褐色土	ロームブロック主体、黒色土・今市バミスブロック少量混入。しまり富む。粘性やや富む。(柱状方理土)								
P4	1 暗褐色土	ロームブロック・ローム粒・今市バミス粒少量混入。しまりやや富む。粘性欠く。(柱状跡)	2 灰黒色土	ロームブロック・白色粘土ブロック少量混入。しまりやや富む。(柱状方理土)	3 暗黄褐色土	ロームブロック・黒色土少量混入。しまり富む。粘性やや欠く。(柱状方理土)	4 黄褐色土	ローム主体、黒色土・今市バミス粒・七本板バミス粒微量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(柱状方理土)				
P5	1 暗褐色土	ロームブロック・ローム粒・今市バミス粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。	2 黄褐色土	ローム主体、今市バミスブロック微量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。								
P6	1 暗褐色土	ローム粒少量混入。しまり欠く。粘性欠く。(柱状取穴埋土)	2 暗褐色土	ロームブロック・ローム粒・今市バミス粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(柱状取穴埋土)	3 暗黄褐色土	ロームブロック多量、黒色土・今市バミス粒少量混入。しまり富む。粘性やや富む。(柱状取穴埋土)	4 黄褐色土	ローム主体、黒色土・今市バミス粒微量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。(柱状取穴埋土)	5 暗黄褐色土	ロームブロック・ローム粒多量、黒色土・今市バミスブロック少量混入。しまり富む。粘性やや富む。(柱状取穴埋土)	6 黄褐色土	ローム主体、黒色土・今市バミス粒微量混入。しまりやや欠く。粘性富む。(柱状取穴埋土)
P7	1 灰白色土	白色粘土ブロック混入。(埋土)	2 暗褐色土	ロームブロック・焼土ブロック・焼土粒少量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。(埋土)	3 暗赤褐色土	ローム粒・焼土粒・白色粘土粒・炭化物粒やや多量、ロームブロック・焼土ブロック・白色粘土ブロック少量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。(埋土)	4 暗黄褐色土	ロームブロック・ローム粒やや多量、焼土粒・炭化物粒少量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。(埋土)	5 黒色土	ローム粒微量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(埋土)	6 暗褐色土	ロームブロック・今市バミスブロック・黒色土ブロック多量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。(埋土)
P8	1 暗褐色土	ローム粒多量、今市バミス粒微量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。	2 黄褐色土	ローム主体、黒色土・今市バミス粒少量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。								



第105図 北ノ内遺跡 SI-45Pit・カマダ実測図



第106図 北ノ内遺跡 SI-45 出土遺物



第107図 北ノ内遺跡 SI-45 出土鉄製品

第41表 北ノ内遺跡 SI-45 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環蓋	口径: 一 口径:(11.2) 器高:(3.0)	黒色粒・砂 粒微量	内:天井~裾部ロクロナデ 外:天井~裾部回転ヘラ ケズリ	内:灰白色 外:灰白色 ・良	1/6	返り蓋。内面にヘラ記 号「×」。	覆土
2	須恵器 環蓋	口径: 2.0 口径: 11.8 器高: 2.5	黒色礫、砂 粒	内:天井~裾部ロクロナデ 外:天井~裾部ロクロナ デ、揃み貼付後ロクロナデ	内:オリーブ灰色 外:オリーブ灰色 ・良	1/2	返り蓋。	覆土ベルト 以北
3	須恵器 環蓋	口径: 一 口径:(12.0) 器高:(1.7)	透明粒、砂 粒、小礫	内:天井~裾部ロクロナデ 外:天井~裾部回転ヘラ ケズリ	内:灰白色 外:灰白色 ・良	1/3	返り蓋。	覆土
4	須恵器 環蓋	口径: 一 口径:(16.0) 器高:(2.0)	微砂粒、小 礫	内:体~裾部ロクロナデ 外:体部回転ヘラケズリ、 裾部ロクロナデ	内:灰色 外:灰色 ・やや不良	裾部 1/12	返り蓋。	覆土
5	須恵器 盤	口径:(13.8) 底径: 一 器高:(1.8)	黒色粒、砂 粒	内:口縁~体部ロクロナデ 外:口縁部ロクロナデ、体 部回転ヘラケズリ	内:灰色 外:灰色 ・良	口縁~体 部破片	小形で浅い器形か。	覆土 高台部剥離、 小片
6	須恵器 環蓋	口径: 一 口径:(19.6) 器高:(1.6)	黒色粒・砂 粒微量	内:体~裾部ロクロナデ 外:体~裾部ロクロナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	1/8		覆土 器面剥離、 小片
7	須恵器 壺	口径: 一 口径:(19.2) 器高:(3.1)	黒色礫、砂 粒	内:裾部ロクロナデ 外:裾部ロクロナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	裾部 1/12	脚部	覆土 小片
8	須恵器 環	口径: 一 底径:(7.0) 器高:(3.0)	透明粒、砂 粒	内:体~底部ロクロナデ 外:体部ロクロナデ、底 部回転糸切り後回転ヘラ ケズリ後ナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	底部 3/4		カマド覆土
9	須恵器 環	口径:(11.0) 底径: 一 器高:(2.8)	黒色粒、透 明粒、砂粒	内:調整不明瞭 外:調整不明瞭	内:灰白色 外:灰白色 ・やや不良	口縁部 1/4		覆土ベルト 以北 器面剥離顕 著
10	須恵器 環	口径: 一 底径:(8.8) 器高:(2.7)	砂粒	内:体~底部ロクロナデ 外:体部ロクロナデ、底 部回転ヘラ切り後中央部 ヘラケズリ後周縁ナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	底部 1/4	底面中央部に僅かにヘ ラケズリ様ヘラナデ直 を僅かに残す。	覆土
11	須恵器 高台環	口径:(14.4) 底径: 一 器高:(3.6)	砂粒	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナ デ、体部下端回転ヘラケ ズリ	内:黒灰色 外:黒灰色 ・やや不良	1/8	断面は暗赤褐色。	覆土 高台部剥離
12	須恵器 皿	口径: 一 底径: 一 器高:(4.7)	砂粒少量	内:頸部ロクロナデ 外:頸部ロクロナデ	内:灰白~灰オリー ブ色 外:灰色 ・良	頸部 2/3	外水面挽き痕が強く残 る。内外面自然軸付着。	
13	須恵器 円面碗	口径:(21.0) 底径:(21.6) 器高: 6.4	黒色粒多量、 小礫	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	1/6	ヘラ切りの方形透かし 孔三カ所、海一部確認。	覆土ベルト 以北 外面自然軸 付着

14	土師器 坏	口径:(11.4) 底径:— 器高:4.6	微砂粒	内:口縁部ヨコナデ、体 ~底部ナデ 外:口縁部ヨコナデ、体 部ナデ、底部回転ヘラ切り	内:暗灰黄色 外:暗灰黄色 ・良	1/6		覆上ベルト 以北・一括
15	土師器 坏	口径:12.0 底径:— 器高:4.2	黒色粒、透 明粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ後放 射状ヘラミガキ、体~底 部ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体 ~底部粗いヘラケズリ	内:黒色 外:にぶい黄褐色 ・やや不良	5/6	内面黒色処理、外面に 積み上げ痕を僅かに残 す。	覆上ベルト 以北
16	土師器 坏	口径:(12.2) 底径:— 器高:3.5	砂粒微量	内:口縁部ヨコナデ後横 位ヘラミガキ、体~底部 一定方向ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体 ~底部ヘラケズリ	内:黒色 外:明黄色 ・良	1/3	内面黒色処理。	覆上ベルト 以北 体~底部外 面剥落
17	須恵器 高台坏 転用規	口径:— 底径:11.2 器高:(1.0)	白色粒多量、 小礫少量		内:灰色 外:灰色 ・良	底部	内面摩滅あり。周囲を 意図的に打ち欠く。	覆土
18	土師器 高坏	口径:— 底径:— 器高:(3.0)	砂粒多量、 黒色粒・透 明粒少量	内:底部ヘラミガキ、脚 部ヘラオサエ・ヘラナデ 外:接合部ヘラケズリ	内:黒褐色 外:にぶい赤褐色 ・良	底部1/2		覆上 小片
19	円筒形 土製品	口径:(14.0) 底径:— 器高:(6.0)	黒色粒・砂 粒・小礫少 量	内:口縁部ヨコナデ、体 部ナデ 外:口縁部ヨコナデ、体 部粗い、縦位ヘラナデ	内:浅黄色 外:浅黄色 ・良	口縁部 1/4	体部は円筒形。内面に 積み上げ痕を残す。	覆上ベルト 以北
20	土師器 甕	口径:(23.0) 底径:7.3 器高:(31.0)	ガラス光沢 黒色粒多量、 砂粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴 ~底部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴 ~底部ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:赤褐色 ・良	口縁~胴 部上半 2/3 底部完存	底部木葉痕あり。	カマド・カ マド掘方覆 土
21	土師器 甕	口径:— 底径:(8.0) 器高:—	透明粒・砂 粒・小礫多 量	内:底部ヘラナデ 外:胴部ナデ	内:にぶい褐色 外:にぶい褐色 ・良	底部完存	底部は木葉痕あり、凸 状で端部が彫れ出る。	覆上ベルト 以北
22	土師器 甕	口径:— 底径:(8.6) 器高:(4.5)	黒色粒・透 明粒・砂粒 少量	内:胴部ヘラケズリ後粗 いヘラミガキ 外:胴部ナデ	内:浅黄褐色 外:浅黄褐色 ・やや不良	底部1/5	無底式。	覆上ベルト 以北 小片
23	土師器 甕	口径:— 底径:(7.6) 器高:(5.0)	黒色粒微量	内:体~底部ヘラナデ 外:調整不明瞭	内:浅黄褐色 外:浅黄褐色 ・不良	底部1/4	単孔式。	覆上ベルト 以北 外面剥離
24	土師器 手柄ね	口径:(5.4) 底径:4.8 器高:3.9	黒色粒少量 透明粒・砂 粒・礫多量	内:口縁~体部ユビナデ 外:体部ナデ、底部ヘラ ケズリ	内:褐色 外:褐色 ・やや不良	口縁~体 部1/4 底部完存	安定した平底底部。	覆土
25	石製品 砥石	長軸:(15.3) 短軸:2.8 厚さ:1.9 重量:45.85g	砂岩		外:灰白色	上下端欠 損	短冊形。側面4面とも 砥面・磨痕あり。	覆土
26	土製品 支脚か	口径:— 底径:— 器高:9.5 重量:169.49g	黒色粒・透 明粒・砂粒 少量	外:指洞汗痕、棒状工具 先端による沈線	外:明褐色 ・良	下端欠損	円柱状。	覆土

第42表 北ノ内遺跡 SI-45 出土鉄製品観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	刀子	長さ:(5.7) 厚さ:— 重量:3.89g	刃先端部と茎部を欠く。棟は最大幅4mmほどで、角棟・平造である。	刃先端部、茎部欠 損	
2	刀子	長さ:(13.2) 厚さ:0.3 重量:20.05g	先端部と茎部の一部を欠く。棟は最大幅3mmほどで、角棟・平造である。区は両区で棟側が3mm程度、刃部側が1mm程度の段をもつが、刃部側は棟側ほど明瞭な段を有さない。柄縁の真鍮金が完存している。	刃先端部、茎部一 部欠損	覆土
3	棒状鉄製 品	長さ:(5.3) 厚さ:0.7 重量:6.21g	短軸断面がやや長方形。長軸方向に緩やかに曲がり、下端部方向に先細りする。両端部を欠く。	両端部欠損	覆土

SI-48 (第 108 図、図版一一一)

西調査区北東部の 15-89 グリッドに位置する。強く削平を受けており、僅かな掘方埋土を確認し、かろうじて平面形と規模を確認できた。北壁は調査区外となる。南～南西方向に古墳時代の竪穴建物跡 SI-42・43・45、奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-41 が位置する。

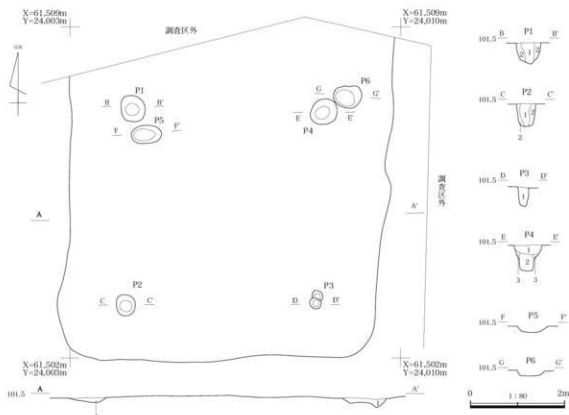
平面形は、南北に長い長方形を呈する。規模は、確認できた範囲で南北約 7.20m、東西約 6.67m で、面積は約 48.0 m² である。主軸の振れは N-4° -W である。

埋土は、掘方埋土とみられる黒褐色土を確認した。

柱穴は、主柱穴 P1～4 と不詳ピット P5・6 を確認した。規模は P1：56.0×52.0cm、深さ 43.2cm。P2：52.0×50.0cm、深さ 52.5cm。P3：41.0×22.0cm、深さ 39.0cm。P4：63.0×58.0cm、深さ 56.6cm。P1・2・4 で柱痕跡を確認した。

カマドは確認されていない。

出土遺物はなく、建物跡の時期も不明である。本遺跡では同規模の竪穴建物跡は古墳時代に多くみられ、柱穴掘方は平面規模が小さいわりに深いという点も、古墳時代の竪穴建物跡に共通して認められることから、本建物跡の所属時期は古墳時代としておく。



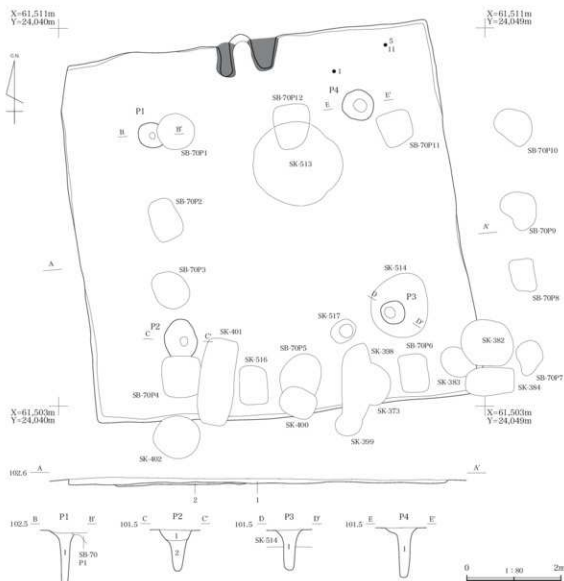
- SI-48 土質説明
 1 黒褐色土 ローム小ブロック・ローム粒多量混入。しまりや中富む。粘性やや富む。(掘方埋土)
- P1
 1 暗黄褐色土 0.5mm 大のローム粒やや多量。1～2mm 大の七本椀パミス粒極少量混入。しまり富む。粘性欠く。(柱痕跡)
- 2 黄褐色土 3～5mm 大のロームブロック多量。2～3mm 大の七本椀パミス粒混入。しまり富む。粘性やや富む。(柱埋方埋土)
- P2
 1 暗黄褐色土 0.5mm 大のローム粒多量。1mm 大の七本椀パミス粒少量。2～3mm 大の今由パミス粒少量混入。しまり富む。粘性欠く。(柱痕跡)
- 2 黄褐色土 ロームブロック・1～5mm 大のローム粒多量。1～2mm 大の七本椀パミス粒少量混入。しまり富む。粘性富む。(柱埋方埋土)
- P3
 1 黄褐色土 3～5mm 大のロームブロック多量。2～3mm 大の七本椀パミス粒混入。しまり富む。粘性やや富む。
- P4
 1 黒茶褐色土 0.5mm 大のローム粒少量。1～2mm 大の今由パミス粒極少量混入。しまり富む。粘性欠く。
- 2 暗黄褐色土 1～3mm 大のローム粒やや多量混入。しまり富む。粘性欠く。
- 3 黄褐色土 ロームブロック・1～5mm 大のローム粒多量混入。しまり富む。粘性富む。

第 108 図 北ノ内遺跡 SI-48 実測図

SI-49 (第109～111図、第43表、図版一一・二七)

東調査区の17-89グリッドに位置する。奈良・平安時代の掘立柱建物跡SB-70ほか多数の土坑と重複している。強く削平を受けて遺存状態は悪く、掘方埋土とカマドの痕跡のみ確認した。南側に奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-50、南東方向に同じくSI-52が位置する。

平面形は、方形を呈する。規模は南北約8.00m、東西約7.95mで、面積は約63.60㎡である。主軸の振れはN-5°-Wである。



SI-49 土質説明

- 1 暗褐色土 ローム粒多量、焼土粒少量混入。カマド付近では灰白色粘土粒多量混入。しまり富む。(船床・掘方埋土)
2 黄褐色土 黒色土にロームブロック混入。しまり富む。(掘方埋土)

P1・P4

- 1 黄褐色土 ローム主体、黒色土微量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。

P2

- 1 暗褐色土 今市バミス粒・七本松バミス粒やや多量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。

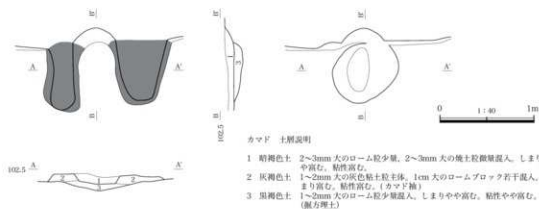
P3

- 2 黄褐色土 ローム主体、黒色土微量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。

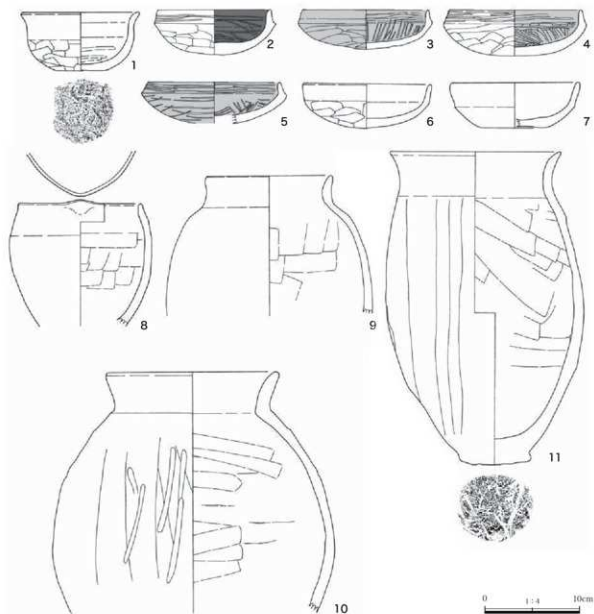
P5

- 1 黒褐色土 ローム粒(2~3mm大)微量、今市バミス粒若干混入。しまりやや富む。粘性やや富む。

第109図 北ノ内遺跡 SI-49 実測図



第110図 北ノ内遺跡 SI-49カマド実測図



第111図 北ノ内遺跡 SI-49出土遺物

掘方は、一部黄褐色土で埋め戻したのち、全体的に暗褐色土で堅く締めて貼床としている。貼床の厚さは約6.0～12.0cmを測る。

柱穴は、主柱穴P1～4を確認した。規模はP1：80.0×50.0cm、深さ114.6cm、P2：73.0×67.0cm、深さ86.2cm、P3：58.0×56.0cm、深さ84.2cm、P4：67.0×64.0cm、深さ105.8cm。柱痕跡は確認されていない。梯子穴、壁際溝等は確認されていない。

カマドは北壁中央に構築され、灰色粘土で構築された両袖が僅かに残存していた。袖は幅38.0～52.0cm、長さ66.0cm、高さ約8.0～12.0cmで、両袖間の幅は約84.0cmである。カマド掘方は深さ10.0cmで、黒褐色土で埋め戻されている。北壁への突出は16.0cmである。

出土遺物は、土師器環13点3,066g、土師器甕256点13,004g、土師器鉢1点740g、土師器碗11点184g、須恵器甕7点509g、総量288点17,503gと縄文式土器10点287g、自然礫88gが出土した。

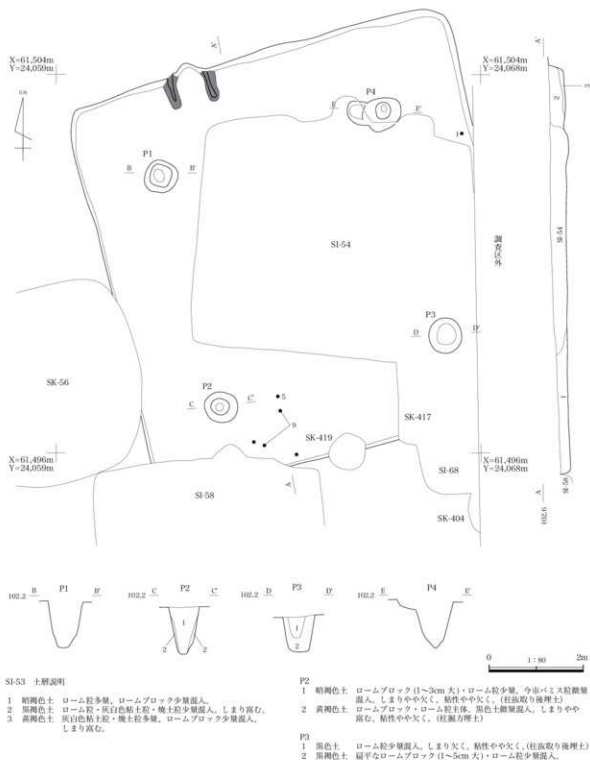
建物跡の時期は6世紀前葉～中葉頃か。

第43表 北ノ内遺跡 SI-49 出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 環	口径：(12.0) 底径：5.0 器高：6.2	砂粒	内：口縁部ヨコナデ、体～ 底部ナデ 外：口縁部ヨコナデ、体～ 底部ヘラケズリ	内：明赤褐色 外：明赤褐色 ・良	1/2	平底の底部。	北壁集中部
2	土師器 環	口径：11.6 底径：— 器高：4.8	砂粒	内：口縁部ヨコナデ後粗い 横位ヘラミガキ、体～底部 放射状ヘラミガキ 外：口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、体～底部ヘラケズリ	内：黒色 外：黄灰色 ・良	1/2	内面黒色処理か。	
3	土師器 環	口径：13.3 底径：— 器高：4.2 重量：250.0g	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒	内：口縁部ヨコナデ後粗い 横位ヘラミガキ、体～底部 放射状ヘラミガキ 外：口縁部ヨコナデ後ミガ キ、体～底部ヘラケズリ	内：にぶい黄褐色 外：にぶい黄褐色 ・良	ほぼ完整	内外面漆仕上げ処理。	確認面 全体に摩滅
4	土師器 環	口径：13.9 底径：4.1 器高：4.9 重量：340.0g	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒 白色針状物 質	内：口縁部ヨコナデ後粗い 横位ヘラミガキ、体～底部 ヘラミガキ 外：口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体～底部ヘラケ ズリ、底部中央部	内：暗赤褐色 外：暗赤褐色 ・良	ほぼ完整	漆仕上げ処理。	覆土一括
5	土師器 環	口径：13.8 底径：— 器高：(4.4)	透明粒・砂 粒少量	内：口縁部ヨコナデ後粗い 横位ヘラミガキ、体～底部 不定方向ヘラミガキ 外：口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体～底部ヘラケ ズリ後ナデ・ヘラミガキ	内：明赤褐色 外：褐色 ・良	口縁部 3/4 体～底部 1/2	内外面漆仕上げ処理。	
6	土師器 環	口径：13.4 底径：— 器高：4.7 重量：231.0g	砂粒	内：口縁部ヨコナデ、体～ 底部ナデ 外：口縁部ヨコナデ、体～ 底部ヘラケズリ	内：浅黄褐色 外：にぶい黄褐色 ・良	ほぼ完整		北壁集中部
7	土師器 環	口径：(13.4) 底径：(6.8) 器高：4.8	黒色粒、砂粒	内：口縁部ヨコナデ、体～ 底部ナデ 外：口縁部ヨコナデ、体～ 底部ヘラケズリ後ヨコナデ	内：淡黄色 外：灰黄色 ・やや不良	口縁部 1/2 底部3/4	底部は平底を意図した ヘラケズリで棒状工具 痕を残す。	カマド覆土
8	土師器 片口鉢	口径：12.7 底径：(13.4) 器高：—	砂粒、小礫	内：口縁部ヨコナデ、体部 外：口縁部ヨコナデ、体部 ヘラケズリ後ナデ	内：灰黄褐色 外：明褐色 ・やや不良	底部欠損	口縁部をつまんで口を 作り出す。	
9	土師器 甕	口径：13.0 底径：— 器高：(14.8)	小礫多量	内：口縁部ヨコナデ、胴部 横位ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ、胴部 縦位ヘラケズリ後ナデ	内：にぶい黄褐色 外：にぶい黄褐色 ・良	1/2	口縁部は短く立ち、胴 部最大径を中位にもつ。	外面摩耗
10	土師器 甕	口径：(18.0) 底径：— 器高：(25.2)	砂粒、小礫	内：口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ後ヘラミガキ	内：にぶい黄褐色～暗 赤褐色 外：やや不良	口縁～胴 部1/6	口縁は短く「く」字状 に外傾する。胴部は球 形状で最大径を中位に もつ。	P4 覆土 外面面剥落 顕著
11	土師器 甕	口径：18.0 底径：7.5 器高：33.0 重量：3,300.0g	黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内：口縁部ヨコナデ、胴部 斜位ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ、胴部 縦位ヘラケズリ	内：赤褐色 外：赤褐色 ・良	ほぼ完整	長脚で最大径を中位に もつ。底部は凸状で木 葉痕あり。	北壁集中部 外面面剥状 物質付着

SI-53 (第 112 ~ 114 図、第 44 表、図版一・二七・二八)

東調査区の 17-89 グリッドに位置する。本遺跡中最も東に位置し、東壁の一部が調査区外となる。奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-54・58・68 をはじめ、大型の土坑 SK-56・63 等多くの土坑と重複しており、遺存状態はよくない。北西方向に古墳時代の竪穴建物跡 SI-49、西側に奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-50・61・



第 112 図 北ノ内遺跡 SI-53 実測図

66・67が位置する。

平面形は、やや南北に長い方形を呈する。規模は南北約8.40m、東西約7.85mで、面積は約65.90㎡である。主軸の振れはN-15°-Wである。

埋土はカマド周辺を除きほぼ単層でローム粒・ロームブロックを含み、人為堆積と考えられる。

残存する壁の高さは、西壁32.7cm、南壁27.2cm、北壁39.2cmで、外傾する。

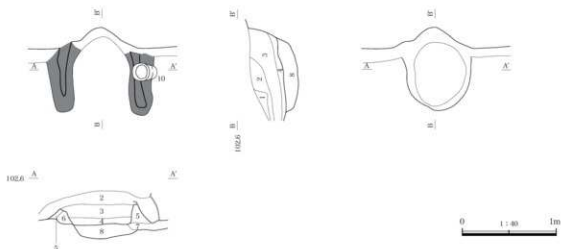
ロームを床とし、平垣である。建物中央部から南壁にかけて硬化面が形成されている。壁際溝は確認されていない。

柱穴は、主柱穴P1～4を確認した。規模はP1：72.0×70.0cm、深さ98.7cm、P2：66.0×65.0cm、深さ100.0cm、P3：75.0×69.0cm、深さ73.7cm、P4：118.0×70.0cm、深さ98.7cm。柱掘方と埋土の観察から柱は抜き取られたと思われる。

カマドは北壁西寄りに構築され、ロームで構築された両袖が残存していた。袖は幅26.0～28.0cm、長さ54.0～64.0cm、高さ約16.0～20.0cmで、両袖間の幅は約82.0cmである。カマド掘方は深さ16.0cmで、黄褐色土で埋め戻したのち、黒褐色土を台状に積み上げ、その上に袖を構築している。北壁への突出は12.0cmである。

遺物出土状況は南壁付近で集中して出土したほか、カマド袖脇から土師器甕が出土した。

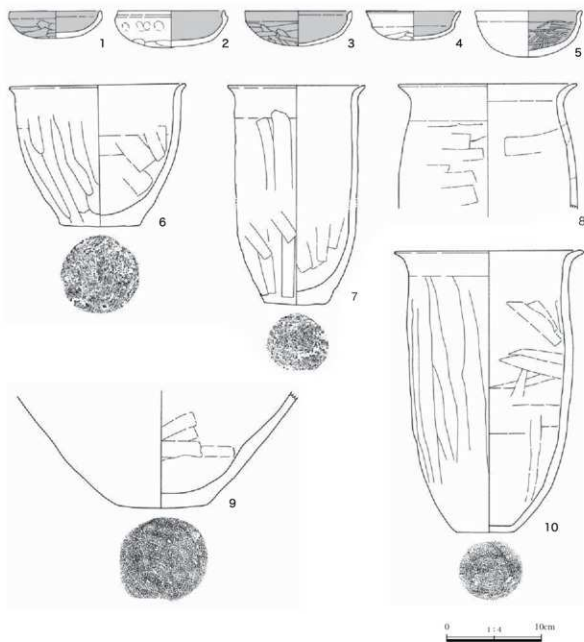
出土遺物は、土師器環25点836g、土師器甕126点9,099g、土師器鉢2点693g、土師器碗8点107g、須恵器甕3点81g、支脚2点348g、総量166点11,164gと縄文式土器1点7g、自然礫97gが出土した。土師器環は体部外面に稜をもち、口縁が直立するもの、外反するもの、丸底で口縁部内面に沈線をもつものがある。建物跡の時期は7世紀中葉である。



カマド 土器説明

- 1 黄褐色土 ロームブロック・ローム粒・小礫少量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック・ローム粒やや多量。焼土粒・小礫少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(天井積層土)
- 3 暗赤褐色土 焼土ブロック・焼土粒・炭粒ロームブロック・ローム粒やや多量混入。しまり欠く。粘性やや富む。(天井積層土)
- 4 黄褐色土 白色粘土主体。焼土粒少量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。(カマド袖)
- 5 黄褐色土 ローム主体。焼土粒・小礫少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。(カマド袖)
- 6 黄褐色土 ローム主体。小礫・中礫・中礫・七本板パミス粒微量混入。しまり富む。粘性やや欠く。(カマド袖)
- 7 黄褐色土 ロームブロック・ローム粒少量混入。中礫細かい結晶土。しまりやや富む。粘性やや富む。(台状積土)
- 8 黄褐色土 ロームブロック・ローム粒主体。焼土粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(南方埋土)

第113図 北ノ内遺跡 SI-53カマド実測図



第 114 図 北ノ内遺跡 SI-53 出土遺物

第 44 表 北ノ内遺跡 SI-53 出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 杯	口径: 9.6 底径: — 器高: 3.0	砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体 ~底部ナデ 外: 口縁部ヨコナデ、体 ~底部ヘラケズリ	内: 黒褐色 外: にぶい赤褐色 ・良	7/8	小形。内外面漆仕上げ 処理。	
2	土師器 杯	口径: 11.1 底径: — 器高: 3.9	砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体 ~底部ナデ 外: 口縁部ヨコナデ、体 部ナデ・指頭圧痕、底部 ヘラケズリ	内: 褐色 外: 暗灰黄色 ・良	1/2	扁平な半球形で、口縁 部は短く直立する。漆 仕上げ処理。	SI-53 と SI-54 覆土 で遺構間接 合

3	土師器 環	口径:11.2 底径:— 器高:3.9 重量:114.0g	砂粒	内:口縁部ヨコナデ、体 〜底部ナデ 外:口縁部ヨコナデ、体 〜底部ヘラケズリ	内:褐色 外:にぶい褐色 ・良	完形	整美な半球形。口唇端 部内面に沈線。内外面 漆仕上げ処理。	覆土
4	土師器 環	口径:10.0 底径:— 器高:3.1	砂粒	内:口縁部ヨコナデ、体 〜底部ナデ 外:口縁部ヨコナデ、体 〜底部ヘラケズリ	内:にぶい褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	1/4	小形。器厚は薄い。内 面及び口縁部外面漆仕 上げ処理。	覆土
5	土師器 環	口径:11.1 底径:— 器高:4.9	透明粒、砂 粒	内:口縁部ヨコナデ後ミ ガキ、体〜底部ヘラミガ キ 外:口縁部ヨコナデ後粗 いヘラミガキ、体〜底部 後粗いヘラミガキ	内:にぶい黄褐色〜 黒色 外:にぶい黄褐色〜 黒色・良	5/6	内面漆仕上げ処理。	口縁部内面 〜外面厚減
6	土師器 鉢	口径:(18.2) 底径:8.2 器高:15.0	透明粒・砂 粒・小礫多 量、ガラス 片黒色粒 少量	内:口縁部ヨコナデ、体 〜底部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、体 〜底部ヘラケズリ胴部縦 位ヘラケズリ	内:褐色 外:褐色 ・良	口縁〜 体部2/3 底部完 存	小形。口縁は小さく外 反し、安定した底部。	覆土
7	土師器 費	口径:14.4 底径:6.6 器高:(23.2)	黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴 〜底部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴 部縦位ヘラケズリ	内:灰黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁〜 胴部1/6 底部完 存	口縁部は短く外反し、 直線的な胴部で、底部 は平底。最大径は口縁 部にもつ。	カマド覆土
8	土師器 費	口径:(18.6) 底径:— 器高:(13.2)	黒色粒、透 明粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラナデ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁〜 胴部上 半1/2	内面に積み上げ痕を残 す。	P9 覆土 内外面剥落
9	土師器 費	口径:— 底径:9.8 器高:(12.3)	黒色微粒・ 透明粒・微 砂粒少量	内:胴部〜底部ヘラナデ 外:胴部調整不明瞭。底 部不定方向ヘラケズリ後 ナデ	内:にぶい黄褐色 外:浅黄褐色 ・不良	胴部下 半完存	胴部外面に激しい磨痕 を残す。	覆土 破損後二次 的利用の可 能性
10	土師器 費	口径:19.8 底径:6.0 器高:29.7 重量2.247.0g	透明粒・砂 粒・小礫多 量	内:胴部内面横位ヘラナ デ・外面縦位ヘラケズリ・ 底部不定方向ヘラケズリ 外:口縁部ヨコナデ、胴 〜底部ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	完形	最大径を口縁部にも つ。	

SI-62 (第115～117図、第45・46表、図版一二・二八)

東調査区の17.90グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-61・66と重複し、北東コーナー部分を失う。またSK-462・463と重複し西壁の一部を失っている。南側には奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-72が近接する。古墳時代の竪穴建物跡は北西方向に規模の大きなSI-49が、北東方向にやはり規模の大きいSI-53が位置する。

平面形は、やや東西に長い方形を呈する。規模は南北約4.70m、東西約5.10mで、面積は約24.0㎡である。主軸の振れはN-9°-Wである。

埋土は単層で、ローム粒を均一・多量に含むことから、人為堆積と考えられる。

残存する壁の高さは、東壁20.1cm、西壁29.4cm、南壁23.5cm、北壁36.2cmで、垂直に近く立ち上がる。掘方は暗褐色～暗黄褐色土で埋め戻すが、床面は凹凸があり、あまり堅緻ではない。掘方埋土の深さは8.0～16.0cmである。梯子穴、壁際溝等は確認されていない。

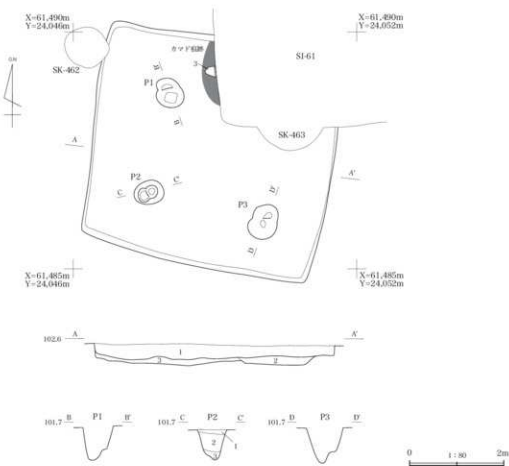
柱穴は、主柱穴P1～3を確認した。規模はP1:61.0×55.0cm、深さ70.4cm。P2:62.0×50.0cm、深さ66.0cm。P3:75.0×50.0cm、深さ74.2cm。P1・2では柱痕跡が確認されている。

カマドは北壁中央に構築されるが、重複する建物により破壊され、カマド構築材の粘土の痕跡のみ確認した。

出土遺物は、土師器環 4 点 19g、土師器甕 80 点 3,311g、土師器鉢 1 点 35g、土師器埴 1 点 23g、須恵器
 坏蓋 3 点 47g、須恵器坏 8 点 180g、須恵器甕 8 点 1,500g、須恵器鉢 1 点 19g、不明鉄製品 1 点 13.47g、
 総量 107 点 5,147g と縄文式土器 2 点 89g が出土した。

1 は返りのある須恵器坏蓋、5 は土師器常総甕である。

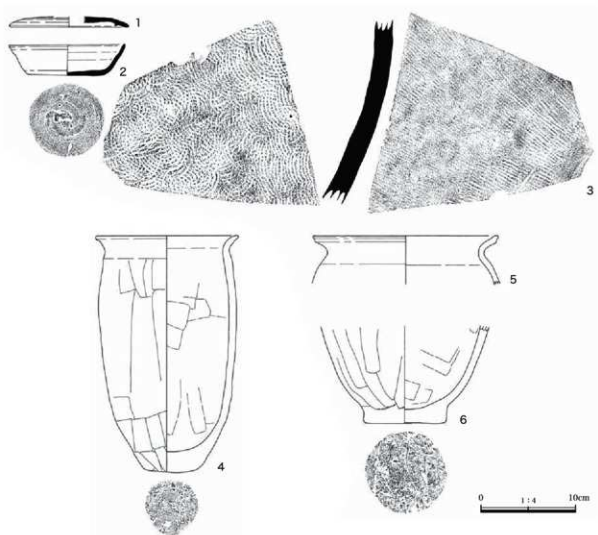
建物の時期は、7 世紀後葉である。



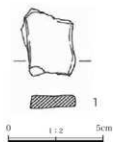
SI-62 土層説明

- | | |
|---|--|
| <p>1 赤褐色土 ローム粒 (0.5mm 大) 均一に多量、ローム粒 (1~2cm 大)・
 今市バミス粒 (2~3mm 大) 少量混入。しまり富む。粘性富む。</p> <p>2 暗褐色土 ロームブロック (2~3cm 大) 多量混入。しまり富む。粘性富む。
 (飯方埴土)</p> <p>3 暗黄褐色土 ロームブロック (1~2cm 大) 多量、白色粘土ブロック (1cm 大)
 やや少量混入。しまり富む。粘性富む。(飯方埴土)</p> | <p>P2
 1 黒褐色土 1~2cm 大のロームブロック・ローム粒少量混入。しまりやや
 富む。粘性やや富む。</p> <p>2 暗黄褐色土 1cm 大のロームブロック主体、黒色土微量混入。しまりやや
 欠く。粘性やや富む。</p> <p>3 白黄色土 白色粘土主体、ロームブロック少量混入。しまりやや富む。
 粘性やや富む。</p> |
|---|--|

第 115 図 北ノ内遺跡 SI-62 実測図



第116図 北ノ内遺跡 SI-62出土遺物



第117図 北ノ内遺跡 SI-62出土鉄製品

第45表 北ノ内遺跡 SI-62 出土物観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏蓋	口径：一 口径：(12.2) 器高：(1.1)	黒色粒少量、砂粒	内：天井～裾部ロクロナデ 外：体部ロクロナデ、天井部回転ヘラケズリ	内：灰色 外：灰色 ・良	裾部 1/6	返り蓋。外面自然釉付着。	覆土
2	須恵器 坏	口径：12.2 底径：7.9 器高：3.3	小礫	内：口縁～底部ロクロナデ 外：口縁～体部ロクロナデ、底部回転ヘラ切り後、周縁回転ヘラケズリ	内：暗灰色 外：灰色 ・良	2/3 底部完 存	内外面火理痕あり。底部外面にへう記号「ノ」。	覆土
3	須恵器 甕	口径：一 底径：一 器高：(19.0)	黒色粒、砂粒、小礫	内：胴部同心円文当て具痕 外：胴部タタキ	内：灰白色 外：灰白色 ・良	胴部破 片	大形。胴部外面襷格子タタキ。外面一部自然釉付着。	覆土
4	土師器 甕	口径：14.8 底径：5.5 器高：25.0	ガラス光沢 黒色粒・透 明粒・砂粒・ 小礫多量	内：口縁部ヨコナデ、胴～底部ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ後ナデ	内：にぶい黄褐色 外：明褐色 ・良	3/4 底部完 存	口縁部に最大径をもつ。胴部は直線的で、小さめの底部付近ですばまる。	カマド
5	土師器 甕	口径：(19.0) 底径：一 器高：(5.0)	透明粒、雲 母、砂粒	内：口縁部ヨコナデ、肩部ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ、肩部ナデ	内：にぶい褐色 外：にぶい褐色 ・良	口縁部 1/6	口唇部外面に凹面を作る。	覆土
6	土師器 甕	口径：一 底径：7.4 器高：(10.4)	ガラス光沢 黒色粒・透 明粒・砂粒・ 小礫少量	内：胴～底部ヘラナデ 外：胴部ヘラケズリ	内：にぶい黄褐色 外：灰黄褐色 ・良	胴部下 半 1/3 底部完 存	底部本葉痕あり。	カマド

第46表 北ノ内遺跡 SI-62 出土鉄製品観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	不明 鉄製品	長さ：(3.8) 厚さ：0.6 重量：13.47g	両端部を欠損する。厚さ 6mm の板状破片である。側面は一方は直線的であるが、反対側は緩やかに丸みを帯びる。断面も同様に、一方の側面は直線的であるのに対し、もう一方は丸みを帯びる。	不明	カマド

第2項 その他の出土遺物

円筒形土製品である。本遺跡 SI-11・18、北ノ内遺跡2次調査の SI-39・42 で確認されており、カマド構築材として利用されている。SI-4 では板状の土製品が出土しており、これもカマド構築材と考えられる。



第118図 北ノ内遺跡 16-91 グリッド出土遺物

第47表 北ノ内遺跡 16-91 グリッド出土物観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	円筒形 土製品	口径：6.8 底径：一 器高：(9.4)	白色・黒色・ 赤色微粒 子、小礫少 量	内：強いユビナデ 外：タテ方向ヘラケズリ	内：褐色 外：褐色 ・良			

第4節 奈良・平安時代の遺構と遺物

奈良・平安時代の遺構は、竪穴建物跡 33 軒、掘立柱建物跡 4 棟が確認された。古墳時代、奈良・平安時代の建物跡は調査区南側にみられる谷埋土の黒色土上を避けて選地している。調査区北寄りでは削平を強く受けているとみられ、主柱穴のみ検出された建物跡もある。北壁に近いグリッドで遺構密度が低いのは、削平のため完全に失われた遺構も存在するためとも考えられる。奈良・平安時代の竪穴建物跡は特に西調査区東よりと東調査区で密に確認されており、建て替えや重複がみられる。

第1項 竪穴建物跡と出土遺物

SI-2 (第119・120図、第48表、図版一二)

西調査区西端の11-90グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡では最も西に位置する。建物跡の大部分は調査区外となり東側1/3程度を確認した。北東に古墳時代の竪穴建物跡SI-1、南から南西と同じくSI-3・4・11が位置する。本建物跡は谷埋土の黒色土上に構築されている。

平面形は、方形を呈するものと思われる。規模は確認された範囲で、南北約3.67m、東西約1.05mで、面積は約3.8㎡である。主軸の振れはN-13°-Wである。

埋土は暗灰褐色・黒褐色・暗褐色土の3層に別けられ、いずれも自然堆積と思われる。

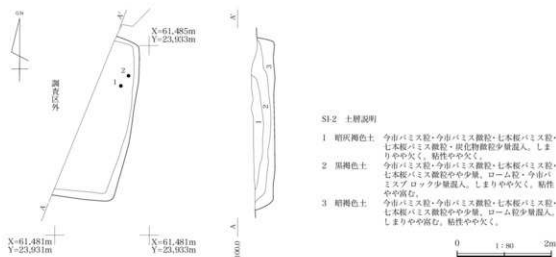
残存する壁の高さは、東壁30.4cm、南壁31.8cm、北壁37.3cmで、外傾して立ち上がる。

床は貼床を施さず地山を床面として平坦であるが、谷埋土の黒色土中であるため堅緻な床は形成されていない。カマド、柱穴、梯子穴、壁際溝は確認されていない。

出土遺物は、土師器片1点92g、土師器甕13点175g、土師器手捏ね土器1点98g、須恵器環1点71g、総量16点436gが出土した。

2の土師器環は口縁が逆S字状を呈する内彎口縁の環。

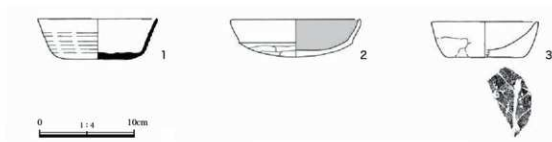
建物の時期は須恵器環の特徴から、8世紀前半頃か。



SI-2 土層説明

- 1 暗灰褐色土
今市バミス段・今市バミス段・七本塚バミス段・七本塚バミス段・炭化物微粒少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
- 2 黒褐色土
今市バミス段・今市バミス段・七本塚バミス段・七本塚バミス段・少量、ローム段・今市バミス段・少量混入。しまりやや欠く。粘性やや弱む。
- 3 暗褐色土
今市バミス段・今市バミス段・七本塚バミス段・七本塚バミス段・少量、ローム段・少量混入。しまりやや弱む。粘性やや欠く。

第119図 北/内遺跡 SI-2 実測図



第120図 北ノ内遺跡 SI-2出土遺物

第48表 北ノ内遺跡 SI-2出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏	口径: 12.5 底径: 6.6 器高: 4.3	微砂粒	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、底部回転へう切り後・ナデ	内: 灰黄色 外: 灰白色 ・不良	口縁部 1/12 底部完存		底部外面器 面剥離著
2	土師器 坏	口径: (13.6) 底径: 2.0 器高: 3.9	黒色粒、微 砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部ナデ 外: 口縁部ヨコナデ、体~ 底部一定方向へラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	1/3	漆仕上げ処理。	
3	土師器 手柄ね	口径: (10.2) 底径: (8.0) 器高: 3.8	微砂粒多量	内: 口縁~底部ナデ 外: 口縁~体部ナデ	内: 黒色 外: 黒色 ・良	1/4	平底で木葉痕あり。	覆土

SI-12 (第121・122図、第49表、図版一二)

西調査区西部の11-90グリッドに位置する。本遺跡は北壁に近いほど削平を強く受けており、本建物跡も上部の大部分は削平により失われ、僅かな掘方埋土のみ確認された。またSK-78・79と重複し、北壁の一部を破壊されている。西側に古墳時代の竪穴建物跡SI-1、奈良・平安時代の建物跡SI-2、南から南東に古墳時代の建物跡SI-4・11・13が位置する。奈良・平安時代の建物跡は周囲には希薄である。

平面形は、上部を削平されているため不明瞭であるが、方形を呈するものと思われる。規模は、確認できた範囲で南北約5.35m、東西約5.27mで、面積は約28.2㎡である。主軸の振れはN-16°-Wである。

掘方は壁に近い周辺部を深く掘り下げる。深さ4.0～36.0cm。埋土は暗褐色～暗褐色土の3層に別けられ、1層はローム粒を含みまじりに富むことから貼床部分か。

柱穴は、支柱穴P1～4、梯子穴P6、不明ビットP5を確認した。規模はP1:45.0×33.0cm、深さ45.1cm。P2:67.0×58.0cm、深さ51.6cm。P3:65.0×60.0cm、深さ66.0cm。P4:55.0×49.0cm、深さ60.0cm。

埋土の観察から柱は抜き取られたものと考えられるが、P1～3で柱痕跡が確認された。

梯子穴P6は南壁中央に確認された。65.0×42.0cm、深さ31.0cm。

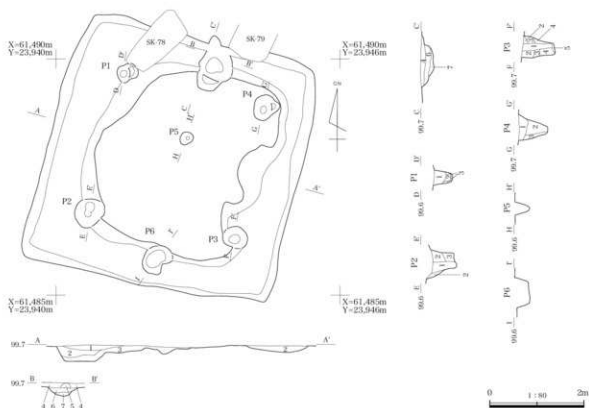
P5は建物中カマド寄りに位置し、柱穴として機能したか不明である。29.0×25.0cm、深さ32.3cm。

壁際溝は、削平により床面が残存していないため、有無の確認ができていない。

カマドは北壁中央に構築され、掘方のみ確認した。掘方の深さは28.0cmで、白色粘土ブロックと焼土粒を含む暗灰褐色土で埋め戻されている。北壁への突出は16.0cmである。

出土遺物はすべて掘方埋土からの出土で、土師器坏1点7g、土師器裏25点835g、総量26点842gと自然礫494gが出土した。図示したものはいずれも土師器裏である。

建物の時期は、出土遺物が僅かであることから、不明といわざるを得ない。



SI-12 土質説明

- | | | | |
|---------|--|---------|--|
| 1 暗褐色土 | ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック
今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。しまり富む。(掘方埋土) | 2 黄褐色土 | ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック
やや少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(掘方埋土) |
| 2 暗褐色土 | (掘方埋土) | 3 暗黄褐色土 | ロームブロックや中量混入。今市バミスブロック・七本板バミス
ブロックやや少量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。 |
| 3 暗黄褐色土 | 今市バミス小ブロック・七本板バミス小ブロック多量、ローム
粒少量混入。しまり富む。(掘方埋土) | 4 暗褐色土 | ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック
やや少量混入。しまりやや富む。(柱頭跡か) |
| 4 暗褐色土 | 白色粘土ブロック・白色粘土粒・焼土粒少量混入。しまり富む。
粘性やや欠く。 | 5 黄褐色土 | ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック
やや少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(柱頭跡か) |
| 5 暗褐色土 | 白色粘土ブロック・焼土ブロック灰質土少量混入。しまり富む。
粘性欠く。 | 6 黄褐色土 | ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック
やや少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(柱頭跡か) |
| 6 暗褐色土 | 白色粘土ブロック・白色粘土粒・焼土粒や中少量。今市バミス
粒・七本板バミス粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
(カマド掘方埋土か) | 7 暗黄褐色土 | ロームブロックや中量混入。今市バミスブロック・今市バミス粒・
七本板バミスブロック・七本板バミス粒少量混入。しまりやや
富む。粘性やや富む。(カマド掘方埋土か) |
| 7 暗黄褐色土 | ロームブロックや中量混入。今市バミスブロック・今市バミス粒・
七本板バミスブロック・七本板バミス粒少量混入。しまりやや
富む。粘性やや富む。(カマド掘方埋土か) | 8 黄褐色土 | ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック
やや少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(掘方埋土) |
| P1 | | 9 黄褐色土 | ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック
やや少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(柱頭跡か) |
| 1 暗褐色土 | ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック
やや少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(柱頭跡か) | 10 黄褐色土 | ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック
やや少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(柱頭跡か) |
| 2 黒色土 | ローム質・今市バミス粒少量混入。しまりやや欠く。粘性やや
欠く。(柱頭跡) | P4 | |
| 3 黄褐色土 | ロームブロック多量。今市バミスブロック少量混入。しまり
やや富む。粘性やや富む。(掘方埋土) | 1 暗褐色土 | ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック
やや少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(柱頭跡か) |
| P2 | | 2 暗褐色土 | ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック
やや少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(掘方埋土) |
| 1 暗褐色土 | ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック
やや少量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。(柱頭跡) | 3 黄褐色土 | ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック
やや少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(掘方埋土) |

第121図 北ノ内遺跡 SI-12実測図



第122図 北ノ内遺跡 SI-12出土遺物

第49表 北ノ内遺跡 SI-12 出土土物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 甕	口径:(16.6) 底径:一 器高:(6.2)	透明粒、砂 粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラケズリ 外:口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラケズリ	内:にじい・黄褐色 外:にじい・黄褐色 ・良	口縁部 1/7		掘方埋土
2	土師器 甕	口径:(24.0) 底径:一 器高:(3.0)	小礫多量	内:口縁部ヨコナデ 外:口縁部ヨコナデ	内:褐色 外:褐色 ・やや不良	口縁部 1/8	口縁部器厚は薄い。	カマド掘方 埋土

SI-14 (第123図、図版一二)

西調査区西部の12-90グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-12と重複し、北東部分を破壊されている。また削平により西側1/3ほどを失っている。南西方向に古墳時代の竪穴建物跡SI-11、南東方向に同じくSI-22・25、奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-23が位置する。周囲は特に古墳時代の建物跡が密集する一帯である。

平面形は、方形を呈するものと思われる。規模は確認できた範囲で南北約3.62m、東西約2.66mで、面積は約9.60㎡である。主軸の振れはN-10°-Wである。

埋土は暗褐色土の単層で、自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁10.0cm、北壁5.4cmで、外傾して立ち上がる。

床はロームを床面とするが、凹凸があり平坦ではない。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認されていない。

カマドは北壁中央に構築されるが、掘方のみが確認されている。

出土遺物はなく、建物の時期も不明である。

SI-15 (第124・125図、第50表、図版一三)

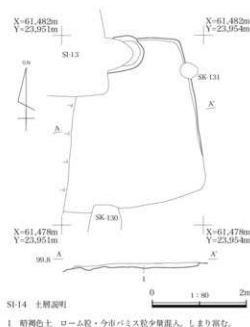
西調査区西部の12-91グリッドに位置する。削平により大部分は失われ、東側1/3程を確認した。残された深さも僅かである。西側に古墳時代の竪穴建物跡SI-5・9・10、北東方向に同じくSI-22・25、南側に同じくSI-16・20が位置する。周囲には同時期の建物跡が密集し、最も遺構密度の高い一帯である。SK-121と重複し、南東コーナー部が破壊されている。

平面形は、方形を呈するものと思われる。規模は、確認できた範囲で南北約5.47m、東西約2.05mで、面積は約11.8㎡である。主軸の振れはN-4°-Wである。

埋土は黒褐色土の1層のみが確認され、自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁9.0cm、南壁5.0cmで、外傾して立ち上がる。

床はロームを床面とするが、凹凸があり堅緻ではない。不詳ピットP1のほか、柱穴、梯子穴、壁際溝は



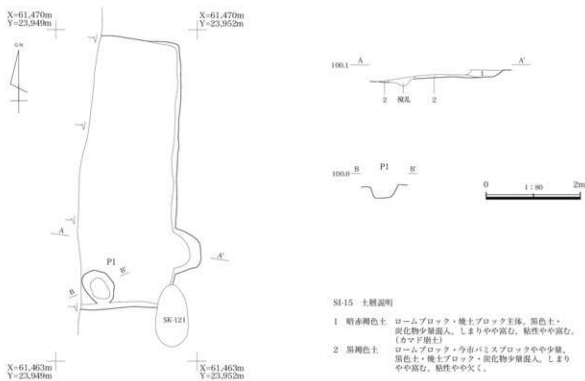
第123図 北ノ内遺跡 SI-14実測図

確認されていない。P1は80.0×56.0cm、深さ26.8cm。

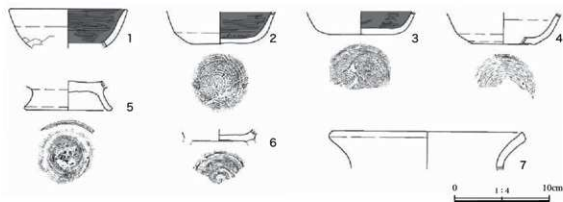
カマドは東壁南寄りに構築され、カマド前土である暗赤褐色土の堆積が観察された。

出土遺物は、土師器環11点370g、土師器甕28点448g、須恵器甕1点34g、総量40点852gと中世陶磁器1点35g、自然礫270gが出土した。土師器高台環が出土している。

建物の時期は、10世紀前半である。



第124図 北ノ内遺跡 SI-15 実測図



第125図 北ノ内遺跡 SI-15 出土遺物

第 50 表 北ノ内遺跡 SI-15 出土遺物観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技 法	色調・焼成	残存率	特 徴	備 考
1	土師器 環	口径: (12.2) 底径: — 器高: (4.1)	砂粒	内: 口縁～底部ヘラミガキ 外: 口縁部ココナデ、体～ 底部ヘラケズリ	内: 黒色 外: にぶい褐色 ・良	1/8	内面黒色処理。	覆土
2	土師器 環	口径: — 底径: (6.2) 器高: (3.3)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 体部傾位、底面一定方 向ヘラミガキ 外: 底部回転糸切り	内: 明褐色 外: 明褐色 ・やや不良	底部左存	内面黒色処理。	カマド
3	土師器 環	口径: — 底径: (6.8) 器高: (2.5)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 体～底部ヘラミガキ 外: 底部回転糸切り	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	底部 1/2	内面黒色処理。	カマド 器面剥離顕 著
4	土師器 環	口径: (6.6) 底径: — 器高: (3.3)	ガラス光沢 黒色粒・透 明粒多量、 微砂粒微量	内: 調整不明瞭 外: 底部回転糸切り	内: 黒褐色 外: 黄褐色 ・やや不良	体部 1/4 底部 1/2	器面剥離顕 著	覆土
5	土師器 高台杯	口径: — 底径: (9.2) 器高: (3.1)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 内面ヘラミガキ 外: 底部回転ヘラ切り後、 後貼付高台後ナデ	内: 黒色 外: にぶい褐色 ・良	高台部 1/4	長めの高台。内面黒色 処理。	覆土
6	土師器 高台杯	口径: — 底径: — 器高: (1.3)	ガラス光沢 黒色粒少量	内: 底部クロクロナデ 外: 底部回転ヘラ切り後、 後貼付高台後ナデ	内: にぶい黄褐色 外: 浅黄色 ・良	底部 1/4		覆土
7	土師器 甕	口径: (20.0) 底径: — 器高: (4.0)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 口縁部ココナデ 外: 口縁部ココナデ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/10		P1

SI-19 (第 126・127 図、第 51 表、図版一・二・二八)

西調査区西部の 12-91 グリッドに位置する。古墳時代の竪穴建物跡 SI-20・30、奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-111 と重複し、新旧関係は SI-20・30 < SI-19 < SI-111 である。また SK-328 と重複し東壁の一部を破壊される。周囲には建物跡が密集し、最も遺構密度の高い一帯である。

平面形は、東西に長い方形を呈する。規模は南北約 4.70m、東西約 9.00m で、面積は約 28.2 m² である。主軸の振れは N-5° -W である。

埋土は黄褐色～暗褐色で、ローム粒を多量に含み、人為堆積と考えられる。

残存する壁の高さは、東壁 22.6cm、西壁 20.9cm、南壁 8.4cm、北壁 27.7cm で、外傾して立ち上がる。

床は掘方を暗黄褐色土・黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約 2.0 ～ 12.0cm を測る。床面は平坦である。壁際溝は確認されていない。

柱穴は、主柱穴 P1 ～ 3 を確認した。規模は P1: 42.0×42.0cm、深さ 14.7cm、P2: 51.0×41.0cm、深さ 14.0cm、P: 55.0×54.0cm、深さ 22.1cm。いずれもコーナーに寄った位置で検出され、かなり浅い。

カマドは東壁南寄りに構築されるが、袖は遺存していなかった。

出土遺物は、土師器環 20 点 254g、土師器甕 70 点 1.424g、土師器甕 1 点 60g、須恵器環 6 点 45g、須恵器甕 11 点 453g、総量 108 点 2.236g と自然礫 108g が出土した。

建物の時期は、10 世紀代である。

SI-111 (第 126・128 図、第 52 表、図版一・二・一三・二八)

西調査区西部の 12-91 グリッドに位置する。古墳時代の竪穴建物跡 SI-20、奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-19 と重複し、新旧関係は SI-20 < SI-19 < SI-111 である。周囲には建物跡が密集し、最も遺構密度の高い一帯である。

平面形は、やや南北に長い方形を呈する。規模は南北約 3.50m、東西約 2.91m で、面積は約 10.2 m² である。主軸の振れは N-3° -W である。

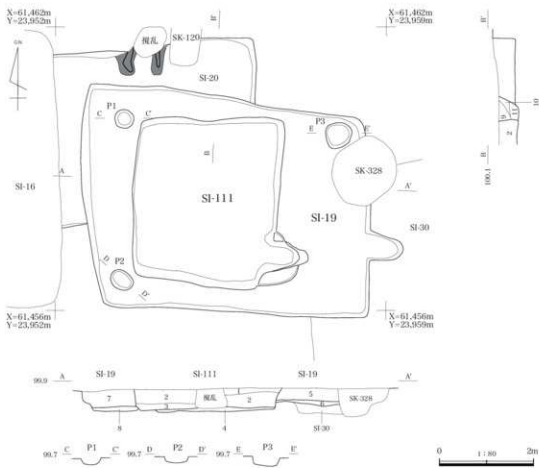
埋土は褐色・暗褐色・黒褐色土の 3 層に別けられ、いずれも自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁 39.3cm、西壁 42.6cm、南壁 31.3cm、北壁 40.9cmで、外傾して立ち上がる。床は、掘方を黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約 2.0～12.0cm を測る。平坦で、堅緻な床面を形成している。柱穴、梯子穴、壁間溝は確認されていない。

カマドは南東コーナー部に構築されるが、袖は遺存していなかった。北壁への突出は 72.0cm と大きい。奥壁付近がよく焼けて赤化し、また支脚として使用したとみられる腰が残存していることから、燃焼部は確認できた東壁よりも奥まった場所に位置したものとみられる。東壁に棚状施設をもつ竈穴建物跡の可能性がある。

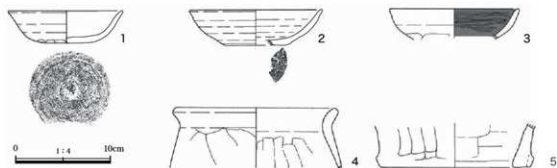
出土遺物は、土師器環 10 点 88g、土師器裏 37 点 343g、土師器碗 2 点 45g、須恵器環 5 点 28g、須恵器裏 4 点 98g、灰釉陶器皿 1 点 6g、総量 59 点 608g と自然礫 1.815g が出土した。

カマド内から出土した土師器環底部を加工した不明転用品を図示した。強く縛り、擦ったような 2 条の擦痕が認められる。建物の時期は、重複する SI-19 に後続する 10 世紀代としておく。

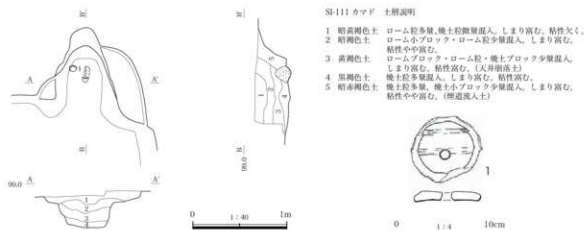


SI-19・20・111	土質説明
1	褐色土 ローム粒・焼土粒少量混入。しまり高む。粘性欠く。(SI-111埋土)
2	暗褐色土 ローム粒少量。ローム小ブロック・ローム土粒若干混入。しまり高む。粘性やや高む。(SI-111埋土)
3	富褐色土 ローム小ブロック・ローム粒少量。焼土小ブロック若干混入。しまりやや高む。粘性やや高む。(SI-111埋土)
4	富褐色土 ローム粒多量。ローム小ブロック少量混入。しまり高む。粘性高む。硬質。(SI-111掘方埋土・貼床)
5	黄褐色土 ローム粒多量。ローム小ブロック若干混入。しまりやや高む。粘性やや高む。(SI-19埋土)
6	暗黄褐色土 ローム粒多量。ローム小ブロック若干混入。しまり高む。粘性高む。(SI-19貼床)
7	暗褐色土 ローム粒少量。七本板パミス粒混入。今由パミス粒若干混入。しまり高む。粘性やや高む。(SI-19埋土)
8	富褐色土 ローム粒多量。ローム小ブロック若干混入。しまり高む。粘性高む。(SI-19貼床・掘方埋土)
9	暗褐色土 ローム粒少量。七本板パミス粒混入若干混入。しまり高む。粘性やや高む。(SI-19埋土)
10	暗褐色土 ローム粒少量混入。しまり高む。粘性やや高む。(SI-19埋土)
11	暗褐色土 ローム小ブロック・ローム粒少量混入。しまり高む。粘性やや高む。(SI-19貼床・掘方埋土)

第126図 北・内遺跡 SI-19・111実測図



第127図 北ノ内遺跡 SI-19 出土遺物



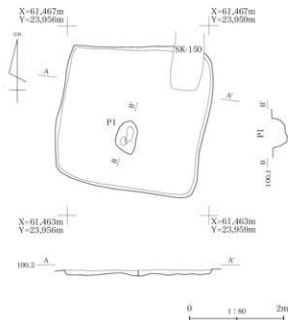
第128図 北ノ内遺跡 SI-111 カマダ実測図・出土遺物

第51表 北ノ内遺跡 SI-19 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 杯	口径: 12.2 底径: 6.0 器高: 3.4	ガラス光沢 黒色粒、小礫	内: 体~底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、底部 回転ヘラ切り後手持ち一 定方向ヘラケズリ	内: 浅黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・不良	7/10		カマダ
2	土師器 杯	口径: (14.0) 底径: (6.2) 器高: 3.7	ガラス光沢 黒色粒多量	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、 体部下端横位のヘラケズリ、 底部回転ヘラケズリ	内: 褐色 外: にぶい黄褐色 ・不良	口縁~体 部 1/8 底部 1/4		覆土
3	土師器 杯	口径: (13.6) 底径: - 器高: (3.2)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、体~底部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体~底 部ヘラケズリ	内: 黒色 外: 黒褐色 ・良	1/8	内面黒色処理。	カマダ
4	土師器 甕	口径: (17.2) 底径: - 器高: (6.4)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒	内: 口縁部ヨコナデ、肩部 ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、肩部 ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	1/8		覆土
5	土師器 甕	口径: - 底径: (15.7) 器高: (6.4)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 胴部ヘラナデ 外: 胴~底部ヘラケズリ	内: 赤黄褐色 外: 赤黄褐色 ・やや不良	底部 1/8	無底式、安定した底部。	覆土

第52表 北ノ内遺跡 SI-111 出土遺物観察表

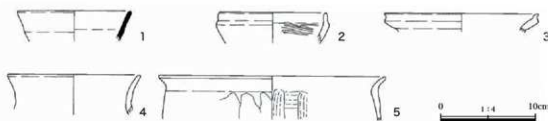
No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 杯	口径: - 底径: 5.2 器高: (0.9) 重量: 49.93g	砂粒、小礫	内: 底部ロクロナデ 外: 底部回転系切りのまま	内: にぶい黄褐色 外: にぶい褐色 ・良	底部完存	底部に直径 1.1cm の焼 成後穿孔。転用目的不 詳だが助輪車か。	カマダ



SI-21 土曜説明

1 暗褐色土 ローム粒 (2~3mm 大) 多量、七本板バミス粒少量、今由バミス粒若干混入。しまり混む。シルト質。

第 129 図 北ノ内遺跡 SI-21 実測図



第 130 図 北ノ内遺跡 SI-21 出土遺物

SI-21 (第 129・130 図、第 53 表)

調査区西部の 12.91 グリッドに位置する。周辺は古墳時代および奈良・平安時代の建物跡が密集し、最も遺構密度の高い一帯であるが、本建物跡をはじめ近接する SI-26・27・28・29 はやや小規模な建物跡である。SK-150 と重複し、SK が新しい。強く削平を受けており、掘方のみ確認した。

平面形は、やや歪んだ方形を呈する。規模は南北約 3.15m、東西約 3.04m で、面積は約 9.6 m² である。主軸の振れは N-8° -W である。

掘方埋土はローム粒を多量に含む暗褐色土で、確認できた深さは 6.0 ~ 10.0cm である。掘方底面に P1 を確認したほかはカマド、柱穴、梯子穴、壁際溝等は確認されなかった。

出土遺物は、掘方埋土内からの出土で、土師器環 7 点 27g、土師器甕 42 点 475g、須恵器環 3 点 16g、須恵器甕 3 点 96g、総量 55 点 614g と自然礫 201g が出土した。

建物跡の時期は、9 世紀代が。

第 53 表 北ノ内遺跡 SI-21 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環	口径:(12.0) 底径:— 器高:(3.2)	砂粒多量	内:口縁~体部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	1/9		覆土
2	土師器 環	口径:(11.2) 底径:— 器高:(3.4)	ガラス光沢 黒色粒	内:口縁部ヨコナデ、体部 粗いヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体部 ヘラナデ	内:黒色 外:黒色 ・良	1/12		覆土 小片
3	土師器 甕	口径:(16.0) 底径:(12.0) 器高:(2.0)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ 外:口縁部ヨコナデ	内:黒褐色 外:赤褐色 ・良	口縁部 1/18		覆土 小片
4	土師器 甕	口径:(13.8) 底径:— 器高:(4.2)	ガラス光沢 黒色粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ 外:口縁部ヨコナデ	内:明赤褐色 外:明赤褐色 ・やや不良	口縁部 1/10		覆土 小片
5	土師器 甕	口径:(24.0) 底径:— 器高:(4.6)	ガラス光沢 黒色粒	内:口縁部ヨコナデ、胴部 横位ヘラナデ後粗い縦位 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 縦位ヘラナデ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/12		覆土 小片

SI-23 (第 131 ~ 133 図、第 54 表、図版一三)

西調査区西部の 12.91 グリッドに位置する。削平により大幅に削られ、僅かな埋土とカマドの痕跡のみが確認された。古墳時代の竪穴建物跡 SI-22、奈良・平安時代の掘立柱建物跡 SB-317 と重複し、新旧関係は SI-22 < SI-23 < SB-317 である。このほか南側に古墳時代の竪穴建物跡 SI-25・26、西側に同じく SI-11・13、奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-14 が位置する。

平面形は、方形を呈する。規模は南北約 4.45m、東西約 4.20m で、面積は約 18.7 m² である。主軸の振れは N4° -W である。

埋土は黒褐色土で、自然堆積と思われる。

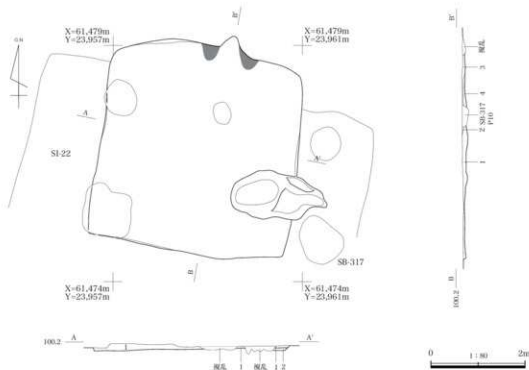
残存する壁の高さは、東壁 6.0 cm、西壁 4.0cm で、外傾して立ち上がる。

床は、掘方を一部暗黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約 6.0cm を測る。床の大部分は掘方底面を床面とする。掘方底面は重複する建物跡の埋土中であり、平坦であるが堅緻な床面は形成されていない。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認されていない。

カマドは北壁中央に構築され、袖の痕跡がみられる。また東壁南寄りにもカマド掘方が確認され、カマドの作り替えが行われたことが伺える。ただしカマドの新旧は判断するに至らない。

出土遺物は、土師器環 10 点 72g、土師器糞 24 点 600g、須恵器環 3 点 23g、須恵器糞 2 点 20g、総量 39 点 715g が出土した。

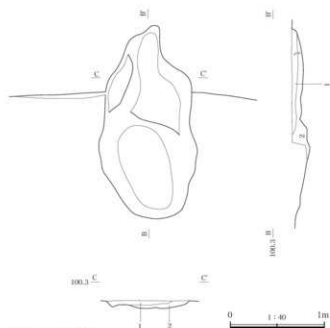
建物の時期は、9 世紀中葉～後葉としておく。



SI-23 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム粒少量、今市バミス粒少量混入、しまり富む。(SI-22埋土)
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック少量混入、しまり富む。(SI-23掘方埋土)
- 3 暗赤褐色土 焼土粒多量、灰色粘土粒少量混入、しまり富む、粘性やや富む。(カマド掘方埋土)
- 4 暗褐色土 ローム粒少量混入、しまり富む、粘性やや富む。(カマド掘方埋土)

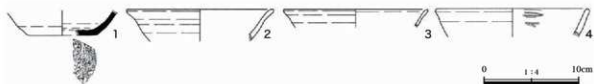
第 131 図 北ノ内遺跡 SI-23 実測図



SI-23 カマド土解説明

- 1 期赤褐色土 粘土粒多量、灰色粘土粒少量混入。しまり富む、粘性やや富む。
(カマド焼成土)
- 2 期褐色土 ローム粒少量混入。しまり富む、粘性やや富む。(カマド裏方埋土)

第132図 北ノ内遺跡 SI-23カマド実測図



第133図 北ノ内遺跡 SI-23出土遺物

第54表 北ノ内遺跡 SI-23出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏	口径：— 底径：(7.0) 器高：(2.7)	砂粒少量	内：体～底部ロクロナデ 外：体部ロクロナデ、底 部回転切り後手持ちヘ ラケズリ・ナデ	内：灰色 外：灰色 ・良	底部1/8		覆土
2	土師器 坏	口径：(15.2) 底径：— 器高：(3.3)	透明粒、小 窪	内：口縁～体部ロクロナ デ 外：口縁～体部ロクロナ デ	内：にぶい黄褐色 外：にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/6	体部は口縁部付近で僅 かに外反する。	覆土 小片
3	土師器 坏	口径：(15.0) 底径：— 器高：(1.9)	砂粒少量	内：口縁～体部ロクロナ デ 外：口縁～体部ロクロナ デ	内：褐色 外：褐色 ・良	口縁部 1/9		東カマド 小片
4	土師器 坏	口径：(16.0) 底径：— 器高：(3.0)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内：口縁部ロクロナデ後 ヘラミガキ、体部ヘラミ ガキ 外：口縁～体部ロクロナ デ	内：黒色 外：にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/15		覆土 小片

SI-24 (第 134 ~ 137 図、第 55・56 表、図版一三・二八・三二)

西調査区西部の 12.92 グリッドに位置する。南壁が調査区外となり未検出である。古墳時代の竪穴建物跡 SI-18・30 と重複する。北西に古墳時代の竪穴建物跡 SI-16・20、奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-19・111、北東に、奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-31・115 が位置する。周囲には建物跡が密集し、最も遺構密度の高い一帯である。

平面形は、方形を呈するものと思われる。規模は、確認できた範囲で南北約 3.98m、東西約 4.90m で、面積は約 19.5 m² である。主軸の振れは N-2° -W である。

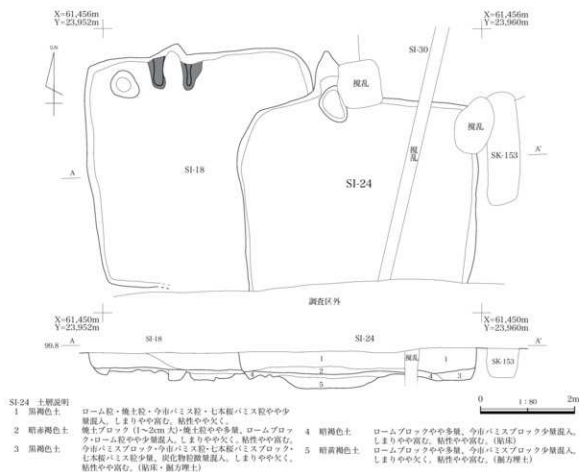
埋土は黒褐色土と暗赤褐色土からなり、ローム粒・焼土ブロックを含むことから人為堆積か。

残存する壁の高さは、東壁 28.0cm、北壁 30.2cm で、垂直に近く立ち上がる。

床は、暗黄褐色土で掘方を埋め戻した後、黒褐色土・暗褐色土で貼床を施す。貼床の厚さは約 6.0 ~ 24.0cm を測る。床面はやや凹凸がみられる。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認されていない。

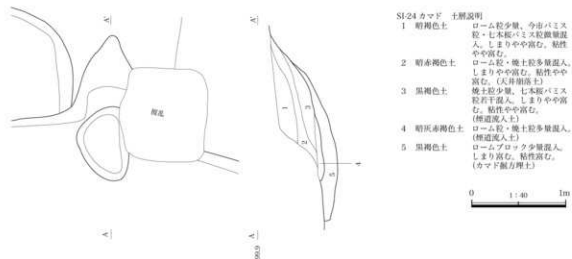
カマドは北壁中央に構築されるが、袖は遺存していなかった。掘方は深さ 14.0cm、北壁への突出は 74.0cm で掘方も奥壁深くに達する。

出土遺物は、土師器環 46 点 783g、土師器高環 1 点 26g、土師器甕 124 点 2,858g、土師器甕 1 点 36g、

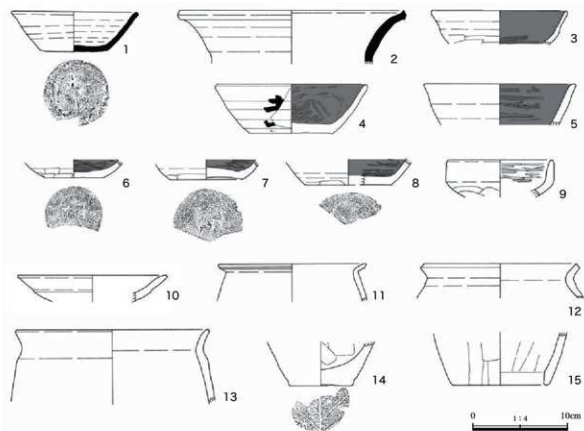


第 134 図 北ノ内遺跡 SI-24 実測図

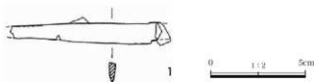
土師器鉢 3点 100g、土師器皿 2点 56g、須恵器坏蓋 1点 25g、須恵器坏 8点 200g、須恵器甕 11点 577g、鉄製品(刀子) 1点 9.17g、総量 198点 4,670gと縄文式土器 3点 43g、自然礫 380gが出土した。4の土師器坏は、体部外面に墨書する。建物跡の時期は、9世紀後葉である。



第135図 北ノ内遺跡 SI-24カマド実測図



第136図 北ノ内遺跡 SI-24出土遺物



第137図 北ノ内遺跡 SI-24 出土鉄製品

第55表 北ノ内遺跡 SI-24 出土土物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏	口径: 13.2 底径: 7.0 器高: 4.3	微砂粒、砂 粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、 底部回転ヘラ切り後ナデ	内: にぶい黄色 外: にぶい黄色 ・良	口縁部 1/4 底部ほぼ 完存		覆土
2	須恵器 甕	口径: (23.6) 底径: - 器高: (5.7)	砂粒	内: 口縁~頸部ロクロナデ 外: 口縁~頸部ロクロナデ	内: 浅黄色 外: 黒褐色 ・良	口縁部 1/9	口縁部は整美な断面 形。	覆土
3	土師器 坏	口径: (14.4) 底径: - 器高: (3.6)	砂粒多量	内: 口縁部調整不明瞭、体 部ヘラミガキ 外: 体部下端に二段のヘラ ケズリ	内: 灰黄色 外: 灰黄色 ・やや不良	1/9	体部下端に二段のヘラ ケズリ。内面黒色処理。	覆土 内面厚減、 小片
4	土師器 坏	口径: (15.6) 底径: (8.9) 器高: 5.2	砂粒	内: 口縁~底部ヘラミガキ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、体部下端回転ヘラケ ズリ、底部回転ヘラ切り 後回転ヘラケズリ	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁~体 部 1/5 底部 1/5	体部外面に墨書。内面 黒色処理。	覆土 口縁部内面 厚減
5	土師器 坏	口径: (16.0) 底径: - 器高: (4.3)	黒色粒、砂 粒、白色針 状物質	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/6	内面黒色処理。	覆土 小片
6	土師器 坏	口径: - 底径: 6.0 器高: (1.9)	透明粒、砂 粒、白色針 状物質	内: 体~底部ヘラミガキ 外: 体部下端に二段のヘラ ケズリ、底部回転ヘラ切 り後回転ヘラケズリ	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	1/3	底部外面ヘラ切り。内 面黒色処理。	覆土
7	土師器 坏	口径: - 底径: 7.5 器高: (2.2)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内: 体~底部ヘラミガキ 外: 体部下端ヘラケズリ、 底部回転ヘラ切り後黒線 手持ちヘラケズリ	内: 黒色 外: にぶい、褐色 ・良	底部 1/2	上底黒底部。内面黒色 処理。	覆土
8	土師器 坏	口径: - 底径: (9.0) 器高: (2.8)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒	内: 体~底部ヘラミガキ 外: 体部下端手持ちヘラケ ズリ、底部回転ヘラ切り 後回転ヘラケズリ	内: 黒色 外: 浅黄色 ・良	底部 1/4	内面黒色処理。	覆土
9	土師器 坏	口径: (11.2) 底径: - 器高: (3.9)	黒色粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体部 ヘラケズリ	内: 灰黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	1/12		カマド
10	土師器 高坏	口径: - 底径: (15.6) 器高: (2.9)	透明粒、砂 粒	内: 頸部ヨコナデ 外: 頸部ヨコナデ	内: 褐色 外: 褐色 ・良	口縁部 1/7		覆土
11	土師器 甕	口径: (15.4) 底径: - 器高: (4.0)	黒色微砂粒、 砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/8	薄い器厚。口縁部外 面に凹面を作る。	カマド
12	土師器 甕	口径: (16.0) 底径: - 器高: (3.7)	ガラス光沢 黒色粒多量、 透明粒	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内: 褐色 外: 褐色 ・良	1/6	口縁部内面に僅かに 凹面を作る。	カマド 小片
13	土師器 甕	口径: (20.4) 底径: (7.9) 器高: (7.9)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: 褐色 ・良	口縁部 1/6		覆土
14	土師器 甕	口径: - 底径: (6.5) 器高: (4.7)	黒色粒、砂 粒、小礫	内: 胴~底部ヘラナデ 外: 胴部ヘラナデ	内: 明赤褐色 外: 褐色 ・良	底部 1/2	底部木炭痕あり。	覆土
15	土師器 甕	口径: - 底径: (10.2) 器高: (5.5)	黒色粒、微 砂粒	内: 胴~底部ヘラナデ 外: 胴~底部ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: 褐色 ・良	底部 1/6	無底式。	覆土 小片

第56表 北ノ内遺跡 SI-24 出土鉄製品観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	刀子	長さ: (7.9) 厚さ: 重量: 9.17g	刃部先端と基部の大部分を欠く、棟の最大幅は3mm程度で、角棟・平造。区は刃側にあり、1mm程度の段がつく。		刃先端部・基部欠 損

SI-27 (第138・139図、第57表、
図版一三・三一)

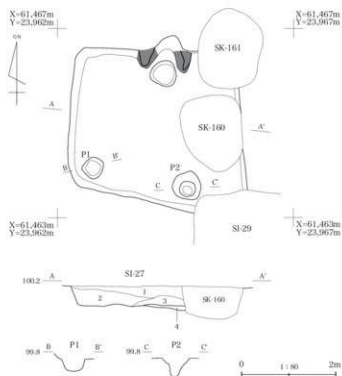
西調査区西部の13-91グリッドに位置する奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-29、SK-160・161と重複し東壁の一部を破壊されている。西側に古墳時代の竪穴建物跡SI-21、北側と同じくSI-26、東側に奈良・平安時代のSI-28が位置する。

平面形は、やや歪んだ方形を呈する。規模は南北約3.10m、東西約3.65mで、面積は約11.3g㎡である。主軸の振れはN-5°-Wである。埋土は暗褐色～黄褐色土で、いずれも自然堆積と思われる。残存する壁の高さは、東壁35.0cm、西壁35.0cm、南壁27.3cm、北壁37.7cmで、外傾して立ち上がる。床は掘方内を一部暗黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約4.0～10.0cmを測る。貼床のない部分はロームを床面とする。梯子穴、壁際溝は確認されていない。

柱穴は、主柱穴P1・2が確認された。規模はP1:50.0×45.0cm、深さ16.4cm。P2:60.0×58.0cm、深さ46.8cm。

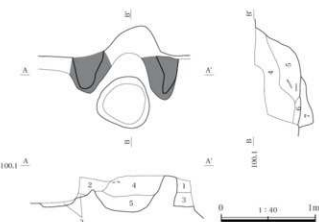
カマドは北壁中央に構築され、ローム削り出しの両袖が残っていた。袖は幅30.0～40.0cm、長さ18.0～44.0cm、高さ約15.0～20.0cmで、両袖間の幅は約76.0cmである。カマド掘方は深さ16.0cmで、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土で埋め戻されている。北壁への突出は24.0cmである。

出土遺物は、土師器環14点322g、土師器甕83点1.872g、須恵器環2点11g、須恵器甕2点409g、灰陶器碗1点4g、土製鈴釜車1点77g、総量103点2.695gと縄文式土器3点32gが出土した。建物の時期は、10世紀代である。



SI-27 土層説明

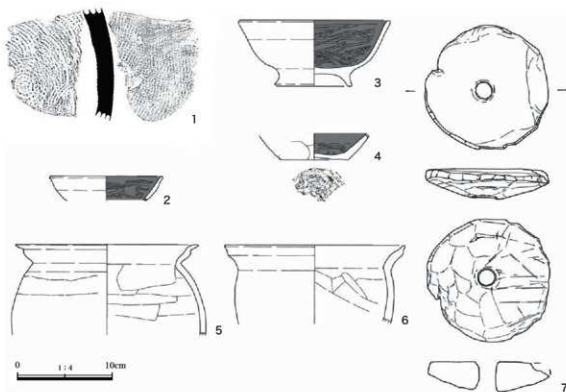
- 1 暗褐色土 ローム微粒やや少量、ローム粒・今半バミス微粒少量混入。しまりや中富む、粘性欠く。
- 2 暗赤褐色土 ローム微粒や中多量、ローム粒や中少量、ロームブロック・焼土粒少量混入。しまりや中欠く。粘性やや欠く。
- 3 褐色土 炭化物粒・焼土粒やや少量、ローム粒・ローム微粒・今半バミス微粒少量混入。しまり欠く。粘性やや欠く。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒やや少量、焼土粒少量、ロームブロック・炭化物粒混入。(掘方埋土カ)



カマド 土層説明

- 1 暗褐色土 ローム粒・焼土粒やや少量混入。しまりや中富む、粘性欠く。
- 2 暗赤褐色土 焼土ブロックやや中多量、ロームブロック少量混入。しまりや中富む、粘性欠く。
- 3 暗黄褐色土 ロームブロックやや少量、焼土粒少量混入。しまりや中富む、粘性やや中富む。
- 4 暗赤褐色土 焼土ブロック・炭化物粒多量、ロームブロック少量混入。しまりや中富む、粘性やや欠く。
- 5 赤褐色土 焼土ブロック・炭化物主体。
- 6 灰褐色土 灰主体、焼土粒・炭化物粒少量。しまり欠く。粘性やや中富む。
- 7 明赤褐色土 ロームブロック・焼土ブロック主体。ロームブロック多少熱を受ける。しまりや中富む、粘性やや欠く。(カマド掘方埋土)

第138図 北ノ内遺跡 SI-27 実測図



第139図 北ノ内遺跡 SI-27 出土遺物

第57表 北ノ内遺跡 SI-27 出土遺物観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須臾器 甕	口径: — 底径: — 器高: (11.7)	黒色粒・砂 粒	内: 胴部同心円文当て貝痕 外: 胴部タタキ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	胴部破片	胴部外面縦格子タタキ。	覆土
2	土師器 坏	口径: (12.0) 底径: — 器高: (2.6)	透明粒少量、 黒色粒・砂 粒微量	内: 口縁～体部ヘラミガキ 外: 体部ロクロナデ	内: 黒色 外: にぶい・黄褐色 ・良	口縁部 1/5	内面黒色処理。	覆土 内面摩滅、 小片
3	土師器 高台坏	口径: (16.1) 底径: 8.1 器高: 6.9	透明粒・砂 粒少量	内: 口縁部ロクロナデ後ヘ ラミガキ、体～底部ヘラミ ガキ 外: 口縁部ロクロナデ、体 部ロクロナデ後下半縁部ヘ ラナデ、後縁部高台後ナデ	内: 黒色 外: 灰黄褐色 ・良	口縁～体 部1/2 底～高台 部完存	やや大形で深く、安定 した高台。内面黒色処 理。	覆土
4	土師器 坏	口径: — 底径: (7.2) 器高: (2.8)	砂粒	内: 体～底部ヘラミガキ 外: 体部ロクロナデ・下端 ヘラケズリ、底部ヘラケ ズリ	内: 黒色 外: 褐色 ・良	底部 1/6	底面中央に凹面を作る。 内面黒色処理。	覆土
5	土師器 甕	口径: (19.2) 底径: — 器高: (9.6)	ガラス光沢 黒色粒・砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ	内: にぶい・黄褐色 外: 浅黄褐色 ・良	口縁部 2/5	口縁部は「く」字状に 外縁する。	SI-27 カマ ドと SK-160 覆土で遺構 間接合
6	土師器 甕	口径: (19.0) 底径: — 器高: (8.4)	ガラス光沢 黒色粒・砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ナデ	内: 黒褐色 外: にぶい・黄褐色 ・良	1/8	小形。口縁部外面に 凹面を作る。	カマド 外面摩滅
7	石製品 紡錘車	上径: 6.5 下径: 1.4 厚さ: 1.2 孔径: 0.8～0.9 重量: 77.14g	砂岩 粒子細かく 密度高い		外: 灰黄色	完形		覆土

SI-28 (第140・141図、第58表、図版一三)

西調査区中央部の13-91グリッドに位置する。南西方向に奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-27・29、北東方向にSI-33が位置する。また谷埋土の黒色土を掘り込んで構築されている。

平面形は、歪んだ方形を呈する。規模は南北約3.08m、東西約3.35mで、面積は約10.3㎡である。主軸の振れはN-8°-Wである。

埋土は暗褐色土の単層で、自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁8.9cm、西壁9.0cm、南壁10.0cm、北壁11.8cmで、緩く外傾して立ち上がる。

床は、掘方底面を床面とするが、谷埋土を掘り込むため床面は凹凸があり堅緻ではない。梯子穴、壁間溝は確認されていない。

柱穴は、主柱穴P1～4を確認した。規模はP1:70.0×65.0cm、深さ52.4cm。P2:55.0×49.0cm、深さ31.0cm。P3:32.0×28.0cm、深さ40.5cm。P4:73.0×66.0cm、深さ42.3cm。埋土の観察から、柱は抜き取られたと思われる。

カマドは攪乱により破壊され、全く遺存していない。

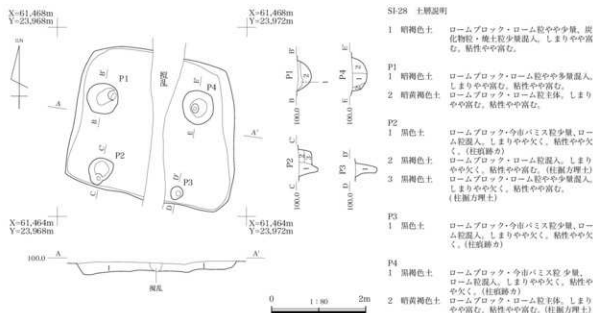
出土遺物は、土師器片1点2g、土師器裳17点212g、須恵器裳2点88g、灰軸陶器皿1点6g、緑軸陶器碗1点11g、土製有孔土製品1点16g、総量23点335gと縄文式土器1点13gが出土した。

1は灰軸陶器輪花皿で、軸を刷毛塗りする。

建物の時期は、9世紀後半としておく。



第140図 北ノ内遺跡 SI-28出土遺物



第141図 北ノ内遺跡 SI-28東測図

SI-28 土器説明

- 1 暗褐色土
ロームブロック・ローム粒や中少量、炭化物粒・焼土粒少量混入。しまりや中富む。粘性や中富む。
- P1
1 暗褐色土
ロームブロック・ローム粒や中少量混入。しまりや中富む。粘性や中富む。
2 暗褐色土
ロームブロック・ローム粒主体。しまりや中富む。粘性や中富む。
- P2
1 黒色土
ロームブロック・今市バミス粒少量、ローム粒混入。しまりや中欠く。粘性や中欠く。(柱頭跡か)
2 暗褐色土
ロームブロック・ローム粒混入。しまりや中欠く。粘性や中富む。(柱頭跡か)
3 黒褐色土
ロームブロック・ローム粒や中少量混入。しまりや中欠く。粘性や中富む。(柱頭跡か)
- P3
1 黒色土
ロームブロック・今市バミス粒少量、ローム粒混入。しまりや中欠く。粘性や中欠く。(柱頭跡か)
- P4
1 暗褐色土
ロームブロック・今市バミス粒少量、ローム粒混入。しまりや中欠く。粘性や中欠く。(柱頭跡か)
2 暗褐色土
ロームブロック・ローム粒主体。しまりや中富む。粘性や中富む。(柱頭跡か)

第58表 北ノ内遺跡 SI-28出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	灰軸陶器 輪花皿	口径:(14.6) 底径:一 器高:(1.9)	黒色粒少量	内:口縁~体部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナデ	内:灰白色 外:灰白色 ・良	1/18	口縁端部は外反せず収まる。内外面施釉。刷毛塗りか。	覆土 鋳造産 黒形90型式

SI-29 (第 142 ~ 144 図、第 59 表、図版一三・一四)

西調査区中央の 13-91 グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-27 と重複する。また SK-156・157 と重複し壁の一部を壊されている。北東方向に奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-28、南東と同じく SI-46・47、南西方向に同じく SI-31・115 が位置する。周囲には同時期の建物跡が密集し、最も遺構密度の高い一帯である。本建物跡は谷理土の黒色土上に構築されている。

平面形は、東西に長い方形を呈する。規模は南北約 3.70m、東西約 4.85m で、面積は約 18.0 m² である。主軸の振れは N-2° -W である。

埋土は暗褐色～黒褐色を中心とする 6 層に別けられ、いずれも自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁 53.3cm、西壁 51.7cm、南壁 47.7cm、北壁 51.1cm で、垂直に近く立ち上がる。床は、掘方を黄褐色土で埋め戻し、さらに暗黄褐色土で貼床とする。貼床の厚さは約 8.0 ~ 38.0cm を測る。南半では掘方底面が谷理土の黒色土中であるためか、床面はやや軟弱である。壁際溝は確認されていない。

柱穴は、主柱穴 P1・2 と梯子穴 P3 を確認した。規模は P1 : 25.0×20.0cm、深さ 16.3cm、P2 : 24.0×16.0cm、深さ 37.7cm。梯子穴 P3 は 70.0×50.0cm、深さ 36.5cm である。底面が 2 力所認められる。

カマドは北壁中央に構築され、黄灰色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅 48.0 ~ 52.0cm、長さ 70.0 ~ 100.0cm、高さ約 18.0cm で、両袖間の幅は約 80.0cm である。カマド掘方は深さ 20.0cm で、ローム粒を多量に含む暗褐色土で埋め戻されている。北壁への突出は 36.0cm で奥壁～煙道部にも黄灰色粘土を貼り付けている。

出土物は、土師器環 9 点 45g、土師器甕 84 点 1.728g、須恵器環 1 点 16g、須恵器甕 6 点 178g、総量 100 点 1.967g が出土した。

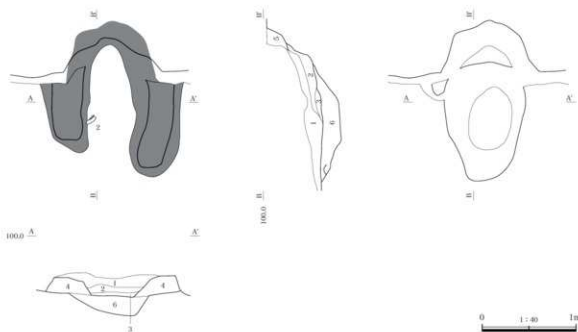
建物の時期は、10 世紀代である。



SI-29 土解説明

- 1 暗褐色土
ローム粒・ローム微粒・今市バミス粒・今市バミス微粒・七本桜バミス粒少量混入。しまり富む。粘性やや欠く。
- 2 暗褐色土
ロームブロック・ローム粒・今市バミスブロック・今市バミス微粒・七本桜バミスブロック・七本桜バミス微粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- 3 暗褐色土
今市バミス粒・七本桜バミス粒やや少量。炭化物粒少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
- 4 黒色土
今市バミス粒・七本桜バミス粒やや少量。七本桜バミスブロック少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
- 5 褐色土
ローム粒・今市バミス微粒・七本桜バミス微粒少量。ローム微粒混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
- 6 暗褐色土
今市バミス粒・七本桜バミス粒やや少量。白色粘土ブロック少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
- 7 暗黄褐色土
今市バミスブロックやや少量。今市バミス粒・七本桜バミス粒・白色粘土ブロック少量。ロームブロック混入。しまり富む。粘性やや欠く。(掘方埋土)
- 8 黄褐色土
ロームブロックやや多量。今市バミスブロックやや少量。今市バミス粒・七本桜バミス粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。(掘方埋土)
- 9 黒色土
今市バミス粒・七本桜バミス粒やや少量。ロームブロック・七本桜バミスブロック・七本桜バミスブロック少量混入。しまりやや富む。粘性欠く。(掘方埋土)

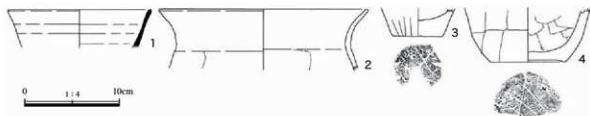
第 142 図 北ノ内遺跡 SI-29 実測図



カマダ 土器説明

- 1 明褐色土 明褐色粘土主体、七本杭・ビス微量混入。しまり高む、粘性高む。(天井明赤土)
- 2 暗赤褐色土 ローム質(1~2mm)・焼土粒(2~3mm)・粘土粒(1~2mm)少量混入。しまり高む。粘性高む。(天井内壁・柳道灰入土)
- 3 暗灰褐色土 ローム質・焼土粒微量。カーボン若干混入。しまり高む、粘性高む。(柳道灰入土)
- 4 黄灰褐色土 黄灰色土主体、焼土粒微量混入。しまり高む、粘性高む。(カマダ土)
- 5 暗赤褐色土 灰色粘土粒多量、赤褐色土・焼土粒少量混入。しまり高む、粘性高む。
- 6 暗褐色土 ローム粒多量、焼土粒微量混入。しまり高む、粘性やや高む。(カマダ掘方埋土)

第143図 北ノ内遺跡 SI-29 カマダ実測図



第144図 北ノ内遺跡 SI-29 出土遺物

第59表 北ノ内遺跡 SI-29 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏	口径:(14.8) 底径:— 器高:(4.0)	砂粒多量	内:口縁~体部口コナデ 外:口縁~体部口コナデ	内:明灰色 外:褐灰色 ・良	1/8		覆土 小片
2	土師器 甕	口径:(22.0) 底径:— 器高:(6.5)	黒色微粒少 量、砂粒微 量	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内:橙色 外:橙色 ・良	口縁部 1/4	薄い器厚。	カマダ内
3	土師器 甕	口径:— 底径:(5.0) 器高:(3.0)	透明粒、砂 粒	内:底部ヘラナデ 外:胴部ヘラケズリ	内:明褐色 外:にぶい橙色 ・良	底部 3/4	底径は小さく、木葉痕 あり。	カマダ掘方 覆土 外面焼熱や や赤化、小片
4	土師器 甕	口径:— 底径:7.8 器高:(5.8)	透明粒、砂 粒	内:胴~底部ヘラナデ 外:胴~底部ヘラケズリ	内:灰褐色 外:橙色 ・良	底部 1/2	底部は僅かに上げ底風 で、木葉痕あり。	カマダ掘方 覆土

SI-31 (第 145 ~ 147 図、第 60 表、図版一四・二八・三一)

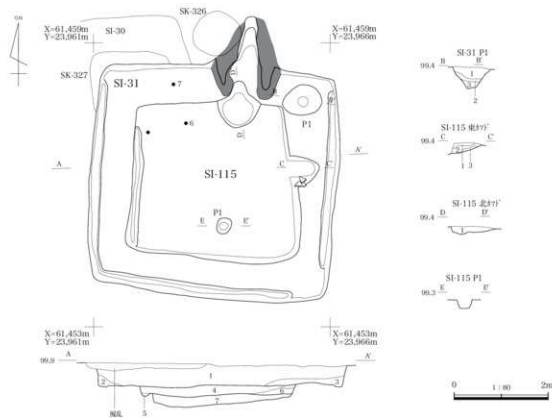
西調査区中央の 13-91 グリッドに位置する。古墳時代の竪穴建物跡 SI-30、奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-115 と重複し、新旧関係は SI-30 < SI-115 < SI-31 である。北東方向に奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-27 ~ 29、東方向に同じく SI-46・47、西方向に同じく SI-19・24・111 と密集する。本建物跡は谷埋土の黒色土上に構築されている。

平面形は、方形を呈する。規模は南北約 4.92m、東西約 5.16m で、面積は約 25.4 m² である。主軸の振れは N3° -W である。

埋土は暗茶褐色～暗褐色土の 3 層に別けられ、いずれも自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁 25.9cm、西壁 48.6cm、南壁 48.6cm、北壁 24.2cm で、外傾して立ち上がる。

床は、重複する竪穴建物跡を埋め戻し、それ以外の部分は地山面を床面とする。壁際溝が、南東コーナーを除く東壁・西壁・南壁で確認された。幅 18.0 ~ 32.0cm、深さ 2.0 ~ 6.0cm である。柱穴、梯子穴は確認されていない。



SI-31・115 土群説明

1 暗茶褐色土	ローム粒多量、今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。しまり富む。粘性やや富む。(SI-31 埋土)	SI-31 PI(北)	1 暗褐色土	今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。しまり富む。粘性やや富む。
2 褐色土	ローム粒少量、今市バミス粒少量混入。しまり富む。粘性やや富む。(SI-31 埋土)	2 暗褐色土	2 暗褐色土	七本板バミス粒多量、今市バミス粒少量混入。しまり富む。粘性やや富む。
3 暗褐色土	ローム粒多量、今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。しまり富む。粘性やや富む。(SI-31 埋土)	3 暗褐色土	3 暗褐色土	今市バミス粒多量、七本板バミス粒若干混入。底面に今市バミスブロックがみられる。しまり富む。粘性やや富む。
4 暗黒褐色土	ローム粒・今市バミス粒・七本板バミス粒多量混入。しまり富む。粘性やや富む。(SI-115 埋土)	SI-115 東カマド (C-C)	1 暗褐色土	ローム粒・焼土粒多量混入。しまり富む。粘性富む。
5 暗褐色土	今市バミス粒多量。ローム粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(SI-115 埋土)	2 暗褐色土	2 暗褐色土	ローム粒多量混入。しまり富む。粘性富む。
6 暗黒褐色土	ローム粒多量、今市バミス粒少量、ローム小ブロック少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(SI-115 カマドの一部)	3 暗黒褐色土	3 暗黒褐色土	ローム粒多量混入。しまり富む。粘性やや富む。
7 暗褐色土	ローム小ブロック・ローム粒・今市バミス小ブロック多量混入。しまりやや富む。粘性富む。(SI-115 船場・掘方埋土)	SI-115 北カマド (北)	1 暗褐色土	赤褐色土粒多量。ローム粒少量混入。しまり富む。粘性富む。

第 145 図 北ノ内遺跡 SI-31・115 実測図

北東コーナーに貯蔵穴 P1 を確認した。85.0×63.0cm、深さ 46.5cm の平面楕円形、断面逆台形を呈する。カマドは北壁東寄りには構築され、灰黄色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅 38.0～46.0cm、長さ 54.0～56.0cm、高さ約 16.0～20.0cm で、両袖間の幅は約 84.0cm である。カマド掘方は深さ 16.0cm で、ローム粒・灰色粘土ブロックを含む暗黄褐色土で埋め戻されている。北壁への突出は 100.0cm で奥壁～煙道部に灰黄色粘土を貼り付けている。本建物跡のカマドは袖部から煙道部に到るまで灰黄色粘土で構築し、遺存した袖部分も堅固であり、しっかりとした大型のカマドであるといえる。

遺物出土状況は、北壁寄りに 7 の土師器環、カマド内から 12 の土師器環が出土している。

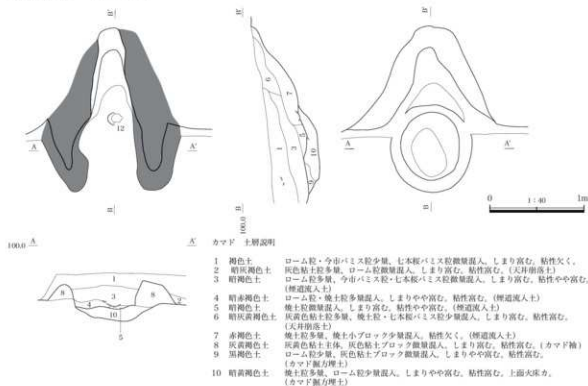
出土遺物は環類が多く、土師器環 74 点 1.444g、土師器甕 160 点 3.301g、土師器鉢 1 点 28g、土師器碗 3 点 47g、土師器皿 1 点 36g、須恵器環 11 点 141g、須恵器甕 27 点 1.331g、灰釉陶器碗 1 点 5g、総量 278 点 6.333g と自然礫 377g が出土した。環が多く出土しているが、土師器環には墨書がみられる。6・8 は「槻木」、15 は「申」か、16 は「□上」。5・10・11 は不明。13 は丁寧な作りで、削り出し高台の瓷器模倣皿である。19 は甕もしくは鉢の底部で、内面にハケ目を有する。

建物の時期は、9 世紀後葉である。

SI-115 (第 145・148 図、第 61 表、図版一四・二八)

西調査区中央の 13-91 グリッドに位置する。古墳時代の竪穴建物跡 SI-30、奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-31 と重複し、新旧関係は SI-30 < SI-115 < SI-31 である。SI-31 調査後に確認され、下部だけが確認された。北東方向に奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-27～29、東方向に同じく SI-46・47、西方向に同じく SI-19・24・111 と密集する。本建物跡は谷埋土の黒色土上に構築されている。

平面形は、歪んだ方形を呈する。規模は南北約 3.23m、東西約 3.52m で、面積は約 11.4 m² である。主軸の振れは N-5° -W である。



第 146 図 北ノ内遺跡 SI-31 カマド実測図

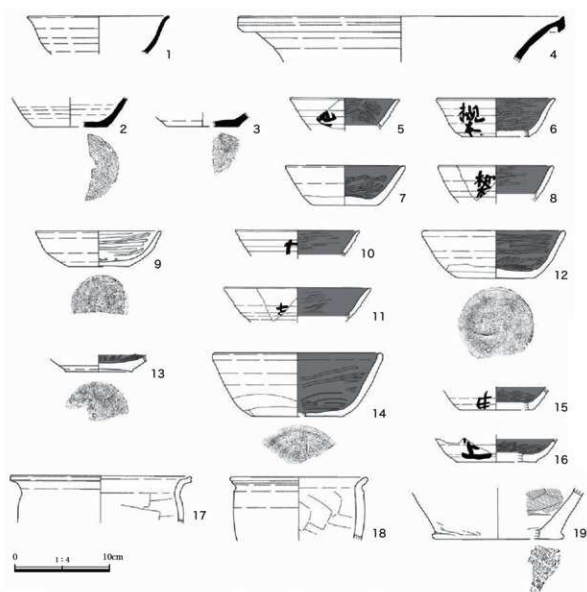
埋土はローム粒を多量に含む暗黒褐色土・暗黄褐色土で、人為堆積と思われる。4層は重複するSI-115の床面として機能しており、堅く締まっている。

残存する壁の高さは、東壁 14.1cm、西壁 17.6cm、南壁 15.8cm で、外傾して立ち上がる。床は、掘方をロームブロック・ローム粒を多量に含む暗褐色土で埋め戻して床面としている。西壁で際溝が確認された。

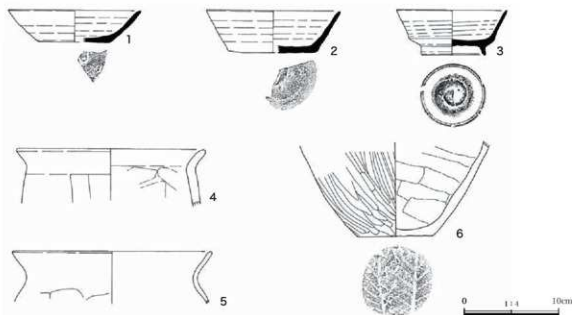
柱穴は、南壁寄りに P1 を確認した。規模は P1 : 34.0×30.0cm、深さ 21.3cm である。

カマドは北壁東寄りに確認された。両カマドとも掘方のみ確認された。東カマドはローム粒を多量に含む黒褐色土等で堅く締められており、この使用を止め埋め戻して北カマドを使用したものと考えられる。

遺物出土状況は、北壁に近いところで、6 の外面をよく磨いた甕の胴部過半が出土した。出土遺物は、土師器環 5 点 44g、土師器甕 38 点 849g、須恵器環 11 点 271g、須恵器甕 8 点 1.822g、総量 62 点 2.986g が出土した。建物の時期は、9 世紀前葉である。



第 147 図 北ノ内遺跡 SI-31 出土遺物



第148図 北ノ内通跡 Si-115 出土遺物

第60表 北ノ内通跡 Si-31 出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏	口径:(14.8) 底径:— 器高:(4.0)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内:口縁~体部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナデ	内:褐灰色 外:褐灰色 ・良	1/12	体部は内湾気味に立ち、 口縁部付近で僅かに外 反する。	覆土 小片
2	須恵器 坏	口径:— 底径:(7.8) 器高:(3.1)	砂粒、小礫、 白色針状物 質	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナデ、 底部回転ヘラ切り後ナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	底部1/2	底部外面不定方向ナデ、 ヘラ記号。	SI-31 カマド と SI-115 北 カマド厨 方で遺構間 接合
3	須恵器 坏	口径:— 底径:(7.6) 器高:(1.5)	砂粒、小礫	内:体~底部ロクロナデ 外:体~底部ロクロナデ、 底部ナデ	内:褐灰色 外:褐灰色 ・良	底部1/5	底部外面不定方向ナデ、 ヘラ記号「一」。	覆土 小片
4	須恵器 甕	口径:(33.6) 底径:— 器高:(4.8)	黒色粒・砂 粒少量、透 明粒微量、 白色針状物 質	内:口縁~頸部ロクロナデ 外:口縁~頸部ロクロナデ	内:灰黄色 外:灰黄色 ・良	口縁部破 片		覆土 小片
5	土師器 坏	口径:(11.4) 底径:— 器高:—	砂粒	内:口縁~体部ヘラミガキ 外:口縁~体部ロクロナデ	内:黒色 外:灰黄褐色 ・良	1/6	体部外面に墨書。内面 黒色処理。	覆土 小片
6	土師器 坏	口径:(12.4) 底径:(7.0) 器高:4.0	砂粒	内:口縁~体部ヘラミガキ 外:口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラケズリ	内:黒色 外:褐色 ・良	1/4	体部外面に墨書「模本」 。内面黒色処理。	覆土
7	土師器 坏	口径:12.6 底径:7.0 器高:4.2	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内:口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体部一定方向・ 底部横位ヘラミガキ、 外:口縁部ロクロナデ、体 部下端ヘラケズリ、底部 回転ヘラ切り後回転ヘラ ケズリ	内:褐灰色 外:褐色 ・良	3/4	内面黒色処理。	断面剥落顕 著
8	土師器 坏	口径:(12.1) 底径:— 器高:—	砂粒	内:口縁~体部ヘラミガキ 外:口縁~体部ロクロナデ、 体部下端回転ヘラケズリ	内:黒色 外:浅黄褐色 ・良	1/8	体部外面に墨書「模本」 か。内面黒色処理。	覆土 小片、内面 厚減
9	土師器 坏	口径:(13.0) 底径:6.3 器高:3.7	黒色粒・透 明粒・砂粒 少量	内:口縁~体部内面横位・ 底部一定方向ヘラミガキ 外:口縁~底部ロクロナ デ、底部回転系切り後回 転ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁~体 部1/3 底部2/3		覆土

10	土師器 環	口径:(13.0) 底径:— 器高:—	砂粒	内:口縁~体部ヘラミガキ 外:口縁~体部ロクロナデ	内:黒色 外:にぶい・褐色 ・良	1/8	体部外面に墨書。内面 黒色処理。	P1 内面摩滅
11	土師器 環	口径:(15.4) 底径:— 器高:—	砂粒	内:口縁~体部ヘラミガキ 外:口縁~体部ロクロナデ	内:黒色 外:褐色 ・良	1/8	体部外面に墨書。内面 黒色処理。	覆土 小片、内面 摩滅
12	土師器 環	口径:(15.0) 底径:8.0 器高:5.1	砂粒	内:口縁部ロクロナデ後ヘ ラミガキ、体部内面弧状 ~底部横位ヘラミガキ 外:口縁部ロクロナデ、体 部下端ヘラケズリ、底部 回転ヘラ切り後回転ヘラ ケズリ	内:橙~黒色 外:にぶい・黄褐色 ・良	1/3	内面黒色処理。	カマド
13	土師器 皿	口径:— 底径:7.0 器高:(1.8)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内:底部放射状ヘラミガキ 外:体部下端回転ヘラケズ リ、底部回転ヘラ切り後 回転ヘラケズリ	内:黒色 外:褐色 ・良	底部 1/2	内面黒色処理。姿態模 倣。	覆土
14	土師器 環	口径:(18.0) 底径:(9.6) 器高:6.7	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内:口縁部ロクロナデ後横 位ヘラミガキ、体部横位 ヘラミガキ、底部一定方 向ヘラミガキ 外:口縁部ロクロナデ、体 部下端一段のヘラケズリ、 底部回転ヘラ切り後回転 ヘラケズリ	内:黒色 外:灰褐色 ・良	1/5	大形。内面黒色処理。	カマド
15	土師器 環	口径:— 底径:(7.6) 器高:—	砂粒	内:体~底部ヘラミガキ 外:体部ロクロナデ、底部 ヘラケズリ	内:黒色 外:にぶい・黄褐色 ・良	1/4	体部外面に墨書。「申」 か。内面黒色処理。	覆土
16	土師器 環	口径:— 底径:(8.4) 器高:—	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内:体~底部ヘラミガキ 外:体部ロクロナデ、体 部下端回転ヘラケズリか、 底部回転ヘラ切り後ヘラ ケズリか	内:黒色 外:浅黄褐色 ・良	体部 1/2 底部 1/3	体部外面に墨書「口上」、 内面黒色処理。	覆土
17	土師器 甕	口径:(19.0) 底径:— 器高:(5.0)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 横位ヘラナデ	内:にぶい・赤褐色 外:にぶい・赤褐色 ・良	1/12	小形。口部端部外面に 凹面を作る。	覆土
18	土師器 甕	口径:(14.5) 底径:— 器高:(6.7)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 横位ヘラナデ	内:にぶい・黄褐色 外:にぶい・褐色 ・良	口縁~胴 部上半 1/2	小形。口部端部外面に 凹面を作る。	P1・カマド
19	土師器 甕	口径:— 底径:(14.0) 器高:(5.4)	透明粒、砂 粒、小礫	内:体~底部ハケメ 外:体部ヘラケズリ	内:赤褐色 外:赤褐色 ・良	1/12	底部木葉痕あり。	覆土 小片

第61表 北ノ内遺跡 SI-115出土物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環	口径:(13.8) 底径:(7.4) 器高:3.4	砂粒多量、 小礫	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切りか	内:灰色 外:青灰色 ・良	口縁~底 部 1/6	口縁部内面端部に自然 輪付着。底部外面にヘ ラ記号。	覆土
2	須恵器 環	口径:(14.0) 底径:(9.0) 器高:4.5	砂粒、小礫	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り	内:灰色 外:灰色 ・良	口縁~底 部 1/4		覆土
3	須恵器 高台杯	口径:(11.6) 底径:6.6 器高:4.8	砂粒、小礫、 白色針状物 質	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後、 後付高台ナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	口縁部 1/3 底部完存	体部下端に種をもつ。 断面セピア色。内面に 重ね焼き痕あり。底部 外面にヘラ記号「一」。	覆土
4	土師器 甕	口径:(19.8) 底径:— 器高:(6.0)	ガラス光沢 黒色粒多量、 透明粒、砂 粒	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内:明赤褐色 外:明赤褐色 ・良	口縁部 1/6		北カマド掘 方
5	土師器 甕	口径:(20.8) 底径:— 器高:(5.6)	ガラス光沢 黒色粒多量、 砂粒少量	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内:褐色 外:にぶい・褐色 ・良	口縁部 1/6	器厚は薄く、口縁部の 断面は整美な外反。	覆土 武蔵甕
6	土師器 甕	口径:— 底径:7.8 器高:(10.0)	透明粒、雲 母、砂粒、 小礫	内:胴~底部ヘラナデ 外:胴部ヘラミガキ	内:にぶい・黄褐色 外:にぶい・黄褐色 ・良	底部完存	底部木葉痕二枚分あり。	覆土

SI-32 (第149・150図、第62表、図版一四・二八)

西調査区中央の13-90グリッドに位置する。多数の土坑と重複し、また強く削平を受けているため、ごく僅かに埋土とカマドの痕跡のみ確認された。東側に奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-36・37、南側に古墳時代の竪穴建物跡SI-33が位置する。本建物跡は西調査区の中央に位置し、竪穴建物跡よりも土坑が卓越して密集する一帯である。

平面形は、歪んだ方形を呈する。規模は、確認できた範囲で南北約2.85m、東西約2.73mで、面積は約7.8㎡である。主軸の振れはN7°-Wである。

埋土はごく僅かに暗褐色土が認められた。

残存する壁の高さは、東壁8.5cm、南壁7.8cm、北壁5.9cmで、外傾して立ち上がる。

床は掘方を暗黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約1.0～10.0cmを測る。梯子穴、壁際溝は確認されなかった。

柱穴は、不詳ピットP1・2を確認した。規模はP1:60.0×32.0cm、深さ16.5cm。P2:75.0×75.0cm、深さ32.6cm。

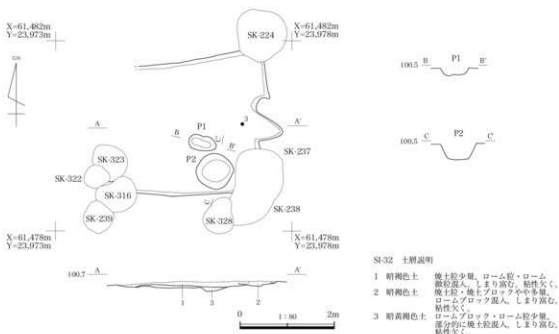
カマドは東壁中央に構築され、袖は残存していなかったが、僅かに焼土が認められた。

遺物出土状況は、カマド内から3の土師器環が出土している。

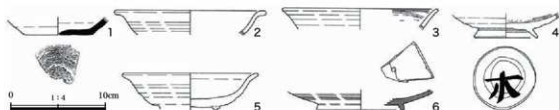
出土遺物は、土師器環12点309g、土師器甕54点928g、土師器埴3点41g、須恵器環2点24g、須恵器甕3点51g、緑釉陶器皿1点11g、総量75点1,364gと自然礫1,954gが出土した。

2・4・5は土師器高台。4は底部外面に墨書「木」。2・5の環部は器高が低く、肥厚した口縁部が外反する。高い高台が付いたものと考えられる。6は緑釉陶器皿。輪高台で内面に陰刻文様をもつ。

建物の時期は、10世紀後半である。



第149図 北ノ内遺跡 SI-32 実測図



第150図 北ノ内遺跡 SI-32 出土遺物

第62表 北ノ内遺跡 SI-32 出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環	口径: 一 底径: (7.4) 器高: (1.9)	砂粒、小礫	内: 体~底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、底部 回転へず切りのまま	内: 橙色 外: にぶい橙色 ・良	底部 1/5	底面中央に凹面を残す。	貯蔵穴
2	土師器 高台杯	口径:(16.0) 底径: 一 器高: (2.6)	黒色粒・透 明粒・砂粒 少量	内: 口縁~体部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ	内: 浅黄色 外: にぶい黄橙色 ・良	1/10	口縁部は外反し、口唇 端部は肥厚し丸く絞わ る。	甕土 小片
3	土師器 杯	口径:(16.4) 底径: 一 器高: (2.2)	砂粒少量、 白色針状物 質	内: 口縁部ヘラミガキ 外: 口縁部ロクロナデ	内: 橙色 外: にぶい黄橙色 ・良	口縁部 1/9		カマド
4	土師器 高台杯	口径: 一 底径: 6.6 器高: 一	砂粒	内: 体~底部ヘラミガキ 外: 体部ロクロナデ、後付 高台後ナデ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	体部 1/6 底~高台 部完存	底部外面に墨書「木」	P1
5	土師器 高台杯	口径: 14.0 底径: 一 器高: (4.0)	砂粒、礫	内: 口縁~体部ロクロナ デ、底部一定方向ナ デ、口縁~体部ロクロ ナデ、体部下端ヘラズリ、 後付高台後ナデ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/6・高 台部欠損	歪みあり。体部外面に ロクロ痕を強く残す。	甕土 口縁部外面 一部油煙痕 か
6	緑釉陶器 皿	口径: 一 底径: (9.2) 器高: (2.2)	黒色粒	内: 体~底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、後付 高台後ナデ	内: 灰オリーブ 外: 灰オリーブ ・良	1/10	内面に際刺文様。	甕土

SI-34 (第151～154図、第63・64表、図版一五・二八・二九・三一・三二)

西調査区中央の13-91グリッドに位置する。古墳時代の竪穴建物跡SI-33、SK-241と重複する。北東に古墳時代の竪穴建物跡SI-35a・35b、南西に奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-27～29・46・47が位置する。本建物跡は谷埋土の黒色土上に構築されている。

平面形は、ほぼ方形を呈する。規模は南北約6.03m、東西約5.72mで、面積は約34.5㎡である。主軸の振れはN-2°-Wである。

埋土は暗褐色～黒褐色を中心に別けられるが、部分的に人為堆積と思われる層がみられる。

残存する壁の高さは、東壁69.0cm、西壁29.8cm、南壁62.2cm、北壁62.8cmで、外傾して立ち上がる。

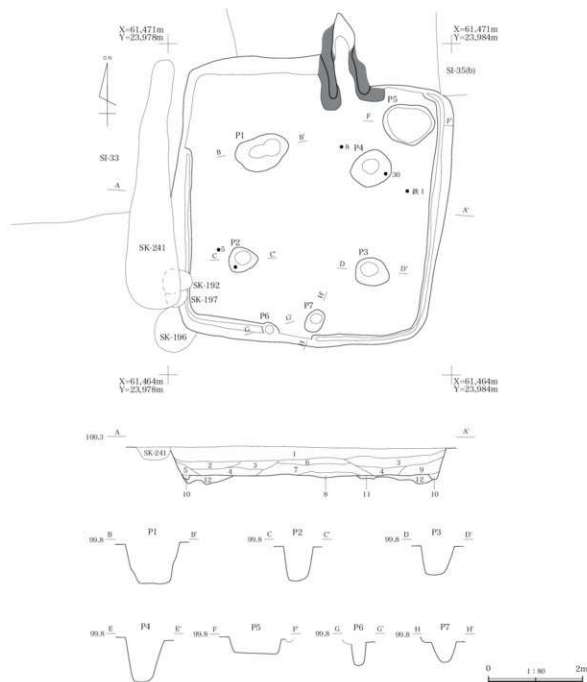
床は、壁に近い部分は掘方を黒褐色土で埋め戻して貼床とするが中央部分は地山を床面とする。しかし掘方底面は谷埋土の黒色土であるため、床面は堅緻ではない。貼床の厚さは約4.0～20.0cmを測る。北壁と西壁北側、南壁中央を除き壁際溝を確認した。

柱穴は、主柱穴P1～4と梯子穴P6・7を確認した。規模はP1:115.0×75.0cm、深さ83.6cm。P2:62.0×51.0cm、深さ73.2cm。P3:75.0×58.0cm、深さ61.0cm。P4:85.0×81.0cm、深さ92.3cm。

梯子穴P6・7は対で出入り口施設を構成するものか、新旧の施設か不明である。P6:36.0×32.0cm、深さは48.8cm。P7:50.0×37.0cm、深さ43.3cm。

貯蔵穴P5を北東コーナーで確認した。112.0×83.0cm、深さ40.8cmの平面楕円形で、底面は平坦である。

カマドは北壁東寄りに構築され、灰白色粘土で構築された両袖が残存していた。カマドの東西で北壁の位



SI-34 土層説明

- 1 暗褐色土
今市バミス粒・七本板バミス粒やや少量、炭化物少量混入。しまり富む。粘性欠く。
- 2 暗褐色土
今市バミスアブロック・七本板バミスアブロック・七本板バミス粒・炭化物粒やや少量、焼土アブロック少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- 3 暗褐色土
七本板バミスアブロック・七本板バミス粒やや少量、今市バミスアブロック・今市バミス粒・炭化物粒・焼土粒少量混入。しまりやや欠く。
粘性やや欠く。
- 4 黒褐色土
今市バミスアブロック・七本板バミス粒やや少量、今市バミス粒・炭化物粒少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
- 5 黒褐色土
今市バミスアブロック・今市バミス粒やや少量、七本板バミスアブロック・七本板バミス粒少量混入。しまりやや富む。粘性欠く。
- 6 暗褐色土
今市バミスアブロック多量、七本板バミス粒・焼土アブロック少量混入。しまり富む。粘性欠く。
- 7 黒褐色土
今市バミス粒・七本板バミス粒・炭化物粒・焼土粒少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
- 8 暗赤褐色土
今市バミスアブロック・今市バミス粒・七本板バミスアブロック・七本板バミス粒・炭化物粒・焼土粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- 9 暗褐色土
今市バミス粒・七本板バミス粒やや少量、砂粒少量混入。しまりやや富む。粘性欠く。
- 10 黒褐色土
今市バミスアブロック・今市バミス粒・七本板バミスアブロック(1cm大)七本板バミス粒少量混入。しまりやや欠く。(掘削埋土)
- 11 暗褐色土
今市バミス主体。炭色土少量混入。しまり富む。粘性欠く。(掘方埋土)
- 12 黒褐色土
今市バミスアブロック・七本板バミスアブロックやや少量混入。しまり富む。粘性やや欠く。(掘方埋土)

第151図 北ノ内遺跡 SI-34 実測図

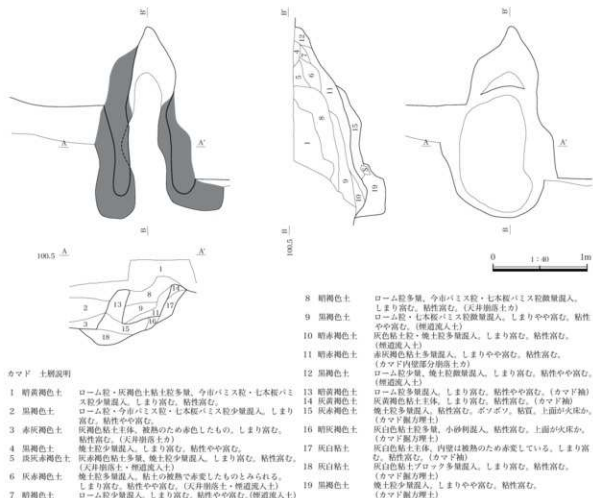
置が違い、西側すなわちカマド右袖は奥まった北壁からより長い袖を構築している。袖は幅 41.0～60.0cm、長さ 78.0cm、高さ約 32.0cm で、両袖間の幅は約 68.0cm である。カマド掘方は深さ 29.0～34.0cm で、灰白色粘土で埋め戻されている。カマド掘方埋土とした層の上部（15層）は焼土粒を多量に含み、長期間のカマド使用により堆積した焼土層と考えられ、その上に袖材を追加補修したものが 13層と考えられる。北壁への突出は 84.0cm で煙道部にも灰白色粘土を貼り付けている。

遺物出土状況は、5・8 が床面で出土したほか、30 の紡錘車が P4 検出面で出土している。

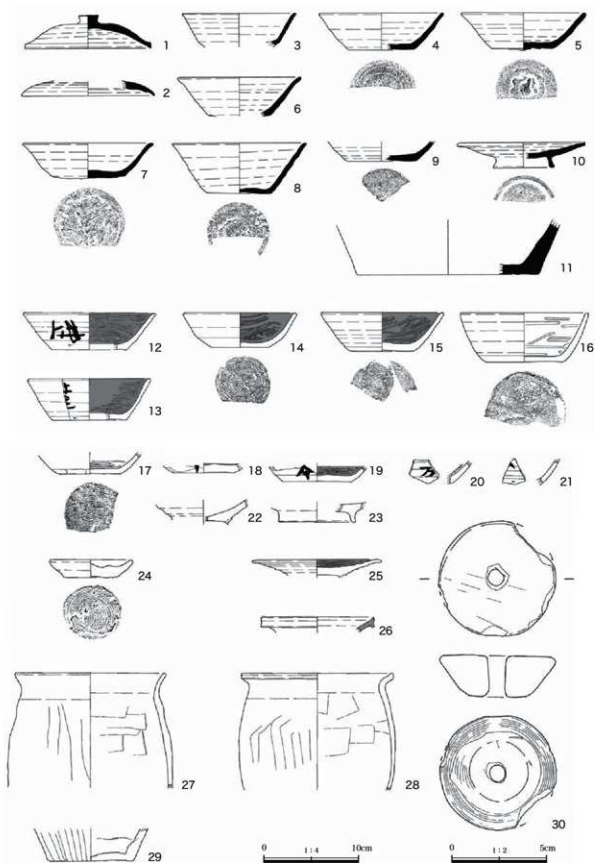
出土遺物は、土師器環 57 点 981g、土師器甕 283 点 4,825g、土師器埴 5 点 92g、土師器皿 2 点 132g、須恵器環蓋 4 点 146g、須恵器環 41 点 816g、須恵器甕 37 点 1,533g、須恵器皿 1 点 92g、灰釉陶器壺 1 点 10g、緑釉陶器碗 1 点 1g、土製紡錘車 1 点 71g、鉄製品（刀子）2 点 39.35、総量 435 点 8,738g と中世陶磁器 4 点 43g、縄文式土器 2 点 57g、自然礫 1,911g が出土した。

須恵器・土師器ともに環類が多く、土師器環には墨書がみられる。12 は「井上」、13 は「井口」、18・19 は「本」か。類似の墨書は SI-31 で「槻本」「口上」が出土しており、関連性が考えられる。25 は瓷器模倣の土師器皿。30 は土製紡錘車である。

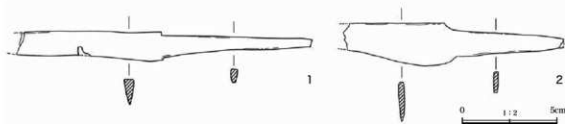
建物の時期は、9 世紀後葉である。



第 152 図 北ノ内道跡 SI-34 カマド実測図



第153図 北ノ内遺跡 SI-34 出土遺物



第 154 図 北ノ内遺跡 SI-34 出土鉄製品

第 63 表 北ノ内遺跡 SI-34 出土物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環蓋	桶径: 2.1 口径: 13.4 器高: 3.6 重量: 132.0g	小礫	内: 体~底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、揃み 貼付後ロクロナデ	内: 灰黄褐色 外: にぶい赤褐色 ・やや不良	ほぼ完形		覆土
2	須恵器 環蓋	桶径: 一 口径: (14.0) 器高: (1.5)	砂粒少量	内: 体~肩部ロクロナデ 外: 体~肩部ロクロナデ	内: 灰黄色 外: 灰白色 ・良	1/12	返り蓋。	覆土 小片
3	須恵器 高台環	口径: (11.8) 底径: 一 器高: (3.6)	砂粒多量	内: 口縁~体部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁~体 部破片	やや小形で環部は浅い。	P1 覆土 高台跡難直
4	須恵器 環	口径: (13.0) 底径: (6.8) 器高: 3.9	小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラケズリ	内: にぶい赤褐色 外: にぶい赤褐色 ・不良	1/2		SI-33 覆土上 SI-34 覆土上 遺構間接合
5	須恵器 環	口径: 13.0 底径: 6.5 器高: 4.0	小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り	内: 灰赤色 外: 灰赤色 ・やや不良	1/2		
6	須恵器 環	口径: (12.9) 底径: 7.7 器高: 4.1	砂粒多量	内: 体~底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁~体 部 1/6 底部一部	体部内外面に水挽き痕 を残す。	覆土
7	須恵器 環	口径: (13.6) 底径: 7.7 器高: 3.8	黒色粒・砂 粒少量、透 明粒微量	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 ヘラケズリ	内: 暗灰黄色 外: 黄灰色 ・やや不良	口縁部 1/4 体部 1/2 底部ほぼ 完形	底部内面中央をヘラ・ 指で押さえ、底部外面 は厚く取り過ぎた粘土 をナデ・ヤズリで整え た。粗い作り。	覆土
8	須恵器 環	口径: 14.0 底径: 6.7 器高: 5.2	砂粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 周縁手持ちヘラケズリ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁部 3/4 底部 1/2	深めの器形。	SI-33 覆土上 SI-34 で遺構 間接合
9	須恵器 環	口径: 一 底径: (7.0) 器高: (2.1)	砂粒多量、 透明粒微量	内: 体~底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、底部 ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	底部 1/4	底部外面にヘラ記号「 ×」か。	覆土
10	須恵器 台付皿	口径: (13.4) 底径: (6.2) 器高: 2.7	小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部ナデ、後付高台 後ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	1/2	底部外面にヘラ記号「 二」か。	覆土
11	須恵器 甕	口径: 一 底径: (19.0) 器高: (5.8)	砂粒	内: 胴~底部ロクロナデ 外: 胴部ロクロナデ	内: 灰色 外: 暗オリーブ色 ・良	底部 1/4	平底。胴部断面セピア 色。外面自然軸付着。	覆土
12	上埴器 環	口径: (13.8) 底径: (8.0) 器高: 3.9	砂粒	内: 口縁~底部ヘラミガキ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、体部下端回転ヘラケ ズリ、底部ヘラケズリ	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁~体 部 1/3 底部 1/10	体部外面に墨書「井上」 か。内面黒色処理。	覆土
13	上埴器 環	口径: (12.8) 底径: (7.8) 器高: 4.4	砂粒	内: 口縁~底部ヘラミガキ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、体部下端回転ヘラケ ズリ、底部回転ヘラケズリ	内: 黒色 外: 褐色 ・良	口縁~体 部 1/8 底部 1/5	体部外面に墨書「井上」 か。内面黒色処理。	覆土
14	上埴器 環	口径: (11.5) 底径: 5.9 器高: 3.7	透明粒少量、 砂粒	内: 口縁部ロクロナデ後ヘ ラミガキ、体~底部ヘラ ミガキ 外: 口縁部ロクロナデ、体 部下端二段のヘラケズリ ヘラケズリ、底部切り離 し不明・回転ヘラケズリ	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	1/3	やや小形。 内面黒色処理。	覆土

15	土師器 環	口径: 12.8 底径: (6.9) 器高: 4.1	微砂粒	内: 体部横位~斜位ヘラミガキ、底部凹凹ヘラミガキ 外: 口縁部ロクロナデ、体部下端凹凹ヘラケズリ、底部切り離し不明・回転ヘラケズリ	内: 黒色 外: にぶい黄褐色・良	1/4	内面黒色処理。	覆土
16	土師器 環	口径: (13.4) 底径: 7.8 器高: 5.2	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内: 口縁~体部横位ヘラミガキ、体部下方向ヘラミガキ 外: 口縁~体部ロクロナデ、体部下端凹凹ヘラケズリ、底部切り離し不明・回転ヘラケズリ	内: 明褐色 外: にぶい黄褐色・良	口縁部 1/8 底部 1/2	やや深めの器形。	覆土 内外面厚減
17	土師器 環	口径: — 底径: (6.4) 器高: (2.2)	黒色粒・透 明粒・砂粒 少量	内: 体~底部ヘラミガキ 外: 体部下端手持ちヘラケズリ、底部静止糸切り	内: 褐色 外: 褐色 ・良	体部 1/3 底部 2/3		覆土
18	土師器 環	口径: — 底径: 6.3 器高: —	砂粒	内: 底部ヘラミガキ 外: 体部下端手持ちヘラケズリ、底部静止糸切りのまま	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	底部完存	体部外面に墨書。内面 黒色処理。	覆土
19	土師器 環	口径: — 底径: 7.3 器高: —	砂粒	内: 体~底部ヘラミガキ 外: 体部ロクロナデ、体部下端凹凹ヘラケズリ、底部凹凹ヘラケズリ	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	体部一部 底部 2/3	体部外面に墨書「本」か、 内面黒色処理。	カマド掘方
20	土師器 環	口径: — 底径: — 器高: —	砂粒	内: 体部ヘラミガキ 外: 体部ロクロナデ	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	体部 1/10	体部外面に墨書「万」、 内面黒色処理。	覆土
21	土師器 環	口径: — 底径: — 器高: —	砂粒	内: 体部ヘラミガキ 外: 体部ロクロナデ、体部下端凹凹ヘラケズリ	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	体部 1/10	体部外面に墨書。内面 黒色処理。	覆土 小片
22	土師器 高台杯	口径: — 底径: — 器高: (2.6)	砂粒少量	内: 体~底部ナデ 外: 体部ロクロナデ、底部ナデ、後付高台後ナデ	内: 淡赤褐色 外: 淡赤褐色 ・良	底部 1/3 高台部欠損		覆土 小片
23	土師器 高台杯	口径: — 底径: (8.0) 器高: (2.1)	透明粒・砂 粒少量	内: 底部ヘラミガキ 外: 体~底部ロクロナデ、後付高台後ナデ	内: 黒色 外: にぶい褐色 ・良	底部 1/4	内面黒色処理。	覆土 小片
24	土師器 皿	口径: 8.5 底径: 5.7 器高: 1.9	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、底部凹凹糸切り	内: 褐色 外: 褐色~黒灰色 ・良	11/12		覆土
25	土師器 皿	口径: (13.5) 底径: — 器高: (1.9)	微砂粒、白 色針状物質	内: 口縁~体部内面斜位、 底部一定方向ヘラミガキ 外: 口縁~体部ロクロナデ、底部ナデ	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁~体 部 1/12 底部 1/4	内面黒色処理。瓷器模 倣。	覆土
26	灰輪陶器 壺	口径: (11.8) 底径: — 器高: (1.6)	ガラス光沢 黒色粒少量	内: 口縁部ロクロナデ 外: 口縁部ロクロナデ	内: 灰オリーブ色 外: 灰白色 ・良	1/9	内外面共に灰輪。	覆土 美濃産、小 片
27	土師器 甕	口径: (15.8) 底径: — 器高: (12.1)	ガラス光沢 黒色粒・砂 粒・小礫少 量	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内: 灰黄褐色 外: にぶい褐色 ・良	口縁部 1/6		覆土
28	土師器 甕	口径: (15.8) 底径: — 器高: (12.4)	黒色粒・砂粒 少量、透明 粒、白色針 状物質	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: 灰黄褐色 ・良	口縁~胴 部 3/4	小形。口縁部外面に 凹面を作る。	覆土
29	土師器 甕	口径: — 底径: (9.0) 器高: (3.5)	ガラス光沢 黒色粒、雲 母、砂粒	内: 胴~底部ナデ 外: 胴部ヘラミガキ、底部 ナデ	内: 褐色 外: にぶい黄褐色 ・やや不良	底部 1/2	内面に積み上げ痕を残 す。	覆土
30	土製品 紡錘車	上径: 6.2 下径: 3.0 厚さ: 2.2 孔径: 08~10 重量: 71.49g	透明粒、砂 粒		外: 明褐色~黒灰色 ・良		ほぼ完形	

第 64 表 北ノ内遺跡 SI-34 出土鉄製品観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	刀子	長さ (15.2) 厚さ: — 重量: 20.10g	刃部先端を欠く。刃部側の幅は最大幅 5mm ほどで、角棟・平造。区は 両区で、棟側に 2mm、刃部側には 1mm ほどの段がある。	刃部先端欠損	
2	刀子	長さ (11.5) 厚さ: — 重量: 19.25g	刃部先端を欠く。刃部側の幅は最大幅 3mm ほどで、直線形である。角棟・ 平造。棟側の区はくの字状にゆるやかである。刃部側の区は欠損して いるため不明。	刃部先端欠損	

SI-36 (第155図、図版一五)

西調査区中央の14.90グリッドに位置する。強く削平を受けているため僅かな埋土とプラン、カマド痕跡を確認した。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-37と重複し、本建物跡が新しい。またSK-247～250の土坑と重複して切られている。北東に同時期の竪穴建物跡SI-41、南に古墳時代の竪穴建物跡SI-35a・35bが位置する。

平面形は、東西に長い方形を呈する。規模は南北約4.78m、東西約6.18mで、面積は約29.5㎡である。主軸の振れはN-8°-Wである。

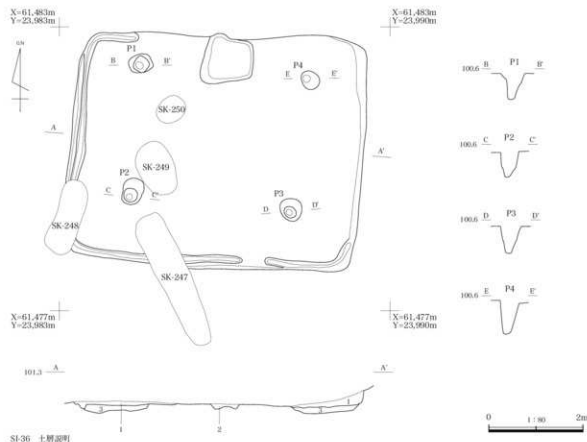
埋土は暗褐色土の1層を確認した。

残存する壁の高さは、東壁27.5cm、西壁13.9cm、南壁15.0cm、北壁8.2cmである。外傾して立ち上がる。床は、掘方を暗黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約8.0～20.0cmを測る。建物の中央部分は削平により床面を削り取られている。西壁および南壁で壁際溝を確認した。

柱穴は、主柱穴P1～4を確認した。規模はP1:52.0×40.0cm、深さ53.6cm、P2:63.0×40.0cm、深さ53.0cm、P3:49.0×46.0cm、深さ57.5cm、P4:40.0×40.0cm、深さ72.6cm。

カマドは北壁中央に構築されるが、確認できたのは掘方のみである。

出土遺物はなく、建物の時期は不明である。



第155図 北ノ内遺跡 SI-36 実測図

SI-37 (第156～159図、第65・66表、図版一五・二九)

西調査区中央の14-90グリッドに位置する。強く削平を受けているため僅かな埋土とプラン、カマド痕跡を確認した。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-36と重複し、本建物跡が古い。またSK-276・277と重複して切られている。北東に同時期の竪穴建物跡SI-41、南に古墳時代の竪穴建物跡SI-35a・35bが位置する。

平面形は、東西に長く、やや歪んだ方形を呈する。規模は、確認できた範囲で南北約4.08m、東西約4.50mで、面積は約518.4㎡である。主軸の振れはN-10°-Wである。

埋土は黒褐色～暗褐色の2層に別けられ、いずれも自然堆積と思われる。

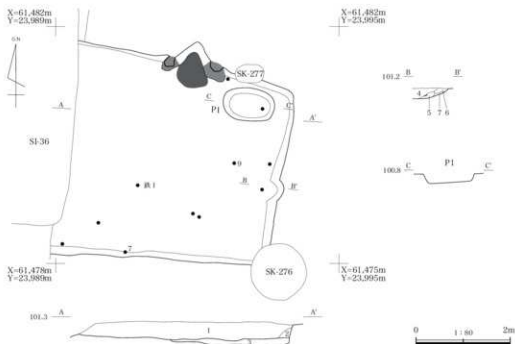
残存する壁の高さは、東壁32.1cm、南壁19.6cm、北壁32.9cmで、外傾して立ち上がる。

床は、掘方を暗黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約4.0～16.0cmを測る。建物東半は貼床を施すが、西半はロームを床面とする。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認されていない。

貯蔵穴P1を北東コーナーで確認した。108.0×62.0cm、深さ16.5cmの楕円形で、底面は平坦である。

カマドは北壁東寄りに構築され、ロームブロックで構築された両袖が残りしていた。袖は掘り残したロームにさらにロームブロックを貼り付けて構築する。幅32.0～42.0cm、長さ14.0～18.0cm、高さ約14.0～20.0cmで、両袖間の幅は約114.0cmである。カマド掘方は深さ4.0～15.0cmで、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土で埋め戻されている。北壁への突出は38.0cmである。

旧カマドと思われるカマドを東壁中央に確認した。焼土と炭化物を含む暗赤褐色土がみられる。東壁への突出は12.0cmである。



SI-37 土構説明

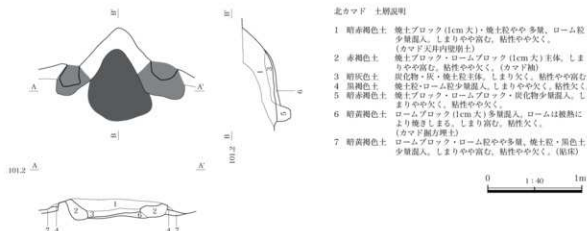
- 1 黒褐色土 ローム粒・焼土粒やや少量、今市バミス粒・七本塚バミス粒微量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- 2 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒やや多量、今市バミス粒・七本塚バミス粒微量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
- 3 暗黄褐色土 ロームブロック・ローム粒やや多量、焼土粒・黒色土少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。(掘方埋土)
- 4 黒褐色土 ローム粒・焼土粒やや少量、今市バミス粒・七本塚バミス粒微量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。(東カマド)
- 5 暗赤褐色土 焼土ブロック(1cm大)・焼土粒少量。ローム粒微量混入。しまりやや富む。粘性欠く。(東カマド)
- 6 赤褐色土 焼土ブロック(1cm大)・焼土粒主体。ローム粒・黒色土微量混入。しまりやや富む。粘性欠く。(東カマド)
- 7 黄褐色土 ロームブロック(1cm大)主体。ロームは被熱により、硬く焼きしめる。しまりやや富む。粘性欠く。(東カマド)

第156図 北ノ内遺跡 SI-37実測図

出土遺物は、土師器環 26 点 688g、土師器甕 188 点 4,464g、土師器甕 1 点 16g、土師器鉢 1 点 141g、須恵器坏蓋 1 点 61g、須恵器坏 4 点 63g、須恵器甕 20 点 756g、鉄製品（鐵）1 点 8.26g、総量 242 点 6,197g と縄文式土器 8 点 154g、自然礫 1,232g が出土した。

鉄鏝は、鐵身が長三角形で脇袂を有する。鐵身長 3.2cm、基底幅 2.3cm、鐵身の断面は凸レンズ状をなし、頭部断面は台形をなす。建物中央部の床面から若干深い位置で出土している。

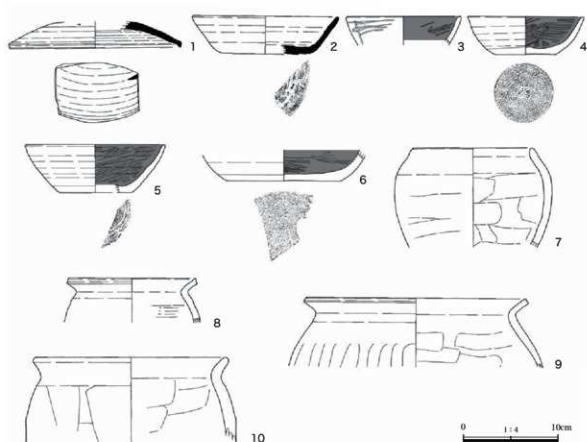
建物の時期は、9 世紀後葉である。



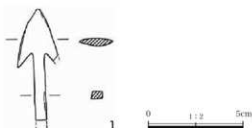
北カマド 土器説明

- 1 暗赤褐色土 焼土ブロック (1cm 大)・焼土粒やや多量、ローム粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
(カマド天井内壁埋土)
- 2 赤褐色土 焼土ブロック・ロームブロック (1cm 大) 主体。しまりやや富む。粘性やや欠く。(カマド軸)
- 3 暗灰色土 炭化物・灰・焼土粒主体。しまり欠く。粘性やや富む。
- 4 黒褐色土 焼土粒・ローム粒少量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。
- 5 暗赤褐色土 焼土ブロック・ロームブロック・炭化物少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
- 6 暗黄褐色土 ロームブロック (1cm 大) 多量混入。ロームは縦断により塊まします。しまり富む。粘性欠く。
(カマド風力埋土)
- 7 暗黄褐色土 ロームブロック・ローム粒やや多量、焼土粒・褐色土少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。(基床)

第 157 図 北ノ内遺跡 Si-37 カマド実測図



第 158 図 北ノ内遺跡 Si-37 出土遺物



第159図 北ノ内遺跡 SI-37出土鉄製品

第65表 北ノ内遺跡 SI-37出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 杯蓋	口径：— 口径：(17.9) 器高：—	砂粒	内：体～基部ロクロナデ 外：天井部回転ヘラケズリ。体～基部ロクロナデ	内：灰色 外：灰色 ・良	体～基部 1/6	体部内面に黒痕。	覆土
2	須恵器 杯	口径：(15.4) 底径：(9.6) 器高：4.0	黒色微粒、 微砂粒	内：口縁～底部ロクロナデ 外：口縁～体部ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後粗いユビナデ	内：灰色 外：灰色 ・良	1/6		覆土
3	土師器 杯	口径：(12.0) 底径：— 器高：(3.0)	砂粒	内：口縁～体部ロクロナデ後ヘラミガキ 外：口縁～体部ロクロナデ後ヘラミガキ	内：黒色 外：黒色 ・良	口縁部 1/7	やや小形。口唇部内面に横位のスレ部あり。内外面黒色処理。	覆土
4	土師器 杯	口径：12.2 底径：6.3 器高：4.1 重量：160.0g	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内：口縁部ロクロナデ後横位ヘラミガキ。体部横位・底面一定方向の丁寧なヘラミガキ 外：口縁部ロクロナデ。体部外面下端に横一段の回転ヘラケズリ。底部回転ヘラ切り後回転ヘラケズリ	内：黒色 外：褐色 ・良	ほぼ完形	内面黒色処理。	
5	土師器 杯	口径：(14.6) 底径：(7.7) 器高：5.1	微砂粒、砂 粒	内：口縁～底部ロクロナデ後ヘラミガキ 外：口縁部ロクロナデ。体部下端横一段ヘラケズリ。底部切り離し不明・回転ヘラケズリ	内：黒色 外：にふい黄褐色 ・良	1/3	深めの器形。内面黒色処理。	覆土 内面剥落、 外面剥落
6	土師器 杯か	口径：— 底径：(12.0) 器高：(3.3)	透明粒・砂 粒少量、黒 色粒多量	内：体～底部ヘラミガキ 外：体部下端回転ヘラケズリ。底部回転ヘラケズリ	内：黒色 外：浅黄褐色 ・良	体～底部 1/5	内面黒色処理。	外面剥落
7	土師器 鉢か	口径：(12.4) 底径：— 器高：(10.5)	透明粒、砂 粒、小礫	内：口縁部ヨコナデ。体部ウメ壺ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ。体部ナデ	内：黒褐色 外：にふい黄褐色 ・良	1/6	最大径を中位にもち。口縁は短く内傾気味に立つ。	
8	土師器 甕	口径：(13.4) 底径：— 器高：(4.7)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ	内：褐色 外：褐色 ・良	口縁部 1/4	小形。口縁部は「く」字状に外反し。口唇部外面に僅かに凹面を残す。	覆土
9	土師器 甕	口径：(23.0) 底径：— 器高：(7.3)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ。胴部縦位ナデ・ヘラケズリ	内：にふい黄褐色 外：にふい黄褐色 ・良	口縁部 1/5	口唇部外面に僅かに凹面を作る。	
10	土師器 甕	口径：(20.2) 底径：— 器高：(9.0)	砂粒・小礫 多量	内：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ 外：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ	内：褐色 外：褐色 ・やや不良	1/12		覆土 内外面剥落

第66表 北ノ内遺跡 SI-37出土鉄製品観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	鐵	長さ：(3.3) 厚さ：0.5 重量：8.26g	鐵身は長三角形で闊狭を有す。断面は鐵身が凸レンズ状、頸がやや台形状。鐵身長 3.2 cm、基底幅 2.3 cm。	至部欠損	

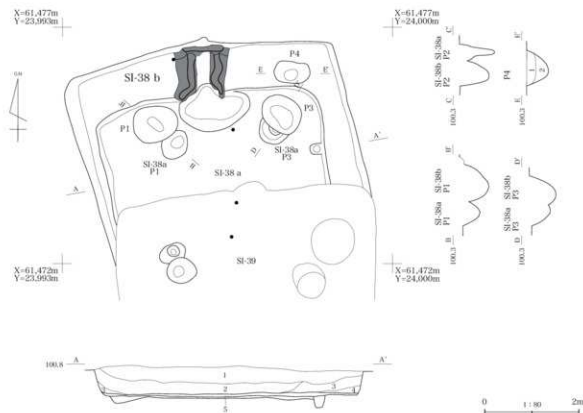
SI-38b (第 160～162 図、第 67 表、図版一六・二九)

西調査区東部の 14-91 グリッドに位置する。本建物跡は古墳時代の建物跡 SI-38a、奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-39 と重複しており、新旧関係は SI-38a < SI-38b < SI-39 である。SI-39 によって南壁を破壊されているため、確認できたのは北半分程度である。北東に古墳時代の竪穴建物跡 SI-40、北西に奈良・平安時代の建物跡 SI-36・37、西に古墳時代の竪穴建物跡 SI-35a・35b が位置する。また、本建物跡は谷土上の黒色土を掘り込んで構築されている。

平面形は、方形を呈するものと思われる。規模は、確認できた範囲で南北約 3.48m、東西約 5.65m で、面積は約 19.7 m² である。主軸の振れは N-12° -W である。

埋土は暗褐色土等の 4 層に別けられ、いずれも自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁 44.1cm、西壁 50.4cm、北壁 59.8cm で、外傾して立ち上がる。



SI-38b 土層説明

- 1 暗褐色土 今市バミス粒・七本椀バミス粒少量、ローム粒微量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
- 2 灰黒色土 今市バミスブロック・今市バミス粒・七本椀バミスブロック・七本椀バミス粒やや多量、ローム粒・白色粘土ブロック・白色粘土粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
- 3 黒褐色土 今市バミスブロック・今市バミス粒・七本椀バミスブロック・七本椀バミス粒少量、ロームブロック・ローム粒微量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。
- 4 黒色土 今市バミスブロック・今市バミス粒・七本椀バミスブロック・七本椀バミス粒・白色粘土粒微量混入。しまり欠く。粘性高む。きめ細かい砂質土。ロームブロックやや多量、今市バミスブロック・七本椀バミスブロック少量混入。しまり富む。粘性やや欠く。(函床)

PALE-E)

- 1 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒やや少量、今市バミスブロック・今市バミス粒少量、白色粘土混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。
- 2 暗褐色土 ローム粒やや少量、今市バミスブロック少量、ロームブロック混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。

第 160 図 北ノ内遺跡 SI-38b 実測図

床は、掘方をロームブロックを含む黒褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約4.0～6.0cmを測る。壁際溝は確認されなかった。

柱穴は、主柱穴P1～3を確認した。規模はP1：95.0×78.0cm、深さ60.6cm、P2：63.0×57.0cm、深さ61.4cm、P3：83.0×80.0cm、深さ62.7cm。

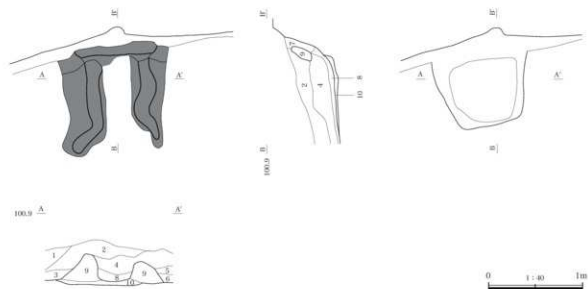
貯蔵穴P4を北東コーナーに確認した。75.0×47.0cm、深さ47.0cmの平面楕円形である。

カマドは北壁中央に構築され、白色粘土で構築された両袖と天井の一部が残存していた。袖は幅36.0～42.0cm、長さ100.0～108.0cm、高さ約24.0～31.0cmで、両袖間の幅は約84.0cmである。天井は最も奥まった部分が遺存していた。煙道を平面で明確にとらえることができなかったが、新断面面図では7層が煙道流入土と考えられる。カマド掘方は深さ6.0～8.0cmで、ロームブロックを含む黒色土で埋め戻されている。北壁への突出は8.0cmである。

出土遺物は、土師器環3点30g、土師器甕66点4.671g、土師器手捏ね土器1点69g、須恵器环蓋2点114g、須恵器鉢2点255g、支脚1点396g、総量75点5.535gと縄文土器10点169gが出土した。

1は宝珠つまみの付く須恵器环蓋。3・4は須恵器鉢で同一個体か。9は土製支脚で、二つの粘土塊を接合しただけの粗いつくりである。

建物跡の時期は、8世紀後半である。



カマド 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック(1～3cm大)・ローム粒・白色粘土ブロック(1～3cm大)・白色粘土粒少量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。
- 2 暗灰色土 白色粘土ブロック(1～15cm大)・白色粘土ブロック粒やや多量。ロームブロック・ローム粒・焼土ブロック・焼土粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
- 3 灰白色土 白色粘土ブロック(1～5cm大)やや多量。炭化物粒・焼土ブロック・焼土粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
- 4 灰白色土 白色粘土ブロック(1～10cm大)・白色粘土粒主体。ロームブロック・焼土ブロック少量。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
- 5 暗褐色土 ロームブロック(1～5cm大)・ローム粒やや多量。白色粘土ブロック・白色粘土粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
- 6 暗灰色土 白色粘土ブロックやや少量。炭化物粒・焼土粒少量。しまりやや欠く。粘性欠く。
- 7 灰褐色土 白色粘土ブロックやや多量。きのねのり・粘百土(黒色土)に混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。(煙道流入土)
- 8 暗灰色土 白色粘土粒。ローム粒・焼土粒少量混入。しまり欠く。粘性やや富む。
- 9 灰白色土 白色粘土玉球。ローム粒・焼土粒少量混入。しまり富む。粘性やや富む。(カマド袖)
- 10 黒色土 きねのり・粘性土。ロームブロック・ローム粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(カマド掘方埋土)

第161図 北ノ内遺跡 SI-38bカマド実測図

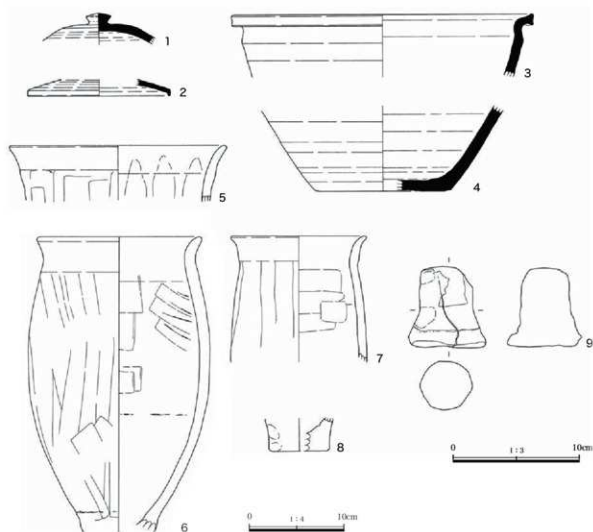
SI-39 (第 163・164 図、第 68 表、図版一六・二九)

西調査区東部の 14.91 グリッドに位置する。本建物跡は古墳時代の建物跡 SI-38a、奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-38b と重複しており、新旧関係は SI-38a < SI-38b < SI-39 である。また SE-554 によって南西コーナー付近を切られている。北東に古墳時代の竪穴建物跡 SI-40、北西に奈良・平安時代の建物跡 SI-36・37、西に古墳時代の竪穴建物跡 SI-35a・35b が位置する。本建物跡は谷埋土の黒色土を掘り込んで構築されている。

平面形は、やや歪んだ方形を呈する。規模は、南北約 5.40m、東西約 5.35m で、面積は約 28.9 m² である。主軸の振れは N-7° -W である。

埋土は 6 層に別けられるが、建物中央にロームブロック・白色粘土・焼土ブロックを含む黒褐色土が堆積し、これらは人為堆積と考えられる。

残存する壁の高さは、東壁 27.6cm、西壁 33.4cm、南壁 23.4cm、北壁 43.4cm で、外傾して立ち上がる。床は、掘方を黒色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約 10.0 ~ 32.0cm を測る。掘方底面が谷埋土の黒色土でもあることから、床面は凹凸があり軟弱である。壁際溝は確認されなかった。



第 162 図 北ノ内遺跡 SI-38b 出土遺物

柱穴は、主柱穴 P2～4 を確認した。規模は P2：75.0×65.0cm、深さ 46.5cm。P3：54.0×44.0cm、深さ 64.7cm。P4：40.0×40.0cm、深さ 78.3cm。P3 は P4 の柱抜き取り穴であろう。P2 も柱は抜き取られたと思われる。

貯蔵穴 P1 を北東コーナーで確認した。95.0×90.0cm、深さ 22.4cm で、底面は平坦である。

カマドは北壁中央に構築され、灰色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅 34.0～38.0cm、長さ 58.0～84.0cm、高さ約 10.0～24.0cm で、両袖間の幅は約 102.0cm である。カマド掘方は深さ 12.0～16.0cm で、ローム粒を含む黒褐色土で埋め戻されている。北壁への突出は 18.0cm である。

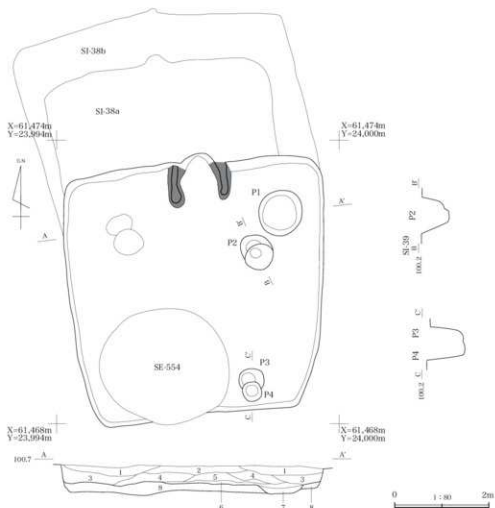
出土遺物は、土師器環 29 点 323g、土師器高環 1 点 124g、土師器裏 163 点 4,790g、土師器甕 1 点 48g、土師器埴 7 点 69g、土師器手捏ね土器 1 点 27g、須恵器環蓋 7 点 382g、須恵器環 11 点 381g、須恵器裏 24 点 1,156g、灰軸陶器碗 1 点 10g、総量 245 点 7,310g と縄文式土器 66 点 1,109g、自然礫 1,015g が出土した。

1 の須恵器環蓋、5 の須恵器環、6 の須恵器高台環は、ヘラ記号をもつ。4 の須恵器環はカマド天井部崩落土に含まれたもの。8 の灰軸陶器碗は、軸が厚くダメになり、部分的に青く発色する。9 は土師器高台環だが、環部・皿部ともに潰れた形状をしている。環部内面はミガキ、環部外面から脚部外面はヘラケズりする。

建物跡の時期は、9 世紀中葉である。

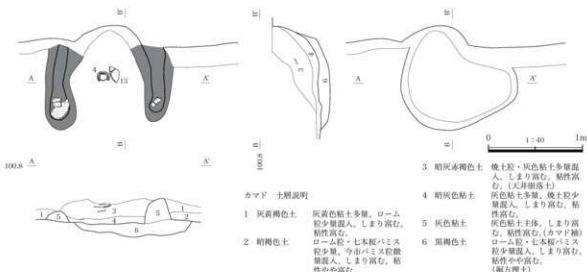
第 67 表 北ノ内遺跡 SI-38b 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	散土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環蓋	袖径：2.6 口径：— 器高：(3.4)	黒色粒少量、砂粒	内：天井～体部ロクロナデ 外：天井部回転ヘラケズリ、体部ロクロナデ、組み貼付後ロクロナデ	内：灰色外：灰色・良	2/3	整美な備み。	覆土
2	須恵器 環蓋	袖径：— 口径：(14.8) 器高：(1.8)	砂粒	内：体～肩部ロクロナデ 外：体～肩部ロクロナデ	内：灰色外：灰色・良	1/12		カマド覆土小片
3	須恵器 鉢	口径：(33.6) 底径：— 器高：(6.5)	砂粒	内：口縁～体部ロクロナデ 外：口縁～体部ロクロナデ	内：灰色外：灰色・良	口縁部 1/12		覆土 No.4 と同一個体か、遺構間接合、小片
4	須恵器 鉢	口径：— 底径：(14.4) 器高：(9.0)	砂粒、小礫	内：体～底部ロクロナデ 外：体部ロクロナデ、底部ヘラナデ	内：灰色外：灰色・良	体～底部 1/5		SI-30 覆土 No.3 と同一個体か、遺構間接合
5	土師器 甕	口径：(22.8) 底径：— 器高：(5.9)	透明粒、砂粒、小礫	内：口縁部ヨコナデ、胴部縦位ナデ 外：口縁部ヨコナデ、胴部縦位ヘラケズリ	内：にぶい黄褐色外：褐灰色・良	口縁部 1/5	最大径を口縁部にもち、胴部は直線的。	覆土
6	土師器 甕	口径：(17.0) 底径：— 器高：(3.12)	透明顆粒、砂粒、小礫	内：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	内：にぶい黄褐色外：にぶい黄褐色・良	2/5	器厚は厚い。口縁部は短く外反し、最大径を胴部中位にもつ。内外面に積み上げ痕を残す。	SI-38 覆土 と SI-38b 覆土で遺構間接合
7	土師器 甕	口径：(14.0) 底径：— 器高：(13.4)	ガラス光沢 黒色粒、透明粒	内：口縁部ヨコナデ、胴部縦位ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ、胴部縦位ヘラケズリ	内：褐色外：明赤褐色・良	口縁～体部上 半 1/4	小形。最大径は胴部中位か。	覆土 外面焼熱劣化
8	土師器 手捏ね	口径：— 底径：(5.8) 器高：(3.5)	砂粒多量、黒色粒・透明粒少量	内：底部ナデ 外：体～底部ナデ	内：灰色外：黒褐色・良	底部 1/2	平底で厚い底部。	カマド
9	土製品 支脚	口径：— 底径：— 器高：8.7 重量：396.21g	黒色粒・透明粒・砂粒多量、礫少量	外：指頭圧痕	外：にぶい黄褐色・良	ほぼ完形	二つの粘土塊を接合し、外面に粘土接合痕を残す。	カマド覆土

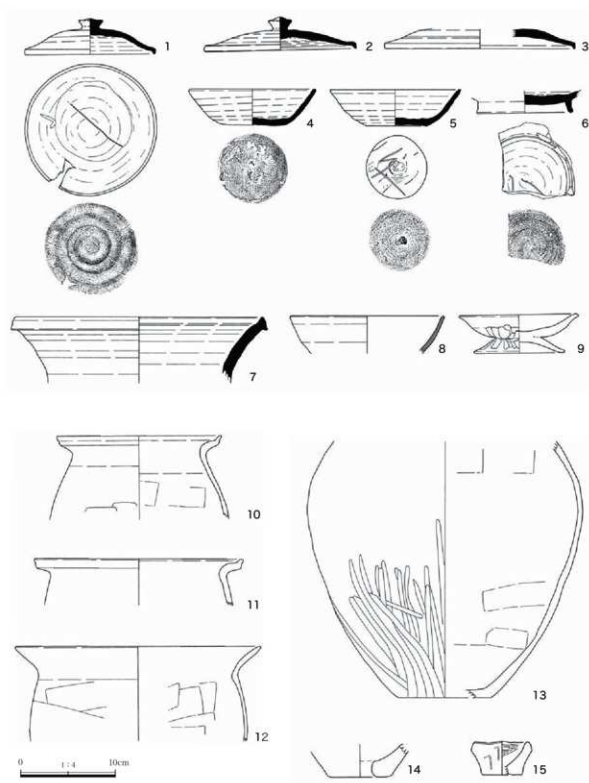


SI-39 土層説明

- 1 暗褐色土 ローム粒・今市バミス粒・七本板バミス粒微量混入。しまりやや高む。粘性欠く。
- 2 暗褐色土 ロームブロック・白色粘土ブロック・ローム粒・炭化物粒・今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。しまりやや高む。粘性欠く。
- 3 黒褐色土 ローム粒・今市バミス粒・七本板バミス粒少量。今市バミスブロック・七本板バミスブロック微量混入。しまりやや欠。粘性やや欠く。
- 4 黒褐色土 ローム粒・焼土粒・今市バミス粒・七本板バミス粒少量。ロームブロック・白色粘土ブロック微量混入。しまりやや欠。粘性やや欠く。
- 5 黒褐色土 ローム粒・焼土粒・今市バミス粒・七本板バミス粒やや多量。ロームブロック・白色粘土ブロック少量混入。しまりやや高む。粘性やや高む。
- 6 灰褐色土 ロームブロック・白色粘土・焼土層粘土主体。粘性褐色土少量混入。しまりやや欠。粘性やや高む。
- 7 黒褐色土 ロームブロック・焼土ブロック・七本板バミスブロック少量混入。しまりやや欠。粘性やや高む。(P1埋土)
- 8 黒色土 今市バミス粒・七本板バミスブロック・七本板バミス粒少量。ロームブロック微量混入。しまりやや高む。粘性やや欠。(掘方埋土)



第 163 図 北ノ内遺跡 SI-39 実測図



第164図 北ノ内遺跡 SI-39 出土遺物

第68表 北ノ内遺跡 SI-39 出土土物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏蓋	桶径: 2.5 口径: 13.6 器高: 3.8 重量: 145.0g	砂粒、小礫	内: 天井～裾部ロクロナデ 外: 天井部回転ヘラケズリ、 体～裾部ロクロナデ、 組み居付後ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	ほぼ完 形	天井部内面へラ記号。 天井部外面二回転ヘラ ケズリ。内面火摩痕・ 重ね焼き痕 (φ8.2 cm)。	覆土・ベルト 以南 益子産
2	須恵器 坏蓋	桶径: 2.5 口径: (15.8) 器高: 3.5	砂粒	内: 天井～裾部ロクロナデ 外: 天井部回転ヘラケズリ、 体～裾部ロクロナデ、 組み居付後ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	1/3		覆土・覆土 ベルト以南
3	須恵器 坏蓋	桶径: 一 口径: (20.0) 器高: (2.1)	透明粒、砂 粒	内: 天井～裾部ロクロナデ 外: 天井部回転ヘラケズリ、 体～裾部ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	1/12		カマド掘方 小片
4	須恵器 坏	口径: 13.2 底径: 7.3 器高: 3.9	砂粒、小礫	内: 口縁～底部ロクロナデ 外: 口縁～体部ロクロナ デ。底部回転ヘラ切り後 周縁軌、手持ちヘラケズリ ・ヘラナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	一部欠 損	被熱なし。	カマド
5	須恵器 坏	口径: (13.8) 底径: 6.4 器高: 3.8	砂粒	内: 口縁～底部ロクロナデ 外: 口縁～体部ロクロナ デ。底部回転ヘラ切り後 中心を削いでナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	1/4	底部外面にへラ記号「 久」。	覆土
6	須恵器 高台坏	口径: 一 底径: (10.0) 器高: (2.1)	黒色粒、砂 粒	内: 底部ロクロナデ 外: 底部回転ヘラケズリ 後。後付高台後ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	底部 1/4	底部内面明らかな水挽き 痕を現す。底部へラ記 号か。	覆土・ベルト 以南
7	須恵器 甕	口径: (26.0) 底径: 一 器高: (7.1)	砂粒	内: 口縁部ロクロナデ 外: 口縁部ロクロナデ	内: 灰～灰オリーブ 色 外: 暗灰色 ・良	口縁部 1/9	内面自然釉付着。	覆土・ベルト 以南
8	灰釉陶器 甕	口径: (16.0) 底径: 一 器高: (4.0)	黒色粒微量	内: 口縁～体部ロクロナデ 外: 口縁～体部ロクロナデ	内: 灰オリーブ色 外: 灰オリーブ色 ・良	口縁部 1/12	内外面施釉。漬け掛け で厚く、一部青く発色 する。	覆土
9	土師器 高坏	口径: (12.2) 底径: (9.4) 器高: 4.0	黒色粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ後ヘ ラミガキ、体～底部ヘラ ミガキ、坏部丁寧なヘラ ミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体 部ヘラケズリ、底部ナデ 後ヘラケズリ	内: にぶい黄橙～ 黒色 外: にぶい黄橙色 ・良	1/2	小形で低い。	覆土 内面摩滅
10	土師器 甕	口径: (17.4) 底径: 一 器高: (8.8)	透明粒・小 礫多量、雲 母	内: 口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラケズリ	内: にぶい褐色 外: 褐色 ・良	口縁部 1/6	口縁部外面に凹面を 僅かに作る。	覆土・ベルト 以南 小片
11	土師器 甕	口径: (21.8) 底径: 一 器高: (4.9)	透明粒・砂 粒多量、雲 母	内: 口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ	内: 褐色 外: 褐色 ・良	口縁部 破片	口縁部外面に凹面を 作る。	覆土 小片
12	土師器 甕	口径: (26.0) 底径: 一 器高: (10.0)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴 部横位・斜位ヘラケズリ	内: にぶい赤褐色 外: 赤褐色 ・良	口縁部 1/6	器厚は薄い。口縁部は 「く」字状に外反する。	カマド覆土 ・武蔵産
13	土師器 甕	口径: 一 底径: (9.8) 器高: (26.9)	雲母多量、 微砂粒、砂 粒	内: 胴部横位ヘラナデ、 底部ヘラナデ 外: 胴部縦位ヘラミガキ、 底部ナデ	内: 灰黄褐色 外: 灰褐色 ・良	胴～底 部 1/2		カマド・覆 土
14	土師器 甕	口径: 一 底径: (5.4) 器高: (3.4)	透明粒・砂 粒多量、黒 色粒少量	内: 胴～底部ヘラナデ 外: 胴部ヘラナデ	内: 灰黄色 外: 褐色 ・良	底部 1/6	穿孔。	カマド 小片
15	土師器 手捏ね	口径: (5.6) 底径: (4.2) 器高: 3.5	黒色粒、砂 粒、小礫	内: 口縁～底部ナデ・ヘ ラナデ 外: 口縁～底部ナデ・ヘ ラナデ	内: 暗灰黄色 外: 黒褐色 ・良	1/3		カマド

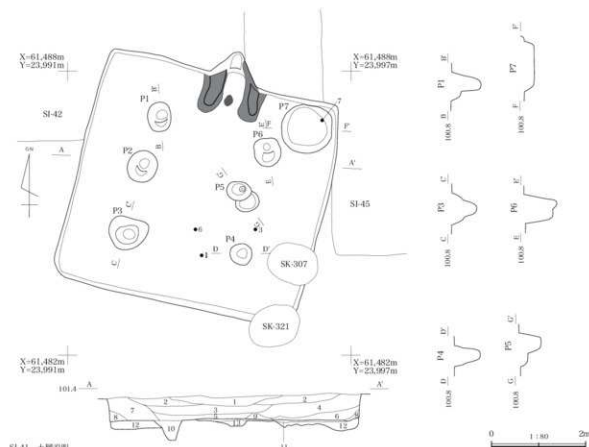
SI-41 (第165～167図、第69・70表、図版一六・二九・三二)

西調査区東部の14-90グリッドに位置する。古墳時代の竪穴建物跡SI-42・45と重複する。またSK-307・321と重複し東壁の一部を切られる。そのほか南東方向に古墳時代の竪穴建物跡SI-40a・40b、南方向に古墳時代の竪穴建物跡SI-38a、奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-36・37・38b・39が位置する。

平面形は、方形を呈する。規模は南北約4.95m、東西約5.28mで、面積は約26.1㎡である。主軸の振れはN-13°-Wである。

埋土は9層に別けられるが、ローム粒・焼土粒・炭化物粒を含む層がみられ、これらは人為堆積と思われる。残存する壁の高さは、東壁54.7cm、西壁44.6cm、南壁45.9cm、北壁32.7cmで、垂直に近く立ち上がる。床は、掘方を主に暗黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約4.0～24.0cmを測る。建物中央からカマド前面にかけて硬化面が形成されている。梯子穴、壁際溝は確認されていない。

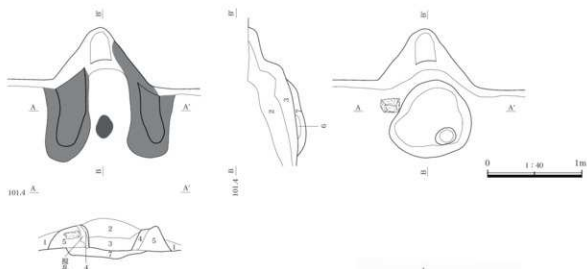
柱穴は、主柱穴P1～6を確認した。規模はP1:60.0×50.0cm、深さ63.2cm。P2:80.0×70.0cm、深さ53.3cm。P3:47.0×45.0cm、深さ52.4cm。P4:60.0×56.0cm、深さ71.4cm。P5:105.0×105.0cm、



SI-41 土壁説明

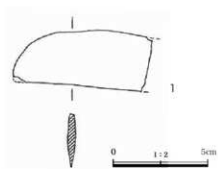
- 1 暗黄褐色土 ローム粒・今市バミス粒・七本松バミス粒少量、ロームブロック・今市バミスブロック微量混入。しまりや中富む、粘性欠く。
- 2 暗褐色土 ローム粒・今市バミス粒少量混入。しまりや中富む、粘性欠く。
- 3 暗褐色土 ローム粒・焼土粒・今市バミス粒・七本松バミス粒や少量、ロームブロック・今市バミスブロック微量混入。しまりや中富む、粘性やや欠く。
- 4 ローム粒・焼土粒・今市バミス粒・七本松バミス粒や少量、ロームブロック少量混入。しまりや中富む、粘性やや欠く。
- 5 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒・焼土粒・炭化物粒少量混入。しまりや中富む、粘性やや欠く。
- 6 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒や多量、焼土粒・炭化物粒少量混入。しまりや中富む、粘性やや欠く。
- 7 暗褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒少量混入。しまりや中富む、粘性やや欠く。
- 8 暗褐色土 ローム粒や多量、今市バミス粒微量混入。しまりや中富む、粘性やや欠く。
- 9 同褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒少量混入。しまりや中富む、粘性やや中富む。
- 10 黄褐色土 ロームブロック主体、赤色土微量混入。(P2埋土)
- 11 暗赤褐色土 白色粘土・焼土の混合土。ロームブロック・ローム粒少量混入。しまり富む、粘性やや欠く。(階床)
- 12 暗黄褐色土 ロームブロック・ローム粒主体、赤色土少量、今市バミスブロック微量混入。しまりや中富む、粘性やや中富む。(掘方埋土)
- 13 暗黄褐色土 ロームブロック主体、赤色土少量混入。しまりや中富む、粘性やや中富む。(掘方埋土)

第165図 北ノ内遺跡 SI-41実測図

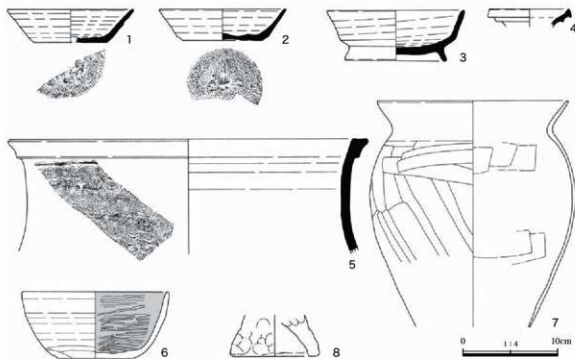


カマド 土層説明

- 1 暗褐色土 ロームブロック(1cm大)・ローム粒多量、焼土粒・白色粘土ブロック(1cm大)少量混入。しまりやや高む。粘性やや欠く。
- 2 黄褐色土 ロームブロック(1~10cm大)・ローム粒多量、焼土ブロック・白色粘土ブロック(1cm大)少量混入。しまりやや高む。粘性やや欠く。
- 3 暗赤褐色土 焼土ブロック(1~3cm大)やや多量、ロームブロック(1cm大)・炭化物少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。(天井内埋戻土)
- 4 赤黄褐色土 ロームブロック(1cm大)・焼土ブロック(1cm大)やや多量、白色粘土粒・炭化物粒少量混入。しまりやや高む。粘性やや欠く。(カマド袖)
- 5 淡黄色土 ロームブロック(1cm大)・ローム粒主体。焼土粒・白色粘土ブロック。今布バミス粒・七本板バミス粒少量混入。しまりやや高む。粘性やや欠く。(カマド袖)
- 6 明赤褐色土 焼土主体。黒色土層埋戻土。しまり高む。粘性欠く。(大床)
- 7 暗褐色土 ロームブロック(1cm大)・ローム粒・焼土ブロック(1cm大)・焼土粒少量混入。しまりやや欠く。粘性やや高む。(カマド裏方埋土)



第 166 図 北ノ内遺跡 SI-41 カマド実測図・出土鉄製品



第 167 図 北ノ内遺跡 SI-41 出土遺物

深さ 20.7cm。P6: 61.0×57.0cm、深さ 72.5cm。P2・5 は柱筋から若干外れているが、補助的な機能をもった柱か。埋土の観察がないが、掘方からは柱は抜き取られたものと思われる。

貯蔵穴 P7 を北東コーナーで確認した。72.0×42.0cm、深さ 49.8cm の不整形で、底面は平坦である。

カマドは北壁中央に構築され、白色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅 44.0～45.0cm、長さ 68.0～78.0cm、高さ約 24.0～28.0cm で、両袖間の幅は約 94.0cm である。袖内面はよく焼けて赤化している。カマド掘方は深さ 9.0～12.0cm で、ロームブロックを含む暗褐色土で埋め戻されている。北壁への突出は 58.0cm で煙道部にも白色粘土を貼り付けている。

遺物出土状況は、出土地点を示した遺物はいずれも若干床面から浮いた高さでの出土である。

出土遺物は、土師器環 27 点 367g、土師器甕 164 点 3,044g、須恵器環蓋 1 点 3g、須恵器環 23 点 644g、須恵器甕 27 点 1,432g、須恵器壺 1 点 6g、須恵器瓶 2 点 148g、支脚 1 点 81g、鉄製品(鎌) 1 点 27.26g、総量 247 点 5,752g と縄文式土器 23 点 487g、自然礫 6,429g が出土した。

建物の時期は、8 世紀第 3 四半期である。

第 69 表 北ノ内遺跡 SI-41 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環	口径:(13.2) 底径:(7.6) 器高:3.5	微砂粒・砂 粒	内:口縁～底部ロクロナデ 外:口縁～体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り	内:灰色 外:灰色 ・良	1/2	体部はやや大きく開く。	
2	須恵器 環	口径:(13.2) 底径:8.0 器高:3.3	砂粒	内:口縁～底部ロクロナデ 外:口縁～体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 不定方向ナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	口縁部 1/9 底部部 3/4	底面中央が凸状をなす。	覆土
3	須恵器 高台環	口径:14.4 底径:10.6 器高:5.4	砂粒・小礫	内:口縁～底部ロクロナデ 外:口縁～体部ロクロナ デ、底部回転ヘラケズリ 後、後付高台後ナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	2/3 底部完存	体部下端に稜をもつ。	
4	須恵器 壺	口径:(8.3) 底径:— 器高:(1.9)	砂粒	内:口縁部ロクロナデ 外:口縁部ロクロナデ	内:灰～暗オリーブ 色 外:灰～暗オリーブ 色 ・不良	口縁部 1/6	内外面自然輪付着。	覆土 脇投産 小片
5	須恵器 甕	口径:(37.8) 底径:— 器高:(12.1)	砂粒多量、 透明粒少量	内:口縁部ロクロナデ 外:口縁部ロクロナデ・櫛 掻き波状文	内:灰色 外:暗灰色 ・良	口縁部破 片	口縁部端が平坦。波状 文。	覆土 小片
6	土師器 環	口径:(15.4) 底径:7.8 器高:7.1	砂粒	内:口縁部ロクロナデ後横 位ヘラミガキ、体部横位・ 底部一定方向ヘラミガキ 外:口縁～体部ロクロナ デ、体部下端手持ヘラ ケズリ、底部不定方向ヘ ラケズリ・ナデ	内:黒色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/9 底部完存	深い器形。 内面黒色処理。	
7	土師器 甕	口径:(20.0) 底径:— 器高:(24.0)	微砂粒・砂 粒多量	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内:褐色 外:褐色 ・良	1/2	器厚は極めて薄い。口 縁部は「く」字状に外 反する。最大径は胴部 中位上半にもつ。	カマド・P7 武蔵甕
8	土製品 支脚	口径:— 底径:(8.8) 器高:(4.4) 重量:81.41g	砂粒・小礫 多量、ガラ ス光沢黒色 粒・透明粒 少量	内:ナデ 外:指頭正直	内:にぶい黄褐色 外:褐色 ・良	底部 1/4	内面に積み上げ直を覆 す。	覆土

第 70 表 北ノ内遺跡 SI-41 出土鉄製品観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	鎌	長さ:(6.9) 厚さ:0.4 重量:27.26g	基部を欠く。柄は角棒で、刃部先端は曲刃である。	基部欠損	覆土

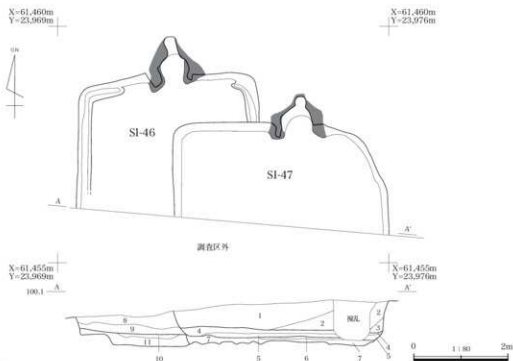
SI-46 (第 168 ~ 170 図、第 71 表、図版一六・一七・二九)

西調査区中央部の 13-92 グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-47 と重複し、新旧関係は SI-46 < SI-47 である。南壁は調査区外となり北側 2/3 程度が確認された。北西から西にかけて、奈良・平安時代の建物跡 SI-27・28・29・31・115、北東に古墳時代の竪穴建物跡 SI-33、奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-34 が位置する。本建物跡は谷埋土の黒色土上に構築されている。

平面形は、方形を呈するものと思われる。規模は、確認されている範囲で南北約 2.54m、東西約 3.82m で、面積は約 9.7 m² である。主軸の振れは N-2° -W である。埋土は暗褐色土で、自然堆積と思われる。残存する壁の高さは、東壁 52.9cm、西壁 36.0cm、北壁 40.7cm で、外傾して立ち上がる。

床は、掘方をロームを含む黒褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約 4.0 ~ 26.0cm を測る。掘方底面は、谷埋土の黒色土であり、貼床を厚くして床面の安定を図っているものか。北壁カマドの周囲を除いて壁際溝を確認した。幅 24.0 ~ 40.0cm。柱穴、梯子穴は確認されていない。

カマドは北壁中央に構築され、黄褐色土で構築された両袖が残っていた。袖は幅 24.0 ~ 32.0cm、長さ 6.0 ~ 20.0cm、高さ約 3.0 ~ 16.0cm で、両袖間の幅は約 72.0cm である。カマド掘方は深さ 12.0cm で、暗褐色土で埋め戻されている。北壁への突出は 72.0cm で、突出部左右を大きくとり、黄褐色土を貼り付けてカマドを構築している。この大きくとった突出部がよく焼けており、燃焼部も奥まった位置にあったと考えられる。遺物出土状況は、1・7・11 がカマド内から出土している。



SI-46・47 土層説明

- 1 暗褐色土 今形バミス段・七本榎バミス段少量混入。しまりや中富む。粘性や中富む。(SI-47 埋土)
- 2 暗褐色土 今形バミス段・七本榎バミス段少量混入。しまりや中富む。粘性や中富む。(SI-47 埋土)
- 3 暗褐色土 焼土粒多量混入。しまりや中富む。粘性や中富む。(SI-47 埋土)
- 4 暗褐色土 白色粘土が多量散在状に堆積。しまり富む。粘性高む。(SI-47 貼床)
- 5 暗褐色土 今形バミス段・七本榎バミス段少量混入。低地混入土と同じ。(SI-47 埋土)
- 6 暗褐色土 今形バミス段少量。黄白色粘土による部分の堆積。粘性高む。(SI-47 埋土)
- 7 暗褐色土 七本榎バミス段微量混入。しまりや中富む。粘性高む。(SI-47 掘方埋土)
- 8 暗褐色土 七本榎バミス段少量。今形バミス段微量混入。しまりや中富む。粘性や中富む。(SI-46 埋土)
- 9 暗褐色土 今形バミス段・七本榎バミス段微量混入。しまりや中富む。粘性や中富む。(SI-46 埋土)
- 10 暗褐色土 ローム小ブロック(3~5mm 欠)多量。ロームブロック(1cm 欠)少量混入。しまり富む。粘性や中富む。(SI-46 貼床)
- 11 暗褐色土 ローム小ブロック多量混入。しまり富む。粘性高む。(SI-46 掘方埋土)

第 168 図 北ノ内遺跡 SI-46・47 実測図

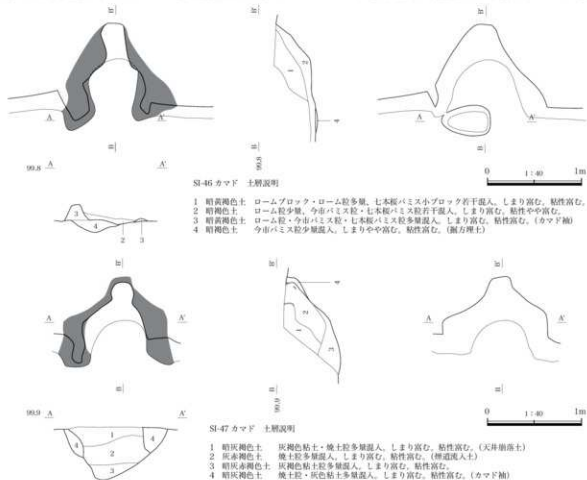
出土遺物は、土師器環 16 点 382g、土師器甕 112 点 2,220g、土師器埴 2 点 38g、土師器皿 1 点 119g、須恵器环蓋 4 点 220g、須恵器环 17 点 510g、須恵器甕 27 点 1,092g、支脚 1 点 80g、総量 180 点 4,661g が出土した。2 の須恵器环蓋外面にはヘラ記号がみられる。「山」か。3 は胎土に多量の雲母を含み、常陸産か。5・6 は体部下半を強くヘラケズリする。9 は瓷器模倣の土師器皿で、高台は緑釉陶器にみられる角高台に類似する。13 は土製品の脚部か。建物の時期は、9 世紀後葉である。

SI-47 (第 168・169・171 図、第 72 表、図版一七)

西調査区中央部の 13-92 グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-46 と重複し、新旧関係は SI-46 < SI-47 である。南壁は調査区外となり北側 1/2 程度が確認された。北西から西にかけて、奈良・平安時代の建物跡 SI-27・28・29・31・115、北東に古墳時代の竪穴建物跡 SI-33、奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-34 が位置する。本建物跡は谷埋土の黒色土上に構築されている。

平面形は、方形を呈すると思われる。規模は、確認された範囲で南北約 1.8m、東西約 4.5m で、面積は約 8.1 m² である。主軸の振れは N-2°-W である。埋土は焼土粒を含む人為堆積層と、黒褐色を呈する自然堆積層がある。残存する壁の高さは、東壁 52.7cm、北壁 48.0cm で、外傾して立ち上がる。

床は 2 面確認された。古い床面は、黒褐色土の上に黄白色粘土を含む暗赤褐色土を部分的に貼り付ける。黄白色粘土層の厚さは、4.0～20.0cm である。新しい床面は、暗褐色土の上に白色粘土を含む暗灰褐色土を厚く貼り、堅緻に仕上げている。白色粘土層の厚さは 4.0cm である。谷埋土の黒色土上に構築するための施



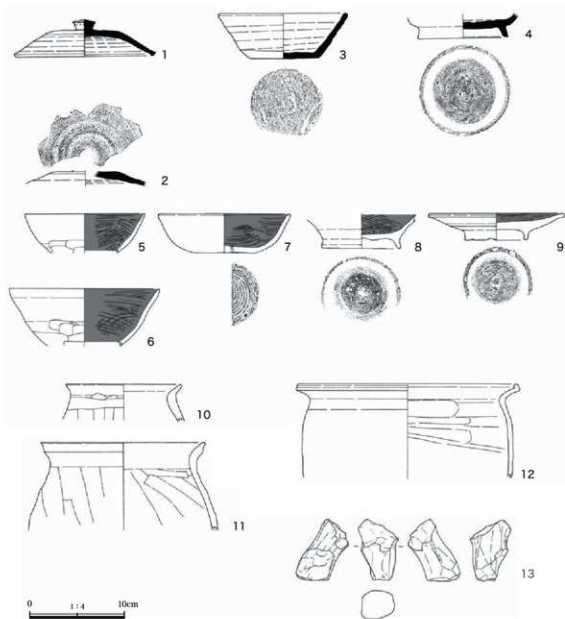
第 169 図 北ノ内遺跡 SI-46・47 カマド実測図

工方法と考えられる。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認されていない。

カマドは北壁東寄りに構築され、灰色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅 26.0～30.0cm、長さ 14.0cm、高さ約 55.0cm で、両袖間の幅は約 98.0cm である。北壁への突出は 59.0cm で、突出部左右を大きくとり、灰色粘土を貼り付けてカマドを構築している。この大きくとった突出部がよく焼けており、燃焼部も奥まった位置にあったと考えられる。

遺物出土状況は、1～4・8・9 がカマド内からの出土である。

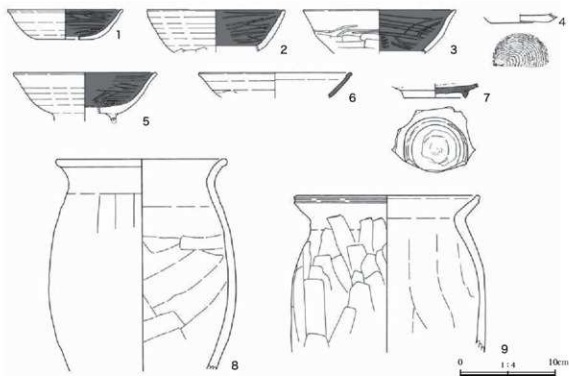
出土遺物は、土師器環 29 点 350g、土師器甕 122 点 4.447g、土師器壺 1 点 17g、土師器埴 5 点 85g、灰軸陶器碗 2 点 59g、総量 159 点 4.958g と自然礫 1.127g が出土した。3 は体部下半を強くヘラケズりする。6・7 は灰軸陶器碗で、7 は底部外面中央に摩滅がみられる。転用硯か。重複する SI-46 と遺物の時期差がほとんどみられず、建物の時期は、9 世紀後葉である。



第 170 図 北ノ内遺跡 SI-46 出土遺物

第71表 北ノ内遺跡 SI-46 出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	現存率	特徴	備考
1	須臾器 環蓋	摘径: 2.3 口径:(14.4) 器高: 3.9	砂粒多量	内: 天井～裾部ロクロナデ 外: 天井部三回転ヘラケズリ、体～裾部ロクロナデ、握み貼付後ロクロナデ	内: 暗灰色 外: 暗灰色 ・良	1/3		カマド・覆上。
2	須臾器 環蓋	摘径: 一 口径: 一 器高:(1.6)	砂粒、小礫	内: 天井～体部ロクロナデ 外: 天井部三回転ヘラケズリ、体部ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	1/3	編み欠損。 外面にヘラ記号「山」か。	覆上
3	須臾器 環	口径: 13.4 底径: 7.2 器高: 4.8	雲母・微砂粒・砂粒・小礫多量	内: 口縁～底部ロクロナデ 外: 口縁～体部ロクロナデ、体部下端三回転ヘラケズリ、底部三回転ヘラ切り後一定方向ヘラケズリ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	1/2	口縁～体部内外面水洗き痕を明確に残す。	覆上 常陸産
4	須臾器 高台環	口径: 一 底径: 9.4 器高:(2.5)	砂粒	内: 底部ロクロナデ 外: 底部三回転ヘラケズリ後、後付高台後ナデ	内: 灰色 外: 青灰色 ・良	底部完存		覆上
5	土師器 環	口径:(12.6) 底径: 一 器高:(4.2)	透明粒、砂粒	内: 口縁部ロクロナデ後ヘラミガキ、体部ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体部手持ちヘラケズリ	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁～体部 1/6	器厚は薄い。内面黒色処理。	覆上
6	土師器 環	口径:(15.6) 底径: 一 器高:(6.1)	黒色粒、砂粒	内: 口縁部ロクロナデ後横位ヘラミガキ、体部弧状ヘラミガキ 外: 口縁部ロクロナデ、体部手持ちヘラケズリ	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	1/5	内面黒色処理。	覆上
7	土師器 環	口径:(13.8) 底径:(6.0) 器高: 4.1	黒色粒多量、透明粒・砂粒少量	内: 口縁ロクロナデ後横位ヘラミガキ 体部ロクロナデ後横位ヘラミガキ 底部ロクロナデ後一定方向ヘラミガキ 外: 口縁～体部ロクロナデ、底部三回転系切り	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁部一部 体～底部 1/4	内面黒色処理。	カマド
8	土師器 高台環	口径: 一 底径:(8.2) 器高: 一	黒色粒・砂粒多量	内: 体部内面斜位・底部一定方向ヘラミガキ 外: 体部ロクロナデ、底部三回転ヘラケズリ後、後付高台後ナデ	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	体部下平 1/3 高台部完存	内外面赤色顔料付着か。外面上半泡沫状塗付着か。内面黒色処理。	SI-46 覆上と SI-47 カマドで遺構間接合
9	土師器 皿	口径:(14.0) 底径: 6.6 器高: 2.8	透明粒・微砂粒・砂粒少量	内: 口縁部ロクロナデ後横位ヘラミガキ、体部斜位・底部一定方向ヘラミガキ 外: 口縁部ロクロナデ、体部下端三回転ヘラケズリ、底部三回転ヘラケズリ後、後付高台後ナデ	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	1/2	内面黒色処理。 器器模微。	覆上
10	土師器 甕	口径:(12.0) 底径: 一 器高:(4.0)	ガラス光沢 黒色粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ・	内: にぶい褐色 外: にぶい褐色 ・良	1/12	小形。口唇端部に僅かな凹面あり。	覆上
11	土師器 甕	口径:(17.4) 底径: 一 器高:(9.3)	ガラス光沢 黒色粒、透明粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、胴部斜位ヘラナデツケ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部縦位ヘラナデツケ	内: 褐色 外: にぶい黄褐色 ・やや不良	口縁～胴部 1/8		カマド・床面直上
12	土師器 甕	口径:(23.0) 底径: 一 器高:(10.0)	黒色粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部ナデか	内: にぶい褐色 外: 赤褐色 ・良	口縁～胴部 1/8	外面に砥粉状物質付着。口唇端部に凹面あり。	覆上
13	土製品 支脚か	口径: 一 底径: 一 器高:(6.3) 重量: 80.33g	微砂粒、砂粒	外: ヘラケズリ	外: 赤褐色 ・良	不明	脚部か。	覆上



第171図 北ノ内遺跡 S1-47 出土遺物

第72表 北ノ内遺跡 S1-47 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 環	口径:(11.9) 底径:(6.0) 器高:(3.2)	砂粒、小礫	内:口縁~底部ヘラミガキ 外:口縁~体部ロクロナ デ、底部切り離し不明・ 手持ちヘラケズリ	内:黒色 外:黄褐色 ・良	1/5	内面黒色処理。	カマド
2	土師器 環	口径:(14.4) 底径:— 器高:(4.5)	黒色粒、砂 粒	内:口縁部ロクロナデ後ヘ ラミガキ、体部ヘラミガキ 外:口縁部ロクロナデ、体 部下端ヘラケズリ	内:黒色 外:黒色 ・良	口縁~体 部 1/6	内面黒色処理。	カマド
3	土師器 環	口径:(16.0) 底径:— 器高:(4.7)	黒色粒・砂 粒少量、透 明粒微量	内:口縁部ロクロナデ後ヘ ラミガキ、体部ヘラミガキ 外:口縁部ロクロナデ、体 部ヘラケズリ・一部ヘラミ ガキ	内:黒色 外:黒褐色 ・良	1/5	内面黒色処理。	カマド
4	土師器 環	口径:— 底径:6.1 器高:(0.9)	砂粒	内:底部ロクロナデ 外:底部回転系切りのまま	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・やや不良	底部 1/2		カマド
5	土師器 高台環	口径:(15.0) 底径:— 器高:(5.1)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内:口縁部ロクロナデ後傾 位ヘラミガキ、体~底部 不定の縦位ヘラミガキ 外:口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラケズリ、 後付高台後ナデ	内:黒色 外:にぶい黄褐色 ・良	1/5	内面黒色処理。	覆土
6	灰輪陶器 碗	口径:(16.0) 底径:— 器高:(2.7)	黒色粒、砂 粒	内:口縁~体部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナデ	内:灰オリーブ色 外:灰オリーブ~灰色 ・良	口縁部 1/12		覆土 脇段産 黒瓦 90 型式 小片
7	灰輪陶器 碗	口径:— 底径:(6.6) 器高:(1.5)	黒色粒	内:底部ロクロナデ 後:底部回転ヘラケズリ 後、後付高台後ナデ	内:灰黄~灰オリー ブ色 外:灰黄~灰オリー ブ色 ・良	底部 2/3	破損。底部内面に凹形 に重ね焼き痕。 底部外面中央が摩滅。	覆土 転用碗か 黒瓦 90 型式
8	土師器 甕	口径:(17.8) 底径:— 器高:(22.3)	ガラス光沢 黒色粒・砂 粒・小礫微 量	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内:褐色 外:明褐色 ・良	口縁~胴 部上半 1/3	口唇部は丸く肥厚する。 胴部はやや長めで、最 大径を中位にもつ。	カマド覆土
9	土師器 甕	口径:19.0 底径:— 器高:(16.7)	微砂粒、砂 粒	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内:褐色 外:褐色 ・良	口縁部完 存 胴部上半 1/3	口唇部外面に凹面を作る。	カマド・カ マド覆土

SI-50 (第172・173図、第73表、図版一七・二九・三一)

東調査区の17-89グリッドに位置する。SK-406・407・409・410と重複し西壁および南壁の一部を切られる。北に古墳時代の竪穴建物跡SI-49、東から南にかけて奈良・平安時代のSI-52・61・64・67等が位置する。

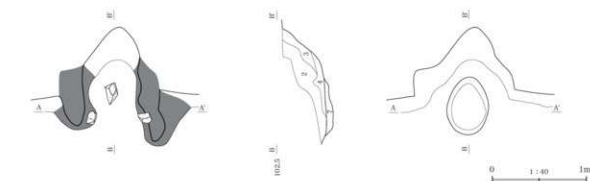
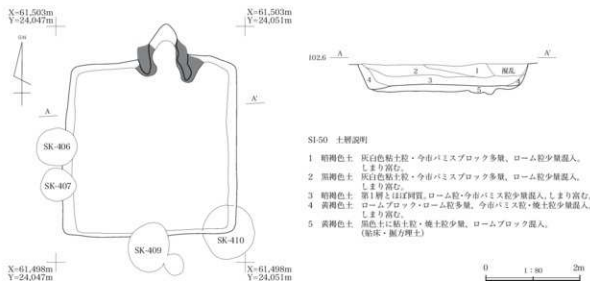
平面形は、やや南北に長い方形を呈する。規模は南北約3.70m、東西約3.62mで、面積は約13.4㎡である。主軸の振れはN-1°-Wである。

埋土は、灰白色粘土や焼土を含み、人為堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁45.0cm、西壁55.0cm、南壁33.3cm、北壁42.7cmで、外傾して立ち上がる。

床は、掘方をロームブロックを含む黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約8.0～20.0cmを測る。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認されていない。

カマドは北壁東寄りに構築され、黄褐色土で構築された両袖が残存していた。袖は幅42.0～52.0cm、長

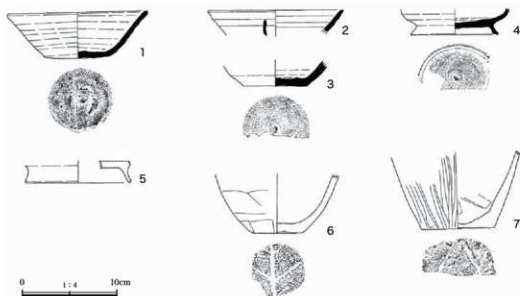


第172図 北ノ内遺跡 SI-50実測図

さ 20.0～40.0cm、高さ約 22.0cm で、両袖間の幅は約 84.0cm である。カマド掘方は深さ 7.0～12.0cm で、ロームブロックで埋め戻されている。北壁への突出は 32.0cm である。両袖内には構築材として自然礫が埋め込まれ、支脚としても礫が使用されている。

出土遺物は、土師器環 1 点 26g、土師器甕 5 点 301g、須恵器環 7 点 261g、須恵器甕 2 点 63g、総量 15 点 651g と縄文式土器 11 点 340g、自然礫 5.362g が出土した。須恵器環、須恵器高台環、土師器高台環、土師器甕が出土しているが、土師器高台環は混入か。

建物の時期は、9 世紀後葉である。



第 173 図 北ノ内遺跡 SI-50 出土遺物

第 73 表 北ノ内遺跡 SI-50 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環	口径: 14.5 底径: 6.8 器高: 4.9	砂粒、小礫	内: 口縁～底部ロクロナデ 外: 口縁～体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁部 1/4 欠損	深めの器形。底部外面 にヘラ記号「×」。	覆土
2	須恵器 環	口径: (14.2) 底径: — 器高: —	砂粒	内: 口縁～体部ロクロナデ 外: 口縁～体部ロクロナ デ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁部 1/10	体部外面に墨書。	覆土
3	須恵器 環	口径: — 底径: (6.8) 器高: (2.8)	砂粒	内: 体～底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、底部 回転ヘラ切り後ヘラケズリ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	底部 1/2	底部外面一定方向ヘラ ケズリ。底部外面にヘ ラ記号「×」。	覆土
4	須恵器 高台環	口径: — 底径: (9.0) 器高: (2.7)	黒色粒、砂 粒、小礫	内: 体～底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、底部 回転ヘラ切り後回転ヘラ ケズリ後、後付高台後ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	底部 1/2	高台底部に凹面を残す。	覆土
5	土師器 高台環	口径: — 底径: (11.0) 器高: (2.3)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内: 底部ヘラミガキ 外: 底部回転ヘラ切り後ナ デか、後付高台後ナデ	内: 淡黄色 外: 淡黄色 ・不良	底部 1/3		覆土 全体摩滅、 小片
6	土師器 甕	口径: — 底径: 5.6 器高: (6.3)	微砂粒、砂 粒	内: 胴～底部ナデ 外: 体部下端横位ヘラケズ リ	内: 褐色 外: 明赤褐色 ・やや不良	底部ほぼ 完存	底部木炭痕あり。	覆土 小片
7	土師器 甕	口径: — 底径: (7.8) 器高: (8.0)	透明粒、雲 母、砂粒	内: 胴～底部ヘラナデ 外: 胴部縦位ヘラミガキ	内: 褐灰色 外: にぶい赤褐色 ・やや不良	底部 1/2	底部木炭痕あり。	カマド覆土 ・覆土 小片

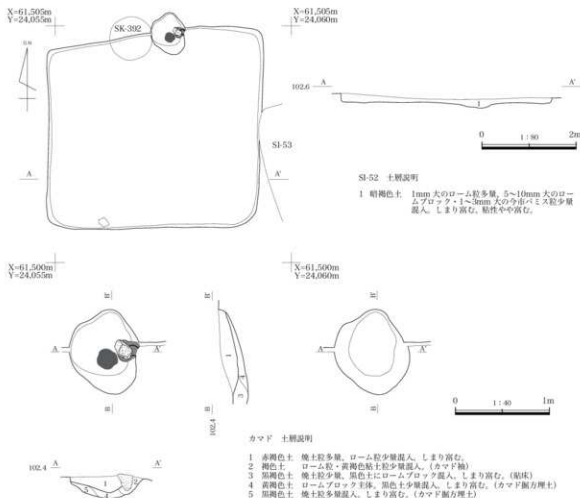
SI-52 (第174・175図、第74表、図版一七・二九)

東調査区の17-89グリッドに位置する。古墳時代の竪穴建物跡SI-53と重複する。

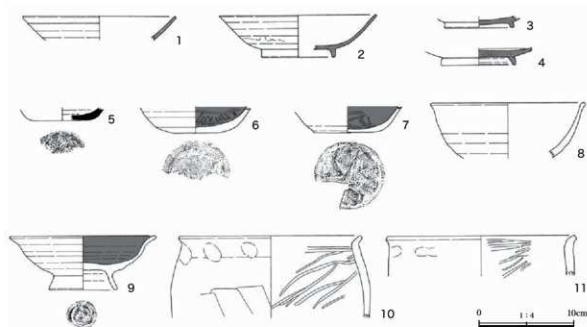
平面形は、やや歪んだ方形を呈する。規模は南北約4.00m、東西約4.50mで、面積は約18.0㎡である。主軸の振れはN-2°-Wである。埋土は、ロームを多量に含む暗褐色土で、人為堆積と思われる。残存する壁の高さは、東壁11.4cm、西壁14.4cm、南壁7.2cm、北壁14.1cmで、外傾して立ち上がる。床はロームを床面とし、やや凹凸がある。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認されていない。

カマドは北壁やや東寄りに構築され、掘方と、掘方内部から構築された左袖が僅かに残存していた。袖は黄褐色土で構築し、幅27.0cm、長さ24.0cm、高さ約4.0cmである。カマド掘方は深さ16.0cmで、ロームブロックを多量に含む黄褐色土で埋め戻されている。北壁への突出は36.0cmである。

出土遺物は、土師器環30点524g、土師器甕75点1,401g、須恵器環9点119g、須恵器甕10点813g、灰釉陶器碗2点38g、灰釉陶器皿1点13g、緑釉陶器皿1点35g、総量128点2,943gと中世陶磁器1点6g、縄文式土器6点84g、自然礫385gが出土した。出土遺物は施釉陶器の出土が目立つ。1～3は灰釉陶器で、高台の形状から折戸53号形式に比定しうる。4は緑釉陶器の稜皿でやや外側に踏ん張った角高台が付く。9は足の高い高台が付く土師器高台環。建物の時期は、10世紀前半である。



第174図 北ノ内遺跡 SI-52実測図



第175図 北ノ内道跡 SI-52 出土遺物

第74表 北ノ内道跡 SI-52 出土遺物観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	灰軸陶器 碗	口径:(16.0) 底径:— 器高:(2.6)	黒色粒少量	内:口縁~体部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナデ	内:灰白色 外:灰白色 ・良	口縁部 1/12	軸薄く、ほとんど発色 なし。	覆土 遠江産か
2	灰軸陶器 碗	口径:(16.2) 底径:(7.6) 器高:4.4	黒色粒	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナ デ、回転ヘラケズリ後、 後付高台後ナデ	内:灰白~オリーブ 灰色 外:灰白~オリーブ 灰色・良	1/7		覆土 折戸 53号型 式
3	灰軸陶器 皿	口径:— 底径:(7.2) 器高:(1.2)	透明粒少量	内:底部ロクロナデ 外:底部回転ヘラケズリ 後、後付高台後ナデ	内:灰白色 外:灰白色 ・良	底部 1/4		覆土 扇段産
4	緑軸陶器 椀皿	口径:— 底径:(7.8) 器高:(1.8)	砂粒	内:底部ロクロナデ 外:底部ヘラケズリ後、後 付高台後ナデ	内:オリーブ灰色 外:オリーブ灰色 ・良	底部 1/4	底部内面沈線。	覆土
5	須恵器 杯	口径:— 底径:(6.4) 器高:(1.3)	砂粒	内:体~底部ロクロナデ 外:体部ロクロナデ、底部 ケズリ	内:暗灰黄色 外:暗灰黄色 ・やや不良	底部 1/3	底部外面にヘラ記号。	覆土
6	土師器 杯	口径:— 底径:4.4 器高:(2.7)	黒色粒・透明 粒多量、砂粒	内:体部外面横位・底部一 定方向ヘラケズリ 外:体部ロクロナデ・下端 ヘラケズリ、底部回転ヘ ラケズリ	内:黒色 外:にぶい、黄褐色 ・良	底部 1/2	内面黒色処理もあるが 粗いヘラミガキ。	
7	土師器 杯	口径:— 底径:7.2 器高:(2.8)	黒色粒、透明 粒、砂粒	内:体~底部ヘラミガキ 外:底部回転ヘラ切り後ヘ ラケズリ後ツケテ	内:明赤褐色 外:黄褐色 ・やや不良	底部 4/5	内面黒色処理も焼成で 変色か。	カマド
8	土師器 杯	口径:(16.0) 底径:— 器高:(5.9)	ガラス光沢 黒色粒、透明 粒、砂粒	内:口縁~体部ロクロナ デ、体部ヘラミガキある も不明瞭 外:口縁部ロクロナデ	内:にぶい、黄褐色 外:にぶい、黄褐色 ・良	口縁~体 部 1/8	大形で深めの器高か。 口唇端部は丸く肥厚す	覆土 小片
9	土師器 高台杯	口径:(15.2) 底径:6.8 器高:5.7	透明粒、砂粒	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナ デ、底部ヘラ切り後、後 付高台後ナデ	内:黒色 外:にぶい、黄褐色 ・やや不良	口縁部 1/4 底部完存	口縁部は外反する。高 めの高台は薄く「ハ」 字状に開く。内面ヘラ ミガキは指されていない が黒色処理。底部外 面にも黒色処理する。	覆土
10	土師器 甕	口径:(19.0) 底径:— 器高:(8.7)	黒色粒・透明 粒・砂粒少量	内:口縁部ココナデ後ヘラミ ガキ、胴部ヘラナデ後粗い ヘラミガキ 外:口縁部ココナデ後胎土 直	内:にぶい、黄褐色 外:褐色 ・良	1/10	口縁部は短く外反する。 胴部最大径は中以上半 か。	覆土 小片
11	土師器 甕	口径:(19.6) 底径:— 器高:(4.3)	黒色粒・透明 粒・砂粒少量	内:口縁部ココナデ後横位ヘ ラミガキ、胴部ヘラミガキ 外:口縁部ココナデ、肩周 辺直	内:にぶい、黄褐色 外:にぶい、黄褐色 ・良	口縁部 1/12	口縁部は短く外反する。	覆土 小片

SI-54 (第176～179図、第75・76表、図版一七・二九)

東調査区の18-89グリッドに位置する。古墳時代の竪穴建物跡SI-53、奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-68、SK-63と重複する。東壁は調査区外となっている。西側に奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-52、南側に同じくSI-58が、また奈良・平安時代の遺物を出土するSK-56が位置する。

平面形は、東西に長い方形を呈する。規模は南北約4.70m、東西約5.90mで、面積は約27.7㎡である。主軸の振れはN-1°-Wである。

埋土はローム粒と焼土粒を含み、人為堆積と思われる。残存する壁の高さは、西壁17.4cm、南壁26.0cm、北壁31.5cmで、外傾して立ち上がる。床は、掘方を黒色土で埋め、さらに黄褐色土で埋めて貼床とし、貼床の厚さは約4.0～8.0cmを測る。梯子穴、壁際溝は確認されていない。

柱穴は、不詳ビットP1と貯蔵穴P2を確認した。規模はP1:55.0×53.0cm、深さ23.5cm。P2:80.0×74.0cm、深さ22.8cm。P2は平面方形で、底面は平坦である。

カマドは北壁中央に構築され、掘方のみ確認された。カマド掘方は深さ10.0～14.0cmで、黒褐色土で埋められている。北壁への突出は42.0cmである。

遺物出土状況は、9の灰軸陶器皿がカマド内から、鉄製品(釘)がカマド前面からの出土である。

出土遺物は、土師器坏27点358g、土師器甕126点3,420g、土師器壺5点123g、須恵器坏蓋1点9g、須恵器坏4点19g、須恵器甕11点1,312g、須恵器壺1点40g、灰軸陶器碗6点76g、灰軸陶器皿8点213g、緑軸陶器碗1点14g、支脚1点82g、鉄製品(釘)1点7.82g、総量192点5,674gと自然礫120gが出土した。施軸陶器が多数出土したが、いずれも黒笹90号形式に比定される。12は底部外面に墨書で記号を記す。建物の時期は、9世紀後葉である。

SI-68 (第176・180図、第77表、図版一八)

東調査区の18-89グリッドに位置する。古墳時代の竪穴建物跡SI-53、奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-54、SK-417と重複する。大部分が調査区外となり、南西コーナーの僅かな部分だけが確認された。西側に奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-52、南側に同じくSI-58が、また奈良・平安時代の遺物を出土するSK-56が位置する。

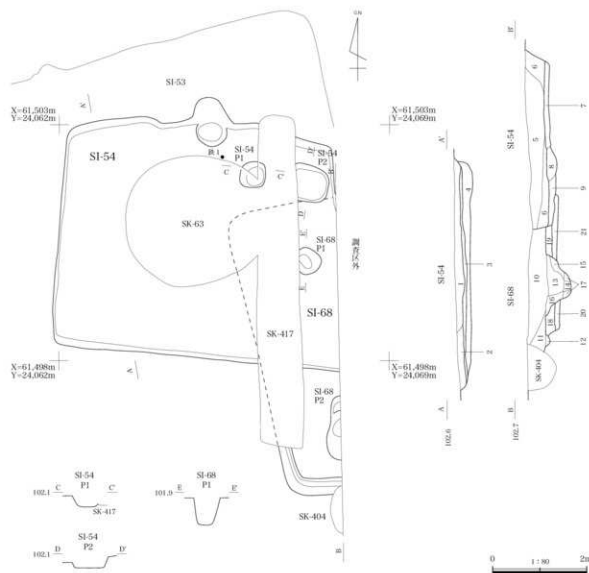
平面形は、方形を呈するものと思われる。規模は、南北約6.10m、東西約1.72mで、面積は約10.5㎡である。主軸の振れはN-6°-Wである。

埋土は、暗褐色～黒褐色土で、いずれも自然堆積と思われる。残存する壁の高さは、南壁39.5cmで、外傾して立ち上がる。床は2面確認された。古い床面は、建物規模が一回り小さく一辺1.5m程度と考えられ、暗褐色・黄褐色土で貼床を施す。貼床の厚さは8.0～12.0cmを測る。新しい床面は、古い建物をロームブロックや白色粘土を含む黒褐色土で埋めて貼床とし、貼床の厚さは12.0～20.0cmを測る。新しい床面で壁際溝が確認されている。

新しい床面で、支柱穴P1・2を確認した。規模はP1:58.0×55.0cm、深さ56.0cm。P2:93.0×15.0cm、深さ40.0cm。P2は断面の観察から、柱痕跡が確認され、また柱が抜き取られたことがわかる。

カマドは確認されなかった。

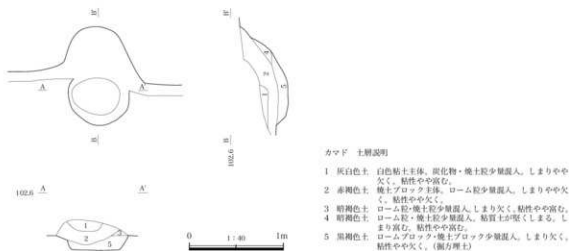
出土遺物は僅かである。土師器坏1点89g、土師器甕8点161g、土師器壺2点32g、須恵器坏蓋4点63g、須恵器鉢1点15g、総量16点360gが出土した。建物の時期は遺物が少なく不詳であるが、9世紀後葉としておく。



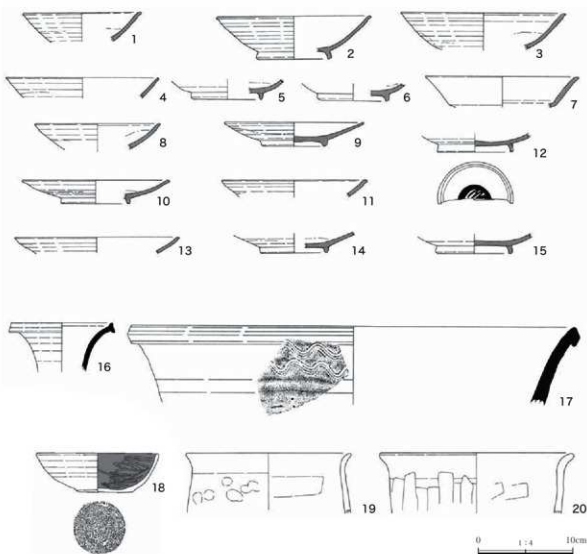
SI-54・68 土層説明

- | | | | |
|---------|---|---------|--|
| 1 暗褐色土 | ローム粒多量、今市バミス粒少量混入。しまり富む。(SI-54) | 13 暗褐色土 | ロームブロック(1~10cm大)・ローム粒少量混入。しまり欠く。(SI-68 P2) |
| 2 黒褐色土 | ローム粒・雑土粒少量混入。しまり富む。(SI-54) | 14 黒褐色土 | ローム粒やや多量。今市バミス粒少量混入。しまり欠く。粘性欠く。(SI-68 P2) |
| 3 黒褐色土 | ロームブロックに黒色土混入。しまり富む。(SI-54 船床) | 15 黒色土 | 今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。きめ細かいシルト質土。しまり富む。粘性やや欠く。(SI-68 P2) |
| 4 黒色土 | 黒色土にロームブロック少量混入。しまり富む。(SI-54) | 16 黒褐色土 | ロームブロック(1~5cm大)・白色粘土ブロック(1cm大)微量混入。しまりやや富む。粘性富む。(SI-68 P2) |
| 5 暗褐色土 | ローム粒・今市バミス粒子・七本板バミス粒少量。白色粘土微量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。(SI-54) | 17 暗褐色土 | ロームブロック(1~5cm大)やや多量。今市バミスブロック(1cm大)・七本板バミスブロック少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(SI-68 P2) |
| 6 黒褐色土 | ロームブロック(1~5cm大)少量。今市バミス粒微量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。(SI-54) | 18 暗褐色土 | 今市バミスブロック・七本板バミスブロック(1~5cm大)少量混入。しまり富む。粘性やや欠く。(SI-68 船床) |
| 7 暗褐色土 | ロームブロック(1~5cm大)・白色粘土ブロック(1cm大)少量混入。しまり富む。粘性やや欠く。(SI-54 船床・側方埋土) | 19 暗褐色土 | ロームブロック少量。白色粘土混入。今市バミス粒微量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。(SI-68 船床) |
| 8 黒褐色土 | ローム主体。七本板バミスブロック(1~3cm大)少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。(SI-54 船床・側方埋土) | 20 暗褐色土 | 今市バミスブロック(1~5cm大)やや多量。七本板バミスブロック(1~5cm大)少量混入。しまりやや富む。粘性欠く。(SI-68 船床) |
| 9 暗褐色土 | ロームブロック(1~3cm大)少量混入。きめ細かい粘質土。しまりやや富む。粘性やや富む。(SI-54 船床・埋土) | 21 黒褐色土 | ロームブロック(1~5cm大)やや多量混入。(SI-68 船床) |
| 10 暗褐色土 | ロームブロック(1~3cm大)・今市バミスブロック・七本板バミスブロック少量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。(SI-68) | | |
| 11 黒褐色土 | ロームブロック(1~3cm大)・今市バミスブロック・七本板バミスブロック少量混入。きめ細かい土質。しまりやや欠く。粘性欠く。(SI-68) | | |
| 12 黒褐色土 | 今市バミス粒・七本板バミス粒少量混入。しまり欠く。粘性欠く。(SI-68 埋設溝) | | |

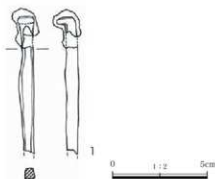
第176図 北ノ内道跡 SI-54・68 実測図



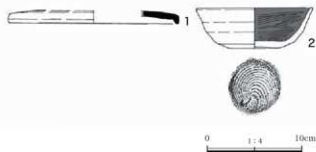
第177図 北ノ内遺跡 SI-54カマド実測図



第178図 北ノ内遺跡 SI-54出土遺物



第179図 北ノ内遺跡 SI-54 出土鉄製品



第180図 北ノ内遺跡 SI-68 出土遺物

第75表 北ノ内遺跡 SI-54 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	灰軸陶器 碗	口径:(12.4) 底径:— 器高:(3.0)	黒色粒	内:口縁~体部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナデ	内:灰白色 外:灰白色 ・良	口縁~ 体部 1/12	内外面軸刷毛塗り。	覆土 協投産 黒豆 90 型式 小片
2	灰軸陶器 碗	口径:(16.0) 底径:(7.5) 器高:4.6	黒色粒	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナ デ。底部回転ヘラケズリ、 後付高台後ナデ	内:灰白色 外:灰白色 ・良	1/5	内外面軸刷毛塗り。	覆土 協投産 黒豆 90 型式
3	灰軸陶器 碗	口径:(17.2) 底径:— 器高:(3.8)	黒色粒、砂 粒	内:口縁~体部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナデ	内:灰白~灰黄色 外:灰白色 ・良	口縁部 1/8	内外面軸刷毛塗りか。	覆土 協投産 黒豆 90 型式 小片
4	灰軸陶器 碗	口径:(16.0) 底径:— 器高:(2.2)	砂粒	内:口縁~体部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナデ	内:灰白色 外:灰白色 ・良	1/15	内外面軸刷毛塗り。	覆土
5	灰軸陶器 碗	口径:— 底径:(7.0) 器高:(2.2)	黒色粒、砂 粒	内:体~底部ロクロナデ 外:体部ロクロナデ、後 付高台後ナデ	内:灰白色 外:灰白色 ・良	底部 1/12	内面軸刷毛塗り。	覆土
6	灰軸陶器 碗	口径:— 底径:(7.6) 器高:(1.9)	黒色粒	内:体~底部ロクロナデ 外:体部ロクロナデ、底 部回転ヘラケズリ、後付 高台後ナデ	内:灰黄色 外:灰黄色 ・良	底部 1/4	内面軸刷毛塗りか。	覆土 協投産 黒豆 90 型式
7	緑軸陶器 椀	口径:(16.0) 底径:— 器高:(3.3)	砂粒	内:口縁~体部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナデ	内:オリーブ黄色 外:灰~オリーブ 黄色 ・良	口縁部 1/12		覆土一括 協投産 黒豆 90 型式
8	灰軸陶器 皿	口径:(13.0) 底径:— 器高:(2.8)	黒色粒、砂 粒	内:口縁~体部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナデ	内:灰白色 外:灰白色 ・良	口縁~ 体部 1/8	内外面軸刷毛塗り。	覆土 協投産 黒豆 90 型式 小片
9	灰軸陶器 皿	口径:(14.6) 底径:6.4 器高:2.5	黒色粒	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナ デ。底部回転ヘラケズリ、 後付高台後ナデ	内:灰白色 外:灰黄~灰色オ リーブ色 ・良	2/3 底部完 存	内面及び口縁部外面に 軸刷毛塗り。内面に重 ね焼き痕。	カム下 協投産 黒豆 90 型式
10	灰軸陶器 皿	口径:(15.4) 底径:(7.2) 器高:2.5	黒色粒	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナ デ、後付高台後ナデ	内:灰白色 外:灰白色 ・良	1/10	口縁~体部上半の内外 面に輪や滑く刷毛塗 り。	覆土

11	灰輪陶器 皿	口径:(15.4) 底径:一 器高:(1.8)	黒色粒	内:口縁~体部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナデ	内:灰白色 外:灰白色 ・良	口縁~ 体部 1/12	内外面無釉。	覆土 脇投産 黒色 90 型式 小片
12	灰輪陶器 皿	口径:一 底径:(7.8) 器高:(2.0)	黒色粒、砂 粒、小礫	内:体~底部ロクロナデ 外:体部ロクロナデ、底 部回転ヘラケズリ、後付 高台後ナデ	内:灰白色 外:灰白色 ・良	底部 1/2	内面に重ね焼き痕。底 部外面に墨書。	覆土 脇投産 黒色 90 型式
13	灰輪陶器 皿	口径:(17.4) 底径:一 器高:(1.7)	黒色粒	内:口縁~体部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナデ	内:灰白色 外:灰白色 ・良	口縁部 破片	内外面釉刷毛塗り。	覆土 脇投産 黒色 90 型式 小片
14	灰輪陶器 皿	口径:一 底径:(7.0) 器高:(3.2)	黒色粒、砂 粒、小礫	内:体~底部ロクロナデ 外:体部ロクロナデ、底 部回転ヘラケズリ、後付 高台後ナデ	内:灰白色 外:灰白色 ・良	1/12	口縁~体部上半の内外 面に釉や薄く刷毛塗 り。内面に重ね焼き痕。	覆土
15	灰輪陶器 皿	口径:一 底径:(7.6) 器高:(2.1)	黒色粒、砂 粒	内:体~底部ロクロナデ 外:体部ロクロナデ、底 部回転ヘラケズリ、後付 高台後ナデ	内:灰白色 外:灰白色 ・良	底部 1/2	内面に重ね焼き痕か。 釉や薄い。	覆土
16	須臾器 壺	口径:(10.6) 底径:一 器高:(5.2)	砂粒	内:口縁~頸部ロクロナデ 外:口縁~頸部ロクロナデ	内:灰~暗オリーブ 色 外:オリーブ黒色 ・良	口縁部 破片 1/4	内面と口縁部側面一 部に自然釉付着。	覆土
17	須臾器 壺	口径:(46.8) 底径:一 器高:(8.4)	砂粒・小礫 少量	内:口縁部ロクロナデ 外:口縁部ロクロナデ・ 柳掻き波状文	内:オリーブ黒色 外:オリーブ黒色 ・良	口縁部 破片	三条単位波状文。内外 面自然釉付着。	覆土 小片
18	土師器 杯	口径:(12.8) 底径:5.6 器高:4.1	黒色粒・透 明粒・砂粒 少量	内:口縁~体部(磁器器注 成部一定方向ヘラケズリ) 外:口縁部~体部ロクロナ デ、体部下端回転ヘラケ ズリ、底部回転ヘラケズリ 底部切り離しヘラ切りか	内:黒色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁~ 体部 1/3 底部完 存	口縁~体部内面極位注 成・底部一定方向ヘラ ケズリ。底部切り離し ヘラ切りか。 内面黒色処理。	覆土
19	土師器 甕	口径:(17.0) 底径:一 器高:(6.2)	砂粒少量	内:口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴 部ナデ後指頭圧痕	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁~ 胴部上 半 1/5		覆土
20	土師器 甕	口径:(20.0) 底径:一 器高:(6.4)	ガラス光沢 黒色粒、微 砂粒、砂粒、 赤色小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴 部ナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴 部縦位ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁~ 胴部上 半 1/4	口縁部は小さく短く外 反する。最大径は口縁 部にもつ。	覆土

第 76 表 北ノ内遺跡 SI-54 出土鉄製品観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	釘	長さ:(7.2) 厚さ:0.7 重量:7.82g	短軸断面が台形状をなす。頭部は錆が付着しているが、身に対して 90度折り曲げている。身の中ほどが最大幅となり、下半へ先細りする。 下端部は欠損している。	下端部欠損	

第 77 表 北ノ内遺跡 SI-68 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須臾器 杯蓋	口径:一 口径:(17.6) 器高:(1.4)	砂粒少量	内:体~裾部ロクロナデ 外:体~裾部ロクロナデ	内:灰黄色 外:灰色 ・良	裾部 1/16		覆土 小片
2	土師器 杯	口径:13.0 底径:5.4 器高:4.0	透明粒、砂 粒	内:底部類似ヘラミガキ 外:口縁~体部ロクロナ デ、体部下端回転ヘラケ ズリ、底部回転系切り	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	1/4 底部完 存	内面黒色処理か。	覆土 被熱変色

SI-57 (第 181 ~ 183 図、第 78・79 表、図版一八・三二)

東調査区の 16-90 グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-59 と重複し、本建物が新しい。東側に奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-72 が位置する。本建物跡は、谷埋土の黒色土上に構築されている。

平面形は、方形を呈する。規模は南北約 3.15m、東西約 3.02m で、面積は約 9.5 m² である。主軸の振れは N-5° -W である。

埋土は黒褐色土で、自然堆積と思われる。

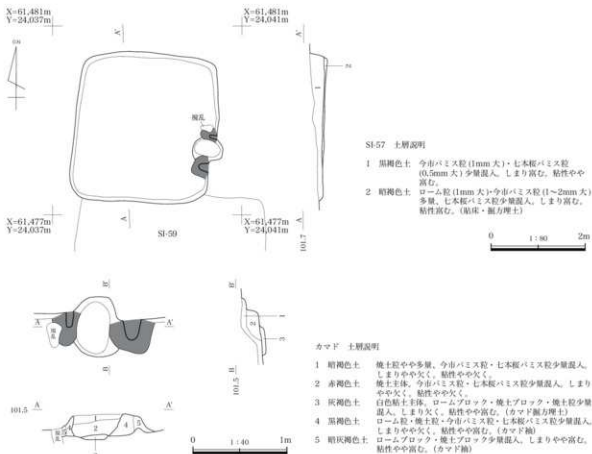
残存する壁の高さは、東壁 20.7cm、西壁 9.5cm、南壁 10.5cm、北壁 31.7cm で、外傾して立ち上がる。

床は、掘方をローム粒を含む暗褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約 2.0 ~ 6.0cm を測る。床面は平坦である。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認されていない。

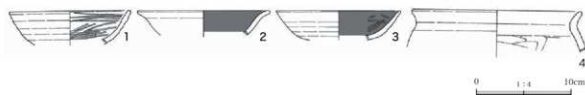
カマドは東壁南寄りに構築され、ロームで構築された両袖が残存していた。袖は幅 28.0 ~ 44.0cm、長さ 30.0 ~ 32.0cm、高さ約 22.0 ~ 24.0cm で、両袖間の幅は約 68.0cm である。袖はカマド掘方は深さ 6.0cm で、白色粘土とロームブロックを含む灰褐色土で埋め戻されている。北壁への突出は 21.0cm である。

遺物出土状況は、4 の土師器裏が、カマド内から出土している。

出土遺物は、土師器環 10 点 128g、土師器裏 20 点 473g、須恵器環 2 点 25g、須恵器裏 1 点 28g、鉄製品 (刀子) 1 点 13.80g、総量 34 点 668g と自然礫 13g が出土した。土師器環は、内面のヘラミガキが省略され、2 は口縁が大きく外反する。建物の時期は、10 世紀代であろう。



第 181 図 北ノ内遺跡 SI-57 実測図



第182図 北ノ内遺跡 SI-57 出土遺物



第183図 北ノ内遺跡 SI-57 出土鉄製品

第78表 北ノ内遺跡 SI-57 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 坏	口径:(12.6) 底径:— 器高:(3.5)	透明粒、砂 粒	内:口縁部クロナデ後粗 いヘラミガキ、体部ヘラ ミガキ 外:口縁~体部クロナデ	内:黒褐色 外:灰黄褐色 ・良	1/5	内面水焼き肌。	覆土 内外面剥落、 小片
2	土師器 坏	口径:(13.8) 底径:— 器高:(2.7)	透明粒、微 砂粒	内:口縁部ヨコナデ 外:口縁部ヨコナデ	内:黒色 外:にぶい黄褐色 ・やや不良	1/7	ヘラミガキを施されて いないが内面黒色処理 か。	覆土 内外面剥落、 小片
3	土師器 坏	口径:(13.2) 底径:— 器高:(3.1)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内:口縁部ヨコナデ、体部 ヘラミガキ 外:口縁~体部ヨコナデ	内:黒色 外:暗灰黄色 ・やや不良	1/7	内面僅かにヘラミガキ があり、内面黒色処理 か。	覆土 内外面剥落、 小片
4	土師器 甕	口径:(17.0) 底径:— 器高:(4.3)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、微砂 粒、砂粒、 小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 ナデ	内:明褐色 外:明褐色 ・良	口縁部 1/6		カマド 小片

第79表 北ノ内遺跡 SI-57 出土鉄製品観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	刀子	長さ:(9.5) 厚さ:— 重量:13.80g	根部の大半を欠く。縁は最大幅4mmほどで、角縁・平造である。刃 部先端は対側がややふくらみ、棟部が対側の刃を狭くして細くなる。 区は両区で、棟部が2mm、刃部が1mm程度の刃を持つ。	基部欠損	

SI-58 (第184・185図、第80表、図版一八・三〇)

東調査区の17-90グリッドに位置する。古墳時代の竪穴建物跡 SI-53 と重複し、本建物跡が新しい。北東から北西にかけて、奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-52・54・68 が位置する。

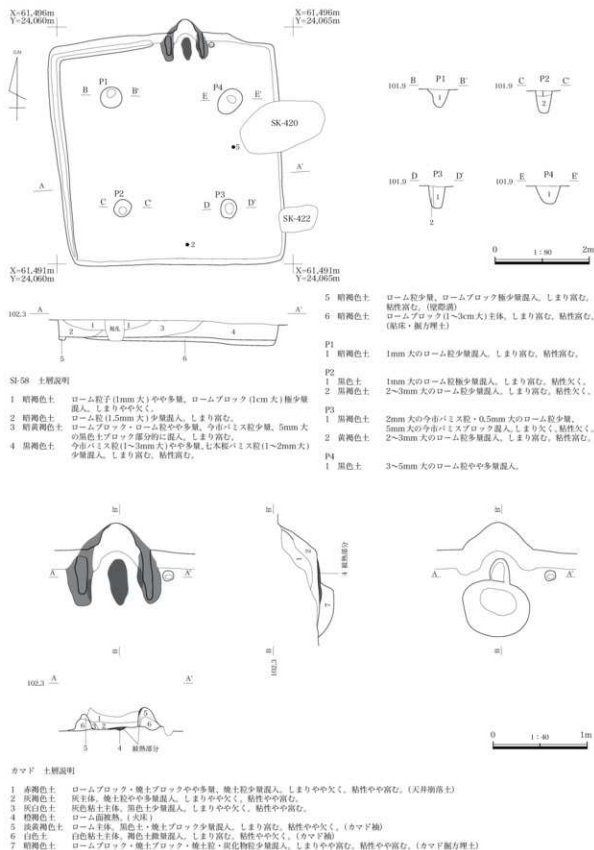
平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約4.88m、東西約4.82mで、面積は約23.5㎡である。主軸の振れはN-7°-Wである。

埋土は暗褐色土を中心にロームを多く含み、人為堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁30.7cm、西壁43.5cm、南壁23.6cm、北壁42.5cmで、外傾して立ち上がる。

床は、掘方をロームブロックを含む暗褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約8.0～12.0cmを測る。

西壁と北壁の西半で壁際溝が確認された。幅16.0～32.0cm、深さ8.0cmである。



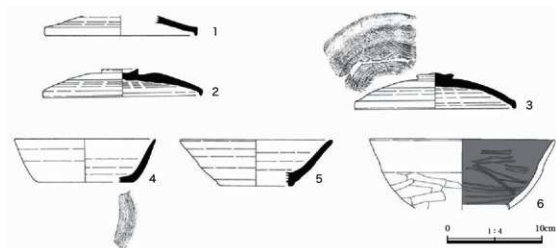
第184図 北ノ内遺跡 SI-58実測図

柱穴は、主柱穴P1～4を確認した。規模はP1：45.0×45.0cm、深さ36.6cm。P2：37.0×35.0cm、深さ46.4cm。P3：42.0×35.0cm、深さ44.8cm。P4：56.0×44.0cm、深さ38.2cm。柱は抜き取られたものと思われる。

カマドは北壁東寄りに構築され、白色粘土とロームで構築された両袖が残存していた。袖は幅24.0～26.0cm、長さ38.0cm、高さ約18.0～22.0cmで、両袖間の幅は約74.0cmである。カマド掘方は深さ16.0cmで、ロームブロックを含む暗褐色土で埋戻されている。北壁への突出は24.0cmである。燃焼部はよく焼けて、火床面が形成されている。

遺物出土状況は、南壁付近で2の須恵器環蓋がほぼ床面から出土したほか、3・5がカマド埋土からの出土である。

出土遺物は、土師器環1点72g、土師器環31点1.044g、須恵器環蓋6点538g、須恵器環9点270g、総量47点1.924gと自然礫8gが出土した。遺物に時期差がみられるが、床面出土の須恵器環蓋の年代をとって、8世紀第2～3四半期としておく。



第185図 北ノ内遺跡 SI-58 出土遺物

第80表 北ノ内遺跡 SI-58 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環蓋	口径：— 口径：(15.8) 器高：(2.1)	微砂粒、砂粒	内：体～底部ロクロナデ 外：体～底部ロクロナデ	内：青灰色 外：青灰色 ・良	1/6		覆土 小片
2	須恵器 環蓋	口径：3.8 口径：16.5 器高：2.9 重量：264.0g	砂粒、小礫	内：天井～底部ロクロナデ 外：体部ロクロナデ、天井 部回転ヘラケズリ、摘み 貼付後ロクロナデ	内：灰色 外：灰色 ・良	ほぼ完形	摘みは頂部に凹面を、 天井部は回転ヘラケズリ により中心に凹面を 作る。	
3	須恵器 環蓋	口径：3.8 口径：(16.8) 器高：3.8	微砂粒	内：天井～底部ロクロナデ 外：体部ロクロナデ、天井 部回転ヘラケズリ、摘み 貼付後ロクロナデ	内：灰白色 外：灰白色 ・やや不良	3/5	外面にヘラ記号「井」。	覆土・カマ ド覆土
4	須恵器 環	口径：(14.8) 口径：(10.0) 器高：4.6	砂粒	内：口縁～底部ロクロナデ 外：口縁～体部ロクロナ デ、底部切り離し不明・ 回転ヘラケズリ	内：灰色 外：灰色 ・良	口縁～底 部 1/8	体部内外面の水掻き痕 不明瞭。	覆土
5	須恵器 高台環	口径：(15.8) 口径：(7.4) 器高：3.9	黒色粒・砂粒 ・小礫少 量	内：口縁～底部ロクロナデ 外：口縁～体部ロクロナ デ、後付高台後ナデ	内：灰白色 外：灰白色 ・不良	口縁～底 部 1/8	直線的に立つ体部で水 掻き痕明瞭。高台は小 さく低い。	小片
6	土師器 環	口径：(19.6) 口径：— 器高：(7.5)	黒色粒、透 明粒、砂粒	内：口縁部ヨコナデ後ヘラミ ガキ、体～底部ヘラミガキ 外：口縁部ヨコナデ、体部 ヘラケズリ	内：黒色 外：浅黄褐色 ・良	口縁～体 部 1/6	大形。内面黒色処理。	カマド覆土 小片

SI-59 (第 186・187 図、第 81 表、図版一八・三〇・三一)

東調査区の 16-91 グリッドに位置する。本建物跡は、谷埋土の黒色土上に構築されている。谷埋土の黒色土は遺構の検出が難しく、そのため遺構検出面が下がる傾向にあり。本建物跡も検出までにある程度削平してしまった可能性が高い。結果、南壁が失われた状態での調査となった。奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-57 と重複し、本建物跡が古い。東側に奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-72 が位置する。

平面形は、方形を呈するものと思われる。規模は、確認できた範囲で南北約 3.80m、東西約 4.05m で、面積は約 15.4 m²である。主軸の振れは N-5° -W である。

埋土は黒褐色土で、人為堆積か。残存する壁の高さは、東壁 20.5cm、西壁 19.1cm、北壁 11.0cm で、外傾して立ち上がる。床は、掘方をロームブロックを含む黒褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約 2.0 ～ 8.0cm を測る。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認されていない。

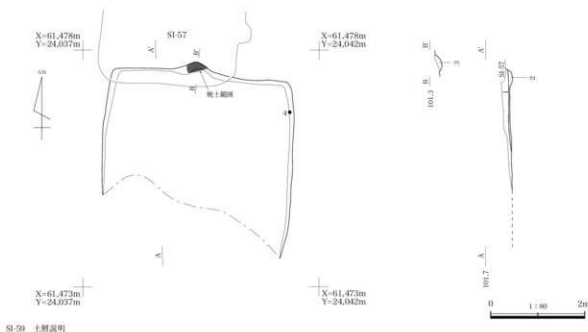
カマドは北壁やや西寄りに構築され、カマド残欠と思われる焼土が確認された。

遺物出土状況は、北東コーナーから 4 の土師器皿が出土している。

出土遺物は、土師器環 5 点 212g、土師器甕 84 点 1,425g、土師器皿 1 点 198g、須恵器杯蓋 1 点 8g、須恵器環 4 点 38g、石製紡錘車 1 点 32g、総量 96 点 1,913g と自然礫 108g が出土した。

1 は返りのある須恵器杯蓋、混入であろう。2 は土師器環で、体部外面下端を 2 段に回転ヘラケズリする。ケズリ方は粗い。底部外面も同様な回転ヘラケズリを施す。内面のヘラミガキは、太く短い。3 は土師器環で体部外面に不明墨書がある。胎土は精良である。4 は甕器模倣の土師器皿。胎土は精良で丁寧な作り。高台は緑釉陶器等にみられる円盤状高台もしくは平高台と呼ばれるものである。底部外面に墨書を施す。5 は土師器甕で、受け口状の口縁部を有す。6 は石製紡錘車で、材は軟質な石材を用いている。

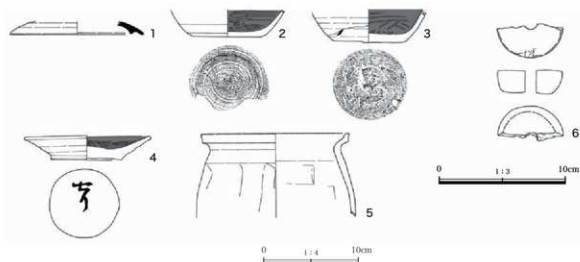
建物跡の時期は、9 世紀後葉である。



SI-59 土層説明

- 1 黒褐色土 今市バミス粒 (1～3mm 大) やや多量、七本板バミス粒 (0.5mm 大) 少量混入、しまり富む、粘性やや富む。(埋土)
- 2 黒褐色土 ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック少量混入、しまりやや富む、粘性やや富む。(掘方埋土)
- 3 赤褐色土 埋土主体、七本板バミス粒少量混入、しまりやや富む、粘性やや欠く。(カマド)

第 186 図 北ノ内道跡 SI-59 実測図



第187図 北ノ内遺跡 SI-59 出土遺物

第81表 北ノ内遺跡 SI-59 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環蓋	横径：一 口径：(14.2) 器高：(1.4)	砂粒	内：体～腹部ロクロナデ 外：体～腹部ロクロナデ	内：灰色 外：灰色 ・良	口縁部 1/10	返り蓋。	覆土 小片
2	土師器 坏	口径：一 底径：(7.0) 器高：(2.8)	透明粒、砂 粒	内：体部斜位～横位・底部 短い一定方向のヘラミガキ 外：体部ロクロナデ・下端 ヘラケズリ。底部切り難し 不明・回転ヘラケズリ	内：黒色 外：灰黄色 ・良	底部 3/4	体～底部の区別不明瞭。 内面黒色処理。	覆土
3	土師器 坏	口径：一 底径：7.6 器高：(3.5)	砂粒・小礫 少量、黒色 粒微量	内：体部横位・底部一定方 向に「V」字状に繰り返 す粗いヘラミガキ 外：体部ロクロナデ。底部 回転ヘラ切り後回転ヘラ ケズリ	内：黒色 外：にぶい黄褐色 ・良	体部 1/2 底部完存	内面黒色処理。	覆土
4	土師器 皿	口径：13.4 底径：7.4 器高：2.5 重量：190.0g	砂粒	内：口縁部ロクロナデ。体 ～底部ヘラミガキ 外：口縁～体部ロクロナ デ。底部回転ヘラ切り	内：黒色 外：にぶい黄褐色 ・良	ほぼ完形	底部外面に墨書。内面 黒色処理。変器模倣。	
5	土師器 甕	口径：(15.8) 底径：一 器高：(8.9)	砂粒	内：口縁部ヨコナデ。腹部 ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ。腹部 ヘラケズリ	内：にぶい赤褐色 外：にぶい赤褐色 ・良	口縁～胴 部上半 1/4		覆土
6	石製品 跡跡車	上径：(5.2) 下径：(4.3) 厚さ：1.7 孔径：09～10 重量：32.11g	凝灰岩か軟 質な石		外：灰白色	1/2		カマド

SI-61 (第188～190図、第82表、図版一九・三〇)

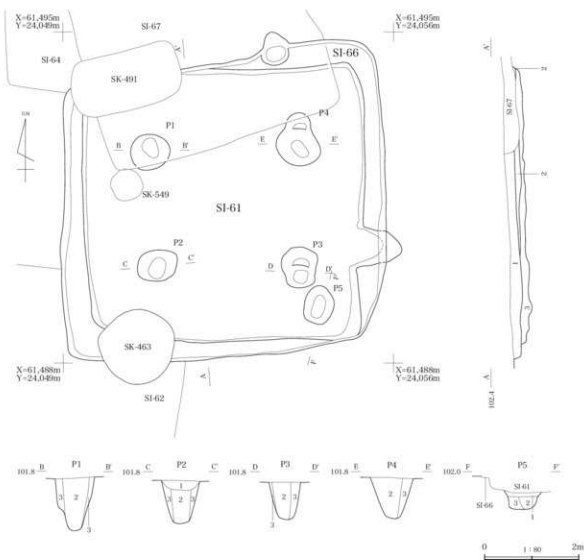
東調査区の17-90グリッドに位置する。古墳時代の竪穴建物跡SI-62、奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-64・66・67と重複し、新旧関係は、SI-62 < SI-64 < SI-61 < SI-66 < SI-67である。SI-66によって上部を破壊されているため、掘方のみ確認された。このほか北東に奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-52・58、南に同じくSI-72が位置する。

平面形は、方形を呈する。規模は南北約6.3m、東西約6.50mで、面積は約41.0㎡である。主軸の振れはN-7°-Wである。

床は、掘方をロームブロックを多量に含む暗褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約 6.0 ~ 22.0cm を測る。壁際溝は確認されていない。

柱穴は、重複して新しい SI-66 の貼床除去後に検出したものである。主柱穴 P1 ~ 4 を確認した。規模は P1 : 83.0×78.0cm、深さ 109.2cm。P2 : 78.0×67.0cm、深さ 90.1cm。P3 : 86.0×70.0cm、深さ 76.3cm。P4 : 114.0×80.0cm、深さ 99.7cm。柱穴埋土 1 層は SI-66 貼床の一部でしまり・粘性に富む。2 層は柱抜き取り後埋土だが、貼床やそれに伴う人為堆積とは考えられない。このことから本建物跡と SI-66 構築までには時間差があることが考えられる。

貯蔵穴 P5 を南東コーナーで確認した。80.0×63.0cm、深さ 44.3cm の隅丸方形で、底面は平坦である。



SI-61・66 土層説明

- 1 暗褐色土 ローム粒多量、今市パミス粒少量混入、しまり富む。(SI-66 埋土)
- 2 黄褐色土 黒色土にロームブロック混入、しまり富む。(SI-66 貼床)
- 3 暗褐色土 ロームブロック多量、ローム粒少量混入、しまり富む。(SI-61 掘方埋土)

SI-61(P1~5)

- 1 暗褐色土 1.5mm 大のローム粒少量、2mm 大の今市パミス粒少量混入、しまり富む。粘性高む。
- 2 暗褐色土 1mm 大のローム粒、5~10mm 大のローム粒少量混入、しまり欠く。粘性欠く。
- 3 黄褐色土 ロームブロック主体、七本板パミスブロック混入、しまり富む。粘性高む。(柱掘方埋土)

第 188 図 北ノ内遺跡 SI-61・66 実測図

カマドは東壁南寄りに構築され、掘方と若干の埋土が確認された。カマド掘方は深さ36.0cmで、粘質な暗褐色土で埋め戻されている。北壁への突出は34.0cmである。

遺物出土状況は、5の須恵器高台環がカマド内から出土している。

出土遺物は、土師器環7点19g、土師器高環1点26g、土師器甕60点1.042g、土師器甕1点24g、土師器埴5点90g、須恵器环蓋17点394g、須恵器环111点770g、須恵器甕31点734g、須恵器壺1点171g、須恵器円面硯1点42g、総量235点3.312gと縄文式土器1点29g、自然礫1.938gが出土した。図示したのはいずれも須恵器である。5は底部外面にヘラ記号を有す。7は短頸壺か。9は方形透かしのある円面硯である。

建物の時期は、9世紀中葉～後葉である。

SI-66 (第188・191図、第83表、図版一九)

東調査区の17-90グリッドに位置する。古墳時代の竪穴建物跡SI-62、奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-64・66・67と重複し、新旧関係は、SI-62 < SI-64 < SI-61 < SI-66 < SI-67である。このほか北東に奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-52・58、南に同じくSI-72が位置する。

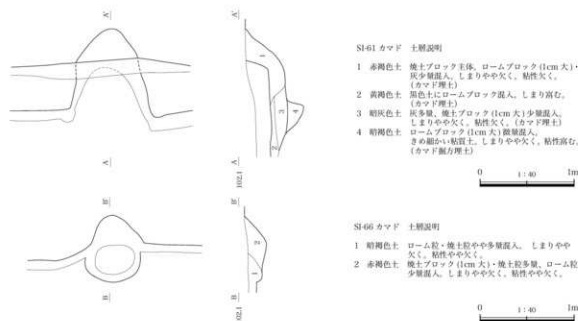
平面形は、やや歪んだ方形を呈する。規模は南北約5.65m、東西約5.75mで、面積は約32.5㎡である。主軸の振れはN-5°-Wである。

床は、掘方を黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約2.0～12.0cmを測る。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認されていない。

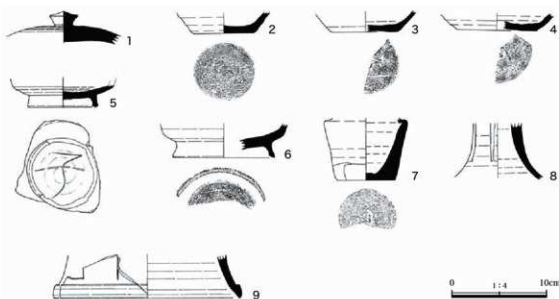
カマドは北壁東寄りに構築され、痕跡が僅かに確認された。

出土遺物は僅かで、土師器甕22点441g、須恵器环蓋3点20g、須恵器环4点35g、須恵器甕2点70g、総量31点566gと自然礫52gが出土した。

建物の時期は、9世紀中葉～後葉である。



第189図 北ノ内遺跡 SI-61カマド実測図



第 190 図 北ノ内遺跡 SI-61 出土遺物

第 82 表 北ノ内遺跡 SI-61 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 环蓋	口径: 3.0 口径: 一 器高: (2.5)	砂粒	内: 天井~体部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、天井 部回転ヘラケズリ、組み 貼付後ロクロナデ	内: 赤灰色 外: 灰白色 ・やや不良	天井部 2/3	器厚は厚めで、整美な 作りの組み。	
2	須恵器 环	口径: 一 底径: 6.2 器高: (2.2)	砂粒	内: 底部ロクロナデ 外: 底部ヘラ切り離し後 一定方向ヘラケズリ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	底部完 存		
3	須恵器 环	口径: 一 底径: (7.0) 器高: (2.2)	砂粒、小礫	内: 体~底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、底 部ヘラケズリ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	底部 1/2	底部外面一定方向ヘラ ケズリ。底部外面にヘ ラ記号。	
4	須恵器 环	口径: 一 底径: (8.4) 器高: (1.8)	砂粒	内: 体~底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、底 部ヘラケズリ	内: オリーブ黒色 外: オリーブ黒色 ・良	底部 1/4	底部外面一定方向ヘラ ケズリ。底部外面にヘ ラ記号「×」。	
5	須恵器 高台环	口径: 一 底径: (7.4) 器高: (2.2)	砂粒	内: 底部ロクロナデ 外: 底部回転ヘラケズリ 後、後付高台後ナデ	内: 暗緑灰 外: 暗緑灰 ・良	底部完 存 高台部 1/4	底部外面にヘラ記号 「子」か。	カマド
6	須恵器 高台环	口径: 一 底径: (10.8) 器高: (3.5)	黒色粒、砂 粒	内: 底部ロクロナデ 外: 底部回転ヘラケズリ 後、後付高台後ナデ	内: 青灰色 外: 暗青灰色 ・良	底部 1/3	高台は安定。	
7	須恵器 短頸壺	口径: 一 底径: 6.0 器高: (6.6)	砂粒多量	内: 頸~底部ロクロナデ 外: 頸~体部ロクロナデ、 体部下端手持ヘラケズ リ、底部回転ヘラケズリ	内: 青灰色 外: 青灰色 ・良	2/3	小形。胴部から短く頸 部が屈曲して立つ。	
8	須恵器 高环	口径: 一 底径: 一 器高: (6.1)	砂粒多量	内: 脚部ロクロナデ 外: 脚部ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	脚部中 位 1/4	縦方向にヘラ切りの長 方形透かし孔 2 カ所確 認。	覆土 透かし孔四 方向か
9	須恵器 円面碗	口径: 一 底径: (19.6) 器高: (4.6)	砂粒・小礫 少量	内: 脚部ロクロナデ 外: 脚部ロクロナデ	内: 暗灰色 外: 暗灰色 ・良	脚部 1/6	脚部端部を折り返す。 方形の透かし孔・縦位 の沈線 を 1 カ所ずつ確 認。内外面白然輪付着。	



第191図 北ノ内遺跡 SI-66 出土遺物

第83表 北ノ内遺跡 SI-66 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 杯蓋	口径: - 口径 (13.6) 器高 (1.1)	砂粒少量	内: 体~腹部ロクロナデ 外: 体~腹部ロクロナデ	内: 同灰色 外: 暗青灰色 ・良	腹部 1/10		覆土 小片
2	須恵器 杯	口径: (16.0) 底径: - 器高: (3.8)	砂粒	内: 口縁~体部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁部 1/9		覆土 小片
3	土師器 甕	口径: (21.8) 底径: - 器高: (9.5)	砂粒多量、 黒色粒・透 明粒少量	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ後指頭圧痕	内: にぶい黄褐色 外: にぶい褐色 ・不良	口縁~胴 部 1/12	胴部外面に積み上げ痕 を残す。	覆土 小片

SI-64 (第192・193図、第84表、図版一九・三〇)

東調査区の17-90グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-61・66・67と重複し、西半分のみ確認した。新旧関係は、SI-64 < SI-61 < SI-66 < SI-67である。このほか北東に奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-52・58、南に同じくSI-72、古墳時代の竪穴建物跡SI-62が位置する。

平面形は、方形を呈するものと思われる。規模は、確認できた範囲で南北約3.00m、東西約1.45mで、面積は約4.3㎡である。主軸の振れはN-1°-Wである。埋土はロームを含む黒褐色土・黄褐色土で、人為堆積と思われる。残存する壁の高さは、西壁10.1cm、南壁5.3cm、北壁23.0cmで、垂直に近く立ち上がる。床は、掘方を黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約2.0～8.0cmを測る。カマド、柱穴、梯子穴、壁際溝は確認されなかった。

出土遺物は僅かで、土師器杯2点6g、須恵器杯1点89g、須恵器甕2点188g、須恵器瓶1点202g、総量6点485gと縄文式土器1点21g、縄文式石器1点232g、自然礫1.362gが出土した。

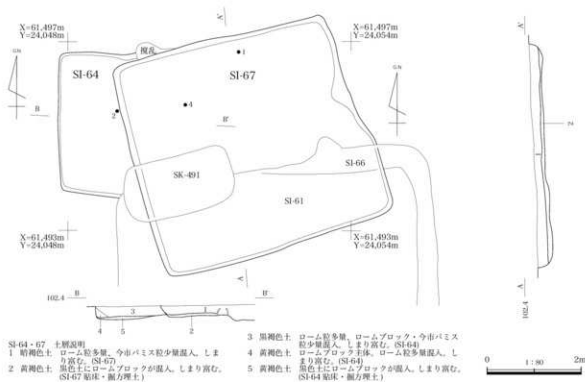
建物の時期は、8世紀前半である。

SI-67 (第192・194図、第85表、図版一九)

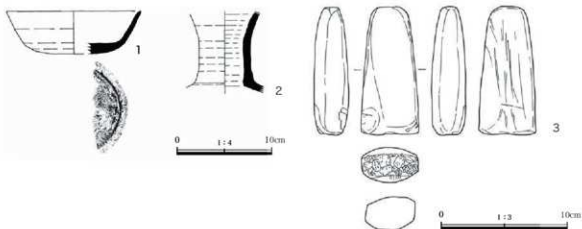
東調査区の17-90グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-61・64・66と重複し、新旧関係は、SI-64 < SI-61 < SI-66 < SI-67である。このほか北東に奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-52・58、南に同じくSI-72、古墳時代の竪穴建物跡SI-62が位置する。

平面形は、方形を呈するものと思われる。規模は、南北約468m、東西約5.10mで、面積は約23.87㎡である。主軸の振れはN-13°-Wである。埋土はローム粒を多量に含む暗褐色土で、人為堆積と思われる。残存する壁の高さは、東壁13.7cm、北壁19.3cmで、外傾して立ち上がる。床は、掘方を黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約2.0～10.0cmを測る。カマド、柱穴、梯子穴、壁際溝は確認されなかった。

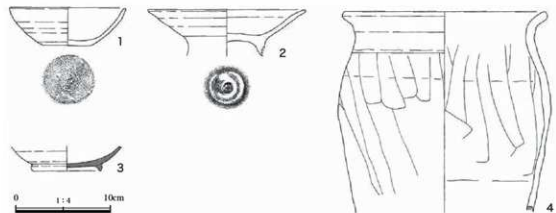
出土遺物は僅かで、土師器杯2点328g、土師器甕5点1.381g、灰軸陶器碗1点43g、総量8点1.752gが出土した。1は土師器杯で、体部外面下端と底部外面をヘラケズリする。2は高い高台の付く土師器高台杯。3は灰軸陶器碗で、三角形に近い高台を有す。建物の時期は、10世紀後半である。



第192図 北ノ内遺跡 SI-64・67 実測図



第193図 北ノ内遺跡 SI-64 出土遺物



第194図 北ノ内遺跡 SI-67 出土遺物

第84表 北ノ内遺跡 SI-64 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏	口径: (14.0) 底径: (8.0) 器高: 4.5	砂粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、底部切り離し不明・不定方向ヘラケズリ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁~底部 1/4	底部外面にヘラ記号。	覆土
2	須恵器 フラスコ 瓶	口径: 一 底径: 一 器高: (8.7)	黒色粒・砂 粒少量	内: 頸・胴部ロクロナデ 外: 底部ロクロナデ	内: 灰白色 外: オリーブ黒色 ・良	頸部ほぼ 完存	内面に水挽き痕を強く残す。外面自然釉付着。	
3	石製品 磨製石斧	長さ: 10.2 幅: 4.6 重量: 232.09g	砂岩		灰白色		刃部は潰れて平坦となる。敲打痕がみられる。叩き石として転用。	

第85表 北ノ内遺跡 SI-67 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 坏	口径: 12.0 底径: 5.0 器高: 4.0 重量: 118.0g	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、体部下端回転ヘラケズリ、底部切り離し不明・回転ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・不良	ほぼ完形	底部切り離し不明も回転ヘラ切りか。	
2	土師器 高台坏	口径: (16.6) 底径: 一 器高: (4.9)	黒色粒・透 明粒少量、 砂粒	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~底部ロクロナデ、後付高台後ナデ	内: 黒褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/4 底部ほぼ 完存	坏部底面に付着物あり。	
3	灰陶器 碗	口径: 一 底径: 7.0 器高: (2.6)	黒色粒、砂 粒	内: 体~底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、後付高台後ナデ	内: 灰白色 外: 灰白色 ・良	底部 1/2	内面に重ね焼き痕。外面僅かに施釉。	床直 脇投産 東山 72 型式
4	土師器 甕	口径: 21.2 底径: 一 器高: (21.3)	黒色粒・透 明粒少量、 砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 や粗い縦位ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 縦位ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁~胴 部 1/2	最大径を胴部中位上平にもつ。胴部外面に積み上げ痕を残す。	

SI-72 (第 195 ~ 197 図、第 86 表、図版一九・三〇・三一)

東調査区の 17-90 グリッドに位置する。本建物跡は、谷埋土の黒色土上に構築されている。谷埋土の黒色土は遺構の検出が難しく、そのため遺構検出面が下がる傾向にある。本建物跡も検出までにある程度削平してしまった可能性が高い。北側に古墳時代の竪穴建物跡 SI-62、奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-61・64・66・67、西側に奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-57・59 が位置する。

平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約 7.50m、東西約 7.60m で、面積は約 57.0 m² である。主軸の振れは N-4° -W である。

埋土は黒褐色土で、自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁 29.2cm、西壁 15.0cm、南壁 8.0cm、北壁 38.5cm で、外傾して立ち上がる。

床は、掘方を黒褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約 4.0 ~ 10.0cm を測る。床面はやや凹凸がある。カマド部分を除き壁際溝が確認された。幅 6.0 ~ 30.0cm、深さ 6.0cm。

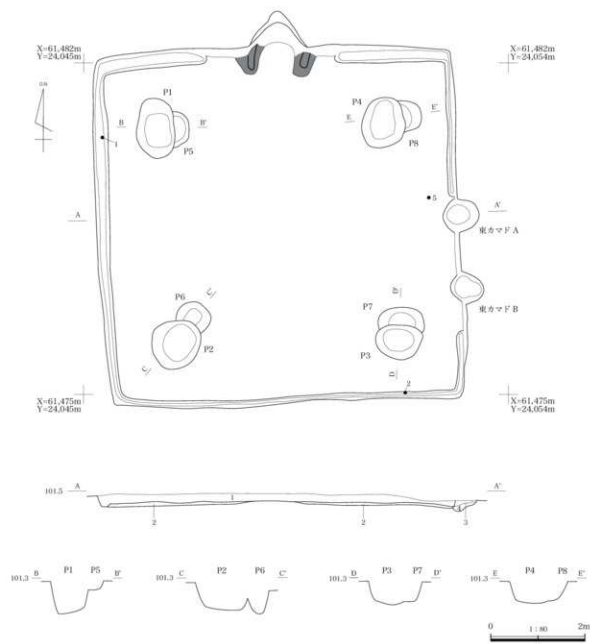
柱穴は、主柱穴 P1 ~ 4 を確認した。規模は P1: 128.0×80.0cm、深さ 63.5cm。P2: 110.0×103.0cm、深さ 57.4cm。P3: 100.0×75.0cm、深さ 50.7cm。P4: 108.0×90.0cm、深さ 47.3cm。埋土の観察がないが、P5 ~ 8 はそれぞれ P1 ~ 4 の柱抜き取り穴と考えられる。

カマドは北壁中央に構築され、暗灰色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅 42.0 ~ 46.0cm、長さ 34.0 ~ 36.0cm、高さ約 16.0 ~ 19.0cm で、両袖間の幅は約 106.0cm である。カマド掘方は深さ 16.0cm で、ロームブロック・灰褐色粘土を含む灰褐色土で埋め戻されている。袖は掘方埋土の上に粘質な黒色土の載せ、

その上に暗灰色粘土で築いている。北壁への突出は65.0cmである。

旧カマドと思われるカマド残欠を2カ所東壁に確認した。そのうち北側のものは、掘方内部に白色粘土を含む土で埋め戻し、焼土が堆積していた。2カ所の旧カマドの関係は不明である。

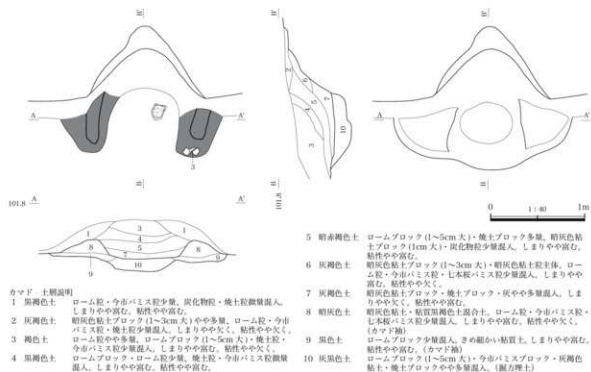
出土遺物は、土師器環9点36g、土師器甕34点1.023g、須恵器坏蓋11点354g、須恵器坏17点415g、須恵器甕15点705g、石製紡錘車1点46g、総量87点2.579gと自然礫1.625gが出土した。2は須恵器坏で体部外面に不明墨書を有す。建物跡の時期は、8世紀第4四半期である。



SI-72 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム層・今市バミス殻(1~3mm大)・七本板バミス殻少量混入。しまり富む。粘性富む。
- 2 黒褐色土 今市バミスブロック(1~5mm大)・今市バミス殻(5~20mm大)・七本板バミスブロック・七本板バミス殻少量混入。しまり富む。粘性富む。(黒味・腐方埋土)
- 3 赤褐色土 焼土ブロック主体。しまり富む。粘性欠く。
- 4 暗赤褐色土 焼土ブロック(5~10mm大)多量。白色粘土ブロック(5mm大)少量混入。しまり富む。粘性や中富む。

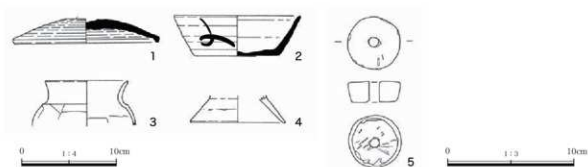
第195図 北ノ内遺跡 SI-72 実測図



カマド 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム粒・今市パミス粒少量、炭化物粒・焼土粒微量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
- 2 灰褐色土 暗灰色粘土ブロック(1~3cm大)やや多量。ローム粒・今市パミス粒・焼土粒少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
- 3 褐色土 ローム粒やや多量。ロームブロック(1~5cm大)・焼土粒、今市パミス粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- 4 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒少量、焼土粒・今市パミス粒微量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
- 5 暗赤褐色土 ロームブロック(1~5cm大)・焼土ブロック多量、暗灰色粘土ブロック(1cm大)・炭化物粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
- 6 灰褐色土 暗灰色粘土ブロック(1~3cm大)・暗灰色粘土粒主体。ローム粒・今市パミス粒・七本板パミス粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- 7 灰褐色土 暗灰色粘土ブロック・焼土ブロック・灰やや多量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。
- 8 暗灰色土 暗灰色粘土・灰質暗褐色土混合土。ローム粒・今市パミス粒・七本板パミス粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。(カマド跡)
- 9 黒色土 ロームブロック少量混入。きめ細かい粘質土。しまりやや富む。粘性やや富む。(カマド跡)
- 10 黒褐色土 ロームブロック(1~5cm大)・今市パミスブロック・灰褐色土・焼土ブロックやや多量混入。(掘方埋土)

第196図 北ノ内遺跡 SI-72カマド実測図



第197図 北ノ内遺跡 SI-72出土遺物

第86表 北ノ内遺跡 SI-72出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 杯蓋	口径: 一 口径: (15.2) 器高: (2.4)	黒色粒、小 礫	内: 大井~底部口コナデ 外: 体部口コナデ、天井 部回転ヘラケズリ	内: 灰色 外: 黄灰色 ・良	3/4	内面縁辺に自然釉が付着し、円形に重ね焼き痕を残す。	
2	須恵器 杯	口径: 13.4 底径: 8.8 器高: 4.2	雲母・砂粒 多量	内: 口縁~底部口コナデ 外: 口縁~体部口コナデ、体部下部回転ヘラケズリ、底部一定方向ヘラケズリ	内: 黄灰色 外: 灰色 ・良	口縁部 1/2 底部完存		
3	上須恵 台付罌	口径: 8.6 底径: 一 器高: (4.8)	黒色粒少量、 砂粒多量	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内: 明赤褐色 外: にぶい赤褐色 ・良	口縁部完 存 胴部上半 2/3	小形台付罌。	カマド 武藏遺、No 4と同一個 体か
4	上須恵 台付罌	口径: 一 底径: (8.4) 器高: (2.7)	透明粒・砂 粒少量	内: 胴部ヨコナデ 外: 胴部ヨコナデ	内: 明赤褐色 外: 明赤褐色 ・良	胴部 1/6	外面に積み上げ痕を残す。	電上 No 3と同一 個体か
5	石製品 紡錘車	上径: 4.2 下径: 3.8 厚さ: 1.6 孔径: 0.8 重量: 46.51g	粘板岩		外: 暗灰色	完形		

SI-73 (第 198 図、第 87 表、図版二〇)

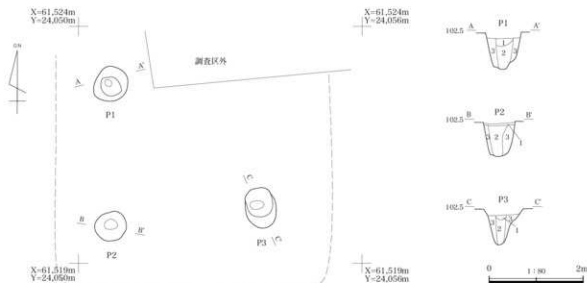
東調査区の 17-88 グリッドに位置する。主柱穴と考えられる 3 本の柱穴を確認したもので、その配置から竪穴建物跡とした。削平により掘方部分はすべて失われてしまったものと思われる。北壁は調査区外となる。南西方向に古墳時代の竪穴建物跡 SI-49 が位置する。

平面形・規模等は不明である。主軸の振れは N-3° -W である。

主柱穴 P1 ~ 3 を確認した。規模は P1 : 75.0×73.0cm、深さ 76.7cm。P2 : 65.0×62.0cm、深さ 75.0cm。P3 : 85.0×65.0cm、深さ 75.0cm。3 本から柱痕跡が確認された。

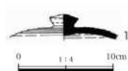
カマドは確認されず、位置等不明である。

出土遺物は、須恵器环蓋 3 点 68g、須恵器环 1 点 5g、総量 4 点 73g が出土した。1 は須恵器环蓋で、高さのあるつまみの形状から 9 世紀代と考えられる。



SI-73P1~P3 土質説明

- P1**
 1 黒褐色土 ローム微粒・今市バミス粒やや少量、ローム粒混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
 2 暗褐色土 ローム粒やや多量、今市バミス粒やや少量、ローム微粒混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。(柱痕跡)
 3 黄褐色土 ロームブロック主体、今市バミス粒・七本塚バミス粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
- P2**
 1 黒褐色土 ローム微粒・今市バミス粒やや少量、ローム粒混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
 2 暗褐色土 ローム粒やや多量、今市バミス粒やや少量、ローム微粒混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。(柱痕跡)
 3 黄褐色土 ロームブロック主体、今市バミス粒・七本塚バミス粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
- P3**
 1 黒褐色土 ローム微粒・今市バミス粒やや少量、ローム粒混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
 2 暗褐色土 ローム粒・ローム微粒やや多量、炭化物・今市バミス粒少量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。(柱痕跡)
 3 黄褐色土 ロームブロック主体、今市バミス粒・七本塚バミス粒少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。



第 198 図 北ノ内遺跡 SI-73 実測図・出土遺物

第 87 表 北ノ内遺跡 SI-73 出土遺物観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 环蓋	楕径: 3.0 口径: 一 器高: (2.7)	砂粒多量	内: 天井~体部口クロナデ 外: 体部口クロナデ、天井 部回転へラケズリ、編み 貼付後口クロナデ	内: 黄灰色 外: 灰色 ・良	1/6	内面一部自然軸付着。	確認面採集

第2項 掘立柱建物跡と出土遺物

建物の規模は、桁行総長、梁行総長、平面積（桁行総長 × 梁行総長）、平面指数（梁行総長 ÷ 桁行総長 × 100）で示した。平面指数が小さいほど桁行の大きい建物となり、官衙的要素の強い建物といえる（山中2007）。柱間は桁および梁行総長を柱間数で割ったものである。柱穴掘方規模は、各柱穴掘方の長辺と短辺の平均値をだし、すべての柱穴で平均したもの。深さは全ての柱穴掘方の平均値である。柱あたりを、遺構実測図中にトーンで示した。

SB-65（第199・200図、第88表、図版二〇）

東調査区南部の17-92グリッドに位置する。当遺跡で最大の掘立柱建物跡で唯一の床東建物跡である。掘立柱建物跡SB-75と重複し、SB-75が新しい。また竪穴建物跡の密集する一帯からは離れて、谷埋土の黒色土上に構築されている。

桁行5間、梁行2間の東西棟で、4本の床東を持つ床東建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-87°-Eである。

規模は、桁行総長12.6m、梁行総長5.1m、平面積64.26㎡、平面指数40.47である。桁行柱間寸法は2.52m（8.4尺）、梁行柱間寸法は2.55m（8.5尺）である。床東は柱筋の交差点上に配置される。

側柱の掘方形状は方形で、掘方規模は0.94m、深さ0.61mである。ほとんどの柱が抜き取られたとみられ柱痕跡は確認されなかったが、P1・2・7・10・14で柱あたりが確認された。床東の柱穴掘方は円形で、掘方規模は0.32m、深さ0.15mと側柱に比べて大きく減じる。柱痕跡、柱あたりは確認されていない。

出土遺物は、土師器甕6点421g、須恵器環蓋1点73g、須恵器甕3点83g、総量10点577gが出土した。1はP8から出土した須恵器環蓋である。益子谷津入竪段階、8世紀第4四半期と考えられる。

SB-70（第201図）

東調査区北部の17-89グリッドに位置する。古墳時代の竪穴建物跡SI-49と重複し、SB-70が新しい。また南側に平安時代の竪穴建物跡SI-50、南東側に同じくSI-52が位置する。

桁行3間、梁行3間の東西棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-88°-Eである。

規模は、桁行総長7.5m、梁行総長5.1m、平面積38.25㎡、平面指数68.00である。桁行柱間寸法は2.50m（8.3尺）、梁行柱間寸法は1.70m（5.6尺）である。

柱の掘方形状は不整形もしくは不整形円で、掘方規模は0.79m、深さ0.26mである。P1・4・11・12で柱痕跡が確認された。

出土遺物は、土師器環3点15g、土師器甕26点340g、土師器手捏ね土器1点103g、須恵器環蓋1点24g、須恵器甕2点86g、総量33点568gが出土した。

建物跡の時期は不明である。

SB-75（第202図、図版二〇）

東調査区南部の17-92グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-65と重複し、SB-75が新しい。また竪穴建物跡の密集する一帯からは離れて、谷埋土の黒色土上に構築されている。

桁行3間、梁行3間の東西棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-89°-Eである。

規模は、桁行総長8.1m、梁行総長5.4m、平面積43.74㎡、平面指数66.66である。桁行柱間寸法は2.70m（9尺）、梁行柱間寸法は2.70m（9尺）である。

柱の掘方形状は長方形で、掘方規模は0.67m、深さ0.52mである。埋土の観察から、柱は抜き取られたと

考えられる。P4・5・6で柱あたりが確認された。

出土遺物は確認できなかった。建物跡の時期は、本建物跡と重複して先行するSB-65が8世紀第4四半期であることから、9世紀代としておく。

SB-317 (第203図)

西調査区中央の12-91グリッドに位置する。西調査区では唯一の掘立柱建物跡である。古墳～奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-22・23・25と重複し、SB-317が最も新しい。

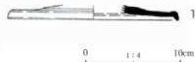
桁行3間、梁行2間の南北棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-8°-Eである。

規模は、桁行総長6.6m、梁行総長4.5m、平面積29.7㎡、平面指数68.18である。桁行柱間寸法は2.20m(7.3尺)、梁行柱間寸法は2.25m(7.5尺)である。

柱の掘方形状は隅丸方形～不整形形で、掘方規模は0.88m、深さ0.29mである。埋土の観察がなく、柱痕跡や抜き取りの有無については不明である。

出土遺物は僅かで、須恵器甕3点32gが出土したのみである。

建物跡の時期は、本建物跡と重複して先行するSI-23が9世紀後葉であることから、10世紀代としておく。



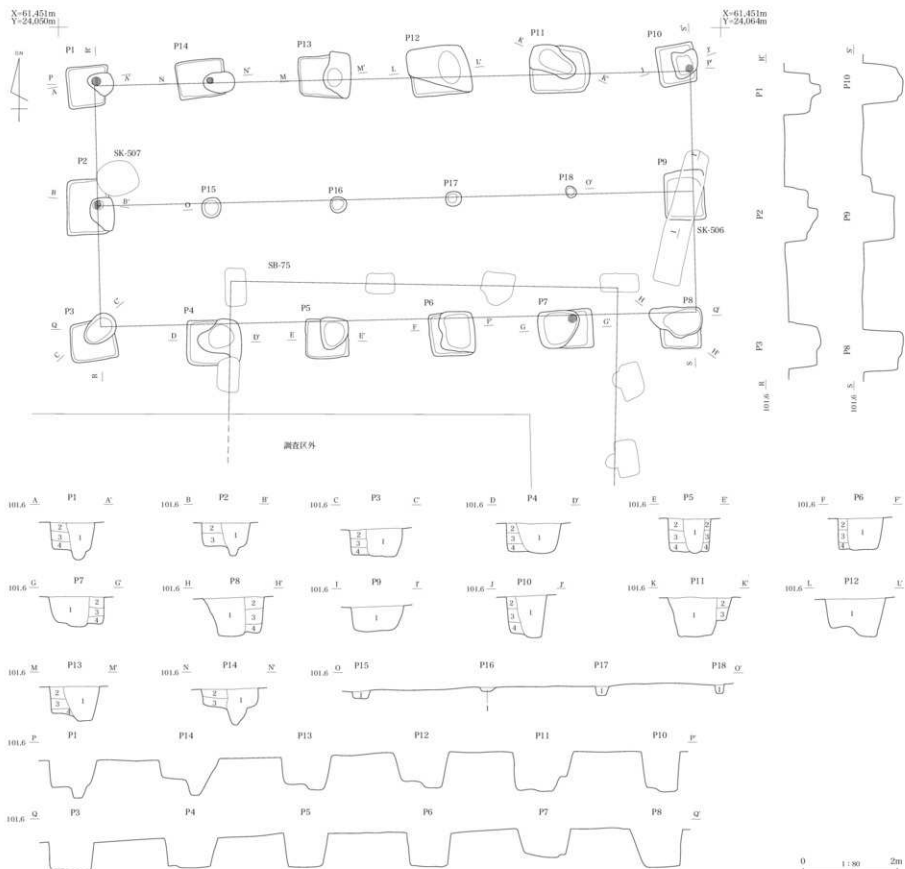
第199図 北ノ内遺跡 SB-65出土遺物

第88表 北ノ内遺跡 SB-65出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏蓋	柄径:— 口径:(17.8) 器高:(11.5)	砂粒多量、 小礫	内:天井～扉部ロクロナデ 外:体部ロクロナデ、天井 部回転ヘラケズリ	内:灰色 外:灰色 ・良	体～扉部 1/4	歪み大きい。	P8

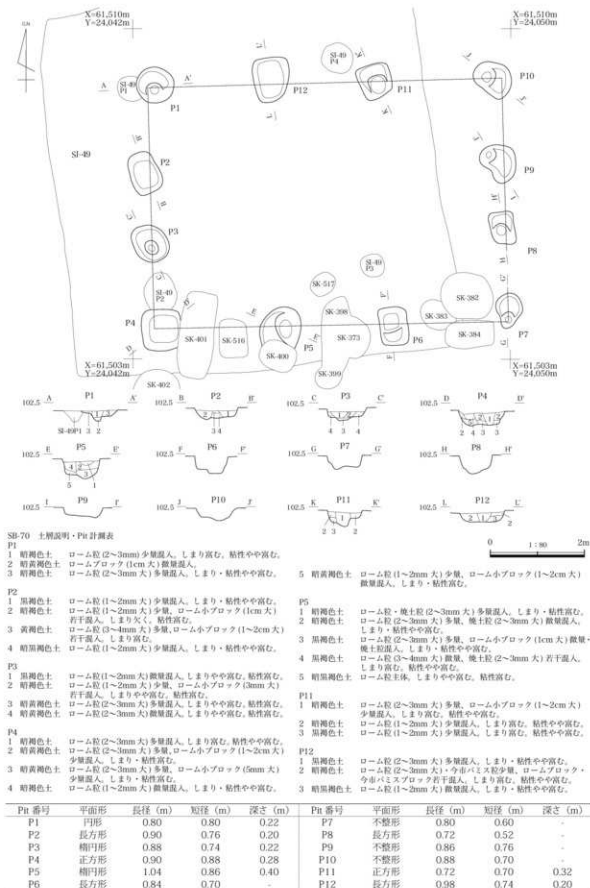
参考文献

山中敏史 2007「地方豪族居宅の建物構造と空間的構成」『古代豪族居宅の構造と機能』奈良国立文化財研究所

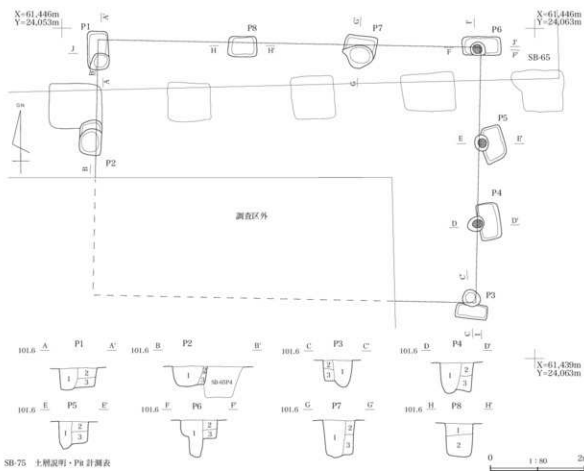


第200図 北/内遺跡 SB-65実測図

第三章 北ノ内遺跡の調査



第 201 図 北ノ内遺跡 SB-70 実測図

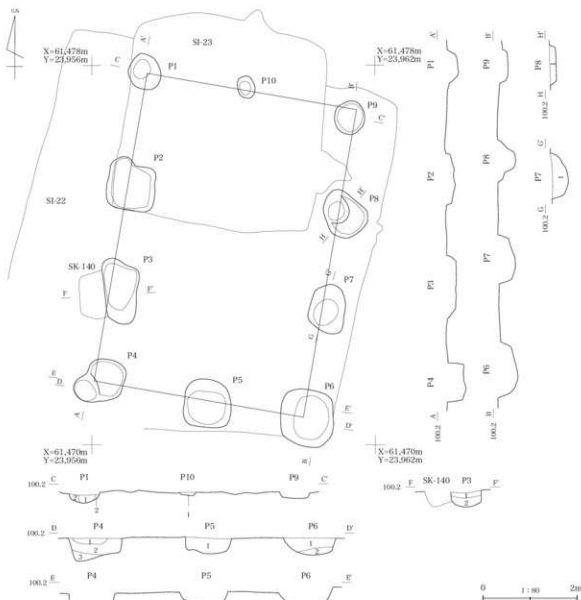


SB-75 土層説明・Pn計画表

P1	1 黒褐色土 今市バミス腔・七本板バミス腔少量混入。しまり欠く。(柱採取穴埋土)	P5	1 黒褐色土 今市バミス腔・七本板バミス腔少量混入。しまり欠く。(柱採取穴埋土)
2 黒褐色土 ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック多量混入。しまりやや富む。(柱掘方埋土)	2 黒褐色土 ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック多量混入。しまりやや富む。(柱掘方埋土)		
3 黒褐色土 ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック多量混入。しまり富む。(柱掘方埋土)	3 黒褐色土 ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック多量混入。しまり富む。(柱掘方埋土)		
P2	1 黒褐色土 今市バミス腔・七本板バミス腔少量混入。しまり欠く。(柱採取穴埋土)	P6	1 黒褐色土 今市バミス腔・七本板バミス腔少量混入。しまり欠く。(柱採取穴埋土)
2 黒褐色土 ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック多量混入。しまりやや富む。(柱掘方埋土)	2 黒褐色土 ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック多量混入。しまりやや富む。(柱掘方埋土)		
3 黒褐色土 ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック多量混入。しまり富む。(柱掘方埋土)	3 黒褐色土 ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック多量混入。しまり富む。(柱掘方埋土)		
P3	1 黒褐色土 今市バミス腔・七本板バミス腔少量混入。しまり欠く。(柱採取穴埋土)	P7	1 黒褐色土 今市バミス腔・七本板バミス腔少量混入。しまり欠く。(柱採取穴埋土)
2 黒褐色土 ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック多量混入。しまりやや富む。(柱掘方埋土)	2 黒褐色土 ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック多量混入。しまりやや富む。(柱掘方埋土)		
3 黒褐色土 ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック多量混入。しまり富む。(柱掘方埋土)	3 黒褐色土 ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック多量混入。しまり富む。(柱掘方埋土)		
P4	1 黒褐色土 今市バミス腔・七本板バミス腔少量混入。しまり欠く。(柱採取穴埋土)	P8	1 黒褐色土 ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック多量混入。しまりやや富む。(柱掘方埋土)
2 黒褐色土 ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック多量混入。しまりやや富む。(柱掘方埋土)	2 黒褐色土 ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック多量混入。しまり富む。(柱掘方埋土)		
3 黒褐色土 ロームブロック・今市バミスブロック・七本板バミスブロック多量混入。しまり富む。(柱掘方埋土)			

Pn 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pn 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	長方形	0.82	0.46	0.42	P5	長方形	0.76	0.54	0.54
P2	正方形	1.14	1.00	0.40	P6	長方形	0.84	0.40	0.40
P3	長方形	0.68	0.32	0.44	P7	不整形	0.72	0.70	0.74
P4	長方形	0.80	0.48	0.54	P8	不整形	0.62	0.48	0.72

第 202 図 北ノ内遺跡 SB-75 実測図



SB-317 土層説明・Pit 計測表

- | | |
|--|--|
| <p>P1</p> <p>1 暗褐色土 ローム粒少量、七本椀バミス粒散見混入。しまり富む、粘性やや高む。</p> <p>2 黒褐色土 ローム粒少量混入。しまり富む。粘性やや高む。</p> <p>P3</p> <p>1 暗褐色土 ローム粒多量混入。しまりやや高む。</p> <p>2 暗褐色土 ローム粒少量混入。しまりやや高む。</p> <p>P4</p> <p>1 褐色土 ローム粒少量混入。しまり富む。</p> <p>2 暗褐色土 ローム粒少量、ローム小ブロック若干混入。しまり富む。</p> <p>3 黒褐色土 ローム粒少量混入。しまり富む。</p> <p>P5</p> <p>1 暗褐色土 ローム粒少量、ローム小ブロック若干混入。しまり富む。</p> | <p>P6</p> <p>1 暗褐色土 ローム大ブロック(1~5cm大)・ローム小ブロック(2~4mm大)少量混入。</p> <p>2 黄褐色土 ローム粒多量混入。しまり富む。</p> <p>P7</p> <p>1 黒褐色土 ローム粒少量、ローム小ブロック微量、炭化物粒若干混入。シルト質。しまり富む。</p> <p>P8</p> <p>1 黒褐色土 ローム粒少量、焼土粒散見混入。シルト質。しまり富む。</p> <p>P10</p> <p>1 黒褐色土 ローム粒少量混入。しまり富む。粘性やや高む。</p> |
|--|--|

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	楕円形	0.80	0.70	0.20	P6	正方形	1.20	1.18	0.42
P2	不整形	1.06	1.04	0.22	P7	長方形	1.02	0.76	0.40
P3	長方形	1.44	0.68	0.22	P8	不整形	1.04	0.80	0.44
P4	不整形	1.06	0.64	0.42	P9	楕円形	0.74	0.68	0.26
P5	正方形	1.02	1.02	0.30	P10	楕円形	0.48	0.40	0.10

第 203 図 北ノ内遺跡 SB-317 実測図

第5節 各時代の土坑と出土遺物

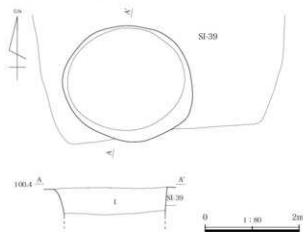
土坑は 350 基を確認した。明確に時期や性格を決定できるものが少ないため、本項で主要なものをまとめて図示する。形態は中世後半によくみられる長方形のもの、方形のもの、楕円形のもの、円形のもの、ごく小規模でビット状のものがある。

SE-554 は西調査区 14・91 グリッドに位置し、奈良・平安時代の竪穴建物跡を切る井戸と考えられるが、調査が不十分で不詳である。平面円形で、長径 2.73m × 短径 2.45m である。

土坑のうち埋土に炭化物を多く含むものがみられた。第 207 図はそれを塗りつぶして表示したものである。

SK-56・63 は東調査区に位置する大型の土坑で、奈良・平安時代の遺物を多く出土している。1・2 は SK-56 出土の須恵器で、益子谷津入窯段階、8 世紀第 4 四半期である。3～7 は SK-63 出土である。須恵器環は益子窯滝ノ入・倉見沢窯段階で、9 世紀中葉である。6 の土師器環は、体部外面に不明墨書がみられる。8～12 は SK-83 出土遺物。土師器環は 9 世紀中葉～後葉。10・11 に墨書がみられる。

SK-160 からは黒笹 90 窯型式の灰軸陶器碗、



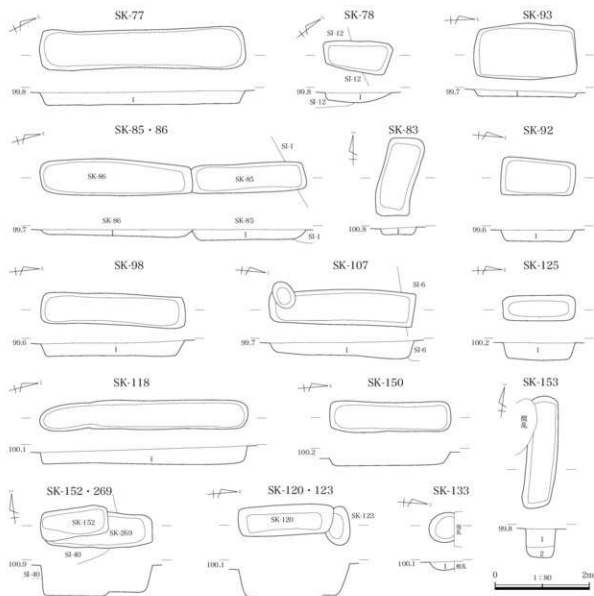
SE-554 土坑説明

1 暗灰色土。後土段やや少量、七本程バリス・ローム粒少量混入、しまり欠く、粘性や含炭む。

第 206 図 北ノ内遺跡 SE-554 実測図



第 207 図 北ノ内遺跡 炭化物出土土坑位置図 (S = 1/1,000)



SK-77 土坑説明

1 暗褐色土 今市バミスブロックやや多量、七本板バミスブロック・七本板バミス粒やや少量、ローム粒少量、今市バミス粒が混入。しまりやや富む、粘性やや富む。

SK-78 土坑説明

1 黒褐色土 ローム粒少量、今市バミスブロック・今市バミス粒・七本板バミスブロック・七本板バミス粒が混入。しまりやや富む、粘性やや富む。

SK-83 土坑説明

1 暗褐色土 今市バミスブロック・今市バミス粒少量、ロームブロック・ローム粒が混入。しまりやや富む、粘性やや富む。

SK-85 土坑説明

1 黒褐色土 今市バミスブロック・今市バミス粒・七本板バミスブロック・七本板バミス粒がやや少量混入。しまりやや富む、粘性やや富む。

SK-86 土坑説明

1 暗褐色土 今市バミスブロック・今市バミス粒・七本板バミス粒が少量混入。しまりやや富む、粘性やや富む。

SK-92 土坑説明

1 暗灰褐色土 白色粘土粒・炭化物粒、今市バミス粒が少量混入。しまりやや富む、粘性やや富む。

SK-93 土坑説明

1 暗灰褐色土 今市バミス粒・七本板バミス粒が少量混入。しまり欠く、粘性欠く。

SK-98 土坑説明

1 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒やや多量、今市バミス粒粒やや少量、ローム細粒・今市バミスブロック・今市バミス粒が混入。しまりやや富む、粘性やや欠く。

SK-107 土坑説明

1 黒褐色土 今市バミスブロックやや少量、ロームブロック・今市バミス粒が少量混入。しまりやや富む、粘性やや欠く。

SK-118 土坑説明

1 黒褐色土 ローム粒・ローム細粒やや少量、ロームブロックが混入。しまりやや富む、粘性やや欠く。

SK-125 土坑説明

1 暗褐色土 ロームブロックやや少量、ローム粒やや少量、今市バミスブロックが少量混入。しまりやや富む、粘性欠く。

SK-133 土坑説明

1 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒やや多量、炭化物ブロックが少量混入。しまりやや富む、粘性やや富む。

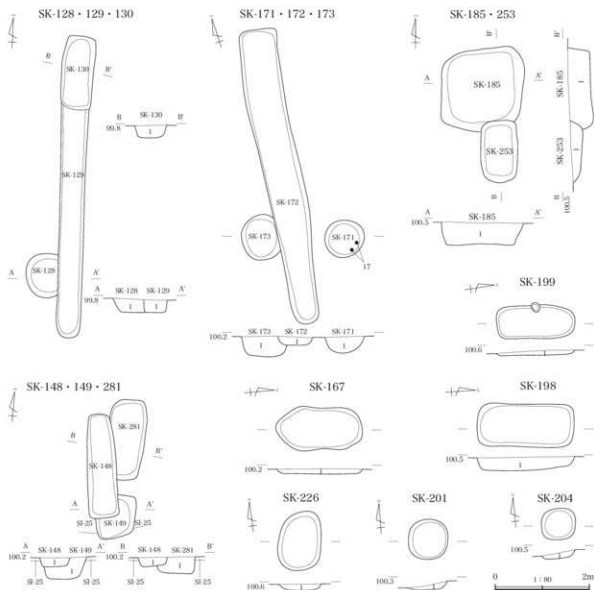
SK-153 土坑説明

1 暗褐色土 今市バミス粒・七本板バミス粒がやや少量混入。しまりやや欠く、粘性やや欠く。

SK-153 土坑説明

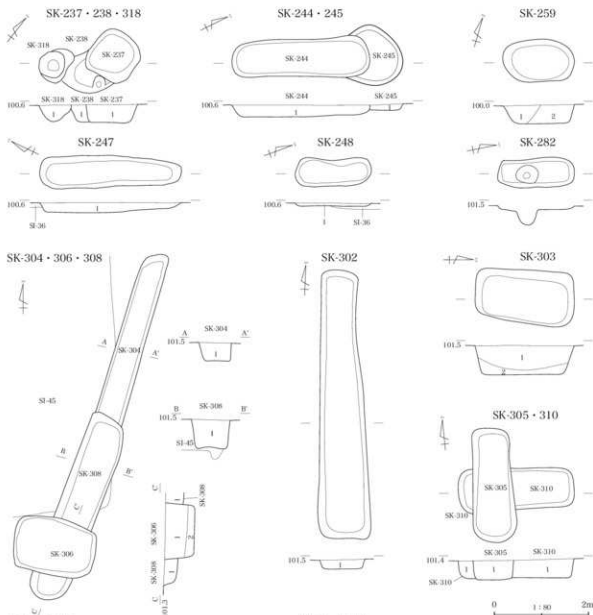
2 黒褐色土 今市バミスブロック・今市バミス粒・七本板バミスブロック・七本板バミス粒がやや少量混入。しまりやや欠く、粘性やや欠く。

第208図 北ノ内遺跡 SK実測図(1)



- SK-128 土層説明
1 黒褐色土 今市パミス錠やや少量、今市パミスブロック・七本板パミス錠・七本板パミス錠少量、今市パミス錠が混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
- SK-129 土層説明
1 黒褐色土 今市パミスブロック・今市パミス錠・七本板パミス錠・七本板パミス錠やや少量、炭化物粒少量、今市パミス錠が混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
- SK-130 土層説明
1 黒褐色土 ロームブロック・今市パミス錠・今市パミス錠やや少量、ローム粒・七本板パミス錠・七本板パミス錠が少量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。
- SK-148 土層説明
1 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒・今市パミス錠が少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
- SK-149 土層説明
1 黒褐色土 ロームブロックやや多量、ローム粒やや少量、今市パミス錠・七本板パミス錠少量、ローム錠が混入。しまりやや欠く。粘性欠く。
- SK-171 土層説明
1 黒褐色土 今市パミス錠・炭化物粒やや少量、ローム粒・ローム錠・七本板パミス錠が少量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。
- SK-172 土層説明
1 黒褐色土 ローム粒・ローム錠やや少量、今市パミス錠・七本板パミス錠・七本板パミス錠少量、ロームブロックが混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
- SK-173 土層説明
1 暗褐色土 今市パミスブロックやや少量、ローム粒・ローム錠・七本板パミス錠・七本板パミス錠が少量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。
- SK-185 土層説明
1 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒・今市パミス錠・七本板パミス錠が少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
- SK-198 土層説明
1 暗褐色土 ローム粒やや多量、今市パミス錠・七本板パミス錠少量、ロームブロックが混入。しまりやや欠く。粘性欠く。
- SK-199 土層説明
1 暗褐色土 ローム粒やや多量、ロームブロックやや少量、今市パミス錠が少量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。
- SK-201 土層説明
1 暗褐色土 ロームブロックやや少量、今市パミス錠・七本板パミス錠少量、ローム錠が混入。しまり欠く。粘性欠く。
- SK-204 土層説明
1 黄褐色土 ローム粒多量、ローム錠粒やや多量、七本板パミスブロック・七本板パミス錠が少量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。
- SK-236 土層説明
1 黒褐色土 ローム粒やや多量、ロームブロックやや少量、今市パミスブロック・七本板パミス錠が少量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。
- SK-253 土層説明
1 暗褐色土 地土粒・今市パミス錠が少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
- SK-281 土層説明
1 茶褐色土 ローム粒やや多量、今市パミス錠・今市パミス錠少量、ローム錠粒が混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。

第 209 図 北ノ内遺跡 SK 実測図 (2)



SK-237 土坑説明

1 黒褐色土 ロームブロック多量、今市バミス微粒・七本椀バミス微粒少量、ローム粒が混入。しまりやや欠く。粘性欠く。

SK-238 土坑説明

1 暗褐色土 ローム粒多量、ローム微粒やや少量、今市バミス微粒少量、ロームブロックが混入。しまりやや欠く。粘性欠く。

SK-318 土坑説明

1 暗褐色土 ローム粒・ローム微粒やや少量、今市バミス粒が少量混入。しまりやや高む。粘性欠く。

SK-244 土坑説明

1 黒褐色土 今市バミスブロック少量、ロームブロック・ローム粒が混入。しまりやや欠く。粘性欠く。

SK-245 土坑説明

1 暗褐色土 ロームブロック・今市バミスブロック少量、ローム粒が混入。しまりやや欠く。粘性欠く。

SK-247 土坑説明

1 暗褐色土 ロームブロックやや少量、今市バミス粒少量、ローム粒・ローム微粒が混入。しまりやや高む。粘性欠く。

SK-248 土坑説明

1 黒褐色土 ロームブロックやや少量、今市バミス粒・七本椀バミス粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。

SK-259 土坑説明

1 暗褐色土 粘土ブロック・粘土粒やや少量、炭化物ブロックやや少量、白色粘土ブロック・白色粘土粒が混入。しまりやや高む。粘性高む。
2 黒茶褐色土 ローム粒・ローム微粒・炭化物粒・炭化物微粒・白色粘土ブロックが少量混入。しまりやや欠く。粘性やや高む。

SK-302 土坑説明

1 暗茶褐色土 ロームブロック多量、ローム粒やや多量、ローム微粒やや少量、今市バミス粒・七本椀バミス微粒が少量混入。しまりやや高む。粘性やや欠く。

SK-303 土坑説明

1 暗茶褐色土 ロームブロックやや多量、ローム微粒やや少量、今市バミス粒・七本椀バミス微粒少量、ローム粒が混入。しまりやや欠く。粘性やや高む。
2 黄褐色土 ロームブロック多量、ローム粒・ローム微粒がやや少量混入。しまりやや高む。粘性やや欠く。

SK-304 土坑説明

1 黒茶褐色土 ロームブロック・ローム微粒やや少量、ローム粒が混入。しまりやや欠く。粘性欠く。

SK-305 土坑説明

1 暗黄褐色土 ロームブロックやや少量、七本椀バミス粒・七本椀バミス微粒が少量、ローム粒・ローム微粒が混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。

SK-306 土坑説明

1 黒色土 ローム微粒やや多量、ロームブロックやや少量、ローム粒が混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。

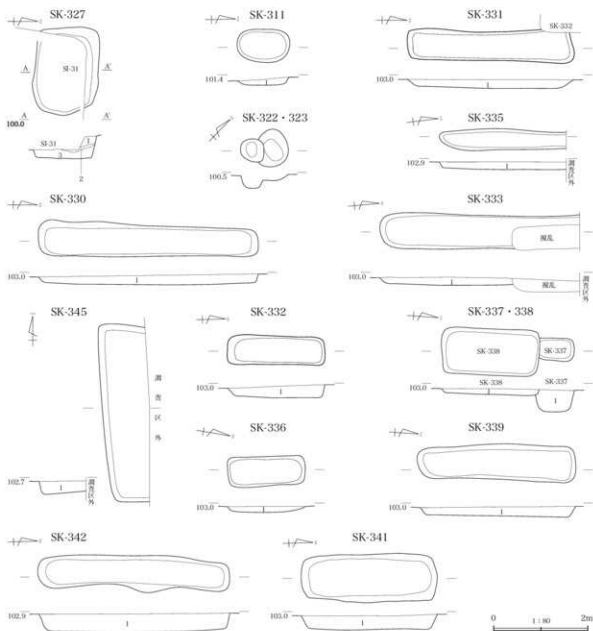
SK-308 土坑説明

1 黒色土 ローム粒多量、ロームブロックやや多量、今市バミス粒少量、ローム微粒が混入。しまりやや高む。粘性欠く。

SK-310 土坑説明

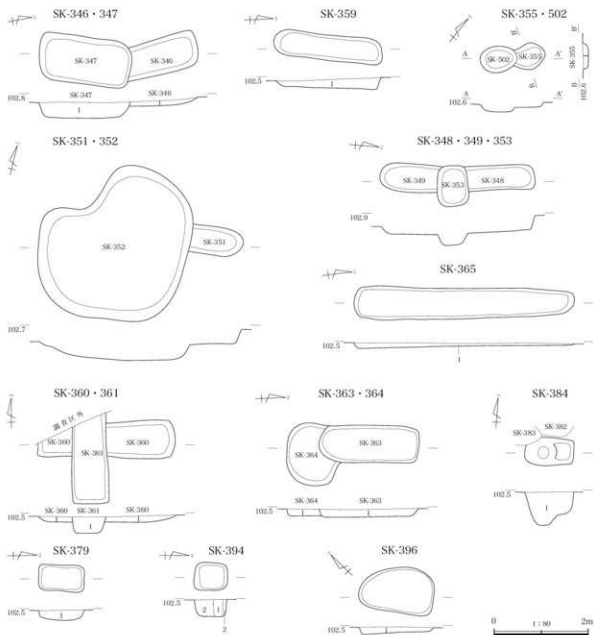
1 暗茶褐色土 ローム粒・ローム微粒やや少量、今市バミス粒・今市バミス微粒・炭化物微粒が少量混入。

第210図 北ノ内通跡 SK実測図(3)



- SK-311 土質説明
1 黒茶褐色土 ロームブロック・ローム微粒が少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
- SK-327 土質説明
1 暗褐色土 ローム粒多量。今市バミス粒・七本板バミス粒が微量混入。しまりあり。粘性やや富む。
2 黒褐色土 ローム粒少量混入。粘性富む。
3 暗褐色土 ローム粒多量。七本板バミス粒が微量混入。しまりあり。粘性やや富む。
- SK-330 土質説明
1 茶褐色土 ロームブロック・ローム粒多量。今市バミス粒やや少量。ローム微粒・今市バミスブロックが混入。しまり富む。粘性やや欠く。
- SK-331 土質説明
1 黒茶褐色土 ローム粒・ローム微粒やや少量。今市バミス粒が少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
- SK-322・323 土質説明
1 黒茶褐色土 ローム粒・ローム微粒やや少量。ロームブロックが少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- SK-332 土質説明
1 黒色土 ローム微粒・炭化物粒・炭化物微粒が少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
- SK-333 土質説明
1 暗茶褐色土 ローム粒・ローム微粒やや少量。ロームブロックが少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- SK-334 土質説明
1 黒茶褐色土 ローム粒・ローム微粒やや少量。ロームブロックが少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- SK-335 土質説明
1 暗茶褐色土 ローム粒・ローム微粒が少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- SK-336 土質説明
1 黒色土 ローム微粒やや少量。今市バミス粒が少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- SK-337 土質説明
1 黒色土 ローム微粒・今市バミス粒・炭化物粒・炭化物微粒が少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
- SK-338 土質説明
1 黒茶褐色土 ローム粒・ローム微粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
- SK-339 土質説明
1 暗茶褐色土 ロームブロック・ローム粒多量。今市バミス粒やや少量。今市バミスブロック少量。ローム微粒が混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- SK-340 土質説明
1 暗茶褐色土 ローム粒・ローム微粒やや少量。今市バミスブロック・今市バミス粒が少量混入。ロームブロックが少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- SK-342 土質説明
1 黒茶褐色土 ローム粒・ローム微粒やや少量。ロームブロックが少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- SK-343 土質説明
1 暗茶褐色土 ローム粒・ローム微粒やや少量。ロームブロックが少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- SK-344 土質説明
1 黒茶褐色土 ローム粒・ローム微粒やや少量。ロームブロックが少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- SK-345 土質説明
1 暗茶褐色土 ローム粒・ローム微粒が少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。

第 211 図 北ノ内遺跡 SK 実測図 (4)



SK-346 土耕説明

1 暗茶褐色土 ローム殻がやや少量混入。しまりやや高む。粘性やや欠く。
SK-347 土耕説明
1 暗茶褐色土 ローム殻やや少量、ロームブロックが混入。しまりやや欠く。粘性欠く。

SK-355 土耕説明

1 暗茶褐色土 ロームブロックやや多量、今市バミスブロック・今市バミス殻やや少量、ローム殻が混入。

SK-359 土耕説明

1 暗茶褐色土 ローム殻やや多量、今市バミスブロック少量、ロームブロックが混入。しまり高む、粘性高む。

SK-360 土耕説明

1 茶褐色土 ロームブロック・ローム殻やや多量、今市バミス殻が少量混入。しまりやや高む。粘性やや高む。

SK-361 土耕説明

1 黒褐色土 ロームブロック・ローム殻やや多量、今市バミス殻やや少量、七本板バミス殻・炭化物ブロック少量、今市バミスブロックが混入。しまりやや高む。粘性やや高む。

SK-363 土耕説明

1 黒褐色土 ロームブロック・ローム殻やや多量、今市バミス殻やや少量、今市バミスブロックが混入。しまり高む、粘性やや高む。

SK-364 土耕説明

1 黒褐色土 今市バミス殻・七本板バミス殻・七本板バミス殻殻が少量混入。しまり高む、粘性やや高む。

SK-365 土耕説明

1 黒褐色土 ロームブロック・ローム殻やや多量、今市バミスブロック・今市バミス殻が少量混入。しまり高む、粘性やや高む。

SK-379 土耕説明

1 暗茶褐色土 ロームブロック多量、今市バミスブロックやや少量、今市バミス殻・七本板バミス殻少量、ローム殻が混入。しまり高む、粘性やや欠く。

SK-384 土耕説明

1 暗茶褐色土 ローム殻・今市バミス殻がやや少量混入。しまりやや欠く、粘性やや高む。

SK-394 土耕説明

1 黒褐色土 今市バミス殻・今市バミス殻殻・七本板バミス殻殻やや少量、ローム殻・七本板バミス殻が少量混入。しまりやや高む、粘性やや高む。

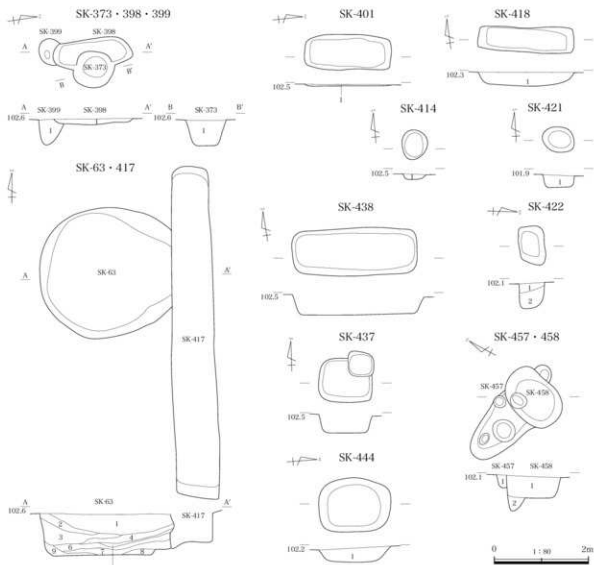
2 暗褐色土

今市バミスブロックやや多量、七本板バミス殻・七本板バミス殻殻やや少量、ロームブロック・ローム殻・今市バミス殻が混入。しまり高む、粘性やや高む。

SK-396 土耕説明

1 黒褐色土 今市バミス殻・今市バミス殻殻やや少量、今市バミスブロック少量、ロームブロック・ローム殻が混入。しまりやや欠く、粘性やや欠く。

第212図 北ノ内遺跡 SK実測図(5)



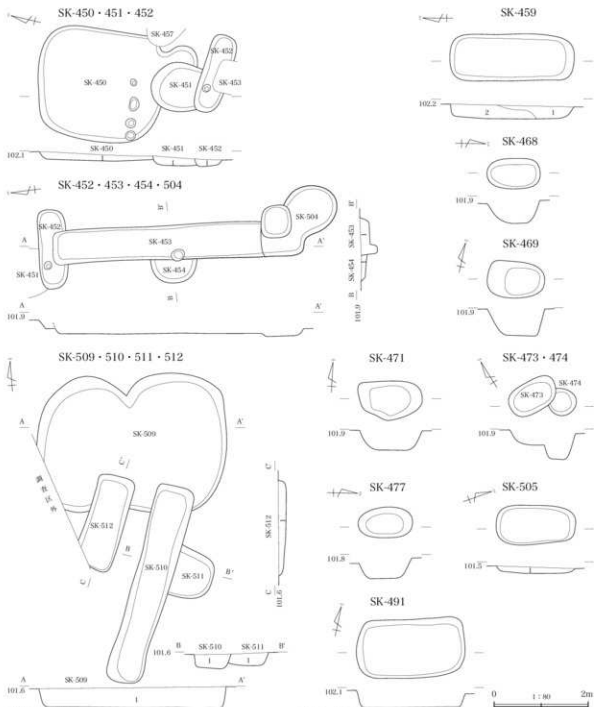
SK-63 土層説明

- 1 暗褐色土 0.5mm 大のローム粒が均一に少量、1mm 大の今市バミス粒が極少量混入。しまり富む。粘性欠く。
 - 2 暗褐色土 0.5mm 大のローム粒が均一に少量、1mm 大の今市バミス粒、3~5mm 大の七本板バミス粒が極少量混入。しまり富む。粘性やや富む。
 - 3 暗褐色土 0.5~1mm 大のローム粒多量、1mm 大の今市バミス粒少量。黒色土が混入。しまり富む。粘性やや富む。
 - 4 暗褐色土 0.5mm 大のローム粒少量、2~3mm 大の今市バミス粒・2~3mm 大の白色粘土粒が極少量混入。しまり富む。粘性富む。白色粘土が主体、1cm 大の炭化物粒が極少量混入。しまり富む。粘性やや富む。
 - 5 黒褐色土 0.5m 大のローム粒少量、10cm 大の七本板バミスブロックが混入。しまりやや富む。粘性富む。
 - 6 暗褐色土 0.5~1mm 大のローム粒、10cm 大の七本板バミスブロックが混入。しまり富む。粘性富む。
 - 7 暗褐色土 1mm 大のローム粒・10mm 大のロームブロックが多量混入。しまり富む。粘性やや富む。
 - 8 暗褐色土 1~3cm 大のロームブロックが多量混入。しまり富む。粘性やや富む。
- SK-373 土層説明
1 黒色土 今市バミス粒・炭化物粒やや少量、ロームブロック・ローム粒・炭化物ブロック少量、粘土粒が混入。しまり富む。粘性やや富む。
- SK-398 土層説明
1 黒褐色土 七本板バミス粒やや少量、今市バミス粒・今市バミス粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
- SK-399 土層説明
1 暗褐色土 七本板バミス粒やや少量、今市バミス粒・今市バミス粒・七本板バミス粒が少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。

SK-401 土層説明

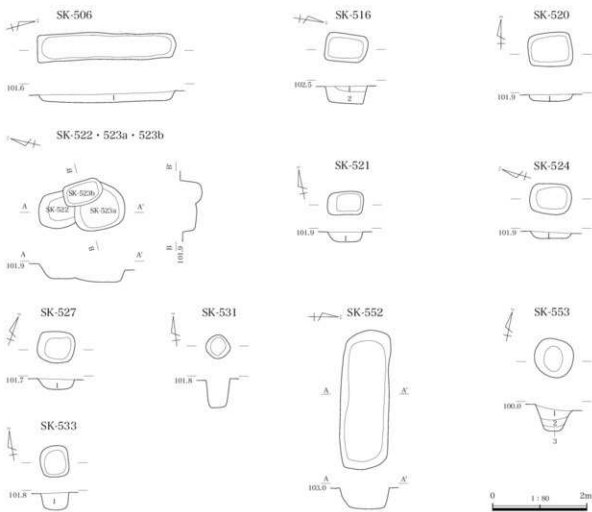
- 1 暗褐色土 ローム粒やや少量、ローム粒が少量混入。しまり富む。粘性やや欠く。
- SK-414 土層説明
1 暗褐色土 ローム粒・ローム粒がやや少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- SK-418 土層説明
1 黒褐色土 ローム粒・ローム粒がやや少量、今市バミス粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
- SK-421 土層説明
1 黒色土 七本板バミス粒・七本板バミス粒が混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。
- SK-422 土層説明
1 黒色土 今市バミスブロック・七本板バミス粒・七本板バミス粒が少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
2 黒褐色土 七本板バミス粒やや少量、今市バミス粒・七本板バミス粒やや少量、今市バミス粒が混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
- SK-444 土層説明
1 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロックやや少量、今市バミスブロック・今市バミス粒が少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
- SK-457 土層説明
1 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒少量、ローム粒が混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
- SK-458 土層説明
1 暗褐色土 ロームブロック多量、ローム粒がやや少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
2 暗褐色土 ローム粒やや少量、ロームブロック少量、ローム粒が混入。しまりやや富む。粘性やや富む。

第 213 図 北ノ内遺跡 SK 実測図 (6)



- SK-450 土層説明
1 暗茶褐色土 ロームブロック少量、ローム粒が混入、しまり富む、粘性やや富む。
- SK-451 土層説明
1 暗茶褐色土 ロームブロックやや多量、ローム粒が混入、しまり富む、粘性やや富む。
- SK-452 土層説明
1 暗茶褐色土 ローム微粒やや少量、ロームブロック・ローム粒が混入、しまりやや富む、粘性やや富む。
- SK-453 土層説明
1 茶褐色土 ロームブロック・ローム粒やや多量、しまりやや欠く、粘性やや欠く。
- SK-454 土層説明
1 黄褐色土 しまり富む、粘性やや富む。
- SK-505 土層説明
1 黒色土 今市バミス粒・今市バミス微粒が少量混入、しまりやや富む、粘性やや欠く。
- SK-459 土層説明
1 黒褐色土 ロームブロックやや多量、ローム粒が混入、しまりやや富む、粘性やや富む。
2 黄褐色土 ロームブロック・ローム粒が多量混入、しまり富む、粘性やや富む。
- SK-509 土層説明
1 黒色土 今市バミス微粒・七本板バミス微粒が少量混入、しまりやや富む、粘性やや富む。
- SK-510 土層説明
1 暗褐色土 今市バミスブロック・今市バミス粒やや多量、七本板バミス粒・七本板バミス微粒やや少量、今市バミス微粒が混入、しまりやや欠く、粘性やや富む。
- SK-511 土層説明
1 暗褐色土 今市バミスブロック・今市バミス微粒やや少量、今市バミス粒が混入、しまりやや富む、粘性やや富む。
- SK-512 土層説明
1 暗褐色土 今市バミス微粒やや少量、今市バミスブロック・今市バミス粒が混入、しまりやや欠く、粘性やや欠く。

第214図 北ノ内遺跡 SK実測図(7)



SK-506 土層説明

1 黒褐色土 今市バミスブロック・今市バミス粒・七本柱バミスブロック・七本柱バミス粒が少量混入。しまりやや欠く。

SK-516 土層説明
1 黒色土 ローム粒やや少量、焼土粒が混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
2 暗黄褐色土 ローム粒、ロームブロックやや多量が混入。しまり富む。粘性やや富む。

SK-520 土層説明
1 黄褐色土 ロームブロックやや多量、炭化物粒が微量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。

SK-521 土層説明
1 黄褐色土 ロームブロックやや多量、炭化物粒が微量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。

SK-524 土層説明

1 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。

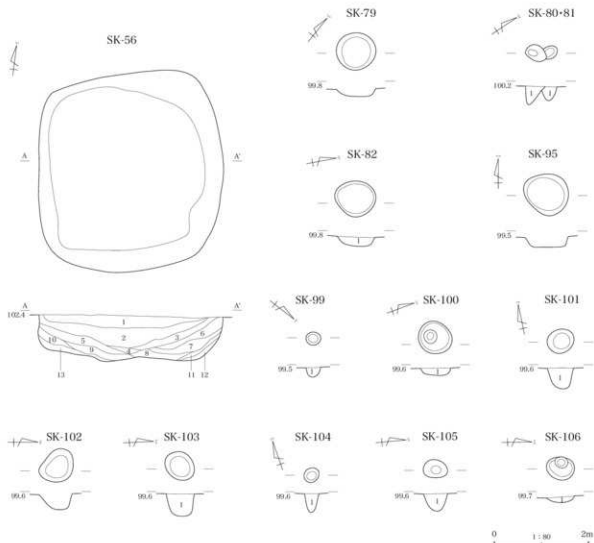
SK-527 土層説明
1 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。

SK-533 土層説明
1 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。

SK-553 土層説明
1 黒褐色土 2~3mm 大の今市バミス粒少量、1~2mm 大のローム粒が若干混入。しまり富む。粘性富む。

2 黄褐色土 2~3mm 大のローム粒多量、2~3mm 大の今市バミス粒が微量混入。しまり富む。粘性富む。
3 暗褐色土 2~3mm 大のローム粒が少量混入。しまり富む。粘性富む。

第 215 図 北ノ内遺跡 SK 実測図 (8)



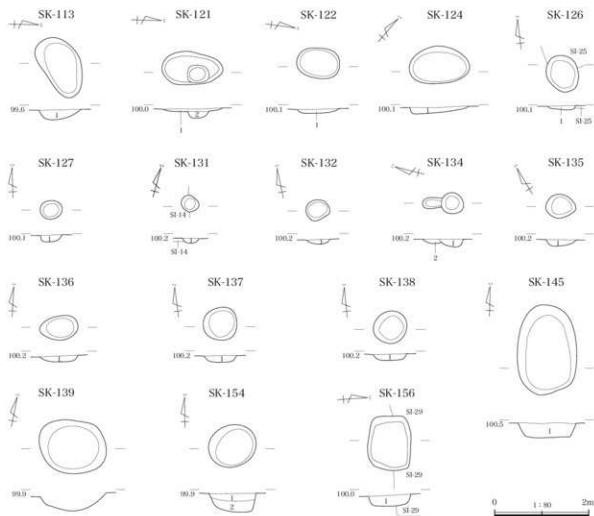
SK-56 土層説明

- 1 黒褐色土 1~2mm 大のローム粒やや多量、1~2cm 大のロームブロック少量、3~5mm 大の今市ミス粒が極少量混入。しまり富む。粘性欠く。
- 2 暗褐色土 1~2mm 大のローム粒多量、1~3mm 大のローム粒やや多量、1mm 大の今市ミス粒が極少量混入。しまりやや富む。粘性富む。
- 3 黒褐色土 0.5mm 大のローム粒が少量混入。しまり富む。粘性富む。
- 4 暗褐色土 1~2mm 大のローム粒、1~5mm 大の七本椀バミス粒がやや多量混入。しまり富む。粘性中富む。
- 5 暗茶褐色土 0.5~1mm 大のローム粒多量、1cm 大のロームブロックが少量混入。しまり富む。粘性やや富む。
- 6 黒褐色土 0.5mm 大のローム粒少量、5mm 大の炭化物粒が極少量混入。しまり富む。粘性やや富む。
- 7 暗茶褐色土 0.5mm 大のローム粒多量、1cm 大のロームブロックが少量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。
- 8 黒褐色土 5~15cm 大のロームブロックが多量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。
- 9 暗褐色土 2~3cm 大のロームブロック2~3mm 大のローム粒が多量混入。しまりやや富む。粘性欠く。
- 10 暗茶褐色土 0.5mm 大の七本椀バミス粒、1~2mm 大のローム粒少量、1mm 大の今市バミス粒、1mm 大の小礫が極少量混入。しまり富む。粘性富む。
- 11 茶褐色土 1mm 大のローム粒が多量混入。しまり富む。粘性富む。
- 12 黄褐色土 2~3mm 大のローム粒が多量混入。しまり富む。粘性富む。
- 13 黒色土 1mm 大のローム粒、3~5mm 大のローム粒が少量混入。しまり富む。粘性富む。

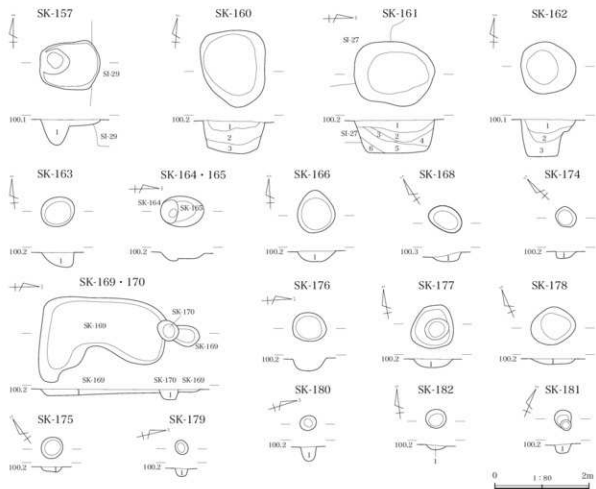
SK-80 土層説明

- 1 黒色土 ローム粒・今市バミス粒やや少量、七本椀バミスブロック・七本椀バミス粒少量、ロームブロック・今市バミスブロックが混入。しまり富む。粘性やや富む。
- SK-81 土層説明
- 1 黒色土 今市バミス粒やや少量、ロームブロック・ローム粒・七本椀バミス粒少量、今市バミス粒が混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- SK-82 土層説明
- 1 暗褐色土 ローム微粒・今市バミス粒少量、ローム粒が混入。しまりやや富む。粘性中やや欠く。
- SK-99 土層説明
- 1 暗褐色土 ローム微粒・今市バミス粒少量、ローム粒が混入。しまりやや富む。粘性中やや欠く。
- SK-100 土層説明
- 1 暗褐色土 今市バミス粒、今市バミス微粒やや少量、ローム粒が少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- SK-101 土層説明
- 1 黄褐色土 ローム粒やや少量、ローム微粒が少量混入。しまり富む。粘性やや富む。
- SK-103 土層説明
- 1 褐色土 ローム粒・ローム微粒やや少量、ロームブロック少量混入。しまりやや欠く。粘性中やや欠く。
- SK-104 土層説明
- 1 暗褐色土 ローム粒・ローム微粒少量、今市バミスブロックが混入。しまり富む。粘性中やや欠く。
- SK-105 土層説明
- 1 暗褐色土 ローム粒・ローム微粒少量、今市バミスブロックが混入。しまりやや富む。粘性中やや欠く。
- SK-106 土層説明
- 1 暗褐色土 ローム粒・今市バミス粒やや少量、七本椀バミス粒が少量混入。しまりやや富む。粘性中やや欠く。

第216図 北ノ内遺跡 SK実測図(9)



第 217 図 北ノ内遺跡 SK 実測図 (10)



SK-157 土堀説明

1 黒色土 ローム微粒や中少量、ロームブロック・今市バミス粒が少量混入。しまり高む。粘性やや欠く。

SK-160 土堀説明

1 黒褐色土 ローム微粒・今市バミス粒が中少量、七本板バミス粒が少量混入。しまりやや高む。粘性欠く。
2 暗褐色土 ローム微粒・炭化物粒が少量混入。ローム粒・今市バミス粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
3 黒褐色土 ローム粒が少量混入。今市バミス粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。

SK-161 土堀説明

1 暗褐色土 2~3mm 大のローム粒・今市バミス粒少量、3~5mm 大の七本板バミス粒が若干混入。しまり高む。シルト質。
2 暗褐色土 2~3mm 大のローム粒・今市バミス粒・粘土質。七本板バミス粒が若干混入。しまり高む。シルト質。

SK-163 土堀説明

1 黒褐色土 ロームブロックや中少量、ローム微粒・今市バミス粒・七本板バミス粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。
2 暗褐色土 2~3mm 大のローム粒が少量混入。しまり高む。強い。シルト質。
3 暗褐色土 2~3mm 大のローム粒が少量混入。ロームブロック少量。炭化物粒が若干混入。しまり高む。強い。シルト質。

SK-164・165 土堀説明

1 黒褐色土 2~3mm 大のローム粒少量、1~2mm 大の今市バミス粒、5~10mm 大の七本板バミス粒が若干混入。しまり高む。シルト質。
2 暗褐色土 1~2mm 大のローム粒が少量混入。しまり高む。シルト質。
3 暗褐色土 2~5mm 大のローム粒少量、1~2mm 大のローム粒が少量混入。しまり高む。シルト質。

SK-166 土堀説明

1 黒褐色土 ロームブロックや中少量、ローム微粒・今市バミス粒・七本板バミス粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。

SK-168 土堀説明

1 黒褐色土 ロームブロックや中少量、ローム微粒・今市バミス粒・七本板バミス粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。

SK-175 土堀説明

1 黒褐色土 ロームブロックや中少量、ローム微粒・今市バミス粒・七本板バミス粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。

SK-176 土堀説明

1 黒褐色土 ローム粒・ローム微粒・今市バミス粒・七本板バミス粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。

SK-177 土堀説明

1 暗褐色土 ローム粒・ローム微粒・今市バミス粒・七本板バミス粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。

SK-178 土堀説明

1 暗褐色土 ローム粒・ローム微粒・今市バミス粒・七本板バミス粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。

SK-179 土堀説明

1 暗褐色土 ローム粒・ローム微粒・今市バミス粒・七本板バミス粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。

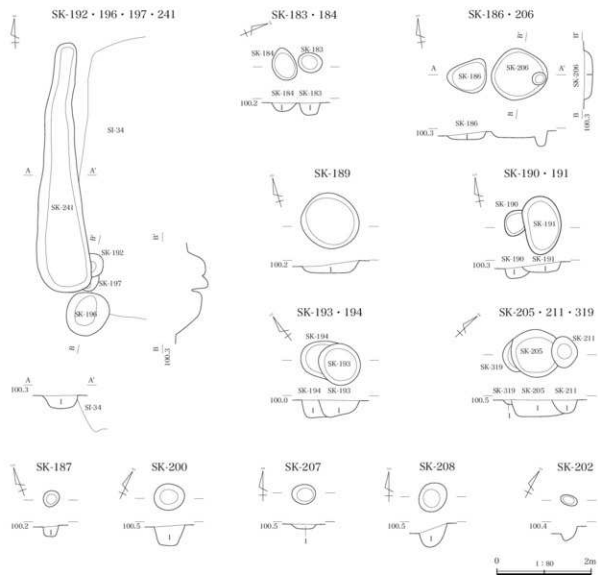
SK-180 土堀説明

1 暗褐色土 ローム粒・ローム微粒・今市バミス粒・七本板バミス粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。

SK-181 土堀説明

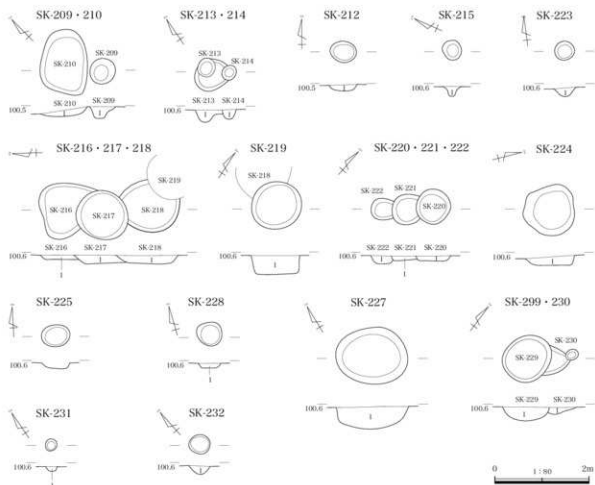
1 暗褐色土 ローム粒・ローム微粒・今市バミス粒・七本板バミス粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。

第218図 北ノ内遺跡 SK実測図(11)



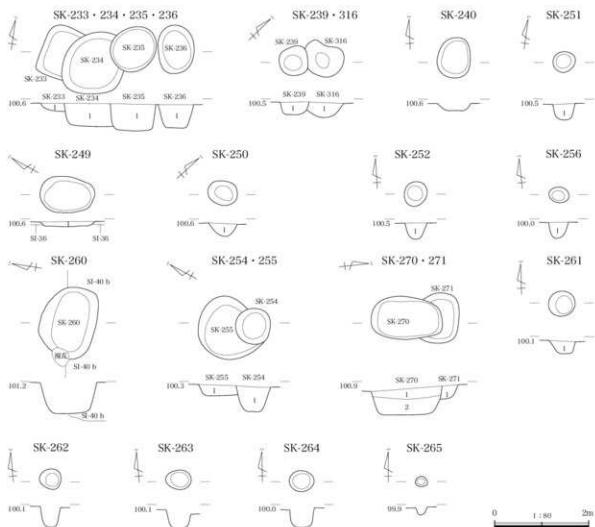
- SK-183 土層説明
1 黒褐色土 ローム粒や中少量、ロームブロックが混入。しまりやや欠く、粘性やや欠く。
- SK-184 土層説明
1 ローム粒・今市バミス粒・炭化物粒や中少量、七本椀バミス粒少量、ロームブロックが混入。しまりやや欠く、粘性やや欠く。
- SK-186 土層説明
1 暗褐色土 ロームブロック・七本椀バミス粒や中少量、ローム粒が少量混入。しまりやや欠く、粘性欠く。
- SK-206 土層説明
1 暗褐色土 ローム粒・今市バミスブロックや中少量、今市バミス粒少量、ロームブロックが混入。しまりやや欠く、粘性欠く。
- SK-187 土層説明
1 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒・七本椀バミス粒や中少量、今市バミス粒が少量混入。しまりやや欠く、粘性欠く。
- SK-189 土層説明
1 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒・七本椀バミスブロックや中少量、今市バミス粒・七本椀バミス粒が少量混入。しまりやや高直、粘性やや欠く。
- SK-190 土層説明
1 黒褐色土 ローム粒や中少量、ロームブロックが混入。
- SK-191 土層説明
1 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒や中少量、七本椀バミス粒・砂粒が少量混入。しまり高直、粘性やや欠く。
- SK-193 土層説明
1 黒褐色土 ローム粒や中少量、七本椀バミス粒や中少量、ローム粒少量、堆土ブロックが混入。しまりやや高直、粘性やや高直。
- SK-200 土層説明
1 暗褐色土 ロームブロックや中少量、今市バミス粒・七本椀バミス粒少量、ローム粒が混入。しまりやや欠く、粘性やや欠く。
- SK-205 土層説明
1 黒色土 ローム粒・七本椀バミス粒や中少量、ローム粒・今市バミス粒が少量混入。しまり欠く、粘性欠く。
- SK-211 土層説明
1 黒褐色土 ローム粒少量、七本椀バミス粒少量、ローム粒が混入。しまり欠く、粘性欠く。
- SK-319 土層説明
1 黒褐色土 ローム粒・七本椀バミス粒が少量混入。しまり欠く、粘性欠く。
- SK-207 土層説明
1 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒や中少量、今市バミス粒・七本椀バミス粒が少量混入。しまりやや欠く、粘性欠く。
- SK-208 土層説明
1 暗茶褐色土 ローム粒・今市バミス粒や中少量、ローム粒・今市バミス粒・七本椀バミス粒が少量混入。しまり欠く、粘性欠く。
- SK-241 土層説明
1 暗褐色土 七本椀バミスブロックや中少量、今市バミス粒・砂粒が少量混入。しまり高直、粘性欠く。

第 219 図 北ノ内遺跡 SK 実測図 (12)



- SK-209 土坑説明
1 粘褐色土 ロームブロック・今市パミス粒やや少量、七本椀パミス粒が少量混入。しまりや中富む。粘性欠く。
- SK-210 土坑説明
1 黒褐色土 ローム粒・ローム微粒・今市パミス粒・七本椀パミスブロック・七本椀パミス粒少量、ロームブロックが混入。しまりや中欠く。粘性欠く。
- SK-212 土坑説明
1 黒褐色土 今市パミス粒やや少量、ロームブロック・七本椀パミス粒少量、ローム粒が混入。しまりや中欠く。粘性欠く。
- SK-213 土坑説明
1 粘褐色土 ロームブロック・七本椀パミスブロックやや少量、今市パミス粒・七本椀パミス粒少量、ローム粒が混入。しまりや中欠く。粘性欠く。
- SK-214 土坑説明
1 黒褐色土 ローム粒・今市パミス粒少量、ロームブロックが混入。しまりや中欠く。粘性欠く。
- SK-215 土坑説明
1 黒褐色土 七本椀パミスブロックやや少量、ロームブロック・ローム粒・炭化物粒が少量混入。しまりや中欠く。粘性欠く。
- SK-216 土坑説明
1 粘褐色土 今市パミス粒やや少量、七本椀パミス粒少量、ローム粒が混入。しまりや中欠く。粘性欠く。
- SK-217 土坑説明
1 黒褐色土 炭化物粒やや少量、ロームブロック・ローム粒・今市パミス粒が少量混入。しまりや中欠く。粘性欠く。
- SK-218 土坑説明
1 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒・七本椀パミス粒・炭化物粒やや少量、今市パミス粒が少量混入。しまりや中欠く。粘性欠く。
- SK-219 土坑説明
1 粘褐色土 ロームブロック少量、炭化物粒やや少量、今市パミスブロック・今市パミス粒・七本椀パミス粒少量、ローム粒が混入。しまりや中欠く。粘性やや欠く。
- SK-220 土坑説明
1 黒褐色土 ロームブロックやや多量、今市パミス粒少量、ローム粒が混入。しまりや中富む。粘性欠く。
- SK-221 土坑説明
1 粘褐色土 ローム粒・今市パミス粒・七本椀パミス微粒少量、ローム微粒が混入。しまりや中欠く。粘性やや欠く。
- SK-222 土坑説明
1 黒褐色土 ローム微粒・今市パミス粒・七本椀パミス微粒少量、ローム粒が混入。しまりや中欠く。粘性やや欠く。
- SK-223 土坑説明
1 粘褐色土 ロームブロック・今市パミス粒少量、ローム粒・炭化物ブロックが混入。しまりや中欠く。粘性欠く。
- SK-224 土坑説明
1 黒褐色土 ローム粒やや少量、ロームブロック・今市パミス粒・七本椀パミス粒が少量混入。しまりや中欠く。粘性欠く。
- SK-225 土坑説明
1 粘褐色土 ロームブロックやや少量、ローム粒・今市パミス粒・七本椀パミス粒少量、ローム粒が混入。しまりや中富む。粘性欠く。
- SK-227 土坑説明
1 粘褐色土 ロームブロック・今市パミス粒少量、ローム粒・炭化物ブロックが混入。しまりや中欠く。粘性欠く。
- SK-228 土坑説明
1 粘褐色土 ローム粒・ローム微粒が少量混入。しまりや中富む。粘性欠く。
- SK-229 土坑説明
1 粘褐色土 ローム微粒やや多量、ロームブロックやや少量、今市パミス微粒少量、ローム粒が混入。しまりや中富む。粘性やや欠く。
- SK-230 土坑説明
1 粘褐色土 ローム微粒やや少量、ローム粒少量、ロームブロックが混入。しまりや中富む。粘性やや欠く。
- SK-231 土坑説明
1 粘褐色土 炭化物粒やや少量、ローム微粒が混入。しまりや中富む。粘性やや欠く。
- SK-232 土坑説明
1 粘褐色土 ローム粒・ローム微粒・今市パミス粒が少量混入。しまりや中富む。粘性欠く。

第220図 北ノ内遺跡 SK実測図(13)



SK-233 土層説明

1 黒褐色土 ローム粒の中や多量、ロームブロック少量、今市バミスブロック
多量混入、しまりやや欠く、粘性欠く。

SK-234 土層説明

1 暗褐色土 七本椀バミス粒の中や少量、ロームブロック・ローム粒・バミス
粒が少量混入、しまりやや欠く、粘性欠く。

SK-235 土層説明

1 暗褐色土 ロームブロックや中量、今市バミス粒・焼土粒少量、ローム
粒が混入、しまりやや欠く、粘性欠く。

SK-236 土層説明

1 黒褐色土 ローム粒の中や多量、ロームブロックの中や少量、今市バミスブ
ロック・七本椀バミスブロックが少量混入、しまりやや欠く、
粘性欠く。

SK-239 土層説明

1 暗茶褐色土 ロームブロックの中や多量、ローム粒の中や少量、七本椀バミス粒
が少量混入、しまりやや弱む、粘性欠く。

SK-316 土層説明

1 暗褐色土 ローム粒の中や少量、ローム粒・今市バミス粒、七本椀バミス
ブロックが少量混入、しまりやや欠く、粘性欠く。

SK-249 土層説明

1 暗褐色土 ローム粒・今市バミス粒・七本椀バミス粒少量、ロームブロッ
クが混入、しまりやや欠く、粘性欠く。

SK-250 土層説明

1 暗褐色土 今市バミス粒・七本椀バミス粒・炭化物粒少量、ロームブロッ
クが混入、しまりやや欠く、粘性欠く。

SK-251 土層説明

1 暗褐色土 ロームブロック・今市バミスブロック・七本椀バミスブロッ
クの中や少量、ローム粒・今市バミス粒・七本椀バミス粒が少量混
入、しまりやや欠く、粘性欠く。

SK-252 土層説明

1 暗褐色土 今市バミスブロック・七本椀バミスブロックの中や少量、ローム
粒・今市バミス粒・七本椀バミス粒・炭化物粒が少量混入、しまりやや欠く、粘性欠く。

SK-254 土層説明

1 暗茶褐色土 七本椀バミス粒の中や少量、ローム粒・今市バミス粒・今市
バミス粒・七本椀バミス粒・炭化物粒が少量混入、しまり
やや弱む、粘性やや欠く。

SK-255 土層説明

1 暗茶褐色土 今市バミス粒の中や少量、ローム粒・今市バミスブロッ
ク・今市バミス粒・七本椀バミスブロック・七本椀バミス粒・炭化
物粒・炭化物粒が少量混入、しまりやや欠く。

SK-256 土層説明

1 暗褐色土 ローム粒・今市バミス粒・今市バミス粒の中や少量、炭化物粒
・炭化物粒が少量混入、しまりやや弱む、粘性やや欠く。

SK-261 土層説明

1 暗茶褐色土 ローム粒・七本椀バミス粒が少量混入、しまりやや弱む、
粘性やや弱む。

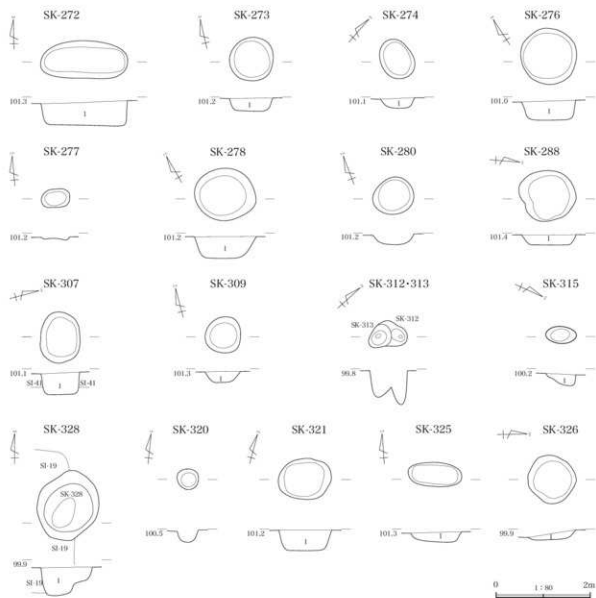
SK-270 土層説明

1 暗褐色土 今市バミスブロックや中少量、ローム粒・ローム粒少量、今
市バミス粒・今市バミス粒が混入、しまりやや欠く、粘性や
や欠く。

SK-271 土層説明

1 黒色土 ローム粒・今市バミス粒・七本椀バミスブロック・七本椀バ
ミス粒の中や少量、ローム粒・炭化物ブロック少量、今市バミス
ブロックが混入、しまりやや欠く、粘性欠く。

第 221 図 北ノ内遺跡 SK 実測図 (14)



SK-272 土層説明

1 茶褐色土 ローム粒やや少量、ローム微粒が混入。しまりやや高む。粘性やや欠く。

SK-273 土層説明

1 暗茶褐色土 ローム粒・ローム微粒やや少量、ロームブロック・今市バミス粒・七本板バミス微粒が少量混入。しまりやや高む。粘性やや高む。

SK-274 土層説明

1 暗黄褐色土 ローム粒やや少量、ロームブロックが混入。しまりやや欠く。粘性欠く。

SK-276 土層説明

1 暗茶褐色土 ロームブロックやや少量、ローム微粒が少量混入。しまり欠く。粘性欠く。

SK-278 土層説明

1 茶褐色土 ローム粒・ローム微粒やや少量、ロームブロックが混入。しまりやや欠く。粘性欠く。

SK-288 土層説明

1 黒色土 ローム微粒やや少量、今市バミス粒・今市バミス微粒・七本板バミス粒が少量混入。しまりやや高む。粘性やや欠く。

SK-307 土層説明

1 暗黄褐色土 ローム粒多量、ロームブロック・ローム微粒が混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。

SK-309 土層説明

1 暗褐色度土 ローム粒・ローム微粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。

SK-315 土層説明

1 暗褐色土 ロームブロック・今市バミス粒・七本板バミス粒やや少量、炭化物粒が混入。しまりやや欠く。粘性欠く。

SK-321 土層説明

1 暗茶褐色土 ローム粒やや多量、ロームブロックやや少量、ローム微粒が混入。しまりやや欠く。粘性欠く。

SK-325 土層説明

1 暗茶褐色土 ローム粒やや少量、ローム微粒少量、ロームブロックが混入。しまりやや欠く。粘性欠く。

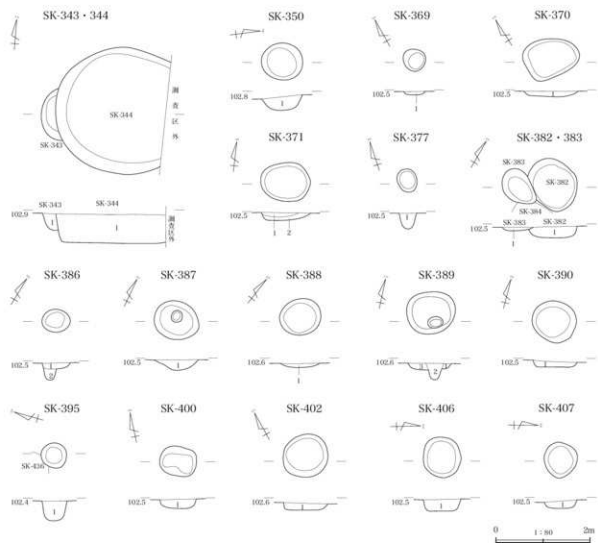
SK-326 土層説明

1 暗黄褐色土 ローム微粒・七本板バミス粒やや少量、今市バミス粒少量、ローム粒が混入。しまり高む。粘性欠く。

SK-328 土層説明

1 暗黄褐色土 ローム微粒やや多量、ローム粒やや少量、ロームブロックが混入。しまり高む。粘性やや高む。

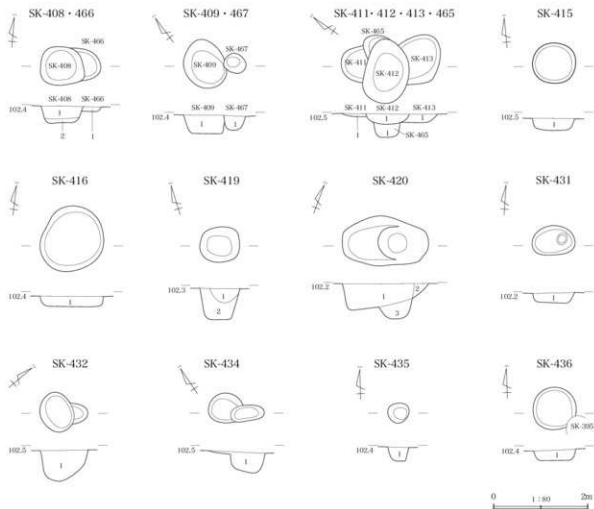
第222図 北ノ内遺跡 SK実測図(15)



- SK-343 土層説明
1 黄褐色土 ローム微粒・今市パミス微粒が少量混入。
- SK-344 土層説明
1 黒色土 ローム微粒・七本板パミス微粒が少量混入。
- SK-350 土層説明
1 黄褐色土 ローム粒少量、ローム微粒が混入。しまりやや富む。粘性欠く。
- SK-369 土層説明
1 黒褐色土 ローム粒やや少量、ローム微粒が混入。しまり富む。粘性やや富む。
- SK-370 土層説明
1 黒褐色土 ロームブロック・七本板パミスブロックやや少量、ローム粒・七本板パミス微粒が混入。しまり富む。粘性やや富む。
- SK-371 土層説明
1 粘黄褐色土 ロームブロック多量、ローム粒がやや多量混入。しまりやや富む。粘性富む。
- 2 黄褐色土 ローム粒が多量混入。
- SK-377 土層説明
1 粘褐色土 今市パミス微粒少量、ローム粒・ローム微粒が混入。しまりやや富む。粘性富む。
- SK-382 土層説明
1 粘黄褐色土 ローム粒多量、今市パミス粒少量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。
- SK-383 土層説明
1 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
- SK-386 土層説明
1 黒色土 ローム粒やや少量、今市パミス粒少量、ローム微粒が混入。しまりやや富む。粘性富む。
- 2 粘黄褐色土 ロームブロックやや少量、ローム粒が混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。
- SK-387 土層説明
1 粘黄褐色土 ローム粒やや多量、今市パミスブロック少量、ロームブロックが混入。しまりやや富む。粘性やや富む。

- SK-388 土層説明
1 黒褐色土 今市パミスブロック・今市パミス粒やや少量、ロームブロック・ローム粒・ローム微粒が混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- SK-389 土層説明
1 黒褐色土 今市パミスブロック・今市パミス粒やや少量、ロームブロック・ローム粒・ローム微粒が混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- 2 粘褐色土 ローム微粒が少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
- 3 粘黄褐色土 七本板パミス微粒やや少量、今市パミス粒・今市パミス微粒少量、七本板パミス粒が混入。しまり富む。粘性やや富む。
- SK-390 土層説明
1 黒褐色土 今市パミスブロック・今市パミス粒やや少量、ロームブロック・ローム粒・ローム微粒が混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- SK-395 土層説明
1 黒褐色土 ロームブロックやや多量、ローム微粒やや少量、今市パミスブロック・今市パミス粒少量、ローム粒が混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- SK-400 土層説明
1 粘黄褐色土 今市パミス微粒やや少量、ローム微粒・七本板パミス粒・七本板パミス微粒が少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
- SK-402 土層説明
1 黒褐色土 ロームブロック・今市パミス粒やや少量、ローム粒が混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
- SK-406 土層説明
1 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒やや少量、ローム微粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。
- SK-407 土層説明
1 黒褐色土 ローム粒やや少量、ロームブロックが混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。

第 223 図 北ノ内遺跡 SK 実測図 (16)



SK-408 土坑説明

1 黒褐色土 今市バミス微粒・七本板バミス粒・七本板バミス微粒少量、ローム微粒が混入。しまりや中富む。粘性やや高む。

2 黄褐色土 ロームブロックがやや多量混入。しまりや中富む。粘性やや高む。

SK-409 土坑説明

1 暗褐色土 ローム粒・ローム微粒やや少量、七本板バミス粒が少量混入。しまりや中富む。粘性高む。

SK-407 土坑説明

1 黒褐色土 ローム微粒が少量混入。しまりや中富む。粘性やや高む。

SK-411 土坑説明

1 黒褐色土 ローム微粒少量、ローム粒が混入。しまりや中富む。粘性やや高む。

SK-412 土坑説明

1 暗褐色土 ロームブロックのやや少量、七本板バミス微粒・炭化物ブロック・炭化物粒少量、ローム粒が混入。しまりや中富む。粘性やや高む。

SK-413 土坑説明

1 暗褐色土 ローム粒のやや少量、今市バミス粒少量、ロームブロックが混入。しまりや中富む。粘性やや高む。

SK-465 土坑説明

1 暗褐色土 ローム粒のやや少量、今市バミス粒のやや少量、炭化物ブロック・炭化物粒少量、ロームブロックが混入。しまりや中富む。粘性高む。

SK-415 土坑説明

1 暗褐色土 ローム粒のやや少量、ロームブロックが少量混入。しまりや中富む。粘性やや高む。

SK-416 土坑説明

1 黒褐色土 今市バミス粒・七本板バミス微粒が少量混入。しまりや中富む。粘性やや高む。

SK-419 土坑説明

1 黒色土 ローム微粒・今市バミス微粒・炭化物微粒が少量混入。しまりや中富む。粘性やや高む。

2 暗黄褐色土 ローム粒のやや少量、今市バミス微粒少量、ロームブロックが混入。しまりや中富む。粘性やや高む。

SK-420 土坑説明

1 暗黄褐色土 今市バミス微粒のやや少量、今市バミス粒・七本板バミス粒・七本板バミス微粒が少量混入。しまりや中富む。粘性やや高む。

2 黒褐色土 ローム微粒・今市バミス粒が少量混入。しまりや中富む。粘性高む。

3 暗灰褐色土 今市バミス粒・七本板バミス微粒のやや少量、七本板バミス粒少量、今市バミス微粒が混入。しまりや中富む。粘性高む。

SK-431 土坑説明

1 暗褐色土 ロームブロックのやや少量、今市バミス粒少量、ローム粒が混入。しまりや中富む。粘性やや高む。

SK-432 土坑説明

1 暗褐色土 七本板バミス微粒のやや少量、ローム微粒・今市バミス粒少量、ロームブロック・ローム粒・今市バミス粒が少量混入。しまりや中富む。粘性やや高む。

SK-434 土坑説明

1 暗褐色土 今市バミスブロック・今市バミス粒のやや少量、ロームブロック・ローム粒が混入。しまりや中富む。粘性やや高む。

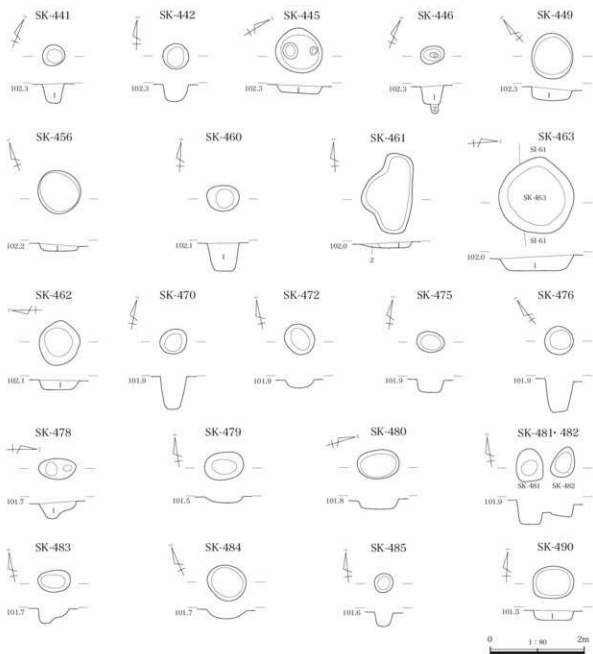
SK-435 土坑説明

1 黒褐色土 ロームブロックのやや少量、ローム微粒のやや少量、今市バミスブロック・今市バミス粒少量、ローム粒が混入。しまりや中富む。粘性やや高む。

SK-436 土坑説明

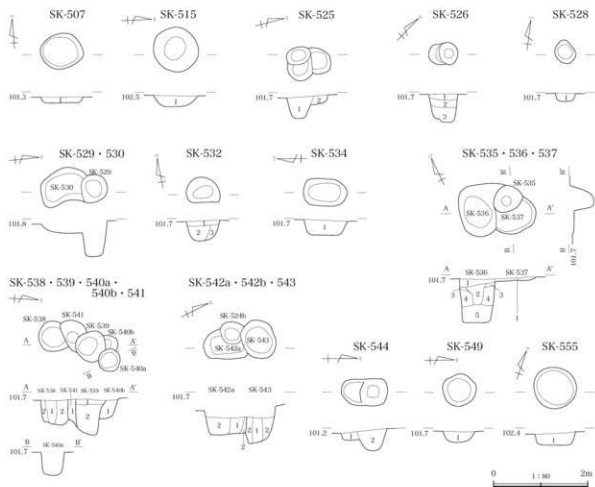
1 黒褐色土 ローム粒・ローム微粒・今市バミス微粒のやや少量、今市バミス粒少量、ロームブロックが混入。しまりや中富む。粘性やや高む。

第224図 北ノ内遺跡 SK実測図(17)



- SK-441 土層説明
1 黒褐色土 ロームブロックやや多量、ローム微粒やや少量、今市パミス
ブロック・今市パミス粒少量、ローム粒が混入。しまりやや高む。
粘性やや欠く。
- SK-442 土層説明
1 黒褐色土 ロームブロックやや多量、ローム微粒やや少量、今市パミス
ブロック・今市パミス粒少量、ローム粒が混入。しまりやや高む。
粘性やや欠く。
- SK-445 土層説明
1 黒褐色土 ローム粒・ローム微粒・今市パミス微粒やや少量、今市パミス
粒少量、ロームブロックが混入。しまりやや高む。粘性やや高む。
- SK-446 土層説明
1 黒褐色土 ローム微粒やや多量、ローム粒が混入。しまりやや高む。粘性
やや高む。
- SK-449 土層説明
1 黒褐色土 ロームブロック多量、ローム粒・黒土ブロックが混入。しま
り高む。粘性高む。
- SK-456 土層説明
1 黒褐色土 ローム粒・ローム微粒・今市パミス微粒やや少量、今市パミス
粒少量、ロームブロックが混入。しまりやや高む。粘性やや高む。
- SK-460 土層説明
1 黒褐色土 ロームブロックやや多量、ローム微粒が混入。しまりやや高む。粘性
やや高む。
- SK-461 土層説明
1 暗茶褐色土 ローム粒やや少量、ロームブロックが混入。しまり高む。粘性
やや高む。
- SK-463 土層説明
1 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒が混入。しまりやや欠く。粘性やや
高む。
- SK-462 土層説明
1 黒褐色土 ローム粒・ローム微粒・今市パミス微粒やや少量、今市パミス
粒少量、ロームブロックが混入。しまりやや高む。粘性やや高む。
- SK-470 土層説明
1 黒褐色土 ロームブロックやや多量、ローム粒が混入。しまりやや高む。粘性
やや高む。
- SK-472 土層説明
1 黒褐色土 ローム粒・ローム微粒・今市パミス微粒やや少量、今市パミス
粒少量、ロームブロックが混入。しまりやや高む。粘性やや高む。
- SK-475 土層説明
1 黒褐色土 ロームブロックやや多量、ローム微粒が混入。しまりやや高む。粘性
やや高む。
- SK-476 土層説明
1 黒褐色土 ロームブロックやや多量、ローム微粒が混入。しまりやや高む。粘性
やや高む。
- SK-478 土層説明
1 黒褐色土 ローム粒・ローム微粒・今市パミス微粒やや少量、今市パミス
粒少量、ロームブロックが混入。しまりやや高む。粘性やや高む。
- SK-479 土層説明
1 黒褐色土 ローム粒・ローム微粒・今市パミス微粒やや少量、今市パミス
粒少量、ロームブロックが混入。しまりやや高む。粘性やや高む。
- SK-480 土層説明
1 黒褐色土 ローム粒・灰色物ブロック・白色粘土ブロックやや少量、今市
パミス粒・今市パミス微粒・七本椏パミス粒・七本椏パミス微
粒が少量混入。しまりやや高む。粘性高む。
- SK-481・482 土層説明
1 黒褐色土 ローム粒・灰色物ブロック・白色粘土ブロックやや少量、今市
パミス粒・今市パミス微粒・七本椏パミス粒・七本椏パミス微
粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性やや高む。
- SK-483 土層説明
1 黒褐色土 ローム粒・ローム微粒・今市パミス微粒やや少量、今市パミス
粒少量、ロームブロックが混入。しまりやや高む。粘性やや高む。
- SK-484 土層説明
1 黒褐色土 ローム粒・ローム微粒・今市パミス微粒やや少量、今市パミス
粒少量、ロームブロックが混入。しまりやや高む。粘性やや高む。
- SK-485 土層説明
1 黒褐色土 七本椏パミス粒・七本椏パミス微粒が少量混入。しまりやや高む。
粘性やや高む。
- SK-490 土層説明
1 黒褐色土 七本椏パミス粒・七本椏パミス微粒が少量混入。しまりやや高む。
粘性やや高む。

第 225 図 北ノ内遺跡 SK 実測図 (18)



SK-507 土層説明

1 黒褐色土 七本椀パミス粒が少量混入。しまり欠く。

SK-515 土層説明

1 暗褐色土 ローム微粒・今市パミス粒・今市パミス微粒や少量、ローム粒が少量混入。しまり富む。粘性やや欠く。

SK-525 土層説明

1 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。
2 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。

SK-526 土層説明

1 黒色土 ロームブロック・七本椀パミスブロック・ローム粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。
2 黄褐色土 ローム主体層。黒色土が少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。

SK-528 土層説明

1 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。
2 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒がやや多量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。

SK-532 土層説明

1 暗褐色土 ローム粒がやや多量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
2 黒褐色土 ローム粒少量。七本椀パミス粒が微量混入。しまり欠く。粘性やや富む。

SK-534 土層説明

1 黒褐色土 ロームブロック・今市パミス粒・七本椀パミスブロックが少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。きめ細かい。粘質土。
2 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒が少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。

SK-538 土層説明

1 黄褐色土 ロームブロックや少量。炭化物粒が微量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。
2 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒が少量混入。七本椀パミスブロックが微量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。

SK-539 土層説明

1 黒褐色土 ローム粒少量。七本椀パミス粒が微量混入。しまり欠く。粘性やや富む。
2 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒が少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。

SK-542a・542b・543 土層説明

1 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。
2 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性やや富む。

SK-537 土層説明

1 黒褐色土 ローム粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性欠く。

SK-538 土層説明

1 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒少量。今市パミス粒が微量混入。しまり欠く。粘性やや富む。
2 暗黄褐色土 ロームブロック・ローム粒がやや多量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。

SK-539 土層説明

1 暗褐色土 ローム粒が少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。
2 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒・今市パミス粒が少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。

SK-540b 土層説明

1 暗黄褐色土 ロームブロック・ローム粒がやや多量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。

SK-541 土層説明

1 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒が少量。きめ細かい。粘質土に混入。しまりやや富む。粘性やや富む。

SK-542a 土層説明

1 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒・七本椀パミスが少量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。
2 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒・今市パミス・七本椀パミスが少量混入。しまりやや富む。粘性やや欠く。

SK-543 土層説明

1 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒・七本椀パミスが少量混入。きめ細かい。粘質土。しまりやや富む。粘性やや富む。
2 暗黄褐色土 ロームブロック・ローム粒・今市パミス・七本椀パミスがやや多量混入。しまりやや富む。粘性やや富む。

SK-544 土層説明

1 黒褐色土 今市パミスブロック・七本椀パミスブロックが少量混入。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
2 黒褐色土 今市パミスブロック・七本椀パミスブロックが少量混入。きめ細かい。粘質土。しまり富む。粘性やや富む。

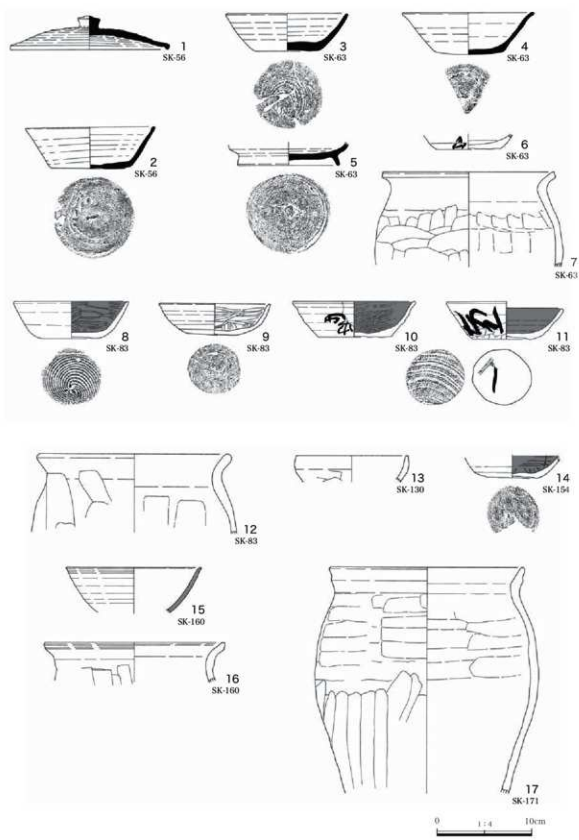
SK-549 土層説明

1 黄褐色土 ロームブロック・白色粘土ブロック主体。しまりやや欠く。粘性やや富む。

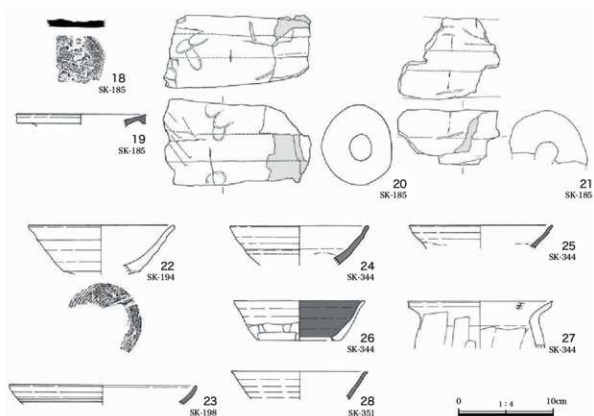
SK-555 土層説明

1 黒褐色土 ローム粒・ローム微粒・今市パミス微粒や少量。今市パミス粒少量。ロームブロックが混入。しまりやや富む。粘性やや富む。

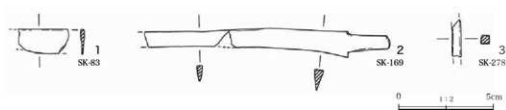
第226図 北ノ内遺跡 SK実測図(19)



第227図 北ノ内遺跡 SK出土遺物(1)



第228図 北ノ内遺跡 SK出土遺物(2)



第229図 北ノ内遺跡 SK出土鉄製品

SK-185からは灰軸陶器壺とフイゴ羽口、SK-198からは、灰軸陶器碗、SK-344からは黒笹90窯型式の灰軸陶器碗と体部下端を2段にヘラケズリした土師器環、SK-351からは灰軸陶器碗が出土している。22はSK-194出土で、ロクロ目の強いおおぶりの土師器環である。底部外面は粗い糸切りで、外縁部に残る粘土も調整せず粗い作りである。

鉄製品は刀子と棒状鉄製品が出土している。

第91表 北ノ内遺跡 SK出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 蓋	幅径: 2.3 口径: 16.6 器高: 3.6	砂粒、小礫	内: 天井～基部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、天井 部回転ヘラケズリ、掴み 貼付後ロクロナデ	内: 灰色 外: 暗オリーブ灰色 ・良	口縁部 7/12		SK-56
2	須恵器 坏	口径: 13.6 底径: 8.0 器高: 4.4	砂粒、小礫	内: 口縁～底部ロクロナデ 外: 口縁～体部ロクロナデ、 底部回転ヘラ切り後ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	4/5	底部周縁軽いなデ。	SK-56
3	須恵器 坏	口径: 12.8 底径: 6.4 器高: 4.0	砂粒、小礫	内: 口縁～底部ロクロナデ 外: 口縁～体部ロクロナ デ、底部回転糸切り	内: 灰色 外: 灰色 ・良	4/5		SK-63 覆土
4	須恵器 坏	口径: (13.8) 底径: (7.3) 器高: 4.5	砂粒、小礫	内: 口縁～底部ロクロナデ 外: 口縁～体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り	内: 灰オリーブ色 外: 灰オリーブ色 ・良	1/10	底部外面にヘラ記号 「×」。	SK-63 覆土
5	須恵器 高台坏	口径: - 底径: 10.6 器高: (2.5)	砂粒多量、 小礫少量	内: 体～底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、底部 回転ヘラ切り後ナデ、後 付高台後ナデ	内: 青灰色 外: 青灰色 ・良	底部完存	大形。断面セピア色。	SK-63 覆土
6	土師器 坏	口径: - 底径: (6.8) 器高: (1.5)	砂粒	内: 体～底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、底部 回転ヘラケズリ	内: 灰黄色 外: 灰黄色 ・良	体～底部 1/8	体部外面に墨書。判読 不能。	SK-63 覆土
7	土師器 甕	口径: (18.0) 底径: - 器高: (9.9)	黒色粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 横位ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 縦位後横位ヘラケズリ	内: 浅黄褐色 外: 浅黄褐色 ・良	口縁～胴 部上半 1/5		SK-63 覆土
8	土師器 坏	口径: 12.0 底径: 6.0 器高: 3.9	黒色粒・砂 粒少量	内: 口縁部ロクロナデ後粗 いヘラミガキ、体～底部 ヘラミガキ 外: 口縁～体部ロクロナ デ、底部回転糸切り	内: 黒色 外: にぶい褐色 ・良	2/3 底部完存	内面黒色処理。	SK-83
9	土師器 坏	口径: 11.6 底径: 5.3 器高: 3.3 重量: 115.0g	透明粒・砂 粒多量、黒 色粒少量	内: 口縁～体部内面横位・底 部唯一定方向ヘラミガキ 外: 口縁部ロクロナデ、体部 下端二段のヘラケズリ、底 部回転ヘラケズリ	内: 黒色 外: 暗灰黄色 ・良	ほぼ完形	内面黒色処理。	SK-83 覆土 内面刺繍
10	土師器 坏	口径: (12.8) 底径: 7.6 器高: 3.7	砂粒	内: 口縁～底部ヘラミガキ 外: 口縁～体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り	内: 黒色 外: 褐色 ・良	口縁～体 部 1/6 底部 1/2	体部外面に墨書「忠」か。 内面黒色処理。	SK-83 覆土
11	土師器 坏	口径: 12.2 底径: 6.3 器高: 3.8	透明粒、砂 粒	内: 口縁～底部ロクロナデ 外: 口縁部ロクロナデ、体 部下端手持ちヘラケズリ、 底部静止糸切り	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	9/10	体部外面に墨書。内面 黒色処理。外面黒色物 付き。全体に歪みあり。	SK-83
12	土師器 甕	口径: (20.0) 底径: - 器高: (8.3)	黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内: にぶい褐色 外: にぶい褐色 ・良	口縁～胴 部上半 1/5		SK-83 覆土
13	土師器 坏	口径: (11.6) 底径: - 器高: (2.8)	微砂粒、砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ、体～ 底部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、体～ 底部ヘラケズリ	内: 褐色 外: 褐色 ・良	口縁部 1/6		SK-130 覆土
14	土師器 坏	口径: - 底径: 5.4 器高: (2.5)	透明粒、砂 粒	内: 体部内面横位・底部一 定方向後門を細くように ヘラミガキ 外: 体部ロクロナデ、体部 下端回転ヘラケズリ、底 部回転ヘラケズリ	内: 黒色 外: 灰白色 ・良	底部 3/4	底部は僅かに上げ成風。 内面黒色処理。	SK-154 覆土
15	灰輪陶器 碗	口径: (14.2) 底径: - 器高: (4.8)	黒色粒	内: 口縁～体部ロクロナデ 外: 口縁～体部ロクロナデ	内: 灰白色 外: 灰白色 ・良	口縁～体 部 1/12	内面輪刷毛塗りか。	SK-160 覆土 協投産。 黒底 90 型式

16	土師器 甕	口径:(18.8) 底径:一 器高:(4.3)	黒色粒、透明粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/11	口縁部外面に凹面を作る。	SK-160 覆土
17	土師器 甕	口径:(20.0) 底径:一 器高:(23.8)	砂粒・小礫少量	内:口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部上半横位ヘラナデ、下半縦位ヘラケズリ	内:にぶい褐色 外:にぶい褐色 ・良	口縁〜胴部 1/3	胴部外面に積み上げ痕を残す。	SK-171
18	須恵器 環	口径:一 底径:(9.2) 器高:(0.7)	黒色粒、砂粒	内:底部ロクロナデ 外:底部ヘラ切り後ナデ	内:灰白色 外:灰白色 ・良	底部1/3	底部外面にヘラ記号。	SK-185 覆土
19	灰釉陶器 壺	口径:(13.6) 底径:一 器高:(1.3)	黒色粒、砂粒	内:口縁部ロクロナデ 外:口縁部ロクロナデ	内:灰オリーブ色 外:灰オリーブ色 ・良	口縁部 1/12	内外面施釉。	SK-185 覆土 小片
20	土製品 輪切口	口径:一 底径:一 器高:(16.1) 重量:733.24g	砂粒、小礫	外:ナデ	内:褐色 外:褐色 ・良	先端から 中位	先端が融解し、ガラス質浄化している。	SK-185 覆土 二次焼熟
21	土製品 輪切口	口径:一 底径:一 器高:(10.6) 重量:767.96g	透明粒・砂粒少量、黒色粒微量	外:調整不明瞭	内:褐色 外:にぶい褐色 ・不良	中位破片	同一個体の可能性がある破片先端が融解し、ガラス質浄化している。	SK-185 覆土 二次焼熟
22	土師器 環	口径:(15.4) 底径:(一) 器高:(5.1)	雲母、微砂粒、砂粒	内:口縁〜底部ロクロナデ 外:口縁〜底部ロクロナデ、底部糸切り離しは静止糸切りか。	内:黄褐色 外:明褐色 ・良	口縁〜底部 1/2 底部1/4	底部は一度に切り離せず、複数(2-3)回実施している。	SK-194 覆土
23	灰釉陶器 碗	口径:(19.6) 底径:一 器高:(2.0)	黒色粒微量	内:口縁〜体部ロクロナデ 外:口縁〜体部ロクロナデ	内:灰黄色 外:灰黄色 ・良	口縁部 1/18	内外面施釉。	SK-198 小片
24	灰釉陶器 碗	口径:(14.4) 底径:(一) 器高:(4.2)	黒色粒、砂粒	内:口縁〜体部ロクロナデ 外:口縁〜体部ロクロナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	口縁〜体部 1/8	内外面施釉。刷毛塗り。釉質悪い。	SK-344 小片
25	灰釉陶器 碗	口径:(15.0) 底径:一 器高:(2.4)	砂粒	内:口縁〜体部ロクロナデ 外:口縁〜体部ロクロナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	口縁〜体部 1/8	内外面施釉。刷毛塗り。	SK-344 東濃産か、 小片
26	土師器 環	口径:(13.8) 底径:(8.8) 器高:4.2	ガラス光沢 黒色粒、砂粒	内:口縁〜底部ロクロナデ 外:口縁〜体部ロクロナデ、体部下端手持ちヘラケズリ、底部ヘラケズリ	内:黒色 外:にぶい黄褐色 ・良	1/8	内面黒色処理。	SK-344
27	土師器 甕	口径:(15.0) 底径:一 器高:(5.0)	ガラス光沢 黒色粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	内:浅黄褐色 外:浅黄褐色 ・良	口縁〜胴部 上半 1/3	口縁部外面に凹面を作る。口縁部内面にヘラ記号あり。	SK-344
28	灰釉陶器 碗	口径:(14.0) 底径:一 器高:(3.0)	黒色粒、砂粒	内:口縁〜体部ロクロナデ 外:口縁〜体部ロクロナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	口縁〜体部 1/8	内外面施釉。	SK-351

第92表 北ノ内遺跡 SK出土鉄製品観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	刀子	長さ:(2.6) 厚さ:一 重量:2.00g	刃部の一部分。棟の最大幅は2mm程度で、角棟・平造である。	刃部破片	SK-83 覆土
2	刀子	長さ:(13.0) 厚さ:一 重量:17.50g	刃部の先端と中ほどを欠く。刃部は中程から区付近にかけてやや反る。棟の最大幅は4mm程度で、角棟・平造である。区は両区で、棟側が2mm、刃側が3mm程度の段を持つ。茎部が短い。	刃部先端欠損	SK-169 覆土
3	棒状鉄製 品	長さ:(2.0) 厚さ:0.4 重量:1.39g	短軸断面が台形状をなす。長軸方向に僅かに曲がる。残存部の厚さはほぼ均一で、先削りはみられない。両端部を欠く。	両端部欠損	SK-278

第IV章 北ノ内遺跡の2次調査

第1節 調査区の概要（第230～232図）

北ノ内遺跡の2次調査区は、小貝川左岸の八満山地から緩やかに続く丘陵端に位置し、第III章で述べた北ノ内遺跡の調査区の北150mに位置する。第1章第2節でも述べたが、北ノ内遺跡と北ノ内遺跡2次調査区は距離が離れているだけでなく、間に谷と遺構希薄地を挟むことから、本報告書では分けて報告している。

調査区西側は河岸段丘崖となり比高差約3mで小貝川の河床となる。調査区北側約60mと南側約30mには小貝川と直行する方向に小枝谷が入り込んでおり、約180×150mの舌状に張り出した部分が安定的に土地利用できる部分であり、遺跡はこの範囲に広がっていると考えられる。また、遺構検出面では調査区内の西部および南部で谷を埋めた黒色土上で遺構が検出されており、浸食と堆積が繰り返された上に遺跡が立地していることがわかる。調査前の状況は水田であり、田面の標高は約99.9～100.8mで、小貝川に向かって傾斜している。付近の小貝川河床の標高は約96.3mである。調査区の面積は3,750㎡である。

遺構検出面の標高は約98.3～100.8mである。田面からの深さは丘陵寄りの高いところで浅く約0.2～0.4m、小貝川側ではやや深く約0.3～1.0mである。谷埋土の黒色土上では検出が難しく、検出面が下がる傾向にある。調査区内の基本層序は、①黒褐色土（耕土・床土）20～40cm、②暗黄褐色土（整地土）23～35cm、③暗灰褐色～黒色土（谷埋土）16～47cm、④ロームとなる。調査区北東寄りでは①・②層直下にローム層がみられその上面が遺構検出面となり、調査区西部及び南部では③層上面が検出面となる。北東部のローム面は整地による削平を強く受け、遺構の遺存状態はよくない。遺跡は本来東側に広がっていたはずであるが、削平されている可能性が高い。また、③層谷埋土は強く締まっている。

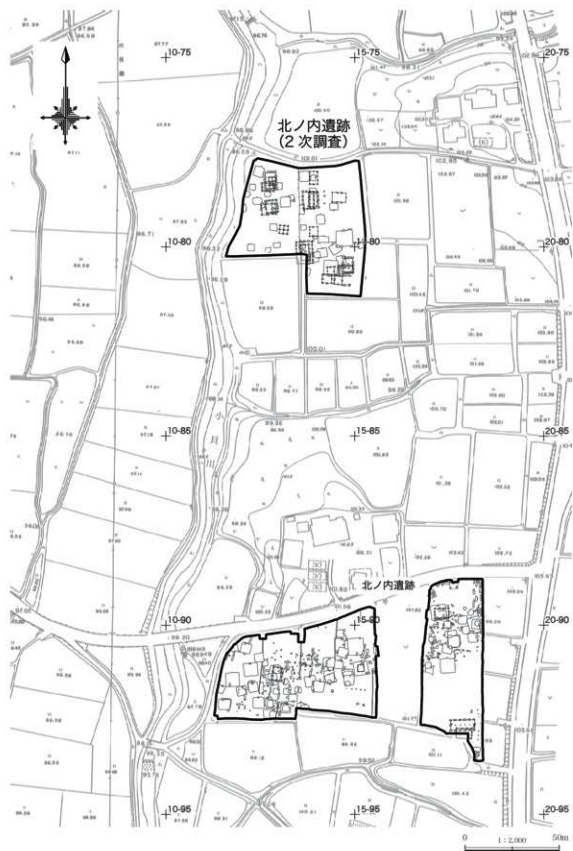
調査の結果、掘立柱建物跡18棟、竪穴建物跡33軒、土坑18基が確認された。

時期別では、古墳時代の竪穴建物跡7軒、奈良・平安時代の掘立柱建物跡18棟、竪穴建物跡20軒、時期不明の竪穴建物跡6軒である。

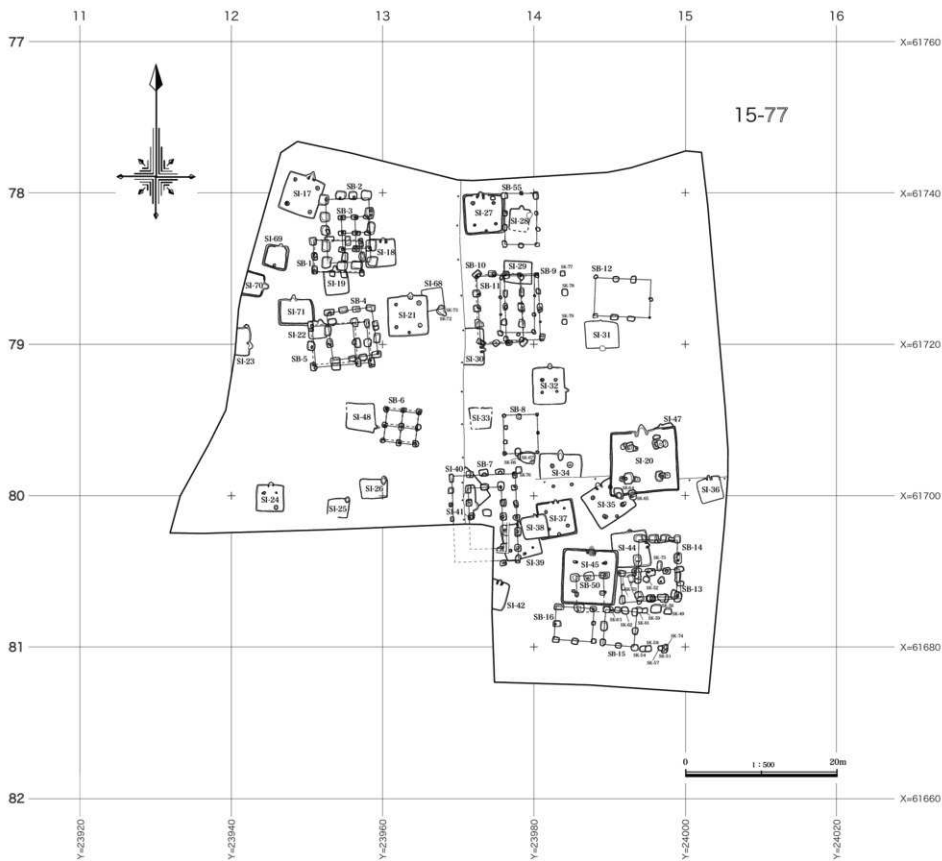
出土遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、鉄製品、石製品である。



第230図 北ノ内遺跡（2次調査）の基本層序模式図（グリッド12-79付近）



第 231 図 北ノ内遺跡 (2次調査) 調査区位置図 (S = 1/2,000)



第232図 北ノ内遺跡(2次調査)全体図(S=1/500)

第2節 古墳時代の遺構と遺物

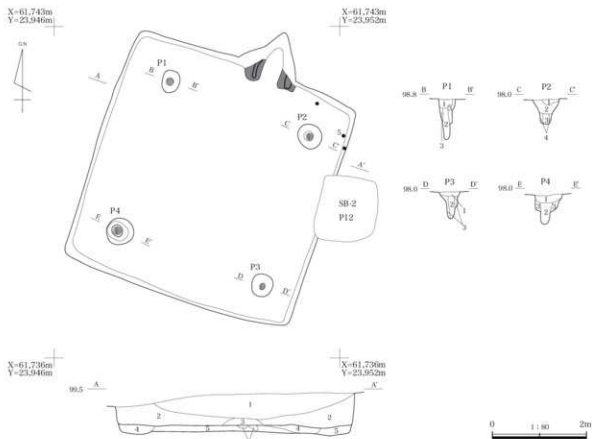
竪穴建物跡と出土遺物

SI-17 (第233～235図、第93表、図版三五・四四)

調査区北西部の12-77グリッドに位置する。奈良・平安時代の掘立柱建物跡SB-2によって東壁の一部を壊されている。また谷埋土の黒色土上に構築されている。

平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約5.32m、東西約5.27mで、面積は約28.0㎡である。主軸の振れはN-21°-Eである。

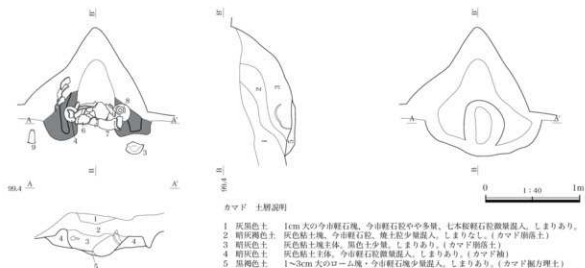
埋土は黒褐色および褐色を呈し、自然堆積と思われる。



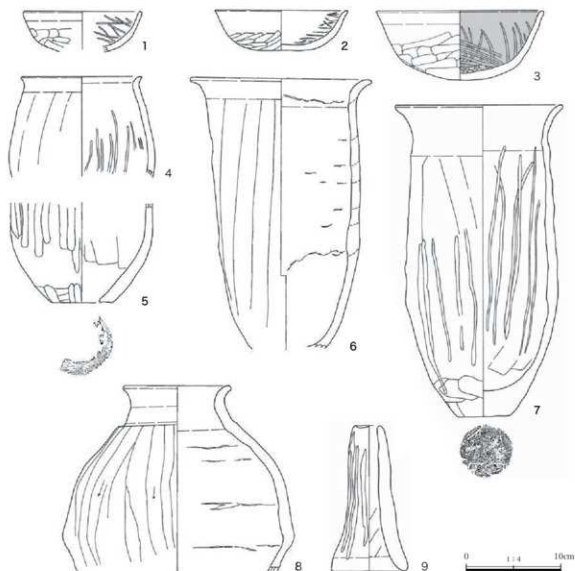
SI-17 土層説明

- | | | | |
|--------|---|--------|--|
| 1 黒褐色土 | 1~2mm 大の今市軽石粒・七本桜軽石粒若干混入。 | 3 黒褐色土 | 1~5cm 大の今市軽石塊・ローム塊や多量混入。しまりなし。(柱痕跡) |
| 2 黒褐色土 | 1mm 前後の今市軽石粒少量、2~3mm の七本桜軽石粒、10~20mm 大の今市軽石塊少量混入。 | 4 暗褐色土 | 1~5cm 大の今市軽石塊、今市軽石粒や多量混入。(柱痕跡) |
| 3 褐色土 | 灰白色粘土や多量混入。 | P3 | |
| 4 黒褐色土 | ブロック状の今市軽石粒多量混入。(掘方埋土) | 1 黒褐色土 | 今市軽石粒少量混入。しまりなし。(柱採取穴埋土) |
| 5 褐色土 | ブロック状の今市軽石粒多量混入。(掘方埋土) | 2 黒褐色土 | 今市軽石粒・ローム粒少量、1~3cm 大の今市軽石塊少量混入。しまりなし。(柱痕跡) |
| P1 | | 3 暗褐色土 | 1~5cm 大の今市軽石塊、今市軽石粒や多量混入。(柱掘方埋土) |
| 1 黒褐色土 | 今市軽石粒少量混入。しまりなし。 | P4 | |
| 2 黒褐色土 | 1~5cm 大の今市軽石塊・ローム塊、今市軽石粒・ローム粒少量混入。(柱採取穴埋土) | 1 黒褐色土 | 1~5cm 大の今市軽石塊・ローム塊、今市軽石粒・ローム粒少量混入。しまりなし。(柱採取穴埋土) |
| 3 暗褐色土 | 1~5cm 大の今市軽石塊、今市軽石粒や多量混入。(掘方埋土) | 2 黒褐色土 | 1~5cm 大の今市軽石塊、ローム塊や多量混入。しまりなし。(柱痕跡) |
| P2 | | 3 暗褐色土 | 1~5cm 大の今市軽石塊、今市軽石粒や多量混入。(掘方埋土) |
| 1 黒褐色土 | 1~3cm 大の今市軽石塊・ローム塊、今市軽石粒・ローム粒少量混入。(柱採取穴埋土) | | |
| 2 黒褐色土 | 1~5cm 大の今市軽石塊・ローム塊、今市軽石粒・ローム粒少量混入。しまりなし。(柱採取穴埋土) | | |

第233図 北/内遺跡 (2次調査) SI-17実測図



第234図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-17カマド実測図



第235図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-17出土遺物

残存する壁の高さは、東壁 71.0cm、西壁 41.5cm、南壁 53.0cm、北壁 58.9cm で外傾して立ち上がる。床は掘方を黒褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約 12.0 ～ 20.0cm を測る。壁際溝は確認されていない。

柱穴は、主柱穴 P1 ～ 4 を確認した。規模は P1 : 50.0 × 36.0cm、深さ 85.0cm。P2 : 57.0 × 50.0cm、深さ 53.0cm。P3 : 56.0 × 52.0cm、深さ 56.0cm。P4 : 65.0 × 60.0cm、深さ 60.0cm である。4 本全ての柱穴で柱痕跡が確認できた。

カマドは北壁中央に構築され、暗灰色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅 36.0 ～ 38.0cm、長さ 16.0 ～ 19.0cm、高さ 12.0 ～ 18.0cm で、両袖間の幅は約 76.0cm である。カマド掘方は深さ 10.0cm で、北壁への突出は 86.0cm である。

遺物出土状況は、カマドと北東コーナーでまとまって出土している。

出土遺物は、土師器環 7 点 569g、土師器甕 302 点 15.517g、土師器壺 1 点 269g、土師器埴 6 点 180g、土師器手捏ね土器 1 点 123g、須恵器環 1 点 3g、支脚 2 点 596g、総量 321 点 18.653g と縄文式土器 1 点 13g、自然礫 283g が出土した。

土師器環は、1 は体外外面の稜が明瞭ではなく、2 は口縁が外反し平底である。9 は土製支脚で、中空で筒状である。建物跡の時期は、7 世紀後葉である。

第 93 表 北ノ内遺跡（2 次調査）S1-17 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 環	口径:(12.0) 底径:— 器高:(4.3)	砂粒	内:口縁部ヨコナデ後へラミガキ、体～底部へラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体～底部へラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	1/5	口縁部外面に積み上げ痕を残す。	小片
2	土師器 環	口径:(13.6) 底径:— 器高:4.3	砂粒、白色 針状物質	内:口縁部ヨコナデ後へラミガキ、体～底部へラナデ後粗いへラナデ 外:口縁部ヨコナデ、体～底部粗いへラナデ 外:口縁部ヨコナデ、体～底部粗いへラナデ	内:灰黄褐色 外:褐灰色 ・良	口縁部 1/12 底部 1/4		
3	土師器 環	口径:17.4 底径:— 器高:7.4	透明粒、砂 粒	内:口縁部ヨコナデ後へラミガキ、体～底部粗い幅広のへラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体～底部へラケズリ	内:灰黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/4 底部完存	大形。 内面塗仕上げ処理。	カマド内
4	土師器 甕	口径:(12.0) 底径:— 器高:(10.3)	黒色黄粒、 透明黄粒	内:口縁部ヨコナデ、胴部へラナデ後へラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、胴部へラケズリ	内:黒褐色 外:褐灰色 ・やや不良	口縁～胴 部 1/4	小形。	カマド内
5	土師器 甕	口径:— 底径:6.4 器高:10.5	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内:胴部へラナデ 外:胴部上半へラミガキ、 下半へラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	体～底部 1/2	単孔式。焼成段階で孔 周辺下半が剥離した痕 跡あり。	
6	土師器 甕	口径:19.0 底径:— 器高:(28.3)	砂粒・小礫 多量	内:口縁部ヨコナデ、胴部 へラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 へラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:暗褐色 ・良	底部欠損	内面に積み上げ痕を残 す。	カマド内
7	土師器 甕	口径:(17.6) 底径:5.5 器高:33.0	黒色粒、透 明粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ、胴～ 底部へラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴～ 底部へラケズリ後へラミ ガキ	内:にぶい黄褐色 外:褐色 ・やや不良	3/4	底部僅かに木葉痕あり。	カマド内
8	土師器 壺	口径:(11.0) 底径:— 器高:(19.6)	砂粒・小礫 多量	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 へラケズリ	内:黒色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁部最 大径を胴部中位にも つ。内面に積み上げ痕 を残す。	カマド内	
9	土師器 支脚	口径:2.6 底径:7.6 器高:15.4 重量:476.44g	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内:胴部ヨコナデ、底部ヨ コナデ 外:胴部ナデ後へラミガ キ、底部ヨコナデ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色～ 褐色 ・良	完形	縁口を転用か。	カマド内

SI-27 (第 236 ~ 238 図、第 94 表、図版三五)

調査区北部の13-78グリッドに位置する。東に奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-28が近接する。重複する奈良・平安時代の掘立柱建物跡SB-55によって東壁を壊されている。

平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約5.42m、東西約5.24mで、面積は約28.4㎡である。主軸の振れはN-5°-Wである。

埋土は黒褐色・黒色・暗赤褐色・暗褐色を呈する5層に別けられ、自然堆積と思われる。4・5層は壁際溝埋土である。

残存する壁の高さは、東壁64.8cm、西壁40.8cm、南壁76.2cm、北壁41.8cmで、垂直に近く立ち上がる。床は、褐色～黒褐色土で埋め戻し貼床とし、貼床の厚さは約4.0～28.0cmを測る。床面は平坦で、カマド前面に硬化面が形成されている。壁際溝を全周で確認し、幅12.0～26.0cm、深さ12.0cmである。

柱穴は、主柱穴P1～P4と梯子穴P5を確認した。規模はP1:47.0×42.0cm、深さ65.0cm、P2:38.0×35.0cm、深さ55.0cm、P3:35.0×33.0cm、深さ64.0cm、P4:40.0×29.0cm、深さ56.0cmである。4本全てで柱痕跡が確認された。梯子穴P5は南壁中央の壁に寄った位置で確認され、32.0×29.0cm、深さ22.0cmである。貯蔵穴P6を北東コーナーで確認した。規模は65.0×55.0cm、深さ24.0cmで底面は平坦である。

カマドは北壁の中央やや西寄りに構築され、白黄色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅30.0～34.0cm、長さ64.0cm、高さ約24.0cmで、両袖間の幅は約82.0cmである。カマド掘方は深さ8.0cmで、北壁への突出は39.0cmである。

出土遺物は、土師器環7点71g、土師器甕59点2.417g、土師器碗1点32g、須恵器環蓋1点62g、須恵器環2点19g、総量70点2.601gと自然礫11gが出土した。

建物跡の時期は、7世紀中葉～後葉である。

SI-35 (第 239・240 図、第 95 表、図版四四)

調査区南東部の14-79グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-20と重複し、北東コーナーを壊されている。またSK-64・65と重複する。

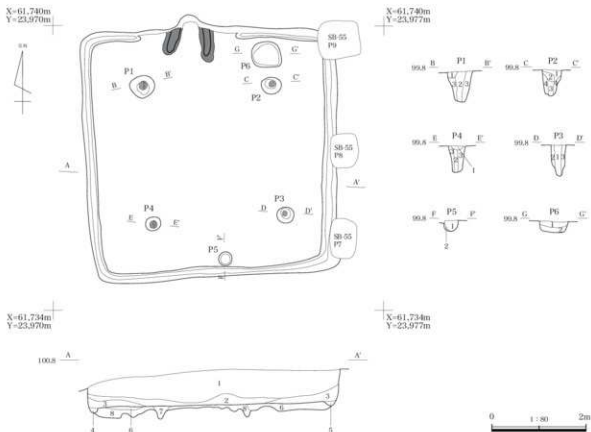
平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約5.28m、東西約5.12mで、面積は約27.0㎡である。主軸の振れはN-35°-Wである。

埋土は僅かで、褐色を呈する。

残存する壁の高さは、東壁15.4cm、西壁10.8cm、南壁19.7cm、北壁13.9cmで、外形して立ち上がる。床は、掘方を黄褐色土で埋め戻し貼床とし、貼床の厚さは約2.0～12.0cmを測る。壁際溝は確認されていない。

柱穴は、主柱穴P1～4と梯子穴P5を確認した。規模はP1:64.0×49.0cm、深さ69.0cm、P2:61.0×51.0cm、深さ55.0cm、P3:88.0×60.0cm、深さ64.0cm、P4:65.0×45.0cm、深さ55.0cmである。4本全てで柱痕跡が確認された。梯子穴P5は南壁中央の壁に寄った位置で確認され、45.0×40.0cm、深さ25.0cmである。

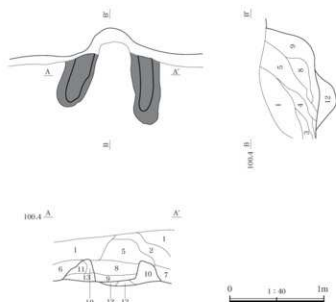
カマドは北壁中央に構築され、黄白色粘土で構築された両袖の痕跡が僅かに残存していた。幅12.0～26.0cm、長さ38.0～46.0cm、両袖間の幅は約62.0cmである。カマド掘方は深さ12.0cmで、北壁への突出は39.0cmである。2層は被熱赤化しており、上面が火床部とみられる。



SI-27 土層説明

- 1 黒褐色土 今市軽石粒、七本桜軽石粒少量、ローム粒微量混入、しまりあり。
 2 黒色土 1~3cm 大のローム塊・ローム粒少量、1~5cm 大の黒色土塊、今市軽石粒、七本桜軽石粒やや多量混入、しまりなし。
 3 暗赤褐色土 1cm 大の今市軽石塊、今市軽石粒・七本桜軽石粒少量、しまりあり。
 4 暗褐色土 今市軽石塊・1~3cm 大のローム塊、今市軽石粒、ローム粒少量混入、しまりなし。(壁跡側)
 5 暗褐色土 今市軽石粒、ローム粒やや多量混入、しまりなし。(壁跡側)
 6 褐色土 今市軽石塊、1~3cm 大のローム塊少量混入、しまりあり。(堀跡)
 7 暗褐色土 ローム塊、1~5cm 大の今市軽石塊やや多量混入、(堀床・堀方理土)
 8 黒色土 今市軽石塊、1~10cm 大のローム塊少量混入、しまりあり、(堀床・堀方理土)
- P1
 1 黒褐色土 ローム塊、1~3cm 大の白色粘土層、ローム粒、今市軽石粒少量混入、しまりあり。
 2 暗赤褐色土 ローム塊、1~3cm 大の今市軽石塊やや多量混入、しまりなし。(柱跡側)
 3 暗褐色土 ローム塊、1~20cm 大の今市軽石塊やや多量混入、しまりあり、(柱側方理土)
- P2
 1 黒褐色土 今市軽石粒、ローム粒少量混入、しまりあり。
 2 暗赤褐色土 ローム塊、1~3cm 大の今市軽石塊やや多量混入、しまりあり。
 3 暗赤褐色土 ローム塊、1~3cm 大の今市軽石塊やや多量混入、しまりなし。(柱跡側)
 4 暗褐色土 ローム塊、1~20cm 大の今市軽石塊やや多量混入、しまりあり、(柱側方理土)
- P3
 1 黒褐色土 1~3cm 大のローム塊、ローム粒少量混入、しまりなし。(柱跡側)
 2 暗褐色土 ローム塊、1~20cm 大の今市軽石塊やや多量混入、しまりあり、(柱側方理土)
- P4
 1 黒褐色土 今市軽石粒、ローム粒少量混入、しまりあり。
 2 暗赤褐色土 ローム塊、1~3cm 大の今市軽石塊やや多量混入、しまりなし。(柱跡側)
 3 暗褐色土 ローム塊、1~20cm 大の今市軽石塊やや多量混入、しまりあり、(柱側方理土)
- P5
 1 黒褐色土 今市軽石粒、ローム粒少量混入、しまりあり。
 2 暗赤褐色土
- P6
 1 黒褐色土 今市軽石粒、ローム粒少量混入、しまりあり。
 2 暗赤褐色土 ローム塊、1~3cm 大の今市軽石塊やや多量混入、しまりあり。

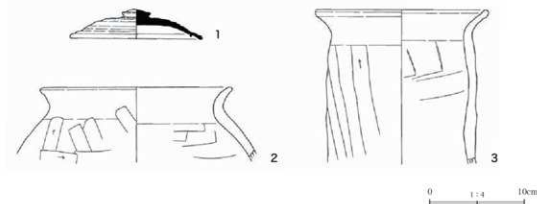
第236図 北/内遺跡(2次調査) SI-27実測図



カマド 土質説明

- 1 黒色土 ローム状、今赤野石粒、白色粘土粒少量混入。しりりあり。
- 2 黒褐色土 1~5cm 大の白黄色粘土少量混入。
- 3 灰褐色土 1~3cm 大の白色粘土塊や多量混入。1cm 大のローム塊少量混入。しりりあり。
- 4 黒褐色土 白色粘土、1~5cm 大の白黄色粘土少量混入。
- 5 白黄褐色土 白黄色粘土主体。1~5cm 大の白色粘土塊少量混入。しりりあり。(カマド崩落土)
- 6 灰白色土 1~5cm 大の白色粘土塊主体。1~3cm 大の黒色土塊少量混入。しりりあり。
- 7 褐色土 1~3cm 大のローム塊。今赤野石粒や多量混入。塊土粒少量混入。しりりあり。
- 8 赤褐色土 1~10cm 大の塊土塊主体。炭化粒、炭粒混入。しりりあり。(カマド天井崩落土)
- 9 暗灰色土 灰主体。炭化物粒少量混入。しりりなし。
- 10 白黄色土 白黄色粘土主体。1~3cm 大の白色粘土塊少量混入。しりりあり。(カマド土)
- 11 灰白色土 白色粘土主体。今赤野石粒、砂粒少量混入。しりりあり。(カマド土)
- 12 灰黒色土 3cm 大の今赤野石塊・ローム塊少量混入。砂質土。しりりなし。上部は部分的に炭酸化。(カマド側方土)
- 13 黒色土 今赤野石塊、1~5cm 大のローム塊や多量混入。炭層により扁平化する。灰黒色土は、きめ細かい粘質土。しりりあり。(カマド土)

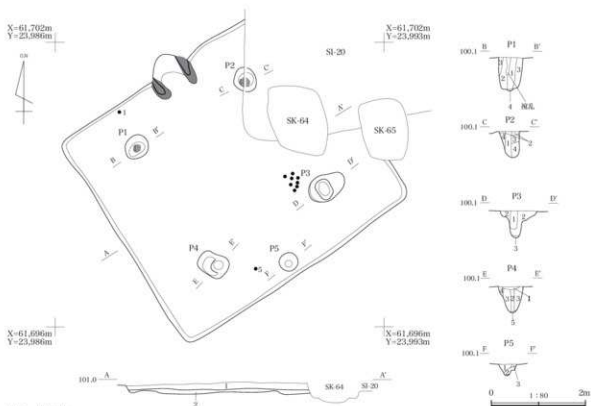
第 237 図 北ノ内道跡 (2次調査) SI-27 カマド実測図



第 238 図 北ノ内道跡 (2次調査) SI-27 出土遺物

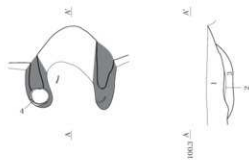
第 94 表 北ノ内道跡 (2次調査) SI-27 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏蓋	幅径: (2.6) 口径: (14.0) 器高: 3.1	黒色粒、砂 粒	内: 天井~喉部ロクロナ デ 外: 体部ロクロナデ、天 井部回転ヘラケズリ、摘 み貼付後ロクロナデ	内: 灰白色 外: 灰色 ・良	喉部 1/7 体部 1/3		
2	土師器 甕	口径: (19.8) 底径: 一 器高: (7.9)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい褐色 ・やや不良	口縁部 1/10		
3	土師器 甕	口径: (17.8) 底径: 一 器高: (16.2)	ガラス光沢 黒色粒・透 明粒・小礫 多量	内: 口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラケズリ	内: 黒褐色 外: 褐色 ・やや不良	口縁~ 胴部上 半 1/6		



SI-35 土層説明

- | | | | | |
|---------|---|--------|---|-----------------------|
| 1 褐色土 | ローム粒や多量、5~10mm 大の今市軽石塊・七本椀軽石粒 | P3 | 1 紫褐色土 | ローム粒、今市軽石粒や多量混入。(柱痕跡) |
| 2 黄褐色土 | ローム塊、ローム粒多量混入。(掘方埋土) | 2 褐色土 | 1~2mm 大の今市軽石粒多量、5cm 前後の白色粘土塊少量混入。(掘方埋土) | |
| P1 | 1 褐色土 | 3 褐色土 | 1~3mm 大のローム粒少量混入。たたきしめられるためローム塊は平偏化する。しまりあり。(あたり) | |
| 2 灰褐色土 | ローム粒多量、5~10mm 大のローム塊や多量混入。(柱痕跡) | P4 | 1 紫褐色土 | ローム粒、今市軽石粒微量混入。 |
| 3 褐色土 | ローム粒、白色粘土多量混入。(柱痕跡埋土) | 2 紫褐色土 | ローム粒、今市軽石粒や多量混入。(柱痕跡) | |
| 4 褐色土 | 1~3cm 大のローム塊・1mm 前後のローム粒多量混入。(掘方埋土) | 3 褐色土 | 1~2mm 大の今市軽石粒多量、5cm 前後の白色粘土塊少量混入。(掘方埋土) | |
| P2 | 1~3mm 大のローム粒少量混入。たたきしめられるためローム塊は平偏化する。しまりあり。(あたり) | 4 褐色土 | ローム粒・2~5mm 大の今市軽石粒少量混入。(掘方埋土) | |
| 1 黄白色土 | 1~20cm 大の黄白色粘土塊や多量、ローム塊、1~3cm 大の今市軽石塊少量混入。しまりあり。(柱痕跡) | 5 褐色土 | 1~3mm 大のローム粒少量混入。たたきしめられるためローム塊は平偏化する。しまりあり。(あたり) | |
| 2 黒褐色土 | 焼土塊、1cm 大の白色粘土塊少量混入。しまりあり。(掘方埋土) | P5 | 1 暗褐色土 | ローム粒、今市軽石粒微量混入。しまりなし。 |
| 3 暗黄褐色土 | 1~3cm 大のローム塊、ローム粒や多量、白色粘土、1cm 大の紫色土塊少量混入。(柱痕跡埋土) | 2 褐色土 | 1~3cm 大のローム塊、ローム粒少量混入。しまりなし。 | |
| 4 褐色土 | 1cm 大のローム塊、ローム粒や多量、白色粘土、1cm 大の黒紫色土塊少量混入。(掘方埋土) | 3 紫褐色土 | ローム塊、1~3cm 大の今市軽石塊少量混入。しまりあり。 | |



カマダ 土層説明

- | | |
|---------|---|
| 1 暗褐色土 | 1~10cm 大の黄白色粘土塊、1~10cm 大の焼土塊や多量、灰、炭化物少量混入。しまりあり。(人為的崩土、カマダ天井内壁、灰堆積の混合物) |
| 2 淡赤褐色土 | 3 層状断面。(灰床部) |
| 3 灰褐色土 | 1~3cm 大の黄白色粘土、1~3cm 大の焼土塊主体。しまりあり。(カマダ掘方埋土) |

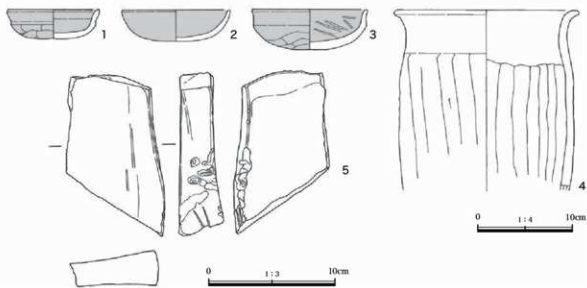
0 1:40 1m

第 239 図 北/内遺跡 (2 次調査) SI-35 実測図

出土遺物は、土師器環 15 点 340g、土師器甕 80 点 4,230g、砥石 1 点 395g、総量 96 点 4,965g と自然礫 40g が出土した。

土師器環は、半球形のもので、体部外面に稜をもち口縁が外反するものがある。ヘラミガキはほとんどみられない。1 は口縁内面端に沈線をもつ。

建物の時期は、7 世紀中葉である。



第 240 図 北ノ内遺跡 (2 次調査) SI-35 出土遺物

第 95 表 北ノ内遺跡 (2 次調査) SI-35 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 環	口径:(9.6) 底径:— 器高:3.1	砂粒	内:口縁部ヨコナデ、体〜 底部ナデ 外:口縁部ヨコナデ、体〜 底部ヘラケズリ	内:棕色 外:棕色 ・やや不良	1/2	小形。口縁部内 面に凹面を作る。 内外面漆仕上げ。	
2	土師器 環	口径:(11.2) 底径:— 器高:3.3	透明粒、砂 粒	内:口縁部ヨコナデ、体〜 底部ナデ 外:口縁部ヨコナデ、体〜 底部ヘラケズリか	内:灰黄褐色 外:にぶい棕色 ・やや不良	1/5	内外面漆仕上げか。	甕土 器表面剥落、 小片
3	土師器 環	口径:(12.0) 底径:— 器高:4.2	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内:口縁〜底部ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体〜 底部ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:浅黄褐色 ・良	口縁部 1/4 体〜底部 1/2	内外面漆仕上げか。	甕土 内外面摩滅
4	土師器 甕	口径:(18.8) 底径:— 器高:(19.0)	透明粒・砂 粒・小礫多 量	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内:にぶい褐色 外:にぶい褐色 ・やや不良	口縁〜胴 部上半の み		カマド
5	石製石 砥石	長軸:(11.8) 短軸:(7.5) 厚さ:2.8 重量:395.00g	粒子の粗い 砂岩		外:灰オリーブ色	上下端・ 片側面欠 損	板状。表面と片側面 が砥面。	

SI-37 (第 241 ~ 243 図、第 96 表、図版三五・四四)

調査区南東部の 14-80 グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-38 と重複し、西壁を壊されている。東西に古墳時代の竪穴建物跡 SI-35・38 が位置する。

平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約 4.88m、東西約 4.83m で、面積は約 23.6 ㎡である。主軸

の振れはN-10°-Wである。

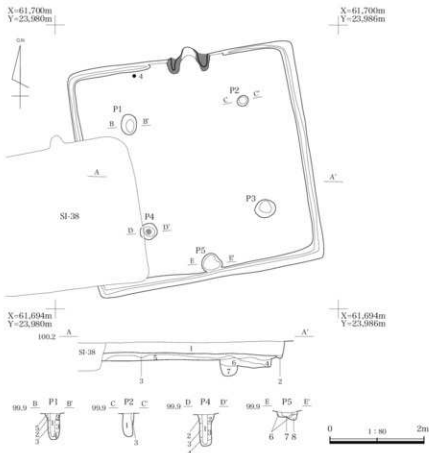
埋土は黒色土の単層で、ロームを多く含むことから人為堆積と思われる。残存する壁の高さは、東壁39.8cm、西壁28.6cm、南壁31.0cm、北壁28.0cmである。床は、掘方を厚く埋めて貼床とし、貼床の厚さは約16.0～44.0cmを測る。床面は平坦で、カマド前面に硬化面が形成されている。壁際溝を全周で確認し、幅10.0～28.0cm、深さ6.0cmである。

柱穴は、支柱穴P1～4と梯子穴P5を確認した。規模はP1:45.0×33.0cm、深さ56.0cm。P2:25.0×23.0cm、深さ51.0cm。P3:48.0×40.0cm。P4:37.0×35.0、深さ67.0cmである。P1・4で柱痕跡を確認した。梯子穴P5は南壁中央の壁に寄った位置で確認された。規模は55.0×37.0cm、深さ17.0cmである。

カマドは北壁中央に構築され、灰白色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅26.0～28.0cm、長さ24.0～34.0cm、高さ約18.0～22.0cmで、両袖間の幅は約62.0cmである。カマド掘方は深さ16.0cmで、北壁への突出は20.0cm。

出土遺物は、土師器環13点277g、土師器襖60点1.389g、土師器鉢3点166g、須恵器環蓋2点452g、須恵器環3点137g、須恵器襖4点136g、支脚2点550g、総量87点3.107gと自然礫15gが出土した。

須恵器環蓋は、益子原東窯3号もしくは1号窯段階で、8世紀中葉である。土師器環は体部外面に稜をもち口縁の外反するもので6世紀後葉。時期に大きな差がみられるが、建物



SI-37 土耕説明

- 1 黒色土 1mm大の赤色粒、2mm大のローム粒多量、3～5cm大のローム塊を散在的に少量混入。しまりあり。柔らかい。
- 2 黒色土 (埋積層) 2mm大のローム粒を均一に多量混入。しまりあり。柔らかい。
- 3 黄褐色土 黒色土を水平に上面と下面に1層形成し、その間にソフトロームを主体に5mm大の赤色粒、2mm大の白色粘土粒を多量混入。しまりあり。固い。(掘方)
- 4 黒色土 ハードローム塊、黒色土、1～2mm大のローム粒、5mm大の赤色粒の混合土。しまりあり。固い。(掘方埋土)
- 5 黄褐色土 ソフトローム中に1～2cm大の黒色土、1～2cm大の赤色土少量混入。しまりあり。固い。(掘方埋土)
- 6 黄褐色土 ソフトローム中に2mm大の黒色土粒少量混入。しまりあり。固い。
- 7 黄褐色土 ソフトローム中に茶色土少量混入。しまりあり。固い。(掘方埋土)

P1・2・4・5

- 1 黒色土 1mm大のローム粒・黒色土粒・ソフトローム多量混入。マーズル状に入る。しまりなし。柔らかい。(柱痕跡)
- 2 黄褐色土 黒色土少量混入。しまりあり。固い。
- 3 黄褐色土 黒色土多量混入。しまりあり。固い。(柱側方埋土)
- 4 黄褐色土 ハードロームとソフトロームの混合土。しまりあり。固い。(柱側方埋土)
- 5 黒色土 ソフトローム少量混入。しまりあり。固い。(柱側方埋土)
- 6 黄褐色土 1cm大の白色粘土塊、1mm大の赤色粒・黒色土粒を散在的に多量混入。しまりあり。固い。(柱側方埋土)
- 7 黒色土 0.5mm大のローム粒、1mm大の赤色粒を均一に多量混入。しまりなし。柔らかい。(柱側方埋土)
- 8 赤色土 黒色土少量混入。しまりあり。固い。(柱側方埋土)

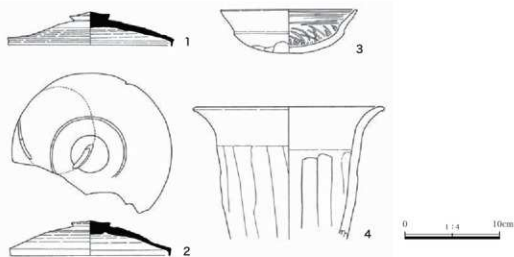
第241図 北/内遺跡 (2次調査)

SI-37 実測図

跡の規模、柱穴の特徴等からは古墳時代の建物跡とするのが妥当で、建物跡の時期は土師器環の時期をとって6世紀後葉とする。須恵器環蓋は同時期に掘り下げていた重複するSI-38の遺物が混入したのか。



第242図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-37カマダ実測図



第243図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-37出土遺物

第96表 北ノ内遺跡(2次調査) SI-37出土遺物観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環蓋	口径: 4.2 口径: 17.2 器高: 3.4	砂粒・小礫多量	内: 天井～基部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、天井部回転ヘラケズリ、組み貼付後ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色・良	4/5	僅かに歪みあり。天井部内面中央に指頭圧痕あり。	
2	須恵器 環蓋	口径: 4.0 口径: 16.8 器高: 3.7	黒色粒、砂粒	内: 天井～基部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、天井部回転ヘラケズリ、組み貼付後ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色・良	3/5	天井部内面中央に2指頭圧痕あり。天井部外面に化粧を残す。組み部に他器高台継着のまま構成。外面に自然釉と窯体片付着。	
3	土師器 環	口径:(14.4) 口径: — 器高: 4.6	黒色粒、透明粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ後横位ヘラミガキ、体部斜位・底部不定方向ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、体へ底部ヘラケズリ	内: 灰黄褐色 外: にぶい・黄褐色・良	1/4		
4	土師器 甕	口径:(19.0) 口径: — 器高:(14.0)	ガラス光沢黒色粒、透明粒、砂粒、小礫	内: 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	内: 灰褐色 外: にぶい・黄褐色・良	口縁～胴部上平 1/4	口縁部に最大径をもつ。	

SI-39 (第244～246図、第97表、図版三五・四四)

調査区南部の13-80グリッドに位置する。重複する奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-38によって北東コーナーを壊され、中央部・西壁・南壁は奈良・平安時代の掘立柱建物跡SB-7によって壊されている。

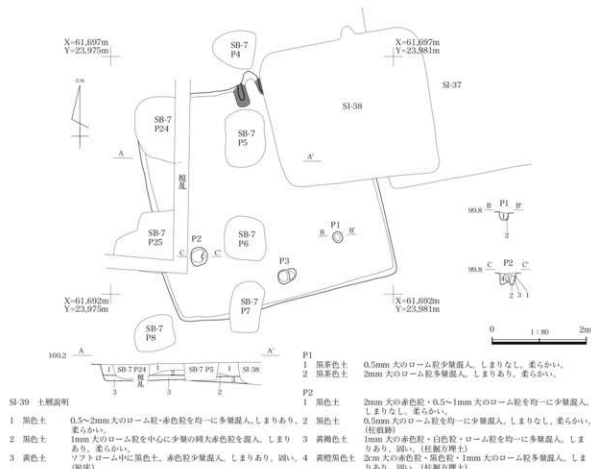
平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約4.90m、東西約4.71mで、面積は約23.0㎡である。主軸の振れはN-12°-Wである。

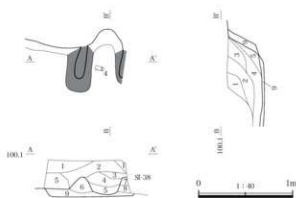
埋土は黒色土で、ロームを多量に含むことから人為堆積と思われる。残存する壁の高さは、東壁29.4cm、西壁26.5cm、南壁22.0cm、北壁30.5cmで、外傾して立ち上がる。床は、掘方を黄色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約8.0～16.0cmを測る。床面は平坦である。壁際溝は確認されていない。

柱穴は、主柱穴P1～2と梯子穴P3を確認した。規模はP1:28.0×24.0cm、深さ17.0cm、P2:41.0×40.0cm、深さ25.0cm。梯子穴P3は南壁中央部付近に確認され、28.0×24.0cmである。

カマドは北壁中央に構築され、白色土によって構築された両袖が残存するが、東部の袖はSI-38によって壊されている。袖は残存値で幅10.0～28.0cm、長さ32.0～38.0cm、高さ約16.0～18.0cmで、両袖間の幅は約48.0cmである。カマド掘方は深さ8.0cmで、北壁への突出は21.0cmである。

出土遺物は、土師器坏1点6g、土師器甕47点1.447g、須恵器坏2点13g、須恵器甕1点99g、円筒形土製品2点812g、支脚1点238g、総量54点2.615gと縄文式土器1点17gが出土した。1の須恵器坏は、TK209形式並行で、7世紀中葉。3・4は円筒形土製品で同一個体か、カマドから出土している。円筒形土製品は北ノ内遺跡SI-11・18、当遺跡SI-42でも確認されている。建物跡の時期は7世紀前葉～中葉である。

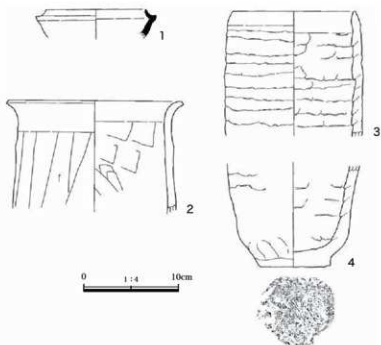




第 245 図 北ノ内遺跡 (2次調査) SI-39 カマダ実測図

カマダ 土質説明

- 1 順灰色土 5~10mm 大の白色粒、2mm 大のローム粒を散在的に少量混入。しまりあり、柔らかい。
- 2 順灰色土 順灰色土中に5mm 大の赤色粒を少量混入。しまりあり、柔らかい。
- 3 灰色土 黒色土少量混入。しまりあり、柔らかい。
- 4 黒灰色土 2mm 大のローム粒を散在的に少量混入。しまりあり、柔らかい。
- 5 赤灰色土 灰色土が凝結し、赤色化したもの。黒色土を含み二次的な堆積とみられる。
- 6 白色土 灰色土を散在的に少量混入。しまりあり、固い。(カマダ種)
- 7 灰褐色土 2mm 大の赤色土、1mm 大のローム粒を散在的に多量混入。しまりあり、固い。(カマダ種)
- 8 茶色土 ソフトローム中に黒色土が多量混入。1mm 大の炭化物粒を少量混入。しまりあり、固い。(カマダ種)
- 9 黄褐色土 1mm 大のローム粒・赤色粒混入。(カマダ種方理土)



第 246 図 北ノ内遺跡 (2次調査) SI-39 出土遺物

第 97 表 北ノ内遺跡 (2次調査) SI-39 出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環	口径:(10.4) 底径:— 器高:(3.0)	砂粒少量	内:口縁~体部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナデ	内:灰色 外:灰色 ・やや不良	口縁部 1/11 体部 1/4		小片
2	土師器 甕	口径:(18.0) 底径:— 器高:(11.7)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ、胸部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胸部 ヘラナデ	内:にぶい、黄褐色 外:灰黄褐色 ・良	口縁~胸 部上半 1/4		覆土
3	土製品 カマダ構 築材か	口径:(13.0) 底径:— 器高:(13.0)	砂粒、小礫	内:口縁~胸部指頭圧痕 外:口縁~胸部ヘラナデ	内:にぶい赤褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁~体 部上半 1/3	筒状で横断面は歪みある やや楕円形。内面に 指頭痕、内外面に積み 上げ痕を明確に残す。 カマダ焼口天井部の補 強材か。	No.4 と同一 か。
4	土製品 カマダ構 築材か	口径:— 底径:7.5 器高:(10.9)	砂粒、小礫	内:口縁~胸部指頭圧痕、 底部ヒナデ 外:口縁~胸部ヘラナデ、 底部不定方向ヘラケズリ	内:にぶい赤褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	体部下半 ~底部 2/3 底部完存	筒状で横断面は歪みある やや楕円形。内面に 指頭痕、内外面に積み 上げ痕を明確に残す。 カマダ焼口天井部の補 強材か。	カマダ内・ カマダ内 覆 土 No.3 と同一 か。

SI-40 (第247・248図、第98表、図版三五・三六・四四)

調査区中央の13-79グリッドに位置する。田面形成により西半を削平され、奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-41によって中央～南部を壊されている。掘立柱建物跡SB-7とも重複し、新旧関係はSI-40 < 41 < SB-7である。

平面形は、方形を呈すると思われる。規模は確認できた範囲で南北約5.70m、東西残存約2.30mで、面積は約13.1㎡である。主軸の振れはN-40°-Wである。

埋土は僅かに淡黄褐色土を確認した。

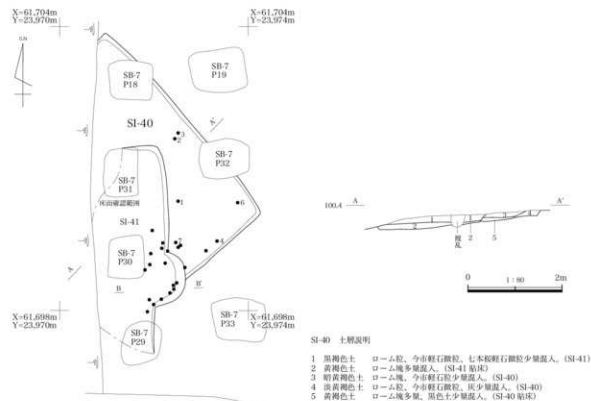
残存する壁の高さは、東壁16.0cm、南壁14.6cm、北壁21.0cmである。

床は、掘方を黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは2.0～6.0cmを測る。カマド、柱穴、梯子穴、壁際溝等は確認されなかった。

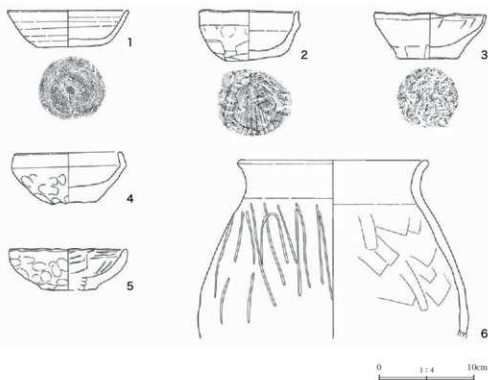
出土遺物は、土師器環5点1,047g、土師器環29点2,287g、総量34点3,334gと自然礫11gが出土している。

2～5は土師器手捏ね土器環である。1は土師器環で、手捏ねの環とは時期差がある。重複するSI-41の遺物が混入したものであろう。

建物の時期は6世紀後葉である。



第247図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-40 実測図



第 248 図 北ノ内遺跡（2次調査）SI-40 出土遺物

第 98 表 北ノ内遺跡（2次調査）SI-40 出土遺物観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 環	口径: 12.6 底径: 5.7 器高: 3.9 重量: 180.0g	ガラス光沢 黒色粒多量	内: 口縁～底部ロクロナ デ 外: 口縁～体部ロクロナ デ。底部回転ヘラ切り後 ヘラナデ	内: にぶい黄橙色 外: 浅黄橙色 ・良	完形		
2	土師器 手控ね 環	口径: 10.0 底径: 6.0 器高: 5.3 重量: 255.0g	ガラス光沢 黒色粒。透 明粒。砂粒	内: 口縁～底部ヨコナデ 外: 口縁部ヨコナデ。体 部下端～底部手持ち粗い ヘラケズリ	内: にぶい黄橙色 外: にぶい黄橙色 ・良	完形	全体に歪みあり。手控 ね風。	
3	土師器 手控ね 環	口径: 11.6 底径: 6.2 器高: 4.7 重量: 233.0g	ガラス光沢 黒色粒。砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ。体 ～底部ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ。体 部ナデ。底部粗いヘラナ デ	内: にぶい黄橙色 外: 浅黄橙色 ・良	ほぼ完 形	厚みの平底部から立つ 体部は減厚しつつ口縁 に至り、歪みあり。手 控ね風。	
4	土師器 手控ね 環	口径: 11.0 底径: 5.2 器高: 5.4 重量: 318.0g	黒色微粒。 透明粒。微 砂粒。砂粒	内: 口縁部ヨコナデ。体 ～底部ナデ 外: 口縁部ヨコナデ。体 部ナデ・指頭王痕。底部 不定方向ヘラケズリ	内: にぶい黄橙色 外: にぶい黄橙色 ・良	ほぼ完 形	底部は厚く、体部中位 で内傾し、口縁に至る。 重量感あり。	
5	土師器 手控ね 環	口径: (12.0) 底径: - 器高: 4.4	ガラス光沢 黒色粒。透 明粒。	内: 口縁部ヨコナデ。体 部粗いヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ。体 部指頭王痕。底部ヘラケ ズリ	内: にぶい黄橙色 外: にぶい黄橙色 ・良	1/4	平底で歪みあり。手控 ね風。	覆土
6	土師器 甕	口径: (19.6) 底径: - 器高: (18.8)	ガラス光沢 黒色粒。透 明粒。砂粒。 小礫	内: 口縁部ヨコナデ。胴部 ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ。胴部 ヘラケズリ後ヘラミガキ	内: 暗灰黄色 外: にぶい黄橙色 ・良		口縁～ 胴部上 半 1/3	

SI-42 (第249・250図、第99表、図版三六・四五)

調査区南部の13・80グリッドに位置する。西部は調査区外のため未調査である。また谷埋土の黒色土上に構築されている。

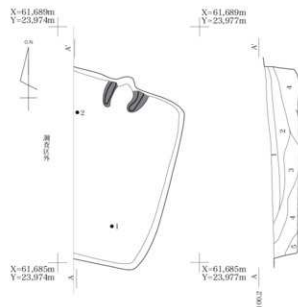
平面形は、方形と推定される。規模は残存で南北約3.85m、東西約2.45mで、面積は約9.4㎡である。主軸の振れはN-18°-Eである。

埋土は黒色～黒茶黄色土で自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁50.4cm、南壁38.0cm、北壁54.0cmである。

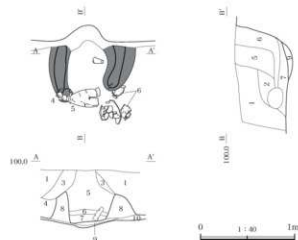
貼床は施さず、掘方底面のロームを床面とする。柱穴、梯子穴、壁際溝等は確認できなかった。

カマドは北壁やや東寄りに構築され、灰褐色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅20.0～28.0cm、長さ48.0～52.0cm、高さ約5.2～6.4cmで、両袖間の幅は約54.0cmである。カマド掘方は深さ6.0cmで、北壁への突出は14.0cmである。



SI-42 土層説明

- 1 黒色土 1mm大の赤色粒・白色粒を均一に少量混入。しまりあり。柔らかい。
- 2 黒色土 0.5mm大のローム粒、2mm大の赤色粒を均一に多量混入。しまりあり。柔らかい。
- 3 黒色土 1mm大のローム粒を均一に多量、2mm大の赤色粒少量混入。しまりあり。柔らかい。
- 4 黒茶黄色土 1mm大のローム粒多量、5mm大の黒色粒・赤色粒を散在的に少量混入。しまりあり。柔らかい。
- 5 黒色土 1mm大のローム粒、5mm大の赤色粒少量混入。しまりあり。柔らかい。



カマド 土層説明

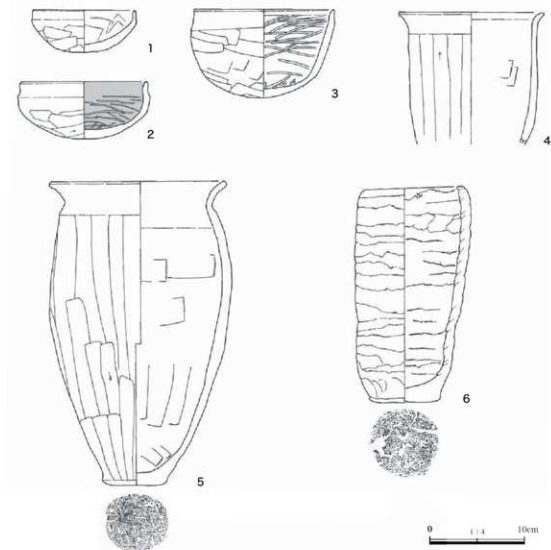
- 1 黒褐色土 1～3mm大の今市軽石・七本板軽石・白色粘土粒少量混入。
- 2 灰褐色土 1mm前後のローム粒やや多量、灰白色粘土粒少量混入。(カマド崩落土)
- 3 灰白色土 灰白色粘土主体。(カマド崩落土)
- 4 黒褐色土 1～2mm大の今市軽石・灰白色粘土粒少量混入。
- 5 灰褐色土 灰白色粘土粒多量混入。
- 6 黒褐色土 暗灰褐色の灰主体。しまりなし。
- 7 灰褐色土 灰褐色の灰主体。(カマド袖)
- 8 灰褐色土 灰褐色粘土主体。(カマド袖)
- 9 褐色土 ローム粒多量混入。しまりなし。(カマド掘方土)
- 10 黒褐色土 ローム粒やや多量混入。(カマド掘方埋土)

第249図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-42実測図

遺物出土状況は、2の土師器坏が中央の床面からやや浮いた地点で、4～6がカマド前面から出土している。出土遺物は、土師器坏6点412g、土師器甕113点5,770g、土師器鉢3点513g、円筒形土製品2点1,078g、支脚1点516g、総量125点8,289gと自然礫118gが出土している。

6は円筒形土製品で、北ノ内遺跡SI-11・18、当遺跡SI-39で出土している。

建物跡の時期は7世紀前葉～中葉である。



第250図 北ノ内遺跡（2次調査）SI-42出土遺物

第99表 北ノ内遺跡(2次調査) SI-42 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 環	口径:(10.8) 底径:— 器高:(4.2)	透明粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ、体へラナデ 外:口縁部ヨコナデ、体へラナデ	内:灰灰色 外:灰黄色 ・良	口縁端部 欠損 底部完存		器表面剥落
2	土師器 環	口径:(13.2) 底径:— 器高:6.0	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、微砂 粒、砂粒、 小礫	内:口縁部ヨコナデ、体部 横位・底部不定方向ヘラ ミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体へ ラナデ	内:灰黄褐色 外:灰黄褐色 ・良	1/2	体内面及び口縁部外面 部仕上げ。	
3	土師器 鉢	口径:14.6 底径:— 器高:9.4	透明粒、砂 粒	内:口縁部ヨコナデ後ヘラ ミガキ、体部横位、斜位・ 底部一定方向ヘラミガキ。 外:口縁部ヨコナデ、体 部ヘラナデ後ヘラケズリ、 底部ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:浅黄褐色 ・良	3/4		カマド
4	土師器 甕	口径:15.0 底径:— 器高:(13.9)	透明粒、砂 粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内:暗赤褐色 外:暗赤褐色 ・やや不良	上半のみ	小形。歪みあり。	カマド
5	土師器 甕	口径:(18.0) 底径:5.0 器高:32.3	透明粒、砂 粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴へ ラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴へ ラナデ 底部不定方向ヘラケズリ	内:黒褐色 外:にぶい褐色 ・やや不良	口縁部2/3 部から底 部破砕 存在		カマド
6	土製品 カマド横 梁材か	口径:9.9 底径:7.4 器高:22.9	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒 小礫	内:口縁へ胴部指頭圧痕、 底部ユビナデ 外:口縁へ胴部ナデ、胴部 下半ユビナデ、底部ヘラ ケズリ	内:灰黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・やや不良	体部一部 欠損	筒状で、内面に指頭圧痕、 内外面に粘土層積み上げ 痕を明確に残す。カマド 壁・口天井部の補強材か。 底部木炭痕あり。	カマド

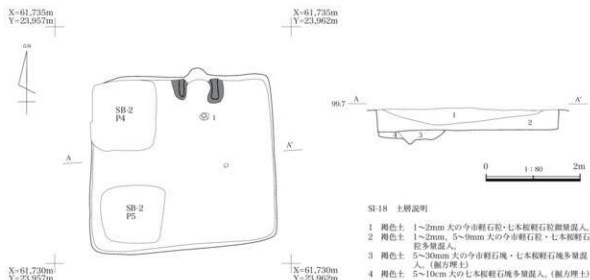
第3節 奈良・平安時代の遺構と遺物

第1項 竪穴建物跡と出土遺物

SI-18 (第251・252図、第100表、図版三六・四五)

調査区北西部の12.78グリッドに位置する。奈良・平安時代の掘立柱建物跡SB-2と重複し、本遺構が古い。また谷埋土の黒色土上に構築されている。

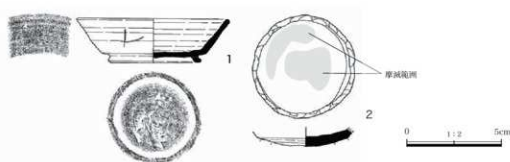
平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約3.90m、東西約3.75mで、面積は約14.6㎡である。主軸の振れはN-1°-Eである。



SI-18 土層説明

- 1 褐色土 1~2mm 大の今市軽石粒・七本松軽石粒多量混入。
- 2 褐色土 1~2mm、5~9mm 大の今市軽石粒・七本松軽石粒多量混入。
- 3 褐色土 5~30mm 大の今市軽石塊・七本松軽石塊多量混入。(掘方埋土)
- 4 褐色土 5~10cm 大の七本松軽石塊多量混入。(掘方埋土)

第251図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-18実測図



第252図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-18出土遺物

第100表 北ノ内遺跡(2次調査) SI-18出土遺物観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須臾器 高台坪	口径: 15.7 底径: 9.2 器高: 4.7	砂粒、小礫	内: 体~底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、底部 回転ヘラ切り後回転ヘラ ケズリ、後脱付高台後ナデ	内: 青灰色 外: 青灰色 ・良	口縁~体 部3/5 底部完存	体部外面にヘラ記号 「+」。	
2	須臾器 転用碗	口径: — 底径: — 器高: (2.0)	白色小粒、 小礫	内: 底部ロクロナデ 外: 底部切り離し後回転 ヘラケズリ	内: 灰褐色 外: 灰褐色 ・良	底部ほぼ 完存	体部を意図的に打ち欠 く。底部内面は中央部を 中心に厚減し、北側に光 沢を有す。高台は全周に むたり割離している。高 台坪の転用碗か。	

埋土は褐色を呈する2層に別けられ、自然堆積と思われる。残存する壁の高さは、東壁 39.7cm、西壁 45.0cm、南壁 33.9cm、北壁 45.8cmで、垂直に近く立ち上がる。床は建物西半で貼床を施すが、東半はロームを床面とする。貼床の厚さは約 12.0～32.0cmを測る。柱穴、梯子穴、壁際溝は確認されていない。

カマドは北壁中央やや東寄りに構築され、白色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅 28.0～32.0cm、長さ 40.0～48.0cm、両袖間の幅は約 72.0cmである。北壁への突出は 12.0cm。

遺物出土状況は、カマド前面の床面から1の須恵器高台環が出土している。

出土遺物は、土師器環 4点 67g、土師器鉢 15点 434g、須恵器環 2点 241g、須恵器鉢 1点 72g、総量 22点 814gが出土している。

1は体部外面にヘラ記号のある須恵器高台環で8世紀中頃か。2は須恵器高台環の底部を利用した転用碗とみられる。建物跡の時期は8世紀第3四半期である。

SI-19 (第253・254図、第101表、図版三六・四五)

調査区北西部の12.78グリッドに位置する。奈良・平安時代の掘立柱建物跡SB-1・2と重複し、本遺構が古い。また谷埋土の黒色土上に構築されている。

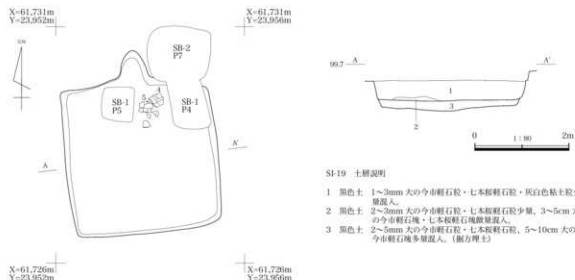
平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約3.32m、東西約3.27mで、面積は約10.9㎡である。主軸の振れはN-2°-Wである。

埋土は黒色を呈する2層に別けられる。残存する壁の高さは、東壁 58.9cm、西壁 45.4cm、南壁 56.1cm、北壁 17.3cmで外傾して立ち上がる。床は、掘方を黒色土で埋戻して貼床とし、貼床の厚さは約12.0～22.0cmを測る。柱穴、梯子穴、壁際溝等は確認されなかった。

カマドは北壁中央に構築されるが、ほとんど遺存していなかった。北壁への突出は 56.0cmである。

遺物出土状況は、カマド前面から土師器鉢が出土している。

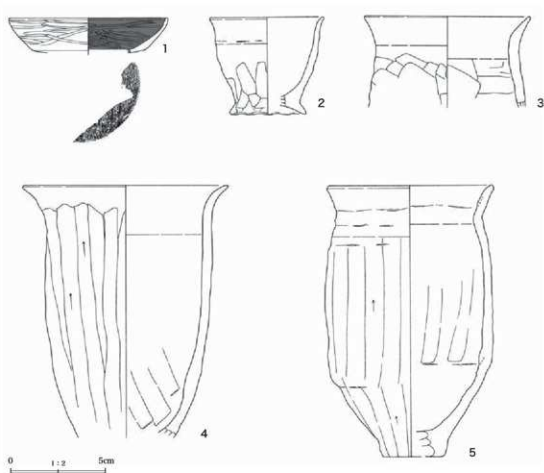
出土遺物は、土師器環 12点 140g、土師器鉢 50点 6,020g、土師器鉢 1点 158g、土師器壺 2点 51g、総量 65点 6,369gが出土している。1は口径が大きい平底の土師器環で、内面黒色処理、外面漆仕上げである。7世紀末～8世紀初頭か。2は鉢形の土師器で、底部は手捏ねで輪花状にする。3・4は外反口縁の土師器鉢、5は同じく土師器鉢であるが、胴部にややふくらみをもつ。建物跡の時期は8世紀第2～3四半期である。



SI-19 土層説明

- 1 黒色土 1～3mm 大の今市軽石粒・七本板軽石粒・灰白色粘土粒少量混入。
- 2 黒色土 2～3mm 大の今市軽石粒・七本板軽石粒少量、3～5cm 大の今市軽石塊・七本板軽石塊少量混入。
- 3 黒色土 2～5mm 大の今市軽石粒・七本板軽石粒、5～10cm 大の今市軽石塊少量混入。(掘方埋土)

第253図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-19実測図



第254図 北ノ内道跡（2次調査）SI-19出土遺物

第101表 北ノ内道跡（2次調査）SI-19出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 環	口径:(16.6) 底径:— 器高:(3.3)	砂粒	内:口縁~底部ヘラミガキ 外:口縁~体部ヨコナデ後 ヘラミガキ、底部ヘラケ ズリ	内:黒色 外:黒褐色 ・良	口縁部 1/3 底部一部	やや大形。平底風底部。 内面黒色処理。外面塗 仕上げか。	カマド
2	土師器 鉢	口径:(12.0) 底径:(8.0) 器高:10.3	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒、白色針 状物置	内:口縁部ヨコナデ、体 部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、体 部ヘラケズリ	内:褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	1/2		覆土
3	土師器 甕	口径:(17.4) 底径:— 器高:(9.5)	砂粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴 部縦位ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴 部斜位ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:褐色 ・良	口縁~胴 部上半 1/3	小形。	覆土
4	土師器 甕	口径:21.0 底径:— 器高:(26.2)	砂粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラケズリ	内:灰褐色 外:にぶい褐色 ・良	3/4		
5	土師器 甕	口径:17.0 底径:(6.2) 器高:28.8	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラケズリ、底部ヘラ ナデ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい褐色 ・やや不良	口縁・底 部一部欠 損	内外面に積み上げ痕を 残す。	

SI-20 (第255～259図、第102・103表、図版三六・三七・四五～四八・五〇)

調査区東部の14-79グリッドに位置する、当遺跡最大規模の竪穴建物跡である。古墳時代の竪穴建物跡SI-35、奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-47と重複し本建物跡が新しい。南に軸方位を揃えた同時代の建物跡SI-45が、南西に四面廂付掘立柱建物跡SB-7位置する。

平面形は、やや歪みのある方形を呈する。規模は南北約8.92m、東西約8.24mで、面積は約73.5㎡である。主軸の振れはN-6°-Wである。

土はローム粒・焼土粒を含み、人為堆積と考えられる。6・7層は壁際溝埋土である。

残存する壁の高さは、東壁54.4cm、西壁54.7cm、南壁15.5cm、北壁52.3cmで、垂直に近く立ち上がる。

床は、掘方を暗黄褐色土で埋め戻し貼床とし、貼床の厚さは約6.0～12.0cmを測る。比較的均一な厚さで、床面は平坦であり、丁寧に構築された床といえる。この貼床層は、詳細にみると2層に分かれ、貼床は2時期ある。壁際溝を全周で確認した。幅7.0～28.0cm、深さ8.0～10.0cmである。

柱穴は、主柱穴P1～4と貯蔵穴P5を確認した。P1～4はそれぞれ3時期あり、柱の立て替えが行われている。最終段階の柱穴規模はP1：92.0×66.0cm、深さ98.6cm、P2：106.0×76.0cm、深さ69.1cm、P3：72.0×78.0cm、深さ102.0cm、P4：72.0×68.0cm、深さ98.0cm。貯蔵穴P5は102.0×62.0cm、深さ24.0cmで底面はおおよそ平坦である。

カマドは北壁中央に構築され、白黄色粘土で構築された両袖が残存していた。袖の幅36.0～52.0cm、長さ40.0～52.0cm、高さ約30.0～40.0cmで、両袖間の幅は約136.0cmである。天井崩落土が厚く堆積し、煙道部奥壁までよく焼けて赤化している。大型のカマドでよく使用されたカマドである。カマド掘方は深さ14.0cmで、北壁への突出は92.0cmである。

遺物出土状況は、貯蔵穴P5からカマドの前面上にかけて須恵器環が集中して出土している。またP4付近で須恵器円面碗が出土している。

出土遺物は、土師器環60点1,147g、土師器甕291点5,194g、土師器埴4点40g、須恵器環蓋38点1,639g、須恵器環241点4,902g、須恵器甕40点2,758g、須恵器壺17点144g、須恵器瓶3点70g、須恵器円面碗2点39g、須恵器円盤状製品1点92g、灰軸陶器碗1点4g、灰軸陶器壺2点39g、鉄製品(刀子・鎌・不明)4点53.21g、総量705点16,204gと中近世陶磁器1点8g、自然礫462gが出土した。須恵器環が多量に出土し、他の器種は僅かで、灰軸陶器も3点のみである。

1～17は須恵器環、18～22は須恵器高台環、23は須恵器瓶類、24～28は須恵器環蓋で、益子滝ノ入・倉見沢窟段階で9世紀中葉である。29は須恵器短頸壺蓋、30・31は須恵器円面碗である。方形の透かしを有するものか。須恵器環2点、土師器環2点に墨書「目」がみられる。41は須恵器甕片を円盤状に加工したものである。鉄製品は刀子2点と不明品2点が出土している。

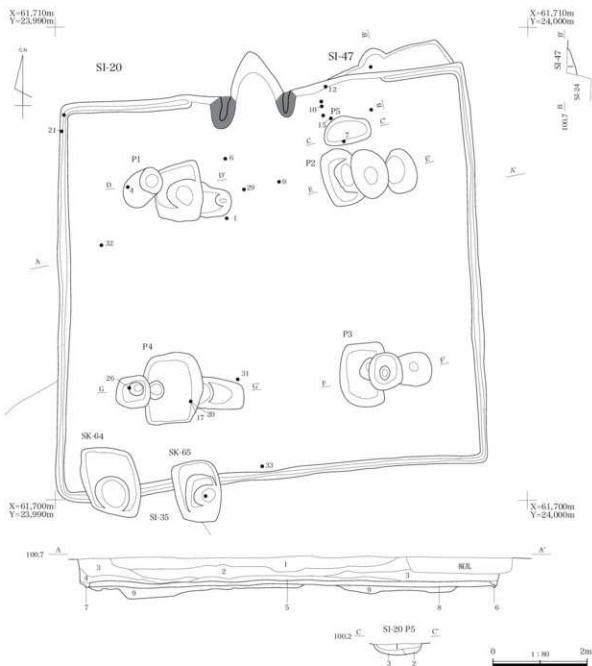
建物跡の時期は、9世紀中葉である。

本竪穴建物跡は、建物規模が大きいため、多量の食器が出土していることから、当遺跡における竈屋として機能したのと考えられる。

SI-47 (第255図、図版四〇)

調査区東部の14-79グリッドに位置する。竪穴建物跡SI-20と重複しており、SI-20が新しい。残存するのは北東部の僅かな範囲で、出土遺物もなく詳細不明である。

カマドは北壁のほぼ中央に構築されている。北壁への突出は24.0cm。



SI-20 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム塊、1~3cm 大の焼土塊、ローム粒少量混入。しまりあり。(現土)
- 2 暗黄褐色土 1~5cm 大のローム塊、ローム粒やや多量、1cm 大の今市軽石塊散見混入。しまりなし。(埋めの戻し)
- 3 暗褐色土 1~5cm 大のローム塊、ローム粒、1~3cm 大の焼土塊、焼土粒、小礫少量混入。しまりなし。(埋めの戻し)
- 4 暗灰褐色土 1~10cm 大のローム塊、1~5cm 大の白色粘土土塊少量混入。ローム粒、砂粒やや多量混入。しまりなし。(埋めの戻し)
- 5 灰褐色土 1~3cm 大の白色粘土土塊やや多量混入。1~3cm 大のローム塊、ローム粒、1cm 大の焼土塊、砂粒少量混入。しまりなし。(カマド崩落土)
- 6 暗褐色土 1~3cm 大のローム塊、ローム粒少量混入。しまりなし。
- 7 黒褐色土 1~5cm 大のローム塊、ローム粒やや多量。しまりなし。
- 8 暗黄褐色土 1~20cm 大のローム塊、1~10cm 黒色土塊主体、1~5cm 大の今市軽石塊少量混入。しまりあり。層位あり、2枚に分層可能。(堀形)
- 9 暗黄褐色土 1~20cm 大のローム塊、1~10cm 黒色土塊主体、1~5cm 大の今市軽石塊少量混入。しまりあり。(掘方埋土)

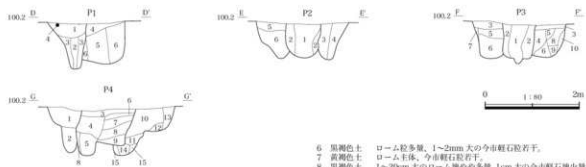
P5

- 1 黒褐色土 1~3cm 大の今市軽石塊・ローム塊、炭化粒少量混入。しまりあり。(堀底)
- 2 褐色土 1~5cm 大のローム塊やや多量混入。今市軽石粒、1~5cm 大の焼土塊散見混入。しまりなし。
- 3 暗黄褐色土 1~5cm 大のローム塊やや多量、炭化物少量混入。しまりなし。

SI-47

- 土層説明
- 1 黒褐色土 1~3cm 大のローム塊・黒色土塊少量混入、1~3cm 大の白色粘土塊、焼土粒散見混入。

第 255 図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-20・47 実測図



SI-20 P1～P4 土層説明

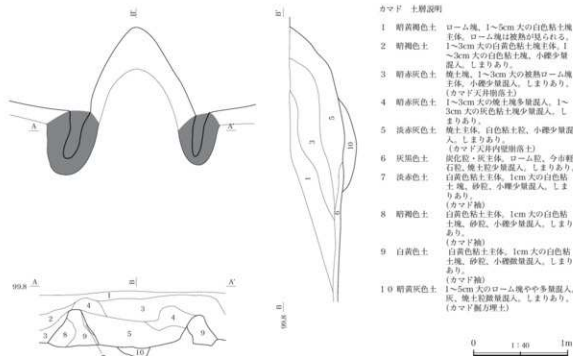
- P1**
- 褐色土 1～5mm 大のローム塊多量。今市軽石若干。しまりなし。(柱状腐)
 - 灰褐色土 2～3mm 大のローム塊多量。今市軽石若干。しまりなし。(柱状腐)
 - 褐色土 ローム塊・ローム塊多量。今市軽石・1～2cm 大の白色粘土塊若干。(柱状腐)
 - 褐色土 1～3mm 大のローム塊多量。今市軽石若干。
 - 灰褐色土 2～5mm 大のローム塊多量。しまりなし。(柱状腐)
 - 褐色土 ローム塊・ローム塊多量。白色粘土塊少量。(柱状腐)

- P2**
- 灰褐色土 1～5mm 大の今市軽石・七本松軽石少量。5～10cm 大の今市軽石・七本松軽石若干。(柱状腐)
 - 灰褐色土 1～2mm 大のローム塊少量。2～3mm 大の今市軽石・1cm 前後のローム塊若干。(柱状腐)
 - 灰褐色土 1～2mm 大の今市軽石・七本松軽石少量。
 - 褐色土 1～5mm 大のローム塊や中量。5～10mm 大の今市軽石若干。
 - 灰褐色土 ローム塊・ローム塊多量。2～3mm 大の今市軽石若干。
 - 灰褐色土 5～10mm 大のローム塊や中量。1mm 前後の今市軽石若干。

- P3**
- 褐色土 1mm 前後の今市軽石・ローム塊若干。(柱状腐)
 - 灰褐色土 ローム塊・ローム塊や中量。2～5mm 大の今市軽石少量。(柱状腐)
 - 灰褐色土 ローム塊・ローム塊多量。2～3mm 大の今市軽石若干。
 - 褐色土 今市軽石・ローム塊・1～2cm 大のローム塊少量。
 - 黒褐色土 1～10mm 大のローム塊・ローム塊・1～3cm 大の今市軽石少量。

- 黒褐色土 ローム塊多量。1～2mm 大の今市軽石若干。
- 黒褐色土 ローム主体。今市軽石若干。
- 黒褐色土 1～20cm 大のローム塊や中量。1cm 大の今市軽石塊少量。しまりや中あり。(柱状腐)
- 黒褐色土 1～20cm 大のローム塊や中量。1～3cm 大の今市軽石塊少量。しまりなし。(柱状腐)
- 黒褐色土 1～5cm 大のローム塊主体。今市軽石・1cm 大の黒色土塊少量。しまりあり。(柱状腐)

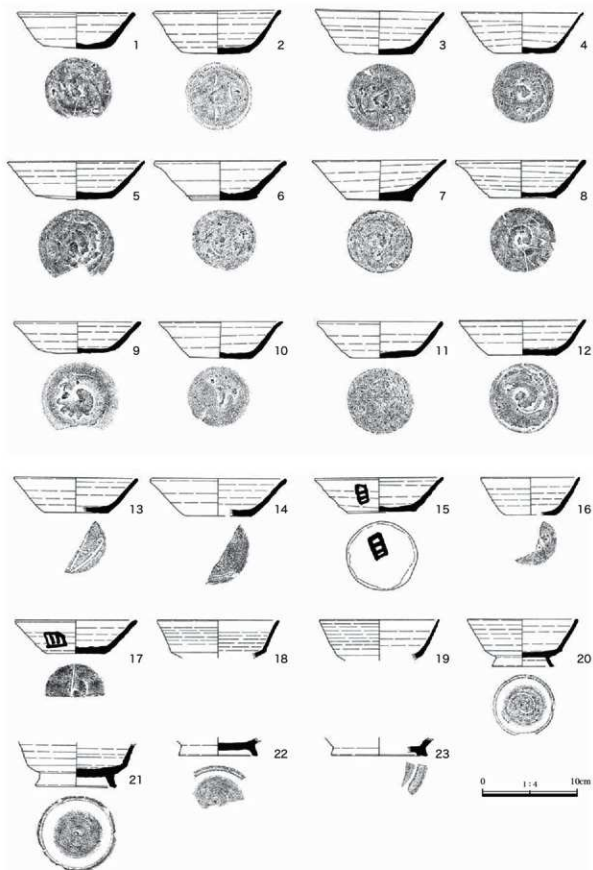
- P4**
- 灰褐色土 1～5mm 大のローム塊・ローム塊・炭化物・焼土少量。しまりなし。
 - 灰褐色土 ローム塊・ローム塊若干。しまりなし。
 - 灰褐色土 ローム塊・ローム塊多量。2～3mm 大の今市軽石若干。今市軽石・ローム塊・ローム塊多量。1～5mm 大の今市軽石若干。しまりや中あり。
 - 褐色土 1～10mm 大のローム塊・ローム塊多量。1～5mm 大の今市軽石若干。しまりなし。(柱状腐)
 - 褐色土 1～10mm 大のローム塊・ローム塊・10～30mm 大の今市軽石少量。(柱状腐)
 - 褐色土 ローム塊・ローム塊多量。(柱状腐)
 - 褐色土 ローム塊・ローム塊多量。(柱状腐)
 - 黒褐色土 ローム塊・ローム塊多量。(柱状腐)
 - 暗黄褐色土 1～10cm 大のローム塊多量。今市軽石・1～10cm 大の黒色土塊少量。しまりや中あり。(柱状腐)
 - 暗褐色土 1～5cm 大のローム塊多量。黒色土はきりこみ。しまりなし。(柱状腐)
 - 暗黄褐色土 1～20cm 大のローム塊・黒色土少量。黒色土はきりこみ。しまりなし。(柱状腐)
 - 黄褐色土 1～3cm 大のローム塊や中量。1～3cm 大の今市軽石・黒色土少量。(柱状腐)
 - 褐色土 1～3cm 大のローム塊・1cm 大の今市軽石少量。しまりなし。(柱状腐)
 - 暗黄褐色土 1～10cm 大のローム塊や中量。黒色土・1～3cm 大の今市軽石少量。しまりや中あり。(柱状腐)



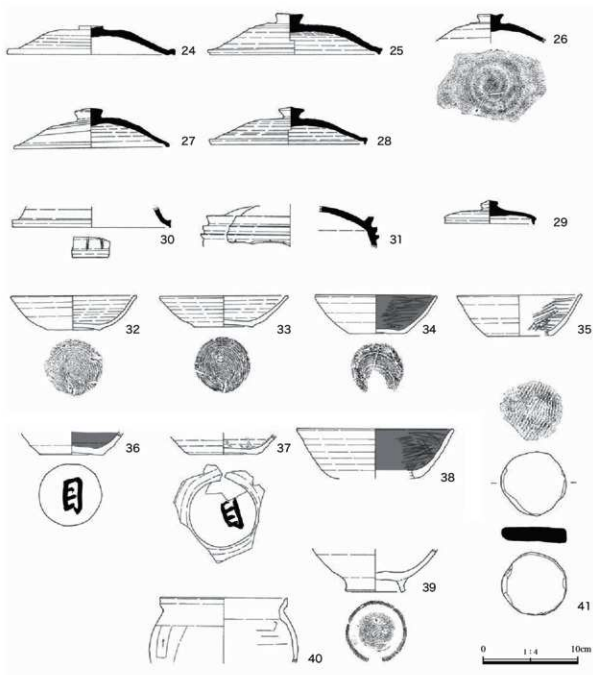
カマダ 土層説明

- 暗黄褐色土 ローム塊・1～5cm 大の白色粘土塊主体。ローム塊は被熱が見られる。
- 暗褐色土 1～3cm 大の白色粘土塊主体。1～3cm 大の白色粘土塊。小礫少量混入。しまりあり。
- 暗赤褐色土 焼土塊。1～3cm 大の焼熱ローム塊主体。小礫少量混入。しまりあり。(カマダ天井崩落土)
- 暗赤褐色土 1～3cm 大の焼熱ローム塊少量混入。1～3cm 大の灰色粘土塊少量混入。しまりあり。
- 淡赤褐色土 焼土主体。白色粘土粒。小礫少量混入。しまりあり。(カマダ天井崩落土)
- 灰褐色土 炭化物・灰主体。ローム塊。今市軽石。焼土少量混入。しまりあり。白色粘土主体。1cm 大の白色粘土塊。砂粒。小礫少量混入。しまりあり。(カマダ溝)
- 暗褐色土 白色粘土主体。1cm 大の白色粘土塊。砂粒。小礫少量混入。しまりあり。(カマダ溝)
- 白黄土 白色粘土主体。1cm 大の白色粘土塊。砂粒。小礫少量混入。しまりあり。(カマダ溝)
- 暗黄褐色土 1～5cm 大のローム塊や中量混入。灰・焼土少量混入。しまりあり。(カマダ溝)

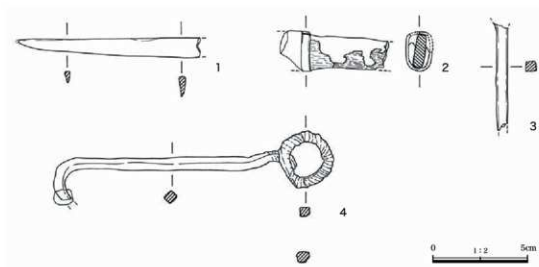
第 256 図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-20Pit・カマダ実測図



第257図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-20 出土遺物(1)



第258図 北ノ内遺跡(2次調査) S1-20出土遺物(2)



第259図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-20出土鉄製品

第102表 北ノ内遺跡(2次調査) SI-20出土遺物観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環	口径: 12.1 底径: 7.2 器高: 3.9	砂粒・小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、底部回転ヘラ切り後ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	2/3	底部外面にヘラ記号「一」。	
2	須恵器 環	口径: 13.2 底径: 7.2 器高: 4.6	砂粒・小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、底部回転ヘラ切り後一定方向ナデ	内: 灰色 外: 青灰色 ・良	口縁~体部 3/5 底部完存		覆土
3	須恵器 環	口径: 13.6 底径: 7.3 器高: 4.6	透明胎、砂粒	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、底部回転ヘラ切り後一定方向ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	3/4		覆土
4	須恵器 環	口径: 12.8 底径: 6.6 器高: 4.3	砂粒・小礫 多量	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、底部回転ヘラ切り後ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	3/4		P1・覆土
5	須恵器 環	口径: (14.2) 底径: 8.1 器高: 4.1	黒色粒・砂粒・小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、底部回転ヘラ切りのまま	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁~体部 1/2 底部 4/5		覆土
6	須恵器 環	口径: (13.5) 底径: 6.6 器高: 4.2	黒色粒・砂粒・小礫多量	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、底部回転ヘラ切り後一定方向ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁部 1/6 底部完存	底部外面にヘラ記号。	
7	須恵器 環	口径: 13.8 底径: 6.8 器高: 4.3	黒色粒・砂粒・小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、底部回転ヘラ切り後一定方向ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	9/10	やや歪みあり。	P5
8	須恵器 環	口径: 13.5 底径: 7.0 器高: 4.0	砂粒・小礫 多量	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、底部回転ヘラ切り後ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁部 1/4 底部完存	底部外面にヘラ記号。	覆土
9	須恵器 環	口径: 13.2 底径: 8.2 器高: 3.3	砂粒・小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、底部回転ヘラ切り後周縁ヘラケズリ	内: 灰色 外: 青灰色 ・良	口縁~体部 3/5 底部 4/5		
10	須恵器 環	口径: 12.8 底径: 6.4 器高: 4.1	砂粒・小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、底部回転ヘラ切り後ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁部 1/4 欠損		

11	須恵器 坏	口径: 13.0 底径: 7.0 器高: 3.9	砂粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 ナデ	内: 灰白色 外: 灰白色 ・良	4/5	底部外面にヘラ記号 「X」。	覆土
12	須恵器 坏	口径: 13.0 底径: 7.2 器高: 3.7	砂粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切りの まま	内: 灰褐色 外: 灰褐色 ・良	3/4		
13	須恵器 坏	口径: (12.8) 底径: (6.8) 器高: 3.7	砂粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部ナデ	内: 灰白色 外: 灰色 ・良	1/4	底部外面にヘラ記号。	覆土
14	須恵器 坏	口径: (14.0) 底径: (7.0) 器高: 4.0	砂粒・小礫 多量	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁~底 部 1/4	底部外面にヘラ記号。	
15	須恵器 坏	口径: 13.4 底径: 6.8 器高: 3.7 重量: 155.0g	微細粒、小 礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切りの まま	内: 灰色 外: 灰色 ・良	ほぼ全体	体部外面・底部外面に 墨書「目」。	
16	須恵器 坏	口径: (10.0) 底径: (5.0) 器高: 4.0	砂粒	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、体部下端ヘラケズリ 後ナデ、底部不明なる もヘラ切り後回転ヘラケ ズリ	内: 明赤褐色 外: 明赤褐色 ・やや不良	口縁部 1/7 体~底部 1/3	小形。器厚は薄い。	覆土
17	須恵器 坏	口径: (12.8) 底径: 6.0 器高: 3.6	砂粒 小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切りの まま	内: 灰色 外: 灰色 ・良	1/2	体部外面に墨書「目」。	
18	須恵器 高台坏	口径: (12.8) 底径: - 器高: (3.5)	砂粒	内: 口縁~体部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁~体 部 1/6		覆土
19	須恵器 高台坏	口径: (12.4) 底径: - 器高: (3.7)	砂粒・小礫 多量	内: 口縁~体部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、体部下端回転ヘラケ ズリ	内: 灰色 外: 灰白色 ・良	口縁~体 部 1/4	器厚は薄い。	覆土
20	須恵器 高台坏	口径: 11.3 底径: 6.1 器高: 5.1	砂粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、体部下端回転ヘラケ ズリ、底部回転ヘラ切り、 後唇付高台後ナデ	内: 青灰色 外: 青灰色 ・良	口縁~体 部 1/3 底部完存	器厚は薄い。	
21	須恵器 高台坏	口径: - 底径: 8.2 器高: -	砂粒、小礫	内: 体~底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、底部 回転ヘラ切り、後唇付高 台後ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	体部 1/2 底部完存		
22	須恵器 高台坏	口径: - 底径: (8.2) 器高: (1.9)	砂粒、小礫	内: 底部ロクロナデ 外: 底部回転ヘラ切り、後 唇付高台後ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	底部 1/3		
23	須恵器 瓶頸	口径: - 底径: (10.0) 器高: (2.0)	砂粒少量、 黒色粒微量	内: 胴~底部ロクロナデ 外: 胴部ロクロナデ、後唇 付高台後ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	高台部 1/9		覆土 小片
24	須恵器 杯蓋	口径: 2.5 口径: 17.6 器高: 3.0	黒色粒、砂 粒、小礫	内: 天井~裾部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、天井 部回転ヘラケズリ、横み 貼付後ロクロナデ	内: 浅黄褐色 外: 黄褐色 ・不良	9/10	生焼けの須恵器。	覆土
25	須恵器 杯蓋	口径: 2.9 口径: 17.8 器高: 4.3	砂粒、小礫	内: 天井~裾部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、天井 部回転ヘラケズリ、横み 貼付後ロクロナデ	内: オリーブ灰色 外: 灰色 ・良	3/4	僅かに歪みあり。	
26	須恵器 杯蓋	口径: 2.6 口径: - 器高: (3.0)	砂粒、小礫	内: 天井部ロクロナデ 外: 天井部回転ヘラケズリ、 横み貼付後ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	天井部の み	天井部内面にヘラ記号。	
27	須恵器 杯蓋	口径: 3.0 口径: 16.2 器高: 4.2	砂粒・小礫 多量	内: 天井~裾部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、天井 部回転ヘラケズリ、横み 貼付後ロクロナデ	内: 灰白色 外: 灰白色 ・やや不良	4/5	やや歪みあり。	覆土
28	須恵器 杯蓋	口径: 2.8 口径: (16.2) 器高: 3.9	黒色粒、砂 粒、小礫	内: 天井~裾部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、天井 部回転ヘラケズリ、横み 貼付後ロクロナデ	内: 灰白色 外: 灰白色 ・良	1/3		覆土

29	須恵器 葉巻蓋	桶径: 1.9 口径: 9.4 器高: 2.4 重量: 66.0g	黒色粒、小 礫	内: 天井～根部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、揃み 貼付後ロクロナデ	内: 暗灰白色 外: 灰白色 ・良	ほぼ方形	外面一部自然輪付着。	
30	須恵器 円面碗	口径: — 底径: (16.6) 器高: (2.1)	砂粒	内: 脚部ロクロナデ 外: 脚部ロクロナデ	内: オリーブ黒色 外: 灰色 ・良	脚部 1/13	器厚は薄い。ヘラ状工 具による履位沈線2条。	履上 極小片
31	須恵器 円面碗	口径: — 底径: — 器高: (3.7)	黒色粒、砂 粒、小礫	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	内: 灰オリーブ色 外: 灰色 ・良	上半部 1/4	磨面面残存。脚部にヘラ 切りの透かし痕2カ所。 脚部内面自然輪付着。	
32	土師器 環	口径:(13.8) 底径: 5.6 器高: 3.5	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内: 口縁～体部ロクロナ デ、底部一部ヘラミガキ 外: 口縁～体部ロクロナ デ、底部回転系切り	内: 棕色 外: 棕色 ・良	口縁～体 部 2/5 底部完存		
33	土師器 環	口径: 13.4 底径: 5.9 器高: 3.2	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、小礫	内: 口縁～体部ロクロナ デ、底部一部ヘラミガキ 外: 口縁～体部ロクロナ デ、底部回転系切りのま ま	内: 明褐色 外: 明褐色 ・良	5/6		
34	土師器 環	口径:(12.6) 底径: 5.6 器高: 4.1	黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 口縁～底部ヘラミガキ 外: 口縁～体部ロクロナ デ、底部回転系切りのま ま	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁～体 部 1/6 底部 3/4	内面黒色処理。	
35	土師器 環	口径: 13.0 底径: 6.0 器高: 4.3	砂粒 小礫少量	内: 口縁～底部ロクロナ デ後ヘラミガキ 外: 口縁～体部ロクロナ デ、底部多方向ヘラケズリ	内: にぶい褐色 外: にぶい褐色 ・良	1/3		履上
36	土師器 環	口径: — 底径: 7.1 器高: —	砂粒	内: 体～底部ロクロナデ後 ヘラミガキ 外: 体部ロクロナデ、底部 回転系切り	内: にぶい黄褐色 外: 浅黄色 ・良	体部 1/5 底部 4/5	底部外面に墨書「目」。	履上
37	土師器 環	口径: — 底径: 6.5 器高: (2.5)	砂粒	内: 体部ロクロナデ、底部 ヘラミガキ 外: 体部ロクロナデ、底部 回転系切りのまま	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	体部 1/10 底部完存	底部外面に墨書「目」。 内面黒色処理。	
38	土師器 環	口径:(16.6) 底径:(10.2) 器高:(5.3)	ガラス光沢 黒色粒・透 明粒・白色 針状物質多 量	内: 口縁～底部ヘラミガキ 外: 口縁～体部ロクロナ デ	内: 黒色 外: 浅黄色 ・良	口縁～体 部 1/5	内面黒色処理。	
39	土師器 高台環	口径: — 底径: 6.2 器高:(4.5)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内: 体～底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、底部 回転系切り、後貼付高台 後ナデ	内: 明褐色 外: 明褐色 ・良	底部のみ		P1 確認面
40	土師器 甕	口径:(13.2) 底径: — 器高:(6.7)	透明粒、雲 母、砂粒	内: 口縁部ココナデ、胴部 ヘラナデ 外: 口縁部ココナデ、胴部 ヘラケズリ	内: 灰褐色 外: にぶい褐色 ・良	口縁～胴 部 上半 1/6	小形。器厚は薄い。口 背端部外面に凹面を作 る。最大径は胴部中位 か。	履上
41	須恵器 円盤状製 品	直径: 6.6 厚さ: 1.5 重量: 02.98g	砂粒	内: 無文当て具痕 外: 平行タタキ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	完形	須恵器製破片転用の円 盤状製品。	

第103表 北ノ内遺跡(2次調査) S1-20 出土鉄製品観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	刀子	長さ:(9.5) 厚さ: — 重量: 8.74g	基部を欠く。棟最大幅は3mmで、角棟・平造。棟は直線的である。	基部欠損	
2	刀子	長さ:(5.5) 厚さ: — 重量: 18.82g	刃部を欠く。区は両区で、棟側・刃側ともに3mm程度の段をもつ。柄 縁の真金具が遺存し、基部に木質が残る。	刃部・基部先端欠 損	履上
3	鎌か	長さ:(5.2) 厚さ: 0.5 重量: 3.89g	両端部を欠く。短軸断面が台形の棒状品。上半の欠損部手前が僅かに 開き、下半が先細りする。鉄鏝の茎部と思われる。	両端部欠損	履上
4	不明 鉄製品	長さ:(14.5) 厚さ: — 重量: 21.76g	断面が方形の棒状部の両端部を直向に近い角度に曲げる。そのうちの 一方は振りにより曲げており、振りによって成形した環状部を接合す る。環状部は径2.9cmで、断面は方形の棒状品を捻って成形している。	環状部欠損	履上

SI-21 (第260～263図、第104・105表、図版三七・四七・五〇)

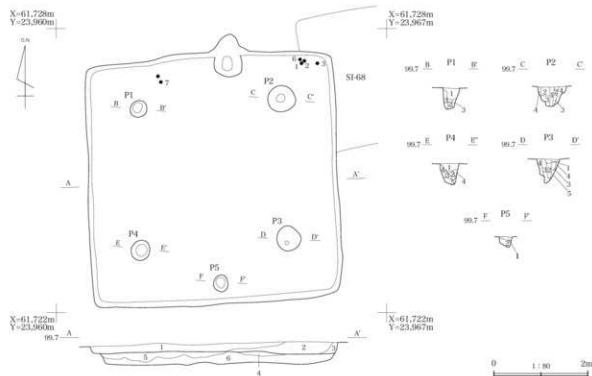
調査区中央部 13-78 グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-68 と重複し、SI-21 が新しい。

平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約 5.40m、東西約 5.30m で、面積は約 28.6 m² である。主軸の振れは N-2°-E である。

埋土は暗褐色～褐色を呈する 3 層に別けられ、自然堆積と思われる。残存する壁の高さは、東壁 23.6cm、西壁 12.6cm、南壁 18.8cm、北壁 27.0cm で、外傾して立ち上がる。床は、掘方を黒褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは約 12.0～24.0cm を測る。あまり堅緻な床面ではない。

柱穴は、主柱穴 P1～4 と梯子穴 P5 を確認した。規模は P1：40.0×38.0cm、深さ 44.0cm。P2：57.0×55.0cm、深さ 40.0cm。P3：51.0×50.0cm、深さ 50.0cm。P4：43.0×43.0cm、深さ 44.0cm。4 本全てで柱痕跡を確認した。貯蔵穴 P5 は 41.0×40.0cm、深さ 22.0cm である。

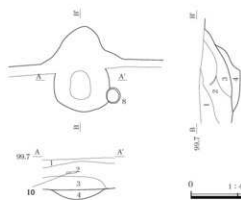
カマドは北壁東寄りに構築され、掘方のみ確認した。カマド掘方は深さ 12.0cm、北壁への突出は 38.0cm



SI-21 土層説明

- | | | | | |
|--------|--|--------|--|---------------------------|
| 1 暗褐色土 | 1mm 前後の今市軽石粒・七本松軽石粒少量、ローム粒微量混入。 | P3 | 1 黒褐色土 | 今市軽石粒、七本松軽石粒微量混入。(柱状取穴埋土) |
| 2 暗褐色土 | 1mm 前後の今市軽石粒・七本松軽石粒少量、10～20mm 大の今市軽石塊微量混入。 | 2 褐色土 | 1～2mm 大の今市軽石粒・七本松軽石粒・ローム粒少量、10～20mm 大のローム塊微量混入。(柱状跡) | |
| 3 褐色土 | 1mm 以下の今市軽石粒・七本松軽石粒少量混入。 | 3 褐色土 | 1～2mm 大の今市軽石粒・七本松軽石粒少量、20mm 前後の今市軽石塊微量混入。(柱状埋土) | |
| 4 褐色土 | 固くしまった今市軽石塊・ローム塊多量混入。(貼床) | 4 黒褐色土 | 1mm 以下の今市軽石粒・七本松軽石粒・10～30mm 大の今市軽石塊微量混入。(柱状埋土) | |
| 5 黒褐色土 | 1mm 前後と 10～20mm 大の今市軽石粒・七本松軽石塊微量混入。(掘方埋土) | 5 黄褐色土 | ローム塊多量混入。(柱状埋土) | |
| 6 黒褐色土 | 今市軽石塊、七本松軽石塊多量混入。(掘方埋土) | | | |
| P1 | | P4 | | |
| 1 黒褐色土 | 1～2mm 大の今市軽石粒・七本松軽石粒やや多量、10mm 前後の今市軽石粒、七本松軽石塊微量混入。(柱状取穴埋土) | 1 黒褐色土 | 今市軽石粒、七本松軽石粒微量混入。(柱状取穴埋土) | |
| 2 黒褐色土 | 現状の今市軽石粒微量混入。土まみりなし。(柱状跡) | 2 褐色土 | 1mm 前後のローム粒多量混入。(柱状取穴) | |
| 3 褐色土 | 今市軽石粒、七本松軽石粒多量混入。(柱状埋土) | 3 褐色土 | ローム粒、ローム塊多量混入。(柱状埋土) | |
| P2 | | 4 黒褐色土 | 今市軽石塊少量混入。(柱状埋土) | |
| 1 褐色土 | 1～2mm 大の今市軽石粒・七本松軽石粒やや多量混入。(柱状跡) | 5 黄褐色土 | ローム塊多量混入。(柱状埋土) | |
| 2 黒褐色土 | 1～2mm 大の今市軽石粒・七本松軽石粒少量、10mm 前後の今市軽石塊微量混入。(柱状埋土) | | | |
| 3 褐色土 | 今市軽石粒、七本松軽石粒、ローム粒多量混入。(柱状埋土) | 1 黒褐色土 | 今市軽石粒、七本松軽石粒微量混入。 | |
| 4 褐色土 | 今市軽石粒、七本松軽石粒少量混入。(柱状埋土) | 2 褐色土 | ローム粒少量、10mm 前後の今市軽石塊微量混入。 | |

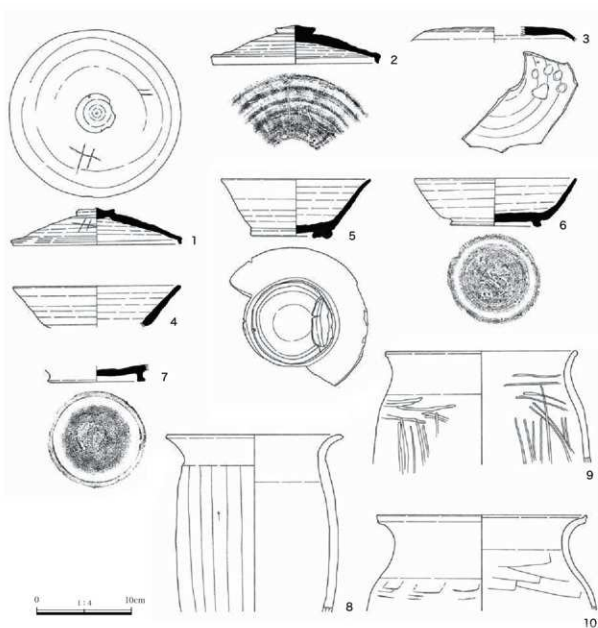
第260図 北/内遺跡 (2次調査) SI-21 実測図



カマド 土層説明

- 1 黒褐色土: ローム塊、1~5cm 大の今市軽石塊少量、今市軽石、ローム粒やや多量混入。しまりあり。
- 2 灰黒色土: 黄白色粘土・灰白色粘土・1~20cm 大の焼土塊主体、黒色土少量混入。しまりなし。(カマド崩落土)
- 3 黒褐色土: 灰白色粘土・1~10cm 大の焼土塊少量、1~3cm 大のローム塊・ローム粒・灰黒色混入。(堆積した灰とカマド崩落土の混入)
- 4 淡黄褐色土: 1~3cm 大のローム塊やや多量、1cm 大の焼土塊少量混入。しまりあり。(カマド崩落埋土)

第 261 図 北ノ内遺跡 (2次調査) SI-21 カマド実測図



第 262 図 北ノ内遺跡 (2次調査) SI-21 出土遺物

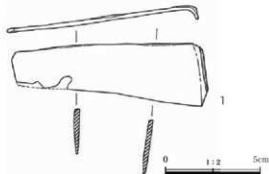
である。

遺物出土状況は、北東コーナーとカマド西側から須恵器坏蓋と坏が出土している。

出土遺物は、土師器坏 29 点 489g、土師器甕 86 点 5.005g、土師器鉢 2 点 105g、土師器皿 3 点 27g、須恵器坏蓋 8 点 942g、須恵器坏 6 点 908g、須恵器甕 1 点 32g、鉄製品(鐵) 1 点 25.48g、総量 136 点 7.533g が出土している。

須恵器は原東 3 号窯段階、8 世紀第 2 四半期である。

3 の蓋内面にはタヌキのものと考えられる獣足跡がみられる(第 7 章第 5 節参照)。



第 263 図 北/内遺跡(2次調査) S1-21 出土鉄製品

第 104 表 北/内遺跡(2次調査) S1-21 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ(cm)	胎土(石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏蓋	口径: 4.2 口径: 17.6 器高: 3.9 重量: 305.0g	砂粒・小礫	内: 天井～底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、天井 部回転ヘラケズリ、摘み 貼付後ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	完形	底部凸みあり。天井部 内面に指頭注痕あり。 天井部外面にヘラ記号。	
2	須恵器 坏蓋	口径: 4.2 口径: 17.2 器高: 4.1 重量: 324.0g	砂粒・小礫 多量	内: 天井～底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、天井 部回転ヘラケズリ、摘み 貼付後ロクロナデ	内: 灰オリーブ色 外: 灰色 ・良	完形	天井部外面にヘラ記号 「井」。	
3	須恵器 坏蓋	口径: — 口径: — 器高: (1.6)	砂粒・小礫	内: 天井～体部ロクロナデ 外: 天井部回転ヘラケズ リ、体部ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	天井部 1/3	内面に獣足跡あり。	
4	須恵器 高台坏	口径: (17.4) 口径: — 器高: (4.0)	砂粒・小礫	内: 口縁～体部ロクロナデ 外: 口縁～体部ロクロナデ	内: ぶい・褐色 外: 暗灰黄色 ・良	口縁～体 部 1/5	僅かに高台剝離痕確認。 内面変色	
5	須恵器 高台坏	口径: 15.8 口径: 8.6 器高: 6.2	黒色粒少量、 砂粒・小礫	内: 体～底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、底部 回転ヘラ切り後回転ヘラ ケズリ、後貼付高台後ナデ	内: 灰色 外: 暗灰色 ・良	1/2	口縁部に僅かに凸みあり。 体部は「ハ」字状に 大きく開く。高台部に他 器高台継ぎのままで焼成。	
6	須恵器 高台坏	口径: 16.8 口径: 9.1 器高: 5.0	黒色粒・小 礫	内: 口縁～底部ロクロナデ 外: 口縁～体部ロクロナ デ、底部ヘラ切り後回転 ヘラケズリ・ヘラナデ、 後貼付高台後ナデ・ヘラ 坂圧痕	内: 灰色 外: 青灰色 ・良	口縁部 1/2 底部完存	凸みあり。	
7	須恵器 高台坏	口径: — 口径: 10.0 器高: (1.7)	砂粒・小礫	内: 底部ロクロナデ 外: 底部回転ヘラ切り後回 転ヘラケズリ、後貼付高 台後ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	底部のみ	底部外面にヘラ記号。	
8	土師器 甕	口径: 18.0 口径: — 器高: (18.5)	小礫多量、 ガラス光沢 黒色粒・透 明粒・砂粒 少量	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内: 浅黄褐色 外: ぶい・黄褐色 ・やや不良	口縁部 1/2 胴部 2/3		カマド内
9	土師器 甕	口径: (19.4) 口径: — 器高: (11.8)	ガラス光沢 黒色粒・砂 粒	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラミガキ	内: ぶい・黄褐色 外: 浅黄色 ・良	口縁～胴 部 1/5		
10	土師器 甕	口径: (21.8) 口径: — 器高: (9.8)	透明粒・雲 母・小礫多 量	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ	内: ぶい・黄褐色 外: ぶい・褐色 ・良	口縁～胴 部 1/6	口縁部外面に凹面を 作る。	

第 105 表 北/内遺跡(2次調査) S1-21 出土鉄製品観察表

No	器種 器形	大きさ(cm)	特徴	残存率	備考
1	鐵	長さ: (10.0) 厚さ: 0.3 重量: 25.48g	断面は角棒である。基部は 6 mm ほど 90 度内側に折り曲げる。棒・刃 ともに直線的で曲がりが少ない。	刃部一部欠損	

SI-22 (第 264・265 図、第 106 表、図版三七・四八)

調査区西部の 12-78 グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-71、同じく奈良・平安時代の掘立柱建物跡 SB-4・5 と重複している。新旧関係は SI-71 < SI-22 < SB-4・5 である。本建物跡は、谷埋土の黒色土状に構築されている。

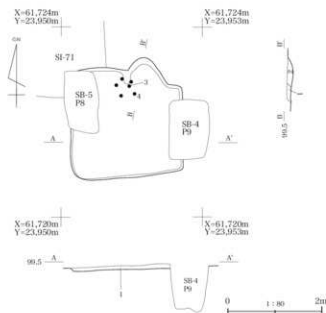
平面形は、歪んだ方形を呈する。規模は南北約 2.96m、東西約 2.35m で、面積は約 7.0 m² である。主軸の振れは N-1° -E である。

埋土は僅かで褐色を呈する。残存する壁の高さは、東壁 6.0cm、西壁 3.8cm、南壁 6.2cm、北壁 7.5cm で、外傾して立ち上がる。掘方底面の谷埋土黒色土を床面とする。柱穴、梯子穴、壁際溝等は確認されていない。カマドは北壁やや東寄りに構築されるが、僅かに掘方を確認したのみである。壁への突出は 38.0cm である。

遺物出土状況は、カマド前面から出土している。

出土遺物は、土師器環 8 点 605g、土師器甕 60 点 753g、須恵器甕 1 点 3g、総量 69 点 1.361g と自然礫 1.464g が出土した。

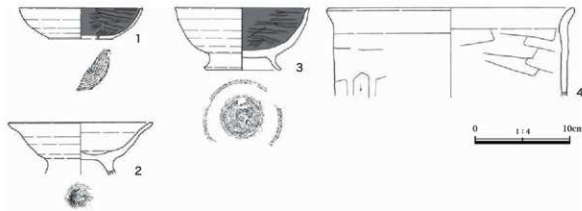
建物跡の時期は、10 世紀前半である。



SI-22 土壁説明

- 1 褐色土 1mm 前後の今半粒石粒・七本和粒石粒・焼土粒微量混入。
- 2 暗赤褐色土 1~10cm 大の焼土塊少量混入、しまりなし。〔カマド天井垂落土〕

第 264 図 北ノ内遺跡 (2 次調査) SI-22 実測図



第 265 図 北ノ内遺跡 (2 次調査) SI-22 出土遺物

第106表 北ノ内遺跡(2次調査) SI-22 出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土(石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 環	口径:(13.0) 底径:(6.8) 器高: 3.3	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、微砂 粒、砂粒	内:口縁~体部横位・底 部一定方向へラミガキ 外:口縁~体部口ロナ デ、底部回転糸切りのま ま	内:黒色 外:浅黄褐色 ・良	1/3	器厚は薄い。 内面黒色処理か。	
2	土師器 高台環	口径:(15.0) 底径:(7.0) 器高:(5.5)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、雲母	内:口縁~体部ヨコナデ 外:口縁~体部ヨコナデ、 底部回転へラ切り、後貼 付高台後ナデ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	1/3		器表面剥離
3	土師器 高台環	口径:(13.8) 底径: 7.8 器高: 6.6	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒、小礫	内:口縁~底部へラミガ キ 外:口縁~体部口ロナ デ、底部回転へラ切り、 後貼付高台後ナデ	内:黒色 外:にぶい褐色 ・良	口縁部 1/6 体部 1/3 底部 完存	内面黒色処理か。	
4	土師器 甕	口径:(25.6) 底径: - 器高:(9.3)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴 部横・斜位へラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴 部粗い縦位へラナデ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁部 1/6		小片

SI-23 (第266～268図、第107・108表、図版四八・五〇)

調査区西部の12-78グリッドに位置する。西半は調査区外のため未調査である。谷埋土の黒色土上に構築されている。

平面形は、方形を呈する。規模は残存値で南北約3.65m、東西約1.95m、面積は約7.1㎡である。主軸の振れはN3°-Eである。

埋土は黒褐色土の単層で自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁56.9cm、南壁42.0cm、北壁63.0cmで、外傾して立ち上がる。

貼床は一部にみられるが、大部分は掘方底面を床面とする。

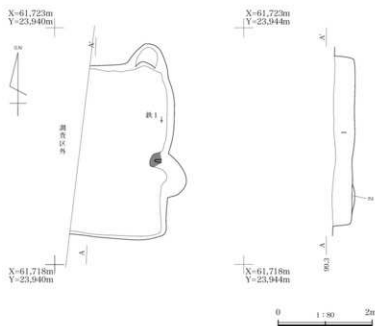
柱穴、梯子穴、壁際溝等は確認できなかった。

カマドは北東コーナーに1基、東壁南寄りに1基、計2基構築されている。北カマドは袖等残存せず、検出状況から旧カマドと思われる。北壁への突出は38.0cm。東カマドは地山を掘り残して形作った袖が残存していた。幅28.0cm、長さ20.0m。東壁への突出は40.0cmである。

遺物出土状況は、北カマドの自然礫を利用した支脚の上から土師器環が、東カマド埋土から土師器甕が、東壁付近で刀子が出土している。

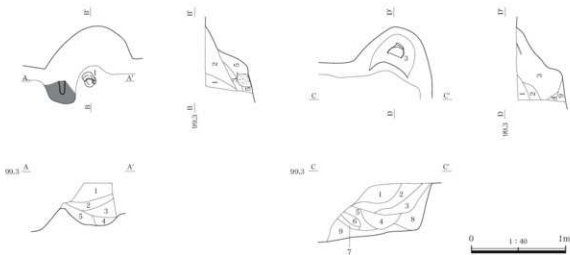
出土遺物は、土師器環7点219g、土師器甕53点2.154g、土師器甕1点117g、須恵器環蓋2点41g、須恵器甕1点48g、灰釉陶器壺1点14g、鉄製品(刀子)1点17.33g、総量66点2.610gが出土している。

1の旧カマド出土土師器環は9世紀後葉頃、2の旧カマド埋土出土土師器高台環は10世紀代で、時期差が認められる。いずれも旧カマド出土であることから、新カマドを利用していた建物跡の時期は10世紀前半であろう。3はくの字状口縁の土師器甕で、新カマド埋土から出土。4は土師器甕で、胴部下端に焼成前の穿孔がみられる。



SI-23 土解説明

- 1 黒褐色土 1mm前後のローム粒、2~3mm大の今赤粒石粒・七本桜粒石粒少量混入。
- 2 黒色土 ローム粒少量混入。しまりあり。(陥床)



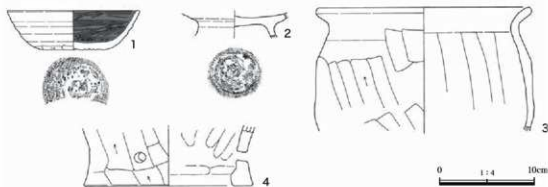
東カマド 土解説明

- 1 黒褐色土 1mm以下のローム粒少量混入。
- 2 黒褐色土 1~2mmのローム粒、微細なローム粒少量混入。
- 3 褐色土 2~3mmの焼土粒少量混入。
- 4 褐色土 1mm以下の焼土粒・七本桜粒石粒少量混入。
- 5 褐色土 焼土粒少量混入。しまりなし。

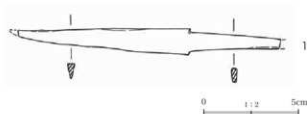
北カマド 土解説明

- 1 暗褐色土 1~2mm大のローム粒・焼土粒少量混入。
- 2 褐色土 1~2mm大のローム粒やや多量、1~3mmの焼土粒少量混入。
- 3 暗褐色土 1~3mm大のローム粒・焼土粒多量、3~5cm大のローム塊少量混入。
- 4 暗褐色土 2~3mm大の焼土粒、1mm前後のローム粒少量混入。
- 5 暗褐色土 1~5mm大の焼土粒多量混入。
- 6 赤褐色土 焼土粒多量混入。
- 7 黄褐色土 ローム粒多量混入。
- 8 暗褐色土 七本桜粒石粒少量混入。
- 9 暗褐色土 ローム粒やや多量、焼土粒少量混入。

第266図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-23 実測図



第267図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-23出土遺物



第268図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-23出土鉄製品

第107表 北ノ内遺跡(2次調査) SI-23出土遺物観察表

№	器種 器形	大きさ(cm)	胎土(石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 坏	口径:(13.8) 底径:6.3 器高:4.2	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒、 小礫少量	内:口縁~体部内面横位・ 底部二方向ヘラミガキ 外:口縁~体部クロコナ デ、体部下端手持ちヘラ ケズリ、底部回転ヘラ切 り後ヘラケズリ	内:黄褐色 外:明褐色 ・良	1/2	内面黒色処理。	東カマド 内面被熱赤 化
2	土師器 高台坏	口径:— 底径:— 器高:(2.7)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内:底部クロコナデ後ヘ ラナデ 外:ヘラ切り後貼付高台 後ナデ	内:にぶい黄褐色 外:灰黄褐色 ・良	底部の み	高台端部全損。	SI-23 北カ マド 覆土
3	土師器 甕	口径:(22.0) 底径:— 器高:(13.0)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴 部縦位ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴 部斜位ヘラケズリ後ヘラ ナデ	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色 ・良	口縁~ 胴部上 半 1/4		北カマド・ 覆土
4	土師器 甕	口径:— 底径:(17.6) 器高:(6.4)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒、小礫	内:胴部縦・斜位ヘラナ デ、下半横位ヘラケズリ 外:胴部縦位ヘラケズリ	内:にぶい黄褐色 外:浅黄褐色 ・良	底部1/6	胴部下半にφ1.1cmの 焼成前穿孔。	SI-23 覆土

第108表 北ノ内遺跡(2次調査) SI-23出土鉄製品観察表

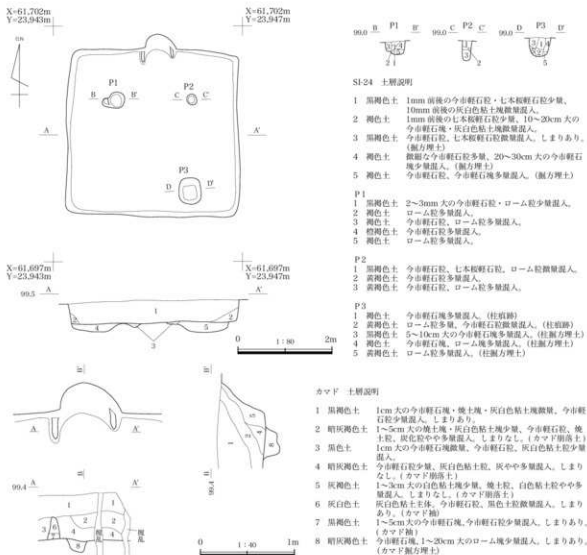
№	器種 器形	大きさ(cm)	特徴	残存率	備考
1	刀子	長さ:(13.7) 厚さ:— 重量:17.33g	切先を僅かと基部を欠く。棟は最大幅が4mmで角棟・平造である。 刃部は先端ほど短軸長が狭くなり鋭い切先となる。区は両区で棟側・ 刃側ともに2mm程度の段をもつ。	先端僅か・基部 欠損	

SI-24 (第 269 図、図版三七)

調査区南西部の 12.79 グリッドに位置する。谷埋土の黒色土上に構築されている。

平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約 3.65m、東西約 3.50m で、面積は約 12.8 m² である。主軸の振れは N-1°-E である。埋土は黒褐色を呈し、自然堆積と思われる。残存する壁の高さは、東壁 46.0cm、西壁 45.9cm、南壁 44.2cm、北壁 49.3cm で、外傾して立ち上がる。床は、掘方を褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは 4.0~20.0cm を測る。壁際溝は確認されていない。柱穴は、主柱穴 P1~3 を確認した。規模は P1:46.0×34.0cm、深さ 27.0cm。P2:28.0×25.0cm、深さ 41.0cm。P3:54.0×48.0cm、深さ 38.0cm である。カマドは北壁中央に構築され、灰白色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅 12.0~14.0cm、長さ 14.0~28.0cm、高さ約 24.0cm で、両袖間の幅は約 62.0cm である。カマド掘方は深さ 16.0cm、北壁への突出は 28.0cm である。

出土遺物は、土師器環 7 点 45g、土師器甕 96 点 1,926g、須恵器环蓋 4 点 57g、須恵器环 1 点 8g、須恵器甕 2 点 161g、総量 110 点 2,197g と自然礫 178g が出土した。遺物は細片ばかりで建物跡の時期は不明である。



第 269 図 北ノ内遺跡 (2次調査) SI-24 実測図

SI-25 (第270～272図、第109・110表、図版三七・四八)

調査区南西部の12-80グリッドに位置する。谷埋土の黒色土上に構築され、残存状況は悪い。

平面形は、やや東西に長い長方形を呈する。規模は南北約2.80m、東西約2.55mで、面積は約7.1㎡である。主軸の振れはN-7°-Eである。

埋土は僅かに黒褐色土を確認した。

残存する壁の高さは、東壁4.6cm、西壁2.5cm、南壁1.7cm、北壁8.7cmで、外傾して立ち上がる。

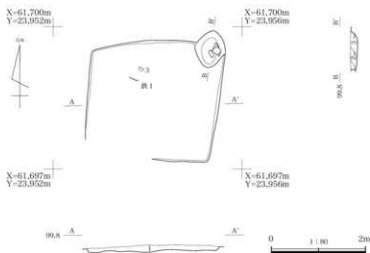
床は、掘方底面を床面とし、やや凹凸がみられる。柱穴、梯子穴、壁際溝等は確認できなかった。

カマドは北東コーナー部に構築され、袖は確認できなかった。北壁への突出は26.0cm。

遺物出土状況は、カマド内から土師器環、建物中央から鉄製品（ヤリガンナ）が出土している。

出土遺物は、土師器環45点168g、土師器甕97点1.382g、土師器手捏ね土器1点9g、須恵器環3点10g、須恵器甕7点825g、鉄製品（ヤリガンナ）1点17.6g、総量154点2.412gと自然礫59gが出土した。ヤリガンナは、建物中央やや北西寄りの床面より僅かに浮いた位置で出土した。残存長15.4cm、最大幅2.4cmで、木質が遺存する。

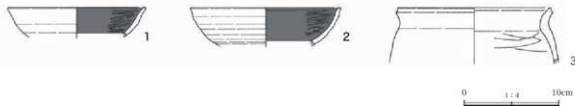
建物跡の時期は土師器環の特徴から9世紀後葉である。



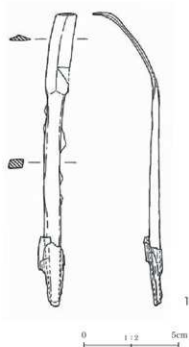
SI-25 土壁説明

- 1 黒褐色土 今市軽石殻、七本板軽石殻、焼土殻微量、しまりあり。
- 2 黒褐色土 灰化物質・焼土殻微量、しまりあり。
- 3 赤褐色土 1~5cm 尺の焼土塊主体、七本板軽石殻 微量混入、しまりなし。
(カマド内壁埋込土)

第270図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-25実測図



第271図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-25出土遺物



第 272 図 北ノ内遺跡（2次調査）SI-25 出土鉄製品

第 109 表 北ノ内遺跡（2次調査）SI-25 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 環	口径:(14.4) 底径:— 器高:(3.1)	砂粒少量	内:口縁～体部ヘラミガキ 外:口縁～体部ロクロナデ	内:黒褐色 外:にふい・黄褐色・良	口縁部 1/9	内面黒色処理するも変色。	カマド 小片
2	土師器 環	口径:(15.8) 底径:— 器高:(4.0)	透明粒, 砂粒	内:口縁～体部ヘラミガキ 外:口縁～体部ロクロナデ	内:黄灰色 外:にふい・黄褐色・やや不良	口縁部 1/10	内面黒色処理するも変色。	カマド 小片
3	土師器 甕	口径:(16.0) 底径:— 器高:(6.0)	ガラス光沢 黒色粒, 透明粒	内:口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ	内:にふい・黄褐色 外:にふい・黄褐色・良	口縁部 1/5	口唇端部外面に凹面を作る。	小片

第 110 表 北ノ内遺跡（2次調査）SI-25 出土鉄製品観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	ヤリガ ナ	長さ:15.4 厚さ:— 重量:17.60g	刃部は直線的な茎部から 30 度程度の角度で内側に反り、刃の先端まで刃幅を大きく狭めない。刃幅の中軸に明瞭な筋があり、無面が内刃となる。刃部裏面は緩やかに丸みを帯びる。茎部は短軸断面が縦長の長方形で、下端部に木質が遺存する。	刃部一部欠損	

SI-26 (第 273・274 図、第 111 表、図版三八)

調査区南西部の 12-79 グリッドに位置する。谷土上の黒色土上に構築され、残存状態は悪い。

平面形は、東西方向に長い長方形を呈する。規模は南北約 2.56m、東西約 3.6m で、面積は約 9.2 m²である。主軸の振れは N-2°-W である。

埋土は僅かで、黒褐色を呈する。

残存する壁の高さは、東壁 8.8cm、西壁 2.0cm、南壁 3.8cm、北壁 9.2cm で外傾して立ち上がる。

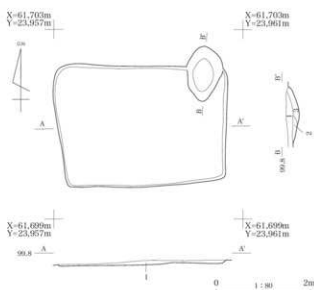
床は、掘方底面を床面とし、東半に僅かに硬化面が見られる。柱穴、梯子穴、壁際溝等は確認できなかった。

カマドは北壁東隅に構築されるが、遺存状況は悪く若干の焼土の堆積を確認したのみである。北壁への突出は 42.0cm である。

出土遺物は、土師器環 28 点 194g、土師器甕

55 点 1.195g、土師器埴 2 点 32g、須恵器環 1 点 8g、須恵器甕 1 点 76g、総量 87 点 1.505g と自然礫 18g が出土している。

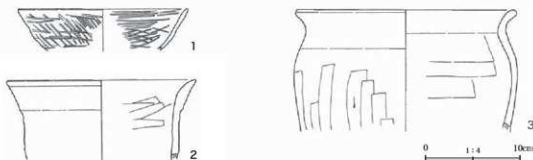
建物跡の時期は 9 世紀後半か。



SI-26 土器説明

- 1 黒褐色土 今市軽石段、七本板軽石段少量、焼土粒微量混入、しまりあり。
- 2 暗赤褐色土 焼土粒少量混入、しまりあり。
- 3 赤褐色土 1~5cm 程度の焼土塊主体、小礫少量混入、しまりなし。
(カマド崩落土)

第 273 図 北ノ内遺跡 (2 次調査) SI-26 実測図



第 274 図 北ノ内遺跡 (2 次調査) SI-26 出土遺物

第 111 表 北ノ内遺跡 (2 次調査) SI-26 出土遺物観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 環	口径 (18.0) 底径: — 器高: (4.4)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒、小礫	内: 口縁~体部粗いヘラミ ガキ 外: 口縁~体部クロコナデ 後ヘラミガキ、体部下端 横位回転ヘラケズリ後粗 いヘラミガキ	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁~体 部 1/4		カマド覆土 器表面剥落、 小片
2	土師器 甕か	口径 (20.0) 底径: — 器高: (8.5)	透明粒、砂 粒、小礫	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内: 暗褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁~胴 部 1/6	歪みあり。	覆土 小片
3	土師器 甕	口径 (22.8) 底径: — 器高 (12.8)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 横位ヘラケズリ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁~胴 部 上半 1/12		カマド覆土 小片

SI-28 (第 275・276 図、第 112 表、図版三八・四九)

調査区北部の 13-78 グリッドに位置する。西側に古墳時代の竪穴建物跡 SI-27 が近接する。強く削平を受けており、残存状況は悪い。

平面形は、南北に長い方形を呈する。規模は残存値で南北約 3.00m、東西約 2.55m で、面積は約 7.7 m² である。主軸の振れは N-4° -E である。

埋土は僅かで暗褐色を呈する。

残存する壁の高さは、東壁で 7.7cm である。

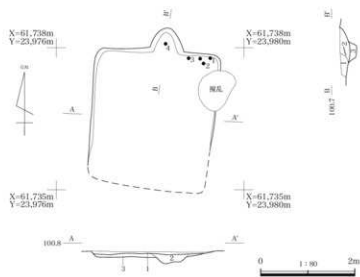
床は掘方を暗褐色・暗黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは 4.0 ~ 18.0cm を測る。柱穴、梯子穴、壁際溝等は確認できなかった。

カマドは北壁中央に構築されるが、掘方を僅かに確認したのみである。カマド掘方の深さは 32.0cm、北壁への突出は 42.0cm である。

遺物出土状況は、北東コーナーとカマド内から出土している。

出土遺物は、土師器環 3 点 294g、土師器鉢 6 点 434g、須恵器環蓋 1 点 16g、総量 10 点 744g と自然礫 1.951g が出土している。1 の土師器環は、体部外面に多文字の不明墨書がみられる。

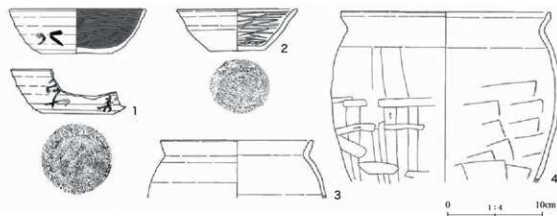
建物跡の時期は 9 世紀後葉である。



SI-28 土器説明

- 1 暗褐色土 ローム塊、1~5cm 大の今市軽石塊少量、今市軽石粒、ローム粒や少量混入。しまりあり。
- 2 暗褐色土 1~5cm 大のローム塊や中量、1~5cm 大の今市軽石塊少量混入。しまりあり。(掘方埋土)
- 3 暗黄褐色土 1~10cm 大のローム塊少量、1~5cm 大の今市軽石塊微量混入。しまりあり。(掘方埋土)

第 275 図 北ノ内遺跡 (2 次調査) SI-28 実測図



第 276 図 北ノ内遺跡 (2 次調査) SI-28 出土遺物

第112表 北ノ内遺跡(2次調査) SI-28 出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 環	口径:(14.2) 底径:7.4 器高:4.7	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内:口縁~底部ヘラミガキ 外:口縁~体部ロクロナデ、 体部下端回転ヘラケズリ、 底部回転ヘラケズリ	内:黒色 外:黒~にぶい黄 褐色・良	4/5	体部外面に黒書。内面 黒色処理。	
2	土師器 環	口径:12.5 底径:5.7 器高:4.4	黒色粒・透 明粒・砂粒 少量	内:口縁~底部ヘラミガキ 外:口縁~体部ロクロナ デ、体部下端回転ヘラケ ズリ、底部回転ヘラ切り 後一定方向ヘラケズリ	内:オリブ褐色 外:暗灰黄色 ・やや不良	2/3		
3	土師器 甕	口径:(15.8) 底径:— 器高:(6.2)	ガラス光沢 黒色粒・砂 粒少量、透 明粒	内:口縁~胴部ヨコナデ は回転を利用したか 外:口縁~胴部ヨコナデ は回転を利用したか	内:にぶい褐色 外:にぶい褐色 ・良	口縁部 1/7	小形。僅かに凸みあり。	
4	土師器 甕	口径:(21.8) 底径:— 器高:(18.0)	ガラス光沢 黒色粒・雲 母微量、砂 粒	内:口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラケズリ	内:褐色 外:にぶい赤褐色 ・良	口縁部 一部 胴部上 半 1/5	口唇端部外面に僅かに 凹面を作る。	カマド内

SI-29 (第277・278図、第113表、図版三八・四八)

調査区北部の13-78グリッドに位置する。奈良・平安時代の掘立柱建物跡SB-9・10と重複し、掘立柱建物跡が新しい。

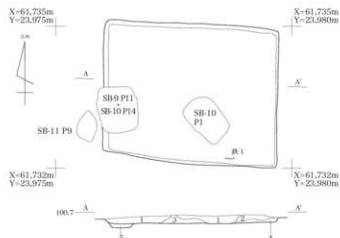
平面形は、ほぼ長方形である。規模は南北約3.00m、東西約3.70mで、面積は約11.1㎡である。主軸の振れはN-2°-Eである。

埋土は褐色・黒褐色を呈する4層に別けられ自然堆積と考えられる。

残存する壁の高さは、東壁11.9cm、西壁11.3cm、南壁14.6cm、北壁17.6cmで、外傾して立ち上がる。

貼は掘方底面を床面とし、平坦である。カマド、柱穴、梯子穴、壁際溝等は確認されなかった。

出土遺物は、土師器環7点52g、土師器甕10点138g、鉄製品(ヤリガンナ)1点49.35g、総量18点239gが出土している。1は南壁に近いところで出土したヤリガンナである。建物跡の時期は不明である。

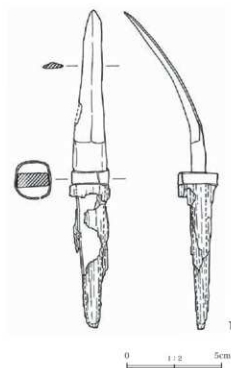


SI-29 土層説明

- 1 褐色土 1~2mm 大小市軽石粒・七本板軽石粒少量、微細なローム粒多量混入。
- 2 褐色土 ローム粒多量混入。
- 3 赤褐色土 灰白色土・塊多量混入。
- 4 黒褐色土 ローム粒や中多量混入。
- 5 褐色土 市軽石粒、七本板軽石粒少量、ローム粒多量混入。

0 1:80 2m

第277図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-29 実測図



第 278 図 北ノ内遺跡（2次調査）SI-29 出土鉄製品

第 113 表 北ノ内遺跡（2次調査）SI-29 出土鉄製品観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	ヤリガン ナ	長さ：16.8 厚さ：— 重量：49.35g	刃部は直線的な茎部から 25 度程度の角度で内側に反る。刃は茎部との境から刃幅を狭めながら先端へ伸びる。刃幅の中軸に明確な筋があり、側面が両刃となる。刃部表面は僅かに丸みを帯びる。柄縁の真金具が遺存しており、茎部には木質が残る。	刃部僅かに欠損	

SI-30 (第279～281図、第114・115表、図版三八・四九・五〇)

調査区北部の13-78グリッドに位置する。奈良・平安時代の掘立柱建物跡SB-10と重複し、SB-10が新しい。西半が田面形成のため削平されている。

平面形は、方形を呈すると思われる。規模は、確認された範囲で南北約4.90m、東西約2.62mで、面積は約12.8㎡である。主軸の振れはN-2°-Wである。

埋土は褐色土で、自然堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁22.1cm、南壁19.0cm、北壁23.3cmで外傾して立ち上がる。

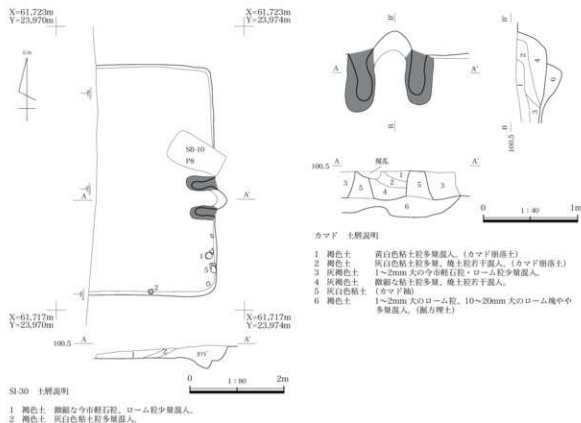
床は、掘方底面を床面とし、平坦でカマド前面に硬化面が形成されている。柱穴、梯子穴、壁際溝等は確認されなかった。

カマドは東壁やや南寄りに構築され、灰白色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅28.0～30.0cm、長さ50.0～60.0cm、高さ約28.0～29.0cmで、両袖間の幅は約60.0cmである。カマド掘方は深さ22.0cmで、北壁への突出は20.0cmである。

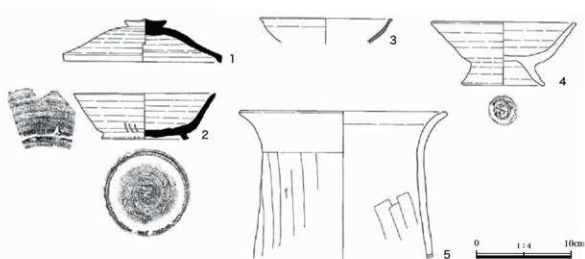
遺物出土状況は、いずれも南東コーナー付近から出土している。

出土遺物は、土師器環3点325g、土師器甕42点1.971g、須恵器環蓋1点247g、須恵器環1点280g、灰釉陶器碗1点18g、鉄製品(鐵)1点34.55g、総量49点2.875gと縄文式土器1点30gが出土している。

須恵器は、原東1～3号窯段階と思われる、8世紀第2四半期である。灰釉陶器・土師器高台坏と大きく時期差が生じているが、後者は検出面での出土で、出土状況から須恵器の時期を建物跡の時期とする。



第279図 北/内遺跡(2次調査) SI-30 実測図



第280図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-30 出土遺物



第281図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-30 出土鉄製品

第114表 北ノ内遺跡(2次調査) SI-30 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏蓋	楕径: 4.4 口径: 16.6 器高: 4.5	微砂粒、砂粒、小礫	内: 天井~底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、天井部回転ヘラケズリ、摘み貼付後ロクロナデ	内: 浅黄色 外: 灰黄色・やや不良	3/4		
2	須恵器 高台杯	口径: 15.0 底径: 9.0 器高: 4.9	砂粒・小礫多量	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、後貼付高台後ナデ	内: 灰色 外: 暗灰色・良	3/4	直線的に立つ。体部外面下端にヘラ記号「川」。	
3	灰釉陶器 碗	口径: (13.6) 底径: 一 器高: (2.6)	黒色粒	内: 口縁~体部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色・良	口縁部 1/8	内外面輪刷毛塗り。	検出面 量産、黒 世 90 型式、 小片
4	土師器 高台杯	口径: (15.0) 底径: 8.4 器高: 6.7	ガラス光沢 黒色粒・透 明粒・雲母 少量、砂粒	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ、体部下端ヘラナデ・ケズリ、後貼付高台	内: にぶい黄橙色 外: にぶい黄橙色・良	口縁~体部 1/3 底部はぼ 完存	安定した高台。	検出面
5	土師器 甕	口径: (22.0) 底径: 一 器高: (15.4)	砂粒・小礫 多量、透明 粒少量	内: 口縁部コナデ、胴部斜位ヘラナデか 外: 口縁部コナデ、胴部縦位ヘラケズリ	内: にぶい黄橙色 外: 褐色・良	口縁~胴部 上半 1/4		内面剥落

第115表 北ノ内遺跡(2次調査) SI-30 出土鉄製品観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	特徴	残存率	備考
1	鎌	長さ: (6.4) 厚さ: 0.3 重量: 34.55g	先端部を欠く。断面は舟楯である。基部を90度内側に折り曲げるが、棟部が8mm、刃部が3mmで、均一には曲げられていない。	先端部欠損	

SI-31 (第 282 図、図版三八)

調査区東部の 14-78 グリッドに位置する。削平を受けており、掘方埋土とカマドの痕跡を僅かに確認した。

平面形は、東西に長い方形を呈する。規模は南北約 4.41m、東西約 3.60m で、面積は約 15.9 m² である。主軸の振れは N-2° -W である。確認できた掘方の深さは 2.0 ~ 14.0cm である。柱穴、梯子穴、壁際溝等は確認できなかった。カマドは北壁中央に突出部を確認した。北壁への突出は 5.0cm である。出土遺物はなく、建物跡の時期は不明である。

SI-32 (第 283・284 図、第 116 表、図版三九)

調査区東部の 14-79 グリッドに位置する。北東部~西部にかけて攪乱により壊されている。

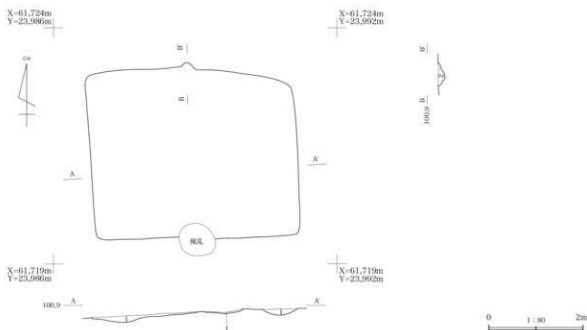
平面形は、南北に長い方形を呈する。規模は南北約 4.91m、東西約 4.28m で、面積は約 21.0 m² である。主軸の振れは N-2° -W である。

埋土は褐色土を僅かに確認した。残存する壁の高さは、東壁 14.3cm、西壁 9.5cm、南壁 1.9cm、北壁 12.5cm で、外傾して立ち上がる。床は、部分的に掘方を埋め戻し貼床とする。貼床の厚さは 12.0 ~ 20.0cm である。壁際溝、梯子穴は確認されていない。

柱穴は、主柱穴 P1 ~ 4 を確認した。規模は P1 : 53.0×47.0cm、深さ 60.0cm。P2 : 45.0×39.0cm、深さ 69.0cm。P3 : 45.0×41.0cm、深さ 46.0cm。P4 : 35.0×31.0cm、深さ 43.0cm である。

カマドは北壁中央と、東壁やや南寄りに構築されている。2 基とも袖は確認できなかった。壁への突出は北カマドが 48.0cm、東カマドが 42.0cm である。

遺物出土は、土師器環 1 点 57g、土師器甕 61 点 1,142g、須恵器環 7 点 25g、須恵器甕 5 点 245g、総量 74 点 1,469g と中近世陶磁器 1 点 8g、自然礫 30g が出土している。建物跡の時期は 10 世紀前半である。

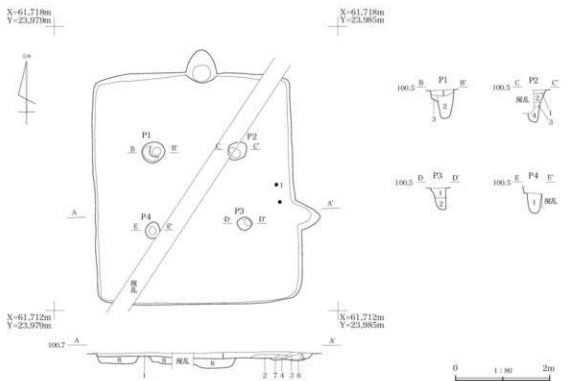


SI-31 土層説明

- 1 黒褐色土 黒色土中に 1~5mm 大のローム粒、5~8mm 大の赤色粒多量混入。しりあり。(掘方埋土)
- 2 赤褐色土 赤色土中に 2mm 大の赤色粒、1mm 大のローム粒、5~7mm 大の黒色土粒、12~15mm 大の灰白色粘土塊多量混入。しりあり。固い。(カマド火床部)

第 282 図 北/内遺跡 (2 次調査) SI-31 実測図

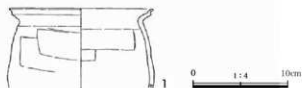
第IV章 北ノ内遺跡の2次調査



SI-32 土層説明

- | | | | | | |
|--------|--|------------------------|--------|---|---|
| 1 褐色土 | 1~2mm 大の焼土粒・粘土粒少量、微細なローム粒や多量混入。 | P2 | 1 暗褐色土 | 1~3cm 大のローム塊、ローム粒少量混入。 | |
| 2 灰褐色土 | 灰白色粘土粒多量、焼土粒、炭化物粒若干混入。 | 2 暗褐色土 | 2 | ローム塊、1~5cm 大の黒色土塊やや多量混入、しまりあり。 | |
| 3 褐色土 | 焼土粒、炭化物粒、ローム粒多量混入。 | 3 暗黄褐色土 | 3 | 1~10cm 大のローム塊主体、黒色土塊少量混入、しまりあり。 | |
| 4 灰褐色土 | 灰白色粘土粒多量、焼土粒若干混入。(カマド崩落土) | 4 褐色土 | 4 | 1~10cm 大のローム塊やや多量、1~3cm 大の黒色土塊少量混入、しまりなし。 | |
| 5 褐色土 | 灰白色粘土粒、焼土粒多量混入。(カマド崩落土) | P3 | 1 暗褐色土 | 1 | 今市野石礎、1~10cm 大の黒色土塊多量混入、しまりあり。 |
| 6 赤褐色土 | 焼土屑 (カマド火床部) | 2 褐色土 | 2 | 1~10cm 大のローム塊やや多量、1~3cm 大の黒色土塊少量混入、しまりなし。 | |
| 7 黒褐色土 | 1cm 前後のローム塊少量混入。 | P4 | 1 褐色土 | 1 | 1~10cm 大のローム塊やや多量、1~3cm 大の黒色土塊少量混入、しまりなし。 |
| 8 褐色土 | 今市野石礎、灰白色粘土粒、10~20mm 大のローム塊、1cm 前後の黒色土塊微量混入。(風方埋土) | | | | |
| P1 | 1 暗褐色土 | 1~3cm 大のローム塊、ローム粒少量混入。 | | | |
| 2 褐色土 | 1~5cm 大のローム塊やや多量混入、しまりなし。 | | | | |
| 3 暗褐色土 | ローム塊、1~5cm 大の黒色土塊やや多量混入、しまりあり。 | | | | |

第 283 図 北ノ内遺跡 (2次調査) SI-32 実測図



第 284 図 北ノ内遺跡 (2次調査) SI-32 出土遺物

第 116 表 北ノ内遺跡 (2次調査) SI-32 出土遺物観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 甕	口径:(15.0) 底径:— 器高:(8.5)	雲母、微砂粒、砂粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ	内:にぶい褐色 外:褐色 ・良	口縁部 1/2	小形。口縁部外面に凹面を作る。	

SI-33 (第285図、図版三九)

調査区中央部の13・79グリッドに位置する。強く削平を受けており、掘方埋土と僅かなカマドの痕跡のみ確認した。複数の埴土により大部分が埋されている。

平面形は、やや歪んだ方形を呈する。規模は残存が南北約2.90m、東西約2.65mで、面積は約7.7㎡である。主軸の振れはN2°・Wである。

確認された掘方の深さは4.0～6.0cmである。柱穴、梯子穴、壁際溝等は確認されなかった。

カマドは北壁中央に構築され、北壁への突出は4.0cmである。出土遺物はなく、建物跡の時期は不明である。

SI-34 (第286～288図、第117・118表、図版三九・四九)

調査区東部の14・79グリッドに位置する。南半は田面形成のため削平されている。

平面形は、やや歪みのある方形を呈する。規模は南北約3.21m、東西約7.40mで、面積は約23.8㎡である。主軸の振れはN1°・Eである。

埋土は僅かに褐色土を確認した。

残存する壁の高さは、東壁18.3cm、西壁7.1cm、南壁12.5cm、北壁19.2cmである。

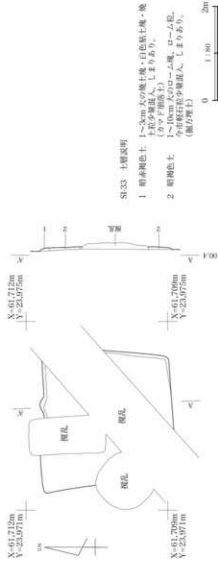
床は、一部に暗褐色土の貼床を施す。貼床の厚さは6.0～8.0cmである。壁際溝は確認されなかった。

柱穴は、主柱穴P1～4を確認した。P3・4はかろうじて柱穴下部が残存していた。規模はP1：61.0×48.0cm、深さ83.0cm、P2：80.0×78.0cm、深さ86.0cm、P3：40.0×39.0cm、深さ42.0cm、P4：38.0×36.0cm、深さ45.0cmである。P1・2で柱痕跡が確認された。

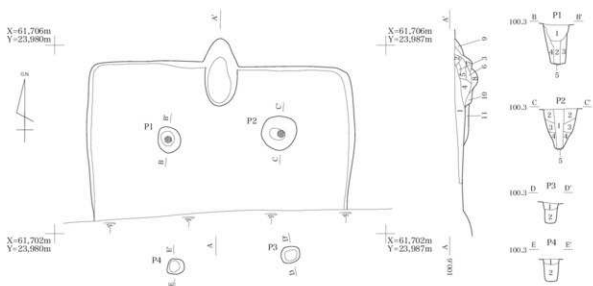
カマドは北壁中央に掘方を確認したが、軸は確認できなかった。カマド掘方の深さは12.0cm、北壁への突出は56.0cmである。

出土遺物は、土師器環5点227g、土師器甕32点286g、土師器壺1点19g、須恵器環8点99g、須恵器甕1点6g、石製防蹠車1点45g、鉄製品(棒状)1点2.16g、総量49点744gが出土している。

1は須恵器環で、益子滝ノ入・倉見沢段磨、9世紀中葉である。



第285図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-33東測図

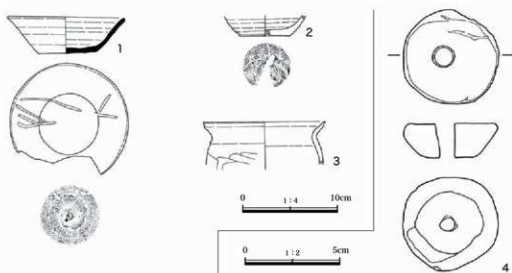


SI-34 土層説明

- | | |
|---------|---|
| 1 褐色土 | 5~10mm 大の灰白色粘土塊若干、微細な灰白色粘土粒多量、焼土粒散見。土層厚さ不明。 |
| 2 褐色土 | 灰白色粘土粒、焼土粒やや多量混入。 |
| 3 灰白色土 | 灰白色粘土主体、しまりあり。(カマド崩落土) |
| 4 褐色土 | 5mm 前後の焼土粒少量、灰白色粘土粒やや多量混入。 |
| 5 灰白色土 | 細かい灰白色粘土粒、焼土粒少量混入、しまりなし。(カマド崩落土) |
| 6 褐色土 | 焼土粒、灰白色粘土粒多量混入、しまりなし。 |
| 7 褐色土 | 5~10mm 大のローム塊・焼土粒多量混入、しまりなし。 |
| 8 灰褐色土 | 灰多量、焼土粒やや多量混入、しまりなし。 |
| 9 褐色土 | 灰白色粘土粒、焼土粒多量混入。 |
| 10 黄褐色土 | ローム塊、ローム粒多量混入。(カマド崩落土) |
| 11 暗褐色土 | 5mm 前後の焼土粒、灰白色粘土粒やや多量混入。(掘方埋土) |
-
- | | | |
|----|--------|---|
| P1 | 1 暗褐色土 | ローム粒、今市軽石粒少量、1~3cm 大のローム塊散見混入、しまりなし。(柱基礎穴埋土) |
| | 2 灰褐色土 | 1~3cm 大のローム塊、ローム粒やや多量混入、しまりなし。(柱基礎) |
| | 3 灰褐色土 | 1~10cm 大のローム塊、ローム粒やや多量混入、しまりなし。(掘方埋土) |
| | 4 黄褐色土 | 1~20cm 大のローム塊主体、1~5cm 大の黒色土塊少量混入、しまりあり。(掘方埋土) |
| | 5 黄白色土 | 白色粘土とロームの混合土、しまりあり。(あたりか) |

- | | | |
|----|---------|--|
| P2 | 1 暗褐色土 | 1~3cm 大のローム塊、ローム粒少量、今市軽石粒散見混入、しまりなし。(柱基礎) |
| | 2 暗褐色土 | 1~3cm 大のローム塊・1~3cm 大の黒色土塊やや多量混入、しまりあり。(掘方埋土) |
| | 3 暗黄褐色土 | 1~2cm 大のローム塊少量混入、しまりなし。(掘方埋土) |
| | 4 灰褐色土 | 1~10cm 大のローム塊、1~5cm 大の灰褐色土塊少量混入、しまりあり。(掘方埋土) |
| | 5 黄白色土 | 白色粘土とロームの混合土、しまりあり。(あたりか) |
-
- | | | |
|----|---------|--------------------------------------|
| P3 | 1 暗褐色土 | ローム粒・今市軽石粒少量、1~3cm 大のローム塊散見混入、しまりなし。 |
| | 2 暗黄褐色土 | 1~10cm 大のローム塊やや多量混入、しまりあり。 |
-
- | | | |
|----|---------|--------------------------------------|
| P4 | 1 暗褐色土 | ローム粒・今市軽石粒少量、1~3cm 大のローム塊散見混入、しまりなし。 |
| | 2 暗黄褐色土 | 1~10cm 大のローム塊やや多量混入、しまりあり。 |

第 286 図 北ノ内遺跡 (2次調査) SI-34 実測図



第 287 図 北ノ内遺跡 (2次調査) SI-34 出土遺物



第288図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-34出土鉄製品

第117表 北ノ内遺跡(2次調査) SI-34 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ(cm)	胎土(石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環	口径:12.2 底径:6.3 器高:4.0	黒色粒、小礫	内:口縁~底部ロクロナデ 外:口縁~体部ロクロナデ、 底部ヘラ切りのまま	内:灰オリーブ色 外:灰色 ・良	4/5	内体部外面から底部に 火難が残る。黒色粒が 焼成時に融解し、その 量は特徴的。 小さな底径。	益子
2	土師器 環	口径:一 底径:5.2 器高:(2.2)	黒色粒、透明 粒、砂粒	内:体~底部ロクロナデ 外:体部ロクロナデ、底部 回転糸切りのまま	内:褐色 外:褐色 ・やや不良	底部 1/12		器表面剥落
3	土師器 環	口径:(13.4) 底径:一 器高:(4.6)	微砂粒・砂粒 多量	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラクズリ	内:明赤褐色 外:明赤褐色 ・やや不良	口縁部 1/5	小形。口縁部外面に 凹面を作る。	カマド
4	石製 紡錘車	上径:5.1 下径:3.6 厚さ:1.8 孔径:0.8~1.0 重量:45.00g	泥岩		外:灰色 ・やや不良	完形		

第118表 北ノ内遺跡(2次調査) SI-34 出土鉄製品観察表

No	器種 器形	大きさ(cm)	特徴	残存率	備考
1	棒状鉄製 品	長さ:2.11 厚さ:0.8 重量:2.16g	短軸断面が方形。長軸方向が僅かに曲がり、下端部は平坦。	先端部欠損	覆土

SI-36 (第289図、図版三九)

調査区東部の15-79グリッドに位置する。強く削平を受けた上、攪乱によって大部分が破壊されている。北東コーナーとカマドを確認したが、そのほかの大部分は掘方埋土のみを確認した。

平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約3.13m、東西約3.09mで、面積は約9.7㎡である。主軸の振れはN-11°-Wである。残存する壁の高さは、北壁25.7cmである。掘方埋土は暗褐色を呈し、柱穴、梯子穴、壁際溝等は確認されなかった。

カマドは北壁中央に構築され、白色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅20.0~28.0cm、長さ20.0~36.0cm、高さ約12.0~28.0cmで、両袖間の幅は約53.0cmである。北壁への突出は28.0cm。

出土遺物はなく、建物跡の時期は不明である。

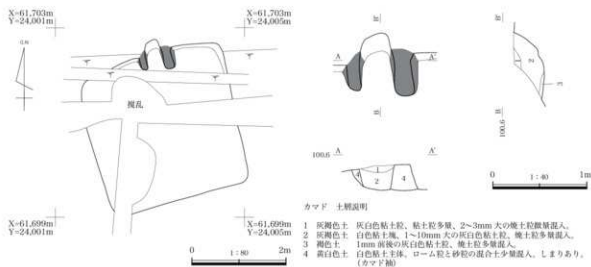
SI-38 (第290図、図版三九)

調査区南部の13-80グリッドに位置する。SI-37・39と重複し、いずれよりもSI-38が新しい。

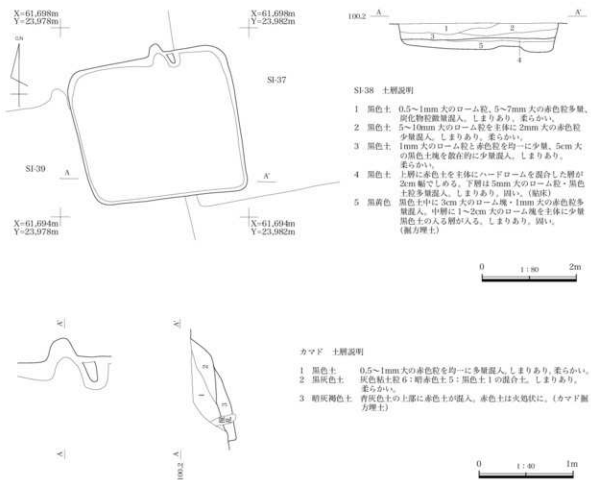
平面形は、東西に長いやや歪んだ方形を呈する。規模は南北約2.74m、東西約3.42mで、面積は約9.4㎡である。主軸の振れはN-8°-Wである。

埋土は黒色を呈する3層に別けられる。残存する壁の高さは、東壁10.4cm、西壁37.2cm、南壁37.9cm、北壁37.5cmである。床は、掘方を黒色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは12.0~24.0cmを測る。柱穴、梯子穴、壁際溝等は確認できなかった。

カマドは北壁やや東に構築され、袖は東側のみ残存する。幅27.0cm、長さ28.0cmである。カマド掘方は



第 289 図 北ノ内遺跡 (2次調査) SI-36 実測図



第 290 図 北ノ内遺跡 (2次調査) SI-38 実測図

深さ 14.0cm で、北壁への突出は 18.0cm である。

出土遺物は、土師器環 8 点 137g、土師器甕 76 点 2,279g、土師器埴 1 点 10g、須恵器杯蓋 2 点 29g、須恵器環 1 点 9g、須恵器甕 9 点 427g、総量 97 点 2,891g と自然礫 74g が出土している。

建物跡の時期は 8 世紀第 3 四半期である。

SI-41 (第 291・292 図、第 119 表、図版三五・三六・四九)

調査区中央の 13-79 グリッドに位置する。田面形成により西半を削平され、古墳時代の竪穴建物跡 SI-40 と重複する。掘立柱建物跡 SB-7 とも重複し、新旧関係は SI-40 < 41 < SB-7 である。

平面形は、不整形を呈する。規模は残存値で南北約 5.28m、東西約 1.55m、面積は約 8.2 m² である。主軸の振れは N-90°-W である。

埋土は僅かに黒褐色土を確認した。

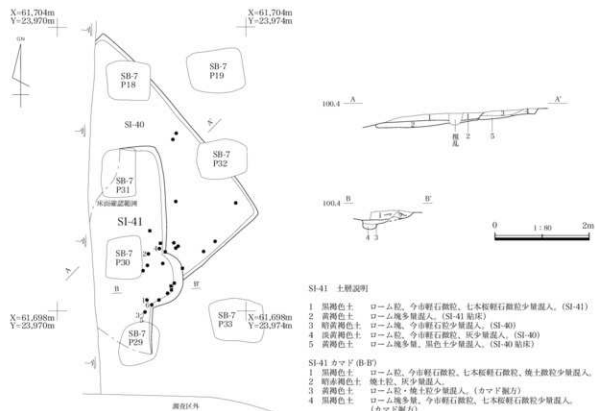
残存する壁の高さは、東壁 10.0cm、北壁 4.9cm である。

貼床は、掘方を黄褐色土で埋め戻して貼床とし、貼床の厚さは 4.0 ~ 12.0cm を測る。柱穴、梯子穴、壁際溝等は確認できなかった。

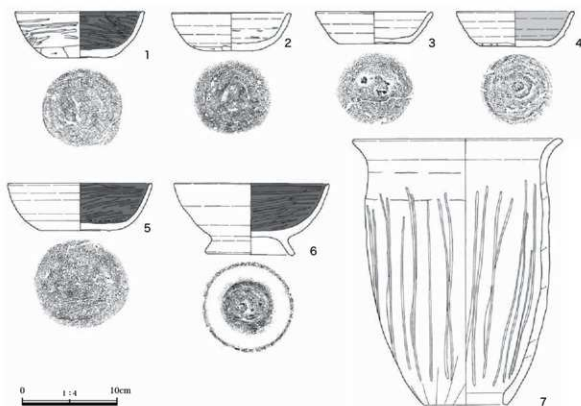
カマドは東壁南寄り構築されているが、袖は残っていない。カマド掘方は深さ 20.0cm で、東壁への突出は 56.0cm である。

遺物出土状況は、カマド周辺から環類が集中して出土している。またカマド袖材に利用したと思われる自然礫が出土している。

出土遺物は、土師器環 10 点 1,343g、土師器甕 51 点 2,315g、土師器甎 1 点 883g、総量 62 点 4,541g と



第 291 図 北/内遺跡 (2 次調査) SI-41 実測図



第 292 図 北ノ内遺跡 (2次調査) SI-41 出土遺物

第 119 表 北ノ内遺跡 (2次調査) SI-41 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 杯	口径: 13.4 底径: 6.8 器高: 4.9	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒 小礫	内: 口縁~底部ヘラミガキ 外: 口縁~体部ヨコナデ後 横位・底部一定方向ヘラ ミガキ、体部下端手持ち ヘラケズリ、底部不定方 向ヘラケズリ	内: 黒色 外: にぶい・黄褐色 ・良	2/3	内面黒色処理するも一 部変色。	
2	土師器 杯	口径:(12.4) 底径: 6.2 器高: 4.1	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒 小礫	内: 口縁~体部クロクロナ デ、底部一定方向・内側ナ デ外・口縁~体部クロクロナ デ、体部下端手持ちヘラケズリ、 底部一定方向ヘラケズリ	内: にぶい・黄褐色 外: にぶい・黄褐色 ・やや不良	口縁~体 部 1/2 底部完存	ナデが軽く内面に積み 上げ痕を残す。	
3	土師器 杯	口径: 12.0 底径: 7.0 器高: 3.4	砂粒、小礫	内: 口縁~底部クロクロナ デ外: 口縁~体部クロクロナ デ、底部回転ヘラ切りのみ	内: 褐色 外: にぶい・褐色 ・良	口縁部 1/4 欠損	内外面漆仕上げか。	
4	土師器 杯	口径: 12.2 底径: 7.2 器高: 3.8 重量: 154.0g	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒 小礫	内: 口縁~底部クロクロナ デ外: 口縁~体部クロクロナ デ、体部下端~底部回転 手持ちヘラケズリ、底部 回転ヘラ切り	内: 黒色 外: 浅黄褐色 ・良		内外面漆仕上げか。	
5	土師器 杯	口径: 15.0 底径: 8.5 器高: 5.0	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒 小礫	内: 口縁部傾位・体部斜位・ 底部一定方向ヘラミガキ 外: 口縁~体部クロクロナ デ、体部下端回転ヘラケ ズリ、底部手持ちヘラケ ズリか	内: 黒色 外: 浅黄色 ・良	口縁~体 部 2/3 底部完存	内面黒色処理。	
6	土師器 高台杯	口径: 16.3 底径: 9.0 器高: 7.6 重量: 356.0g	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒 小礫	内: 口縁~体部傾位ヘラミ ガキ 底部ヘラミガキ 外: 口縁~底部クロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 回転ヘラケズリ、後脚付 高台後ナデ	内: にぶい・黄褐色 外: にぶい・黄褐色 ・やや不良	口縁部一 部欠損	やや大形。 内面黒色処理か。	器表面剥落
7	土師器 甌	口径:(21.5) 底径: 8.6 器高: 28.2	砂粒・小礫 微量	内: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ後ヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ後ヘラミガキ	内: にぶい・黄褐色 外: にぶい・黄褐色 ・良	口縁部 1/8 胴部ほぼ 完存	無底式。	覆土

自然礫 11.078g が出土している。

1～5は土師器環、6は埴型の土師器高台環、7は土師器甗である。

建物跡の時期は9世紀後葉である。

SI-44 (第293～295図、第120表、図版三九・四九・五〇)

調査区南東部の14-80グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-45、掘立柱建物跡SB-14と重複し、いずれよりもSI-44が古い。谷埋土の黒色土上に構築されている。

平面形は方形を呈する。規模は南北約4.75m、東西約4.72m、面積は約22.4㎡である。主軸の振れはN5°-Wである。

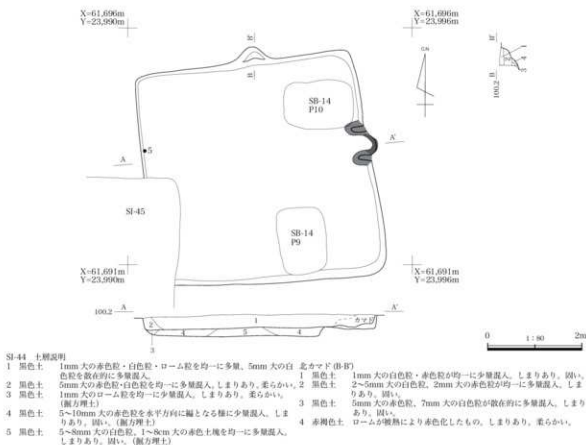
埋土は黒色土で人為堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁37.9cm、西壁41.0cm、南壁36.0cm、北壁39.1cmで、外傾して立ち上がる。

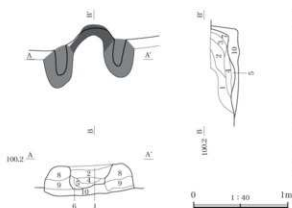
床は、掘方を黒色土で埋め戻し貼床とし、掘方の厚さは12.0～20.0cmを測る。柱穴、梯子穴、壁際溝等は確認できなかった。

カマドは北壁中央と東壁中央に構築され、北カマドは袖が残存せず旧カマドと思われる。北カマドの北壁への突出は28.0cmである。東カマドは暗灰色土で構築された両袖が残存し、幅30.0cm、長さ28.0～30.0cm、高さ24.0～26.0cmで、両袖間の幅は約64.0cmである。掘方は深さ16.0cm、東壁への突出は16.0cmである。

出土遺物は、土師器環7点312g、土師器甗115点3.330g、土師器鉢2点99g、須恵器环蓋3点460g、



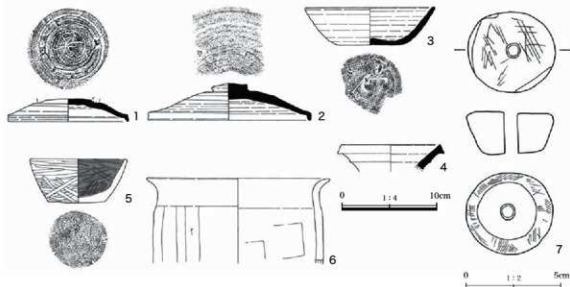
第293図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-44実測図



第294図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-44カマド実測図

カマド 土層説明

- 1 白灰色土 白色粘土中に赤色土少量混入。しまりあり。固い。(カマド附高土)
- 2 暗灰色土 灰色土中に白色土塊、2mm大の赤色土粒・褐色粒を均一に多量混入。しまりあり。固い。(カマド附高土)
- 3 黒灰色土 3mm大の赤色粒少量混入。部分的に青灰色土が入る。しまりあり。柔らかい。
- 4 褐色土 被熱して白色粘土が褐色化したもの。しまりあり。柔らかい。(煙道内側壁。天井・底面が崩落で一緒になったもの)
- 5 暗灰色土 青灰色粒(1mm大)に10mm大の赤色粒が少量混入。(煙道構築材)
- 6 暗灰色土 1mm大の赤色粒・2mm大の白色粒を灰色粘土中に多量混入。しまりあり。固い。(開口部の基部構築材)
- 7 暗白色土 黒色土少量混入。しまりあり。柔らかい。
- 8 暗灰色土 5mm大の赤色粒。10mm大の白色粒を散在的に多量混入。しまりあり。固い。(カマド脚)
- 9 暗灰色土 1mm大のローム粒。2mm大の白色粒・黒色土を散在的に多量混入。しまりあり。固い。(カマド脚)
- 10 黒色土 2mm大の白色粒・赤色粒を均一に少量混入。(カマド裏方埋土)



第295図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-44出土遺物

第120表 北ノ内遺跡(2次調査) SI-44 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏蓋	桶径: 一 口径: 12.6 器高: 2.4	砂粒、小礫	内: 天井→根部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、天井部回転ヘラケズリ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	2/3	天井部内面中央に指頭圧痕あり。環状つまみ割落痕あり。頂部外面にヘラ記号。	
2	須恵器 坏蓋	桶径: 3.9 口径: 16.9 器高: 3.9	黒色粒、砂粒、小礫	内: 天井→根部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、天井部回転ヘラケズリ、摘み貼付後ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	1/2	体部外面にヘラ記号「1」。	カマド 覆土
3	須恵器 坏	口径: (13.4) 底径: (7.2) 器高: 4.0	砂粒、小礫	内: 口縁→底部ロクロナデ 外: 口縁→体部ロクロナデ、底部回転ヘラ切り後一定方向ヘラケズリ	内: オリーブ黒色 外: オリーブ黒色 ・良	1/4	底部外面にヘラ記号「<」。	
4	須恵器 甌瓶	口径: (10.4) 底径: 一 器高: (2.8)	黒色粒	内: 口縁部ロクロナデ 外: 口縁部ロクロナデ	内: 暗灰黄色 外: 暗灰黄色 ・良	口縁部 1/5	内外面自然釉付着。	小片
5	土師器 坏	口径: 10.0 底径: 6.1 器高: 4.6 重量: 166.0g	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内: 口縁→底部ヘラミガキ 体部細かいヘラミガキ 外: 口縁→体部幅広い粗いヘラミガキ、底部不定方向ヘラケズリ	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	完形	内面黒色処理。	

6	土師器 甕	口径:(19.0) 底径:一 器高:(9.0)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒	内:口縁部ヨコナデ、脚部 横位ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、脚部 縦位ヘラケズリ	内:にぶい橙色 外:にぶい橙色 ・良	口縁~脚 部上半 1/9		
7	石製品 紡錘車	上径:4.3 下径:3.0 厚さ:2.2 孔径:0.6 重量:64.00g	蛇紋岩		外:暗灰黄色	定形	磨痕多数残るも表面は 研磨され光沢あり。	

須恵器環4点161g、須恵器甕2点242g、須恵器壺1点22g、石製紡錘車1点64g、総量134点4.690gと自然礫155gが出土している。

須恵器は益子原東2号窯段階で、8世紀第3四半期である。

SI-45 (第296～298図、第121表、図版四〇・五〇)

調査区南東部の14-80グリッドに位置する。SI-20と並ぶ大型の竪穴建物跡である。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-44、同じく掘立柱建物跡SB-50と重複し、新旧関係はSI-44<45<SB-50である。西側に四面囲付掘立柱建物跡SB-7が、北側に大型竪穴建物跡SI-20が近接する。また、谷埋土の黒色土上に構築されている。

平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は南北約7.34m、東西約7.30mで、面積は約53.6㎡である。主軸の振れはN-4°-Eである。

埋土は主に黒色土で、ロームや白色土粒を多く含む人為堆積層がみられる。8・9層は壁溝埋土である。

残存する壁の高さは、東壁30.0cm、西壁69.6cm、南壁60.5cm、北壁72.8cmで、垂直に近く立ち上がる。

床は、掘方底面を床面とする。本建物跡は、谷埋土の黒色土を掘り込んでいるが、掘方底面はロームに達しており、ロームを床面とする。床面は平坦で、カマド前から西半に硬化面がみられる。また全周で壁際溝を確認し、幅16.0～40.0cm、深さ12.0cmを測る。

柱穴は、主柱穴P1～4を確認した。規模はP1:62.0×25.0cm、深さ35.0cm。P2:98.0×52.0cm、深さ32.0cm。P3:43.0×34.0cm、深さ40.0cm。P4:63.0×26.0cm、深さ32.0cmである。P1・4で柱痕跡を確認し、柱は抜き取られている。

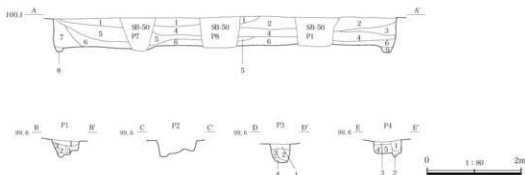
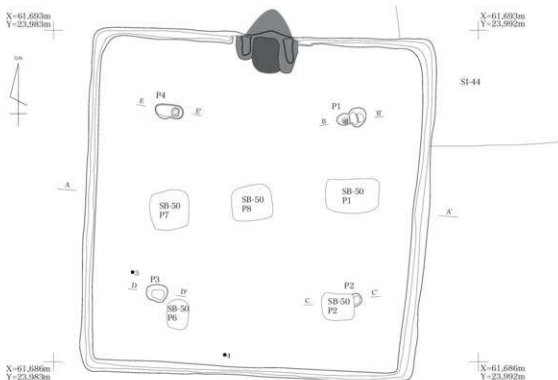
カマドは北壁中央に構築され、白色粘土で構築された両袖が残存していた。袖は幅36.0～40.0cm、長さ48.0～62.0cm、高さ44.0～52.0cmで、両袖間の幅は約92.0cmである。カマド掘方は深さ72.0cm、北壁への突出は12.0cmである。煙道や袖には、被熱赤化した上に白色粘土を貼って補修した痕跡がみられ、長期間使用したものとみられる。

遺物出土状況は、1の須恵器環がカマド埋土から、3の須恵器高台環と4の土師器甕がP3付近から、7の土師器甕がカマド脇から出土している。

出土遺物は、土師器環8点120g、土師器甕101点4.203g、須恵器環蓋4点72g、須恵器環37点924g、須恵器甕8点711g、総量158点6.030gと弥生式土器1点49g、自然礫146gが出土している。

1の須恵器環は、箱形を呈し、底部外面回転ヘラ切り無調整で、「生」「生」を墨書する。2の須恵器環は、若干丸みを帯びる。須恵器環は益子古ヶ原入窯段階で、9世紀前葉である。3は須恵器高台環で、底部外面にヘラ記号をもつ。4は受口状の口縁をもつ土師器甕、5～7は武蔵甕である。

建物跡の時期は9世紀前葉である。



SI-45 土層説明

- 1 黒色土 1mm 大の白色粒を均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。
 - 2 黒色土 1cm 大の黄色土を一部に少量混入。しまりあり。固い。
 - 3 黒色土 2~5cm 大の白色土塊を多く混入。しまりあり。固い。
 - 4 黒色土 2mm 大の赤色粒を均一に多く混入。しまりあり。固い。
 - 5 黒色土 5 層に 5mm 大の石色粒を少量混入。しまりあり。固い。
 - 6 黒色土 5mm 大の赤色粒を均一に多く混入。しまりあり。固い。
 - 7 黄褐色土 ローム粒多量。七本板軽石粒少量混入。
 - 8 黄褐色土 0.5~2mm 大のローム粒と少量の黒色土が均一に混じり合う。しまりあり。柔らかい。(壁際調理土)
 - 9 黒色土 1mm 大のローム粒が均一に少量混入。しまりあり。柔らかい。(壁際調理土)
- P1
- 1 黒褐色土 1~2mm 大のローム粒、12mm 大のローム塊を均一に多量混入。しまりあり。固い。
 - 2 黒色土 0.5mm 大のローム粒、1mm 大の赤色粒を散在的に多量混入。(柱頭跡)
 - 3 黒褐色土 フォトローム 3；黒色土 6；1mm 大のローム粒 1 に混合土。しまりあり。固い。(柱頭方理土)

- P3
- 1 黒色土 1~2mm 大のローム粒・炭化物粒を均一に多量混入。しまりあり。柔らかい。
 - 2 黒褐色土 1mm 大のローム粒主体。黒色土少量混入。しまりあり。柔らかい。
 - 3 黒褐色土 15mm 大のローム塊 5；5mm 大のローム粒 3；黒色土 2 の混合土。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
 - 4 黄色土 ハードロームに黒色土少量混入。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
- P4
- 1 黒色土 0.5~1mm 大のローム粒を均一に多量混入。しまりなし。柔らかい。
 - 2 黒褐色土 1~2mm 大のローム粒が均一に多量混入。しまりなし。柔らかい。
 - 3 黒褐色土 1mm 大のローム粒・赤色粒を均一に多量混入。しまりあり。固い。
 - 4 黒褐色土 1~2mm 大のローム粒、5~15mm 大のローム塊、5mm 大の黒色粒の混合土。しまりあり。固い。
 - 5 黄褐色土 黒色土 5；黄色ローム 5 の混合土。若干層状を各土が形成する。しまりあり。固い。

第296 図 北ノ内道跡 (2次調査) SI-45 実測図

SI-48 (第299・300図、第122表、図版四〇)

調査区西部の12-79グリッドに位置する。強く削平を受けており僅かな埋土とカマダの痕跡のみ確認した。西壁が攪乱により壊されている。奈良・平安時代の総柱建物跡SB-6と近接する。谷埋土の黒色土上に構築されている。

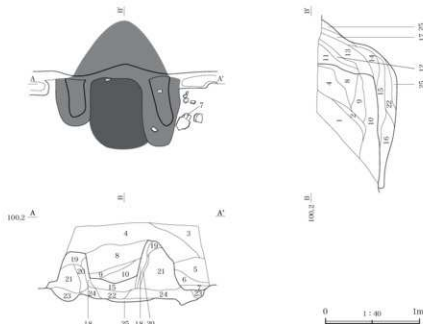
平面形は、やや歪んだ方形を呈する。規模は南北約3.80m、東西約3.73m、面積は約14.2㎡である。主軸の振れはN-13°-Eである。

埋土は灰白色土層が僅かに確認された。人為堆積と思われる。

残存する壁の高さは、東壁3.0cm、西壁1.5cm、南壁14.8cm、北壁4.6cmで外傾して立ち上がる。

床は、掘方底面を床面とし、堅緻な床面は形成されていない。柱穴は、梯子穴、壁隙溝は確認されなかった。カマダは東壁南寄りに構築され、掘方のみ残存していた。カマダ掘方は深さ28.0cmで、東壁への突出は32.0cmである。煙道部は被熱・赤化している。

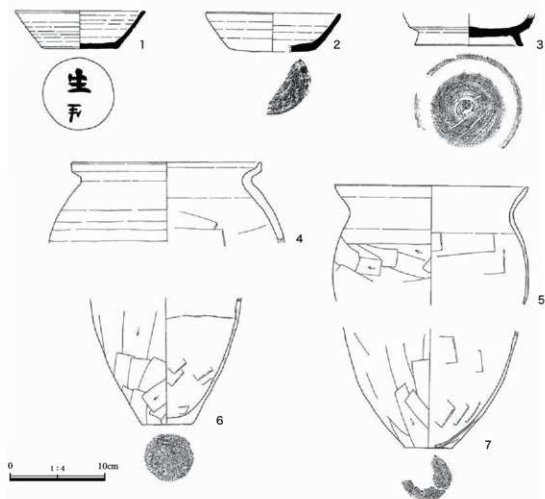
出土遺物は、土師器環82点386g、土師器裏33点1.057g、土師器鉢1点8g、須恵器裏2点27g、総量



カマダ 土器説明

1 白黒茶色土	10cm 大白色粘土塊、1~5mm 大白色粘土、1mm 大ローム粒を散在的に多量混入。しまりあり。柔らかい。	13 赤黒色土	1~2mm 大の赤色粒・黒色土の混合土。煙道周辺の境土と黒色土が埋没に混入したもの。
2 黒色土	2~3mm 大のローム粒。5~10mm 大の白色粒を散在的に少量混入。しまりあり。柔らかい。	14 青灰色土	1~2mm 大の青灰色土粒。少量の赤色粒の混合土。被熱により赤化し固い。(煙道奥端)
3 黒色土	0.5~2mm 大のローム粒、1mm 大の白色粒、8mm 大の赤色粒、25mm 大のハードローム塊を均一に多量混入。しまりあり。柔らかい。	15 暗茶灰色土	被熱した酸化層分の赤色と還元した青灰色が混成となる。(火床)
4 黒茶黄色土	1mm 大のローム粒、白色粘土、1~2mm 大の白色粒の混入した黒色土が各々50mm 大の塊となって混合する。しまりあり。柔らかい。(煙道構築材の崩落土か)	16 赤黒色土	1~5mm 大の厚さで水平方向の帯となる。上から青灰色、赤色、黒色、灰色、黒色、黄色土。しまりあり。固い。
5 黒色土	2mm 大のローム粒・白色粘土・赤色土が均一に多量混入。しまりあり。柔らかい。(住居埋土)	17 暗赤褐色土	白色粘土が被熱して赤色化したもの。部分的に黒色土を含むが、崩落して落下した赤色層分に煙道から黒色土が入ったもの。しまりあり。固い。
6 黒色土	5mm 大のローム粒、1mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。(住居埋土)	18 赤褐色土	白色粘土が赤褐色に被熱したもの。部分的に赤色塊帯の層が混成形成される。しまりあり。固い。(カマダ軸)
7 黒色土	0.5~5mm 大のローム粒を色の濃い黒色土中に少量混入。しまりあり。柔らかい。(煙道埋土)	19 白色土	白色粘土層(カマダ軸)
8 黒灰色土	5~8mm 大の白色粘土粒、5mm 大のローム粒を散在的に多量混入。55mm 大の黒色土塊を少量混入。しまりあり。柔らかい。	20 赤色土	被熱した赤色帯。2~5mm 大の粒子が一部に形成される。しまりあり。固い。(カマダ軸)
9 黒色土	0.5~1mm 大のローム粒、5~20mm 大のローム塊を散在的に少量混入。しまりあり。柔らかい。	21 黄白色土	ハードロームとソフトロームの混合土。一部の黒色土と白色粘土が混入する。しまりあり。固い。(カマダ軸)
10 黒色土	6mm 大のローム粒を均一に少量混入。一部に煙壁(カマダ煙道部)の崩落が入る。しまりあり。柔らかい。	22 黄褐色土	ハードロームと黒色土の混合土。しまりあり。固い。(カマダ軸方埋土)
11 白色土	少量の黒色土を混入する白色粘土。(煙道構築材)	23 黒色土	1mm 大のローム粒が均一に少量混入。しまりあり。柔らかい。(カマダ軸方埋土)
12 暗赤褐色土	白色粘土が被熱して赤色化したもの。部分的に黒色土を含むが、崩落して落下した赤色層分に煙道から黒色土が入ったもの。しまりあり。固い。	24 黒色土	2mm 大のローム粒5:黒色土5の混合土。しまりあり。柔らかい。(カマダ軸方埋土)
		25 黒色土	ハードローム5:黒色土5の混合土。(カマダ軸方埋土)

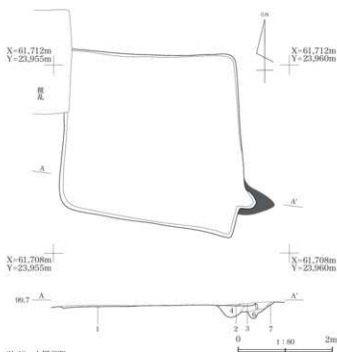
第297図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-45 カマダ実測図



第 298 図 北ノ内遺跡 (2次調査) SI-45 出土遺物

第 121 表 北ノ内遺跡 (2次調査) SI-45 出土遺物観察表

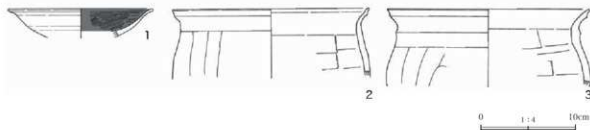
No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環	口径: 13.6 底径: 7.6 器高: 4.0	砂粒	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~底部ロクロナデ, 底部回転ヘラケズリ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	1/2	底部外面に墨書「生」	カマド
2	須恵器 環	口径: (14.0) 底径: (8.0) 器高: 4.1	砂粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~底部ロクロナデ, 底部回転ヘラ切り後ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	1/3	体部外面に1条大罫画。 底部外面にヘラ記号。	甕土
3	須恵器 高台環	口径: — 底径: 11.4 器高: (3.4)	砂粒、小礫	内: 体~底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、底部 回転ヘラ切り後回転ヘラ ケズリ、後部付高台後ナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	底部 3/4	底部外面にヘラ記号。	
4	土師器 甕	口径: (20.0) 底径: — 器高: (8.4)	透明粒、雲 母、砂粒、 小礫	内: 土師器コナデ、胴部幅 の狭いヘラナデ 外: 土師器コナデ、胴部ナデ	内: にぶい黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁~胴 部 1/4		
5	土師器 甕	口径: 20.2 底径: — 器高: (12.4)	微砂粒・砂 粒多量	内: 口縁部コナデ、胴部 ヘラナデ 外: 口縁部コナデ、胴部 ヘラケズリ	内: 褐色 外: 褐色 ・良	口縁~胴 部上半の み	器厚は薄い。	カマド 武蔵甕。No 7と同一か
6	土師器 甕	口径: — 底径: (5.1) 器高: (13.4)	微砂粒・砂 粒多量	内: 胴部ヘラナデ 外: 胴部斜位・底部不 定方向ヘラケズリ	内: 赤褐色 外: 明褐色 ・良	胴部下半 ~底部 1/4	器厚は薄い。内面に積 み上げ痕を残す。	甕土 武蔵甕
7	土師器 甕	口径: — 底径: 4.9 器高: (12.5)	微砂粒・砂 粒多量	内: 胴部ヘラナデ 外: 胴~底部ヘラケズリ	内: 褐色 外: 褐色 ・良	胴部下半 ~底部 1/2	胴部下半から底部には薄 い粘土を2~3回貼り付 けた成形工程を確認。	カマド 武蔵甕。No 5と同一か



SI-48 土層説明

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------------------|
| 1 灰白色土
微細な焼土粒散見入。 | 5 赤褐色土
焼土粒多量混入。
(カマド版方埋土) |
| 2 褐色土
2~5mm 大の焼土粒・粘土粒
少量混入。 | 6 褐色土
焼土粒、七本桜科石粒若干混入。
(カマド版方埋土) |
| 3 褐色土
焼土粒やや多量混入。
(カマド版方埋土) | 7 褐色土
焼土粒若干混入。
(カマド版方埋土) |

第 299 図 北ノ内遺跡 (2次調査) SI-48 実測図



第 300 図 北ノ内遺跡 (2次調査) SI-48 出土遺物

第 122 表 北ノ内遺跡 (2次調査) SI-48 出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 高台杯	口径:(15.2) 底径:一 器高:(3.0)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒、 白色針状物 質	内:口縁部横位・体部斜位 ヘラミガキ 外:口縁~体部ロクロナデ 小壺	内:黒色 外:灰白色 ・良	口縁~体 部 1/6	内面黒色処理。	カマド
2	土師器 甕	口径:(20.6) 底径:一 器高:(7.3)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、砂粒、 白色針状物 質	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内:明赤褐色 外:浅黄褐色 ・良	口縁部 1/13		カマド 小片
3	土師器 甕	口径:(21.0) 底径:一 器高:(8.2)	透明粒・砂 粒微量	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内:浅黄褐色 外:浅黄褐色 ・良	口縁部 1/8		カマド 小片

118点 1.478gが出土している。

建物跡の時期は10世紀後半か。

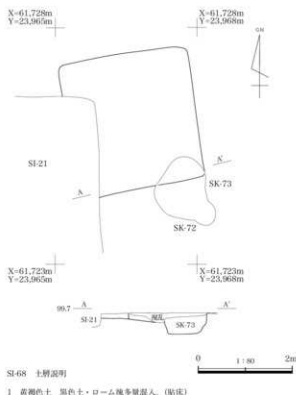
SI-68 (第301・302図、第123表、図版五〇)

調査区西部の13-78グリッドに位置する。強く削平を受けており、掘方埋土のみ確認した。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-21と重複し、SI-21が新しい。

平面形は、ほぼ正方形を呈する。規模は残存値で南北約2.87m、東西約2.78m、面積は約8.0㎡である。主軸の振れはN-11°-Wである。カマド、柱穴、梯子穴、壁隙溝は確認できなかった。

出土遺物は、土師器環3点35g、土師器甕32点774g、須恵器環3点23g、須恵器甕1点39g、総量39点871gが出土している。

本遺構は、掘方埋土らしき黄褐色土が方形に確認されたため竪穴建物跡としたが、カマド等の施設は確認できず、建物に関する詳細は不明とせざるを得ない。



第301図 北ノ内道跡(2次調査) SI-68 実測図



第302図 北ノ内道跡(2次調査) SI-68 出土遺物

第123表 北ノ内道跡(2次調査) SI-68 出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 環	口径:(17.2) 底径:— 器高:(3.7)	砂粒	内:口縁~体部ロクロナ デ 外:口縁~体部ロクロナ デ	内:灰色 外:灰色 ・良	口縁部 1/10		覆土 小片
2	土師器 環	口径:(14.0) 底径:— 器高:(3.2)	微砂粒	内:口縁~体部ヘラミガ キ 外:口縁~体部ロクロナ デ	内:黒色 外:にぶい黄褐色 ・良	1/8	体部外面に黒書、「直」 か。内面黒色処理。	
3	土師器 甕	口径:(22.8) 底径:— 器高:(9.1)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒	内:口縁部ヨコナデ、胴 部横位ハケム風ヘラナ デ 外:口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラケズリ様縦位ヘラ ナデヘラナデ	内:にぶい赤褐色 外:にぶい赤褐色 ・良	口縁~ 胴部上 半 1/14	僅かに歪みあり。	覆土 小片

SI-69 (第303・304図、第124表、図版四〇)

調査区北西部の12.78グリッドに位置する。谷埋土の黒色土上に構築されている。

平面形は、方形を呈する。規模は南北約3.15m、東西約3.06mで、面積は約9.6㎡である。主軸の振れはN-12°-Eである。

埋土は黒色～黒褐色を呈し、自然堆積と思われる。3層は壁際埋土である。

残存する壁の高さは、東壁56.2cm、西壁49.5cm、南壁62.2cm、北壁47.6cmで、外傾して立ち上がる。

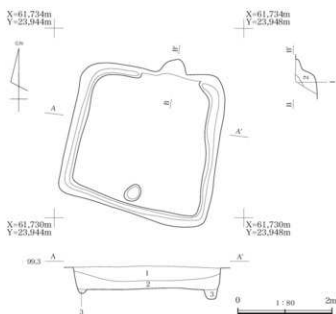
床は、掘方底面のロームを床面とする。全周で壁際溝を確認し、幅16.0～44.0cm、深さ8.0～20.0cmである。

柱穴は南壁中央に梯子穴を確認した。規模は40.0×32.0cmである。

カマドは北壁中央に構築され、袖は残存していない。北壁への突出は30.0cmである。

出土遺物は、土師器環8点88g、土師器甕62点2,160g、須恵器杯蓋2点59g、須恵器環6点94g、須恵器甕2点112g、総量80点2,513gと自然礫133gが出土している。

建物跡の時期は、9世紀後葉であろう。



SI-69 土層説明

- 1 黒色土 七本松軽石少量混入。
2 黒褐色土 少量軽石粒・七本松軽石粒多量混入。
3 黒褐色土 ローム塊・黒色土多量混入。(壁際溝)

カマド(炉)部

- 1 黒色土 1~2mm 大の白色粒を均一に少量混入。しまりあり。柔らかい。
2 黒色土 1~2mm 大の白色粒、5mm 大の白色粒塊を散在的に多量混入。しまりあり。柔らかい。

第303図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-69実測図



第304図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-69出土遺物

第124表 北ノ内遺跡(2次調査) SI-69出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ(cm)	胎土(石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 杯蓋	口径:— 口径:(16.0) 器高:(1.6)	砂粒、小礫	内:体一胴部ロクロナデ 外:体一胴部ロクロナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	1/5		覆土 小片
2	土師器 環	口径:(12.8) 口径:(4.0)	ガラス光沢 黒色粒、砂 粒、小礫	内:口縁部横位・体部斜位 ヘラミガキ 外:口縁部ヨコナデ、体部 横位・斜位ヘラケズリ	内:黒色 外:黒色 ・良	1/6	内面黒色処理。	覆土 小片
3	土師器 甕	口径:(19.4) 口径:(6.5)	ガラス光沢 黒色粒、透 明粒、小礫	内:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ 外:口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ	内:黒褐色 外:灰黄褐色 ・良	1/12		覆土 小片

SI-70 (第305・306図、第125表、図版四〇)

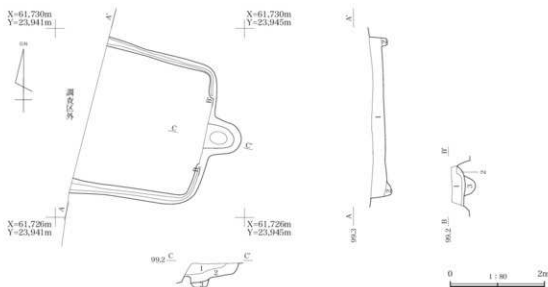
調査区北西部の12-78グリッドに位置する。西部は調査区外のため未調査である。谷埋土の黒色土上に構築されている。

平面形は、やや丸みを帯びた方形を呈する。規模は南北約3.36m、東西残存約2.36mで、面積は約7.93㎡である。主軸の振れはN-12°-Eである。

埋土は黒色～黒褐色を呈する。残存する壁の高さは、東壁44.5cm、南壁41.8cm、北壁44.5cmで、外傾して立ち上がる。床は掘方底面を床面とする。柱穴、梯子穴は確認できなかった。壁際溝を全周で確認した。幅12.0～28.0cm、深さ12.0～16.0cmである。

カマドは東壁中央に構築されているが、袖は残存していない。カマド掘方は深さ22.0cmで、東壁への突出は64.0cmである。

出土遺物は、土師器環16点394g、土師器甕72点3,059g、須恵器環蓋1点16g、須恵器環3点24g、須恵器甕1点42g、総量93点3,535gと自然礫42gが出土している。建物跡の時期は、9世紀後葉か。



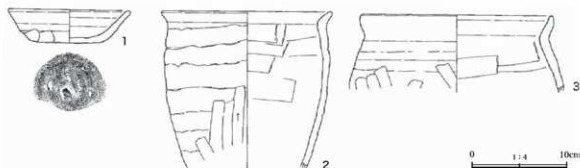
SI-70 土層説明

- 1 黒色土 今市軽石微粒・七本松軽石粒少量混入。
- 2 黒褐色土 ローム塊・黒色土多量混入。(壁際溝)

カマド (I-B, C-C)

- 1 黒色土 1～10mm大の白色粒、1mm大の赤色粒を散在的に多量混入。しまりあり。柔らかい。
- 2 白灰褐色土 1～5mm大の白色粒、5mm大の赤色粒、10cm大の白色粘土塊を散在的に多量混入。しまりあり。柔らかい。
- 3 黒赤褐色土 今市軽石粒、1mm大の白色土、5mm大の赤色粒を散在的に少量混入。しまりあり。柔らかい。(カマド掘方埋土)

第305図 北ノ内遺跡 (2次調査) SI-70実測図



第306図 北ノ内遺跡 (2次調査) SI-70出土遺物

第125表 北ノ内遺跡(2次調査) SI-70 出土遺物観察表

№	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 坏	口径: 12.7 底径: 7.4 器高: 3.5	透明粒	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ。体部下端手持ちヘラ ケズリ。底部回転ヘラ切 り痕一方向向ナデ	内: 黄褐色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁~体 部 1/3 底部 1/2		覆土
2	土師器 甕	口径: (17.8) 底径: - 器高: (16.6)	透明粒, 砂 粒, 小礫	内: 口縁部ヨコナデ, 胴部 横位ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ, 胴部 ヘラケズリ横位ヘラ ラナデ	内: にぶい黄褐色 外: 黒褐色 ・良	口縁~胴 部 1/4	口縁部は短く外反する。 外面は積み上げ痕を明 瞭に残す。	覆土
3	土師器 甕	口径: (20.2) 底径: - 器高: (8.1)	ガラス光沢 黒色粒, 透 明粒, 砂粒	内: 口縁部ヨコナデ, 胴部 横位ヘラナデ 外: 口縁部ヨコナデ, 胴部 横位ヘラケズリ	内: にぶい褐色 外: にぶい褐色 ・良	口縁部 1/6	外面は積み上げ痕を明 瞭に残す。	覆土

SI-71 (第307・308図、第126表、図版四〇・五〇)

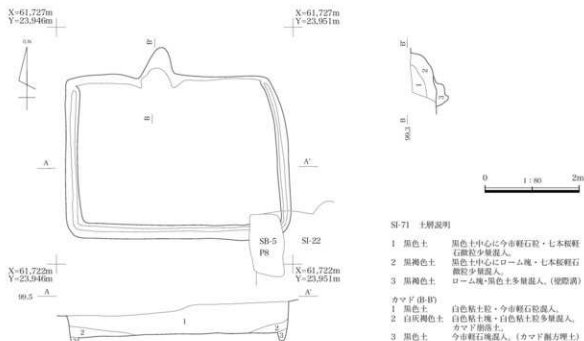
調査区北西部の12-78グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-22と掘立柱建物跡SB-5と重複し、新旧関係はSI-71 < SI-22 < SB-5である。谷埋土の黒色土上に構築される。

平面形は、東西に長い長方形を呈する。規模は南北約3.50m、東西約4.86mで、面積は約17.0㎡である。主軸の振れはN-2°-Wである。

埋土は黒色土で、自然堆積と思われる。3層は壁際溝埋土である。残存する壁の高さは、東壁71.1cm、西壁45.0cm、南壁66.3cm、北壁68.9cmで、外傾して立ち上がる。床は、掘方底面を床面とし、北壁を除き壁際溝を確認した。幅18.0~32.0cm、深さ14.0~20.0cmである。柱穴、梯子穴は確認できなかった。

カマドは北壁中央に構築され、掘方のみ確認された。カマド掘方は深さ22.0cmで、北壁への突出は58.0cmである。

出土遺物は、土師器坏14点222g、土師器甕96点2,057g、須恵器坏蓋6点406g、須恵器坏2点166g、須恵器甕3点261g、砥石1点174g、総量122点3,286gと弥生式土器5点122g、自然礫386gが出土している。須恵器は8世紀第2~3四半期か。



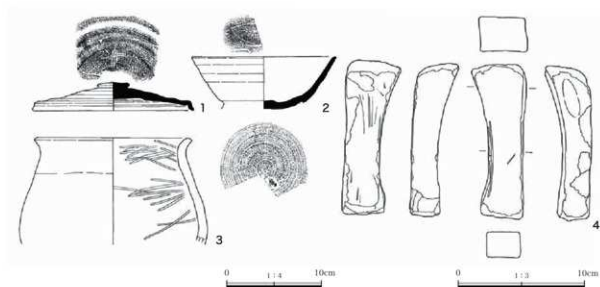
第307図 北ノ内遺跡(2次調査) SI-71実測図

SI-71 土層説明

- 1 黒色土 黒色土中心に今市軽石粒・七本松軽石微粒少量混入。
- 2 黒褐色土 黒色土中心にローム塊・七本松軽石微粒少量混入。
- 3 黒褐色土 ローム塊・黒色土多量混入。(壁際溝)

カマド(非詳)

- 1 黒色土 白色粘土粒・今市軽石微粒混入。
- 2 白灰褐色土 白色粘土塊・白色粘土粒多量混入。
- 3 黒色土 今市軽石微粒混入。(カマド掘方埋土)



第308図 北ノ内遺跡(2次調査) S1-71 出土遺物

第126表 北ノ内遺跡(2次調査) S1-71 出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ (cm)	胎土 (石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	須恵器 坏蓋	桶径: 3.4 口径:(17.0) 器高: 3.0	砂粒 小礫	内: 天井～胴部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、天井 部回転ヘラケズリ、揃み 貼付後ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	体部完存 胴部 1/4	天井部外面にヘラ記号「+」。	覆土
2	須恵器 高台坏	口径: 15.2 底径: — 器高: (6.0)	透明粒 小礫	内: 口縁～底部ロクロナデ 外: 口縁～体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り	内: 灰色 外: 灰色 ・良	体部 1/2	高台剥離。体部外面に ヘラ記号。	覆土
3	土師器 甕	口径:(16.0) 底径: — 器高:(11.2)	透明粒 砂粒 小礫	内: 口縁部ヨコナデ後粗い ヘラミガキ、胴部ヘラナ デ後粗いヘラミガキ 外: 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ後ナデ	内: 相灰色 外: にぶい黄褐色 ・良	口縁～胴 部上半 1/6	小形で最大径を胴部中 位にもち、口縁部は短 く僅かに外反する。	覆土 器表面剥落、 小片
4	石製品 砥石	長軸: 12.2 短軸: 4.4 厚さ: 20～30 重量: 174.00g	粒子の細かい砂岩		外: 灰白色	不明	擗形。小口2面を除く 4面が砥面。特に弧状 をなす2面を使用か。	覆土

第2項 掘立柱建物跡と出土遺物

建物の規模は、桁行総長、梁行総長、平面積（桁行総長×梁行総長）、平面指数（梁行総長÷桁行総長×100）で示した。平面指数が小さいほど桁行の大きい建物となり、官衙的要素の強い建物といえる（山中2007）。柱間は桁および梁行総長を柱間数で割ったものである。柱穴掘方規模は、各柱穴掘方の長辺と短辺の平均値をだし、すべての柱穴で平均したものである。深さは全ての柱穴掘方の平均値である。柱あたりを、遺構実測図中に示した。建物跡の時期と変遷については第Ⅷ章第2節で検討する。

SB-1（第309・327図、第127表、図版四一・四二）

調査区北西部の12-78グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-2・3、竪穴建物跡SI-19と重複する。新旧関係はSI-19<SB-1<SB-2<SB-3である。

桁行3間、梁行2間の東西棟、東廂の付く片廂建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-87°-Wである。規模は、桁行総長6.3m、梁行総長4.2m、平面積26.46㎡、平面指数66.66である。

身舎部分は、桁行2間、梁行2間、桁行総長4.2m、梁行総長4.2m、平面積17.64㎡、平面指数100.00となり、桁行柱間寸法は2.10m（7尺）、梁行柱間寸法は2.1m（7尺）である。身舎の柱穴掘方形状は方形もしくは長方形で、規模は0.94m、深さ0.68mである。P10で柱痕跡と柱あたりが確認された。また、柱穴掘方底面の形状から本建物跡は2時期あることが推定される。規模はほぼ同程度である。

廂は東面に1間付き、廂の出は2.1m（7尺）である。廂の柱配置は、身舎の柱配置とほぼ揃えた位置に配置される。廂の柱穴掘方形状は、方形もしくは長方形で、規模は1.02m、深さ0.56mである。

出土遺物は、土師器環9点91g、土師器甕18点331g、須恵器環1点2g、総量28点424gが出土した。

1はP11出土の土師器底部で9世紀中葉頃か。

SB-2（第310・327図、第127表、図版四一・四二）

調査区北西部の12-78グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-2・3、竪穴建物跡SI-18と重複する。新旧関係はSI-18・SB-1<SB-2<SB-3である。

桁行4間、梁行3間の南北棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-3°-Wである。

規模は、桁行総長8.4m、梁行総長5.7m、平面積47.88㎡、平面指数67.85である。桁行柱間寸法は2.10m（7尺）、梁行柱間寸法は1.90m（6.33尺）である。

柱穴の掘方形状は方形もしくは長方形で、掘方規模は1.28m、深さ0.85mである。P1・3・4・6・8・10・11・13・14で柱痕跡が確認され、P5・8で柱あたりが確認された。

出土遺物は、土師器環25点298g、土師器甕224点3.195g、須恵器蓋6点116g、須恵器環23点310g、須恵器甕24点468g、総量302点4.387gと縄文式土器2点36g、自然礫31gが出土した。2はP12から出土した須恵器高台で、益子瀧ノ入・會見沢窟段階、9世紀中葉である。3は土師器環で体部外面下端を回転ヘラケズリする。9世紀後葉か。

SB-3（第311・327図、第127表、図版四一・四二）

調査区北西部の12-78グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-1・2、竪穴建物跡SI-18と重複する。新旧関係はSI-18・SB-1<SB-2<SB-3である。

桁行2間、梁行2間の総柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-3°-Wである。

規模は、桁行総長4.2m、梁行総長3.6m、平面積15.12㎡、平面指数85.71である。桁行柱間寸法は2.10m(7尺)、梁行柱間寸法は1.80m(6尺)である。

柱穴の掘方形状は方形もしくは長方形、楕円形で、掘方規模は0.61m、深さ0.61mである。柱痕跡および柱あたりは確認できなかった。

出土遺物は、土師器環4点51g、土師器甕4点257g、須恵器環1点37g、総量9点345gと自然礫52gが出土した。4はP3出土の須恵器環で、丸底気味の底部から8世紀前半である。

SB-4 (第312図、図版四一・四二)

調査区西部の12-78グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-22、掘立柱建物跡SB-5と重複し、新旧関係はSI-22 < SB-4 < SB-5である。

桁行3間、梁行3間の南北棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-8°-Wである。

規模は、桁行総長6.3m、梁行総長6.0m、平面積37.80㎡、平面指数95.23である。桁行柱間寸法は2.10m(7尺)、梁行柱間寸法は2.00m(6.66尺)である。

柱穴の掘方形状は方形もしくは長方形で、掘方規模は1.00m、深さ0.73mである。P9・10・12で柱痕跡が確認された。

本遺構とSB-5から出土し分離できなかった遺物は、土師器環1点7g、土師器甕14点208g、須恵器環5点34g、須恵器甕1点10g、総量21点259gと縄文式土器1点29gである。

本遺構の出土遺物は、土師器環6点44g、土師器甕26点289g、須恵器環2点17g、須恵器甕3点68g、総量37点418gと自然礫22gが出土した。またP1からカワシンジユガイの貝殻が出土している(第Ⅶ章参照)。

SB-5 (第313図、図版四一・四二)

調査区西部の12-79グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-22、掘立柱建物跡SB-4と重複し、新旧関係はSI-22 < SB-4 < SB-5である。

桁行3間、梁行2間の東西棟、東廂の付く片廂建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-5°-Wである。

規模は、桁行総長7.2m、梁行総長5.4m、平面積38.88㎡、平面指数75.00である。

身舎部分は、桁行総長5.4m、梁行総長5.4m、平面積29.16㎡、平面指数100.00となり、桁行柱間寸法は2.70m(9尺)、梁行柱間寸法は2.70m(9尺)である。身舎の柱穴掘方形状は、長方形もしくは不整形で、規模は1.02m、深さ0.79mである。P1・2で柱痕跡と柱あたりが確認された。

廂は東面に1間分付き、廂の出は1.8m(6尺)である。廂の柱配置は、身舎の柱筋とほぼ揃えた位置に配置される。廂の柱穴掘方形状は、長方形もしくは不整形で、規模は0.98m、深さ0.55mとなり身舎に比べて若干小さい。また、柱穴掘方底面の形状や埋土の観察から、本建物跡は2時期あることが推定される。規模はほぼ同程度である。

出土遺物は、土師器環4点56g、土師器甕4点77g、須恵器環1点17g、須恵器甕1点67g、総量10点217gが出土した。

SB-6 (第314・327図、第127表、図版四二)

調査区中央部の13-79グリッドに位置する。西部に奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-48が近接している。

桁行2間、梁行2間の総柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-5°-Eである。

規模は、桁行総長4.2m、梁行総長4.2m、平面積17.64㎡、平面指数100.00である。桁行柱間寸法は2.10m（7尺）、梁行柱間寸法は2.10m（7尺）である。

柱穴の掘方形状は方形もしくは円形、不整形、不整形円形で、掘方規模は0.72m、深さ0.61mである。P3で柱痕跡が、P5で柱あたりが確認された。また、柱穴掘方底面の形状や埋土の観察から、本建物跡は2時期あることが推定される。規模はほぼ同程度である。

出土遺物は、土師器環2点82g、土師器甕6点79g、須恵器環蓋1点14g、須恵器甕6点351g、支脚1点110g、総量16点636gが出土した。

5はP6から出土した土師器高台環で、10世紀前半であろう。

SB-7（第315・327図、第127表、図版四二・四三）

調査区南部の13-80グリッドに位置する。古墳時代の竪穴建物跡SI-39・40、奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-41と重複し、新旧関係はSI-39・40 < SI-41 < SB-7である。南西部は調査区外のため未調査である。

桁行6間、梁行4間の南北棟、四面廂付建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-2°-Wである。規模は、桁行総長11.38m、梁行総長8.48m、平面積96.50㎡、平面指数74.51である。

身舎部分は、桁行4間、梁行2間で1本の束柱が確認された。桁行総長8.08m、梁行総長4.42m、平面積35.71㎡、平面指数54.70となり、桁行柱間寸法は2.02m（6.73尺）、梁行柱間寸法は2.21m（7.36尺）である。身舎の柱穴掘方形状は方形、長方形、不整形で、掘方規模は1.03m、深さ0.64mである。P23～25・29・32・33で柱痕跡が確認され、P25で柱あたりが確認された。またP25柱あたりの位置とP29の埋土観察から、身舎部分は2時期あると推定される。規模は同程度である。

廂は4面に1間ずつ付き、廂の出は東廂1.90m（6.33尺）、西廂2.16m（7.20尺）、南廂1.62m（5.4尺）、北廂1.68m（5.6尺）である。廂の柱配置は、身舎の柱筋とほぼ揃えた位置に配置されるが、四隅の柱がやや内側に寄る。廂の柱穴掘方形状は、方形、長方形、不整形で、掘方規模は0.80m、深さ0.48mとなり、身舎に比べて小さい。P2・4・19で柱痕跡が確認された。

出土遺物は、土師器環5点50g、土師器甕31点1,053g、須恵器環5点201g、須恵器甕2点82g、総量43点1,386gが出土した。

6はP5から出土した須恵器環で、益子瀧ノ入・倉見沢窯段階、9世紀中葉である。

SB-8（第316図）

調査区中央付近の13-79グリッドに位置する。南側に近接するSB-7と軸方位をほぼ同じくする。

桁行3間、梁行2間の南北棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-1°-Wである。

規模は、桁行総長5.1m、梁行総長4.5m、平面積22.95㎡、平面指数88.23である。桁行柱間寸法は1.70m（5.66尺）、梁行柱間寸法は2.25m（7.5尺）である。

柱穴の掘方形状は方形、円形、不整形、不整形円形で、掘方規模は0.46m、深さ0.21mである。P2・9で柱痕跡が確認された。

出土遺物はなく時期は不明であるが、軸方位を同じくするSB-7と同時期としておく。

SB-9（第317図、図版四三）

調査区中央やや北の13-78グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-29、SB-10・11と重複し、

新旧関係は SI-29 < SB-9 < SB-10 < SB-11 である。

桁行4間、梁行2間の南北棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-3° -W である。

規模は、桁行総長 8.7m、梁行総長 4.5m、平面積 39.15 m²、平面指数 51.72 である。桁行柱間寸法は 2.17m (7.25 尺)、梁行柱間寸法は 2.25m (7.5 尺) である。

柱穴の掘方形状は方形、長方形、不整形で、掘方規模は 0.67m、深さ 0.41m である。P3・7～10 で柱痕跡が確認された。

出土遺物は僅かで、土師器裏 2 点 24g が出土したのみである。

SB-10 (第 318・327 図、第 127 表、図版四三)

調査区中央やや北の 13-78 グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-29、SB-10・11 と重複し、新旧関係は SI-29 < SB-9 < SB-10 < SB-11 である。

桁行4間、梁行3間の南北棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-3° -W である。

規模は、桁行総長 9.0m、梁行総長 5.68m、平面積 51.12 m²、平面指数 63.11 である。桁行柱間寸法は 2.25m (7.5 尺)、梁行柱間寸法は 1.89m (6.3 尺) である。

柱穴の掘方形状は方形、長方形、不整形で、掘方規模は 0.91m、深さ 0.64m である。P1・2・5・6・7・9・12・13 で柱痕跡が確認された。

出土遺物は、土師器杯 2 点 14g、土師器裏 22 点 446g、須恵器杯蓋 4 点 80g、須恵器杯 3 点 36g、須恵器裏 4 点 192g、総量 35 点 768g が出土した。

7 は P8 出土の須恵器杯蓋で 9 世紀代であろう。8 は須恵器短頸壺蓋である。

SB-11 (第 319・327 図、第 127 表、図版四三)

調査区中央やや北の 13-78 グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-29、SB-10・11 と重複し、新旧関係は SI-29 < SB-9 < SB-10 < SB-11 である。

桁行3間、梁行2間の南北棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-0.5° -W である。

規模は、桁行総長 7.5m、梁行総長 4.5m、平面積 33.75 m²、平面指数 60.00 である。桁行柱間寸法は 2.50m (8.33 尺)、梁行柱間寸法は 2.25m (7.5 尺) である。

柱穴の掘方形状は円形、方形、不整形で、掘方規模は 0.41m、深さ 0.18m である。P3・6・8 で柱痕跡が確認された。

出土遺物は僅かで、灰軸陶器碗 1 点 6g が出土したのみである。

7 は P7 から出土した灰軸陶器碗で、黒笹 90 号窯式、9 世紀後半か。

SB-12 (第 320 図)

調査区北東部の 14-78 グリッドに位置する。南部には奈良・平安時代の竪穴建物跡 SI-31 が近接している。

桁行3間、梁行2間の東西棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-88° -W である。

規模は、桁行総長 7.2m、梁行総長 5.1m、平面積 36.72 m²、平面指数 70.83 である。桁行柱間寸法は 2.40m (8 尺)、梁行柱間寸法は 2.25m (7.5 尺) である。

柱穴の掘方形状は方形、長方形、円形、不整形、不整形で、掘方規模は 0.66m、深さ 0.28m である。P8・9 で柱痕跡が確認された。出土遺物はない。

SB-13 (第321・327図、第127表、図版四三)

調査区南東部の14-80グリッドに位置する。掘立柱建物跡SB-14と重複し、本建物跡が古い。

桁行4間、梁行2間の東西棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、 $N-87^{\circ}-E$ である。

規模は、桁行総長7.8m、梁行総長3.9m、平面積30.42㎡、平面指数50.00である。桁行柱間寸法は1.95m(6.5尺)、梁行柱間寸法は1.95m(6.5尺)である。

柱穴の掘方形状は長方形もしくは不整形で、掘方規模は0.88m、深さ0.70mである。柱痕跡は確認できなかった。

重複するSB-13・14において、遺構を分離できなかった遺物は、須恵器甕271点4.148g、須恵器坏蓋6点93g、須恵器坏15点152g、須恵器甕20点638g、総量312点5.031gと弥生式土器1片9g、自然礫137gである。

出土遺物は、土師器坏10点124g、土師器甕42点818g、須恵器坏蓋3点64g、須恵器坏7点149g、須恵器甕2点60g、総量64点1.215gが出土した。10は須恵器坏蓋、11は須恵器高台坏底部でどちらも9世紀前葉～中葉と考えられる。

SB-14 (第322・327図、第127表、図版四三)

調査区南東部の14-80グリッドに位置する。南部でSB-13、SK-53と重複するが、いずれよりも新しい。

桁行3間、梁行3間の南北棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、 $N-0.1^{\circ}-E$ である。

規模は、桁行総長7.5m、梁行総長5.1m、平面積38.25㎡、平面指数68.00である。桁行柱間寸法は2.50m(8.33尺)、梁行柱間寸法は1.70m(5.66尺)である。

柱穴の掘方形状は方形、長方形もしくは不整形で、掘方規模は1.14m、深さ0.85mである。P3・6・8で柱痕跡が確認された。P14は床束柱もしくは間仕切柱か。柱穴掘方底面の形状や埋土の観察から本建物跡は2時期あることが推測される。

出土遺物は、土師器坏4点26g、土師器甕42点806g、土師器埴1点31g、須恵器坏1点49g、総量48点912gが出土した。10は須恵器坏蓋、11は須恵器高台坏底部でどちらも9世紀前葉～中葉と考えられる。

SB-15 (第323・327図、第127表、図版四三)

調査区南東部の14-80・14-81グリッドに位置する。北部の柱穴がSB-50、SK-61・63と重複している。SK-61・SK-63よりも新しい。

桁行2間、梁行2間の南北棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、 $N-5^{\circ}-E$ である。

規模は、桁行総長4.5m、梁行総長4.2m、平面積18.90㎡、平面指数93.33である。桁行柱間寸法は2.25m(7.5尺)、梁行柱間寸法は2.10m(7尺)である。

柱穴の掘方形状は方形もしくは長方形で、掘方規模は0.86m、深さ0.67mである。P1～7で柱痕跡が確認された。

出土遺物は、土師器坏5点38g、土師器甕30点331g、須恵器坏蓋2点29g、須恵器坏8点77g、総量45点475gが出土した。

13はP1出土の須恵器高台坏の底部で9世紀中葉である。12はSB-15P8とSB-16P7で遺構間接合しており、9世紀中葉と考えられる。

SB-16 (第324・327図、第127表、図版四三)

調査区南東部の14-80・14-81グリッドに位置する。北東部がSB-50と重複する。北部はSI-45、東部はSB-15に近接する。

桁行2間、梁行2間の東西棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-86°-Wである。

規模は、桁行総長5.1m、梁行総長4.5m、平面積22.95㎡、平面指数88.23である。桁行柱間寸法は2.55m(8.5尺)、梁行柱間寸法は2.25m(7.5尺)である。

柱穴の掘方形状は方形、長方形、不整形で、掘方規模は0.77m、深さ0.60mである。P1～5・7で柱痕跡が、P6ではあたりが確認された。

出土遺物は、土師器環2点10g、土師器甕19点153g、須恵器環4点27g、総量25点190gが出土した。12はSB-15P8とSB-16P7で遺構間接合しており、9世紀中葉と考えられる。

SB-50 (第325図)

調査区南東部の14-80グリッドに位置する。奈良・平安時代の竪穴建物跡SI-45を掘り込んでいる。南部ではSB-15・16と重複している。南部の柱穴は確認できなかった。

桁行2間、梁行2間の南北棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-0.1°-Eである。

規模は、残存値で桁行総長4.8m、梁行総長3.6m、平面積17.28㎡、平面指数75.00である。桁行柱間寸法は2.40m(8尺)、梁行柱間寸法は残存値で1.80m(6尺)である。

柱穴の掘方形状は方形もしくは長方形で、掘方規模は1.14m、深さ0.81mである。P1・2で柱痕跡が確認された。

出土遺物は僅かで、土師器甕1点20gが出土したのみである。

SB-55 (第326図、図版四三)

調査区北部の13-78グリッドに位置する。古墳時代の竪穴建物跡SI-27と重複し、本建物跡が新しい。

桁行3間、梁行2間の南北棟、側柱建物跡である。桁行の示す軸方向は、N-0.5°-Wである。

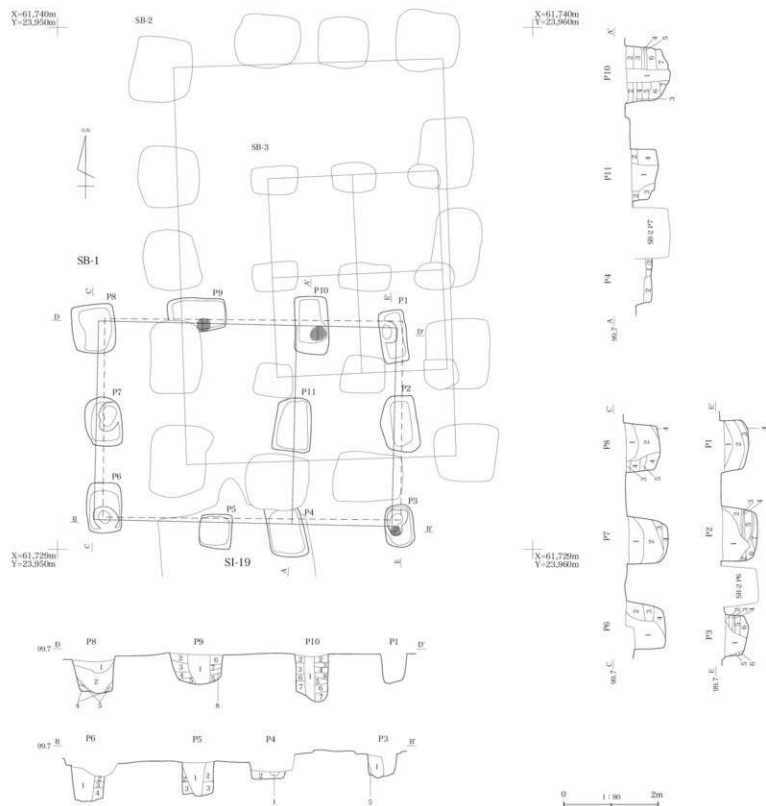
規模は、残存値で桁行総長6.9m、梁行総長4.2m、平面積28.98㎡、平面指数60.86である。桁行柱間寸法は2.30m(7.66尺)、梁行柱間寸法は残存値で2.10m(7尺)である。

柱穴の掘方形状は方形、長方形、楕円形で、掘方規模は0.65m、深さ0.29mである。P2で柱痕跡が確認された。

出土遺物は、土師器環1点8g、土師器甕5点103g、須恵器環3点26g、総量9点137gが出土した。

参考文献

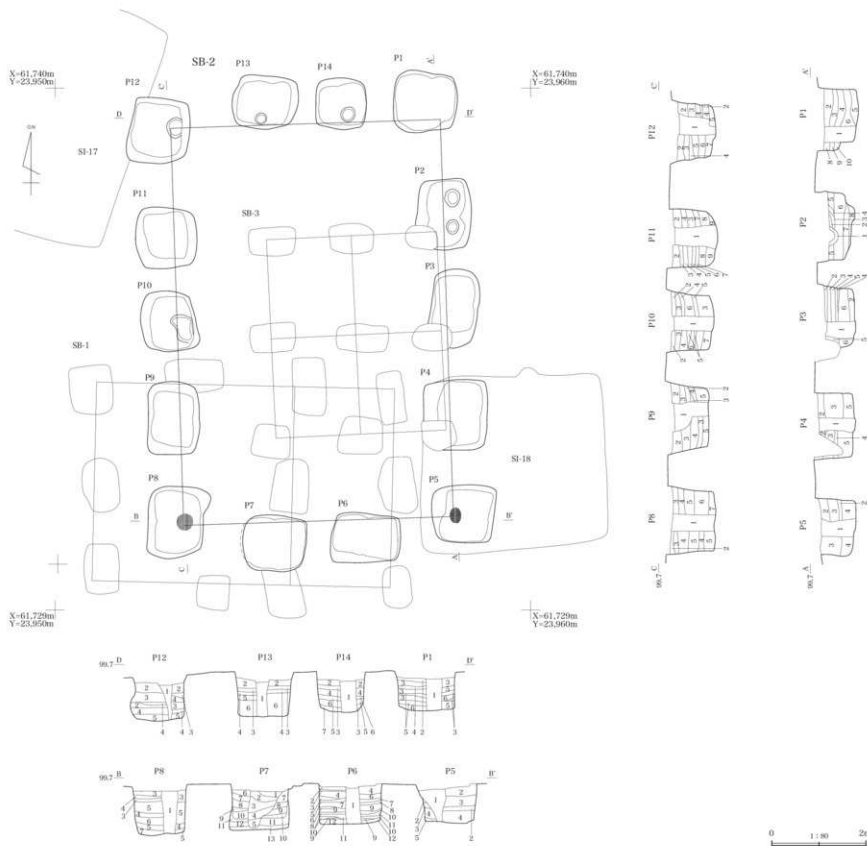
山中敏史 2007 「地方豪族居宅の建物構造と空間的構成」『古代豪族居宅の構造と機能』奈良国立文化財研究所



SB-1 土層説明・P坑計画表

P1	黒色土 1mm 大の白色粒、20mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。し まじりあり。柔らかい。(柱状穴埋土)	P7	黒色土 0.5-1mm 大の白色粒、2mm 大の赤色粒が均一に少量混入。 しまじりあり。柔らかい。(柱状穴埋土)				
2	黒色土 2mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまじりあり。柔らかい。 (柱状穴埋土)	2	黒色土 0.5mm 大の白色粒、2mm 大の赤色粒が均一に少量混入。し まじりあり。柔らかい。(柱状穴埋土)				
3	黒色土 10mm 大の赤色粒が散在的に多量混入。しまじりあり。柔らかい。 (柱状穴埋土)	3	黒色土 2mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しまじりあり。固い。 (柱状穴埋土)				
4	赤黒色土 今赤粒石に黒色土が少量混入。しまじりあり。固い。(柱状穴埋土)	4	赤黒色土 今赤粒石に黒色土が少量混入。しまじりあり。(柱状穴埋土)				
P2	1	黒色土 1-2mm 大の白色粒、1mm 大の白色粒、80mm 大の白色粒塊 が散在的に多量混入。しまじりあり。柔らかい。(柱状穴埋土)	P8	1	黒色土 0.5-2mm 大の白色粒、1mm 大の赤色粒が均一に多量混入。 しまじりあり。柔らかい。(柱状穴埋土)		
2	黒色土 1mm 大の白色粒、80mm 大の白色粒塊が散在的に多量混入。 しまじりあり。固い。(柱状穴埋土)	2	黒色土 1mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しまじりあり。柔らかい。 (柱状穴埋土)	2	黒色土 1mm 大の赤色粒が均一に大量混入。しまじりあり。固い。 (柱状穴埋土)		
3	黒色土 1-2mm 大の白色粒、1mm 大の白色粒、80mm 大の白色粒塊、 20mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまじりあり。固い。 (柱状穴埋土)	3	赤黒色土 1mm 大の赤色粒が均一に大量混入。しまじりあり。固い。 (柱状穴埋土)	4	赤黒色土 5mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまじりあり。固い。 (柱状穴埋土)		
4	黒色土 1mm 大の白色粒が散在的に多量混入。しまじりあり。(柱状穴埋土)	4	赤黒色土 1mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しまじりあり。固い。 (柱状穴埋土)	5	黒色土 1mm 大の赤色粒 8 : 白色粒 2 が散在的に多量混入。しまじり あり。固い。(柱状穴埋土)		
5	赤黒色土 1-2mm 大の白色粒、80mm 大の白色粒塊、2-20mm 大の 赤色粒が均一に多量混入。しまじりあり。固い。(柱状穴埋土)	5	赤黒色土 1-2mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまじりあり。 (柱状穴埋土)	P9	1	黒色土 1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまじりあり。柔らかい。 (柱状穴埋土)	
6	赤黒色土 今赤粒石に黒色土が少量混入。しまじりあり。(柱状穴埋土)	6	赤黒色土 2mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまじりあり。固い。 (柱状穴埋土)	2	黒色土 0.5-1mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しまじりあり。固い。 (柱状穴埋土)		
P3	1	黒色土 5mm 大の白色粒が均一に少量混入。今赤粒石が散在的に少 量混入。しまじりあり。柔らかい。(柱状穴埋土)	3	黒色土 80mm 大の土木板群石塊が少量混入。固い。(柱状穴埋土)	3	黒色土 80mm 大の土木板群石塊が少量混入。固い。(柱状穴埋土)	
2	赤黒色土 2mm 大の白色粒が少量混入。しまじりあり。しまじりあり。固い。 (柱状穴埋土)	4	黒色土 1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまじりあり。固い。 (柱状穴埋土)	4	黒色土 1mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しまじりあり。固い。 (柱状穴埋土)		
3	黒色土 2mm 大の白色粒、0.5mm 大の赤色粒が散在的に多量混入。し まじりあり。固い。(柱状穴埋土)	5	黒色土 5mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまじりあり。固い。 (柱状穴埋土)	5	黒色土 2mm 大の白色粒・赤色粒が均一に少量混入。しまじりあり。固 い。(柱状穴埋土)		
4	黒色土 1-10mm 大の赤色粒が散在的に多量混入。しまじりあり。固い。 (柱状穴埋土)	6	黒色土 2mm 大の白色粒・赤色粒が均一に大量混入。しまじりあり。固 い。(柱状穴埋土)	6	黒色土 2mm 大の白色粒・赤色粒が均一に大量混入。しまじりあり。固 い。(柱状穴埋土)		
5	黒色土 0.5mm 大の白色粒が散在的に極少量混入。しまじりあり。固い。 (柱状穴埋土)	7	黒色土 1mm 大の白色粒、20mm 大の赤色粒塊が散在的に少 量混入。しまじりあり。固い。(柱状穴埋土)	7	黒色土 1mm 大の白色粒、6mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しま じりあり。固い。(柱状穴埋土)		
6	黒色土 1mm 大の白色粒・赤色粒、20mm 大の赤色粒塊が散在的に少 量混入。しまじりあり。固い。(柱状穴埋土)	P4	1	黒色土 0.5mm 大の白色粒、1mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しま じりあり。柔らかい。(柱状穴埋土)	P10	1	黒色土 0.5mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまじりあり。柔らかい。 (柱状穴埋土)
P4	1	黒色土 1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまじりあり。固い。 (柱状穴埋土)	2	黒色土 1mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しまじりあり。固い。 (柱状穴埋土)	2	黒色土 0.5-5mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまじりあり。固い。 (柱状穴埋土)	
P5	1	黒色土 5mm 大の白色粒・赤色粒が均一に多量混入。しまじりあり。柔 らかい。(柱状穴埋土)	3	黒色土 1mm 大の赤色粒・赤色粒 2 が均一に少量混入。しまじりあり。固 い。(柱状穴埋土)	3	黒色土 1mm 大の赤色粒・白色粒が均一に少量混入。しまじりあり。固 い。(柱状穴埋土)	
2	黒色土 1mm 大の赤色粒 8 : 赤色粒 2 が均一に少量混入。しまじりあり。固 い。(柱状穴埋土)	4	黒色土 1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまじりあり。固い。 (柱状穴埋土)	4	黒色土 0.5mm 大の赤色粒、5mm 大の白色粒が均一に多量混入。し まじりあり。固い。(柱状穴埋土)		
3	黒色土 1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまじりあり。固い。 (柱状穴埋土)	5	黒色土 0.5mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しまじりあり。固い。 (柱状穴埋土)	5	黒色土 0.5mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しまじりあり。固い。 (柱状穴埋土)		
P6	1	黒色土 0.5mm 大の白色粒、1mm 大の赤色粒、20mm 大の白色粒塊が 散在的に少量混入。しまじりあり。柔らかい。(柱状穴埋土)	6	黒色土 1mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまじりあり。固い。 (柱状穴埋土)	6	黒色土 1mm 大の赤色粒、2mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しま じりあり。固い。(柱状穴埋土)	
2	黒色土 0.5mm 大の白色粒、1mm 大の赤色粒、20mm 大の白色粒塊が 散在的に多量混入。しまじりあり。固い。(柱状穴埋土)	7	黒色土 0.5mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しまじりあり。固 い。(柱状穴埋土)	7	黒色土 0.5mm 大の白色粒が散在的に少量混入。黒色土と銅屑に近 似。しまじりあり。固い。(柱状穴埋土)		
3	黒色土 2mm 大の白色粒が散在的に多量混入。しまじりあり。固い。 (柱状穴埋土)	8	黒色土 1mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまじりあり。固 い。(柱状穴埋土)	P11	1	黒色土 1mm 大の白色粒・赤色粒が均一に少量混入。しまじりあり。柔 らかい。(柱状穴埋土)	
4	赤黒色土 0.5mm 大の白色粒が散在的に極少量混入。しまじりあり。 (柱状穴埋土)	P5	1	黒色土 2mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しまじりあり。固 い。(柱状穴埋土)	2	黒色土 2mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまじりあり。固 い。(柱状穴埋土)	
P5	1	黒色土 1mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しまじりあり。固 い。(柱状穴埋土)	3	黒色土 1mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまじりあり。固 い。(柱状穴埋土)	3	黒色土 1mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまじりあり。固 い。(柱状穴埋土)	
P6	1	黒色土 5mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しまじりあり。固 い。(柱状穴埋土)	4	赤黒色土 5mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しまじりあり。 (柱状穴埋土)	4	赤黒色土 5mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しまじりあり。 (柱状穴埋土)	

第309図 北ノ内遺跡(2次調査) SB-1 実測図



第310図 北ノ内遺跡(2次調査) SB-2実測図

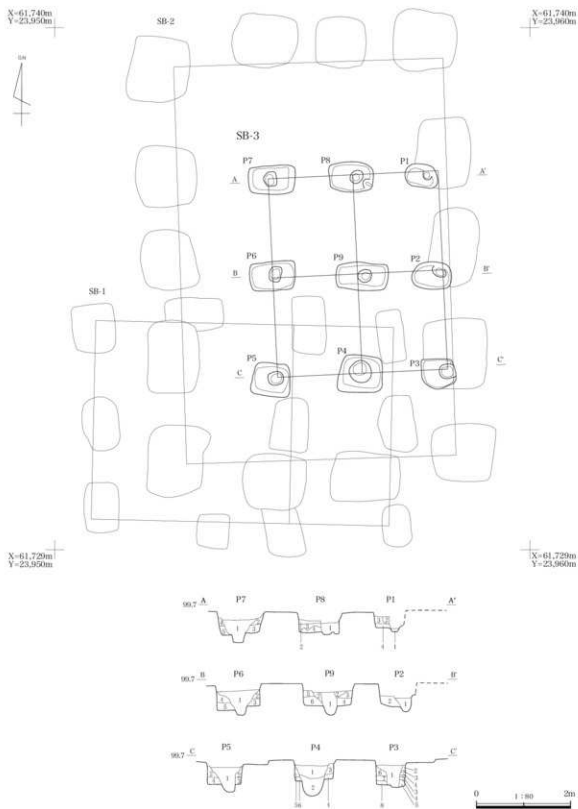
SB2 土層説明・P6計画表

P1	1 黒色土	1mm 大の白色粒・赤色粒が均一に少量混入。しりりあり、柔らかい。(柱頭層)	9 黒色土	(柱頭方理土) 1~6mm 大の白色粒・赤色粒が均一に多量混入。しりりあり。(柱頭方理土)
2 黒色土	0.5mm 大の白色粒・赤色粒が均一に少量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	10 黒色土	1mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	
3 赤黒色土	0.5~2mm 大の赤色粒・30mm 大の赤色粒塊。2mm の白色粒が均一に極めて多量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	11 黒色土	10mm 大の白色粒・赤色粒が均一に多量混入。しりりあり。(柱頭方理土)	
4 赤黒色土	1mm 大の白色粒・0.5mm の赤色粒が均一に多量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	12 黒色土	0.5mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	
5 黒色土	0.5mm 大の白色粒・0.1mm 大の赤色粒が均一に少量混入。黒色土純層に近い。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	P7		
6 黒色土	0.5mm 大の白色粒・25mm 大の白色粒塊。10mm 大の赤色粒塊が均一に少量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	1 黒色土	1mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しりりあり。柔らかい。(柱頭方理土)	
7 黒色土	白亜粘土層が少量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	2 赤黒色土	1~5mm 大の赤色粒が塊状に多く混入。しりりあり。柔らかい。(柱頭方理土)	
8 黒色土	0.5mm 大の白色粒・1mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	3 黒色土	2mm 大の赤色粒が散在的に多量混入。しりりあり。柔らかい。(柱頭方理土)	
9 黒色土	0.5~1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	4 黒色土	1~10mm 大の赤色粒塊が散在的に多く混入。しりりあり。柔らかい。(柱頭方理土)	
10 赤褐色土	今市軽石に黒色土が少量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	5 黒色土	10mm 大の黄色粒塊。2mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しりりあり。柔らかい。(柱頭方理土)	
P2		6 黒色土	1mm 大の白色粒・赤色粒が均一に多量混入。しりりあり。(柱頭方理土)	
1 黒色土	2mm 大の白色粒・赤色粒が均一に多量混入。しりりあり。柔らかい。(柱頭方理土)	7 黒色土	1~2mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しりりあり。(柱頭方理土)	
2 黒色土	1~5mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	8 黒色土	2mm 大の白色粒・赤色粒を均一に少量混入。白色粒子が多い。しりりあり。(柱頭方理土)	
3 黒色土	1mm 大の白色粒・赤色粒が散在的に少量混入。しりりあり。(柱頭方理土)	9 黒色土	1~6mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しりりあり。(柱頭方理土)	
4 黒色土	0.5~2mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しりりあり。(柱頭方理土)	10 黒色土	0.5~1mm 大の白色粒・赤色粒が散在的に少量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	
5 黒色土	5mm 大の白色粒が散在的に多量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	11 黄黒色土	1mm 大の白色粒・赤色粒が均一に多量混入。七宝軽石をブロックで含む。しりりあり。(柱頭方理土)	
6 黒色土	0.5~2mm 大の白色粒・赤色粒が均一に少量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	12 黒色土	2mm 大の白色粒・5mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	
7 赤褐色土	今市軽石に黒色土と2mm 大の白色粒が少量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	13 黒色土	七宝軽石が散在的に少量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	
8 赤褐色土	今市軽石少量の黒色土が混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)			
P3		P8		
1 黒色土	1mm 大の白色粒・2mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しりりあり。柔らかい。(柱頭層)	1 黒色土	0.5mm 大の白色粒・1mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しりりあり。柔らかい。(柱頭層)	
2 黒色土	1mm~5mm 大の白色粒・赤色粒が均一に多量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	2 黒色土	0.5mm 大の白色粒・1mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	
3 黒色土	0.5mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しりりあり。(柱頭方理土)	3 黒色土	5mm 大の赤色粒が散在的に多量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	
4 黒色土	0.5~5mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	4 赤黒色土	0.5mm 大の白色粒が散在的に極少量混入。しりりあり。(柱頭方理土)	
5 黒色土	1mm 大の白色粒が散在的に極少量混入。黒色土純層に近い。しりりあり。(柱頭方理土)	5 黄黒色土	2mm 大の赤色粒・1mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	
6 黒色土	1~2mm 大の白色粒・1mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	6 黒色土	0.5mm 大の赤色粒が均一に極少量混入。黒色土純層に近い。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	
P4		7 黒色土	8mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	
1 黒色土	1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しりりあり。柔らかい。(柱頭層)	P9		
2 黒色土	1mm~5mm 大の白色粒・赤色粒が均一に多量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	1 黒色土	0.5mm 大の白色粒・1mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しりりあり。柔らかい。(柱頭方理土)	
3 黒色土	2mm 大の白色粒・赤色粒が均一に少量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	2 黒色土	0.5mm 大の白色粒・2mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	
4 黒色土	1mm 大の白色粒が散在的に極少量混入。黒色土純層に近い。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	3 黒色土	1mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	
5 黒色土	1mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	4 赤黒色土	1~5mm 大の赤色粒塊が多量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	
P5		5 黒色土	1mm 大の赤色粒・黄白粒を均一に多量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	
1 黒色土	1~8mm 大の白色粒・15mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しりりあり。柔らかい。(柱頭方理土)	P10		
2 黒色土	0.5mm 大の白色粒塊が散在的に少量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	1 黒色土	0.5mm 大の白色粒・1mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しりりあり。柔らかい。(柱頭層)	
3 黒色土	10mm 大の黄色粒塊が散在的に多く混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	2 黒色土	0.5mm 大の赤色粒・8mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	
4 黒色土	1mm 大の白色粒が散在的に極少量混入。黒色土純層に近い。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	3 黒色土	1mm 大の赤色粒が散在的に極少量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	
5 黄黒色土	10mm 大の黄色粒塊が散在的に少量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	4 赤黒色土	0.5~2mm 大の赤色粒が散在的に多量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	
P6		5 黄黒色土	0.5mm 大の赤色粒・黄白粒が均一に多量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	
1 黒色土	1~2mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しりりあり。柔らかい。(柱頭層)	6 黒色土	0.5mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	
2 黒色土	1~5mm 大の白色粒が散在的に多量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	7 黄赤黒色土	黒色土中に七宝軽石塊が多量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)	
3 黒色土	5mm 大の赤色粒が塊状に多量混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)			
4 黒色土	1mm 大の白色粒・赤色粒が散在的に少量混入。しりりあり。(柱頭方理土)			
5 黄黒色土	10mm 大の黄色粒塊。2mm 大の赤色粒が散在的に多く混入。しりりあり。固い。(柱頭方理土)			
6 黒色土	1mm 大の白色粒・赤色粒が均一に少量混入。しりりあり。(柱頭方理土)			
7 黒色土	1~6mm 大の白色粒・赤色粒が均一に少量混入。しりりあり。(柱頭方理土)			
8 黒色土	5mm 大の白色粒・赤色粒を均一に多量混入。しりりあり。(柱頭方理土)			

第IV章 北ノ内道跡の2次調査

P11									
1	黒色土	0.5mm 大の白色粒、1mm 大の赤色粒を均一に少量混入。し まじりあり。柔らかい。(柱状腐土)			6	黒色土	0.2mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しまじりあり。固い。 (柱状腐土)		
2	黒色土	0.5mm 大の白色粒、0.5mm 大の赤色粒を均一に少量混入。し まじりあり。固い。(柱状腐土)			7	黒色土	0.5mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまじりあり。固い。 (柱状腐土)		
3	黒色土	1mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまじりあり。固い。 (柱状腐土)			P13				
4	黒色土	0.1~0.2mm 大の白色粒が均一に極少量混入。黒色土純粋に近い。 しまじりあり。(柱状腐土)			1	黒色土	0.5mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまじりあり。柔らかい。 (柱状腐土)		
5	黒色土	5mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまじりあり。固い。 (柱状腐土)			2	黒色土	0.5mm 大の白色粒、1mm 大の赤色粒が均一に少量混入。し まじりあり。固い。(柱状腐土)		
6	黒色土	0.1mm 大の赤色粒が均一に極少量混入。黒色土純粋に近い。 しまじりあり。(腐方土)			3	黒色土	2mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまじりあり。固い。 (柱状腐土)		
7	黒色土	1mm 大の白色粒・赤色粒が均一に多量混入。しまじりあり。固い。 (柱状腐土)			4	黒色土	0.5mm 大の赤色粒、30mm 大の赤色粒塊が均一に多量混入。 しまじりあり。固い。(柱状腐土)		
8	黒色土	0.5mm 大の白色粒、0.8mm 大の赤色粒が均一に少量混入。し まじりあり。固い。(柱状腐土)			5	黒色土	1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまじりあり。固い。 (柱状腐土)		
9	黄黒赤色	七本殿貯石中に少量の黒色土が混入。しまじりあり。固い。 (柱状腐土)			6	黒色土	0.2mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しまじりあり。固い。 (柱状腐土)		
P12					P14				
1	黒色土	0.5mm 大の白色粒、1mm 大の赤色粒が均一に少量混入。し まじりあり。柔らかい。(柱状腐土)			1	黒色土	0.5mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまじりあり。柔らかい。 (柱状腐土)		
2	黒色土	0.5mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまじりあり。固い。 (柱状腐土)			2	黒色土	0.5mm 大の白色粒・赤色粒を均一に少量混入。しまじりあり。 固い。(柱状腐土)		
3	黒色土	0.5~1mm 大の赤色粒、20mm 大の赤色粒塊、2mm 大の白 色粒が均一に多量混入。しまじりあり。固い。(柱状腐土)			3	黒色土	2mm 大の赤色粒、0.5mm 大の白色粒を均一に多量混入。し まじりあり。固い。(柱状腐土)		
4	黒色土	0.5mm 大の赤色粒、1mm 大の白色粒が均一に多量混入。し まじりあり。固い。(柱状腐土)			4	黒色土	1mm 大の白色粒が均一に多量混入。しまじりあり。固い。 (柱状腐土)		
5	黒色土	10mm 大の赤色塊、1mm 大の白色粒が均一に多量混入。し まじりあり。固い。(柱状腐土)			5	黒色土	0.5mm 大の白色粒、0.1mm 大の赤色粒が均一に少量混入。黒 色土純粋に近い。しまじりあり。固い。(柱状腐土)		
					6	黒色土	0.5mm 大の白色粒が均一に極少量混入。黒色土純粋に近い。 しまじりあり。固い。(柱状腐土)		
					7	黒色土	白土粘土塊が少量混入。しまじりあり。固い。(柱状腐土)		

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	方形	1.48	1.22	0.88	P8	長方形	1.52	1.18	1.04
P2	長方形	1.50	1.14	0.39	P9	長方形	1.54	1.08	0.90
P3	長方形	1.68	1.00	0.58	P10	方形	1.28	1.18	1.00
P4	方形	1.50	1.36	0.82	P11	方形	1.32	1.30	1.05
P5	方形	1.32	1.22	0.84	P12	方形	1.38	1.30	0.96
P6	長方形	1.48	1.06	0.82	P13	方形	1.48	1.12	0.96
P7	方形	1.34	1.18	0.87	P14	方形	1.10	1.08	0.86



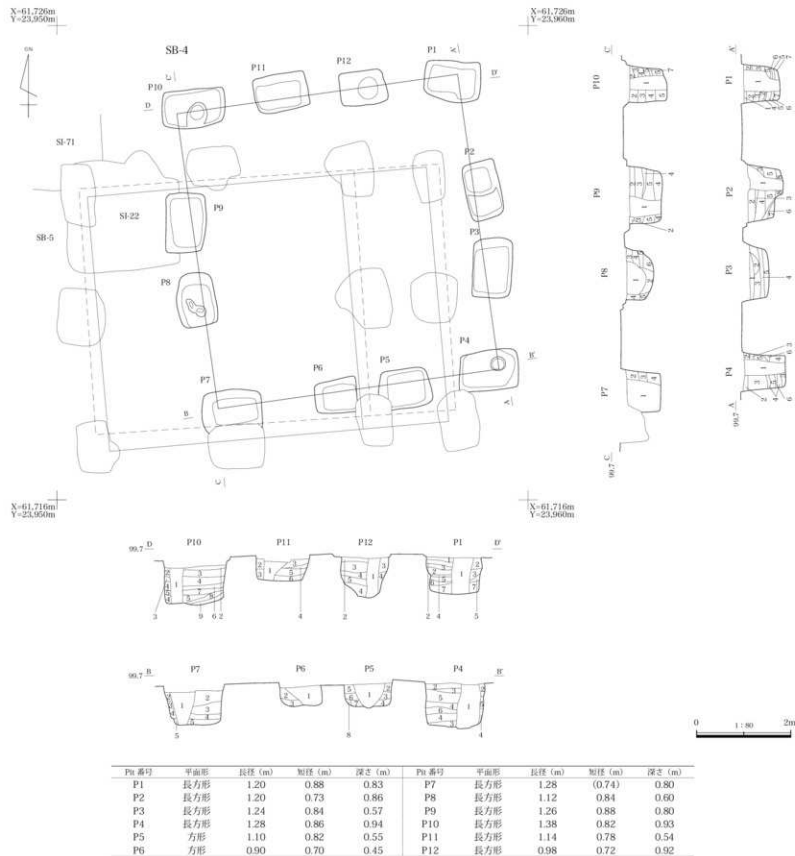
第311図 北ノ内遺跡(2次調査) SB-3実測図

第IV章 北ノ内遺跡の2次調査

SB-3 土質説明・Pit目録表

P1				3 黒色土			
1	黒色土	2mm 前後の赤色粒が均一に少量混入。しまりあり。柔らかい。(柱状穴埋土)		1~2mm 大の赤色粒・白色粒が均一に少量混入。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)			
2	黒色土	1mm 大の白色粒。2mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまりあり。やや固い。(柱状穴埋土)		1~2mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)			
3	黒色土	1mm 大の白色粒多量。1mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)					
4	黒色土	5mm 大の白色粒。1mm 大の白色粒。3mm 大の赤色粒が散在的に均一に少量混入。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)					
P2				P6			
1	黒色土	2mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりあり。柔らかい。(柱状穴埋土)		1	黒色土	2~5mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しまりあり。柔らかい。(柱状穴埋土)	
2	赤褐色土	少量・七本榎石。黒色土の混合土。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)		2	淡黄褐色土	1mm 大の白色粒が均一に多量混入。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)	
P3				3 黄茶褐色土			
1	黒色土	2~8mm 大の赤色粒。2mm 大の白色粒が均一に多量混入。しまりあり。柔らかい。(柱状穴埋土)		4	黒色土	1mm 大の白色粒が散在的に多量混入。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)	
2	黒色土	1~5mm 大の赤色粒・白色粒が均一に多量混入。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)		5	黒茶色土	黒色土中に七本榎石粒が少量混入。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)	
3	黒色土	0.5mm 大の赤色粒が少量混入。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)		P7			
4	黒色土	0.5mm 大の赤色粒・白色粒が均一に少量混入。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)		1	黒色土	0.5~1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりあり。やや固い。(柱状穴埋土)	
5	黒色土	1mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)		2	黒色土	1~2mm 大の白色粒が均一に多量混入。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)	
6	黒茶褐色土	黒色土多量。七本榎石粒が多量混入。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)		3	黒色土	1mm 大の白色粒。2mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)	
7	黒色土	1mm 大の白色粒が少量混入。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)		4	黒色土	黒色土純粋。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)	
8	黒色土	今赤バニス粒が少量混入。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)		5	黒色土	1mm 大の白色粒が散在的に極少量混入。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)	
P4				P8			
1	黒色土	2~5mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまりあり。柔らかい。(柱状穴埋土)		1	黒色土	0.5~1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりあり。柔らかい。(柱状穴埋土)	
2	黒色土	赤色粒ブロック。今赤榎石が多量混入。しまりあり。柔らかい。(柱状穴埋土)		2	黒色土	0.5~1mm 大の白色粒。3mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)	
3	黒色土	1~2mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)		3	黒色土	2mm 大の白色粒・赤色粒を多量混入。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)	
4	黒色土	1mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)		4	淡黄褐色土	1mm 大の白色粒・赤色粒を多量混入。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)	
5	黒色土	黒色土純粋。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)		P9			
6	黒色土	赤色土多量。黒色土4の混合土。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)		1	黒色土	1mm 大の白色粒・赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり。柔らかい。(柱状穴埋土)	
P5				2 黒色土			
1	黒色土	5mm 大の赤色粒・白色粒が散在的に少量混入。しまりあり。柔らかい。(柱状穴埋土)		1	黒色土	1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)	
2	黒色土	0.5mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)		2	黒茶白色土	今赤バニス・七本榎石粒少量混入。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)	
				3	黒茶褐色土	黒色土純粋。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)	
				4	黒色土	下部に七本榎バニス粒少量混入。しまりあり。固い。(柱状穴埋土)	
				5	黒色土	1mm 大の白色土が散在的に少量混入。しまりあり。柔らかい。(柱状穴埋土)	

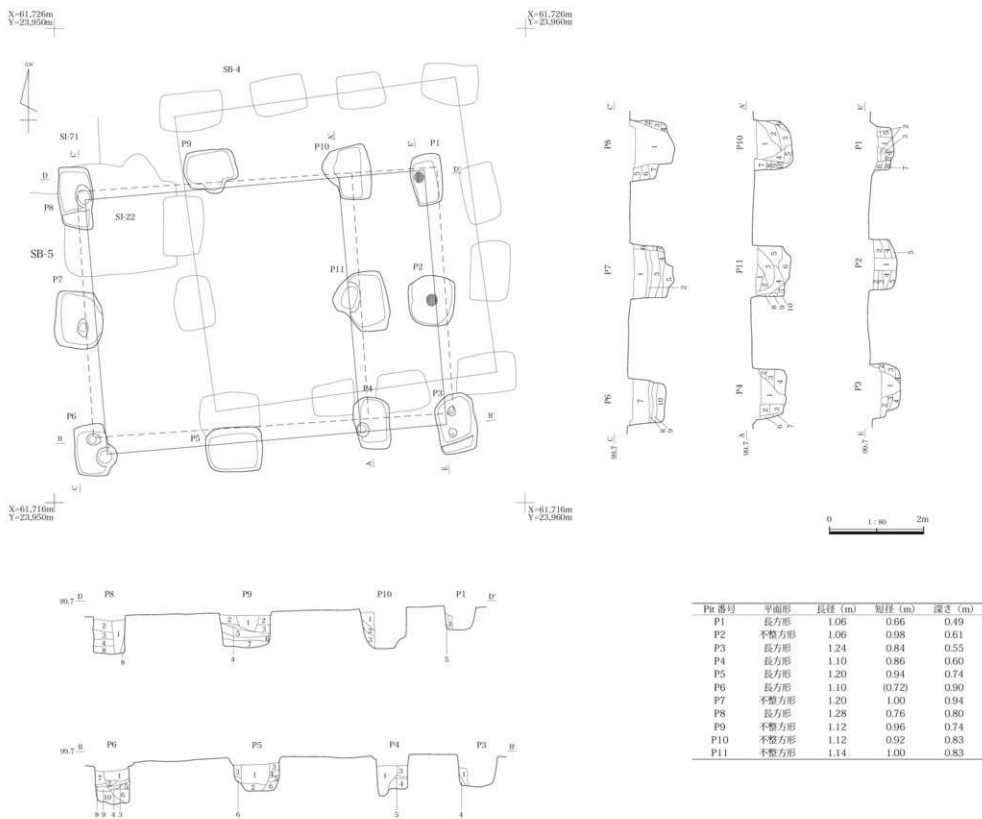
Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	楕円形	0.72	0.48	0.34	P6	長方形	0.98	0.62	0.64
P2	楕円形	0.86	0.60	0.58	P7	長方形	1.00	0.60	0.65
P3	方形	0.76	0.62	0.60	P8	長方形	0.94	0.64	0.59
P4	方形	0.94	0.80	0.81	P9	長方形	1.10	0.60	0.64
P5	方形	0.80	0.70	0.68					



第312図 北ノ内遺跡(2次調査) SB-4実測図

SB-4 土層説明・Pit 詳細表

P1	黒色土	1mm~2mm 大の白色粒, 3mm 大の赤色粒が散在的に多量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状方層土)	P7	黒色土	1mm~2mm 大の赤色粒, 3mm 大の白色粒が均一に多量混入, しまりあり。(柱状方層土)	
2	黒色土	1mm 大の白色粒, 2mm 大の赤色粒が散在的に多量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	2	黒色土	1mm 大の白色粒, 2mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	
3	黒色土	0.5mm 大の白色粒が散在的に少量混入, 黒色土純粋に多い, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	3	黒色土	0.5mm 大の白色粒, 5mm 大の赤色粒が散在的に少量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	
4	赤色土	今半層に多量, 黒色土少量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	4	黒色土	2mm 大の白色粒, 5mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	
5	黒色土	5mm 大の黄色粒, 2mm 大の赤色粒が散在的に多量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	5	黒色土	5mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	
6	赤黒色土	黒色土に今半層に6の混合土, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	P8	1	黒色土	2mm 大の白色粒, 5mm 大の赤色粒が散在的に少量混入, しまりあり。(柱状方層土)
P2	1	黒色土	1mm~2mm 大の白色粒と2mm 大の赤色粒が散在的に少量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状方層土)	2	黒色土	1mm 大の白色粒, 10mm 大の七本椀形石が散在的に多量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状方層土)
2	黒色土	1mm 大の白色粒, 2mm 大の赤色粒, 5mm 大の赤色粒が散在的に多量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	3	黒色土	0.5mm 大の白色粒, 1mm 大の赤色粒が散在的に少量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	
3	黒色土	0.5mm 大の白色粒が散在的に少量混入, 黒色土純粋に多い, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	4	黒色土	2mm 大の赤色粒, 1mm 大の白色粒が散在的に少量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	
4	黒色土	2mm 大の白色粒, 1mm 大の赤色粒, 8mm 大の赤色粒が散在的に多量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	5	黒色土	1mm 大の白色粒, 10mm 大の七本椀形石が散在的に多量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	
5	赤黒色土	七本椀形石と今半層に2, 黒色土の混合土, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	P9	1	黒色土	1mm 大の白色粒, 赤色粒が散在的に少量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状方層土)
6	赤黒色土	今半層に5, 黒色土との混合土, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	2	黒色土	2mm 大の白色粒, 1mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	
7	黒色土	今半層が多量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	3	黒色土	1mm 大の白色粒, 赤色粒が散在的に少量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	
8	黒色土	白色色粒が散在的に少量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	4	黒色土	10~20mm 大の七本椀形石が散在的に多量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	
P3	1	赤黒色土	2mm~4mm 大の白色粒, 赤色粒が散在的に多量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状方層土)	5	黒色土	2mm 大の白色粒, 6mm 大の赤色粒が散在的に多量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)
2	黒色土	2mm 大の白色粒, 6mm 大の赤色粒が散在的に多量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	P10	1	黒色土	2mm 大の白色粒, 赤色粒が散在的に少量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状方層土)
3	黒色土	0.5mm 大の白色粒, 1mm 大の赤色粒, 七本椀形石が散在的に少量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	2	黒色土	2mm 大の白色粒, 1mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	
4	黒色土	0.5mm 大の白色粒, 1mm 大の赤色粒が散在的に少量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	3	黒色土	1mm 大の白色粒, 赤色粒, 10mm 大の赤色塊が均一に多量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	
5	黒色土	0.5mm 大の白色粒, 2mm 大の赤色粒が散在的に少量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	4	黒色土	1mm 大の白色粒, 2mm 大の赤色粒が散在的に少量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	
P4	1	黒色土	1mm 大の白色粒, 赤色粒が散在的に少量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状方層土)	5	黒色土	1mm 大の白色粒, 1~2mm 大の赤色粒が散在的に少量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)
2	黒色土	1mm 大の白色粒, 10mm 大の白色粒が散在的に多量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	6	黒色土	0.5mm 大の白色粒が散在的に少量混入, 黒色土純粋に多い, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	
3	黒色土	0.5mm 大の白色粒, 2mm 大の赤色粒が散在的に少量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	7	赤黒色土	0.5~1mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	
4	白赤色土	今半層に多量, 赤色粒が散在的に少量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	8	赤黒色土	0.5~2mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	
5	黒色土	七本椀形石が散在的に少量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	9	赤黒色土	1mm 大の白色粒, 赤色粒が散在的に少量混入, 6層より黒色土純粋に多い, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	
6	黒色土	1mm 大の白色粒が散在的に少量混入, 黒色土は純粋に多い, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	P11	1	黒色土	1mm 大の白色粒が散在的に少量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状方層土)
P5	1	黒色土	1mm~2mm 大の白色粒, 5mm 大の赤色粒が均一に少量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状方層土)	2	黒色土	1mm 大の白色粒, 2mm 大の赤色粒が均一に少量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)
2	黒色土	0.5mm 大の白色粒, 1mm 大の赤色粒が散在的に多量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	3	黒色土	0.5mm 大の白色粒が均一に少量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	
3	黒色土	1mm 大の白色粒が散在的に少量混入, 黒色土純粋に多い, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	4	黒色土	5mm 大の赤色粒が散在的に少量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	
4	赤色土	今半層に多量, 黒色土少量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	5	赤黒色土	1mm 大の白色粒が散在的に多量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	
5	黒色土	2mm 大の赤色粒, 1mm 大の赤色粒が散在的に少量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	6	黒色土	1mm 大の白色粒が散在的に少量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	
6	黒色土	1mm 大の白色粒が均一に少量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	P12	1	黒色土	1mm 大の白色粒が散在的に少量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状方層土)
7	黒色土	七本椀形石が散在的に少量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	2	赤黒色土	5mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	
8	赤黒色土	今半層に石と黒色土との混合土, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	3	黒色土	1mm 大の白色粒が均一に少量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	
P6	1	黒色土	1~2mm 大の白色粒が均一に少量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状方層土)	4	黒色土	2mm 大の白色粒, 5mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)
2	黒色土	1mm 大の白色粒が均一に少量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	5	黒色土	1mm 大の白色粒, 2~8mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)	
3	黒色土	七本椀形石が散在的に多量混入, しまりあり, 固い。(柱状方層土)				

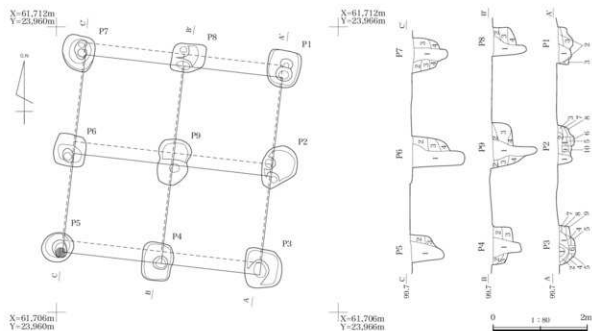


第313図 北ノ内通跡 (2次調査) SB-5実測図

SB-6 土解説明

P1	1 黒色土 0.5mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりあり、柔らかい。(柱状腐)	P7	1 黒色土 2mm 大の白色粒、1～2mm 大の赤色粒、12mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)
2 黒色土 1mm 大の白色粒、0.5mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)	2 黒色土 1mm 大の白色粒、赤色粒、80mm 大の今市軽石塊が散在的に少量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)		
3 黒色土 0.5mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)	3 黒色土 1mm 大の白色粒、赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)		
4 黒色土 0.5mm 大の白色粒、2mm 大の赤色粒が散在的に多量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)	4 黒色土 0.5mm 大の白色粒・赤色粒が多量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)		
5 黒色土 1mm 大の白色粒、赤色粒、20mm 大の七本椀軽石塊が散在的に多量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)	5 黒色土 0.5mm 大の赤色粒が多量混入。しまりあり、固い、1mm 大の白色土が均一に多量混入。しまりあり、固い。(旧柱状腐)		
6 黒色土 0.5mm 大の白色粒が少量混入。しまりあり、固い。(旧柱状腐)	6 黒色土 1mm 大の白色土が均一に多量混入。しまりあり、固い。(旧柱状腐)		
7 黒色土 20mm 大の七本椀軽石が少量混入。しまりあり、固い。(旧柱状腐)	7 黒赤色土 今市軽石に少量の黒色土が混入。しまりあり、固い。(旧柱状腐)		
8 黒色土 20mm 大の今市軽石塊が少量混入。しまりあり、固い。(旧柱状腐)	P8		
P2	1 黒色土 1mm 大の白色粒・赤色粒が均一に少量混入。しまりあり、柔らかい。(柱状腐)	1 黒色土 1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりあり、柔らかい。(柱状腐)	
2 黒色土 1mm 大の白色粒、3mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)	2 黒色土 1mm 大の白色粒、2mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)		
3 黒色土 5mm 大の白色粒、2mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)	3 黒色土 1mm 大の白色粒・赤色粒、七本椀軽石塊が散在的に少量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)		
4 黒色土 2mm 大の白色粒・赤色粒が均一に多量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)	4 黒色土 2mm 大の白色粒・赤色粒が均一に少量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)		
5 黒色土 20mm 大の今市軽石塊が散在的に少量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)	5 黒色土 1mm 大の白色粒・赤色粒が均一に多量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)		
P3	1 黒色土 1mm 大の白色粒、2mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しまりあり、柔らかい。(柱状腐)	6 黒色土 2mm 大の白色粒、赤色粒が均一に少量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)	
2 黒色土 20mm 大の今市軽石塊が散在的に少量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)	7 黒色土 2mm 大の白色粒、赤色粒が均一に少量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)		
3 黒色土 1mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)	8 黒色土 2mm 大の白色粒、20mm 大の今市軽石が多量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)		
4 赤黒色土 今市軽石塊と黒色土が等量の混合土。しまりあり、固い。(柱状腐)	P9		
P4	1 黒色土 0.5mm 大の白色粒・赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり、柔らかい。(柱状腐)	1 黒色土 1～3mm 大の白色粒、2～10mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまりあり、柔らかい。(柱状腐)	
2 黒色土 1mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)	2 黒色土 2mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)		
3 黒色土 1mm 大の白色粒・赤色粒、七本椀軽石塊が散在的に多量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)	3 黒色土 1mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)		
4 赤色土 今市軽石に黒色土・七本椀軽石が多量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)	4 黒色土 0.5mm 大の白色粒が散在的に極少量混入。黒色土純層に近い。しまりあり、固い。(柱状腐)		
5 黒色土 1mm 大の白色粒が散在的に少量混入。黒色土純層に近い。しまりあり、固い。(柱状腐)	5 黒色土 0.5mm 大の白色粒、1mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)		
6 黒赤色土 今市軽石に黒色土が混入。しまりあり、固い。(旧柱状腐)	6 赤黒色土 0.5～2mm 大の赤色粒が多量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)		
7 黒赤色土 今市軽石に黒色土が混入。しまりあり、固い。(旧柱状腐)	7 黒色土 2mm 大の白色粒、3mm 大の赤色粒が散在的に極少量混入。黒色土純層に近い。しまりあり、固い。(柱状腐)		
P5	1 黒色土 1～8mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しまりあり、柔らかい。(柱状腐)	8 黒赤色土 10mm 大の赤色粒が散在的に多く混入。しまりあり、固い。(柱状腐)	
2 赤黒色土 今市軽石塊3:七本椀2:黒色土5の混合土。しまりあり、柔らかい。(柱状腐)	9 赤黒色土 今市軽石塊が少量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)		
3 黒色土 1mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)	10 赤黒色土 今市軽石に黒色土が少量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)		
4 黒色土 1～5mm 大の白色粒・赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)	11 黒赤色土 今市軽石に黒色土が混入。しまりあり、固い。(旧柱状腐)		
5 黒色土 2mm 大の白色粒が多量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)	P11		
6 黒色土 1mm 大の白色粒が少量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)	1 黒色土 0.5mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりあり、柔らかい。(柱状腐)		
P6	1 黒色土 0.5～1mm 大の白色粒・赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり、柔らかい。(柱状腐)	2 黒色土 1mm 大の白色粒、0.5mm 大の赤色粒が散在的に多く混入。しまりあり、柔らかい。(柱状腐)	
2 赤黒色土 1mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり、柔らかい。(柱状腐)	3 黒色土 1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりあり、柔らかい。(柱状腐)		
3 黒色土 1mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しまりあり、柔らかい。(柱状腐)	4 黒色土 1mm 大の白色粒・赤色粒が散在的に多量混入。しまりあり、柔らかい。(柱状腐)		
4 赤黒色土 今市軽石塊と黒色土が等量の混合土。しまりあり、柔らかい。(柱状腐)	5 黒赤色土 1mm 大の白色粒・赤色粒、30mm 大の赤色粒塊が散在的に多量混入。しまりあり、柔らかい。(柱状腐)		
5 黒色土 1mm 大の白色粒が多量混入。しまりあり、柔らかい。(柱状腐)	6 赤色土 0.5mm 大の白色粒・赤色粒、七本椀軽石が散在的に多量混入。しまりあり、柔らかい。(柱状腐)		
6 黒色土 0.5mm 大の白色粒が少量混入。しまりあり、柔らかい。(柱状腐)	7 黒赤色土 今市軽石に黒色土が混入。しまりあり、固い。(柱状腐)		
7 黒色土 2mm 大の白色粒、1mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)	8 黒色土 0.5mm 大の白色粒が少量混入。しまりあり、固い。(旧柱状腐)		
8 黒赤色土 今市軽石・七本椀3:黒色土2の混合土。しまりあり、固い。(柱状腐)	9 黒赤色土 1mm 大の白色粒・赤色土が多量混入。しまりあり、固い。(旧柱状腐)		
9 黒色土 0.5mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり、固い。(柱状腐)	10 黒赤色土 今市軽石に黒色土が混入。しまりあり、固い。(旧柱状腐)		
10 赤黒色土 今市軽石塊と黒色土が等量の混合土。しまりあり、固い。(柱状腐)			

第IV章 北ノ内遺跡の2次調査



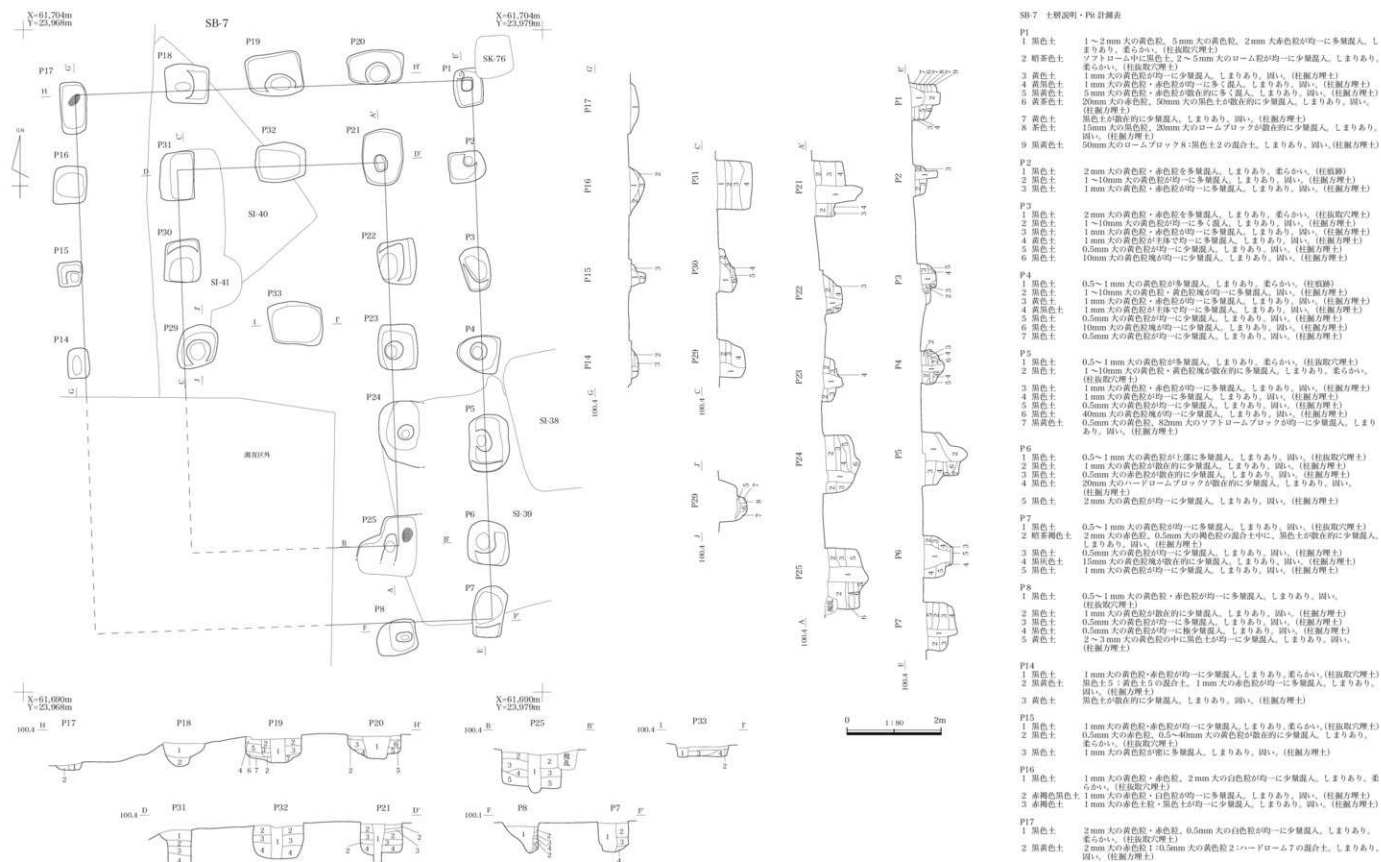
X=61.706m
Y=23.960m

SB-6 土坑説明

- P1**
- 1 黒色土 0.5～1mm 大の白色粒・赤色粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 2 黒色土 1mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 3 黒色土 0.5mm 大の白色粒、10mm 大の赤色粒塊が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
- P2**
- 1 黒色土 0.5mm～1mm 大の白色粒・赤色粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 2 黒色土 5mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 3 黒色土 1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 4 黒色土 1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 5 黒色土 2～3mm 大の白色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 6 黒色土 0.5mm 大の白色粒・赤色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 7 黒色土 2mm 大の白色粒・赤色粒が少量混入。散在的に黒色土が少量入る。固い。(柱状穴埋土)
 - 8 黒色土 白色粘層を縦状に多量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 9 黒色土 20mm 大の赤色粒塊が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 10 黒色土 2mm 大の赤色粒塊が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
- P3**
- 1 黒色土 0.5～1mm 大の白色粒・赤色粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 2 赤褐色土 0.5～2mm 大の赤色粒が多量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 3 黒色土 0.5mm 大の白色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 4 黒色土 1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 5 黒色土 2～3mm 大の白色粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 6 黒色土 0.5mm 大の白色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 7 黒色土 1mm 大の白色粒が少量混入。散在的に黒色土が少量入る。固い。(柱状穴埋土)
 - 8 黒色土 1mm 大の赤色粒・白色粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 9 黒色土 0.5mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
- P4**
- 1 黒色土 0.5～1mm 大の白色粒・赤色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 2 黒色土 1mm 大の赤色粒・白色粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
- P5**
- 1 黒色土 0.5～1mm 大の白色粒・赤色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 2 黒色土 0.5mm 大の白色粒、1mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 3 黒色土 1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 4 黒色土 1～2mm 大の白色粒・赤色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 5 黒色土 1mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 6 赤褐色土 50mm 大の白色粘土塊が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
- P6**
- 1 黒色土 1mm 大の白色粒・赤色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 2 黒色土 2mm 大の赤色粒、5mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 3 黒色土 1mm 大の赤色粒、2mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 4 黒色土 20mm 大の白色粘土塊を均一に多く混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
- P7**
- 1 黒色土 0.5～1mm 大の白色粒・赤色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 2 黒色土 1mm 大の白色粒、2mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 3 黒色土 2mm 大の赤色粒、300mm 大の白色粘土塊が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 4 黒褐色土 0.5mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
- P8**
- 1 黒色土 0.5mm～1mm 大の白色粒・赤色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 2 黒色土 2mm 大の白色粒・0.5mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 3 黒色土 5mm 大の赤色粒を均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 4 黒褐色土 50mm 大の白色粘土塊が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
- P9**
- 1 黒色土 0.5mm～1mm 大の白色粒・赤色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 2 黒色土 2mm 大の白色粒・0.5mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 3 黒色土 5mm 大の赤色粒を均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)
 - 4 黒褐色土 50mm 大の白色粘土塊が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱状穴埋土)

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	方形	0.78	0.70	0.33	P6	方形	0.68	0.68	0.75
P2	不整形円形	0.94	0.72	0.36	P7	不整形円形	0.74	0.70	0.70
P3	方形	0.80	0.80	0.35	P8	不整形円形	0.70	0.60	0.74
P4	方形	0.80	0.64	0.65	P9	不整形円形	0.98	0.58	0.95
P5	円形	0.70	0.64	0.73					

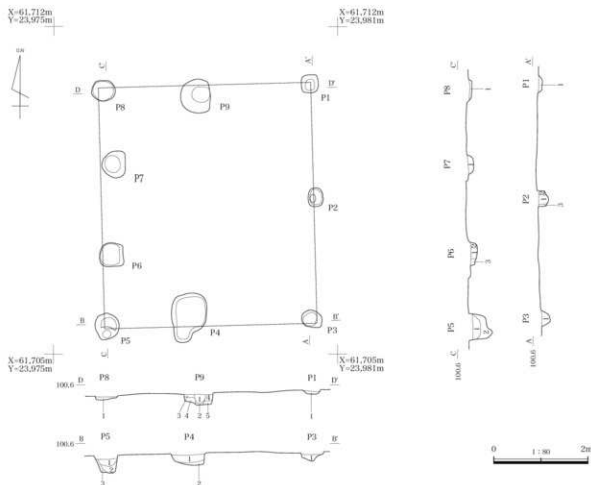
第314図 北ノ内遺跡(2次調査) SB-6実測図



第315図 北ノ内遺跡(2次調査) SB-7実測図

P18	1 黒色土 2mm 大の黄色粒・赤色粒が均一に少量混入。しりりあり、柔らかい。(柱取穴埋土)	2 黒色土 黒色土に赤色粒が散在的に混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	P19	1 黒色土 2~5mm 大の黄色粒、5mm 大の炭化物が均一に少量混入。しりりあり、柔らかい。(柱取穴埋土)	2 黒色土 50mm 大の黄色粒塊が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	3 黒色土 1mm 大の黄色粒が散在的に少量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	4 黒色土 1mm 大の黄色粒・赤色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	5 黒色土 10mm 大の黄色粒塊が散在的に多量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	6 黒色土 0.5~1mm 大の赤色粒、50mm 大のロームブロックが散在的に多量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	7 黒色土 黒色土中に 50mm 大のロームブロックが散在的に多量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	P20	1 黒色土 1~2mm 大の黄色粒・赤色粒が均一に少量混入。しりりあり、柔らかい。(柱取穴埋土)	2 黒色土 0.5mm 大の白色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	3 黒色土 0.5~1mm 大の黄色粒が散在的に少量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	4 黒色土 1mm 大の黄色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	5 黒色土 0.5mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	6 黒色土 0.5~1mm 大の黄色粒、50mm 大のロームブロックが散在的に少量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	P21	1 黒色土 1~2mm 大の黄色粒・赤色粒が均一に少量混入。しりりあり、柔らかい。(柱取穴埋土)	2 黒色土 0.5mm 大の黄色粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	3 黒色土 0.5mm 大の黄色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	4 黄色土 黒色土とソファットローム 8 の混合土。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	P22	1 黒色土 1mm 大の黄色粒・赤色粒が均一に少量混入。しりりあり、柔らかい。(柱取穴埋土)	2 黒色土 0.5~5mm 大の黄色粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	3 黒色土 0.5~2mm 大の黄色粒・赤色粒が散在的に少量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	4 黒色土 5mm 大の黄色粒が散在的に少量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	P23	1 黒色土 2mm 大の黄色粒・赤色粒が均一に少量混入。しりりあり、柔らかい。(柱取穴埋土)	2 黒色土 0.5~10mm 大の黄色粒・赤色粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	3 黒色土 黒色土とハードロームの混合土。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	4 黒色土 1mm 大の赤色粒・黄色粒が密に多量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	P24	1 黒色土 2mm 大の黄色粒・赤色粒が均一に少量混入。しりりあり、柔らかい。(柱取穴埋土)	2 黒色土 1~10mm 大の黄色粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	3 黒色土 1mm 大の黄色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	4 黒色土 2~30mm 大の赤色粒、1mm 大の黄色粒が散在的に多量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	5 黒色土 0.5~15mm 大の黄色粒・黄色粒塊が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	6 黒色土 5mm 大の黄色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	P25	1 黒色土 1mm 大の黄色粒・赤色粒が均一に少量混入。しりりあり、柔らかい。(柱取穴埋土)	2 黒色土 5mm 大の黄色粒、2mm 大の赤色粒が散在的に多量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	3 黒色土 0.5mm 大の黄色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	4 黒色土 10mm 大の黄色粒塊が散在的に多量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	5 黒色土 20mm 大の暗褐色粒塊が散在的に少量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	6 黒色土 5mm 大の暗褐色粒 6・黒色土 4 の混合土。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	P29	1 黒色土 1mm 大の黄色粒・赤色粒、2mm 大の炭化物が均一に少量混入。しりりあり、柔らかい。(柱取穴埋土)	2 黒色土 5mm 大の赤色粒、1mm 大の炭化物が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	3 黒色土 1mm 大の赤色粒、炭化物が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	4 黒色土 1mm 大の黄色粒・今半粒石由来の赤色粒塊が散在的に多量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	5 黒色土 1mm 大の黄色粒・赤色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	6 黒色土 1mm 大の赤色粒、今半粒石由来の赤色粒塊が散在的に多量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	7 黒色土 0.5mm 大の赤色粒、1mm 大の黄色粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	8 黒色土 2mm 大の黄色粒・赤色粒、1mm 大の白色粒が多量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	P30	1 黒色土 1mm 大の黄色粒・赤色粒、5mm 大の炭化物粒。柱取穴埋土由来の白色粘土塊が均一に少量混入。しりりあり、柔らかい。(柱取穴埋土)	2 黒色土 0.5mm 大の赤色粒、1mm 大の炭化物が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	3 黒色土 1mm 大の赤色土粒、炭化物が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	4 黒色土 1mm 大の黄色粒、今半粒石由来の赤色粒塊が散在的に多量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	5 黒色土 10mm 大の赤色土粒、黒色土と赤色土中に少量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	6 黒色土 1mm 大の赤色粒、今半粒石由来の赤色粒塊が散在的に多量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	P31	1 黒色土 0.5mm 大の黄色粒・赤色粒、1mm 大の炭化物が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	2 黒色土 0.5mm 大の赤色粒、0.5~40mm 大の黄色粒が散在的に少量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	3 黒色土 1mm 大の黄色粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	4 黒色土 1~8mm 大の黄色粒が散在的に多量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	P32	1 黒色土 1~2mm 大の黄色粒・赤色粒・白色粒が均一に少量混入。しりりあり、柔らかい。(柱取穴埋土)	2 黒色土 2mm 大の黄色粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	3 黒色土 1mm 大の黄色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	4 黒色土 1mm 大の黄色粒、2mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	P33	1 黒色土 0.5~1mm 大の赤色粒・ローム粒が均一に多量混入。しりりあり、柔らかい。(柱取穴埋土)	2 黒色土 1mm 大のローム粒・白色粒・赤色粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	3 黒色土 5mm 大の赤色粒、0.5mm 大のローム粒、2mm 大の炭化物が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)	4 黄色土 2mm 大の白色粒、5mm 大の赤色粒、黒色土とソファットローム中に混入。しりりあり、固い。(柱取穴埋土)
Pt 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pt 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)																																																																				
P1	長方形	0.80	0.62	0.62	P19	長方形	1.16	0.92	0.52																																																																				
P2	方形	0.76	0.64	0.48	P20	長方形	1.16	0.72	0.48																																																																				
P3	長方形	0.92	0.56	0.36	P21	長方形	1.20	0.88	1.00																																																																				
P4	不整形方形	0.90	0.76	0.50	P22	不整形方形	0.94	0.80	0.36																																																																				
P5	長方形	1.20	0.82	0.96	P23	方形	0.96	0.84	0.42																																																																				
P6	方形	0.92	0.88	0.62	P24	不整形方形	1.34	1.10	0.74																																																																				
P7	長方形	1.08	0.66	0.68	P25	不整形方形	1.40	1.04	0.84																																																																				
P8	不整形方形	0.86	0.72	0.56	P29	不整形方形	0.88	0.84	0.52																																																																				
P14	長方形	0.64	0.46	0.14	P30	方形	0.90	0.74	0.40																																																																				
P15	方形	0.52	0.52	0.30	P31	長方形	1.02	0.72	0.78																																																																				
P16	方形	0.80	0.68	0.30	P32	長方形	1.06	0.84	0.70																																																																				
P17	長方形	1.10	0.54	0.18	P33	長方形	1.12	0.90	0.22																																																																				
P18	方形	0.92	0.84	0.50																																																																									

第IV章 北ノ内遺跡の2次調査

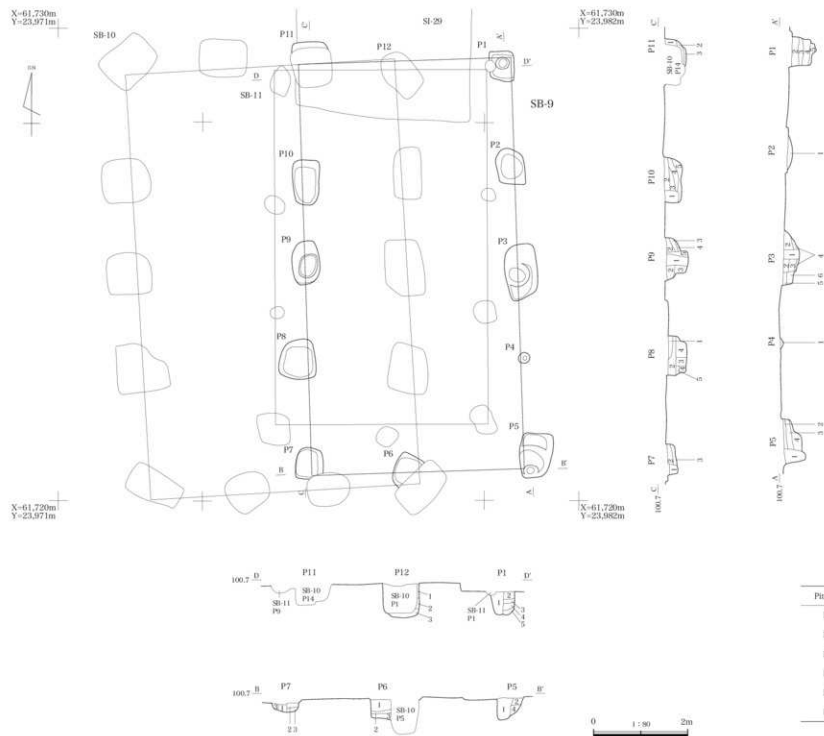


SB-8 土層説明

- P1**
 1 黄色土 2mm 大の赤色粒・黒色土が均一に多量混入。しまりあり、固い。
 2 黒色土 1~5mm 大の赤色粒、2mm 大の黄色粒が均一に多量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
 3 黒色土 黄色土・黒色土が1.5mm 互層で反響される。下部は黒色土が多い。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
- P2**
 1 黒色土 1~5mm 大の赤色粒、1mm 大の炭化物粒が散在的に多量混入。しまりあり、柔らかい。(柱状跡)
 2 黄色土 12mm 大の黒色土塊(塊内には1mm 大の赤色粒を含む)が少量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
 3 黒色土 1mm 大の黄色粒が均一に少量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
- P3**
 1 黒色土 2mm 大の赤色粒・炭化物粒が均一に多量混入。しまりあり、柔らかい。
 2 黒色土 5~8mm 大のローム粒が散在的に少量混入。しまりあり、固い。
- P4**
 1 黒色土 0.5~8mm 大のローム粒が均一に多量混入。しまりあり、柔らかい。
 2 黒色土 5~8mm 大のローム粒が散在的に少量混入。しまりあり、固い。
- P5**
 1 黒色土 2mm 大の赤色粒、0.5mm 大の黄色粒が散在的に少量混入。しまりあり、柔らかい。(柱状穴埋土)
 2 黒色土 1mm 大の黄色粒が散在的に少量混入。しまりあり、柔らかい。(柱状穴埋土)
- P6**
 1 黒色土 2~5mm 大の赤色粒、2mm 大の黄色粒が均一に多量混入。しまりあり、柔らかい。(柱状穴埋土)
 2 黒色土 黄色土中に黒色土が散在的に混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
 3 黒色土 1mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
- P7**
 1 黒色土 1mm 大の赤色粒、0.5mm 大の白色粒が均一に多量混入。しまりあり、柔らかい。
- P8**
 1 黄色土 赤色粒塊(0.5mm 大粒子集合体)、炭化物粒(1mm 大)が散在的に多量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
- P9**
 1 黒色土 2mm 大の黄色土粒・赤色粒が散在的に多量混入。しまりあり、固い。(柱状跡)
 2 黒色土 黒色土6・黄色土4の混合土。しまりあり、固い。(柱状跡)
 3 黒色土 1~2mm 大の黄色粒が少量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
 4 黒色土 黒色土6・黄色土4の混合土。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
 5 黄色土 2mm 大の赤色粒・黒色土が少量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	方形	0.38	0.38	0.12	P6	方形	0.50	0.48	0.21
P2	不整形方形	0.38	0.32	0.25	P7	不整形方形	0.54	0.50	0.15
P3	不整形円形	0.46	0.34	0.20	P8	円形	0.50	0.45	0.10
P4	台形	1.08	0.76	0.26	P9	不整形円形	0.70	0.62	0.26
P5	円形	0.54	0.52	0.39					

第 316 図 北ノ内遺跡 (2次調査) SB-8 実測図

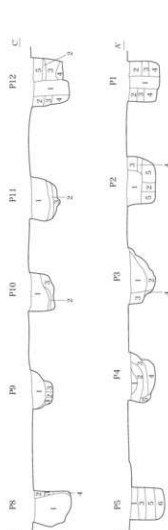
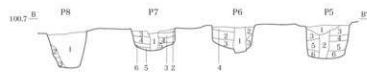
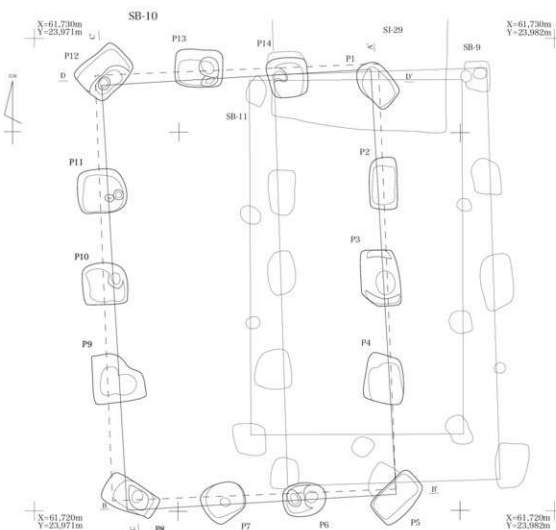


SB-9 土層説明・P6剖面表

- P1**
- 黒色土 0.5mm 大の白色粒、1~2mm 大の赤色粒、1mm 大の炭化粒が均一に多量混入。しりりあり、柔らかい。(柱敷方層土)
 - 黄褐色土 0.5~1mm 大の白色粒、2mm 大の赤色粒。縦状のローソク痕が散在的に多量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黒色土 1mm 大のROOM粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黄褐色土 0.5mm 大のソフトローム粒が多量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黄褐色土 黒色土が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
- P2**
- 黒黄褐色土 1mm 大の白色粒、2mm 大の赤色粒、2mm 大の炭化粒が均一に多量混入。しりりあり、柔らかい。(柱敷方層土)
 - 黒色土 1mm 大のROOM粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黒黄褐色土 5mm 大のソフトローム粒と黒色土5の混合土。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黄褐色土 黒色土が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黒色土 0.5mm 大の白色粒、赤色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黒色土 0.5mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
- P3**
- 黒色土 0.5~1mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しりりあり、柔らかい。(柱敷方層土)
 - 黒色土 1mm 大のROOM粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黒黄褐色土 5mm 大のソフトローム粒と黒色土5の混合土。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黄褐色土 黒色土が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黒色土 0.5mm 大の白色粒、赤色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黒色土 0.5mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
- P4**
- 黒黄褐色土 1mm 大の白色粒、2mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しりりあり、柔らかい。
 - 黒黄褐色土 0.5~1mm 大の白色粒、2mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しりりあり、柔らかい。(柱敷方層土)
 - 黒色土 0.5~1mm 大の白色粒、1mm 大の赤色粒、2mm 大の炭化粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黒黄褐色土 0.5mm 大の白色粒、1mm 大の赤色粒、50mm 大のROOM塊が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黒黄褐色土 1mm 大のソフトローム粒を主体に、1mm 大の白色粒、赤色粒、20mm 大のROOM塊、黒色土が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
- P5**
- 黒色土 0.5~1mm 大の白色粒、2mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しりりあり、柔らかい。(柱敷方層土)
 - 黒色土 0.5~1mm 大の白色粒、1mm 大の赤色粒、2mm 大の炭化粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黒黄褐色土 0.5mm 大の白色粒、赤色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黒黄褐色土 1mm 大のROOM粒を主体に、1mm 大の白色粒、赤色粒、20mm 大のROOM塊、黒色土が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
- P6**
- 黄褐色土 0.5~1mm 大の黒色粒、1mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黄褐色土 1mm 大のROOM粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黒黄褐色土 5mm 大のソフトローム粒を主体に、黒色土が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
- P7**
- 黒色土 1mm 大の白色粒、0.5mm 大の黒色粒が均一に多量混入。しりりあり、柔らかい。(柱敷方層土)
 - 黒黄褐色土 2mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。ソフトローム粒が散在的に少量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黒黄褐色土 ソフトローム中に、1mm 大の赤色粒、黒色土を散在的に少量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
- P8**
- 黒黄褐色土 ソフトローム中に5mm 大の赤色粒、黒色土を少量混入。しりりあり、柔らかい。(柱敷方層土)
 - 黒色土 2mm 大の赤色粒、~50mm 大のソフトローム粒、ソフトロームが散在的に少量混入。しりりあり、柔らかい。(柱敷方層土)
 - 黒色土 黒色土中に30mm 大のソフトロームが散在的に少量混入。しりりあり、柔らかい。(柱敷方層土)
 - 黄褐色土 5mm 大のソフトローム粒を主体に少量の黒色土が混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黄褐色土 ソフトロームと黒色土との混合土。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
- P9**
- 黒黄褐色土 0.5~2mm 大の赤色粒、白色粒、ソフトロームが散在的に多量混入。しりりあり、柔らかい。(柱敷方層土)
 - 黒黄褐色土 1mm 大の白色粒が散在的に少量混入。黒色土が多量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黄褐色土 黒色土が多量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黄褐色土 黒色土が少量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黒黄褐色土 縦線状の黒色土が混入。ソフトロームが主体。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
- P10**
- 黒色土 1~2mm 大の白色粒、赤色粒が均一に多量混入。しりりあり、柔らかい。(柱敷方層土)
 - 黒黄褐色土 2mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。ソフトローム粒と黒色土5の混合土。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黒黄褐色土 50mm 大の茶色塊が散在的に多量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黒黄褐色土 10mm 大の茶色塊が散在的に多量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黄褐色土 黒色土が散在的に少量混入。ソフトロームと黒色土5の混合土。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
- P11**
- 黒色土 1mm 大の白色粒、赤色粒が均一に多量混入。しりりあり、柔らかい。(柱敷方層土)
 - 黒色土 2mm 大の白色粒、赤色粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黒黄褐色土 1mm 大のROOM粒、2mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
- P12**
- 黒色土 1~5mm 大のROOM粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黒黄褐色土 0.5mm 大のROOM粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱敷方層土)
 - 黒黄褐色土 0.5~1mm 大のソフトローム粒と黒色土5の混合土。しりりあり、固い。(柱敷方層土)

Pit番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	方形	0.64	0.52	0.55	P7	方形	0.68	0.6	0.26
P2	方形	0.78	0.58	0.12	P8	不整形方形	0.84	0.78	0.40
P3	不整形方形	1.14	0.70	0.36	P9	不整形方形	0.96	0.60	0.53
P4	円形	0.20	0.20	0.07	P10	長方形	0.96	0.54	0.41
P5	不整形方形	0.92	0.70	0.46	P11	-	-	-	-
P6	方形	0.72	0.42	0.77	P12	-	-	-	0.50

第317図 北ノ内遺跡(2次調査) SB-9実測図

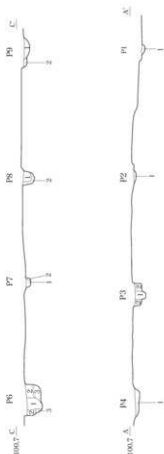
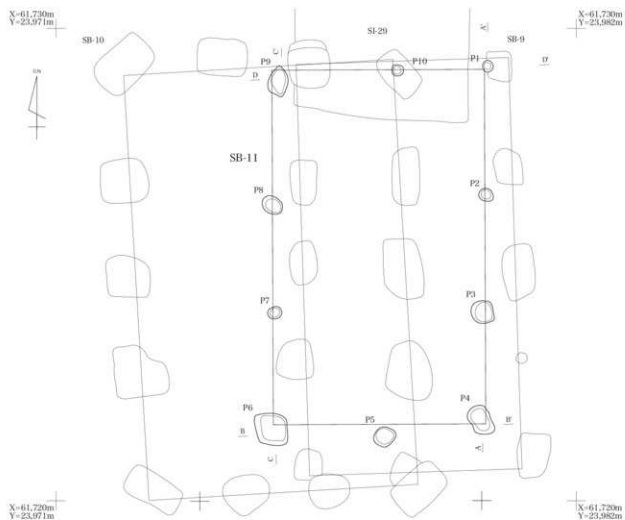


0 1:80 2m

SB-10 土層説明・P坑目録表

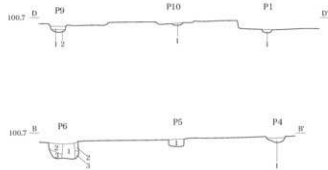
P1		1 黒土 1~2mm 大の赤色粒, 1mm 大のローム粒が均一に多量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状腐り土)	4 黒黄色土 ソフトローム中に黒色土が均一に少量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)						
2 黒土 1mm 大のローム粒, 6mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)		5 黒黄色土 1mm 大のローム粒; 黒色土の混入。しまりあり, 強い。(柱状腐り土)	6 黒黄色土 ソフトローム中に黒色土が均一に少量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)						
3 黒土 0.5~1mm 大のソフトローム粒; 赤色土が均一に少量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)									
4 黒土 3mm 以上黒色土の量が多い, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)									
P2		1 黒土 1mm 大のローム粒, 2mm 大の炭化物粒, 3mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状腐り土)	P8						
2 黒土 0.5mm 大のローム粒, 1mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状腐り土)		2 黒土 2mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)	1 黒土 1mm 大のローム粒, 2mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状腐り土)						
3 黒黄色土 1mm 大のローム粒を主体に, 2mm 大の赤色粒; 黒色土が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)		3 黒土 0.5mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)	2 黒土 0.5~10mm 大のローム粒, 2mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)						
4 黒土 1mm 大のローム粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)		4 黒土 1mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)	3 黒土 2mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)						
5 黒土 黒土が散在的に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)									
P3		1 黒土 1mm 大のローム粒, 2mm 大の炭化物粒, 0.5mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状腐り土)	P9						
2 黒土 0.5mm 大のローム粒, 2mm 大の炭化物粒, 5mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状腐り土)		1 黒土 1mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)	1 黒土 1mm 大のローム粒, 1mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状腐り土)						
3 黒土 1mm 大のローム粒, 0.5mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)		2 黒土 0.5mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)	2 黒土 1mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状腐り土)						
4 黒土 2mm 大のローム粒, 0.5mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)									
P4		1 黒土 1mm 大のローム粒, 0.5mm 大の炭化物粒, 2mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状腐り土)	P10						
2 黒土 2mm 大の赤色粒, 1~8mm 大のローム粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)		1 黒土 1mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)	1 黒土 1mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状腐り土)						
3 黒黄色土 1mm 大のローム粒, 30mm 大のローム塊が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)		2 黒土 2mm 大の赤色粒, 1~8mm 大のローム粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)	2 黒土 1mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状腐り土)						
4 黒黄色土 0.5~1mm 大のソフトローム粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)		3 黒黄色土 0.5~1mm 大のソフトローム粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)	3 黒土 0.5mm 大のローム粒; 白色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)						
5 黒黄色土 1mm 大のローム粒, 30mm 大のローム塊が少量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)									
P5		1 黒土 1mm 大のローム粒, 0.5mm 大の炭化物粒, 2mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状腐り土)	P11						
2 黒土 1mm 大のローム粒, 0.5mm 大の炭化物粒が均一に多量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状腐り土)		1 黒土 1mm 大の白色粒, 5mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)	1 黒土 0.5~1mm 大の白色粒, 5mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)						
3 黒黄色土 20mm 大のソフトローム塊, 2mm 大の赤色粒が均一に少量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)		2 黒土 2mm 大の白色粒, 5mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)	2 黒土 1mm 大の白色粒が少量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)						
4 黒黄色土 1mm 大の赤色粒, 1~8mm 大のローム粒が均一に少量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)		3 黒土 1mm 大の赤色粒が散在的に少量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)	3 黒土 1mm 大の赤色粒が散在的に少量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)						
5 黒土 1mm 大の赤色粒, 1~8mm 大のローム粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)		4 黒土 1mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)	4 黒土 1mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)						
6 黒黄色土 0.5~1mm 大のソフトローム粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)		5 黒土 1mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)	5 黒土 1mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)						
P6		1 黒土 1mm 大のローム粒が均一に多量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状腐り土)	P12						
2 黒土 1mm 大のローム粒, 2mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)		1 黒土 0.5~1mm 大の白色粒, 5mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)	1 黒土 0.5~1mm 大の白色粒, 5mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)						
3 黒黄色土 0.5~1mm 大のソフトローム粒, 40mm 大のローム塊; 黒色土が均一に少量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)		2 黒土 2mm 大の白色粒, 5mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)	2 黒土 2mm 大の白色粒, 5mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)						
4 黒土 ソフトローム中に2mm 大の赤色粒が均一に少量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)		3 黒土 1mm 大の白色粒が40mm 大の塊とったものが散在的に少量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)	3 黒土 1mm 大の白色粒が40mm 大の塊とったものが散在的に少量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)						
		4 黒土 0.5mm 大の白色粒が少量混入, 強い。(柱状腐り土)	4 黒土 0.5mm 大の白色粒が少量混入, 強い。(柱状腐り土)						
		5 黒土 1mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)	5 黒土 1mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)						
P7		1 黒土 1mm 大のローム粒が均一に多量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状腐り土)	P13						
2 黒黄色土 1mm 大のローム粒, 2mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)		1 黒土 1mm 大の白色粒, 3mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状腐り土)	1 黒土 1mm 大の白色粒, 3mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状腐り土)						
3 黒黄色土 0.5~1mm 大のソフトローム粒, 60mm 大のローム塊が均一に少量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)		2 黒土 1mm 大の白色粒, 3mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状腐り土)	2 黒土 1mm 大の白色粒, 3mm 大の赤色粒が均一に多量混入, しまりあり, 柔らかい。(柱状腐り土)						
		3 黒土 0.5~1mm 大のソフトローム粒, 2mm 大の赤色土が均一に少量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)	3 黒土 0.5~1mm 大のソフトローム粒, 2mm 大の赤色土が均一に少量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)						
		4 黒黄色土 ソフトローム中に2mm 大の赤色粒, 黒色土が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)	4 黒黄色土 ソフトローム中に2mm 大の赤色粒, 黒色土が均一に多量混入, しまりあり, 強い。(柱状腐り土)						
P8 番号	平面形	長さ (m)	幅径 (m)	深さ (m)	P9 番号	平面形	長さ (m)	幅径 (m)	深さ (m)
P1	長方形	1.02	0.66	0.71	P8	長方形	1.18	0.66	0.83
P2	長方形	1.12	0.58	0.63	P9	不整形方形	1.06	1.04	0.46
P3	長方形	1.20	0.82	0.56	P10	方形	0.96	0.88	0.56
P4	不整形方形	1.02	0.84	0.57	P11	方形	1.04	0.92	0.67
P5	長方形	1.12	0.70	0.76	P12	長方形	1.10	0.86	0.83
P6	不整形方形	0.9	0.70	0.59	P13	長方形	1.00	0.80	0.80
P7	不整形方形	0.92	0.78	0.49	P14	方形	0.86	0.82	0.55

第318図 北・内通跡 (2次調査) SB-10 実測図



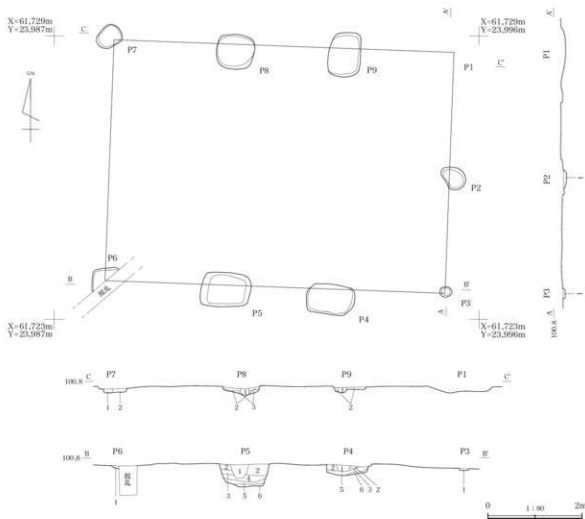
SB-11 土質説明・Pit 計測表

- P1**
1 黒色土 0.5mm 大の白色粒、1～2mm 大の赤色粒、1mm 大の炭化植物が均一に多量混入。しりりあり、柔らかい。
- P2**
1 黒色土 2mm 大の赤色粒が少量混入。しりりあり、柔らかい。
- P3**
1 黒色土 1mm 大の黒色粒、0.5mm 大の白色粒、30mm 大のローム塊が均一に少量混入。しりりあり、柔らかい。(柱頭跡)
2 黒色土 1mm 大の白色粒、2mm 大の赤色土が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱頭跡)
- P4**
1 黒色土 2mm 大の赤色粒、1mm 大の黒色土が均一に少量混入。しりりあり、柔らかい。
- P5**
1 黒色土 1mm 大の白色粒、2mm 大の赤色粒、5mm 大の黒色粒が均一に少量混入。しりりあり、柔らかい。(柱頭跡)
- P6**
1 黒色土 5mm 大の赤色粒、3mm 大の黄色粒が均一に少量混入。しりりあり、柔らかい。(柱頭跡)
2 黒色土 1mm 大の白色粒が均一に少量混入。2mm 大の赤色土が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱頭跡)
3 黒色土 1mm 大の黄色粒、1mm 大の黒色粒が均一に少量混入。しりりあり、固い。(柱頭跡)
- P7**
1 黒色土 1mm 大の黄色粒が均一に多量混入。しりりあり、柔らかい。(柱頭跡)
2 黒色土 1mm 大の白色粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱頭跡)
- P8**
1 黒色土 2mm 大の赤色粒、0.5～1mm 黄色粒が散在的に多量混入。しりりあり、柔らかい。(柱頭跡)
2 黒色土 0.5mm 大の黄色粒が均一に多量混入。しりりあり、固い。(柱頭跡)
- P9**
1 黒色土 2mm 大の白色粒が均一に多量混入。しりりあり、柔らかい。(柱頭跡)
2 黒色土 7本線粒石に黒色土が少量混入。しりりあり、固い。(柱頭跡)



Pit 番号	平面形	長さ (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長さ (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	円形	0.26	0.24	0.10	P6	方形	0.70	0.70	0.36
P2	円形	0.34	0.30	0.10	P7	円形	0.32	0.28	0.17
P3	円形	0.50	0.48	0.25	P8	円形	0.48	0.38	0.28
P4	不整形円形	0.70	0.44	0.15	P9	不整形円形	0.56	0.44	0.13
P5	不整形円形	0.42	0.42	0.20	P10	円形	0.28	0.26	0.09

第319図 北ノ内遺跡(2次調査) SB-11実測図

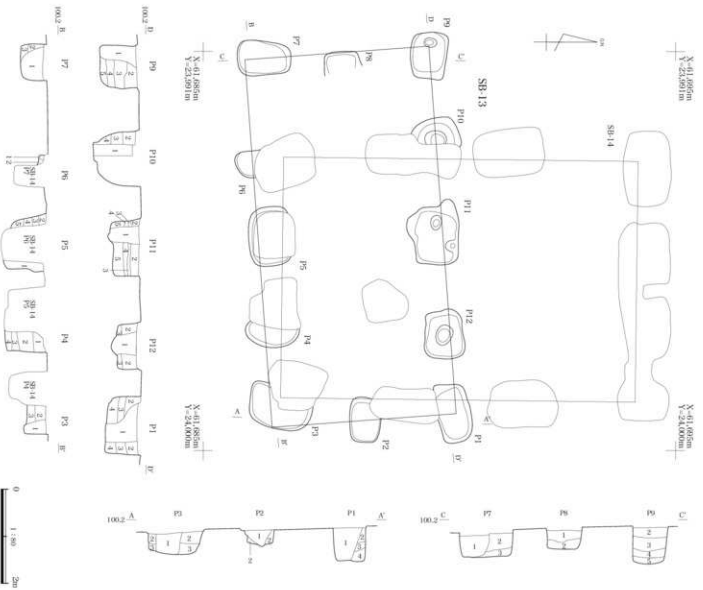


SB-12 土層説明・Pit 計測表

P2	1 黒茶色土 茶色土中に黒色土塊・赤色粒(0.5~2mm大)を散在的に少量混入。しきりあり。固い。	P6	1 黒色土 0.5mm大の赤色粒が均一に多量混入。しきりあり。固い。
P1	1 黒茶色土 茶色土中に黒色土塊・赤色粒(0.5~2mm大)を散在的に少量混入。しきりあり。固い。	P7	1 黒色土 2mm大の赤色粒・ローム粒が多量混入。しきりあり。柔らかい。(柱取穴埋土) 2 黒黄色土 ハードロームが2mm大の黒色土を核とした黒色土4の混合土。しきりあり。固い。(柱取穴埋土)
P4・P5	1 黒色土 1mm大の赤色粒・ローム粒・黒色粒が均一に多量混入。しきりあり。柔らかい。(柱取穴埋土) 2 黒色土 0.5~8mm大のローム粒。1~12mm大の赤色粒。5~10mm大の黒色粒が均一に多量混入。しきりあり。固い。(柱取穴埋土) 3 黒黄色土 0.5~1mm大のローム塊が均一に多量混入。しきりあり。固い。(柱取穴埋土) 4 黄赤土 黒色土少量混入。しきりあり。固い。(柱取穴埋土) 5 黄赤土 黒色土少量混入。しきりあり。固い。(柱取穴埋土) 6 黄赤土 茶色土2:黒色土3:ハードローム5の混合土。しきりあり。固い。(柱取穴埋土)	P8	1 黒色土 2mm大のローム粒。5mm大の赤色粒が均一に多量混入。しきりあり。柔らかい。(柱取穴) 2 黒色土 0.5mm大のローム粒。5~10mm大の赤色粒。8mm大の黒色土が均一に多量混入。しきりあり。固い。(柱取穴埋土) 3 黄赤土 黒色土が散在的に多量混入。しきりあり。固い。(柱取穴埋土)
		P9	1 黒色土 3~8mm大のローム粒が均一に多量混入。しきりあり。柔らかい。(柱取穴) 2 黒色土 5~8mm大の赤色粒。ロームブロックが多量混入。しきりあり。固い。(柱取穴埋土)

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	—	—	—	—	P6	方形	—	—	0.69
P2	不整円形	0.58	0.42	0.06	P7	不整方形	0.58	0.44	0.15
P3	円形	0.28	0.24	0.04	P8	不整方形	0.80	0.76	0.21
P4	長方形	1.02	0.66	0.24	P9	長方形	0.96	0.70	0.09
P5	長方形	1.04	0.76	0.49					

第320図 北ノ内遺跡(2次調査) SB-12実測図



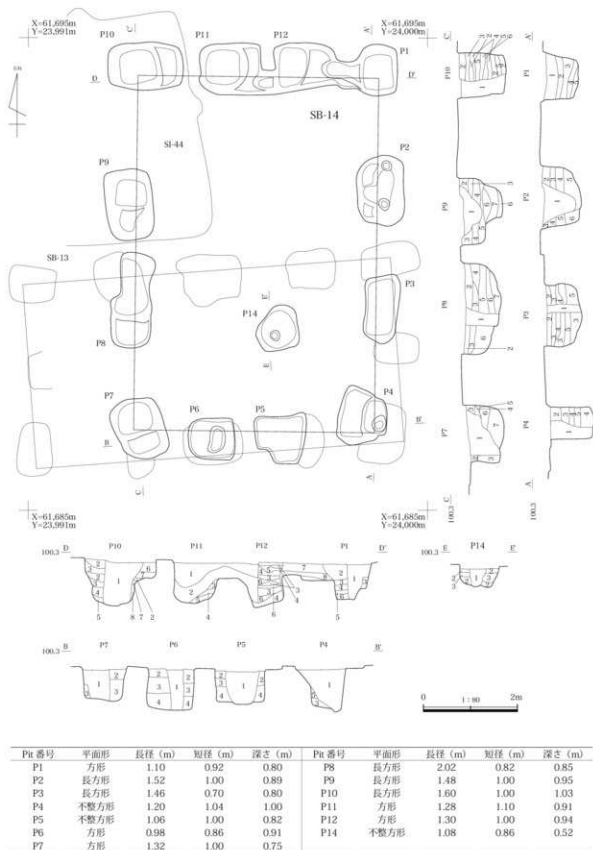
第 321 図 北ノ内道路 (2次調査) SB-13 発掘図

SB-13 土器説明・Pit 計測表

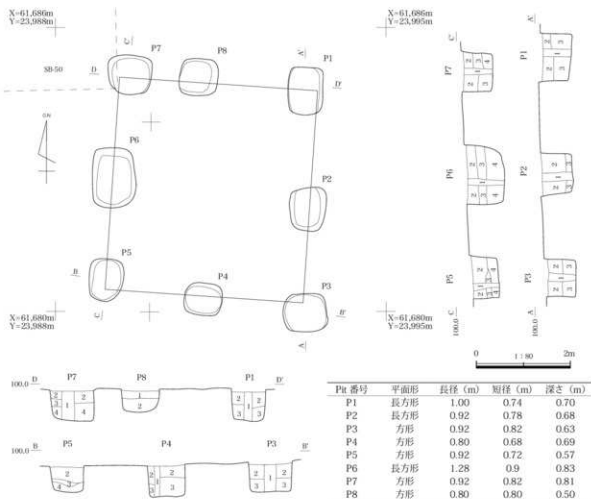
P1	黒色土	2~10mm 大の黄色粒が均一に多量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
2	黒色土	0.5mm 大の黄色粒・白色粒が散在的に少量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
3	黒色土	1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
4	黒色土	0.5~30mm 大の白色粒・白色粒塊が均一に極少量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
P2	1 黒色土	0.5mm 大の白色粒が均一に極少量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
2	黒色土	1mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
P3	1 黒色土	0.5~20mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
2	黒色土	0.5~5mm 大の黄色粒が散在的に少量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
3	黒色土	2mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
P4	1 黒色土	0.5~20mm 大の黄色粒・黄色粒塊が均一に多量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
2	黒色土	1mm 大の黄色粒が散在的に少量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
3	黒色土	0.5mm 大の黄色粒が均一に多量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
4	黒色土	10mm 大の黄色粒が均一に少量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
P5	1 黒色土	0.5~20mm 大の黄色粒・黄色粒塊が均一に多量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
2	黒色土	2mm 大の赤色粒・0.5mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
3	黒色土	0.5mm 大の白色粒が均一に多量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
4	黒色土	0.5mm 大の白色粒が20mm の塊として散在的に少量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
5	黒色土	2~3mm 大の白色粒が均一に多量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
P6	1 黒色土	0.5~1mm 大の白色粒が少量混入。しまりあり。(柱状穴埋土)
2	黒色土	2mm 大の赤色粒・0.5mm 大の白色粒が少量混入。しまりあり。(柱状穴埋土)

P7	1 黒色土	0.5~1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりあり、柔らかい。(柱状穴埋土)
2	黒色土	0.5mm 大の白色粒・赤色粒が極少量に混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
3	黒色土	1mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
P8	1 黒色土	0.5mm~1mm 大の白色粒を均一に極少量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
2	黒色土	2mm 大の白色粒を散在的に少量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
P9	1 黒色土	2mm 大の白色粒が均一に多量混入。しまりあり、柔らかい。(柱状穴埋土)
2	黒色土	2~5mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
3	黒色土	0.5mm 大の白色粒・5mm 大の赤色粒が少量均一に混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
4	黒色土	1mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
5	黒色土	10mm 大の赤色粒塊が均一に多量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
P10	1 黒色土	2~5mm 大の赤色粒が均一に多量混入。しまりあり、柔らかい。(柱状穴埋土)
2	黒色土	1mm 大の白色粒・2mm 赤色粒が均一に少量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
3	黒灰色土	20mm 大の白色粘土塊・30mm 大の白黄粘土塊が散在的に多量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
4	黒色土	2mm 大の黄色粒が均一に多量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
P11	1 黒色土	1~2mm 大の赤色粒・白色粒が均一に多量混入。しまりあり、柔らかい。(柱状穴埋土)
2	黒色土	1mm 大の白色粒・5mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
3	黒色土	0.5mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
4	黒色土	1mm 大の黄色粒が均一に多量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
5	黒色土	1mm 大の黄色粒が均一に少量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
P12	1 黒色土	1~2mm 大の赤色粒・白色粒が均一に少量混入。しまりあり、柔らかい。(柱状穴埋土)
2	黒色土	2mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)
3	黒色土	0.5mm 大の黄色粒が散在的に少量混入。しまりあり、固い。(柱状穴埋土)

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	長方形	1.24	0.70	0.75	P7	長方形	1.12	0.72	0.51
P2	長方形	0.96	0.66	0.41	P8	不整形	0.98	(0.40)	0.45
P3	長方形	1.32	0.92	0.53	P9	長方形	1.00	0.78	0.81
P4	楕円形	1.12	(0.40)	0.91	P10	方形	(0.80)	(0.56)	0.98
P5	長方形	1.26	0.80	0.99	P11	不整形	1.48	1.16	0.71
P6	不整形	(0.56)	(0.44)	0.75	P12	不整形	1.02	0.78	0.63



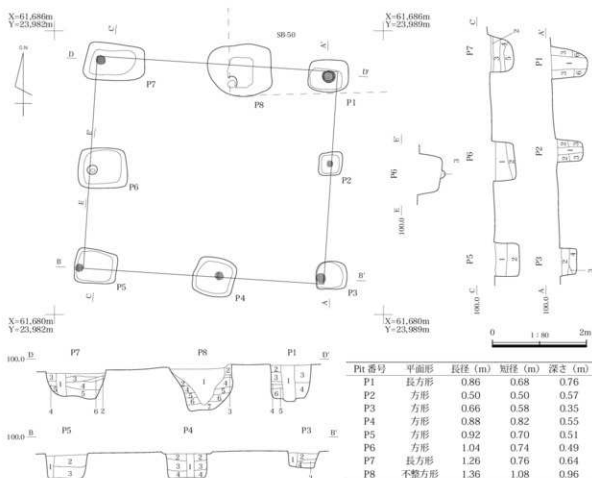
第322図 北ノ内遺跡(2次調査) SB-14実測図



SB-15 土層説明・Pit 計測表

- P1**
- 1 黒色土 0.5mm 大の黄色粒が均一に少量混入。しまりあり。柔らかい。(柱状跡)
 - 2 黒色土 0.5mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)
 - 3 黒色土 0.5mm 大の黄色粒・1mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)
 - 4 黒色土 2mm 大の黄白色・1mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)
- P2**
- 1 黒色土 0.5mm 大の白色粒が均一に極少量混入。しまりあり。柔らかい。(柱状跡)
 - 2 黒色土 0.5mm 大の白色粒・1mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)
 - 3 黒色土 1mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)
- P3**
- 1 黒色土 1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりあり。柔らかい。(柱状跡)
 - 2 黒色土 0.5mm 大の白色粒・2mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)
 - 3 黒色土 1mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)
- P4**
- 1 黒色土 1mm 大の白色粒・赤色粒が均一に少量混入。しまりあり。柔らかい。(柱状跡)
 - 2 黒色土 0.5mm 大の白色粒・1mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)
 - 3 黒色土 1mm 大の赤色粒を散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)
- P5**
- 1 黒色土 0.5mm 大の白色粒が均一に極少量混入。しまりあり。柔らかい。(柱状跡)
- P6**
- 1 黒色土 1mm 大の白色粒・赤色粒が均一に少量混入。しまりあり。柔らかい。(柱状跡)
 - 2 黒色土 0.5mm 大の白色粒・1mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)
 - 3 黄黒色土 0.5~2mm 大の黄色粒・10mm 大の黄色粒塊が均一に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)
 - 4 黒色土 1mm 大の白色粒・赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)
- P7**
- 1 黒色土 1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりあり。柔らかい。(柱状跡)
 - 2 黒色土 0.5mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)
 - 3 黒色土 0.5mm 大の赤色粒・白色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)
 - 4 黒色土 1mm 大の白色粒・赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)
- P8**
- 1 黒色土 0.5mm 大の白色粒・赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)
 - 2 黒色土 1mm 大の赤色粒・白色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)

第 323 図 北ノ内遺跡 (2次調査) SB-15実測図

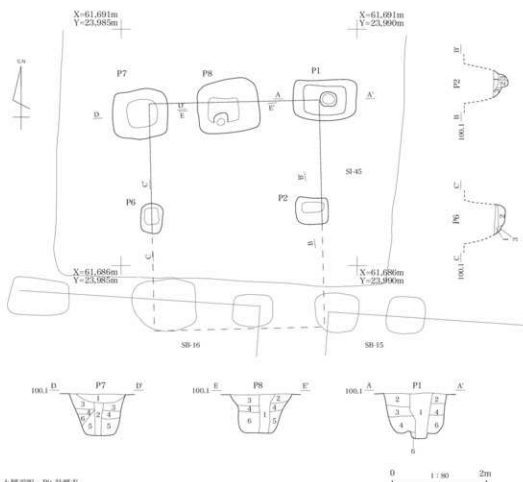


B-16 土層説明・P坑計測表

- P1**
- 黒色土 0.5mm 大の黄色粒が均一に少量混入。しまりあり。柔らかい。(柱頭跡)
 - 黒色土 0.5mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
 - 黒色土 1mm 大の黄色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
 - 黒色土 0.5mm 大の黄色粒が散在的に極少量混入。黒色土純層に近い。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
 - 黒色土 1mm 大の黄色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
 - 黒色土 1mm 大の黄色粒が均一に少量混入。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
- P2**
- 黒色土 0.5mm 大の白色粒・赤色粒が均一に極少量混入。しまりあり。柔らかい。(柱頭跡)
 - 黒色土 0.5mm 大の白色粒・1mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
 - 黒色土 1mm 大の黄色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
- P3**
- 黒色土 0.5~1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりあり。柔らかい。(柱頭跡)
 - 黒色土 0.5mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
 - 黒色土 1mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
 - 黒色土 1mm 大の白色粒・赤色粒が散在的に極少量混入。黒色土純層に近い。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
- P4**
- 黒色土 0.5mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しまりあり。柔らかい。(柱頭跡)
 - 黒色土 0.5mm 大の白色粒が少量混入。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
 - 黒色土 0.5mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
 - 黒色土 1mm 大の白色粒が散在的に極少量混入。黒色土純層に近い。しまりあり。固い。(柱頭方理土)

- P5**
- 黒色土 1mm 大の白色粒、20~30mm 大の黄白色粘土塊が均一に多量混入。しまりあり。柔らかい。(柱頭跡)
 - 黒色土 0.1mm 大の黄白色・赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
 - 黒色土 1mm 大の白色粒が散在的に極少量混入。黒色土純層に近い。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
- P6**
- 黒色土 1~2mm 大の白色粒・赤色粒が均一に多量混入。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
 - 黒赤褐色土 0.5~2mm 大の白色粒、10mm 大の赤色粒・黒色土が散在的に多量混入。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
- P7**
- 黒色土 1mm 大の白色粒・赤色粒が均一に少量混入。しまりあり。柔らかい。(柱頭跡)
 - 黒色土 0.5mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
 - 黒色土 0.5mm 大の赤色粒・黄色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
 - 黒色土 1mm 大の黄色粒が散在的に極少量混入。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
 - 黒色土 5mm 大の黄色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
 - 黒黄色土 0.5mm 大の黄色粒・赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
- P8**
- 黄褐色土 1mm 大の黄色粒、20mm 大の黄褐色塊が散在的に多く混入。しまりあり。柔らかい。(柱頭方理土)
 - 黒色土 1mm 大の黄色粒が散在的に極少量混入。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
 - 黒色土 5mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
 - 黒色土 1mm 大の黄色粒が均一に少量混入。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
 - 黒黄色土 0.5mm 大の黄色粒、30mm 大のロームブロックが散在的に多く混入。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
 - 黒黄色土 0.5mm 大の黄色粒、10mm 大のロームブロックが散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱頭方理土)
 - 黒黄色土 2mm 大の黄色粒・赤色土との混合土。均一に混入。しまりあり。固い。(柱頭方理土)

第324図 北ノ内遺跡(2次調査) SB-16実測図

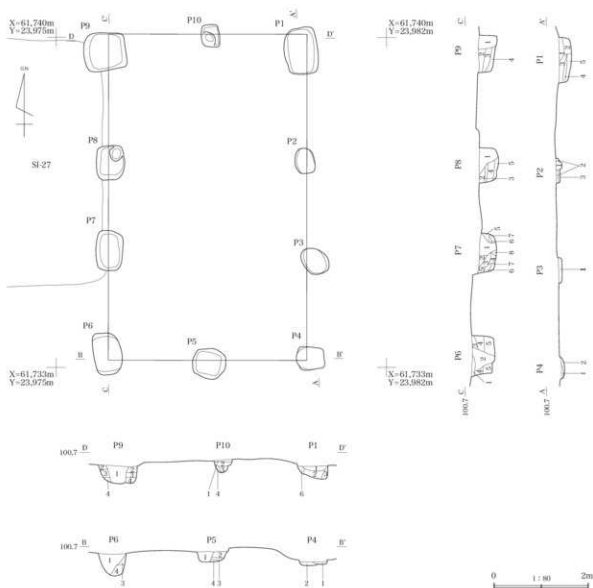


SB-50 土層説明・Pit 計測表

- P1**
- 1 黒色土 1～2mm 大の白色粒・赤色粒。15～20mm 大のローム塊が均一に多量混入。しまりあり。柔らかい。(柱状腐り)
 - 2 黒色土 0.5mm 大の赤色粒が均一に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)
 - 3 黒色土 1mm 大の赤色粒・黄色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)
 - 4 黒色土 0.5～1mm 大の白色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)
 - 5 黒色土 2mm 大の黄色粒・黄白色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)
 - 6 黒黄色土 1mm 大の黄色粒。5mm 大の白色粒が散在的に多量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)
- P2**
- 1 黒色土 1mm 大の黄色粒が均一に少量混入。しまりあり。柔らかい。(柱状腐り)
 - 2 黒色土 0.5mm 大の黄白色粒が散在的に少量混入。しまりあり。柔らかい。(柱状腐り)
 - 3 灰赤色土 5mm 大の黒色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)
- P6**
- 1 黒色土 1mm 大の白色粒が均一に少量混入。しまりあり。柔らかい。(柱状腐り)
 - 2 黒色土 5～20mm 大の黄色粒が均一に多量混入。しまりあり。柔らかい。(柱状腐り)
 - 3 黄褐色土 黒色土が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)
- P7**
- 1 黒黄色土 1mm 大の黄色粒・赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)
 - 2 黒色土 1～2mm 大の黄色粒・炭化物粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)
- P8**
- 1 黒黄色土 1mm 大の黄色粒・赤色粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)
 - 2 黒色土 1～2mm 大の黄色粒・赤色粒及び炭化物粒が散在的に少量混入。しまりあり。固い。(柱状方理土)

Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	Pit 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	長方形	1.32	0.86	0.94	P7	方形	1.18	1.04	0.86
P2	長方形	—	—	0.98	P8	方形	1.30	1.14	0.40
P6	長方形	—	—	0.90					

第 325 図 北ノ内遺跡 (2次調査) SB-50 実測図



第326図 北ノ内遺跡(2次調査) SB-55実測図

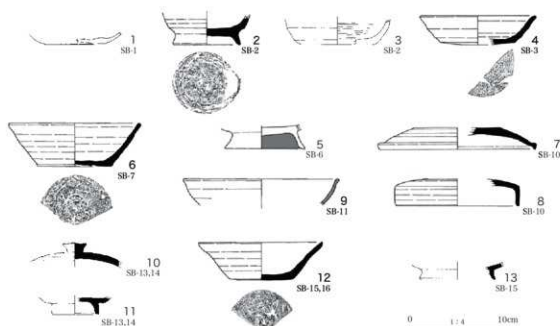
第IV章 北ノ内遺跡の2次調査

SB-55 土質説明・P# 計測表

P1			
1	黒色土	1mm 大の白色粒・赤色粒、5mm 大の黄色粒が均一に多量混入。しりりあり。柔らかい。(柱状取穴埋土)	
2	黒色土	2mm 大の黄色粒が散在的に少量混入。しりりあり。柔らかい。(柱状取穴埋土)	
3	黒色土	黒色土中に1mm 大の黄色粒の集合体(50mm 大)が散在的に多量混入。しりりあり。固い。(柱状取穴埋土)	
4	黒黄色土	10mm 大のソフトローム粒が散在的に少量混入。しりりあり。固い。(柱状取穴埋土)	
5	黄色土	ソフトローム中に、5mm 大の黄色土が少量混入。しりりあり。固い。(柱状取穴埋土)	
6	黄色土	100mm 大のソフトローム塊中に、黒色土が少量混入。しりりあり。固い。(柱状取穴埋土)	
P2			
1	黒色土	2mm 大の黄色粒ソフトロームが散在的に多量混入。しりりあり。柔らかい。(柱状取穴埋土)	
2	黒黄色土	1mm 大の赤色粒がソフトローム中に多量混入。しりりあり。固い。(柱状取穴埋土)	
3	黒黄色土	1mm 大の赤色粒・黒色土がソフトローム中に少量混入。しりりあり。固い。(柱状取穴埋土)	
P3			
1	黒色土	2mm 大の赤色粒・黄色粒が散在的に少量混入。しりりあり。固い。(柱状取穴埋土)	
P4			
1	黒黄色土	1mm 大の黄色粒・赤色粒が散在的に少量混入。しりりあり。柔らかい。(柱状取穴埋土)	
2	黒黄色土	ソフトローム中に5mm 大の黒色土粒が少量混入。しりりあり。固い。(柱状取穴埋土)	
P5			
1	黒色土	1mm 大の黄色粒・赤色粒が散在的に多量混入。しりりあり。柔らかい。(柱状取穴埋土)	
2	黒色土	0.5mm 大の黄色粒が均一に多量混入。しりりあり。固い。(柱状取穴埋土)	
3	黄色土	ソフトローム中に1mm 大の黒色土が少量混入。しりりあり。固い。(柱状取穴埋土)	
4	黒黄色土	ソフトローム中に1mm 大の赤色粒・黒色土が少量混入。しりりあり。固い。(柱状取穴埋土)	
P6			
1	黒黄褐色土	15mm 大のローム塊・赤色塊が散在的に多量混入。柔らかい。(柱状取穴埋土)	
2	黒色土	2mm 大の黄色粒・赤色粒、40mm 大の今半粒石・黒色土塊が散在的に多く混入。しりりあり。柔らかい。(柱状取穴埋土)	
3	黒色土	0.5mm 大の黄色粒・赤色粒が均一に多量混入。しりりあり。固い。(柱状取穴埋土)	
4	黒色土	1mm 大の黄色土が散在的に少量混入。しりりあり。固い。(柱状取穴埋土)	
5	黒黄色土	1mm 大の赤色粒・黒色土の混合土。しりりあり。固い。(柱状取穴埋土)	

P7			
1	黒色土	2mm 大の黄色粒・赤色粒、40mm 大の今半粒石・黒色土塊が散在的に多量混入。しりりあり。柔らかい。(柱状取穴埋土)	
2	黒黄褐色土	1mm 大の黄色粒・赤色粒・炭化物粒が散在的に多量混入。固い。(柱状取穴埋土)	
3	黒色土	1mm 大の黄色土・赤色粒が散在的に多く混入。しりりあり。固い。(柱状取穴埋土)	
4	黒黄色土	0.5mm 大の黒色土粒7:1ローム粒3の混合土。しりりあり。固い。(柱状取穴埋土)	
5	黄色土	1mm 大の黄色粒・赤色粒が均一に多量混入。しりりあり。固い。(柱状取穴埋土)	
6	黒色土	1mm 大の黄色土・赤色粒、30mm 大の黒色塊が散在的に少量混入。しりりあり。固い。(柱状取穴埋土)	
7	黒黄色土	ソフトロームと黒色土の等量混合土。しりりあり。固い。(柱状取穴埋土)	
8	黒黄褐色土	1mm 大の赤色粒、0.5mm 大の黒色粒が均一に多量混入。しりりあり。固い。(柱状取穴埋土)	
P8			
1	黒色土	2mm 大の黄色粒・赤色粒が散在的に多量混入。しりりあり。柔らかい。(柱状取穴埋土)	
2	黒色土	1mm 大の黄色粒が均一に多量混入。しりりあり。固い。(柱状取穴埋土)	
3	黒色土	1mm 大の黄色土、20mm 大の黄褐色塊が散在的に少量混入。しりりあり。固い。(柱状取穴埋土)	
4	黒黄色土	2mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。ソフトロームと黒色土の等量混合土。固い。(柱状取穴埋土)	
5	黒黄色土	1mm 大の黄色粒・赤色粒・黒色粒が均一に多量混入。固い。(柱状取穴埋土)	
P9			
1	黒色土	0.5~1mm 大の黄色粒・赤色粒・白色粒が均一に多量混入。しりりあり。柔らかい。(柱状取穴埋土)	
2	黒色土	1mm 大の白色土、0.5~1mm 大の赤色粒、20mm 大の白黄色塊が散在的に少量混入。しりりあり。固い。(柱状取穴埋土)	
3	黒色土	0.5~10mm 大の赤色粒、20mm 大の白黄色塊が散在的に多量混入。しりりあり。固い。(柱状取穴埋土)	
4	黒黄色土	1~2mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しりりあり。固い。(柱状取穴埋土)	
P10			
1	黒色土	1mm 大の黄色粒・白色粒が均一に多量混入。しりりあり。柔らかい。(散乱)	
2	黒色土	1mm 大の白色土、0.5~2mm 大の赤色粒が散在的に少量混入。しりりあり。柔らかい。(柱状取穴埋土)	
3	黒黄褐色土	0.5~10mm 大の赤色粒・黄色粒、15mm 大の白黄色塊が散在的に多く混入。しりりあり。柔らかい。(柱状取穴埋土)	
4	黒黄色土	ハードロームと黒色土の等量混合土。しりりあり。固い。(柱状取穴埋土)	

P# 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	P# 番号	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
P1	長方形	0.98	0.72	0.33	P6	長方形	0.88	0.6	0.51
P2	楕円形	0.52	0.42	0.12	P7	長方形	0.84	0.58	0.40
P3	楕円形	0.66	0.52	0.10	P8	方形	0.70	0.60	0.40
P4	方形	0.58	0.48	0.17	P9	方形	0.90	0.88	0.40
P5	円形	0.70	0.64	0.28	P10	方形	0.46	0.38	0.19



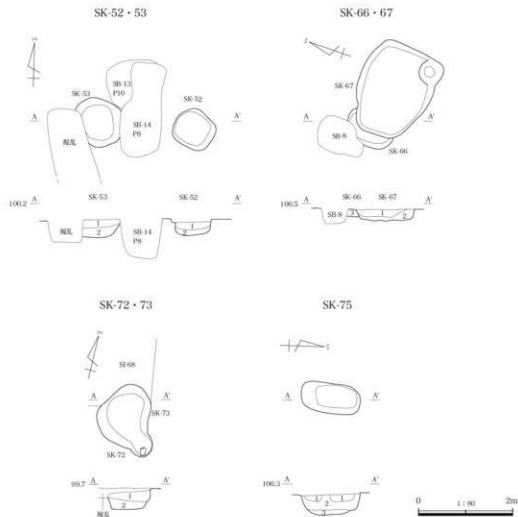
第327図 北ノ内道跡(2次調査) SB出土遺物

第127表 北ノ内道跡(2次調査) SB出土遺物観察表

No	器種 器形	大きさ(cm)	胎土(石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 環	口径: 一 底径: 6.4 器高: (1.3)	小礫	内: 体~底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、底部 ヘラ切り後ヘラナデ	内: 灰白色 外: 灰白色 ・良	1/4	胎土精良だが少量の細礫含む。	SB-1 P11 埋土中
2	須恵器 高台環	口径: 一 底径: (7.0) 器高: (3.4)	砂粒・小礫多 量	内: 体~底部ロクロナデ 外: 体部ロクロナデ、底部 回転ヘラ切り、後高台貼付	内: 灰色 外: 灰色 ・良	底部完存 高台部 1/9	やや小形。	SB-2 P12 北西隅柱埋 土中
3	土師器 環	口径: 一 底径: (8.0) 器高: (2.7)	透明粒・黒色 ガラス質粒微 量	内: 体~底部ヘラミガキ 外: 体部ロクロナデ、体部 下部回転ヘラケズリ、底 部回転ヘラケズリ	内: 黒色 外: 明褐色 ・良	底~胴部 1/4		SB-2 埋土中
4	須恵器 環	口径: (12.0) 底径: (7.8) 器高: 3.1	砂粒・小礫多 量	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナ デ、底部回転ヘラ切り後 回転ヘラケズリか	内: 灰色 外: 灰色 ・良	口縁~底 部 1/6		SB-3 P3 南東隅柱埋 土中
5	土師器 高台環	口径: 一 底径: (8.4) 器高: (2.3)	黒色粒・透明 粒・砂粒少量	内: 底部不定方向ヘラミガキ 外: 底部回転ヘラ切り後回 転ヘラケズリ、高台貼付 後ナデ	内: 黒色 外: にぶい黄褐色 ・良	底部完存 高台部 1/4	内面黒色処理。	SB-6 P6 埋土中
6	須恵器 環	口径: (13.8) 底径: (7.8) 器高: 4.6	砂粒、小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ 底部回転ヘラ切りのまま	内: 灰色 外: 灰色 ・良	1/5	底部外面にヘラ記号。	SB-7 P5
7	須恵器 環蓋	口径: (16.4) 器高: (2.3)	砂粒	内: 天井~底部ロクロナデ 外: 天井~体部回転ヘラ ケズリ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	1/4	天井部平坦面と斜面の 境に稜をもつ。	SB-10 P8 埋土中
8	須恵器 短頸直志蓋	口径: 一 口径: (13.0) 器高: (2.8)	透明粒、砂粒	内: 体~底部ロクロナデ 外: 体~底部ロクロナデ	内: 灰色 外: 暗赤灰~灰色 ・良	1/9	天井部外面に沈線。	SB-10 P11 埋土中
9	灰釉陶器 碗	口径: (16.5) 底径: (2.8) 器高: (2.8)	砂粒	内: 口縁~体部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ	内: オリーブ灰色 外: 暗灰黄色 ・良	口縁部破 片	内外面輪刷毛線入り。	SB-11 P7 埋土中 脇投差。 黒灰 50 型式、 小片
10	須恵器 蓋	口径: (2.4) 器高: (1.9)	白色粒多量	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	1/6		SB-13・14
11	須恵器 高台環	口径: 一 底径: (4.8) 器高: (2.0)	白色粒、細礫	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	底部 1/5		SB-13・14
12	須恵器 環	口径: (13.2) 底径: (6.8) 器高: 4.0	透明粒、砂粒、 小礫	内: 口縁~底部ロクロナデ 外: 口縁~体部ロクロナデ 底部回転ヘラ切りのまま	内: 暗青灰色 外: 暗青灰色 ・良	1/4	僅かに歪みあり。底部 外面にヘラ記号「二」。	SB-15 P8 と SB-16 P7 で 道横間接合
13	須恵器 高台環	口径: 一 底径: (8.0) 器高: (1.9)	白色粒多量、 細礫少量	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	内: 灰色 外: 灰色 ・良	1/5		SB-15 P1 埋土中

第4節 各時代の土坑と出土遺物

土坑は18基を確認した。明確に時期や性格を決定できるものが少ないため、本節で主要なものをまとめて図示する。形態は方形または不整形を呈し、掘立柱建物跡の柱穴掘方に類似するものが多い。検出できなかった掘立柱建物跡の柱穴という可能性もある。調査区南東部に位置するSK-63等は、特にその可能性が高い。SK-65は、平安時代の竪穴建物跡SI-20南壁に重複する方形の土坑で、これも柱穴様の形態を呈する。1の土師器環が出土している。9世紀中葉の所産と考えられ、底部外面に「目」を墨書する。「目」墨書はSI-20で出土している須恵器・土師器環にみられる。



SK-52 土坑説明

- 1 黒色土 2~5mm大の白色粒を散在的に少量混入。しまりあり。固い。
- 2 黒色土 0.5mm大の赤色粒、2~10mm大の白色粒を極少量混入。しまりあり。固い。

SK-53 土坑説明

- 1 黒色土 0.5mm大の黄色粒、5mm大の赤色粒を散在的に少量混入。しまりあり。固い。
- 2 黒色土 0.5mm大の黄色粒、5mm大の赤色粒・黄色粒を均一に多量混入。しまりあり。固い。

SK-66・67 土坑説明

- 1 黒色土 0.5~5mm大の赤色土粒、5mm大の黒色土粒、50mm大のツフトローム塊を散在的に多量混入。しまりあり。柔らかい。(SK-67)

- 2 黒黄色土 ツフトローム中に赤色土・黒色土を多量混入。しまりあり。柔らかい。(SK-67)
- 3 赤褐色土 1~10mm大の赤色粒、0.5~1mm大のローム粒を黒色土中に多量混入。しまりなし。柔らかい。(SK-66)

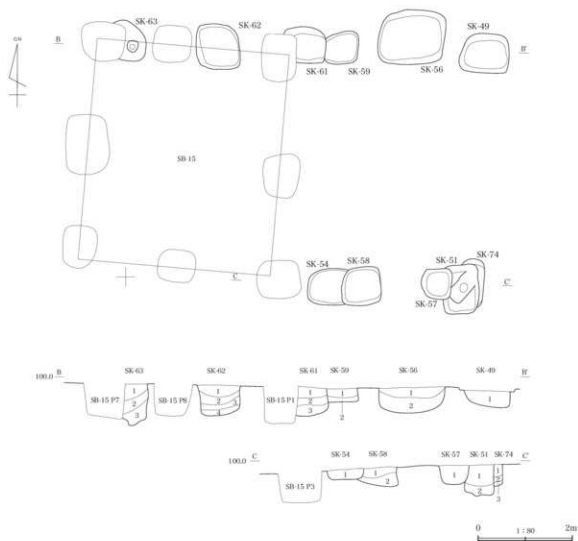
SK-73 土坑説明

- 1 黒色土 ローム粒、七本板軽石粒少量混入。固い。
- 2 黒褐色土 ローム塊、ローム粒多量混入。固い。

SK-75 土坑説明

- 1 灰褐色土 ローム粒・七本板軽石粒少量混入。
- 2 黒色土 ローム粒・七本板軽石粒少量混入。
- 3 黒褐色土 ローム塊・ローム粒少量混入。

第328図 北ノ内遺跡(2次調査) SK実測図(1)



SK-49 土層説明

1 黒色土 1mm 大の赤色粒・白色粒を均一に少量混入。しまりあり。柔らかい。

SK-56 土層説明

1 黒色土 0.5~3mm 大の赤色粒・白色粒を均一に少量混入。しまりあり。固い。
2 黒色土 0.5mm 大の赤色粒・白色粒。5mm 大の赤色粒・白色粒を均一に極少量混入。しまりあり。固い。

SK-59 土層説明

1 黒色土 1mm 大の赤色粒。0.5mm 大の白色粒を散在的に極少量混入。しまりなし。柔らかい。
2 黒色土 0.5mm 大の黄色粒を散在的に極少量混入。しまりなし。柔らかい。

SK-61 土層説明

1 黒色土 0.5~1mm 大の赤色粒・白色粒を均一に多量混入。しまりあり。固い。
2 黒色土 5mm 大の赤色粒を散在的に少量混入。しまりあり。固い。
3 黒色土 2mm 大の黄色粒を散在的に極少量混入。しまりあり。固い。

SK-62 土層説明

1 黒色土 0.5~1mm 大の白色粒を均一に少量混入。しまりあり。固い。
2 黒色土 1mm 大の白色粒を散在的に少量混入。しまりあり。固い。
3 黒色土 0.5~2mm 大の白黄色粒。5~12mm 大の白黄色粒を散在的に多量混入。しまりあり。固い。
4 黒色土 0.5mm 大の赤色粒を散在的に極少量混入。しまりあり。固い。

SK-63 土層説明

1 黒色土 0.5mm 大の黄色粒を均一に多量混入。しまりあり。固い。
2 黒色土 1mm 大の黄色粒を散在的に極少量混入。黒色土純層に違い。しまりあり。固い。
3 黒褐色土 5mm 大の黄白色粒 5:黒色土 5 の混合土。しまりあり。柔らかい。

SK-74 土層説明

1 黒色土 2~5mm 大の赤色粒。1mm 大の白色粒を散在的に少量混入。しまりあり。固い。
2 黒色土 2mm 大の赤色粒・黄色粒を均一に多量混入。しまりあり。固い。
3 黒色土 1mm 大の黄色粒・白色粒を均一に多量混入。しまりあり。固い。

SK-51 土層説明

1 黒色土 1mm 大の赤色粒・白色粒・暗褐色粒を均一に少量混入。しまりあり。固い。
2 黒色土 5mm 大の赤色粒。8mm 大の黄色粒を均一に少量混入。しまりあり。固い。

SK-57 土層説明

1 黒色土 1mm 大の赤色粒・白色粒・暗褐色粒を均一に多量混入。しまりあり。固い。

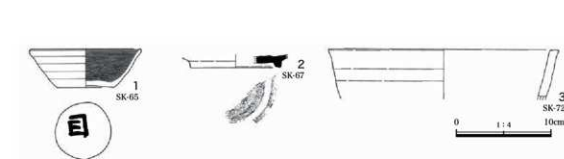
SK-58 土層説明

1 黒色土 1mm 大の赤色粒を散在的に極少量混入。しまりあり。固い。
2 黒色土 1mm 大の白色粒。0.5mm 大の赤色粒を散在的に極少量混入。しまりあり。固い。1層よりやや薄い。

SK-54 土層説明

1 黒色土 2mm 大の赤色粒・白色粒を均一に少量混入。しまりなし。柔らかい。

第329図 北ノ内遺跡(2次調査) SK実測図(2)



第330図 北ノ内遺跡(2次調査) SK出土遺物

第128表 北ノ内遺跡(2次調査) SK出土遺物観察表

No.	器種 器形	大きさ(cm)	胎土(石材)	技法	色調・焼成	残存率	特徴	備考
1	土師器 高台環	口径:11.6 底径:5.8 器高:4.0 重量:127.0g	砂粒	内:口縁~底部細かい ヘラミガキ 外:口縁~体部口クロ ナデ、底部回転糸切り のまま	内:黒 外:にぶい黄橙 色 ・良	完形	底部外面に墨書 「目」。 内面黒色処理。	SK-65
2	土師器 高台環	口径:— 底径:(9.4) 器高:(1.4)	黒色粒、砂 粒	内:底部口クロナデ 外:底部回転ヘラケズ リ、後貼付高台後ナデ	内:灰色 外:灰色 ・良	底部 1/3		SK-67 覆土
3	瓦質土 器鉢	口径:(24.0) 底径:— 器高:(5.3)	透明粒・砂 粒・小礫少 量	内:口縁~体部口クロ ナデ 外:口縁~体部口クロ ナデ	内:明赤褐色 外:明赤褐色 ・良	口縁部 1/16		SK-72

写 真 图 版



遺跡遠景（南から）



遺跡近景（南から）



遺跡全景（南東から）



遺跡全景（北西から）



SI-44 遺物出土状況（南西から）



SK-195 完掘（東から）



SK-275 完掘（南東から）



SK-340 完掘（北から）



SK-358 上端完掘（北西から）



SK-362 完掘（南から）



SK-366 遺物出土状況 (北西から)



SK-392 完掘 (南から)



SK-410 完掘 (北から)



SK-410 セクション (北から)



SK-513 完掘 (南から)



SK-513 セクション (南東から)



SK-514 完掘 (北東から)



SK-514 セクション (北東から)



SI-1 完掘 (南から)



SI-1 カマド完掘 (南から)



SI-3 完掘 (南から)



SI-3 カマド完掘 (南から)



SI-4 完掘 (南から)



SI-4 カマド完掘 (南から)



SI-4 北西コーナー遺物出土状況 (南から)



SI-4 南東コーナー遺物出土状況 (南西から)



SI-4 南西コーナー遺物出土状況（東から）



SI-6a 床面確認状況（南から）



SI-6b 完掘（南から）



SI-6c カマド完掘（南から）



SI-7 完掘（南から）



SI-7c カマド完掘（南から）



SI-8 完掘（南から）



SI-8c カマド完掘（南から）



SI-9・10 完掘 (南から)



SI-9 カマド完掘 (南から)



SI-10 完掘 (南から)



SI-10 カマド完掘 (南から)



SI-11 完掘 (南から)



SI-11 カマド完掘 (南から)



SI-11 遺物出土状況 (南東から)



SI-11 P6 遺物出土状況 (北東から)



SI-13 完掘（南から）



SI-13 床面確認状況（南西から）



SI-16 完掘（南から）



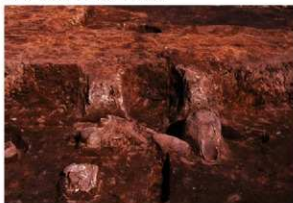
SI-16 カマド完掘（南から）



SI-16 遺物出土状況（南から）



SI-18 完掘（南から）



SI-18 カマド完掘（南から）



SI-18 カマド袖内遺物出土状況（南西から）



SI-20 完掘 (南から)



SI-20 カマド完掘 (南から)



SI-22・25 完掘 (南から)



SI-22 東カマド完掘 (西から)



SI-22 鉄製品出土状況 (南西から)



SI-25 完掘 (南から)



SI-26 完掘 (南東から)



SI-26 カマド完掘 (南東から)



SI-30 完掘 (南から)



SI-33 完掘 (南から)



SI-33 P5 周辺遺物出土状況 (南東から)



SI-35a 完掘 (南西から)



SI-35b 完掘 (南から)



SI-35b カマド完掘 (南から)



SI-38a 完掘 (南から)



SI-38a カマド完掘 (南から)



SI-40a 完掘 (南から)



SI-40b 完掘 (南西から)



SI-40b カマド完掘 (南東から)



SI-42 完掘 (西から)



SI-42 カマド完掘 (西から)



SI-43 完掘 (西から)



SI-43 カマド完掘 (西から)



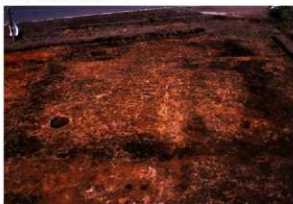
SI-45 完掘 (南から)



SI-45 完掘 (北東から)



SI-45 カマド完掘 (南から)



SI-48 確認状況 (南から)



SI-49 完掘 (南西から)



SI-49 カマド完掘 (南から)



SI-53 完掘 (南東から)



SI-53 カマド完掘 (南から)



SI-53 遺物出土状況 (北東から)



SI-62 完掘 (南東から)



SI-2 完掘 (南から)



SI-12 完掘 (南から)



SI-12 カマド完掘 (南から)



SI-14 完掘 (南から)



SI-15 完掘 (南西から)



SI-19 完掘 (南から)



SI-111 完掘 (南から)



SI-111 カマド完掘 (西から)



SI-23 確認状況 (南から)



SI-24 完掘 (南から)



SI-24 カマド完掘 (南から)



SI-27 完掘 (南から)



SI-27 カマド完掘 (南から)



SI-28 完掘 (南から)



SI-29 完掘 (南から)



SI-29 カマド完掘 (南西から)



SI-31 完掘 (南から)



SI-31 カマド完掘 (南から)



SI-31 カマド掘方 (南から)



SI-115 完掘 (南から)



SI-115 東カマド完掘 (西から)



SI-32 完掘 (西から)



SI-32 カマド遺物出土状況 (西から)



SI-33・34 完掘 (南東から)



SI-34 完掘 (南から)



SI-34 カマド完掘 (南から)



SI-34 カマド完掘 (南東から)



SI-34 P2 遺物出土状況 (東から)



SI-36 完掘 (南西から)



SI-37 完掘 (東から)



SI-37 北カマド完掘 (南から)



SI-38b 完掘 (南から)



SI-38b カマド完掘 (南から)



SI-38b カマド完掘 (南東から)



SI-38b カマド煙道部完掘 (南東から)



SI-39 カマド完掘 (南から)



SI-41 完掘 (南から)



SI-41 カマド完掘 (南から)



SI-46 完掘 (南から)



SI-46 カマド完掘 (南から)



SI-47 完掘 (南から)



SI-50 完掘 (南西から)



SI-50 カマド完掘 (南東から)



SI-52 完掘 (南から)



SI-52 カマド完掘 (南から)



SI-54、SK-63 完掘 (南西から)



SI-54 カマド完掘 (南西から)



SI-68 完掘 (北西から)



SI-57 完掘 (西から)



SI-57 カマド完掘 (西から)



SI-58 完掘 (南から)



SI-58 カマド完掘 (南から)



SI-58 遺物出土状況 (東から)



SI-59 完掘 (南から)



SI-59 カマド完掘 (南から)



SI-61・66 完掘（西から）



SI-61 カマド完掘（西から）



SI-66 カマド完掘（南西から）



SI-64・67 完掘（南東から）



SI-72 完掘（南西から）



SI-72 北カマド完掘（南東から）



SI-72 東カマド A 完掘（北西から）



SI-72 東カマド B 完掘（北西から）



SI-73 完掘 (南から)



SB-65 確認状況 (西から)



SB-75 確認状況 (東から)



SK-56 完掘 (南東から)



SK-63 完掘 (南から)



SK-330 ~ 335 完掘 (東から)



SK-352 完掘 (北東から)



検出面以下の基本層序 グリッド 14-91 付近 (西から)



SK-366 6



SK-366 6



SK-366 5



SK-366 5



SI-1 1



SI-1 4



SI-1 5



SI-1 6



SI-1 7



SI-1 9



SI-1 10



SI-1 12



SI-1 13



SI-1 14



SI-1 12



SI-1 13



SI-1 14



SI-32



SI-33



SI-35



SI-43



SI-46



SI-410



SI-413



SI-414



SI-416



SI-417



SI-418



SI-419



SI-422



SI-425



SI-427



SI-429



SI-431



SI-432



SI-437



SI-440



SI-441







SI-169



SI-185



SI-186



SI-1810



SI-1811



SI-1896



SI-224



SI-226



SI-22鉄1



SI-308



SI-3016



SI-3016



SI-3014



SI-331



SI-3311



SI-334



SI-3311



SI-33 9



SI-33 10



SI-35a 12



SI-38a 3



SI-35b 4



SI-38a 12



SI-38a 7



SI-42 1



SI-43 11



SI-43 9



SI-43 9



SI-43 10



SI-43 5



SI-43 7



SI-43 10



SI-45 2



SI-45 15



SI-45 24



SI-45 13



SI-45 17



SI-49 1



SI-49 2



SI-49 3



SI-49 4



SI-49 5



SI-49 6



SI-49 7



SI-49 8



SI-49 9



SI-49 11



SI-53 1



SI-53 2



SI-49 11



SI-53 3



SI-53 5



SI-53 6



図版二九 北ノ内遺跡 奈良・平安時代の遺物





SI-58 2



SI-59 4



SI-72 2



SI-61 9



SI-62 墨書



SI-72 3



SI-64 3



SI-64 3



その他の出土遺物 1



SK-56 1



SK-56 2



SK-63 3



SK-63 6



SK-83 8



SK-83 11



SK-83 9



SK-83 10



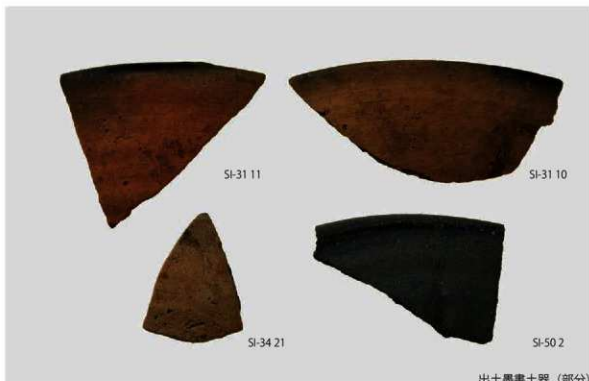
SK-83 11

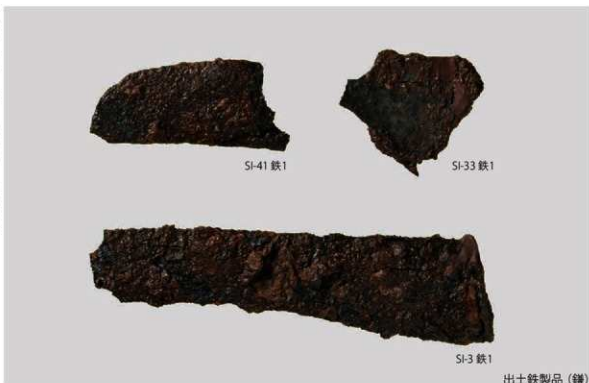


SK-185 鉄滓



SK-183 鉄滓







遺跡遠景（南から）



遺跡近景（南西から）



遺跡近景 (西から)



調査区全景 (掘立柱建物跡)



調査区全景



SI-17 完掘 (南から)



SI-17 カマド完掘 (南から)



SI-27 完掘 (南から)



SI-27 カマド完掘 (南から)



SI-37 完掘 (南から)



SI-39 完掘 (南から)



SI-40・41 完掘 (北西から)



SI-40・41 完掘 (西から)



SI-40・41 遺物出土状況(西から)



SI-42 完掘(南から)



SI-42 カマド遺物出土状況(南西から)



SI-18 完掘(南から)



SI-18 カマド完掘(南から)



SI-19 完掘(南から)



SI-20 完掘(南から)



SI-20 カマド完掘(南から)



SI-20 カマド周辺遺物出土状況（南から）



SI-21 完掘（南から）



SI-21 カマド完掘（南から）



SI-21 遺物出土状況（南から）



SI-22 完掘（南から）



SI-22 遺物出土状況（南から）



SI-24 完掘（南から）



SI-25 完掘（南から）



SI-26 完掘 (南から)



SI-26 カマド完掘 (南から)



SI-28 完掘 (南から)



SI-28 カマド遺物出土状況 (南から)



SI-29 完掘 (南から)



SI-30 完掘 (西から)



SI-30 カマド完掘 (西から)



SI-31 検出状況 (南から)



SI-32 完掘（南から）



SI-33 完掘（南から）



SI-34 完掘（南から）



SI-34 カマド完掘（南から）



SI-36 完掘（南東から）



SI-36 カマド完掘（南東から）



SI-38 完掘（南から）



SI-44 完掘（西から）



SI-45 完掘 (南から)



SI-45 カマド完掘 (南から)



SI-45 カマド完掘 (南東から)



SI-47 完掘 (南から)



SI-48 完掘 (西から)



SI-69 完掘 (南から)



SI-70 完掘 (南から)



SI-71 完掘 (南から)



SB-1～3 検出状況（東から）



SB-1～3 完掘（東から）



SB-1～3 完掘



SB-4・5 検出状況（東から）



SB-4・5 完掘（東から）



SB-4・5 完掘



SB-4 P1 貝出土状況（南東から）



SB-4 P1 貝出土状況（南東から）



SB-1～5 検出状況(北から)



SB-1～5 完掘



SB-6 完掘(南から)



SB-7 検出状況



SB-7 検出状況(北から)



SB-7 完掘 (東から)



SB-9～11 検出状況 (東から)



SB-9～11 完掘



SB-13・14 検出状況 (北から)



SB-13・14 完掘 (東から)



SB-13・14 完掘



SB-15・16 完掘 (北から)



SB-55 完掘 (東から)





SI-423



SI-181



SI-425



SI-426



SI-192



SI-194



SI-195



SI-20 出土坏類





SI-20 30



SI-20 31



SI-20 32



SI-20 33



SI-20 35



SI-20 39



SI-20 36 底部墨書



SI-20 37 底部墨書



SI-21 3



SI-21 3





SI-28 1



SI-28 2



SI-30 1



SI-30 2



SI-30 4



SI-34 1



SI-34 4



SI-34 4



SI-41 1



SI-41 2



SI-41 3



SI-41 4



SI-41 7



SI-41 5



SI-41 6



SI-44 1



SI-44 7



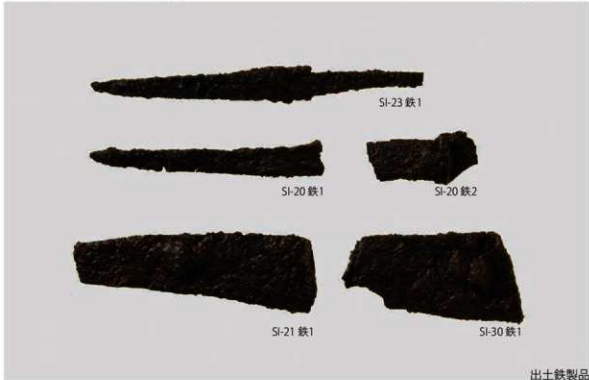
SI-44 7



SI-44 2



SI-44 7



報告書抄録

ふりがな	きたのうちいせき・すけごろうちいせき・ほしのみやいせき
書名	北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡
副書名	農地整備事業（経営体育成型）小貝川沿岸2期地区における埋蔵文化財発掘調査
巻次	第1分冊
シリーズ名	栃木県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第369集
編著者名	永井三郎
編集機関	公益財団法人とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター
所在地	〒329-0418 栃木県下野市紫474番地 TEL 0285-44-8441
発行機関	栃木県教育委員会 公益財団法人とちぎ未来づくり財団
発行年月日	西暦 2014年3月26日（平成26年3月26日）

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
北ノ内遺跡	市貝町文谷地内			36° 55' 38"	140° 10' 13"	20090501～ 20100330	6,100	農地整備事業（経営体育成型）
北ノ内遺跡（2次）				36° 55' 58"	140° 10' 12"	20100430～ 20110330	3,750	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
北ノ内遺跡	集落	縄文時代 古墳時代 奈良時代 平安時代	掘立柱建物跡 竪穴建物跡 井戸 土坑	4棟 69軒 1基 361基	縄文式土器、土師器、須恵器、緑釉陶器、 灰釉陶器、鉄製品、石製品	墨書土器「榎木」「井上」 等が出土している。	
北ノ内遺跡（2次）	集落 豪族 居宅	古墳時代 奈良時代 平安時代	掘立柱建物跡 竪穴建物跡 土坑	18棟 33軒 18基	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、 鉄製品、石製品	四面廂建物を中心に掘立柱 建物群を形成。豪族居宅と 考えられる。甕屋から「目」 墨書土器が出土している。 また須恵器にタヌキのもの と思われる獣足跡が確認され た。	

要 約	北ノ内遺跡	北ノ内遺跡は小貝川左岸の丘陵上に位置する縄文時代、古墳～平安時代の集落遺跡である。縄文時代中期の竪穴建物跡が1軒と袋状土坑が確認され、阿玉台式土器が出土している。古墳～平安時代は竪穴建物跡が多数確認された。古墳時代後期は安定的に経営されるがその後停滞し、平安時代の9世紀後半に急激に拡大する。その後縮小して10世紀後半で終焉を迎える。墨書土器は「榎木」「井上」等が出土している。
	北ノ内遺跡（2次）	北ノ内遺跡の2次調査区は小貝川左岸の丘陵上に位置し、1次調査区とは小さな谷を挟み約150m北に位置する。古墳～平安時代の掘立柱建物跡・竪穴建物跡が確認され、中心は平安時代9世紀中葉～10世紀前半にある。9世紀後半に四面廂建物を中心とする掘立柱建物群が形成され、倉庫、甕屋を備えた豪族居宅と考えられる。また甕屋からは「目」墨書土器が出土している。8世紀の須恵器環蓋内にタヌキのものと思われる獣足跡が確認された。

栃木県埋蔵文化財調査報告第369集

北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡

—農地整備事業（緑営体育成型）小貝川沿岸2期地区における埋蔵文化財発掘調査—

第1分冊

発行 栃木県教育委員会

宇都宮市埴田1-1-20

T E L 028 (623) 3425

公益財団法人とちぎ未来づくり財団

宇都宮市本町1-8

T E L 028 (643) 1011

編集 公益財団法人とちぎ未来づくり財団

埋蔵文化財センター

下野市紫 474 番地

T E L 0285 (44) 8441

発行日 平成26年3月26日発行

印刷 株式会社 松井ビ・テ・オ・印刷
